

- R4004 **眞秋**(まあき・鳥屋とや、旧姓;山本)?-1867 江後期;出羽秋田郡久保田の鳥屋長秋ながあきの養嗣子、国学者;養父門、養父長秋は飛脚方御用で本居大平に国学を学び拔擢され藩校明德館教授になった人、[眞秋(;名)の通称]善治  
 麻庵(まあん・南部) → 畔李(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0  
 舞雲(まいうん・松本) → 良遠(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌) P 4 7 2 6
- 4000 **毎延**(まいえん・橋本はしもと) ? - ? 1673迄没 尾張熱田の俳人:貞徳門、1643「俳諧集三千句」編、1648「慶安子丑俳諧集」編、48「独吟百韻」(;玄札の合点)/50「熱田俳諧連歌月次九百韻」編、1652「雪/五百韻」編、55「毎延俳諧集」編/61「俳諧漢和」、70守昌「物名俳諧千句」序、1681「俳諧点取集」、「俳諧集二千句」編、[毎延(;号)の通称] 市左衛門/善四郎
- 4042 **晦翁**(まいおう/かいおう;道号・宝暲ほうこう;法諱、俗姓;沢田さわだ) 1635-1712 78 京の黄檗僧;大徳寺清岩門、竜溪性潜・高泉性澈と親交、1680後水尾院勅願で竜溪性潜開山の近江蒲生郡の正明寺3世、1685後水尾院からの遺囑の印可をめぐり万福寺と代付論争;勝利し1692万福寺監寺、1708正明寺を退隠/近江浄光字隠棲;没、「晦翁宝暲和尚語録」著  
 昧翁(まいおう) → 忠升(忠敬ただたか・本多、藩主/儒詩) F 2 6 2 3  
 舞扇(まいおうぎ) → 伝次郎(2世でんじろう・中村、振付師) D 3 0 8 6  
 晦巖(まいがん→かいがん;道号・道廓)→道廓(どうかく;法諱・晦巖、臨済僧) C 3 1 2 3  
 昧斎(まいさい・水/水足) → 屏山(へいざん・水足みづたり/水、藩儒) 2 7 3 8  
 麻衣山人(まいさんじん) → 日従(にちじゅう、啄木鳥きつぎの茂蘭、日蓮僧/俳人) C 3 3 2 0  
 邁所(まいしょ・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主/歌) E 4 4 4 0  
 埋書居士(まいしょこじ) → 高見(たかみ・物集もづめ、神道/国学/教育) Z 2 6 9 2
- J4018 **マイタ**(初号;前田) ? - ? 江戸の川柳作者;桜木などから投句、「俳風柳多留二九篇」で前田の号、三五篇でマイタの号、[膳立を笠でかぞへる御師の宿](柳多留;三五)  
 莓苔園(まいたいえん) → 亀洞(きどう・千代倉、俳人) B 1 6 5 7
- 4043 **毎仲**(まいちゅう・増穂ますほ、残口ざんこう[1655-1742]男)?-? 神道家、1758「神邦増穂草」刊  
 毎鎮(まいちん・河津) → 毎鎮(つねしず・河津かわづ/浦、神職) F 2 9 5 8  
 毎敦(まいとん/としあつ;名) → 尊性法親王(そんしょうほつしんのう、真言大覚寺門跡) E 2 5 9 1  
 毎日庵(まいにちあん) → 貫古(かんこ、医者/俳人) Q 1 5 3 3  
 毎日庵(まいにちあん) → 聿修(いっしゅう・撰待せったい、俳人) H 1 1 3 2
- L4023 **舞鶴**(まいづる;組連) ? - ? 武蔵熊谷の雑俳の組連/取次;1747「湖丸評万句合」入、取次例;[井戸掘りは元の土用へよじ登り](万句合/前句;ふるへる々々)(地下の冷氣から暑さの中へ;それでも極楽)  
 舞鶴(まいづる・中村) → 勘三郎(4世かんざぶろう・中村、歌伎役者) D 1 5 7 0  
 舞鶴(まいづる・中村) → 勘三郎(8世かんざぶろう・中村、歌伎役者) D 1 5 7 4  
 毎敏(まいびん・牛尾) → 毎敏(常敏つねとし・牛尾うしお、神職/国学) F 2 9 3 1  
 毎保(まいほ・浦) → 毎保(つねやす・浦うら/藤原、神職/国学) F 2 9 3 3  
 麻陰(まいん・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8
- 04055 **眞心**(まうら・島岡しまおか) ? - ? 備前岡山の歌人;藤井高尚たかなお(1764-1840)門、藤原忠朝(1820-93)の師、[眞心(;名)の通称/号]通称;改蔵、号;宗蝶  
 前豊(まえとよ・広幡) → 前豊(さきとよ・広幡/近衛、日記) G 2 0 3 9
- 4044 **眞恵美**(まえみ・菊廼屋さくや、姓;島田) 1795-1850 56 京の両替町三条北の呉服・両替商;恵比須屋、1819(文政2)恵比須屋8代目、狂歌;鹿都部真顔門/四方側、初号延年を真恵美に改む、1823真顔撰「俳諧歌鮮衣集」の判者の1、1826別家城戸千楯の和学[鐸舎ぬでのや]に参加、

師真顔没後;1829「四方歌垣翁追善玉比古集」共編(秋廼屋颯々さつと)、1830本居大平門、  
1830「狂歌百鬼夜興」編、儒;中村弘毅門、妻;ため/義忠の父、1842(天保13)隠居  
[もみぢばはまた見ん秋も有物を君はいかなる風かさそひし](1833大平追慕会に詠)  
[菊廼屋真恵美(;狂号)の名/通称/別号]名;田之助/周忠かねただ/宗二(;隠居号)、  
通称:八郎左衛門/八郎兵衛?、初号;菊の屋延年、法諱;菊翁宗二居士、  
屋号;恵比須屋(蛭子屋/夷屋/戎屋とも表記)、[青山英正「菊廼屋真恵美年譜稿」入]

真魚(まお・佐伯) → 空海(くうかい、真言宗祖) 1 7 0 1

墓翁(まおう) → 垣守(かきもり・谷たに、藩士/国学者) B 1 5 2 5

B4058 真臣(まおみ・大枝おおえ朝臣)?- ? 856存 平安初期廷臣/文章生出身、856鼓吹正、詩:経国入

P4051 真臣(まおみ・黒沢くろさわ、翁満おきなまろ男)1831-7747 武蔵忍藩士、国学者/歌人;父門、

[真臣(;名)の別名/通称]別名;重智、通称;九蔵/転

真臣(まおみ・青木) → 北海(ほっかい・青木あおき、儒/国学者) E 3 9 5 3

摩訶庵(まかあん) → 蒼山(そうざん・遠藤・長島、俳人) H 2 5 5 0

磨崖(まがい・衣笠) → 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1

摩訶一房(まかいちぼう) → 日印(にちいん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 3

磨花園(まかえん) → 大阿(だいが・萩原はざわら、藩士/俳人) B 2 6 0 0

4001 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、姓;北川きたがわ、通称;嘉兵衛)1753-182977 江戸数寄屋橋外の汁粉餅屋、  
戯作;恋川春町門、狂歌:元木網門/のち四方赤良門;四天王の1、スキヤ連を主宰、  
1794赤良より四方姓を受け四方真顔と号す;石川雅望(飯盛)と狂歌界を2分、国学修学、  
晩年俳諧歌を提唱;1828二条家より宗匠号、1785戯作「元利安売鋸商内がんりやすうりのこざりあきない」、  
1787戯作「鳩八幡豆兼徳利はとはちまんめととつくり」、91「狂歌新玉集」「狂歌数寄屋風呂」著、  
1795「狂歌江戸紫」1802「狂歌酔竹集」05「狂歌尾花集」編、05「住吉紀行」07「狂歌新草集」、  
1814「類題俳諧歌集」15「俳諧歌兄弟百首」16「蘆荻集」19「俳諧歌相撲長」編、外編著多数、  
[立春より七十五日生のびてまた初物の花をみるかな]

[鹿都部真顔(;号)の別号]紀真顔、四方歌垣、四方真顔、狂歌堂、鹿杖山人、俳諧歌場はいかいかば、  
万葉亭、好屋翁、恋川好町こいかわよしまち(戯作号)

4045 真垣(まかき・岡庭おかにわ) ? - ? 江後期化政1804-30頃の常陸の国学者;本居門、  
国学の指導で諸方を巡り1816上州高崎に至る/碓氷峠の神主?、  
1819「石文手摺」「石文手摺之屑」「上毛三碑解」、「葦可刈」、  
[真垣(;名)の号] 衣妙舎

T4063 真垣(まかき・湯田ゆた、)1831 - 190272 陸奥会津郡の国学者/歌人、  
[真垣(;名)の通称/号]通称;卯助/三郎衛門/三郎次、号;百花園/霧廼舎  
万可記(まかき) → 恒久(つねひさ・江刺えさし、藩士/国学者) D 2 9 4 0

4046 真蔭(まかげ・斎藤さいとう、与右衛門男)1799-187577 信州小県郡西塩田村の酒造業/学者;  
同郡柳沢村の坂田助右衛門門、1823十人村の庄屋、割番代;新田開発、  
国学・歌:宮沢清房・飯塚久敏・岩崎長世・橋守部門/本居春庭門、京の飛鳥井家歌所入る、  
従六位/丹後介、1857家集「藤かつら」、「とはず語」「嶺松風」著、  
[真蔭(;号)の通称/別号]通称;彦之丞/丹後介、別号;藤廼舎ふじのや

P4072 真蔭(まかげ・駒井こまゐ、通称;源七、源六男)1822-190382 上野緑野郡根小屋の藍商、  
国学;橋本直香ただか門、1870(明治3)高崎藩から地域開発の許可を得て水路を開削、  
難事業を完成し良田開拓;地域から業績を称えられ頌徳碑が白髭神社境内に建つ

4047 真蔭(まかげ・名・高木たかぎ)1837-187842 美濃本巣郡弾正村の医者/岐阜新町住、  
神道学を修得;伊奈波神社司/南宮神社宮司を歴任/1865私塾桃廼舎開設;皇国学を教授、  
廃仏毀釈を主張、「神葬私考」

真蔭(まかげ・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9

真蔭(まかげ・高林) → 豊鷹(とよたか・高林たかばやし、国学/歌人) V 3 1 6 6

摩訶厳宿(まかげんくつ) → 鮮妙(せんみょう;法諱・利井かがい、真宗僧) N 2 4 1 4

摩訶散人(まかさんじん) → 西臯(さいこう・多々羅たたら、町人/詩人) G 2 0 6 7

摩訶三毒(まかさんどく;号) → 韶澄(しょうちよう;法諱、天台僧) K 2 2 9 1

4048 真楫(まかじ・渡辺わたなべ、大岡美成[新庵]男)1830-9162 江戸小川町生/幕臣渡辺美船養子、

儒;清水正巡門/国学:前田夏蔭門、詩歌/文章に長ず、維新後は教職、「建国論」「和字用法」著、  
「日本書紀刪正論断」「古代民間婚姻式」「言語変遷部」外著多数、1890「古事類苑」編纂委員;没、  
[眞楫(;名)の別名/字/別号]別名;知親、字;土行、

別号;鷗舟/迂思陳人/薄川漁人/江山風月主人

眞楫(まかじ・源/大船、棹歌亭)→ 岡雄(くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5

眞懺(まかじ・木村) → 豊平(とよひら・木村、医/国学者) R 3 1 5 1

眞柁廼屋(まかじのや) → 嘉治(よしはる・亀山かめやま、国学/歌人) M 4 7 3 0

4049 眞風(まかぜ;名・沢さわ、通称;善藏)?-? 江後期寛政1789-1801頃江戸の国学者:

1792頃本居宣長門/京に住、1797「万葉浅茅原」編/1815「和歌浜荻」編

4050 眞風(まかぜ・市川いちかわ、名;信友、信義男/本姓;藤原)1792-1847<sup>56</sup> 江戸幕臣;父を継嗣;御徒組頭、  
大田南畝の縁者で狂歌を学ぶ、国学/歌:垂元・清水浜臣門、1820-34「藤原眞風日記」著、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[住の江に老わすれ草生ひぬらし千代へて若き岸のひめ松](大江戸倭歌;雑1775)、

[眞風(;号)の通称/別号]通称;平八郎、別号;竹園

眞風(まかぜ・物集) → 高世(たかよ・物集もづめ、国学者/歌学) E 2 6 0 3

摩訶窓(まかそう) → 珪山(桂山けいざん・林、俳人) 1 8 6 1

4051 眞象(まかた・紀朝臣きのあそみ)?-? 奈良後期廷臣、757文章生对策文:経国2首入、  
正六上/駿河守(経国集目録入)

眞方彦(まかたひこ・土岐) → 信風(のぶかぜ・土岐とき/齋藤、国学者) J 3 5 2 5

4052 眞勝(まかつ・安倍あべ) ?-? 平安前期廷臣;造東寺長官/正五下、  
815「新撰姓氏録」共編(万多親王/藤原緒嗣らと)

眞勝(まかつ・尾関) → 眞勝(まさかつ・尾関おげき、国学者) 4 0 5 3

4054 眞門(まかど・前野まえの、旧姓;八木)1811-76<sup>66</sup> 播磨山崎門前村の歌人;秋元安民・飯田秀雄門、  
山崎の和歌三秀(樽井守城・稲岡秋平と)の1/能書家、山崎藩士となり筆録の業務に当る、  
「柏園集」著、

[眞門(;名)の初名/通称]初名;本平、通称;佐兵衛

N4027 眞鉄(まがね・安藤あんどう)1753- 1827<sup>75</sup> 江戸の生/上野館林藩士;勘定方、  
国学;賀茂真淵門、医/儒/仏教を修学、神道の奥義を体得;  
高齢のため息子井上眞鉄まさかねに神道を究めるべく遺言し没;没後眞鉄は神道禊教の教祖、  
[眞鉄(;名)の通称/号]通称;一郎右衛門、号;一方

4055 眞鉄(まがね・片岡かたおか) ?-? 江後期1848-60頃江戸の儒医/国学:仮名研究、  
1865「皇朝仮字三体一覽」「皇朝仮字音訓清濁一覽」「皇朝仮字用格便覽」著、  
[眞鉄(;名)の字/通称/号]字;断巖、通称;泰庵、号;剣嶺

眞金(まがね・片山/藤本)→ 鉄石(てっせき・藤本、勤王志士/天誅組) C 3 0 5 1

眞鉄舍(まがねのや) → 義暢(よしのお・戸村とむら、藩士/歌人) N 4 7 9 8

4056 眞上(まかみ・田氏でんし:田辺史たなべのふひとか?)?-? 奈良期廷臣/730旅人の梅花宴参加(筑前目さかん)、  
万葉三期歌人839、

[春の野に霧立ち渡り降る雪と人の見るまで梅の花散る](万葉;五839)

眞瓶(まがめ・小杉) → 楹邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6

樛舎(まがりのや→とがのや) → 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7

4057 麻貫(まかん;号・和田わだ) ?-? 大阪の雑俳点者;笠付・折句など謎めいた趣向、  
1845蘆笛「折句六玉川」巻頭に[俳風六歌仙]として画像掲載、1857「冠附名取之津衛」編、

楨(万亀まさ・梶谷) → 万亀女(まさじよ・梶谷かじたに、国学・歌人) O 4 0 8 3

蒔絵師源三郎(まさえしげんざぶろう)→ 源三郎(げんざぶろう・蒔絵師、蒔絵/塗師) B 1 8 9 0

牧右衛門(まさえもん・永田)→ 有功(ゆうこう・永田ながた、藩士/和算家) B 4 6 6 2

巻男(まさお・島/日置) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4

4058 満喜子(真木子まさこ・伊達だて、法名;香雲尼、下総関宿藩主久世広明女)1777-1850<sup>74</sup> 学問を好む、  
1793(17歳)伊予吉田藩主伊達村芳の後室/1820夫と死別;出家;香雲軒/香雲尼と称す、  
歌人;本間游清門、1848家集「袖の香」著、法号;善性院、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、



- [立ちわたる夕べの霧にかき消えて山松が枝のそことしもなき](大江戸倭歌;秋812)
- 4059 **卷子**(槇子まきこ・大橋おはし、菊池淡雅女)1823-8159 江戸の豪商佐野屋(本店;下野宇都宮)の生、  
歌学:母菊池民子門、国学;吉田敏成・大国隆正門、江戸の大橋訥庵の妻、1862夫の獄死、  
1862「夢路の日記」著(夫入牢後の日記)、  
[卷子(;名)の法号/諡号]法号;貞莊懷之大姉、諡号;貞莊孺人  
参考 → 訥庵(とつあん・大橋正順、儒者) O 3 1 4 1  
→ 淡雅(たんが・菊池知良、儒者) T 2 6 2 1  
→ 民子(たみこ・菊池、歌人) S 2 6 2 6
- 04083 **万亀女**(まさじよ・梶谷かじに、名;槇、守典もりのり女)1785-184460 国学・歌;父門・二宮正禎まさただ門、  
梶谷守久(医者1782-1847/守典の養子)の妻
- M4059 **満起子**(まさじよ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[契らぬにあやしく今宵逢ひみしはさればよ夢のしわざなりけり]、  
(大江戸倭歌;恋1441/夢会恋)
- 真木園(まさぞの) → 貞老(さだおい・新あたらし/衣笠、藩士/国学) B 2 0 7 3
- T4003 **牧太**(まさた・宮原みやはら、号;牧田/草の屋)1845-192783 長門萩の椿八幡宮祠官、国学者、  
国学・歌;口羽くちは通博門/尊王思想、歌集「草の屋集」著、歌;[萩の歌人]入、  
[わが宿の垣の夕顔咲きしより来る人おほし涼みがてらに](萩の歌人)  
牧太(まさた・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7  
牧太(まさた・朝倉) → 震陵(しんりょう・朝倉あさくら、絵師) Q 2 2 1 5  
牧太(まさた・清家) → 堅庭(かたにわ・清家せいけ、医者/歌人) U 1 5 2 3  
馬来田国造(まさたこくぞう) → 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9  
摩詰(まさつ・林;変名) → 良通(よしみち・林はやし/岡村、幕臣/国典) H 4 7 3 8  
摩詰庵(まさつあん) → 雲鈴(うんれい・吉井、藩士/僧/俳人) B 1 2 2 5  
槇之丞(まさのじょう・甲斐) → 岷谷(みんこく・甲斐かい、儒者/詩人) G 4 1 8 1  
牧之丞(まさのじょう・奥平) → 昌男(まさお・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 7 5  
牧之進(まさのしん・目々沢) → 樗軒(ちよけん・目々沢めめざわ、漢学者) K 2 8 3 5
- 4060 **薪高値**(まさのたかね・平河屋)? - ? 江戸市ヶ谷住:狂歌:四方連、  
槇乃屋(まさのや) → 常足(つねたる・伊藤、神職/国学/歌人) C 2 9 4 7  
槇廼屋(まさのや) → 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌) G 3 8 3 0  
槇廼屋(まさのや) → 茂昌(しげまさ・糸永いとなが、神職/国学) N 2 1 4 0  
槇廼屋(まさのや) → 義住(よしずみ・三浦みうら、藩士/歌人) P 4 7 2 9  
槇舎(まさのや) → 直澄(なおずみ・落合、国学者) B 3 2 4 4  
槇の舎(まさのや) → 大枝(おおえ・業合なりあい、神職/国学) B 1 4 7 0  
槇の舎(槇の屋まさのや) → 広見(ひろみ・藤田ふじた、藩士/国学/歌) K 3 7 8 7  
薪廼屋(まさのや) → 春島(はるしま・足立あだち、醸造/国学者) G 3 6 4 2  
真木廼舎(まさのや) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6
- K4090 **牧馬堂耳風**(まさばどうみかぜ)? - ? 狂歌;1787「狂歌才蔵集」入;378、  
[我が恋は加減ちがひの油やらあふ事かたくなねるもねられず](才蔵集;十恋378)、  
(調髪用の練油の合わせ加減/練ると寝るの掛詞)
- 4061 **眞備**(眞吉備まさき・吉備き朝臣、吉備大臣、下道しもつみ朝臣圀勝男)695-77581 717遣唐留学生、  
734帰国/廷臣;大学助/東宮大夫/746吉備賜姓/仲麻呂に疎遠;地方に左遷、752遣唐副使、  
753帰国/大宰大貳/764造東大寺長官/恵美押勝の乱;押勝を排斥、766右大臣/正二位、  
771致仕、軍・算学、「刪定律令」編纂、「吉備大臣私教類聚」「唐福光寺沙門道璿どうせん行実」著  
巻筆(まさふで・棹鹿) → 棹鹿巻筆(さおじかのまさふで、女流狂歌作者) B 2 0 5 8  
牧平(まさへい・森島/永田) → 敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2  
槇麿(まさまろ・巨勢) → 建冬(たけふゆ・巨勢こせ、国学者) E 2 6 5 0  
真静(まさよ・菅) → 眞静(ましず・菅すが、和学者) I 4 0 8 7  
眞清田(まさよだ) → 清田(きよのぶ・佐分さぶり、国学/歌) Q 1 6 1 0
- K4089 **巻藁射矢**(まきわらのいるや) ? - ? 江戸狂歌;1787「狂歌才蔵集」入;16、

- [春風春水一時来 去年からいひあはせてやくめば吹く若水桶の春の初風](才藏集;16)
- 4062 **麻斤**(まきん) ? - ? 江中期駿河の俳人:蓼太門、1765「養老八詠集」編  
摩空庵(まうあん) → 笠界(りゅうかい・摩空庵、俳人) D 4 9 2 0
- L4044 **幕女**(まくじょ) ? - ? 江中期俳人、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
[脱でからなほおそろしや蛇の衣](伊丹発句;夏)  
[用なきも雪に結ぶや今朝の文](伊丹発句;冬)
- 4063 **眞葛**(まぐず・只野ただの、名;あや/綾子/文子/まち、仙台藩儒医工藤球卿女)1763-1825<sup>63</sup> 女流歌人、  
母;桑原如璋女、江戸日本橋の生/滝本流の能書家;村田春海に和文の才を賞される、随筆、  
1797只野行義の後妻;陸奥仙台住、1799「みちのく日記」1802「松島みとの記」著、  
1806「山笑新語」12「むかしはなし」17「独考」「幾よがつた」18「磯都太比」、「奥州波奈志」著、  
「眞葛がはら」「不問がたり」「七浜巡覧記」「紅蓮尼伝」「月次文」「キリシタン考」著、  
[友とせし鳥の音さへ絶えにけり宮城の里に雪つもる頃](みちのく日記)、  
[眞葛(;号)の法号]桃光院聯室発灯大姉、工藤栲子たこの姉
- 4064 **眞葛**(まぐず・篤垣こもがき、姓;竹内/通称;真助)?-1857 江戸中橋油座の狂歌作者:四方側判者、  
1836「狂歌鐘声百人一首」「狂家百八人首」編/43「あさひの影」編、「俳諧歌花鳥集」
- S4032 **眞葛**(まぐず・藤森ふじもり、号;東光院)1839-95<sup>57</sup> 陸奥(陸中)磐井郡の修験、  
国学・歌;高田周平・高平真藤まふじ門  
眞葛園大養父(まぐずえんおおやふ)→典則(つねのり・大野おの/宮島、国学/歌人) F 2 9 4 1
- 4065 **眞葛坊**(まぐずぼう) ? - ? 江後期越中の医者/俳人、1834「己之中集」  
眞葛屋眞風(まぐずやまかせ)→ 機山(きざん・井口いづち/青山、儒者) K 1 6 6 2
- 4066 **眞国**(まくに・和泉いずみ/本姓;石橋、初名;和麿)1764-1805<sup>42</sup> 江戸の書肆渡辺屋主人、  
国学:1801本居宣長門/本居大平門、令義解等をめぐり村田春海と論争、  
「真学考」「読令明道論」「令文及道之論」「和泉和麿遣村田春海之書」/1802「贈春海書」、  
「千蔭春海詠歌泉眞国難論」/「村田春海答和泉眞国書問」1804「再難村田春海之答書」著、  
大平「八十浦の玉」中巻;長歌1首短歌4首入、  
[いにしへをしぬびし人を今はしもいにしへ人としぬぶかなしさ]、  
(八十浦;590/大人[宣長]うせ給ぬと聞きその家に贈る歌)、  
[眞国(;名)の通称/屋号]通称;東吉郎/文三郎、屋号;渡辺屋
- 4067 **万邦**(まくに・青木あおき、号;松秀、美行[峯行]男)?-1841 越前丸岡藩儒医、  
父は丸岡藩医・賀茂真淵門、儒;兼山門、1821「丸岡有馬家系略」著
- 4068 **眞国**(まくに・石橋いしばし) ? - 1855 江戸町奉行付腰掛茶屋の主人/国学・語学研究、  
「語学音楽考証」「用語類纂」「静舎語学雑考」「静舎随筆」「類葉抄」「梅のはなかさ」、  
「稽古楼漫筆」/1839「すゝろこと」42「おもひ出くさ」44「かくれざと」52「壬子雑筆」外著多、  
[眞国(;名)の通称/号]通称;茶屋七助、号;稽古楼/静舎しずのや、山川眞清まこと
- S4095 **眞国**(まくに・三橋みつはし、)1780-1832<sup>53</sup> 肥前養父郡の四阿屋あざまや神社祠官、  
国学;青柳種信(1766-1835)門
- P4080 **眞邦**(まくに・佐倉さくら/本姓;水野、豊麿男)1785-1862<sup>78</sup> 遠江城飼郡の桜池ノ宮神社神主、  
国学;栗田土満・本居大平門、歌・書画に長ず、信武の祖父、  
[眞邦(;名)の別名/通称/号]別名;真国、通称;貢/式部、号;池有亭
- 4069 **眞畔**(まくる・泉崎いずみさき、名;賢親)1788-1857<sup>70</sup> 羽前米沢の国学者:本居大平門、歌に長ず:  
「桜蔭詠草」/1824「松島日記」38「飯豊の山ぶみ」43「桜谷百首」著、  
[眞畔(;通称)の別通称/号]別通称;伝助、号;桜蔭
- 麻溪(まけい・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3  
孫一(まごいち・森) → 東門(とうもん・森もり、儒者/詩人) H 3 1 4 5  
孫市(まごいち・竹内) → 健雄(たけお・竹内たけうち、幕臣/国学者) O 2 6 2 7  
孫市(まごいち・柴村) → 盛方(もりみち・柴村しばら、幕臣/随筆) G 4 4 5 8  
孫市(まごいち・古田) → 良輝(よしてゐ・古田ふるた/源/萱野、藩士/歌) O 4 7 9 4  
孫一郎(まごいちろう・森) → 東門(とうもん・森もり、儒者/詩人) H 3 1 4 5  
孫右衛門(まごえもん・稲員) → 安則(やすのり・稲員いなかず、大庄屋;土木事業) C 4 5 6 3

孫右衛門(まごえもん・横井)→ 時英(ときひで・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 8 8  
 孫右衛門(まごえもん・嶋)→ 順水(じゅんすい・嶋しま、俳人) K 2 1 0 7  
 孫右衛門(まごえもん・布施)→ 定安(さだやす・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3  
 孫右衛門(まごえもん・伊勢屋)→ 正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人) 4 0 1 7  
 孫右衛門(まごえもん・紅葉屋)→ 宜麻(よしま・細井ほそい、町役/勸農家) G 4 7 9 2  
 孫右衛門(まごえもん・中山/幸田)→ 親盈(ちかみつ・幸田こうだ/中山、幕臣/暦算) B 2 8 9 3  
 孫右衛門(まごえもん・倉田)→ 烏翠(うすい・倉田くらた、俳人) C 1 2 8 8  
 孫右衛門(まごえもん・佐藤)→ 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9  
 孫右衛門(まごえもん・菅野谷)→ 高政(たかまさ・菅野谷すげのや、俳人) 2 6 1 6  
 孫右衛門(まごえもん・朝倉)→ 景衡(かげひら・朝倉あさくら、医者/和漢学) E 1 5 9 8  
 孫右衛門(まごえもん・鍵屋)→ 布舟(ふしゅう・田中、酒造業/俳人) C 3 8 7 1  
 孫右衛門(まごえもん・肥田)→ 忠重(ただしげ・肥田ひだ、藩士) P 2 6 5 6  
 孫右衛門(まごえもん・村岡)→ 子子孫彦(このこのまごひこ、狂歌) F 1 9 8 3  
 孫右衛門(まごえもん・平田)→ 胤富(たねとみ・平田ひらた、藩士/随筆) R 2 6 8 6  
 孫右衛門(まごえもん・菱沢)→ 方勝(まさかつ・菱沢ひしざわ、商家/歌人) S 4 0 0 9  
 孫右衛門(まごえもん・菱沢)→ 由郷(よしさと・菱沢ひしざわ、商家/歌人) O 4 7 7 2  
 孫右衛門(まごえもん・佐羽)→ 竹翁(ちくおう・佐羽さば、商家) C 2 8 7 1  
 孫右衛門(まごえもん・吉田)→ 永盛(ながもり・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 2 9  
 孫右衛門(まごえもん・森脇)→ 久有(ひさあり・森脇もりわき、国学者/歌) M 3 7 0 9  
 孫右衛門(まごえもん・新井)→ 道雄(みちお・新井あらい、国学/歌) L 4 1 0 9  
 孫右衛門(まごえもん・大野)→ 春彦(はるひこ・大野おおの、酒造業/国学) J 3 6 8 5  
 孫右衛門(まごえもん・進藤)→ 泰世(やすよ・進藤しんどう、商家/国学者) G 4 5 0 1  
 孫右衛門(まごえもん・杉井)→ 吉従(よしより・杉井すぎい、藩士/歌人) N 4 7 4 6  
 孫右衛門(まごえもん・水谷)→ 氏古(うじひさ・水谷みずたに、神職/国学) E 1 2 9 2  
 孫右衛門(まごえもん・辻)→ 含章(もちあき・辻つじ、歌人) K 4 4 5 3  
 孫右衛門(まごえもん・出淵)→ 豊矩(とよのり・出淵でぶち、歌人) V 3 1 7 9  
 孫右衛門(まごえもん・村瀬)→ 克貞(かつさだ・村瀬むらせ、藩士/国学者) V 1 5 9 5  
 孫右衛門(まごえもん・武)→ 宜長(よしなが・武たけ、商家/歌人) N 4 7 8 1  
 孫右衛門尉(まごえもんじょう・朝倉)→ 孝景(たかがけ・朝倉、武将/家訓) L 2 6 6 6  
 孫吉(まごさく・芳賀)→ 知致(ともゆき・芳賀はが、和算家) Q 3 1 8 5

4070 麻谷(まこく・大竹おたけ/修姓; 岳、名; 之浩、大竹勝敏男) 1727-98<sup>72</sup> 江戸の漢学者/1753大理寺の史、  
 三礼に通ず、「儀礼大射儀国字解」「儀礼射御図国字解」「論語郷党制度解」「周制雜考」著、  
 [麻谷(;号)の字/通称/別号]字; 子蕩/之蕩、通称; 栄蔵/英蔵、別号; 清暉/晴暉楼

孫九郎(まごろう・大道寺)→ 友山(ゆうざん・大道寺/平、兵法家) B 4 6 8 8  
 孫九郎(まごろう・本田)→ 親孚(ちかさね・本田ほんだ、藩士/代官) 2 8 9 0  
 孫九郎(まごろう・宮井)→ 胤綱(たねつな・宮井みやい、藩士/国学者) Z 2 6 8 0  
 眞心(まごころ→まうら・島岡)→ 眞心(まうら・島岡しまおか、歌人) O 4 0 5 5  
 孫左衛門(まごさえもん・堀)→ 若翁(じゃくおう・堀ほり、藩士/俳人) G 2 1 0 9  
 孫左衛門(まごさえもん・武蔵)→ 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5  
 孫左衛門(まごさえもん・熊野)→ 遂良(かつよし・熊野くまの、藩士/連歌衆) U 1 5 5 4  
 孫左衛門(まごさえもん・白子屋/久須美)→ 裏住(うらずみ・大屋、商家/狂歌) 1 2 9 8  
 孫左衛門(まごさえもん・西尾)→ 訓昶(のりひさ・西尾にしお、藩士、国学者) J 3 5 4 8  
 孫左衛門(まごさえもん・吉田)→ 盛重(もりしげ・吉田よしだ、商家/歌人) L 4 4 8 6  
 孫左衛門(まごさえもん・佐野)→ 正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0  
 孫左衛門(まごさえもん・平岡)→ 敬重(たかしげ・平岡ひらおか、歌人) Z 2 6 2 4  
 孫左衛門(まごさえもん・垣内/菊池)→ 海荘(海叟かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5  
 孫作(まごさく・興津、妓楼主人)→ 雅因(がいん、興津、俳人) E 1 5 4 9  
 孫作(まごさく・松波/森)→ 半蓑(はんさ・松波/森、商家/俳人/詩) H 3 6 6 5  
 孫作(まごさく・林)→ 恵忠(しげただ・林はやし、農業/歌人) Z 2 1 7 3  
 孫作(まごさく・林)→ 恵信(しげのぶ・林、恵忠男/農業/歌人) Z 2 1 7 4



- 孫作(まごさく・宮沢) → 義茂(よしげ・宮沢みやざわ、藩士/歌人) P 4 7 4 1  
 孫作(まごさく・五十嵐) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5
- 4071 **孫三郎**(まごさぶろう・新井田) ?- 1807 蝦夷福山藩;1789鎮撫隊番頭、「クナシメ汁騒擾取調日記」著  
 孫三郎(まごさぶろう・斯波) → 高経(たかつね・斯波/足利、武将/連歌) M 2 6 2 8  
 孫三郎(まごさぶろう・金子) → 教孝(のりたか・金子/川瀬、藩士/勤王) E 3 5 8 5  
 孫三郎(まごさぶろう・松平) → 惇典(あつり・松平、家老/佐幕/詩歌) E 1 0 7 8  
 孫三郎(まごさぶろう・清水) → 春流(しゅんりゅう・清水しみず、儒詩/俳人) K 2 1 6 1  
 孫三郎(まごさぶろう・祇園) → 尚濂(しょうれん・祇園ざおん、藩儒/詩) M 2 2 0 3  
 孫三郎(まごさぶろう・石川) → 豊信(とよのぶ・石川、旅宿業/絵師/絵本) R 3 1 4 2  
 孫三郎(まごさぶろう・足立) → 稻直(いなお・足立あだち、国学/書) D 1 1 1 0  
 孫三郎(まごさぶろう・奥田) → 鶯谷(おうこく・奥田、儒者) C 1 4 1 0  
 孫三郎(まごさぶろう・江坂) → 正恭(まさゆき・江坂えさか、幕臣/検地) I 4 0 2 4  
 孫三郎(まごさぶろう・肥田) → 忠重(ただしげ・肥田ひだ、藩士) P 2 6 5 6  
 孫三郎(まごさぶろう・板橋) → 貫雄(かんゆう・板橋いたばし、絵師) R 1 5 7 2  
 孫三郎(まごさぶろう・坂井) → 東派(とうは・坂井さかい、藩儒/詩文) G 3 1 8 9  
 孫三郎(まごさぶろう・小津) → 長澄(ながすみ・小津おづ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
 孫三郎(まごさぶろう・北国屋) → 寛(ひろし・中村なかむら、酒造業/国学) K 3 7 3 8  
 孫三郎(まごさぶろう・柳屋/井草) → 国芳(くによし・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 0 1  
 孫三郎(まごさぶろう・村瀬) → 櫟山(れきざん・村瀬むらせ、和漢学) B 5 1 5 8  
 孫三郎(まごさぶろう・渡辺) → 貫勉(ぬきかつ・渡辺わたなべ、醸造業/歌人) 3 4 1 9  
 孫三郎重信(まごさぶろうしげのぶ・石川) → 豊信(とよのぶ・石川、絵師) R 3 1 4 2  
 孫二(まごじ・栗原) → 温古(はるひさ・栗原くりはら/亀田、国学/教育) K 3 6 1 0
- N4005 **孫重**(まごしげ・赤塚あかつか) 1779-1821 43 出雲出雲郡杵築の出雲大社上官、  
 国学/歌;千家俊信門、  
 [孫重(;名)の通称] 猪之丞しのじょう/采女  
 孫七(まごしち・内藤) → 護道(もりみち・内藤/藤原、武家/連歌) G 4 4 5 5  
 孫七(まごしち・堀田/本田) → 一継(かずつぐ・堀田ほった/本田、武将/旗本) V 1 5 6 4  
 孫七(まごしち・秋田) → 勝具(かつとも・秋田あきた/藤原、八左衛門/藩士) T 1 5 3 6  
 孫七(まごしち・後藤) → 幸雄(ゆきお・後藤ごとう、国学者) G 4 6 8 3
- 4072 **孫七郎**(まごしちろう・杉すぎ、名;重華、植木五郎右衛門男) 1835-1920 86 杉すぎ盛倫しげともの養嗣、  
 長州萩藩士、藩校明倫館で修学/槍術修業で西国行脚、藩手廻組/小姓役/銃陣助教を歴任、  
 1861幕府遣欧使節の随員として欧州視察、勤王討幕に奔走/明治新政府に出仕;枢密顧問、  
 詩/書を嗜む、1861「環海詩誌」66「石州口出陣日記」著、「柿崎八景」書、  
 [孫七郎(;通称)の字/別通称/号]字;子華、別通称;忠次郎/徳祐/少輔/九郎、  
 号;松城/古鐘/鯨肝/聴雨/三泉生/古隈こゝい山主人/古研楼/古竹堂/玉蘭堂/八研堂/鴻東/  
 無悔堂主人/五楽道人/呑鵬/鞠菴きくあん/猴林/今蜀人/竹堂/今業平/立墩/三影/櫛華さんか、  
 変名;杉山七郎/植木徳輔  
 孫七郎(まごしちろう・三好/豊臣) → 秀次(ひでつぐ・豊臣、武将/連歌) D 3 7 2 1  
 孫七郎(まごしちろう・秋元) → 泰朝(やすとも・秋元、藩主/日光造営) C 4 5 3 1  
 孫七郎(まごしちろう・松原) → 鶴峰(かくほう・松原まつばら、儒者/詩人) H 1 5 3 8  
 孫七郎(まごしちろう・小幡) → 景憲(かげのり・小幡おばた、幕臣/軍学者) B 1 5 8 9  
 孫十郎(まごじゅうろう・前田) → 玄以(げんい・前田まえだ、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6  
 孫十郎(まごじゅうろう・草鹿砥) → 宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかど、儒/国学) B 3 5 7 4  
 孫十郎(まごじゅうろう・藤井) → 多羅井雨盛(たらいのあまもり、狂歌) H 2 6 7 3  
 孫十郎(まごじゅうろう・河津) → 直入(なおいり・河津かわづ、藩士/歌人) L 3 2 7 6  
 孫十郎(まごじゅうろう・丸岡) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書) S 4 0 7 8
- 4074 **孫四郎**(まごしろう・常門じょうど、吉次) ?-? 能作者研究;1516「自家伝抄」作者付編
- 4075 **孫四郎**(まごしろう・江戸えど、初名;天満孫四郎) ?-? 1673-88頃江戸の説教節太夫:天満八太夫門、  
 江戸堺町に説教人形座を開設;独自の三人遣いを考案、「かるかや道心」「弘知上人」著  
 孫四郎(まごしろう・阿野/愛智頼貞) → 道成(どうじょう;法諱、僧/歌人) F 3 1 5 0

孫四郎(まごしろう・尼子) →	勝久(かつひさ・尼子あまこ、戦国武将)	N 1 5 7 9
孫四郎(まごしろう・前田) →	利家(としいえ・前田まえた、武将)	M 3 1 0 7
孫四郎(まごしろう・寺町) →	忠利(ただとし・寺町/越智、藩士/神社記録)	Q 2 6 0 6
孫四郎(まごしろう・安西) →	赤松(せきしょう・安西あんざい、鑑定家)	K 2 4 2 0
孫四郎(まごしろう・袴田) →	斗六(とろく・袴田、俳人)	R 3 1 9 8
孫四郎(まごしろう・北村) →	信精(のぶきよ・北村、歌人)	B 3 5 3 4
孫四郎(まごしろう・佐保) →	介我(初世かいが・佐保、俳人)	1 5 9 3
孫四郎(まごしろう・佐保) →	介我(7世かいが・佐保、俳人)	B 1 5 0 1
孫四郎(まごしろう・須藤) →	栄章(ながあき・須藤すどう、国学者、歌)	N 3 2 4 7
孫四郎(まごしろう・磯永) →	周経(ちかつね・磯永いそなが、藩士;天文方)	B 2 8 2 4
孫四郎(まごしろう・中里) →	常秋(つねあき・中里なかざと、国学者)	G 2 9 0 6
孫四郎(まごしろう・中村) →	良臣(よしおみ・中村、藩士/国学/歌)	C 4 7 4 1
孫四郎(まごしろう・中村) →	良顕(よしあき・中村、良臣養嗣/国学/歌)	C 4 7 0 2
孫四郎(まごしろう・春日) →	紀重(のりしげ・春日かすが、神職/国学者)	H 3 5 9 1
孫二郎(まごじろう・菊池) →	武朝(たけとも・菊池きくち、武将/守護)	O 2 6 5 3
孫二郎(まごじろう・土岐) →	氏光(うじみつ・土岐/今峯、武将/歌人)	C 1 2 7 4
孫二郎(まごじろう・朝倉) →	義景(よしかげ・朝倉あさくら、武将/歌人)	C 4 7 4 4
孫二郎(まごじろう・隠岐) →	頼貞(よりさだ・土岐とき/源、武将/城主/歌人)	I 4 7 6 2
孫次郎(まごじろう・三好) →	長慶(ながよし・ちようけい・三好、武将/連歌)	G 3 2 3 5
孫次郎(まごじろう・小笠原) →	正長(まさなが・小笠原、武将/守護/故実家)	F 4 0 1 5
孫次郎(まごじろう・小笠原) →	長基(ながもと・小笠原、正長男/武将/兵法家)	G 3 2 0 2
孫次郎(まごじろう・小笠原) →	信定(のぶさだ・小笠原、武将/故実家)	B 3 5 4 4
孫次郎(まごじろう・小笠原) →	満堯(みつたか・小笠原、藩士/歌)	D 4 1 7 7
孫次郎(まごじろう・吉田) →	宗恂(そうじゆん・吉田、秀吉家康の医者)	H 2 5 9 2
孫次郎(まごじろう・白市屋) →	可昇(かしょう・木原、商家/俳人)	S 1 5 2 3
孫次郎(まごじろう・田中) →	千胤(ちたね・田中たなか/川上、国学・歌)	E 2 8 9 8
孫次郎(まごじろう・土岐) →	光秋(みつあき・土岐とき、藩士/国学者)	J 4 1 8 1
孫輔(まごすけ・垣内/菊池) →	海荘(海叟かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済)	1 5 8 5
孫助(まごすけ・由良) →	箕山(きざん・由良ゆら、医/儒者)	K 1 6 5 7
孫助(まごすけ・川村) →	寛緯(ひろのぶ・川村、藩士/和算家)	G 3 7 8 3
孫介(まごすけ・村田) →	元次(もとつぐ・村田むらた、商家/神道家)	L 4 4 6 6
孫三(まごぞう;通称・加藤) →	豈苟(かいこう・加藤かとう、儒/神道家)	I 1 5 6 3
孫太夫(まごだゆう・上田) →	利容(としひろ・上田うえた、藩士/漢学者)	N 3 1 6 1
孫太夫(まごだゆう・千村) →	鷺湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者)	C 1 5 0 1
孫太夫(まごだゆう・三居) →	満礼(みつのり・三居みい、藩士/歌人)	K 4 1 6 7
孫太夫(まごだゆう・安藤/司馬) →	江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学)	1 9 9 1
孫太夫(まごだゆう・貴志) →	朝暎(ちようとん、貴志きし、幕臣/文筆家)	J 2 8 5 8
孫太夫(まごだゆう・宮部) →	義正(よしまさ・宮部みやべ、藩士/歌人)	H 4 7 0 4
孫太夫(まごだゆう・小野) →	素秋(そしゅう・小野おの、庄屋/俳人)	D 2 5 8 2
孫太夫(まごだゆう・小野) →	季顕(すえあきら・小野おの/原田、庄屋/歌)	I 2 3 1 7
真胡太郎(まこたろう・菊池) →	辰光(ときみつ・菊池きくち、国学/歌人)	U 3 1 9 7
孫太郎(まごたろう・南北) →	南北(初世なんぼく・鶴屋、歌伎役者)	J 3 2 4 8
孫太郎(まごたろう・熊谷) →	明応(みようおう;法諱・空谷、臨済僧/五山文学)	G 4 1 1 9
孫太郎(まごたろう・上野) →	資郷(すけさと・上野うえの/伴、幕臣/歌人)	H 2 3 8 2
孫太郎(まごたろう・堀田) →	一平(かずひら・堀田ほった、幕臣/歌人)	V 1 5 6 3
孫太郎(まごたろう・平田) →	胤富(たねとみ・平田ひらた、藩士/随筆)	R 2 6 8 6
孫太郎(まごたろう・天野) →	恥堂(ちどう・天野あまの、儒者/詩人)	F 2 8 0 1
孫太郎(まごたろう・多賀) →	直秀(なおひで・多賀たが、藩士/詩歌)	N 3 2 6 7
孫太郎(まごたろう・楊井) →	盛之(もりゆき・楊井やない、藩士/歌人)	K 4 4 1 1
孫太郎(まごたろう・楊井) →	盛良(もりよし・楊井、盛之男/藩士/儒)	G 4 4 8 9



孫太郎(まごたろう・井手) → 安平(やすひら・井手いで、藩士/歌) F 4 5 2 7

孫太郎(まごたろう・中守) → 正中(まさなか・中守なかもり、商家/歌人) R 4 0 2 0

孫太郎南北(まごたろうなんぼく) → 南北(5世なんぼく・鶴屋、歌伎作者) 3 2 3 6

4002 信(まこと・源みなもと、通称;北辺きたのべの左大臣、嵯峨天皇皇子)809/810-86860-59? 平安前期廷臣;

814源を賜姓、嵯峨源氏の祖の1/831参議/857左大臣/858正二位、

866(貞観8)応天門の変で一時放火の嫌疑;伴善男よおとの確執;以後出仕せず、

没後贈正一位、能書家/琴・笛・琵琶を嗜む、歌;古今六帖入、後撰1257、

[人目だに見えぬ山地やまに立つ雲を誰すみがまの煙といふらん](後撰集;雑1257)

Q4087 眞言(まこと・千足ちたり、通称;理兵衛)?-? 江中期;撰津西宮の国学者;賀茂真淵(1697-1769)門、

加藤(橘)千蔭(1735-1808)と交友、千蔭[うけら(朮)が花]入(江戸から帰郷時の記述)

4076 允(まこと・福武ふくたけ、芳重男)1752-182372 備中玉島の儒者;西山拙斎門、岡山入江家を継嗣;

1男1女をあるも離婚/1780(安永9)上京;西園寺賞季に出仕;右近の称を賜る、

頭兼奏者/歌;西園寺賞季門・梅月堂香川景柄・澄月門、

京西八条の遍照心院大通寺行者並河勝胤女區能の婿養子;妻早世、1789辞職、

玉島に帰郷;叔父富重の西福武家を嗣いだ弟重臣の跡を継嗣、

備中浅口郡安倉村の高淵喜七清方女の栄子(香川景樹門歌人)と結婚、交友範囲広い;

武者小路公隆・香川景柄・景樹・賀茂季鷹・藤井高尚・菅沼斐雄・熊谷直好・小川萍流等々、

「福武眞九十歌集」著、香川景柄と親交、

[允(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;千三郎、字;士猷、通称;右近/西福武、

号;如斎/恕斎/眞九十まこと/眞琴、法号;蒿窓院

4077 眞事(まこと・久永ひさなが、名;勝信、幕臣久永勝易男/本姓;賀茂)1758-182164 幕臣;1767遺跡相続、

1779火事場見廻/95御先手弓頭/1802駿河御定番/1806致仕、歌;亀田鵬斎・内山椿軒門、

さらに日野資枝・清水浜臣門、長歌を能く詠む、1822家集「加豆羅能於知葉かつらのおちば」著、

[眞事(;号)の幼名/通称/別号]幼名;松五郎、通称;源兵衛、

別号;かつらの屋、染古(退隠後の号)

4078 誠(まこと・日下くさか) 1764 - 183976 江戸の料理屋松坂屋の出身?、和算家;安島直円門、

皆伝を得て麻布日下窪に開塾;関流和算の正統を伝授、和田寧・内田五観・白石長忠の師、

「安日弧背術」「五円術後編」「算法町見術」「算法連術」「累円術」「累円題詳解」編、「解論」著、

1790「線上累円術」99「不朽算法」1803「関流別伝」05「関流伝書目録」、「当世塵劫記解」外著多、

[誠(;名)の字/通称/号]字;敬祖、通称;貞八郎、号;五瀬

初通称;矢田喜惣八・鈴木誠政、修名;田誠

Q4023 誠(まこと・白崎しろさき) 1764 - 181855 出羽酒田の代々蠟燭太物・質商;越前屋5代目、

白崎家の先祖は越前の白崎荘から酒田へ来たので屋号を越前屋・姓を白崎と称す、

屎尿を集め肥料として売却;その利益で半鐘・防火用水などを整備、国学・歌を修学、

長男正たし(一実かずね)が家督嗣、

[誠(;名)の字/通称/号]字;子謙、通称;五右衛門門/一恭、号;文の屋、屋号;越前屋

4079 誠(まこと・島本しまもと、良橘男)?-1848 代々佐賀の漢方医;家学を受ける/長崎で蘭学修学、

文化1804-18頃肥前蓮池で開業医/家塾を開き蘭学を教授、のち大阪移住、伊東玄素朴の師、

「医譚」「眼科要訣」「産科要訣」「痘疹要訣」「瘍科要訣」「改鑄韵鏡」「字原攷」「分学綱領」外著多、

[誠(;名)の字/通称/号]字;大受、通称;良順、号;玉川/竜嘯/竜昇/竜昌

M4030 誠(まこと・鈴木すずき) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[雨はれて夕べの風に涼しくも袂にかかる木々の白露](大江戸倭歌;夏648)

M4046 眞(まこと・高島たかし/源) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[秋風の梢にさわぐ音絶えてやがて軒端にかかる村雨](大江戸倭歌;秋1012)

Q4056 眞(まこと・田中たなか) 1808 - 188275 陸奥(陸前)志田郡の国学・神道家;森川重助門、

維新後;権少講義/神宮教院教官

[眞(;名)の通称/号]通称;政右衛門、号;天年/大椿堂

Q4099 誠(まこと・鶴田つるた、通称;伝右衛門)1818-7861 肥前蓮池藩士、国学者

- 04058 誠(まこと・岡部おかべ/旧姓;平山、)1822-63<sup>42</sup> 筑前夜須郡田三島村の農業、儒/国学;長野誠門、  
国史に精通/福岡藩陪臣の岡部家を継嗣、母を伴い諸国行脚;珍書や奇文を渉獵、  
平野国臣・仙田一郎・僧月照と交流、勤王活動で奔走;佐幕党から禍害を受ける、  
[誠(;名)の字/通称/号]字;士皆、通称;甚助、号;楽天斎
- R4003 誠(まこと・戸田とだ、号;香園)1829-1904<sup>76</sup> 下野宇都宮藩士;執政、儒学;塩谷しおのや岩陰とういん門、  
国学修学;のち二荒山神社宮司
- S4063 誠(まこと・松尾まつお、元珍もとよし長男)1830-88<sup>59</sup> 母;多勢子(1811-94/国学者/歌人)、  
信濃伊那郡伴部村の豪農・酒造業の家、国学・歌;母門・のち石川依平・平田鋳胤門、  
為誠ためまさの兄、戊辰戦争で奥羽鎮撫使副総督澤為量の近習として従軍;  
大坂から海路陸奥松島へ;奥羽各地を転戦/1869帰郷、のち伊那県権大属(県議会議員)、  
[誠(;名)の初名/通称]初名;誠哉、通称;元太郎/左次右衛門
- 4080 眞琴(まこと・近藤こんどう、儀智[珍兵衛]男)1831-86<sup>56</sup> 志摩鳥羽藩士;江戸藩邸の生/漢学修学、  
黒船来航を機に蘭学;松讓庵・村田蔵六(大村益次郎)門、1859藩の漢学教授兼世子侍読、  
航海術;矢田堀景茂・荒井郁之助門、幕府海軍操練所翻訳方/蘭書翻訳掛/軍艦組一等出仕、  
維新後海軍操練所/海軍中佐、私塾[攻玉社]を創設;洋学・航海術を教授、  
妻;館親俊女の碩子、  
1866「海軍砲術提要」著、「海軍必携抄」訳、仮名の会を創立;「ことばのその」著、  
[眞琴(;名)の字/通称/号]字;徹音、通称;鉦之助りゅうのすけ/誠一郎、号;芳隣
- 4081 誠(まこと・佐藤さとう、方義男)1831-90<sup>60</sup> 越前福井藩士/儒;高野真斎門/歌;橘曙覧・井上文雄門、  
詩;大沼枕山・広瀬青頓門、篆刻;羽倉可亭門、福井藩右筆/維新後新政府行政官書記、  
金石学に着目;材料蒐集に尽力、「硯湖吟草」、「史論纂」編、「雕虫居写本」「日本金石集」著、  
[誠(;名)の字/通称/号]初名;実吉、字;思誠、通称;鍋九郎/長吉/内記、  
号;硯湖けこ/雕虫居/彫虫居/尚古斎
- C4095 孚(まこと・岩井いかい、重遠しげとお男)?-? 幕末期上州笛吹洗村の和算家、雅重まさしげの兄弟、  
「算法雑俎算法氷積円中七円之解」著、  
[雅重(;名)の通称/号]通称;重太郎、号;信卿
- N4019 眞(まこと・天津あまつ、通称;時中/号;一貫斎)1832-93<sup>62</sup> 武蔵川越の人;相模荻野山中藩に出仕  
のち丹波天田郡に住、国学・神道家/1890「皇朝神典」著
- Q4003 誠(まこと・鍋島なべしま/本姓;松平/旧姓;龍造寺、)1833-77<sup>45</sup> 江戸の生/陸奥気仙郡に住、  
国学者/医者里見勲・蘆野武十郎の師、「鍋島誠歌集」、  
[誠(;名)の別号/通称/号]別号;孚まこと/信まこと/麻古登まこと/源信/真実/直宝/正直、  
通称;源之丞/一郎、号;言霊舎ことだまのや/満古徳
- T4002 眞琴(まこと・宮永みやなが、)1837-1908<sup>72</sup> 日向諸県郡本庄村剣柄神社神職家の生、  
儒;谷山子恕門、詩人、詩文・歌・俳諧に通ず、皇学修学;甲斐父子らと倒幕活動;1863捕縛;  
赦免/甲斐父子は獄中に没;眞琴は七言絶句「甲斐父子の幽死を悼む」を詠む、  
維新後;剣柄けんのつか神社の宮司を継嗣;稻荷信仰の本拠とす、高岡郷第一郷校の漢籍教授、  
晩年は医業に励む、[短夜や空行く月も急ぐらし](幕末期の心情)、  
[眞琴(;名)の号]老梅舎吟叟/藤岡樵史/狐穴庵

誠(まこと・塩谷)	→	簀山(きざん・塩谷しおのや、儒者/幕臣)	J 1 6 1 1
誠(まこと・久須美くすみ)	→	梅潭(ばいたん・杉浦、幕臣/儒/詩)	B 3 6 7 8
誠(まこと・長谷川)	→	杏所(きょうしょ・長谷川はせがわ、医者)	O 1 6 0 2
誠(まこと・秋葉)	→	格非(かくひ・秋葉あきば、詩人)	K 1 5 4 0
誠(まこと・渋谷)	→	三貫(さんかん・渋谷しぶや、絵師)	L 2 0 9 4
誠(まこと・江森)	→	月居(げつきよ・江森えもり、俳人)	1 8 0 7
誠(まこと・長野)	→	芳斎(ほうさい・長野/月形、藩士/儒者)	3 9 8 4
誠(まこと・大山)	→	融斎(ゆうさい・大山おおやま、儒者/国学)	B 4 6 7 7
誠(まこと・久坂)	→	玄瑞(げんずい・久坂くさか、藩士/奇兵隊)	C 1 8 4 2
誠(まこと・兼松)	→	石居(せききよ・兼松かねまつ、藩/儒/教育)	D 2 4 4 0
誠(まこと・倉八)	→	隣(となり・倉八くらはち/梶原、神職/歌人)	V 3 1 0 8

- 真(まこと・三浦) → 無窮(むきゅう・三浦みうら、医者) 4 2 3 8  
 質(まこと・新山/葛西) → 因是(いんぜ・葛西かさい、漢学;老荘) I 1 1 6 4  
 実(まこと・梨本;変名) → 実美(さねとみ・三条/転法輪三条、尊攘/歌) L 2 0 0 6  
 諛(まこと・三井) → 丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師) T 2 6 2 8  
 真人(まこと・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0  
 真言(まこと・常盤井) → 嚴戈(いかしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
 真言(まこと・田尻) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8  
 真琴(まこと・狩野) → 三雄(みつお/さんゆう・狩野かのう/三谷、藩御用絵師) I 4 1 6 6  
 眞琴(眞九十(まこと・福武) → 允(まこと・福武ふたけ、漢学/歌人) 4 0 7 6  
 麻古登(満古徳まこと・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3  
 孫之丞(まごのじょう・栗原) → 信充(のぶみつ・栗原、幕臣/故実家) 3 5 1 5  
 孫之丞(まごのじょう・服部) → 嵐雪(らんせつ・服部はつとり、俳人) 4 8 0 6  
 孫之丞(まごのじょう・久世) → 氏美(うじよし・久世/佐脇、藩士/儒/歌) C 1 2 8 4  
 孫之丞(まごのじょう・片桐) → 貞芳(さだよし・片桐かたぎり、藩主) K 2 0 2 8  
 孫之丞(まごのじょう・大館) → 氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人) E 1 2 5 8  
 孫之丞(まごのじょう・神原) → 徳行(のりゆき・神原かんばら/源、歌人) G 3 5 8 8  
 4082 孫之進(まごのしん;通称・坂本さかもと、名;俊現、俊公男) 1759-1840 江戸の幕臣;御留守居役与力、  
 砲術;父俊公門/荻野流修得/坂本天山門;天山流砲術修得、幕府の砲術師範、  
 1793「剣道伝授書」伝/1808「荻野流開葉」著、「狼烟鈔」伝、法号;本樹院  
 孫之允(まごのすけ・酒井) → 晦堂(かいどう・酒井さかい、藩士/儒者) H 1 5 1 9  
 孫八(まごはち・榎島) → 昭武(あきたけ・榎島まさしま、国学/軍記) C 1 0 5 3  
 孫八(まごはち・藪) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5  
 孫八(まごはち・横井) → 時英(ときひで・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 8 8  
 孫八(まごはち・川村) → 華陽(かよう・川村かわむら、詩人) H 1 5 5 2  
 孫八(まごはち・坂本) → 天山(てんざん・坂本/阪本、砲術家/詩) D 3 0 5 7  
 孫八(まごはち・保永堂/竹内) → 眉山(びざん・竹内たけのうち、地本問屋/絵師) C 3 7 2 8  
 孫八(まごはち・宮部) → 義正(よしまさ・宮部みやべ、藩士/歌人) H 4 7 0 4  
 孫八(まごはち・宮部) → 義直(よしなお・宮部、義正男/藩士/歌) F 4 7 1 6  
 孫八(まごはち・有田) → 竹声(ちくせい・有田ありた、歌人) L 2 8 9 8  
 孫八郎(まごはちろう・山本) → 基庸(もとつね・山本やまと、藩士/書家) D 4 4 1 7  
 孫八郎(まごはちろう・為田) → 雷枝(らいし・為田ためだ、俳人) 4 8 4 9  
 孫八郎(まごはちろう・美濃屋) → 春坡(しゅんぱ・下村しもむら、商家/俳人) K 2 1 3 8  
 孫彦(まごひこ・子子・村岡) → 子子孫彦(このこのまごひこ、狂歌) F 1 9 8 3  
 孫彦(まごひこ・大屋) → 信富(のぶよし・安井、神職/詩/狂歌) D 3 5 9 4  
 孫平(まごへい・徳江) → 春正(はるまさ・徳江とくえ/藤原、藩士/詩歌) K 3 6 4 7  
 孫平次(まごへいじ・鳥山) → 香軒(こうけん・鳥山とりやま、詩人) G 1 9 2 6  
 孫平次(まごへいじ・莊野) → 秋平(あきひら・莊野しょうの、藩士/神職/国学) H 1 0 4 2  
 4083 孫兵衛(まごべえ・鱗形屋うるこがたや、姓;山野、号;山之(さんし) 江中期江戸の書肆/鶴鱗堂開業;  
 地本問屋、俳人;雑俳、1733「雨の落葉」編(収月・玉賈ぎょくの万句合勝句抜粋)、  
 戯作を刊行/1775春町「金々先生栄花夢」刊、初夢用「宝船」販売  
 4084 孫兵衛(まごべえ・中村なかむら、俳号:富丸とみまる) 京の書肆、1691児水「常陸帯」入/刊行  
 富平(とみへい・中村孫兵衛)と同族 → 富平(とみへい・中村、京の書肆永原屋) O 3 1 9 4  
 4085 孫兵衛(まごべえ・高松屋たかまつや、屋号) 江後期越中城端町の算用方、  
 1816「算用聞勤方書上申帳」編  
 孫兵衛(まごべえ・杉原/木下) → 家定(いえさだ・木下/豊臣、藩主/随筆) E 1 1 8 2  
 孫兵衛(まごべえ・吉田) → 孤山(こざん・吉田よしだ、藩士/儒者) M 1 9 5 8  
 孫兵衛(まごべえ・高野) → 幽山(ゆうざん・高野たかの、俳人) B 4 6 8 9  
 孫兵衛(まごべえ・中村) → 富平(とみへい・中村/永原屋、書肆) O 3 1 9 4  
 孫兵衛(まごべえ・平山) → 方救(ほうきゅう・平山、俳人/狂歌) 3 9 4 0  
 孫兵衛(まごべえ・神山) → 完太夫(かんだゆう・添田そえだ、将棋士) R 1 5 3 1



孫兵衛(まごべえ・根岸)	→	涼宇(りょうう・根岸ねざし、商家/俳人)	G 4 9 2 8
孫兵衛(まごべえ・石野)	→	広壽(ひろとも・石野いしの/中原、幕臣/歌)	I 3 7 2 6
孫兵衛(まごべえ・由良)	→	箕山(きざん・由良ゆら、医/儒者)	K 1 6 5 7
孫兵衛(まごべえ・渡辺)	→	玄察(げんさつ・渡辺わたなべ、記録蒐集)	J 1 8 1 7
孫兵衛(まごべえ・横田)	→	茂語(しげつ・横田、和学者)	C 2 1 4 4
孫兵衛(まごべえ・三井)	→	親和(しんな・三井みつゐ、書家/篆刻)	P 2 2 5 0
孫兵衛(まごべえ・三須)	→	蛸水(とうすい・三須みつ、藩士/儒者)	F 3 1 7 5
孫兵衛(まごべえ・三須)	→	教方(のりかた・三須みつ、藩士/歌人)	K 3 5 0 8
孫兵衛(まごべえ・鈴木)	→	桃野(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者)	H 3 1 5 1
孫兵衛(まごべえ・菅原)	→	道就(みちなり・菅原すがわら、藩士/歌人)	C 4 1 1 3
孫兵衛(まごべえ・村田)	→	元次(もとつぐ・村田むらた、商家/神道家)	L 4 4 6 6
孫兵衛(まごべえ・村田)	→	全次(またつぐ・たけつぐ・村田/元次男、神道)	T 4 0 1 2
孫兵衛(まごべえ・肥前屋)	→	吾鼠(五鼠ごそ・伊藤、商家/俳人)	D 1 9 1 9
孫兵衛(まごべえ・永原屋)	→	富平(とみへい・中村なかむら、書肆)	O 3 1 9 4
孫兵衛(まごべえ・村松)	→	弘通(ひろみち・村松むらまつ、絵師/国学)	L 3 7 4 8
孫兵衛(まごべえ・斎藤)	→	貞常(さだつね・斎藤/堀、藩士/文筆家)	I 2 0 6 7
孫兵衛(まごべえ・高林)	→	景寛(かげひろ・高林たかばやし/久津見、藩士/歌)	U 1 5 9 5
孫兵衛(まごべえ・安原)	→	尚之(ひさゆき・安原やすはら、詩歌人)	M 3 7 1 3
孫兵衛(まごべえ・三好)	→	尚広(なおひろ・三好みよし、庄屋/歌人)	O 3 2 9 8
孫丸(孫鷹まごたろ・千家)	→	俊栄(としひで・千家せんげ、神職/国学者)	V 3 1 4 5
孫六(まごろく・武田)	→	信武(のぶたけ・武田、武将/歌人)	B 3 5 7 6
孫六(まごろく・前田)	→	国規(くにのり・前田まえだ、藩士/系図)	D 1 7 0 8
孫六(まごろく・大河平)	→	隆棟(たかむね・大河平おこびら、藩士/国学)	N 2 6 3 3
孫六(まごろく・木下)	→	守約(もりなり・木下きのした、国学者)	J 4 4 7 4
孫六(まごろく・竹内)	→	堯民(たかたみ・竹内、国学者)	Y 2 6 0 7
孫六(まごろく・亀井)	→	速雄(はやお・山本やまと/亀井、藩士/官吏)	K 3 6 9 4
孫六(まごろく・森)	→	美之(よしゆき・森もり/藤原、官人/歌人)	P 4 7 6 5

- U4020 **正**(まさ・渡邊わたなべ、通称;善左衛門)?-? 江前期;下野宇都宮藩松平忠弘に出仕、戸田茂睡(渡邊恭光/1629-1706)の兄、歌;1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、[捨てし世をまたいか様にいとへとか柴の庵のすみうかるらむ](若むらさき;182述懐、またいか様にいとへとか;この上さらにどのように遁世せよというのか)
- 4086 **まさ**(政まさ・下村しもむら、春坡[1750-1810]の妻)?-? 江後期京の俳人;1782蕪村「花鳥篇」入/83維駒「五車反古」入;[桜狩かの木この木の一構ひとかまへ]政(まさ・川喜田) → 遊堀(ゆか・川喜田かわきた/竹川、遊堀女、歌) G 4 6 7 7
- 4087 **尹明**(まさあき・藤原ふじわら、知通男)?-? 平安後期廷臣;兵部少輔/安徳天皇の蔵人、歌;1175右大臣兼実家歌合右方参加(左方基輔と対す)、続詞花集入[しののめの明くるをのみぞ嘆かましあひ見て帰る空と思はば](兼実歌合;八番暁恋56)[こと弾く女にもの申しわたりけるをきくこと侍りければとはずなりにけるに、女のもとよりことをさへ忘れぬるなどいへりければ、人にまたつまなれにけることなればうきためしにはひくとしらずや](続詞花;恋650)
- 4088 **政秋**(まさあき・豊原とよはら、初名;定秋、近秋男) 1228-9568 鎌倉期楽人;笙:一者を11年勤務/楽所勾当、周防・佐渡守/1292右近将監、歌人;1292厳島社頭和歌参加、勅撰2首;新後撰1394/玉葉1231、[家の風吹くとはすれど笛竹のよよにおよばぬねぞなかれける](新後撰;1394/述懐の心)
- 4089 **雅頭**(まさあき・飛鳥井あすかい、雅有男/本姓;藤原)?-1278天逝20歳位 鎌倉後期廷臣;正五下右近少将、関東伺候の廷臣;京鎌倉を往還、歌人:「右近少将雅頭集」、勅撰11首;新後撰(1048)続後拾(1262)新千載(4首483/758/973/1993)新続古(5首)、[さとのあまのかりそめなりし契よりやがてみるめのたよりをぞとふ](新後撰;恋1048)
- 4090 **雅明**(まさあき・藤原ふじわら) ? - ? 廷臣;五位/歌:1439成立「新続古今集」1714、



- [洩りかねて月も心やつくしらんみ山の松のしげき木の間を](新続古;十七1714/深山月)
- 4091 **政顕**(まさあき・勸修寺かじゅうじ、教秀男/本姓;藤原) 1454-1522<sup>69</sup> 母;飛鳥井雅永女、廷臣;1483参議、正四上/1686権中納言/1500従二位/04致仕/加賀の下り没/没後贈准大臣、藤原藤子(豊楽院/後柏原天皇妃;後奈良天皇母)及び三条西実隆の室の兄、歌人;飛鳥井雅康門、応仁乱後堂上歌人として活動;1473甘露寺親長歌会参加、83和歌寄人、1503内裏三六番歌合参加、連歌;新菟玖波1句入、1586「政顕卿記」、[茂りあふ青葉もつらし木の間より光を花の夏の夜の月](三六番歌合;十一番右22)
- 4003 **雅章**(まさあき・飛鳥井あすかい、初名;雅昭、雅庸男/本姓;藤原) 1611-79<sup>69</sup> 江前期廷臣;次兄雅宣の養子、1640従三位/52権大納言/正二位/77従一位、1661-武家伝奏(10年間)、歌人;1657後水尾院より古今伝授を受、後水尾院歌壇の中心人物、武家・地下の門人多数、蹴鞠家、法号;究竟院、1653「数量和歌集」編/72「易然集」、「芳野紀行」「雅章卿詠草」著、「雅章卿千首」、「続重槐集」編/「雅章卿記」「雅章卿千首」「飛鳥井雅章三十首和歌」著、「蹴鞠書」「蹴鞠の記」「飛鳥井蹴鞠道別家願書」外著多数、「尊師聞書」(門人孝賀こうが編)、[日の本やこま唐土も久方の空にへだてぬ春は来にけり]([難波捨草]冒頭歌;春上1)
- L4065 **政彬**(まさあき・皆川みなわ/本姓;藤原、通称;卯右衛門、常陸府中藩主隆庸男?)?-? 旗本/幕臣;御腰物奉行、歌;石野広通「霞関集」入、[山風をそへて流るる麓川波のたちみやゆふべ涼しき](霞関;夏344)
- U4019 **正昭**(まさあき・本多ほんだ、**正方**、通称;三左衛門、法号;禅灯) 1647-92<sup>46</sup> 江前期;幕臣/旗本千石、歌人;1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、[露の身の後れ先立つならひぞと知りても袖のかはきやはする]、(若むらさき;122/茂睡入道子に後れて歎き侍るに遣す)
- 4092 **正明**(まさあき・奥宮おくみや、通称;藤九郎) 1648-1726<sup>79</sup> 土佐藩士;1688-1704頃土佐各地の検見役・代官、儒;谷秦山門、史学に通ず、「為山集」「一簣いっき集」/「土佐国蠹簡集」編/1707「谷陵記」14「堪忍記」著
- 4093 **昌明**(まさあき・木村きむら、通称;傳三郎) ?-? 江前期17-18c<sup>t</sup>武士、1697まで津山藩主森家に出仕、1697森家改易後備中江原移住/播州赤穂移住、「武家聞伝記」「木村咄」著
- 4094 **昌章**(まさあき・馬場ばば) ? - 1730 尾張の兵法家、1720「橘家神軍三伝抄」著
- 04037 **政明**(まさあき・大鳥居おとりい、通称;五右衛門) 1777-1857<sup>81</sup> 近江彦根藩士/国学・歌人、歌;彦根歌人伝・亀入
- 4095 **政明**(まさあき・鹿児島かごしま、政房男) 1735-1807<sup>73</sup> 薩摩の土肥家の裔/肥後麻植郡の国学者、国学・歌;山内松月堂心阿門、政章まさあやの父、「神風日記」「鯨神由来記」「真直枝折」「百轉」「麻殖郡川田邑名跡志」著、[政明(;名)の通称/号]通称;和太夫、号;竹光庵、
- 4096 **政陽**(まさあき・内藤ないとう、政里男) 1737-81<sup>45</sup> 1754(宝暦4)日向延岡藩主内藤政樹の養嗣子、1756(宝暦6)襲封;能登守、1756-70延岡藩主、儒;南宮大湫門/兵法;松宮観山門、1768延岡城内に学寮創設;人材育成、詩;1776泉士徳ら編「詩語碎金」序文、「大東詩集」入、「延陵侯詩画稿」著、[政陽(;名)の幼名/字/号]幼名;億助、字;子温、号;鳳翔、法号;愿敬院
- 4097 **正章**(まさあき・小林こばやし) ? - ? 丹後宮津藩士/藩命で宮津の地誌編纂、1761「丹後州宮津府志」著
- R4054 **正表**(まさあき・乗松のりまつ、通称;次太夫) 1740-1814<sup>75</sup> 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
- 4098 **雅昭**(まさあき・檜山ひやま) 1743- 1824<sup>82</sup> 常陸水戸藩士;1762進士、1811「見聞録続集」著、1817日周「会山和歌集」編刊(1713日蓮僧日周の歌集)[雅昭(;名)の通称] 与市/儀左衛門
- 4099 **昌符**(まさあき・飯室いむろ、初名;昌豊、昌芳男) 1753-? 幕臣;1782家督;西丸御小姓組番士、儒者;千葉芸閣門、江戸駒込土物店に住、1776「芸閣先生文集」編、[昌符(;名)の通称]亀之丞/伝次郎
- B4000 **雅明**(まさあき・野崎のさき、雅伯まさのり男) 1757-1816<sup>60</sup> 越中富山藩士/儒者;1793藩校広徳館助教、804学正、父の研究を継承;越中の歴史調査、1812「立山記」15「肯構泉達録」著、通称;伊太夫

- T4054 **正明**(まさあき・山口やまぐち、通称;乙次郎/文吾)1759-1805<sup>47</sup> 美濃大垣の国学者、近江彦根藩士、歌;[彦根歌人伝・寿]入
- 4004 **正明**(まさあき/まさあきら・石原いしはら、初名;将聴)1760<sup>or64</sup>-1821<sup>62or58</sup> 尾張海東郡神守村の農家、国学;1792本居宣長門/江戸で塙保己一門;学塾温故堂塾頭/群書類従・類従国史編纂参加、考証学に精通/歌文に長ず、1801-05「年々随筆」/04「花月百首」、05故実「冠位通考」、1805「石原正明記」、1808「江戸職人歌合」主催、1819歌論「新古今尾張廻家苞おりのいづと」、  
「石原正明随筆」「石原正明詠草」「躑躅園随筆」「蓬堂集」「名目類牋」「触穢明辨」外著多数、  
[正明(;)名)の通称/号]通称;喜左衛門/文内、号;蓬堂
- L4072 **正明**(まさあき/まさあきら・高橋たかはし、号;休閑/閑筑)?-? 江中期;茶人/歌人/幕臣;御数寄屋組頭、遠州流茶人;県宗知門、1797県宗知茶書の伝授を受、「遠宗拾遺」補筆、歌人;冷泉家門、1756岡田忠篤催[千首和歌]参(御茶道頭休閑子名)、1768広通「霞閑集」初撰・99再撰入、  
[神代より今も変らじ榊葉の陰栄えゆく天まの香具山](霞閑;雑903/名所山)
- 04088 **正明**(まさあき・勝野かつの/本姓;平、)?-1818 近江彦根藩士/国学・歌;山本昌蔭(1767-1852)門、歌人;[彦根歌人伝・寿]入、  
[正明(;)名)の通称/号]通称;八十郎、号;松聴軒
- B4001 **政章**(まさあき・木内きうち)1769-1833<sup>65</sup> 常陸久慈郡小目村の医家;1784原南陽門、本草家;1797小野蘭山門、1798京近辺で採薬、1822水戸藩に出仕、1827「草本形状録」著、  
「常陸物産誌」「奇方録」著、「本草綱目記聞」校訂  
[政章(;)名)の字/通称]字;伯斐、通称;玄節
- B4002 **正昭**(まさあき・佐藤さとう、号;春杏)?-? 江中・後期尾張海西郡の医者、1799「古方通覧」編
- Q4057 **正章**(まさあき・田中たなか、旧姓;佐伯)1771-1809<sup>39</sup> 京の廷臣;閑院宮家諸大夫、歌人、  
[正章(;)名)の通称]土佐守/大和守
- R4081 **応卿**(まさあき・服部はつとり、)1771-1841<sup>71</sup> 尾張海東郡の代々大庄屋、国学者;本居宣長門、林はやし富とみ・大館おだち民たみの弟、  
[応卿(;)名)の初名/字/通称]初名;文載、字;子厚、通称;卯年児/九郎右衛門
- B4003 **方明**(まさあき・中井なかい)1782-1830<sup>49</sup> 大阪の商家の生;早く父母を失い家産散佚、1798上京し安陪家入門/天文暦算家;河野通礼門/大阪で家塾;陰陽道を講説、独学で研鑽、  
「算学起原集」著、  
[方明(;)名)の通称/号]通称;;帯刀、号;日新堂、法号;釈善証
- R4049 **正明**(まさあき・野原のはら、旧姓;桑原)1786-1847<sup>62</sup> 信濃伊那郡の商家[屋号;綿屋];飯田藩御用達、国学・歌;植松茂岳しげおか・森広主門、代々綿屋半三郎名乗る、  
[正明(;)名)の通称]半三郎/仁兵衛
- B4004 **政章**(まさあき・安井やすい、渡辺玄郭男)1787-1853<sup>67</sup> 安井久道の養子/川越藩士;組目付/郡奉行、寄合兼郡奉行;川越藩前橋取締役;利根川治水事業に功績、宝蔵院流槍術;富田政猛門、のち師範、1818「筌蹄」著、「秋月集」註釈、  
[政章(;)名)の通称]弥平/珍平/与左衛門
- P4086 **正明**(まさあき・佐藤さとう、)1793-1860<sup>68</sup> 出羽(羽後)飽海郡鶴殿河原うどがわらの御給人(所領武士)、国学・歌道;服部菅雄門、  
[正明(;)名)の通称/号]通称;宮記(三弥記)みやき、号;常観
- B4005 **正章**(まさあき・朝岡あさおか)1794-1840<sup>47</sup> 尾張藩士/儒者;飯万島清忠門、国学/歌;富樫[鬼島]広蔭門、俳人、小笠原流礼法・故実にも精通、  
1836「牽牛花あさがお集」/19-39随筆「袂草たもとぐさ」、「岩作長湫岩崎道之記」著、「露竹斎遺艸」、  
[正章(;)名)の字/通称/号]字;朗子/朝万、通称;伝蔵、  
号;字朝(俳号)/桃廬/露竹斎、法号;可学院
- M4018 **正顕**(まさあき・吉田よしだ/本姓;藤原、通称;半左衛門)?-? 江後期;歌人、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[浅からぬ春のあはれは若草のつまにもこもる春日野の原](大江戸倭歌;春167)
- M4031 **正彬**(まさあき・竹石たけいし) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[河風に身の毛乱れて柳かげよそめ涼しく立てる白鷺](大江戸倭歌;夏673/夏鳥)

- R4091 **正明**(まさあき・林はやし、通称;惣兵衛)?-? 江後期;尾張清洲宿本陣を勤める、  
国学者;鈴木腹あきら(1764-1837)門、清洲本陣は豪壮な建物で将軍・大名・勅使など宿泊
- B4006 **昌章**(まさあき・大窪おおくぼ/大久保、志村吉昌男)1802-4140 大窪光風の養嗣;1824家督嗣;尾張藩士、  
三十俵馬廻/大番、本草学;養父門・水谷豊文とよみ門、尾張本草学会嘗百社の幹部、  
屢々本草会を主催、動植物写生・印葉図製作に長ず、茶・作陶を嗜む、1818-33「草木集」、  
「大窪動物譜」「大窪本草動物篇」、「諸国採葉記」「四季採葉記」「薜荔庵魚譜」外著多数、  
[昌章(;名)の幼名/通称/号]幼名;舒弥、通称;舒三郎、号;薜荔庵へいれいあん、法号;昌章院
- R4094 **正陽**(まさあき・原はら、通称;平太夫)?-1847 筑後久留米藩士、国学者
- B4007 **正明**(まさあき・尾崎おさき/本姓;源)1809-7870歳 和泉堺北上町の惣年寄/国学者;富樫広陰門、  
伴林光平門、狂歌;江戸五則側所属、「狂歌三国志」編、「皇国学の雑書」「枕草子の中の説」著、  
[正明(;名)の通称/号]通称;具足屋房治郎/庄右衛門/荘右衛門/正右衛門/丈作/庄作/一作、  
号;秋夜長樹あきのよながき/和群居/和一園/緑亀園
- S4099 **正秋**(まさあき・宮川みやがわ、通称;涉)1811-190383 筑後八女郡の国学者
- B4008 **政昭**(まさあき・浅井あさい、政辰まさときの孫)1813-4937 越前の儒者;程朱学修学、1830祖父政辰の継嗣、  
福井藩士;1844福井藩側向頭取、藩主松平慶永を補佐、「清夏集」、「執法全鑑」「巡海日記」著、  
「編年集要目録」編/1844「隆芳公御略伝」編、「越前福井御家中転宅考」編、歌を嗜む、  
[青柳の木の下風に恵まれて池の心もやはらぎにけり]、  
(松平春嶽[古今百人一首]入;78)、  
[政昭(;名)の字/通称/号]字;明卿、通称;八百里、号;栢庭/秋水軒/清夏堂
- B4009 **正明**(まさあき・鹿田しかた、別名;方皓、正復男)1815-7157 加賀金沢生/父は金沢藩士で自刃;籍剥奪、  
上京し医・蘭学;小石元瑞門/1853信州松代藩に招聘;洋式兵書を翻訳、金沢に帰藩;  
西洋流火術方雇/壮猶館教授/大砲方裁許/長州征討軍に従軍;大砲歩小頭/1854士籍;百石、  
「海軍要略」「戦闘記事」「攻守略説」訳、  
[正明(;名)の字/通称/号]字;孝玄、通称;文平、号;謹斎
- N4090 **正顕**(まさあき・宇都宮うつのみや/旧姓;古海、)1815-8571 筑前遠賀郡黒崎の庄屋、  
鹿児島・熊本・佐賀藩宿本陣、諸藩の勤王派と交流;逃走中の月照を匿う、  
福岡藩の乙丑いっちゅうの獄で抑留、1873(明治6)宇都宮に改正、  
[正顕(;名)の通称/号]通称;東四郎/次郎兵衛/与次兵衛、号;漁叟
- R4001 **正章**(まさあき/まさふみ・戸川とがわ、)1819-187254 筑前福岡藩士、国学者;平田鯉胤門、尊王派、  
1865(慶応元)藩内の勤王派弾圧(乙丑いっちゅうの獄)により幽閉/赦免、目付、槍奉行を歴任、  
藩校文武館監学、  
[正章(;名)の通称/号]通称;佐五左衛門、号;古硯堂
- M4054 **正明**(まさあき・大西おおいし) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[立ち迷ふ雲かたとよそに思ひしは炭やく峰の煙なりけり](大江戸倭歌;冬1311/峰炭竈)
- T4048 **正秋**(まさあき・山田やまだ、旧姓;富山)1820-190283 越前今庄の生/敦賀の油屋山田市太郎家を継嗣、  
歌人;石塚資元・越前証誠しょうじょう寺の東溟(善超)門、大田垣蓮月と交流、家業には失敗、  
家集「山田のみなし穂」著、  
[正秋(;名)の通称] 新太郎/市太郎/市太夫
- P4021 **正秋**(まさあき・菊沢だきざわ、通称;治郎右衛門じろうえもん)1821-9373 越前敦賀郡の国学者
- B4010 **政明**(まさあき・川喜田かわきた、遠里とおさと男)1822-7958 母;三千子、伊勢津の商家;久太夫家14代、  
歌人;富樫広蔭・松田直兄門、妻;竹川遊岡ゆか、政豊の父、  
文雄「伊勢の家づと」三編序と跋、1852「湧蓮大徳短冊帖」編、  
[政明(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;咲之助/崎之助、字;子清、通称;久太夫、  
号;石水/茲子々斎/梅舎/埴斎/近里/弄花軒ろうかけん/嗜菜庵しさいあん/崑陽がんよう
- N4041 **正明**(まさあき・伊藤いとう、正徳男)1825-187753 伊予東宇和郡俵津の庄屋の生、  
大洲の伊藤正方の養子;伊藤家8代目を継嗣、和漢学;伊予吉田の坪井睡巖門、  
歌人;本間游清門、書;松花堂入門、伊予大洲の吉田藩校自観堂教官、  
俵津に帰郷;庄屋職、傍ら漁業を営む、



- [正明(；名)の初名/通称]初名；正興、通称；寿助/恒八郎/均平
- B4011 **正明**(まさあき・桑本くわもと、美明男)1830-63**斬殺**34 石見津和野藩士/和算家；木村林昱いげてる門、蘭学；藩医吉本蘭斎門、1849藩校養老館の数学世話方、1851頃江戸で和算；内田五観門、蘭学；坪井信道門、1857養老館師範、山鹿流兵法・石州流茶道・小笠原流礼式を修得/開国論、藩主亀井茲監に随行上京時攘夷派藩士に斬殺、狂歌・一絃琴を嗜む、1854「理数合符説」編、1855「円理称平術後編」編/55「算法尖円豁通」、「算法開蘊三台称平術」外著多数、
- [正明(；名)の通称/号]通称；才次郎、号；毅山/衣帛堂、法号；鉄心院
- Q4010 **昌明**(まさあき・地主いぬし、)1832-1871**40** 出羽庄内鶴岡の商家、
- 国学；鈴木重胤・井上頼国門・権田直助門、
- [昌明(；名)の通称/号]通称；友吉/友右衛門、号；照妙廼舎
- T4055 **正秋**(まさあき・山本やまもと、通称；喜平/号；扇山)1834-1900**67** 越前丹生郡の国学者/歌人、
- 国学；中根雪江門/歌；橘曙覧門、丹生郡朝日村長、[朝日村志]序文執筆
- N4078 **政明**(まさあき・今井いまい/本姓；源、政典まさのり男)1837-72**36** 信濃伊那郡小野村の国学者；
- 平田鉄胤門(篤胤没後門)、
- [政明(；名)の通称]春亮
- N4096 **正秋**(まさあき・臼田うすだ、藩士驚見すみ喜平太2男)1837-1910**74** 但馬出石の国学者；平田派の門人、
- 臼田弥右衛門の養子、
- Q4040 **政彰**(まさあき・関せき、通称；官兵衛)?-1891 伊予松山藩士/歌人
- R4093 **方揚**(まさあき・原はら、)1840 - 1904**65** 飛騨高山の国学者/歌人；上木清茂門、
- [方揚(；名)の通称/号]通称；徳平/長松、号；菊徑
- 允亮(まさあき・惟宗・令宗)→ 允亮(ただすけ・惟宗これむね/令宗よしむね、明法家) F 2 6 1 6
- 政章(まさあき・菊池) → 成章(なりあき・菊池さくち、国学/歌人) G 3 2 9 6
- 政章(まさあき・日柳) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
- 政明(まさあき・鶴川) → 麿文(そぶん・鶴川うかわ、俳人/季語研究) E 2 5 3 1
- 政明(まさあき・香山) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
- 政明(まさき・河毛) → 敏夫(としお・河毛かわげ、神職/国学者) U 3 1 8 5
- 正明(まさあき・広島/永田)→ 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩) F 2 4 4 1
- 正明(まさあき・松平) → 玄駁(げんき・松平まつだいら、藩老/俳人) E 1 8 0 4
- 正明(まさあき・東海林) → 順泰(じゅんたい・東海林しょうじ、医者) L 2 1 4 5
- 正明(まさあき・檜原) → 久臣(ひさおみ・檜原ならはら、国学者) K 3 7 4 9
- 正明(まさあき・齋藤/清河)→ 八郎(はちろう・清河/清川、教育/尊攘) F 3 6 0 1
- 正明(まさあき・井手) → 真棹(まさお・井手いで/西村、藩士、歌人) N 4 0 3 6
- 正章(まさあき・中島) → 松堂(しょうどう・中島/中嶋、藩士/日記) L 2 2 2 1
- 正秋(まさあき・吉田) → 東洋(とうよう・吉田よしだ、藩士/藩政改革) H 3 1 8 8
- 正秋(まさあき・津田) → 淳三(じゅんぞう、津田つだ、藩医) L 2 1 3 6
- 正秋(まさあき・阿部) → 忠秋(ただあき・阿部あべ、藩主/家訓書) P 2 6 0 6
- 正韶(まさあき・まさつぐ・深田)→ 香実(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌学) B 1 9 2 5
- 正榮(まさあき・木村) → 世榮(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F 2 9 5 9
- 昌明(まさあき・佐伯/岸) → 岸駒(がんとく；通称、絵師) G 1 5 2 3
- 昌明(まさあき・近藤) → 淡泉(たんせん・近藤、藩校教授/儒者) I 2 6 4 8
- 昌章(まさあき・藤野) → 専斎(せんさい・藤野ふじの、香道家) M 2 4 3 1
- T4067 **雅朗**(まさあきら・横浜よこはま、旧姓；浦野)1728-65**38** 美濃不破郡の生/近江彦根歌人；石尾洋方門、
- 歌；[彦根歌人伝・続寿]入、
- [雅朗(；名)の通称/号]通称；吾八、号；鶴舎つるのや
- T4077 **正晃**(まさあきら・若林わかばやし、正武長男)1758-1826**69** 母；滝(若林正因女/1740-77；38歳)、
- 備前岡山石関町の商家；諸物問屋；父を嗣、岡山藩御用達；別改扶持人で七人扶持、
- 国学者；小寺清先・梅井一室門、詩歌を能くす；別宅で屢々詩会を開く、
- 市川米庵・司馬江漢・広瀬蒙斎・木村兼葭堂などと交流、
- 正旭まさあきら(直助)の兄、妻；與利(岡山仁尾屋入江永祥の長女/1764-1812)、恒太郎の父、



- [正晃(；名)の字/通称/号]字；子陽、通称；朴介、号；叢亭/徳翁、屋号；赤穂屋
- T4078 **正旭**(まさあき・若林わかばやし、正武2男)1767-1845<sup>79</sup> 母；滝(若林正因女/1740-77;38歳)、備前岡山石関町の商家；諸物問屋；兄正晃を継嗣、岡山藩の別改扶持人・七人扶持、歌人；木下幸文門/1838香川景樹門、蹴鞠；飛鳥井・難波両家入門、妻；多美(千世/美作津山の玉置教韶女/1774-98;25歳)、周吉の父、歌；[類題吉備国歌集]2首入、家督は兄正晃男の恒太郎が嗣、
- [正旭(；名)の字/通称/号]字；子明、通称；直介/直助/徳左衛門、号；素一/屋号；赤穂屋
- R4066 **正環**(まさあき・橋村はしむら、旧姓；中山)1845-1919<sup>75</sup> 伊勢一志郡の生、漢学を修学、度会の外宮権禰宜橋村正衛まさえ(1827-56)の養子、国学・歌；足代弘訓・橋村淳風きよかげ門、外宮権禰宜、のち皇学館教授、「小学作文語林」「今文孝経御註」著、
- [正環(；名)の字/号]字；景玉、号；橘陰/石瓢子
- 正明(まさあき・高橋) → 正明(まさあき・高橋たかはし、幕臣/歌) L 4 0 7 2
- 正明(まさあき・石原、群書類従編参) → 正明(まさあき・石原、故実/歌) 4 0 0 4
- 正章(まさあき・安原) → 貞室(ていしつ・安原、俳人) 3 0 0 5
- 政晃(まさあき・高橋) → 泥舟(でいしゅう・高橋、幕臣/槍術家) B 3 0 1 2
- B4012 **雅明親王**(まさあきらしんのう、宇多天皇皇子)?-929 921宇多天皇・母褒子(時平女)と春日詣；歌；褒子催「京極御息所歌合」入、敦慶・敦固・敦実親王と異母兄弟
- 章明親王(まさあきらしんのう) → 章明親王(のりあきらしんのう、兵部卿官)
- B4013 **雅敦**(まさあつ・飛鳥井あすかい、雅春男/本姓；藤原)1548-78<sup>31</sup> 廷臣；左中将/右兵衛督/1577従三位、1578参議、歌人；「雅敦卿詠草」著、1575「続百首和歌」入、連歌；1570「永禄十三年唐何百韻」1572「元龜三年紹巴紹与等百韻」、法号；冷光院隆雅、雅庸の父/西洞院時慶の従兄弟
- N4030 **正敦**(まさあつ・井上いのうえ、政式まさり2男)1707-1753<sup>47</sup> 江戸中期；下総高岡藩主井上政清の孫、1720(享保5)常陸下妻藩主井上正長男の正矩が早世；正矩女を娶り正長の養子となる、同年正長没；家督嗣；下妻2代藩主；1721従五位下/遠江守、1732大番頭/46(延享3)奏者番、国学/歌、井上正賀の父、養子正辰が嗣、
- [正敦(；名)の通称]通称；久之丞/内記/遠江守、法号；義天一相如円寿院
- B4014 **政敦**(まさあつ・恒岡つねおか) ? - ? 江中期常陸水戸藩士、歌人、1771「時鳥百首」、「複号之事」著
- S4038 **正惇**(まさあつ・古林ふるばやし/旧姓；高松、)1736-99<sup>64</sup> 播磨姫路の医者、大坂で医を開業、儒者・歌人；加藤景範門、
- [正惇(；名)の字/通称/号]字；君実、通称；立庵、号；槐園/荆南けいなん
- B4015 **正敦**(まさあつ・堀田ほつた/本姓；紀/藤原、仙台藩主伊達だて宗村男)1755-1832<sup>78</sup> 母；坂氏、1786近江堅田藩主堀田正富の娘婿/87家督；堅田藩主/89大番頭/90若年寄；幕府財政担当、老中松平定信を補佐；1812「寛政重修諸家譜」編纂総裁、1826下野佐野へ転封/32致仕、摂津守、国学/歌人/博物学、小野蘭山・岩崎灌園らを庇護、1806「萩か花すり」著、1814「詠源氏物語和歌」主催、1816家集「水月詠藻」、「水月水草」編/「堀田正敦詠草」著、「水月君(正敦殿)自歌合」、「蝦夷紀行」、「おくの記行」「浴恩亭の記」「聚勝園記」著、「浴恩園序並詩歌」「禽譜」「観文禽譜」外著多数、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[山の端はなほも雪げの雲こりて空寒げなる春風ぞ吹く](大江戸倭歌；春114/余寒)、
- [正敦(；名)の幼名/別名/字/号]幼名；藤八郎、別名；村由/武良由むらよし、字；臨卿、通称；摂津守、号；水月、法号；報国院、正衡まさひらの父
- B4016 **雅敦**(まさあつ・正宗まさむね、雅明男/本姓；橘)1789-1838<sup>50</sup> 備前和気郡穂浪の国学者、直胤の兄、狂歌；梅廼家空丸・石川雅望門、歌；播磨の三木元春・長治祐義門/俳諧；八千房一肖門、画；武田五峰門、狂歌は五側判者、1826「雪月花百首狂歌集」29「朝顔百首狂歌集」著、1831「狂歌略画三十六歌仙」編/32「新撰七夕狂歌集」、36-38「春興亀廼尾山」編、「出雲日記」「伊勢日記」「東国日記」「西国日記」「備前雅言一覽」「正宗雅敦詠草」外著多数、
- [雅敦(；名)の字/通称/号]字；子俊、通称；経蔵、
- 号；唐樹園南陀羅/楊樹園髮児丸/万寿堂亀嶺、法号；亀嶺淵翁居士
- B4017 **政醇**(まさあつ・建部たけべ、7代藩主政賢4男)1794-1875<sup>82</sup> 母；真田信安女、播磨林田8代藩主；

1812(文化9)父隠居;襲封、従五位下/内匠頭、30(文政13)大番頭/41(天保12)奏者番、  
国学;清水浜臣・大国隆正門、石野充蔵を招聘し藩士子弟教育の充実、1849致仕;政和嗣、  
正室;松平信明女、息子;建部政和・坪内定益・土井利教・建部揆、  
息女;建部秀隆正室・道子(小栗忠順室)・朝倉某室・彦坂重遠室・はつ子(蜷川親賢正室)、  
1829清水浜臣「泊泊舎ささなみのや集」序、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[桜散る春の川辺を過ぎ行けば薄花色の浪も立ちけり](大江戸倭歌;春304/行路落花)、  
[政醇(;名)の幼名/通称/号]幼名;鶴太郎、通称;内匠頭たくみのかみ、隠居号;聖岡

P4043 **正篤**(まさあつ・雲井くもい)1819- 1842<sup>24</sup> 伊勢津の国学者;富樫広蔭門、  
雲井正扶まさすけ・正帥まさりの同族、  
[正篤(;名)の別名/字/通称]別名;正度、字;以常、通称;直治郎/勘三郎

M4014 **政醇**(まさあつ・小堀こぼり/本姓;藤原、通称;信次郎)?-? 江後期;歌人、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[立ち寄りてぬるとも聞かん春雨のしづくの杜の鶯の声](大江戸倭歌;春98/杜鶯)  
[限りある秋のまがきも白菊の花は盛りに匂ひぬるかな](現存百人一首;28)

B4018 **正敦**(まさあつ・成瀬なるせ、種徳の孫)?-? 江後期加賀金沢藩士;1804祖父種徳の遺知継嗣、  
1819定火消/26公事場奉行/30御算用奉行/37寺社奉行、のち御近習御用、1803-「日記」著、  
「成瀬正敦集記」「公事場奉行諸事心覚」「支配方行事帳」、「若年寄方御用心覚留」編、外著多、  
[正敦(;名)の通称] 鍋吉/監物けんもつ/主税ちから、正居まさいの父

M4005 **正篤**(まさあつ・島田しまだ) ?-? 江後期;歌人、  
1856(安政3)「古今和歌集浅見抄」(古今浅見抄)著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[日をふればおのづかなる力にて柚川くだす五月雨の頃]、  
(大江戸倭歌;夏519/柚五月雨)

M4067 **昌温**(まさあつ・竹石たけいし) ?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[富士のねはほのぼの見ゆる明けぼのにまだ夜を残す浮島が原]、  
(大江戸倭歌;雑1679、浮島が原;駿河市原・鈴川間の带状海岸湿地帯/富士川古戦場)

B4019 **正温**(まさあつ・竹内たけうち、通称;因幡)?-? 江後期石見邇摩郡温泉郷の惣社八幡宮神主、  
国学;本居大平門、「石見国地名考」著

N4089 **正篤**(まさあつ・宇佐美うさみ、通称;垣右衛門)1829-94<sup>66</sup> 伊予の歌人;石井義郷・星野久樹門  
昌充(まさあつ・滝本) → 柳蔭(りゅういん・滝本たきもと、歌人/儒者) C 4 9 7 6  
正諲(まさあつ・竹腰) → 正美(まさよし・竹腰たけのこし、藩主/詩歌) I 4 0 6 8

04072 **政章**(まさあつ・鹿児島かごしま、政明男)1773-1816<sup>44</sup> 阿波麻植郡の国学者;父門/山内松月堂心阿門、  
[政章(;名)の通称] 九郎左衛門/和太夫(父の称継嗣)

4005 **雅有**(まさあり・飛鳥井あすかい/家名;二条、初名雅名、教定男/本姓藤原)1241-1301<sup>61</sup> 母;北条実時女、  
鎌倉期廷臣;1278従三位/95兵部卿/参議/民部卿/98正二位/関東伺候の廷臣;京鎌倉往還、  
将軍宗尊親王の近侍、歌人;藤原為家・阿仏尼門、歌と蹴鞠で伏見天皇・宗尊親王に出仕、  
弘安源氏論義に参加/歌・古典学・仮名日記・紀行などの著作、1261宗尊百五十番歌合参加、  
家集「隣女和歌集」、紀行日記;1269「最上の河路」80「春のみやまち」、「嵯峨のかよひ路」著、  
1294「明日香井集」編、為世・為兼らと勅撰集撰者の命;1301雅有の死などにより中止、  
小倉実教[藤葉とうよう集]4首入、1293永仁元年内裏御会参加、  
勅撰73首;続古今(94)続拾(7首118/185/384以下)新後撰(10首)玉(16首)続千(8首)以下、  
[吉野山花より奥のしら雲や重なる峰の桜なるらん](続古今;一春94)、  
[永仁元年(1293)八月十五夜十首歌奉りける時、

をちかたの尾花なびくとみるからに袖に吹きくる野辺の秋風](藤葉;秋198)、  
姉;二条為世の母、子;雅頭・二条為定の母、猶子;雅孝

B4020 **正存**(まさあり・池田いけだ/本姓;藤原、通称;新左衛門)?-? 1495<sup>存</sup> 戦国期摂津池田の豪族、  
細川家の家臣、連歌;宗祇と親交;源氏物語の指導を受/宗祇の句会に参加、  
新撰菟玖波集作者部類に現存衆として入、新菟玖波集2句入、  
1495(明応4)源氏物語注釈書「一葉抄」著(肖柏の跋)

- B4021 **正順**(まさあり・堀田ほつた、正亮まさすけ男/本姓;紀)1745-1805<sup>61</sup> 母は町田氏、下総佐倉藩主;1761襲封、  
従四下相模守、1774奏者番/寺社奉行・大坂城代・京都所司代歴任、  
財政困難のなか学問所設置:文武奨励、歌;加藤景範門、「国史」「林鳳谷先生碑銘并序」著、  
[正順(;名)の幼名/号]幼名;金蔵/鋳蔵、号;孟、法号;唯心院
- B4022 **将在**(まさあり・長嶺ながみね、将統まさつぐ男)1813-81<sup>69</sup> 陸奥盛岡藩校作人館和学助教/歌:漆戸茂喬門、  
万葉集・古事記に精通、「初学式」「瓦響集」「長嶺将在歌集」「長嶺将在自筆歌稿」著、  
[将在(;名)の通称/号]通称;市兵衛/菊麿、号;歌翁、将世まさよの父  
正有(正在まさあり・堀田)→ 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
- B4024 **摩斎**(まい・金本かなもと、名;相観/観/安不美)1829-71<sup>43</sup> 出雲神門かんど郡下横八幡宮の神官家の生、  
大阪に出て儒者:1842伊藤宜堂門/宜堂の養子;離縁、大阪で開塾、朱子学;篠崎小竹門、  
1857-67近衛家の伊丹明倫堂教授/1868京で開塾/69横井小楠暗殺に連座;入獄/獄死、  
1859「樂山堂詩鈔」/64「皇史摘詠」、「皇道要略」著、重教の兄、  
[摩斎(;号)の字/通称/別号]字;善卿、通称;謙蔵/顕蔵/研造、別号;椒園/樂山堂  
正居(まい・成瀬) → 正居(まさやす・成瀬なるせ、藩士/神職/歌) B 4 0 2 3
- B4025 **正家**(まさいえ・平たいら、出羽守平正済男/母;藤原信繁女)?-? 1073存 平安中期廷臣;従五下信濃守、  
歌:後拾遺1127、  
[信濃なる園原そのはらにこそあらねども我がはゝき木ぎといまはたのまん](後拾遺;1127)、  
(父が同棲する信濃という継母への挨拶の歌/信濃園原には帚木があるという伝説)
- B4026 **正家**(まさいえ・藤原ふじわら/家名;日野、藤原家経男)1026-1111<sup>86</sup> 母;藤原能通女、平安後期廷臣;  
1065文章博士、080右大弁/95式部大輔/正四下、堀河天皇の侍読/相人、  
大江匡房と学識並称、詩歌:1051侍臣詩合/1078内裏歌合/94郁芳門院根合;殿上日記執る、  
1094高陽院七番歌合参加、1100「尊皇王供告文」04「安鎮法告文」書、  
1108鳥羽天皇大嘗会和歌出詠、中右記部類紙背漢詩集入、教家摘句・和漢兼作集に詩入、  
後葉・続詞花2首・万代集に歌入、続文粹5首入、勅撰3首;金葉392/千載306/続後撰183、  
[秋風に吹き返されて葛の葉のいかにうらみしものとかはしる](金葉;392)、  
(女に拒否された恨みの歌)  
[京極前太政大臣(藤原師実)家歌合(高陽院七番歌合)の、  
旅人のしばすり衣打ちはらひ払ひもあへずけさの初雪](続詞花;冬306)
- B4027 **雅家**(まさいえ・飛鳥井あすかい、雅孝男/本姓;藤原)?-1385 廷臣;兄没後蹴鞠と歌両道の家を継嗣、  
1378従三位左中将、経有・雅宗の弟/雅縁・雅能の父、1363内裏歌会始参/將軍義詮歌会参、  
永徳百首入、「雅家百首(冬日同詠百首和歌)」著、歌;1334度会朝棟亭歌会参加(3首)、  
勅撰11首;新千載(783)新拾遺(468/697)新後拾(490)新統古(7首7/208/393/1317以下)  
[はてしらぬ身のたぐひかと武蔵野を分けまよふにもぬるゝ袖かな](新千載;羈旅783)
- B4028 **昌家**(まさいえ・富樫とがし/本姓;藤原、氏春男)?-1387 加賀守護/五位、1362桃井直常と争う;68討伐、  
足利尊氏・義満の家臣、歌:新後拾遺747、  
[夜船漕ぐかいのしづくやしげからしぬるゝ袂にやどる月影](新後拾遺;雑秋747)、  
[昌家(;名)の幼名/通称/法名]幼名;竹童丸、通称;富樫介、法名;孚山浄名、
- B4029 **政家**(まさいえ・近衛このえ、一字名;霧、房嗣男/本姓藤原)1444-1505<sup>62</sup> 室町戦国期廷臣;1463従三位、  
1467権大納言/75内大臣/76右大臣/79関白;氏長者/従一位左大臣/88太政大臣/97准三宮、  
日記「後法興院政家記」(1466-1505;動乱期の記録)、「後法興院雑々記」「雑事要録」著、  
歌人;1481禁中詩歌合・82將軍家歌合・1502春日大社法楽詩歌・1503三六番歌合参加、  
聯句;1483・85・87近衛前関白和漢聯句、連歌;1479-81賢盛「諸家月次連歌抄」入、新菟26句、  
[人なみに立ちよるべくもあらぬ身を忘れて花のかげに暮しつ](將軍家歌合;十九番38)、  
[政家(;名)の法名/通称]法名;大智、通称;後法興院関白
- B4030 **正家**(まさいえ・長束なつか) ? - 1600自刃 武将;丹羽長秀の家臣/1585秀吉に拔擢;財政に尽力、  
兵糧奉行/太閤検地奉行/五奉行の1、1595近江水口城主;12万石/1600関ヶ原で西軍、  
近江桜井谷で自刃、「長束正家等書状写」あり、  
[正家(;名)の通称/法号]通称;利兵衛/新三/大蔵/大輔、法号;大心院
- N4095 **正家**(まさいえ・浮田うきた) ? - ?寛政1789-1801頃没 江中期;讃岐香川郡円座の歌人、  
1789(寛政元)西行六百年追善集に歌48首入、



[正家(；名)の通称]通称；道之助

J4007 **政屋**(まさいえ・野津のづ/本姓；竹屋)1775-1816<sup>42</sup> 江中・後期；近江彦根藩士、歌人、基明もとあきの父、歌；基明編[彦根歌人伝・続寿]入、

[政屋(；名)の字/通称]字；子伯/伯居、通称；左膳太/文内

T4087 **政舎**(まさいえ・渡わたり/本姓；平・鳥居とりい)1782-1852<sup>71</sup> 近江高島郡船木村の材木商、国学者、紀伊牟婁郡熊野権現社別当快慶の後裔、忠秋ただあき(1811-81/歌人)の父、

[政舎(；名)の通称]太郎右衛門

正家(まさいえ→まさのや・鎌田)→広海(ひろみ・鎌田かまた/藤原、神職/国学) I 3 7 4 0

雅家(まさいえ・近藤) → 甫寛(ほかん・近藤こんどう、儒者/俳人) C 3 9 8 1

雅一(まさいち/まさかずいち・喜早)→定中(さだなか・喜早きそ/度会、神職/記録) J 2 0 0 4

B4031 **政氏**(まさうじ・足利あしがが、古河公方こがぼう、成氏男)？-1531 下総古河の足利家、高基・義明の父、連歌；1504-21頃兼載より「景感道けいかんどう」を献呈された

Q4033 **正氏**(まさうじ・菅沼すがぬま)1622-1710<sup>89</sup> 江戸の幕臣；御家人/小普請、国学者、正範の父、歌人；了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、

[霧こもる遠山柴を焚たくいほの灯影ほかげさびしき秋の夕暮]、

(若むらさき；59/遠くの山で焚く山柴の灯影；草庵の寂寥)、

[深からぬ契りをよそに洩もらすなよ山田の水のかけはなるとも]、

(同；665寄田恋/山田の水の；[かけ]の枕詞/水をかけると逢瀬が懸け離れるを掛る

[正氏(；名)の通称/号]通称；次郎兵衛、法号；操貞

B4032 **正氏**(政氏まさうじ・里村さとむら、号；随心)？-？ 江中期柔術；梶原源左衛門直景門、随心流武道として剣術・柔術の一派をなす、「松明之巻」伝

B4033 **雅氏**(まさうじ・児玉こだま、氏亮男)1798-1862<sup>65</sup> 尾張藩士；1826明倫堂監生/33典籍、1841町奉行所吟味役、水野代官；林奉行兼任/44佐屋代官/47上有知代官、1848家督を継嗣100石/51小牧代官/57納戸、歌・詩人、国学に通ず、「趨庭紀行」「道経図解問答」「倭歌正式会記」著、

[雅氏(；名)の字/通称/号]字；伯淹/伯淹はくえん、通称；貞一郎/定一郎、

号；晋庵、法号；晋庵伯淹居士

雅氏(まさうじ；初名・飛鳥井)→雅縁(まさより・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠) 4 0 2 5

雅氏(まさうじ；初名・飛鳥井)→雅世(まさよ・飛鳥井/藤原、雅縁男/歌学・蹴鞠) 4 0 2 3

正氏(まさうじ・山下) → 正彦(まさひこ・山下やました、藩士/書家) G 4 0 5 0

政氏(まさうじ・内藤) → 政次郎(まさじろう・内藤、藩士/和算家) C 4 0 8 0

正敏(まさうね・沢井) → 若木(しもと・沢井さいわい、歌人) N 2 1 2 3

04085 **正占**(まさうら・片岡かたおか、旧姓；平田)1827-95<sup>69</sup> 備後尾道の国学者；大国隆正門、三原藩皇学教授、維新後；安藝の厳島神社禰宜/広島に家塾開；神職の養成、のち黒住教の大教正、「天津祝詞神言俚言解」「神理概論俚諺解」「皇統系譜拾遺」外著多数、[正占(；名)の初名/通称/号]初名；正敏、通称；仲次/仲吾/真之丞まさのじょう、号；五兆

Q4063 **雅枝**(まさえ・多羅尾たらお、旧姓；中井雛子)1795-1871<sup>77</sup> 京の生、歌人、

近江甲賀郡の幕臣信楽代官多羅尾氏純うじずみ(うじひろ；1778-1841/歌人)の妻

M4050 **正枝**(まさえ・林田はやしだ) ？ - ？ 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[呉竹のよはの嵐の声やめば又音立てて霰降るなり](大江戸倭歌；冬1238/竹霰)

B4034 **正兄**(まさえ・福住ふくずみ、大沢市左右衛門男)1824-92<sup>69</sup> 相模大住郡目村大名主の家の生、俳；森百亀門/歌；原久胤門/儒；千賀桐蔭門/1844二宮尊徳門；1850まで師の身辺に出仕、福住家の養子；相模箱根湯本の旅館福住楼を復興；湯本村の名主；報徳思想で村の再興、国学；吉岡信之門/鎌倉円覚寺の東海和尚に参禅/国学・神道；鈴木重胤・権田直助門、小田原藩より苗字帯刀許可/小河原藩校集成館国学助教；士分、維新後各地に報徳社設置、「二宮翁開拓方法」「二宮翁道歌解」「二宮翁夜話(如是我聞録)」「富国捷徑」外著多数、[正兄(；名)の幼名/通称/号]幼名；政吉、通称；九蔵/九良治、号；蛙園/かわづのや/福翁

B4035 **正衛**(まさえ/まさもり・橋村はむら、正基男/本姓；度会)1827-56<sup>30</sup> 伊勢山田の神職；外宮権禰宜、従四下、国学；足代弘訓・松田適翁(元兆もとよし)門、詩・書に長ず、



「橋村正衛書法帖」書、養嗣子；中山正環まさあきら(1845-1919)、

[正衛(；名)の字/通称/号]字；仁郷[卿]、通称；楠丸/大蔵/土佐、号；二水/林園すいえん/桃園

政江(まさえ・津田) → 瑟々(しつしつ・織田おだ、桜専門の絵師) F 2 1 5 2

政衛(まさえ・岸) → 琴主(ことぬし・中山/岸、音曲/八雲琴祖) F 1 9 8 1

真作得(まさえ・坪内つぼうち) → 慎水(しんすい・前野まえの/坪内、神道家) 2 2 3 3

- T4035 **正條**(正条まさえだ・安原やすはら、旧姓；佐伯)1739-1825<sup>87</sup> 備中賀陽郡清水村醸造業安原正郷の養子、  
国学者/歌人；養父門、娘の婿養子；板野源三常房(常房の子正常の妻が歌人久子)、

[正條(；名)の通称]仙助(専助)

正条(せいじょう・安原) → 正條(正条まさえだ・安原やすはら/佐伯、国学/歌) T 4 0 3 5

雅枝(まさえだ/まさき・飛鳥井) → 雅庸(まさつね・飛鳥井/藤原、蹴鞠/歌/連歌) E 4 0 0 3

- B4036 **政右衛門**(まさえもん・秋保あきほ、名；親友、秋保与右衛門親身男)1800-71 庄内藩士、軍学者；

1823土田丑次郎門；長沼流兵法の免許、高崎の市川一学門；免許皆伝、庄内藩軍学師範、

1845家督継嗣；四百石/番頭/47郡代/53海防御用掛；海防軍制を編成/61加増；小姓頭、

1868隠居、「日本変新録」「大泉騒動記」「海防練志録」「操兵練志録」、1851「庄内半被形図」著、

[政右衛門(；通称)の別通称]子睦/一操

- B4037 **政右衛門**(まさえもん・綿津屋わたづや、綿津屋忠藏の養子)1804-65<sup>62</sup> 越中砺波郡経田の酒造業の生、  
加賀金沢で米穀取引業/卯辰茶屋町の茶屋綿津屋忠藏の婿養子、1831芝居興行；失敗、  
曲馬興行に成功/公共事業に尽力；観音山三重塔・観音町寿経寺の七稲地蔵尊建立、  
三重塔の政右衛門と称さる、「金沢俳優伝記」著

政右衛門(まさえもん・富田) → 桐茂(とうも・富田、俳人) H 3 1 3 9

政右衛門(まさえもん・岩崎) → 求斎(きゅうさい・岩崎いわさき、儒者) M 1 6 5 9

政右衛門(まさえもん・長谷川) → 忠崇(ただたか・長谷川、幕臣/地誌) P 2 6 7 3

政右衛門(まさえもん・村田) → 桃隣(3世とうりん・村田、幕臣/俳人) I 3 1 3 6

政右衛門(まさえもん・太田) → 真竹深藪(まだけのふかやぶ・藩用人/狂歌) J 4 0 3 8

政右衛門(まさえもん・荒巻) → 青容(青蓉せいよう・荒巻、商家/俳人) J 2 4 6 8

政右衛門(まさえもん・三浦) → 竜山(りゅうざん・三浦/黒坂、儒者/藩士) E 4 9 1 6

政右衛門(まさえもん・浅村) → 政邑(まさむら・浅村あさむら/藤原、藩士/歌) N 4 0 1 3

政右衛門(まさえもん・斎藤) → 大雅(たいが・斎藤さいとう、藩士/儒者) J 2 6 4 0

政右衛門(まさえもん・斎藤) → 実村(さねむら・斎藤さいとう、藩士/日記) L 2 0 3 8

政右衛門(まさえもん・掛山) → 徳謙(のりかね・掛山かけやま、藩士/国学) H 3 5 8 9

政右衛門(まさえもん・田中) → 真(まこと・田中たなか、神道家) Q 4 0 5 6

正右衛門(まさえもん・寺師/市来) → 広貫(ひろつら・市来いちき/寺師、藩士/砲術) G 3 7 4 6

正右衛門(まさえもん・根本) → 古柳(こりゅう・根本ねもと、藩士/儒者) N 1 9 9 0

正右衛門(まさえもん・金須) → 直定(なおさだ・金須きす、神道家/国学) L 3 2 8 3

正右衛門(まさえもん・木内) → 御年(みとし・木内きうち、国学者) F 4 1 3 4

正右衛門(まさえもん・榎本) → 清蔭(きよかげ・榎本えのもと、藩士/国学) T 1 6 6 3

正右衛門(まさえもん・加田) → 利春(としはる・加田かだ、藩士/歌人) U 3 1 6 5

正右衛門(まさえもん・益岡) → 広海(ひろみ・益岡ますおか、国学者) K 3 7 9 9

正右衛門(まさえもん・吉田) → 恒重(つねしげ・吉田よしだ、国学者) G 2 9 7 1

正右衛門(まさえもん・竹内) → 久在(ひさあり・竹内たけうち、柔道家、国学) K 3 7 1 6

馬左衛門(まさえもん・屋代) → 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V 2 1 2 6

- N4063 **正郎**(まさお・磯野いその、初名；松丸)1619-1701<sup>83</sup> 近江彦根の歌人；野津基明[彦根歌人伝寿巻]に入、  
博学；特に禅学を好む/詩人、禅学の門人が多い

- 04017 **政雄**(まさお・小野おの、)1652 - 1714<sup>63</sup> 近江彦根藩士/歌人；野津基明[彦根歌人伝亀巻]に入  
[政雄(；名)の通称]原太右衛門

- 04071 **匡雄**(まさお・香川かがわ、)1661- 1721<sup>61</sup> 周防岩国藩士；御手廻組、歌人；香川宣阿門

- B4038 **正雄**(まさお・入江いりえ、通称；弥内)1709-84<sup>76</sup> 土佐の儒者；谷秦山門/秦山の婿、師の説を伝承、  
晩年土佐藩に招聘され儒員に列す、1773「詒謀記事」、「警戒歌百首」著

- R4030 **眞棹**(まさお・成川なるかわ、)1753-1814<sup>62</sup> 土佐高岡郡の医者/土佐藩士、国学・歌；谷真潮門、

伊予道後の町医者、国男の父/伊佐庭いさにわ如矢ゆきやの祖父、「臣舎集」著、  
[眞棹(；名)の別名/字/通称/号]初名；吉/眞小男、字；子祐、通称；節庵/拙庵/玄中、  
号；雪庵/春岱/三木舎/臣舎おみのや

B4039 正雄(まさお・川村/河村かわむら、別名；秋輔あきすけ、茶人曲全斎の孫)1754-1820<sup>67</sup> 尾張名古屋の材木商、  
国学；田中道麿門/1789本居宣長門、歌、「川村正雄歌集」、宣長「出雲国造神寿後釈」を開板、  
本居大平「八十浦の玉」中巻；2首入、

[あゆちがた桜の田面たのもかりがねの鳴きてさ渡る寒き此の夜を](八十浦；451/雁)

[正雄(；初名)の通称/号]通称；九兵衛、号；繁木が本、屋号；天満屋、法号；静翁全心居士

P4055 昌雄(まさお・黒屋くろや、通称；長之丞)1755-1816<sup>62</sup> 近江彦根藩士/歌人；[彦根歌人伝；鶴]入

L4075 昌男(まさお・奥平おくだいら/本姓；源、昌鹿まさか長男)1763-86<sup>早世24歳</sup> 豊前中津藩主；1780家督継嗣

従五下/美作守/大膳大夫、若年のため家老による専横；1782より親政、

1783天明飢饉による被害；家老らの復活で実権を喪失；失意のなか没、

[昌男(；名)の通称] 熊太郎/牧之丞/九八郎/美作守/大膳大夫

歌；本居大平「八十浦の玉」上巻末に238長歌(；神路山の鏡石を受けて詠/読人不知)

04015 正雄(まさお・小野おの、正徳男)1782-1840<sup>59</sup> 備中浅口郡玉島阿賀崎の商家；篠屋、

歌；木下幸文門、正博の弟、

[正雄(；名)の通称/号]通称；清三郎/恕平/喜作/小源治/七十郎、

号；釣月亭/餅斎へいさい、屋号；篠屋

04065 正魚(まさお・加増かぞう、千田澳魚男)1784-1813<sup>30</sup> 近江彦根藩老西郷家の家臣、

国学・歌；小原君雄門、歌；[彦根歌人伝・続寿]入、

[正魚(；名)の通称/号]通称；且右衛門そえもん、号；海崖亭

N4070 正雄(まさお・稲垣いながき、)1789-1861<sup>73</sup> 武蔵足立郡の名主家の生、国学；平田篤胤門、

兵法家；剣術・柔術に長ず/蘭学・天文暦学；幕臣浅野北水門、帰郷後；家督嗣/村政担当、

[正雄(；名)の通称/号]通称；仙松/千松/新右衛門、号；妙節みょうせつ/田竜でんりゅう

Q4079 正雄(まさお・竹村たけむら、通称；源五郎)1789-1858<sup>70</sup> 伊豆君沢郡熊坂村の豪農竹村茂雄の養子、

国学・歌人；養父門、茂枝げえ・盛次もりつぐの父

S4004 正緒(まさお・阪はん、通称；丈右衛門)1795-1860<sup>66</sup> 尾張知多郡横須賀の国学者、

正臣(1855-1931/歌人)の父、貫名菰翁と交流

L4083 正雄(まさお・犬塚いぬづか/本姓；藤原、通称；八兵衛)?-? 江中後期；紀伊和歌山藩士；

紀州藩に属する伊勢田丸藩主久野家の家臣、国学；本居大平門、歌人、

大平撰「八十浦の玉」下巻下；705/1039-40入、

[鶯の鳴く音聞きつつ梅の花かざしてあそぶけふしたぬしも](八十浦；705)

[和歌の浦や藻塩に交じる磯貝のいけるかひあるけふのたふとき](同；下巻下1039、

紀伊大納言の久野家別業詠鶴楼に来訪時に正雄詠の長歌1038の反歌)

B4040 眞篋(真篤まさお・小竹) ? - ? 国学；1834平田鉄胤かねたね「毀誉相半書」論評入

04048 正雄(まさお・大和田おおわだ、)1800-43<sup>44</sup> 近江彦根藩士/歌人；小原君雄門、俳諧も修学、

歌；彦根歌人伝・鶴入、

[正雄(；名)の通称/号]通称；広之進、号；松花舎

Q4036 昌雄(まさお・杉山すぎやま、通称；啓之進)?-? 江後期；筑前の詩歌人、国学者、

書・詩歌；福岡藩士二川相近すけちか(1767-1836)門

R4027 正緒(まさお・長沢ながさわ、元緒長男)1802-70<sup>69</sup> 上野桐生の名主、歌人；橘守部門(父・弟と同門)、

[正緒(；名)の別名/通称]別名；包佳、通称；亀松/新助/清八/文平、春江はるえの兄

L4039 眞雄(まさお・山浦やまうら、信友の長男)1804-71<sup>68</sup> 信濃小県郡赤岩村の郷士/名主の家、刀工、

初め剣術家；江戸下谷の一刀流中西道場に修業/さらに心形刀流・真心流を修得、

刀鑑定に執着；刀鍛冶を修業；河村寿隆門、小諸藩牧村家の扶持；[信州正宗]の称を得る、

上田藩松平家に移り鍛方/1853松代真田家に招聘、「老の寢覚」著、弟清麿きよまるも刀鍛冶

L4089 眞雄(まさお・松室まつむろ/本姓；秦、清雄きよお男)1805-55<sup>51</sup> 京の知恩院諸大夫、国学/歌；香川景樹門、

[眞雄(；名)の通称]大和介/近江守/主税助ちからのすけ

S4035 正雄(まさお・淵井ふちい、宇右衛門繁栄2男)1805-87<sup>83</sup> 母；多津、信濃伊那郡の商家；兄早世/家督嗣、

国学・狂歌・書;自宅滞在の太田春平(春比良)門、歌/狂歌;江戸で浅川庵3世・黒川春村門、  
狂歌;浅川庵3世(壺汗園文清)没後;1850(嘉永3)浅深堂高橋広道(柳亭種彦2世)、  
歌;井上文雄門、前田真陰・横山由清・平田鉄胤と交流、帰郷後;子弟に歌・狂歌・国文を指導、  
「正雄集」「遺書」著、

[正雄(;名)の通称/号]通称;栄次郎、狂歌号;鶴汀園千代住/鶴亭園/竹香山人

T4025 **正緒**(まさお・森もり、通称;五郎兵衛)?-1867 近江蒲生郡の国学者/歌人;井上文雄[1800-71]門、  
歌;[鴉のうみ]入

T4056 **正雄**(まさお・山本やまと、通称;武/号;随鷗)1810-8677 播磨竜野藩士、国学者

04021 **昌雄**(まさお・小原おはら/旧姓;大久保、通称;次郎)1814-? 江後期近江犬上郡の生、  
彦根藩士小原君雄の養嗣子;彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・寿]入

B4041 **正雄**(まさお・草間くさま)1818 - 188265 越後長岡藩士;代々検断職/国学;歌・和文に長ず、  
祖父畜蓊斎沾路は華道池坊宗匠/茶華道を修得;子弟に教授、幕末期藩命で出羽・江戸出張、  
のち長岡の蒼柴神社祠官、「出羽日記」「江戸日記」著、  
[正雄(;名)の通称/号]通称;幸左衛門/茂一郎、号;露斎

S4022 **正雄**(まさお・広見ひろみ、通称;多門、章あきら男)?-1891 摂津武庫郡の歌人/寺子屋師匠

T4008 **正雄**(まさお・村上むらかみ、)1826-190681 出雲松江藩士/国学者;中村守臣門、  
松江藩校修道館教官、「国学家風流」著、  
[正雄(;名)の通称/号]通称;喜太郎/忠蔵、号;琴舎/竹岡

T4047 **方雄**(まさお・山田やまだ、本姓;源)1833-191886 越中富山の神職、国学者;平田鉄胤、  
於保多おた神社(1873[柳町天満宮]から改称)社司、歌人;海遊翁・前田利保門、  
[方雄(;名)の通称/号]通称;次郎左衛門、号;雪堂

B4042 **正雄**(まさお・丹羽にわ、福田市左衛門男)1834-64斬刑31 近江鯉江邑の農家の生/医者;海野貞吉門、  
儒;梅田雲浜門/兵学;花房逸翁門、国学;谷森善臣門、梁川星巖と交流、尊王攘夷論者、  
1860丹羽正庸まさやす(三条家諸大夫)の養子;従五下筑前守、  
1862勅使三条実美に随い東下;補佐/従五上出雲守/1853実美ら七卿落に長州随従、  
1864君命で上京;伏見で捕縛;投獄斬刑、「勅使東行日記」著、  
[正雄(;名)の通称/変名]通称;卯之助/玄輔/肇、変名;佐々成之

P4099 **雅夫**(まさお・阪田さかた、)1835-189056 備中河上郡九名村の医者、のち備中浅口郡住、  
国学・歌;佐久間果園(種たね)門、浅口郡玉島干拓事業(坂田新開)の阪田貢みづの父、  
[雅夫(;名)の通称/号]通称;迂蔵、号;待園

N4036 **真棹**(まさお・井手いで、西村清臣男)1837-190973 井出武左衛門正寛の養嗣子、  
1850(嘉永3)家督嗣;伊予松山藩士、歌人、維新後;栄松社頭取、歌道の蓬園吟社を創設、  
「与茂芸が園」「詠史百首」著、  
[真棹(;名)の別名/通称/号]別名;常世つねよ/正明/正修/正雄、通称;節太郎、  
号;蓬園(与茂芸園よもぎえん)

T4058 **政雄**(まさお・山本みやまと、)? - 1892 江後期;越中富山の商家;紅屋、国学者/歌人、

04000 **政雄**(まさお・内海うつみ、)1843-189553 相模大山の阿夫利神社祠官/権中教正、  
国学;神山魚貫・平田鉄胤門、小田原国学伝習所教授、  
[政雄(;名)の通称/号]通称;刑部太夫ぎょうふたゆう、号;雨岳

04078 **雅雄**(まさお・柿沼かきぬま、旧姓;河内/本姓;源)1846-1874早世29 下野都賀郡の神職、  
柿沼広身の養子、国学;平田鉄胤門、今宮神社祠官、  
[雅雄(;名)の通称] 斎宮

昌雄(まさお・下郷/千代倉)→ 常和(じょうわ・下郷しもさと、商家/俳人) C 2 2 2 0

昌雄(まさお・清瀬) → 茂良(もりよう・清瀬きよせ/伊勢屋、俳人) G 4 4 7 9

昌雄(まさお・小林) → 歌城(うたき・小林おばやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6

正夫(まさお・中村) → 以貞(いいてい・中村なかむら、文筆家) H 1 1 9 7

正夫(まさお・藤田) → 天洋(てんよう・藤田、蘭医/詩文) E 3 0 5 1

正夫(まさお・仁科) → 琴浦(きんぼ・仁科にしな、儒者) R 1 6 7 6

正雄(まさお・香取) → 和雄(かずお・香取かとり、神職/文筆家) M 1 5 1 4

正雄(まさお・金子/渡辺)→ 元木綱(もとのもくあみ・渡辺、狂歌師) D 4 4 7 5



- 正雄(まさお・速水) → 行道(ゆきみち・速水はやみ、藩士/国学) F 4 6 7 1  
 正雄(まさお・綿引) → 文山(ぶんざん・綿引わたひき、医者/随筆) F 3 8 4 3  
 正雄(まさお・清河/齋藤) → 八郎(はちろう・清河/清川、教育/尊攘) F 3 6 0 1  
 正雄(まさお・井手) → 真棹(まさお・井手いで/西村、藩士、歌人) N 4 0 3 6  
 正雄(まさお・武藤) → 手束(たつか・武藤むとう、藩士/国学) W 2 6 6 6  
 相雄(まさお・浦田) → 蘆本(ろほん・浦田うらた、俳人) C 5 2 4 2  
 端夫(まさお・徳田) → 端連(まさつら・花房はなぶさ/徳田、藩士/歌) R 4 0 8 2
- B4043 正興(まさおき・佐藤さとう、通称;利左衛門)?-? 江前期和算家:隅田江雲門、童介抄等の遺題解明、  
 1666「算法根源記」編、「算法根源鈔」編
- B4044 昌興(まさおき・志貴しき、昌相男/昌勝の孫)?-1671 代々駿河総社神部神社神主/駿河府中住、  
 神道;京の吉田家入門、「神道伝来系図」著、橘三喜・跡部良顕の師、  
 [昌興(;名)の通称/号]通称;宮内少輔、号;山底火靈社、昌澄の祖父
- B4045 昌意(まさおき・池田いけだ) ? - ? 江前期江戸芝西応寺門前住の和算家:  
 保井助左衛門(渋川春海)門、1672「数学乗除往来」編、  
 [昌意(;名)の変名]古郡ふるごおり之政彦左衛門
- B4046 正意(まさおき・小川おがわ) ? - ? 江前期1661-81頃和泉堺の暦法家、  
 1673「授時暦経」「授時暦経立成」著
- B4047 正興(まさおき・保科ほしな、家老保科十郎右衛門正長男)1649-9042 父没後誕生;西郷頼母近房に養育、  
 1675(27歳)藩主保科正経より会津藩家老職を命ぜらる/藩主正容の時前勢力一掃;失脚;  
 1686越後小川庄水沢村に配流;病没、「土津神君御由来記」著、  
 [正興(;名)の幼名/通称/法号]幼名;九十郎、通称;民部、法号;保科院
- B4048 将興(まさおき・九里くのり、正長の弟)?-1706 加賀藩士;1686兄正長の嗣/馬廻頭、詩人、  
 奥村蒙窩・前田知頼と交流、1688「九里くのり氏文書」編、  
 [将興(;名)の字/通称/号]字;孟祥、通称;甚右衛門/右近、号;至樂園
- B4049 昌興(まさおき・葛巻かづらまき、別名;高俊/久矩/昌信、久俊男)1656-170550 金沢藩士;1673綱紀の近侍、  
 1690八百五十石/1693能登に配流/のち赦免されたが能登に定住、歌人、「虚恬随筆」著、  
 1671「能州紀行」/77-92「日記」/92「葛巻権佐北陸紀行」、「野草玉露」著、大野木克明の弟、  
 [昌興(;名)の字/通称/号]字;有禎、通称;仲四郎/多門/権佐、号;虚恬きょてん/松風亭/観月亭
- B4050 正興(まさおき・柳本やなぎもと)? - 1732 備中井原の名主役/俳人:蕉門、舎羅の支援、  
 1704頃隠居;諸国行脚、1702「しばはし」編、07「岩壺集乾」編/19「岩囊」著、  
 [正興(;名)の通称/法号]通称;甚左衛門、法号;月山宗雲居士
- B4051 雅興(まさおき・木崎きさき、幸雅男)1718-9073 若狭小浜の酒造業/歌学:京の香川宣阿門、  
 家業の傍ら歌の指導、1776「大和物語虚静抄」著、  
 [雅興(;名)の通称/法号]通称;吉兵衛、法号;綵雲院
- B4052 昌興(まさおき・賀島かしま) ? - ? 江中期尾張の文筆家、1777「犬山城主考」
- B4053 正興(まさおき・岡山おかやま)1761-183676 伊勢松阪の国学者:1779本居宣長門/内遠門、  
 国学;田中道麿・富樫広蔭門、連歌も修学、1799「東路の日記」著、  
 [正興(;名)の通称/号]通称;八郎治/八郎次/彦八郎、号;春海
- Q4041 正興(まさおき・曾我部そがべ、初名;則安、正積まさかぎ男)1785-183551 伊予松山の国学者/歌人;父門、  
 [正興(;名)の字/通称/号]字;伊織、通称;与兵衛(;父の称)、号;一亩いつちゅう/垢成こうせい
- B4054 政興(まさおき・戸塚とつか) ? - ? 江後期文化1804-18頃伊予今治の歌人、  
 「今治夜話」著
- M4032 政興(まさおき・今泉いまいずみ)? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [松風も秋のしらべになりにけり禊ぎはてたる住吉の浦](大江戸倭歌;夏688/名所夏祓)
- M4038 将興(まさおき・桑原くはら/本姓;菅原、通称;善兵衛)?-? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [さびしさはその色としもなく鹿の声に秋ある槇のしげやま](大江戸倭歌;775/山鹿)
- M4051 政興(まさおき・山田やまだ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、



[タまぐれ霰降りしくみ狩野になほはしたかの鈴のねぞする]、  
(大江戸倭歌;冬1245/夕鷹狩、はしたか;鶴はいたか;小型の鷹の一種)

- M4058 **正興**(まさおき・今泉いまいずみ)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[かみや川かきながしたる水茎に深き思ひの程ぞしらなん]、  
(大江戸倭歌;恋1395/通書恋)
- S4033 **正興**(まさおき・藤森ふじもり、通称;忠兵衛、弇子男)?-? 江後期;信濃諏訪郡の酒造業、  
歌人;桃沢夢宅(1738-1810)・香川景樹(1768-1943)門
- Q4065 **正興**(まさおき・高島たかし、通称;翁右衛門)1799-1856<sup>58</sup> 越後蒲原郡岩室の庄屋、  
歌人;橘守部門/書画・茶湯・生花・兵法・典礼にも通ず、敬神尊皇思想;諸社の由緒を調査、  
「宮柱」「神代直語」「千広の浜つと」「万葉抄」「祭祀の古実」「伊勢道の記」著/歌集あり
- L4010 **正興**(まさおき・贅川にえかわ、通称;郷太郎/省吾/清左衛門)1812-74<sup>63</sup> 信州筑摩郡贅川宿本陣、  
歌人;香川景恒門、信州桂園派歌壇の中核、勝己かつみの孫
- B4055 **政陽**(まさおき・江繫えつぎ、政拳の孫)1813-1863<sup>51</sup> 一戸南部家の裔/代々南部藩士、  
和漢学・兵学修得、勘定奉行/書物奉行/代官頭取を歴任、家老石原汀事件に連座;幽閉、  
1861赦免、  
「甲午詩稿」「戦国私史」「江繫筆記伐秋日記」「穀斎日鈔」「公譜並諡記」「蓼嶼漁唱」外著多数、  
[政陽(;)名)の字/通称/号]字;伯温、通称;喜左衛門、号;穀斎/蓼嶼れいしょ/溪村
- B4056 **正興**(まさおき・新見しんみ/本姓;源、三浦義韶男)1822-69<sup>48</sup> 1829(8歳)幕臣新見正路の養子、  
1839小姓、1848家督嗣;2千石/豊前守/伊勢守、1859外国奉行;神奈川奉行兼任、  
1860遣米大使に同行;日米条約批准書交換、世界一周し帰国;外国奉行専任/1862側衆、  
1864免職/66致仕、1860「亜行詠」/「対話書」著、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[波よする佐保の川辺の糸柳なびくを里のけふりとぞみる](大江戸倭歌;春154水郷柳)、  
[正興(;)名)の通称/号]通称;房次郎/豊前守/伊勢守、号;閑水、法号;正興院
- Q4081 **正興**(まさおき・竹本たけもと、)1822-1888<sup>67</sup> 江戸の幕臣、国学者;井上頼国門、  
歌・洋学;林甕臣みかおみ門、絵師;相沢石湖門/文人画・狩野派・土佐派を折衷、詩文も能くす、  
[正興(;)名)の通称/号]通称;又八郎、号;石亭/対松堂
- N4046 **正起**(まさおき・飯田いだ、)1825-1894<sup>70</sup> 近江彦根藩士/幼少より国学・歌道を修学、  
歌;服部春樹門、1854(30歳)頃致仕;諸国遊歴、近江蒲生郡に寓居;村の子弟を教育、  
西川重威・島村紀孝・十字墨谿と交流、  
[正起(;)名)の通称/号]通称;半太夫/半蔵、号;芭蕉園
- R4044 **正沖**(正興まさおき・布川ぬのかわ、正謙まさかた男)1827-89<sup>63</sup> 越後大野郡の酒造業、  
国学・歌;田中大秀門(父と同門)/歌;中島広足・橘曙覧・佐々木弘綱門、  
[正沖(;)名)の通称/号]通称;長太郎/長兵衛/清兵衛/清辺、号;桜園、法名;玄猷
- S4057 **正起**(まさおき・増田ますだ、)1844-1915<sup>72</sup> 尾張名古屋藩士、国学者、  
[正起(;)名)の通称/号]通称;源之丞/治兵衛/太兵衛、号;朴山
- |                |   |                          |           |
|----------------|---|--------------------------|-----------|
| 正興(まさおき・南条)    | → | 淡庵(澹庵たんあん・熊沢/南条、藩士/儒/俳人) | 2 6 8 7   |
| 正興(まさおき・山内)    | → | 南州(なんしゅう・山内やまうち、医者)      | J 3 2 1 8 |
| 正興(まさおき・武衛たけえ) | → | 新蔵(しんぞう・斎藤さいとう/武衛、砲術家)   | P 2 2 2 2 |
| 正興(まさおき・間島)    | → | 冬道(ふゆみち・間島まじま、藩士/歌人)     | E 3 8 4 1 |
| 正興(まさおき・中野)    | → | 素堂(そどう・中野なかの、儒者)         | E 2 5 1 1 |
| 正興(まさおき・村田)    | → | 理介(りすけ;通称・村田、藩士/奉行)      | B 4 9 3 1 |
| 正興(まさおき・伊藤)    | → | 正明(まさあき・伊藤いとう、庄屋/歌人)     | N 4 0 4 1 |
| 正起(まさおき・安田)    | → | 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学)   | G 3 7 9 5 |
| 将興(まさおき・今井)    | → | 魯斎(ろさい・今井いまい、藩儒者;史官)     | B 5 2 5 0 |
- B4057 **政己**(まさおき・田辺たなべ)1753-1823<sup>71</sup> 加賀金沢藩士;1786新番組/近習番加入;96近習勤仕、  
1815家禄2百石を継嗣;組外に列す/近習番/22加増50石、  
1814「能登日記」著/「一柳監物始末記」編、1819「土方氏旧領考」著、

「能州四郡村名垣内帳」「中院通世卿加州御領所等徴考」著、  
[政己(；名)の通称/法号]通称；吉左衛門/吉平、法号；文光院

- B4060 **正臣**(まさおみ・佐伯さき) 1760- 1836 77 伊勢度会郡山田上中ノ郷の御師代官、  
国学者；本居春庭・大平門、歌人、「言葉玉緒」/1821「三題集類題」編、  
[正臣(；名)の通称]弁右衛門/量平
- P4036 **正臣**(まさおみ・久保くぼ) ? - ? 天保1830-44頃没 江戸の生/国学者/紀伊和歌山藩士、  
[正臣(；名)の通称]恒之丞/良左衛門
- B4061 **廷臣**(まさおみ・平内へいのうち/初姓；福田、平内政孝の養子) ?-? 江後期幕臣；御大工方、  
和算；長谷川寛門/幾何学に精通、四天王寺流大棟梁/へり来航後品川台場築造；1854完成、  
1820「算法変形指南」編/21「平方交証起源同論」著、33「匠家矩術要解」編、  
1840「算法直術正解」著、48「矩術新書」「匠家規術新書」編、「曲尺捷逕」編、  
[廷臣(；名)の通称/号]通称；安房/大隅/彦兵衛、号；梅坪
- 04073 **正臣**(まさおみ・賀来かく) ? - ? 筑前福岡藩士/歌；二川相近(すけちか/1767-1836)門、  
[正臣(；名)の通称]四郎右衛門/嬉
- R4012 **正臣**(まさおみ・内藤ないとう/本姓；藤原、通称；筑後) 1812-70 59 甲斐御嶽山の神道家、  
国学者；平田篤胤門
- P4001 **政臣**(まさおみ・川喜田かわきた/旧姓；清水、) 1821-1879 59 伊勢津の商家川喜田遠里の養子、  
国学；富樫広蔭門、  
[政臣(；名)の通称]久三郎
- P4004 **正臣**(まさおみ・川村かわむら、) 1844-1904 61 筑後久留米藩士；馬廻格、国学者、高良神社宮司、  
1900頃「神籠石御調査ノ義ニ付願」(西郷従道宛文書)、  
[正臣(；名)の通称]金作/作摩
- 正臣(まさおみ・山本) → 清溪(せいけい・山本/藤原、官人/故実) B 2 4 1 1  
正臣(まさおみ・杉浦) → 南陰(なんいん・杉浦、藩士/儒者) I 3 2 4 9  
正臣(まさおみ・井上) → 赤水(せきすい、井上/修姓；井、儒者) K 2 4 2 3  
正臣(まさおみ・川島) → 栗斎(りっさい・川島かわしま、儒者) B 4 9 9 0  
正臣(まさおみ・尾関) → 眞勝(まさかつ・尾関おせき、国学者) 4 0 5 3  
正臣(まさおみ・安部) → 眞貞(まさだ・安部あべ、惟貞男/国学者) D 4 0 1 1  
正臣(まさおみ・土方) → 正澄(まさずみ・土方ひじかた、藩士/歌人) S 4 0 1 0  
眞臣(まさおみ・大枝) → 眞臣(まおみ・大枝おおえ朝臣、廷臣/詩人) B 4 0 5 8  
眞臣(まさおみ→まおみ・青木) → 北海(ほっかい・青木あおき、儒/国学者) E 3 9 5 3  
眞臣(まさおみ・柏村/波多野) → 眞臣(さねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E 2 0 8 6  
正修(まさおみ・まさなが・南条) → 八郎(はちろう・南条/熊沢、藩士/記録) E 3 6 9
- N4016 **雅香**(まさか・飛鳥井あすかい、西園寺致季2男/花山院/本姓；藤原) 1703-65 63 母；家女房、  
飛鳥井雅豊の養嗣子、花山院持実の猶子、廷臣；1719従四下左中将/25正四下、  
1728(享保13)従三位左衛門督、32正三位/36(元文元)参議/39(元文4)権中納言/40従二位、  
1743民部卿/44石清水放生会宣命奏上卿/1750(寛延3/48歳)権大納言；内親王宣下上卿、  
1751正二位/例幣上卿/53大納言辞任/65(明暦2)従一位；没
- B4063 **昌鹿**(まさか/まさしか・奥平おくだいら、中津藩主奥平昌敦男) 1744-80 37 母；笠間藩主牧野貞通女、  
豊前中津藩主；1758襲封/従五下丹後守・大膳大夫、国学；賀茂真淵門、歌人、蘭学奨励、  
「楫取魚彦家集」入、「もゝちどり」「屠蘇考」/1774「六十賀後宴和歌」77「久受蔓」著、  
妻；八百姫(阿部正允女)、  
[昌鹿(；名)の別号/法号]幼名；熊太郎/初名；昌邦、法号；興隆院、  
[小女子がはなりの髪をゆふ山のひたひに白くふれる雪かも]、  
(大平「八十浦の玉」上巻末；236/ゆふ山/よみ人しらず)
- S4098 **政香**(まさか・箕形みのかた/本姓；源、) 1772-1828 57 近江彦根藩士/禄120石、国学者・歌人、  
歌；[彦根歌人伝・鶴]入、  
[政香(；名)の通称]惣左衛門(代々の称)/藤縄
- B4064 **政香**(まさか・渡辺わたなべ、助三郎男/本姓；源) 1776-1840 65 母；りや、三河の神職の家の生、  
和漢学；1790浜島文貞門、伊勢の山口凹巷門、1799家督；三河幡豆郡津村の寺津八幡宮神官、

1807神祇伯白川家入門、吉田・白川両家の論争で白川家目代竹尾正靱を補佐、  
国学：1823足代弘訓門/歌；植松茂岳門、天保年間村内一揆の調停、三河の諸文献を考証、  
「西遊藁」、1818「東遊藁」22「北遊藁」29「月次詩歌稿」30「三河めくりの記」著/36「三河志」編、  
1839「三河人物誌」40「今昔三河奇談」著、「勢南紀行」「稻荷辨」「鴨の騷立」「勢南紀行」著、  
「都紀行」「紀行集」「渡辺政香詠草」外著多数、  
[政香(；名)の字/通称/号]字；三善、通称；順輔/普磋吉/助太夫、  
号；保宝葉園/磯泊散人/臥蝶園/仙雲亭寿山/同心軒、

04009 真坂(まさか・小倉おぐら、) 1807- 1878 72 阿波徳島海老屋町の理髪業/古道具商に転ず、  
国学・歌；小出直城・湯浅春緒・古山千丈門、1851(嘉永4)本居内遠門、  
早朝必ず百人一首を誦す/能筆家、歌集「まつのかげ」著、  
[真坂(；名)の通称/号]通称；貞平/貞吉、号；真萩舎

N4031 正香(まさか・井上いづえ、) 1819-1900 82 上野勢多郡西大室村の開業医、  
国学/歌；橘守部・平田鉄胤、医/神道；権田直助門、  
維新後神職；富岡一之宮貫前ぬきさき神社権官司、のち大和竜田神社禰宜/石上神社禰宜、  
1880(明13)医業を再開、  
[正香(；名)の別名/通称]別名；正淳/正方、通称；貞輔

正香(まさか・生川) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9

政香(まさか・葛岡) → 菊園(きくえん・葛岡くずおか、医者/歌人) K 1 6 0 3

B4065 雅穎(まさかい・石井いひ/清原) ?- ? 江中期安永1772-81頃京の和算家；中根彦循門、  
のち山路主住門、1773「開方翻変詳解」、「開方整約術」著、菅野元健の師、  
[雅穎(；名)の字/通称/号]字；融達、通称；郡之進、号；思庵

B4066 正養(まさかい・石河いし、越智盛宣男) 1821-91 71 石見津和野藩士石河正幸の養子/国学；岡熊臣門、  
大国隆正門/津和野藩士；藩校養老館で教授、福羽美静らと国事奔走、1871文学教授、  
「産土氏神」、「多頭廻舎歌文集」著  
[正養(；名)の通称/号]通称；半蔵/喜三二/三二/金左衛門/金兵衛、  
号；多頭廻舎たづのや/審斎、諡号；厳柱堅根彦

B4067 政養(まさかい・佐分さぶり、政寿男/本姓；佐分利) ?- ? 加賀大聖寺藩士/姓は前田家諱[利]を避ける、  
歌、1857父の歌集「竹屋遺草」編

T4044 正養(まさかい・山口やまぐち、) 1827-1905 79 京の漢学者、維新後；京の漢学所教官/私塾長、  
大和の十津川藩校・大阪府立吉野師範学校の教員、1890摂津池田村柳屋町に漢学塾を開設、  
[正養(；名)の通称/号]通称；又左衛門、号；樟蔭しょういん

B4068 雅蔭(まさかぎ・度会わたらい) ? - ? 鎌倉末南北期外宮禰宜/歌；1321外宮北御門歌合参加、  
[今朝もなほとふ人おそき庭の雪にまたぬ日影の跡やいとはん](外宮歌合；24番48)

B4069 政景(まさかぎ・梅津うめづ/人見、梅津道金男/本姓；藤原) 1581-1633 53 下野宇都宮の生/武将、  
兄憲忠のりたどと共に佐竹義宣に茶坊主として近侍；金阿弥と称す、蓄髪し主馬と名乗る；  
武将として馬術に長ず/算用・文筆に精通；能吏として行政面で活躍、  
佐竹氏が出羽に移封；出羽久保田(秋田)藩創設に兄と尽力/銀山奉行に就任；  
銀山の治安回復と産出量増大、勘定奉行、1615大坂夏陣に参戦、  
知行地比井野村に岩堰用水路敷設し新田開発；のち岩関神社に大明神として祭祀、  
1630兄憲忠没後に久保田藩家老；秋田藩政確立に尽力、  
「梅津政景日記」著、  
[政景(；名)の通称/号]通称；金阿弥/茂右衛門/主馬しゅめ、号；怡軒、  
法号；応供寺殿月岑宗光居士

B4070 正景(まさかぎ・田付たつけ、景澄男/本姓；源) 1596-1669 74 田付流砲術家；父景澄(；幕臣)門、  
1605近江膳所藩主戸田氏鉄に招聘/1616氏鉄の摂津尼崎移封/1635美濃大垣に移封、  
1618大垣藩砲術師範役/37藩主の島原出陣に持筒頭として参軍、69致仕、  
「島原原之城乱記」著、正景(；名)の幼名；兵助、通称；左太夫

L4009 正景(まさかぎ・立田たつた) ? - ? 摂津狂歌作者；行風[1619?-84?]門、行景行栄の縁者か？、  
1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[めかけにはめがくれ心くれたけの節々になる夫婦めといさかひ](古今夷曲；七恋459)

- B4071 **正景**(まさかげ・杉浦すざうら、通称;三郎太夫)?-? 江前期常陸笠間藩士/剣術;一刀流杉浦派を開く、1682「一刀流法剣法初学之書」著
- 04089 **昌蔭**(まさかげ・山本やまと/本姓;源、旧姓;中島)1767-1852<sup>86</sup> 近江彦根藩士;弘道館和学片、国学;村田泰足門、青木千枝・勝野正明・小泉信行の師、  
[昌蔭(;名)の別名/通称/号]別名;永樹、通称;右仲太/伝左衛門/泉介、号;椿舎つばきのや
- B4072 **雅景**(まさかげ・安並やすなみ、雅明男)1780-1851<sup>72</sup> 土佐高知藩士/国学;谷家門(谷眞潮ましろの外孫)、詩;大槻磐溪門、藩校教授館教授/総宰、歌;藩主豊信の和歌の師、「雅景集」「言志録辨駁」、1842「安並雅景翁家集」著、甥吉田正準まさとし「採玉集」初篇に440首入、短歌;藩中三絶の1、  
[雅景(;名)の通称/号]通称;弥三八やそはち/八十八、号;惟斎
- T4030 **正景**(まさかげ・矢田やだ、通称;研智、号;壽堂)1815-86<sup>72</sup> 出羽秋田の真宗大谷派浄弘じょうく寺住職、国学/歌人;千種有功門
- P4061 **正蔭**(まさかげ・小西こにし、旧姓;和田)1828-91<sup>64</sup> 駿河沼津の生/国学;富樫広蔭・吉岡信之門、相模小田原住;町年寄  
 正景(まさかげ) → 正景(せいけい、伊勢山田俳人) B 2 4 0 7  
 正蔭(まさかげ・林) → 葉面(のぶつら・林はやし/橘、社僧/歌人) J 3 5 6 8  
 正蔭(まさかげ・中臣) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
- B4073 **雅量**(まさかず・飛鳥井あすかい、頼孝男/本姓;藤原)?-? 1573-92<sup>没</sup> 母;飛鳥井雅俊女、廷臣;1530侍従、従四下少将、1532-70頃乱を避け京から土佐一条家に移住/蹴鞠道を伝授、長曾我部家の客、のち出家、「富士五首四季之詠」著、  
[雅量(;名)の法名/法号]法名;曾衣、法号;二楽院
- B4074 **正員**(まさかず・檜崎ならさき)1620-1696<sup>77</sup> 備後三原の儒者;京の山崎闇斎門、三原城主浅野家に招聘;書を講ず/晩年は須佐浦に隠居、「檜崎正員崎闇斎問答」著、  
[正員(;名)の通称] 忠左衛門/忠右衛門
- B4075 **正員**(まさかず・今村いまむら/佐々木、今村正矩男/本姓;源)1628-94<sup>67</sup> 近江佐々木氏末裔、江戸の兵法家、武田流兵法・日置流弓術・小笠原流礼法を修得、1655秋田藩主佐竹義隆に出仕;鉄砲足軽大将として藩士に武田流兵法などを指導、1688「弓矢之秘伝書」、「船軍図説」「二条家之香之図」「軍鑑末書考覚評註」著、  
[正員(;名)の幼名/通称/号]幼名;辰千代、通称;喜兵衛/喜左衛門、号;不憎/江村軒、法号;性峰泰見居士、正相の父
- U4006 **正員**(まさかず・浅原あさはら、?)?-? 江前期;上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、  
[天地の別れし日より白山の名も幾代ふるみ雪なるらん](林葉累塵;雑1306/名所歌枕)
- R4019 **愈積**(まさかず・中村なかむら、)1758-1830<sup>73</sup> 伊予松山の歌人、  
[愈積(;名)の通称/号]通称;太作/権左衛門ござえもん、号;夢州/芙雌/鉄斎/瘦丁
- Q4042 **正積**(まさかず・曾我部そがべ、初名;則致/孟功、)1761-1816<sup>56</sup> 伊予松山の大年寄、国学者/歌人;正興まさおきの父、  
[正積(;名)の通称/号]通称;与兵衛/与一左衛門、号;一貴/飽休亭/千養軒
- B4076 **政和**(まさかず・仙石せんごく/本姓;源、政寅男)1766-1824<sup>59</sup> 母;市川出雲守清熙女、幕臣;1793小姓組番士、御小納戸/御留守居番/寄合、塙保己一・石原正明と交流、1811「南宗論語考異」15「類聚国史考異」著、  
[正和(;名)の通称] 竜太郎/監物
- B4077 **政和**(まさかず・水野みずの)1769- 1820<sup>52</sup> 尾張名古屋鍋屋町の鋳物師頭水野家10世、儒;河村益根ますね[乾堂]門・和算家;神谷藍水[定令]門、天文暦数に精通、「南遊紀行」、「尾張鋳物師頭留」「算法整数篇」「和蘭星座考」「幾何原本」「求一平均」「声学筆記」著、  
[政和(;名)の字/通称/号]字;子礼/子豊/長湖、通称;太郎左衛門/鍋屋、号;鳧山/喬山/精故堂/民興、法号;大翁良雄居士
- P4097 **正和**(まさかず・坂井さかい、旧姓;美濃部)?-1824 江後期;土佐高知藩士、儒/国学;宮地水溪(仲枝/1768-1841)門、  
[正和(;名)の通称] 寿之助/堅太
- P4078 **政員**(まさかず・三溝さみぞ) ? - 1825 信濃筑摩郡本馬洗の手習の師匠、



国学：菅江真澄(1754-1829)門；1784真澄の信州の旅に3日間随行、  
村の子女教育に貢献、「政員の日記」著、  
[政員(；名)の通称] 七五郎/与右衛門

B4078 **政運**(まさかず・宮川みやがわ/松岡、志賀理斎男)1796-? 1873存 江戸の生/1812松岡来兵衛の養子；  
巢鴨住/1823離縁、1828宮川半五郎(幕臣浅野家支配下)の養子；家督継嗣、随筆家、  
山水を愛し江戸近郊の名所旧跡探訪、1858「宮川舎漫筆」65「俗事百工起源」著、  
1866「子女高間原の騷童」著、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[夢覚めてその面影は見えなくに残るは袖の涙なりけり](大江戸倭歌；恋1439/夢逢恋)  
[政運(；名)の別名/通称/号]別名；政教/富教とみのり、通称；玄次郎/仙橘、号；慎斎/蓬生廬

M4075 **政一**(まさかず・福原ふくはら) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[もののふの道にはうとき身なれども心ばかりはふみもたがへじ](大江戸倭歌；雑1879)

M4093 **正員**(まさかず・安保あは/本姓；小野)1806-8075 美濃恵那郡の国学者；1863平田鉄胤門、  
歌；松井遠南[宣風門人]門、正守・正一まさかず・正方の父、  
[正員(；名)の通称/号]通称；謙治、号；竹舎たけのや/百介

04046 **正和**(まさかず・大曲おおまがり、通称；甲太夫)?-? 江後期；肥前松浦郡の飯盛神社祠官、  
歌人；橘守部(1781-1849)門

B4079 **政和**(まさかず・本多ほんだ、政礼まさのり男)1813-4735 加賀金沢藩士；1820家督/28従五下播磨守、  
「本多播磨守書翰」「政和覚書首巻」、政通・政均の父、  
[政和(；名)の幼名/通称/法号]幼名；磐松、通称；左馬助、法号；義誠院

M4066 **正和**(まさかず・小堀こぼり/本姓；源、号；宗本、正優まさかつ[宗中]男)1813-6452歳 父が流浪中に誕生；  
孤篷庵で生育、茶道・書；父(小堀遠州流茶道家元8世/宗中)門、  
父と共に道具目録「過眼録」編纂・古文書整理、能書家、遠州流家元9世を継承；  
幕臣；將軍慶喜の小姓、画；狩野派、  
弟；正安(大和遠州流の権十郎篷雪家の養嗣)、息子；正快(1858-1909/号；宗有)、  
激動の中で父に先立ち没、息子正快が10世を継嗣、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(父正優[宗中]と共に入集)、  
[月はまだ松の木蔭に有りながら外山の峰ははや明けにけり](大江戸倭歌；雑1655/暁)

P4008 **正和**(まさかず・河村かわむら、)1814-187158 伊予吉田の医者；吉田藩医、国学、  
歌人本間游清・名医河野立安らと藩医として活動、  
[正和(；名)の字/通称/号]字；厚、通称；広之助/元成/祐民、号；桜雲舎/祐菴ゆうあん

Q4082 **眞一**(まさかず・武島たけしま、通称；綱太郎)1819-9375 三河加茂郡の国学者/歌人、漢学・歌；渡忠秋門、  
国学；本田俊民門、歌；間島冬道門、歌；1866竹尾正久編「類題三河歌集」入

04096 **政和**(まさかず・鎌田かまた、)1822-188867 伊賀名張の藤堂家老職、国学；足代弘訓門、  
[政和(；名)の初名/通称/号]初名；直樹、通称；亀三太きさんた/将平、号；金繡

B4080 **昌運**(まさかず・渡辺わたなべ)1830- ? 1897存 代々三河挙母藩医/晩年に名古屋で開業医、  
歌人、1863三河加茂郡挙母神社に和歌三帖奉納、1863「賽神歌」65「うつつのちり」、  
「思出草」「続思出草」、幼名；周一、号；逸林

B4081 **政和**(まさかず・横山よこやま、政孝男/母；蘭腕)1834-9360 加賀金沢藩士；1836(3歳)父没/48家督嗣、  
1853(20歳)家老/小松城代を兼任、維新後；大参事/気多神社宮司、  
白山比咩しらやまひめ神社宮司、吟詠を嗜む/本草家、  
1853「百城図」54「蘭州筆記」、「横山政和詠草」「漫遊唱和録」「客窓雑記」外著多数、  
[政和(；名)の字/通称/号]字；敬夫、通称；政次郎/蔵人/多門、号；蘭州、  
父； → 政孝(まさたか・横山、藩士/詩人) D 4 0 2 4  
母； → 蘭腕(らんえん、横山栄、政孝継室/詩/画) B 4 8 6 0

P4076 **政和**(まさかず・近藤こんどう、)1834-189966 三河碧海軍の医者、国学者、  
[政和(；名)の通称/号]通称；寛斎、号；蚊雷居ぶんらいきよ/巴郎

B4082 **政一**(まさかず・佐分利/佐分さぶり、家老佐分廉平男)1841-? 1870存 大聖寺藩士/1861御用所見習、  
御代香・奏者役/1867家老役；軍装方主附、1868貢士；朝廷の下問に応じ建言、69参政、  
前田家代々の諱[利]を避けていたが1869藩命で佐分利に復姓/1870家督継嗣、  
「聖藩家譜要略」著、

〔政一(；名)の初名〕 政之介/廉平/環

政一(まさかず・小堀)→ 遠州(えんしゅう・小堀、藩主/茶/造園) 1 3 0 1

政和(まさかず・長田おさだ)→ 鶴夫(たづお・長田おさだ、国学/歌) B 2 6 4 4

政和(まさかず・吉田/瓜生)→ 金鷺(きんが・梅亭、幕臣/滑稽本作者) D 1 6 8 3

政和(まさかず・村内)→ 敬所(けいしよ・村内むらうち、書家/詩人) G 1 8 0 8

政和(まさかず・六郷)→ 正殷(まさただ・六郷ろくごう、藩主/歌) M 4 0 8 1

正和(まさかず・高田)→ 円乗(えんじょう・高田たかた/狩野、絵師) F 1 3 0 1

正和(まさかず→まさとも・松平)→ 正和(まさとも・松平まつだいら、藩主/歌) L 4 0 9 7

正員(まさかず・藤村)→ 蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、茶人) C 4 8 4 3

正甫(まさかず・寺田)→ 正甫(まさとし・寺田てらだ、歌人) M 4 0 4 7

昌数(まさかず・武村)→ 益友(えきゆう・武村/竹村、俳人) 1 3 5 7

P4095 昌風(まさかぜ・齋藤さいとう、通称；文平) 1737-1815 79 陸奥(陸中)江刺郡の国学者

B4083 政風(まさかぜ・内田うちだ、通称；仲之助、政為男) 1815-93 79 薩摩鹿児島藩士；兄政徳の猶子；家督嗣、江戸留守居添役/京都留守居役/戊申戦では藩財政・軍需を担当、維新後は藩参政/県令、「大塩事件見聞記」/1866-68「内田仲之助日記」著

正風(まさかぜ・高崎)→ 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3

昌風(まさかぜ・亘理)→ 武邦(たけくに・亘理わたり/藤原、藩士/歌) 2 7 3 6

B4084 雅固(まさかた・源：文徳流、定有男、惟喬親王甥) ?-? 平安前期廷臣；従五下内匠頭、兼見王の従弟、歌；913亭子院歌合参加、

〔深山みやまいでてまづ初声はつゑはほととぎす夜深よぶかく待たむわが宿に鳴け〕

(亭子院歌合；夏41、続千載217では在原元方の歌とある)

B4085 正方(まさかた・加藤かとう、改名；片岡風庵、可重男) 1580-1648 客死 69 肥後武将；熊本藩家老、1612八代城主、家臣に西山豊一〔宗因〕、1632藩主忠広の流罪改易により浪人；京に隠棲、江戸で仕官運動；幕府の忌諱；追放、広島藩お預、連歌；宗因を育成、宗因「風庵懐旧千句」あり、「厳島法楽連歌三百韻」「風庵発句」著

N4017 雅賢(まさかた・飛鳥井あすかい/本姓藤原、権大納言雅庸まさつね長男) 1584-1626 43 廷臣；

左近少将/従四下、難波宗勝(後の飛鳥井雅宣の兄)、

1608(慶長13)猪熊教利・弟宗勝と共に御所女官と密会乱交事件(猪熊事件)発覚；

1609(慶長14)後陽成天皇の勅勘を蒙り密通罪(遊蕩罪)により隠岐国中之島に配流、

1626配所で没、弟難波宗勝は伊豆配流(1613赦免；雅胤と改名し飛鳥井家を相続)

N4006 正賢(まさかた・赤塚あかつか、神主春原正成男) 1613-92 80 山城紀伊郡の藤森神社祠官、

1627-80後水尾天皇非蔵人、1649上北面、肥前守/従五下、

経学；伏原賢忠門、詩歌文；冷泉為景門、医；半井瑞堅門、

「芸菴集」、「寸長菴日記」「寸長菴雑記」著、1681「長楽寺讌集」編、

〔正賢(；名)の別名/通称/号〕初名；正隅まさずみ、通称；肥後守、

号；芸庵うんあん/寸長庵/藤陰/瑞三

B4086 正方(まさかた・高田たかた/本姓；源) 1630-1715 86 備中小田郡笠岡の国学者/大坂・備後鞆住、神道；山崎闇斎(敬義)門/垂加神道の伝授を受く、歌人、

1699「神武紀八首歌抄」、「中臣祓清明抄」著、

〔正方(；名)の号〕未白/白翁/海隅白翁

U4003 正方(まさかた・小西こし/本姓；源) ?-? 江前期；京の歌人/1682河瀬菅雄〔麓の塵〕9首入、

同集入集の〔小西氏尼妙意〕は正方の妻か？

〔すむかひもあらぬうき世に有間山ゐなの小篠の露と消えなで〕〔麓の塵；雑632〕

P4064 政方(まさかた・小室こむろ、) 1649?-1729 80 余歳 薩摩鹿児島藩士、歌人；中院通躬みちみ門、

〔政方(；名)の通称/号〕通称；新蔵/八左衛門、号；一山

B4087 正容(まさかた・松平まつだいら、初名；正信、保科正之6男) 1669-1731 63 母；沖昌純女〔栄寿院〕、

陸奥会津藩主；1680兄保科正経の養嗣子；81家督嗣；襲封、1696松平姓を受；

子孫も松平を名告る、正四下侍従・肥後守・左近少将・中将、茶道・歌を嗜む、

「学問発見」、「徳翁公和歌」著、

〔正容(；名)の幼名/神号〕幼名；十四郎/重四郎、神号；徳翁霊神

- B4088 **昌方**(まさかた・岡おか、昌行男/本姓;太秦)1674-1753<sup>80</sup> 母;東儀[太秦]兼友女、楽人;1702左近将監、1706安藝守/28正四下、1713「四天王寺舞楽装束之覚」著
- T4006 **政方**(まさかた・村井むらい、4代目久右衛門兵政むねまさ男)1696-1732<sup>37</sup> 出羽能代代々の問屋商;越前屋、越前屋久右衛門5代目継嗣、国学・歌学;荷田春満門;古今伝授を受、春満自筆古今集を受領、[政方(;名)の通称/号]通称;久右衛門(5代目)、号;玉章、屋号;越前屋
- R4008 **整方**(まさかた・殿村とのむら、旧姓;山上)1711-1784<sup>74</sup> 伊勢松坂の殿村文子と結婚、国学;本居宣長門、殿村本家両替商を継嗣、養子;大神篠斎しょうさい(安守)、[整方(;名)の初名/通称]初名;整峰、通称;宗右衛門/道応
- Q4080 **眞方**(まさかた・竹村たけむら、)1716-1798<sup>83</sup> 近江彦根藩士/松下正信門/歌人;加藤千蔭門、歌;[彦根歌人伝・寿]入、[眞方(;名)の字/通称/号]字;林湯、通称;五平太、号;竹之舎
- B4089 **政賢**(まさかた・横山よこやま、山崎縫殿ぬい男)1738-1809<sup>72</sup> 1765横山昌行養嗣子;65家督;加賀金沢藩士、算用奉行/寺社奉行/公事場奉行/若年寄/1797家老役;若年寄兼務/加判、1807致仕、「横山氏系図」著、[政賢(;名)の通称]又五郎/伴隨
- B4090 **正賢**(まさかた・増山まじやま/ますやま、正賛まさよし男/本姓;藤原)1754-1819<sup>66</sup> 伊勢長島藩主;1776遺領襲封、十時梅屋を藩儒に招聘;1785藩校創設/藩学振興、1801致仕;江戸下屋敷で風流三昧;1804謹慎を命じらる、書画に長ず、1793「松秀園書談」/1803「観奕記」04「煎茶式」外著多数、[正賢(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;勇之丞/千之丞、別名;選、字;君選、号;雪斎/玉淵/玉園/玉瀾/灌園/蕉亭/長洲/愚山/石顛道人/巢丘山人/雪旅、松秀園/括囊小隱、法号;慈雲院
- B4091 **正方**(まさかた・桑沢くわさわ、正備男)1754-1828<sup>75</sup> 信濃伊那の社家の生/神道家;父門、のち筑摩下今井諏訪社の梶原舎熊いづま門;唯一神道を修学/吉川家の免許を受、南信濃各地に吉川神道を布教、「正統神学和訓伝」著、[正方(;名)の通称/号]通称;四郎兵衛、号;寿栄斎
- B4093 **正容**(まさかた/まさやす・木村きむら、通称;左膳)?-? 江中期幕府与力/江戸駒込住、歌人;冷泉為村門、成嶋信遍と親交、「雪月花題和歌」「為村御添削木村**正容詠草**」「二五詠草」著、1798刊石野広通「霞関集」入、[露深きよどのの真薦まもかりそめに見しよりなどか思ひ乱るる](霞関;恋726/寄薦恋)[行めぐり世を照すべき日吉とや山のかひある跡や垂れけむ]、(同初撰本;近江日吉神社/山の峽かひと効験の甲斐を掛る/本地垂迹をいう)
- B4094 **政賢**(まさかた・竹下たけした、政信男)?-? 上野前橋の測量家;父(前橋藩主酒井忠挙の家臣)門、1765「町見之伝」
- N4051 **正方**(まさかた・生山いくやま/うぶやま/本姓;藤原)1764-1830<sup>67</sup> 甲斐巨摩郡穴山村の穂見神社神主、国学・歌人;加賀美光章・日野資枝・日野資矩門、帰郷;家塾開設;門弟4百人、[正方(;名)の通称/号]通称;兵部/大隈守、号;君舟/秋斎
- P4033 **正剛**(まさかた・北山きたやま/本姓;橋)1767-1843<sup>77</sup> 河内の医者、儒・歌学;加藤景範門、国学、大坂住、北山李庵(脩身正堅)は祖父?、[正剛(;名)の字/通称]字;修身、通称;李庵
- L4069 **正剛**(まさかた・高木たかぎ/本姓;松平/源)1773-1834<sup>62歳</sup> 河内丹南藩士、歌;1798広通「霞関集」入、[今朝はまた染めし時雨にさそはれてもみち散りしく山本の里](霞関;冬571)[正剛(;名)の別名/通称]別名;福親、通称;勇次郎/主水正もんのしょう
- S4019 **正方**(まさかた・広田ひろた/本姓;度会、旧姓;有江)1778-1863<sup>86</sup> 伊勢度会の外宮権禰宜、国学・歌;本居太平・春庭門、[正方(;名)の初名/通称/号]初名;正文、通称;筑後/耕之進/久米之助/掃部/備後、号;足穂
- B4095 **正方**(まさかた・小川おがわ) ? - 1846 駿河静岡の眼科医/歌、1840「五十番歌合」編[正方(;名)の字/通称/号]字;恕三、通称;清斎、号;真斎
- B4096 **昌堅**(まさかた・小宮山こみやま、楓軒ふうけん[1764-1840]男)?-? 江後期水戸藩士/儒者;家学、南梁の父、1823/25「築城図並備立図」著
- B4097 **昌方**(まさかた・橋本はしもと) ? - ? 江後期文政1818-30頃江戸の和算家;池田貞一門、



- 1830「算法点竄初学抄」「点竄大意」著、昌方(；名)の通称；八郎/号；天津
- M4077 **昌固**(まさかた・小貫おぬき/本姓；源)？-？ 江後期；歌人、出羽秋田藩士？、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、同集入集の小貫昌之との関係？、  
[梓弓ともひきつれて木のもとに花見ながらにまとみをぞする](大江戸倭歌；雑1926、  
花の本にゆみ射るとき)
- T4013 **政方**(まさかた・村山むらやま、通称；勘司)？-？ 江後期；信濃埴科郡の国学者/歌人、  
歌；桃沢夢宅(1738-1810)門/国学；平田篤胤(1776-1843)門
- T4079 **正方**(まさかた・若林わかばやし、玉置教武男)1787-1865 79 美作津山の生/備前岡山の若林家の養子、  
備前岡山石関町の商家(諸物問屋)の若林正旭の養嗣子、国学/歌人、  
正晃まさあきら-正旭まさあきら(正晃弟)-正統(恒太郎/正晃男)-正方と続く、  
妻；振(正晃の孫/1786-1805/20歳)；悦を出産、後妻；入江家の女、  
[正方(；名)の通称/号]通称；義兵衛、号；宜瓢、屋号；赤穂屋
- R4046 **正謙**(まさかた・布川ぬのかわ、)1797-1863 67 越前大野郡の酒造業、  
国学/歌；田中大秀・岡田輔幹すけもと門、正沖(正興)の父、  
[正謙(；名)の通称/号]通称；長四郎、号；菊の屋
- R4092 **正謙**(まさかた・林はやし、)1807 - 1877 71 周防徳山藩士、国学者、  
[正謙(；名)の初名/通称/号]初名；蕃謙、通称；麓、号；芳雲
- T4005 **正方**(まさかた・向山むこうやま/本姓；源、)1809-？ 近江彦根藩士、国学者；山本昌蔭門、歌人、  
歌；[彦根歌人伝・寿]入、  
[正方(；名)の通称/号]通称；藤助/次郎太夫、号；松舎
- B4098 **正方**(まさかた・弘ひろ、通称；平五郎)1810-60 51歳 長門萩藩士/周防三田尻に住、  
江戸・京藩邸にも祇役しえき、歌・歴史に親しむ、  
若い頃天保初頃萩の六百番歌合で勝間田盛稔もりとしと激論([萩の歌人]入)、京に没、  
「板屋集」「短歌古風考」「短歌古風考」「水門集」「雪之記」/1849「松崎天神鎮座考」著、  
1850「楽水鈔」51「江氏水原」著
- Q4002 **政賢**(まさかた・桜井さくらい/本姓；下田/秦)1812-98 87 伊勢度会郡の神職；神宮宮掌内人、  
神道・国学・歌；御巫みかなぎ清直門、歌・俳諧・謡曲を嗜む、  
[政賢(；名)の通称/号]通称；栄司/栄、号；其日亭/樗月
- B4099 **正方**(まさかた・植原うきはら、津山藩士広川総兵衛男)1816-68 自殺 53 植原嘉膳の養子/美作津山藩士、  
1844藩命で水練修行；伊予松山の伊東祐雄門；神伝流免許を受/砲術にも通ず、尊攘を主唱、  
藤森天山・塩谷宕陰らと交流/戊辰戦で会津落城を聞き自殺、「水軍志」「覚後微笑」著、  
1852「血判式活法術備忘」「深夜雷」著、  
[正方(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；八百平、字；公平、通称；六郎左衛門、号；静淵/翼竜
- N4023 **政毅**(まさかた・新井あらい、)1827-1902 76 武蔵川越志義町の国学者/歌；尾高高雅たかまさ門、  
維新後；太政官に出仕、蔵書家  
[政毅(；名)の字/通称/号]字；約夫/伯夫、通称；栄吉/甚太郎、号；琴斎/梅園、屋号；麻屋
- P4045 **正賢**(まさかた・高橋たかはし/本姓；橋、)？-？ 江後期；京の歌人；香川景樹門、書；尊円法親王流、  
美濃中津川の市岡殷政いげまさと交流；1850-53(嘉永3-6)中津川を訪問；当地歌人と唱和、  
中津川の間はさき秀矩ひでりと肥田通光みちてる(馬風)が京の正賢を訪問唱和、  
[時しもあれ山ほとゝきす一声はなきても君を送るなりけり](秀矩らを送る歌)、  
[正賢(；名)の通称/号]通称；喜間太/木間太、号；随翁ずいおう/道正庵
- C4000 **正賢**(まさかた・成毛なりけ/内藤)1834-1900 67 下総金江津の和算家；随朝若水門、  
暦算；長谷川規一門、1849「経世算法」、「天保壬寅元暦」著、「万延塵劫記」編
- F4043 **政方**(まさかた・石橋いしばし、通称；助十郎)1840-1916 77 阿蘭陀通事；1848稽古通詞/55小通詞末席、  
英語を修学/1859神奈川詰；外交・翻訳に従事/62横浜英学校助教、1861「英語箋」編
- C4001 **政固**(まさかた・仙石せんごく、土岐政賢男)1843-1917 75 但馬出石藩主仙石久利の養嗣子、  
歌；海上胤平門、維新には藩主に代り上京；国事奔走、1869学校権判事、  
1870家督を継嗣；出石藩知事、「馨山詠草」著、  
[政固(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；鋭雄、字；蔵卿、号；矯堂/馨山/馨山堂/晚翠楼
- P4012 **正賢**(まさかた・木下きのした、)1845-1909 65 信濃飯田の商家；問屋格、歌；三輪栖鳳・橘道守門

[正賢(；名)の通称/号]通称；恒輔/清三、号；応雅

C4002 正方(まさかた・阿部あべ、藩主阿部正寧3男)1848-67早世20 備後福山藩主；1861兄正教を継嗣、  
従四下主計頭、京の警護；八幡に駐屯、1862-67「正方公遺咏」著、「正方公御遺草」、

[正方(；名)の幼名/別名/号]幼名；錦次郎ていじろう、別名；賢明、号；蘭谷、法号；隆徳院

N4086 正謙(まさかた・岩本いわもと、)1849-191062 信濃諏訪諏訪郡落合村の生/諏訪藩士、  
国学；飯田武郷・千野方義・岩本尚賢門、歌人、

[正謙(；名)の字/通称/号]字；致恭むねたか、通称；次郎/節次、号；蔦蔓居/謙堂

正方(まさかた→まさみち・新居)→ 正道(まさみち・新居にい、神職/歌人) H 4 0 5 9

正方(まさかた・本多) → 正昭(まさあき・本多ほんだ、幕臣/歌人) U 4 0 1 9

正方(まさかた・甲斐庄/馬場)→ 正方(まさみち・甲斐庄かいのしょう/橋、幕臣/歌) L 4 0 6 3

正方(まさかた・藤咲) → 僊潭(せんたん・藤咲ふじさき、儒者/藩士) M 2 4 9 2

正方(まさかた・橋村) → 正弘(まさひろ・橋村はしむら/度会、神職) R 4 0 6 7

正方(まさかた・細野) → 亙(わたる・細野ほその、藩士、国学者) 5 3 8 7

正方(まさかた・池田屋) → 風蔵(ふうぞう・三角みすみ、測量家) 3 8 9 1

正方(まさかた・井上) → 正香(まさか・井上いのうえ、医者/神職) N 4 0 3 1

正固(まさかた・西依) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者) B 2 4 5 5

正賢(まさかた・藤原) → 瑞枝(みずえ・斎木、神職/歌人) 4 1 9 1

正賢(まさかた・村上) → 忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌) E 2 6 4 4

正堅(まさかた・三宅) → 澹庵(たんあん・三宅、藩士/儒者/歌人) H 2 6 8 7

正堅(まさかた・北山) → 李庵(りあん・北山きたやま/橋、医者) 4 9 2 8

相方(まさかた・源) → 相方(すけかた・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 3 9 8

昌方(まさかた・三宅) → 沃地(よくち・三宅みやけ/清原、儒者) B 4 7 7 4

政賢(まさかた・庭田) → 長賢(ながかた・庭田、歌/連歌) D 3 2 4 2

政方(まさかた・渡辺) → 利容(としかた・渡辺わたなべ、藩士) M 3 1 1 8

政方(まさかた・小堀) → 政方(まさみち・小堀、奉行) H 4 0 4 1

政方(まさかた・小堀) → 政方(まさみち・小堀宗友、藩主) H 4 0 4 4

政方(まさかた・名島) → 政方(まさみち・名島、医者) H 4 0 5 3

政方(まさかた・橋本) → 政方(まさみち・橋本、奉行所与力) B 4 0 9 2

政方(まさかた・中村) → 直斎(ちよくさい・中村、藩士/儒者) K 2 8 2 7

政方(まさかた・中村) → 闇指(あんし・中村なかむら、藩士/俳人) C 1 0 3 7

政方(まさかた・関) → 政方(まさみち・関、医/国学) 4 0 0 6

政方(まさかた・喜多村/津軽)→ 間雲(かんうん・喜多村/津軽、家老/兵学) P 1 5 9 6

政方(まさかた・浅羽) → 筈之助(はずのすけ・浅羽あさば、砲術家) E 3 6 6 7

政方(まさかた・大河内) → 輝規(てるのり・大河内/松平、藩主) C 3 0 8 5

政固(まさかた・新田) → 政固(まさこ・新田につた、郷土史家) C 4 0 4 8

相方(まさかた・源) → 相方(すけかた・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 3 9 8

C4003 政勝(まさかつ・結城ゆうき、城主結城政朝男)1504-5956 武将；下総結城城主；1525家督継嗣、左衛門督、  
母；宇都宮成綱の妹/北条氏康と連合；下野・北下総を支配、剣法；塚原ト伝門；無変流創出、  
曹洞宗に帰依；有髪(うけ)の僧、1556「結城家法度」著、小山高朝の兄/甥晴朝を養子とす、  
[政勝(；名)の通称/法号]通称；金吾/七郎左衛門/七郎、法号；後乗国寺大雲藤長

Q4005 昌勝(まさかつ・志貴しき、) ? - 1659 駿河府中の総社神社の神主、神道；吉田家入門、  
昌相の父/昌興の祖父

C4004 正勝(政勝まさかつ・和田わだ、和田道也[水戸藩主徳川頼房の咄衆]男)?-1683自害 水戸藩士；大番組、  
武芸；田宮流居合；朝比奈貫泰門/水野流柔術；水野楊滴斎門、新田宮流居合を創始、  
眞我流柔術の祖、松平頼貞・多賀盛政の師、1683罪を得て自害、  
「予が一卷」「刀劔三知伝」「指料伝録」/1675「馬養論」著、正勝(；名)の通称；平助

C4005 昌勝(まさかつ・須藤/首藤すどう、号；一柳)?-? 江前期越後の兵法家；代々越後流三派を講授する、  
合伝流兵法；和田元眞門/1717息子昌時に伝授、「校勝巻」著

U4008 政勝(まさかつ・伊藤いとう、) ? - ? 江前期；上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、京の俳人(1702「花見車」入)の[政勝せいしょう]と同一か？、

[三十九になれる年のくれに、

老いらくの明けなばこむといふかどを白雪の降りもとちなん](林葉累塵;冬745)

- U4009 **正勝**(まさかつ・加藤かとう、) ? - ? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[こひしさもとの心にまさるより忍ぶることは弱りそめつつ](林葉累塵;恋851)
- T4091 **正勝**(まさかつ・土屋つちや/本姓;源、) ? - ? 江前期;武士、歌人、妻も歌人、  
1688浅井忠能[難波捨草]数首入、  
[老となるならひ有りとも山のはのしづけき月はみるもいとはじ]、  
(難波捨草;秋231/山月)
- C4006 **政勝**(まさかつ・大沢おおさわ、政牧男) 1645-1728<sup>84</sup> 上州新田郡世良田の国学者、忍藩士、  
祖父政高に従い忍藩主阿部忠秋の家臣/1660父没後致仕;帰郷、参禅;潮音門、  
横瀬貞顕に出仕、「金山伝記」「黒滝山記」「自性海珠語録」「長楽寺開起」外著多数、  
[政勝(;)名]の幼名/通称/法号]幼名;亀之助/勘弥、通称;彦兵衛尉、法号;元長宗棟
- C4007 **正勝**(まさかつ・長沼ながぬま、通称;九郎右衛門、就有男) 1674-1763<sup>長寿90歳</sup> 長門萩藩士;1707家督嗣、  
徳地代官/所帯方/大坂留守居役/1722手元役;内政補佐/27江戸矢倉方/28辞職/手元役、  
1752「三老上書」著
- C4008 **正勝**(まさかつ・岡田おかだ) ? - 1765 幕臣/軍学;佐枝尹重門;長沼流佐枝流軍学修得、  
子弟に教授、將軍吉宗にも軍学を奏上、讒言により致仕、奥州を遊歴;会津で兵法を講ず、  
「長沼流鍊銅伝」「長沼流軍法略図」「四箇口伝」「孫子管蠡<sup>そんしかんれい</sup>俗解」「平要録備考」外著多、  
[正勝(;)名]の通称/号]通称;甚右衛門、号;虚実軒
- L4050 **正勝**(まさかつ・植村/上村うえむら) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第四灌仏百韻第三句/第九雪発句等入、  
[乗馬のりうまに清水ながるゝあと見えて](灌仏第三/乗馬は駄馬に対する、  
脇句白石酔白;茂る柳も同じ髪垂れ、  
新古今西行;道の辺に清水流るゝ柳陰しばしとてこそ立ちとまりつれ)  
[質ちの利や払はぬ袖に積る雪](雪発句)
- N4038 **方勝**(まさかつ・伊沢いざわ、通称;三平) 1662-1725<sup>64</sup> 近江彦根藩家老正木家の家臣、国学者/歌人、  
儒者沢村琴所と交流
- C4009 **政勝**(正勝まさかつ・植村うえむら、政恭男) 1695-1777<sup>83</sup> 伊勢飯高郡の郷土の家の生/本草家、  
1710(16歳)和歌山藩御庭方に召出される:1716吉宗將軍就任に従い江戸住、  
駒場薬園開設で園監に就任/幕府採薬使として諸国を实地踏査(30余年間)、1754免職、  
1720「採草風土記」/20-53「諸州採薬記」「二十七国採薬記」/40「諸州奇蹟談」著、  
1774「本朝奇蹟談」、「諸国珍変採薬記」「西州木状」「採薬記抄録」「諸州名所難所寄書」外多、  
[政勝(;)名]の通称/号]通称;左平次/左兵衛次、号;新甫、法号;明浄院
- C4010 **正勝**(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保) 1700?-? 1775<sup>存</sup> 初姓;山下/讃岐琴平宮別当家の生;神職、  
美作津山藩の津田家の養子;京都勤番/老年に琴平宮に帰郷;久保家を興す/晩年に越智姓、  
雑俳を嗜む/軍記物に関心、「讃陽類句集」「平家物語私解」著、  
[正勝(;)名]の通称/号]通称;平左衛門/安次、号;逸翁/象翁/象頭山人ぞうざんじん/放牛散人
- S4073 **政勝**(まさかつ・松村まつむら、) 1715-1789<sup>75</sup> 武蔵埼玉郡志多見村の名主/代官、国学者/歌人、  
国学・歌;建部綾足(1719-74)門、源六郎(1741-1817/神道無念流剣術家/俳人)の父、  
[政勝(;)名]の通称/号]通称;佐左衛門(代々の称)、号;里卿
- R4033 **政勝**(まさかつ・二宮にのみや、通称;藤太左衛門) ?-1784 薩摩鹿児島藩士;京留守居役、  
歌学;廷臣風早公雄<sup>きみお</sup>(1721-87)門
- S4009 **方勝**(まさかつ・菱沢ひしざわ、通称;孫右衛門) 1757?-1817<sup>60余</sup> 近江愛知郡小田荻村の庄屋/商家、  
彦根藩御用掛、歌人;[鳩のうみ]入
- C4011 **正勝**(まさかつ・田中たなか) 1760- 1829<sup>70</sup> 武蔵比企郡中山村の歌人;清水浜臣門、  
「田中正勝詠草」「かたみの梅」「鳥の屋翁歌集」著、  
[正勝(;)名]の号] 鳥廼舎(鳥の屋)とりのや/維嶽
- N4042 **正勝**(まさかつ・伊藤いとう) 1776-1855<sup>80</sup> 陸奥安達郡小浜の潮松神社祠官/歌人
- 4053 **眞勝**(まさかつ・尾関おぜき、別名;正臣、通称;伝次郎、正義男) 1783-1839<sup>57</sup> 筑後久留米の国学者;父門、



「かはのはし」「みつのはかり」著、矢野一貞の師

T4072 **正克**(まさかつ・吉松よしまつ、通称; 矢之助) 1828-48 早世 21 江戸の国学者; 平田鯉胤門

C4012 **正克**(まさかつ・橋村はしむら/本姓; 度会、橋村正立男) 1831-75 45 母; 橋村正並女の並子、伊勢山田上中の郷町の生/1839祖父橋村正並の養子、伊勢の神職; 外宮権禰宜/正四上、南画; 谷口靄山門(母と同門)/歌; 足代弘訓門(母と同門)/書; 貫名海屋門、煎茶; 小川可進門、「橋村正克書籍目録」編、1854(嘉永7)「考訂度会わたり系図考証」(度会諸家系図集)編(塙氏依頼で父らが編纂開始)、1856(安政3)「考訂度会系図索隠」編、[正克(;名)の幼名/通称/号]幼名; 寿丸、字は禮卿、通称; 宰記/肥前太夫、号; 春圃/青蔭舎

C4013 **政勝**(まさかつ・石川いしかわ) ? - ? 幕末期幕臣; 勘定評定所留役/1864関東郡代附組頭、1866書物奉行; 奉行職廃止により勤仕並小普請入、1866「御書籍目録」編、通称; 次左衛門

正勝(まさかつ) → 正勝(せいしょう、金沢の俳人) C 2 4 2 0

正勝(まさかつ・刑部) → 如濃(じょう・刑部おさかべ、家士/記録) M 2 2 7 5

正勝(まさかつ・磯田) → 湖龍斎(こりゅうさい・磯田いそだ、絵師) E 1 9 0 7

正勝(まさかつ・末田) → 道麿(みちまろ・末田すえだ、書肆/国学者) C 4 1 6 2

正勝(まさかつ・澤田) → 泉山(せんざん・澤田さわだ/本橋、漢学/教育) O 2 4 1 3

正優(まさかつ/まさやす・小堀) → 宗中(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人) B 2 5 8 6

政勝(まさかつ・上杉/長沢) → 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ、絵師) C 5 2 0 1

昌勝(まさかつ・石川) → 憲之(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者) G 3 5 1 0

昌克(まさかつ・原) → 南陽(なんよう・原はら、医者) 3 2 4 5

T4092 **正勝妻**(まさかつのつま・土屋つちや、) ? - ? 江前期; 武士の妻、歌人、妻も歌人、

[難波の里に住にける比、梅の花をながめて、

梅がかのいく春袖に匂ふらん難波の里に年をふる身に]、

(1688浅井忠能[難波捨草]春上16)

C4014 **将門**(まさかど・平たいら、通称; 相馬小二郎、良持or良将男) ?-940 平安前期武将; 藤原忠平に出仕、検非違使を望むがかなわず; 政治に憤慨し関東に赴く/伯父国香を殺害; 近国に侵攻、939下総猿島さしまに擬宮を建設; 新皇と称し文武百官を置く、藤原純友と共に承平天慶乱、940平貞盛・藤原秀郷に討伐、律令国家崩壊を象徴する事件

C4015 **正門**(まさかど・森もり) ? - ? 江後期阿波徳島藩士/和算; 奥村吉当(立山)門、藩校長久館の助教、日本初の三角函数表; 1857「割円表」、「割円記」著、[正門(;名)の字/通称/号]字; 子愿、通称; 七蔵、号; 摘芳

まさかぬ(蔵人、1102内裏艶書合参) → 惟兼(これかね・源、歌人) O 1 9 2 4

4007 **雅兼**(まさかね・源みなもと、顕房男) 1079?-1143 65? 母; 因幡守藤原惟綱女の掌侍惟子(因幡内侍)、平安後期廷臣; 1130参議/31従三位権中納言/34治部卿/35病で辞任/出家、

白河・鳥羽両院の寵臣、通称; 薄雲の中納言、

歌人; 1110師時山家五番歌合/19忠通家歌合参加、

1124白河鳥羽両院の白河花見御幸歌会の講師、家集「中納言雅兼集」/「雅兼卿記」著、

「永久二年白川御堂供養記」/「永久二年日次記」著、後葉集・続詞花集・雲葉集入、

勅撰9首; 金葉(5首15/25/34/57/168/Ⅲ3首)千載(252/707/1156)新続古今(1101)

[鶯の木伝にたふさまもゆかしきにいま一声は明けはてゝ鳴け](金葉集; 一15)

雅実・顕仲・国信・覚樹・白河天皇皇后賢子の兄弟、雅綱・雅頼・通能・定房の父

☆1102「内裏艶書合」参加の「蔵人まさかぬ」は別人、平惟兼説あり)

T4097 **昌包**(まさかね・飯室いむろ/本姓; 源、旗本飯室昌吉[道不]男) ?-1709 江前期幕臣/歌人、

1688浅井忠能[難波捨草]10数首入、

[夜のほどは嵐もさえて小笹原はらはぬ庭に結ぶ朝霜](難波捨草; 冬333)、

[昌包(;名)の通称/号]通称; 弥兵衛、号; 宗英

T4016 **正周**(まさかね・毛利もうり/旧姓; 吉井、) ?-1721 薩摩鹿兒島藩士、国学者、毛利五右衛門の養子、華道家; 1695(元禄8)京の池坊専養門; 立花生花の法の伝授を受; 伝書2巻/のち九州花頭、吉井新右衛門護賢の弟、4男1女の父(2男正治は医者/4男正恒は華道家)、1711隠居; 為春、

曾孫に戯作者の毛利正直まさなお(正治の孫)がいる、

[正周(；名)の別名/通称/号]別名；泰行(・吉井)、

通称；利兵衛(・吉井)/毛利相続後の称；権兵衛/作右衛門、隠居号；為春、法号；華莊院

C4016 正謙(まさかね・富永とみなが、正翼男)?-? 1795存 江中期漢学者；父門、正翼「逍遙樓文集」編、  
「漂民奇談」著

C4017 正鉄(まさかね・井上いのうえ/富田、安藤あんどう真鉄まがね男)1790-184960 江戸神道家/禊教みそぎきょう教祖、  
富田惣次の養子/諸国放浪/医；1809磯野弘道門、観相術；1814水野南北門/江戸で占卜業、  
1834神祇伯白川家入門/40千住梅田明神神職；吐苦加美とおかみ神道を主唱；幕府に異端視、  
1843三宅島配流；49同地没、村越鉄喜かねよしの兄、  
「唯一神道」「神道唯一問答」「正鉄霊神御書」「旅枕孝路農草紙」著、  
後に門弟野沢鉄教かねのり・伊藤祐像すけがたらが禊教教団結成(1873)、  
[正鉄(；名)の通称/号] 通称；喜三郎、号；式部/東円/周易/風流庵

参考 → 鉄教(かねのり・野沢のざわ、禊教教団結成)O 1 5 8 5

→ 祐像(すけがた・伊藤いとう、禊教伝道/歌) L 2 3 3 5

C4018 正兼(まさかね・藤田ふじた)1791- 186979 筑前福岡藩士；無足組の士/西新浜に住、  
隠居して歌人；青柳種信門、門弟多数、1857「緑舎歌集」、「吉野乃茅花」「緑舎文集」著、  
「源語目録長歌注解」「都梵須美礼」「わすれ草」「太宰管内志序文難陳」著、  
[正兼(；名)の通称/号]通称；甚七/甚兵衛、号；緑の屋

S4052 政兼(まさかね・前田まえだ、通称；伝之丞)?-1880 伯耆倉吉の鳥取藩士；材木奉行、国学者、  
国学・歌；辻春信門、真民まさたみ(飯田年平門国学者)の父

政嗣(まさかま・田代) → 簡斎(かんか・田代たしろ、家老/儒者) Q 1 5 0 2

P4016 方穫(まさかり・武知たけち、)1816-189378 伊予松山藩儒、儒；近藤逸翁門/昌平黌に修学、  
詩人・歌人、書画・篆刻・剣砲に通ず、「如鏡稿」著(；和歌山に使い；詩歌入)、  
「華夷分別考」「非狂論」著、  
[方穫(；名)の字/通称/号]字；伯慮、通称；清太郎/作八/善兵衛/幾右衛門/又八、  
号；五友ごゆう/清風/海外/黒犬/伴豊/以南/愛山

R4062 正河(まさかわ・橋村はしむら/本姓；度会、)1741-181272 外宮神職橋村正因まさよりの養子、伊勢外宮神職、  
国学・歌人；飛鳥井雅威(1758-1810)門、養子中山正並が家督を嗣、  
[正河(；名)の通称/号]通称；文字之助/宰記/万右衛門/主水/権之進、号；乙鶴おとづる

C4019 雅材(まさき・藤原ふじわら、経臣男)?-? 母；文令[文幹]女、平安中期廷臣/詩人、惟成・通頼の父、  
955文章生/956学問料支給/957文章得業生/960釈奠の序者/蔵人/962対策及第/右少弁、  
970太政大臣藤原実頼の辞表への勅答を書く、詩歌；966内裏歌合右方人に参加、  
969在衡「栗田左府尚齒会詩」参、文粹/和漢朗詠集・江談抄入/「天徳三年闘詩行事略記」著

C4020 真崎(まさき・杉浦さぎうら、初名；政子/雅子、羽倉信元女)1690-175465 母；荷田がだ春満あずまの妹茂子、  
1704(15歳)遠州浜松諏訪明神社神主の杉浦国頭くにあきと結婚/歌；春満門(春満の姪)、  
夫婦で歌会を主催、浜松地方の文化向上に貢献、「宿の梅」「夜あらし」著、「真崎子遺詠」

C4021 政樹(まさき・内藤ないとう、義英[露沾ろせん]長男)1703-6664 従兄の磐城平藩主内藤義稠よしじの養嗣子、  
従五下備後守、1718襲封/平藩主、1738(元文3)全藩一揆発生/1747日向延岡に転封7万石、  
1756致仕、和算；久留島義太・松永良弼を招聘；藩学、俳人；父露沾門、  
「絳老余算」「絳老余算別録」「絳老余算目錄解」「天元算梯」「角総平方術」著、  
[正樹(；名)の幼名/通称/号]幼名；豊松、通称；民部、号；沾城/兼山/仰松軒/沾松軒、  
法号；巖正院

C4022 昌樹(まさき・野沢のざわ/村瀬、山県山三郎男)1722-180079 父が甲斐府中藩与力村瀬家を継嗣、  
篠原村から甲府移住；村瀬に改姓/1742弟大弑と京に遊学/甲斐府中藩与力/山県に復姓、  
1767尊王論の弟大弑が幕府の忌憚に触れ処刑/野沢豊後に改姓；駿河に移住し医業、  
詩歌・書長ず、1761「駁竜骨辨」、91「二孝子記事」「孝女満喜行状記事」94「孝女行状記事」著、  
[昌樹(；名)の字/通称/号]字；公鳳、通称；清右衛門/左中/一郎右衛門/斎宮/豊後、  
号；清渚

弟 → 大弑(だいに・山県/村瀬、医者/漢学/尊王論)C 2 6 0 3

C4023 正樹(まさき・池田いけだ、別名；英政)?-? 江中期1764-81頃下総岡宿藩士；1773家督、

藩主久世広明に随い大阪・京に赴任、木村兼葭堂けんかどう・加藤景範と交流、  
1771「難波噺」、「池田氏筆記」編、  
[正樹(；初名)の通称]権左衛門/作之丞

C4024 **正樹**(まさき・中山なかやま/本姓;度会わたらい)1736-94<sup>59</sup> 伊勢山田上中之郷の神職;外宮権禰宜/正四上、  
歌;冷泉為村・為泰門/1766歌道免許を受/小笠原流礼式奥義を究める、能楽の小鼓に長ず、  
「正樹歌集」著、橋村正並まさなみ(橋村正河の養子)の父  
[正樹(；名)の通称]小四郎/喜聞多/靱負/兵庫

C4025 **正樹**(まさき・林はやし) 1754 - 1779<sup>早世26歳</sup> 三河吉田の郷土史家、1779「三河名所考」著、  
[正樹(；名)の通称/号]通称;弥右衛門、号;可光、林自見の孫

L4081 **政樹**(まさき・西山にしやま、中里新三郎男)?-? 伊勢松阪富商の生/国学者;本居宣長門、中里5兄弟、  
4番目;長谷川常雄・中里常岳つねおか・常秋[1762-1800]の弟・中里常季[1766-83]つねすえの兄、  
伊勢度会住、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌1首入、大平の童友、  
[政樹(；名)の別名/通称]別名;常朝/常国、通称;重五郎/主計かずえ/宗左衛門

4008 **眞幸**(まさき・長瀬ながせ、正常男)1765-1835<sup>71</sup> 肥後熊本藩士:学校目付/鉄砲頭、諸礼故実;父門、  
橋家神道;益城郡守山八幡宮神主守山河内(広豊)門/儒;草野潜溪門、  
国学者;熊本藩校教授高本順しんごう(紫溟)門、1793伊勢の本居宣長門、琴;京の浦上玉堂門、  
有職;長野清良門/武家故実;伊勢貞春門/江戸で村田春海・加藤千蔭・塙保己一と交流、  
宣長の高弟;師と共同で「訂正古訓古事記」を編集、万葉研究に精通、  
暦法・神道・音楽に通ず、「田廬たがせ歌集」、1793「千蔭眞幸歌問答」、  
1794「万葉集佳調」99「万葉集佳調拾遺」編、「あそ山のあらびのあげつらひ」「衣服令打聞」、  
1815「上古嫁娶辨」20「肥後事蹟考証」、「古事記王代正語」「伊勢物語新考」外著多数、  
門弟;中島広足・林桜園・和田巖足・臼杵秋房・坂口公弼など多数、贈正五位、  
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含む5首入、  
[山里のたよりしなくは桜花とく咲きそめし色を見ましや]、  
(八十浦;531/人が桜を送ってきたので詠)、  
[眞幸(；名)の通称/号]通称;七郎平、号;田廬たがせ/双松園、長瀬幸室の父

C4026 **正樹**(まさき・木村きむら、通称;猪左衛門)?-? 江後期三河吉田の国学者:1842平田篤胤門、  
1839「山路のとも」著

M4036 **正樹**(まさき・末松すえまつ) ? - ? 江後期;歌人;井上文雄門?、  
1844井上文雄判「いちのとみ」(十番歌合)/「はなあはせ」左方に参加、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[天の川としのわたりは変らねど逢ひみざるこそうきせ成るらめ]、  
(大江戸倭歌;秋724/七夕庚申)

M4043 **真咲**(まさき・鳥山とりやま) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[さやかなる月のかつらの里人や寝ぬる間もをしと衣打つらん](大江戸倭歌;秋941)

N4011 **正樹**(まさき・浅岡あさおか、通称;政吉)?-? 江後期三河新城の生/遠江白須賀の書肆、  
国学;本居大平(1756-1833)門

R4074 **眞幸**(まさき・橋本はしもと、)1801-1879<sup>79</sup> 大和郡山藩士/国学者、藩校督学、  
[眞幸(；名)の初名/通称/号]初名;雄平、通称;猪野右衛門、号;梅谿

C4027 **正樹**(昌樹まさき・服部はっとり、正栄男)1817-89<sup>73</sup> 出羽庄内藩士;1846家督嗣;家中用金方、  
普請場目付/世子傳育役/1862江戸表納戸役/66勘定目付、和漢学修得/書画武芸に通ず、  
国学;1844鈴木重胤門、歌;池田玄斎門、1859「椎廼棠」、「橋舎家集」「老のすさび」著、  
「老のすさび拾遺」「古今老のすさび」著、藩主夫人はじめ門弟多数、  
[正樹(；名)の別名/通称/号]別名;/眞佐伎まさき昌言、通称;弘弥/惣兵衛、号;橋舎/学山

Q4025 **正木**(まさき・白江しらえ、通称;嘉平)1821-85<sup>65</sup> 筑後久留米の国学者、  
城キクヨ(城熊太郎の妻/数馬の母)の父

N4012 **正樹**(政樹まさき・浅島あさじま/本姓;源、)1822-63<sup>42</sup> 江戸の生/近江彦根藩士;江戸詰、  
国学・歌;村田泰足門  
[正樹(；名)の通称/号]通称;進士、号;美景舎/花之下長居/麻舎自唱



- S4047 **正樹**(まさき・堀家ほりけ、広政男) 1825-7652 備中賀陽郡の吉備津神社社家の家、  
国学;藤井高雅門、御供座神社祠官/吉備津神社祠官、  
[正樹(;名)の別名/通称]別名;静夫/真幸まさき、通称;東馬/藤馬
- Q4077 **正樹**(まさき・滝沢たきざわ、通称;政吉/号;柳斎) 1826-7853 信濃埴科郡の国学者;石黒守稲もりとし門
- C4028 **真幸**(まさき・今村いまむら/本姓;源、北原因信男) 1830-190677 信濃伊那郡座光村の庄屋の生、  
今村八右衛門の養子、歌;福住清風門/国学;岩崎長世門/1861平田鉄胤門(篤胤没後門)、  
篤胤「古史伝」の上木に協力/1867江戸不穩の際篤胤稿本を信州に保管、  
1864水戸浪士の飯田通過時に飯田を兵火より救うため兄北原稲雄と共に尽力、  
1864「水戸浪士伊那路通行」著、  
[真幸(;名)の初名/字/通称]初名;信敬、字;徳叟、通称;豊三郎
- C4029 **正樹**(まさき・島崎しまざき、初名;重寛、重韶男) 1831-8656 中山道馬籠宿本陣・庄屋・問屋の生;家督嗣、  
国学;中津川の馬島靖庵門/1863篤胤没後門、維新後は戸長・学事掛/74教務省雇員、  
憂国の歌を天皇の輿に投進;不敬罪で逮捕/飛騨水無社宮司/1877帰郷;座敷牢内で没、  
「栄樹葉」編、島崎藤村の父、  
[正樹(;名)の字/通称/号]字;禎夫、通称;鍛名太郎/宮之丞/稹三郎しんざぶろう/稹蔵/吉左衛門、  
号;璞堂はくどう/松翠園静雄/観山楼/静舎しずのや、変名;三浦忠明
- T4045 **眞樹**(まさき・山口やまぐち、) 1832 - ? 江後期;陸奥二本松藩士/国学者/歌人、  
国学・歌道;栗原茂景しげかげ門、図書八等、  
[眞樹(;名)の初名/通称/号]初名;眞栄、通称;慶亮、号;進木舎
- S4007 **眞幸**(まさき・樋口ひぐち、) 1835- 189864 筑後八女郡三河村酒井田の久留米藩士、漢学者、  
漢学;高橋嘉遯・安井息軒門、国学;栗原柳庵門/兵学;織田武一郎門、幕末に国事奔走、  
伏見練兵場教授/久留米藩校明善堂助教/上妻郡下妻郡立小学校兼中学校中洲校初代校長、  
敬遜塾(敬孫書院)開設;子弟教育/筑南協会を組織;選挙指導、妻は本荘星川の姪、  
「後征西將軍考」「五條氏家譜考証」著、  
[真幸(;名)の幼名/通称/号]幼名;謙吉、通称;剛太郎、号;和堂/呉竹庵/玄黄げんこう洞主
- R4059 **眞咲**(まさき・芳賀はが、) 1841 - 190666 越前福井藩士、歌;橘曙覧門/国学;平田鉄胤門、  
国学・歌;義門(真宗大谷派僧)門、塩竈神社宮司/志波彦神社宮司、  
1891(明治24)内務省神社課長、滋賀県多賀神社・兵庫県湊川神社宮司、「語法指南」著、  
[眞咲(;名)の通称/号]通称;三作/眞之助、号;草之舎/孔舎農家、矢一(大学教授)の父
- 04047 **正樹**(まさき・大利おおり、初名;正義/通称;鼎吉ていきち) 1842-65斬殺24 土佐高知藩士/土佐勤王党に入、  
1863(文久3)脱藩;池田屋事件で戦闘/禁門の変で敗走;田中光顕らと大坂焼討を計画、  
1865新選組に情報が洩れ石倉屋に踏込まれ斬殺(ぜんざい屋事件)、大秋鼎とも同一?、  
[ちりよりもかろき身なれど大君にこころばかりはけふ報ゆなり](死の前日の詠)
- 04043 **正樹**(まさき・大原おはら/本姓;源、正敷まさのぶ男) 1849-191264 信濃飯田の国学者;1868平田鉄胤門、  
[正樹(;名)の通称] 莊太郎
- |               |                             |           |
|---------------|-----------------------------|-----------|
| 正樹(まさき・紀)     | → 興之(おきゆき・紀き、地誌・歌人)         | D 1 4 0 3 |
| 正樹(まさき・宮)     | → 栗園(りつえん・宮みや、神職/国学者)       | B 4 9 5 8 |
| 正樹(まさき・山内)    | → 芳秋(よしあき・山内やまうち、官吏/歌人)     | P 4 7 8 0 |
| 政樹(まさき・内藤)    | → 沾城(せんじょう・内藤、露沾男/藩主、俳人)    | F 2 4 9 6 |
| 政樹(まさき・水野)    | → 敏樹(としき・水野みずの、藩士/歌人)       | W 3 1 5 8 |
| 雅枝(まさき・飛鳥井)   | → 雅庸(まさつね・飛鳥井、蹴鞠/歌人)        | E 4 0 0 3 |
| 昌樹(まさき・歌川)    | → 豊春(とよはる・歌川、浮世絵師)          | 3 1 4 8   |
| 眞佐伎(まさき・服部)   | → 正樹(昌樹まさき・服部、藩士/国学/歌)      | C 4 0 2 7 |
| 真魁(万佐伎まさき・石川) | → 貞幹(さだみき/さだもと・石川いしかわ/源、尊攘) | N 2 0 8 5 |
| 正木庵(まさきあん)    | → 光起(みつおき・芳賀/木村、藩士/産物方)     | D 4 1 1 5 |
| 正木園(まさきえん)    | → 貫名(ぬきな・荒井あらい、歌人/書)        | 3 4 1 3   |
| 正木園(まさきえん)    | → 泰行(やすゆき・中野なかの、神職/国学)      | G 4 5 3 3 |
| 政幾久(まさきぐ・鎌原)  | → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者)     | E 3 1 6 2 |
- L4035 **柰木組**(まさきぐみ) ? - ? 江中期武州の雑俳の組連、  
取次;1740収月評万句合入、

取次例:[かや寺となに嘘斗うそばり瓦葺](前句;りつぱ也けり々)、  
(茅葺ではなく立派な瓦葺/浅草榎かや寺の自慢)

正吉(まさきち・木戸)	→	正吉(しょうきつ・木戸、武家/歌人)	G 2 2 0 1
正吉(まさきち・岡)	→	長洲(ちようしゅう・岡おか、藩儒/詩文)	I 2 8 7 1
正吉(まさきち・塙)	→	守約(もりのぶ・塙はなわ、兵法家)	G 4 4 1 9
正吉(まさきち)	→	正吉(せいきち、俳人)	2 4 9 8
正吉(まさきち・大和田)	→	篤胤(あつたね・平田ひらた、国学/神道)	1 0 2 2
正吉(まさきち・曾根)	→	正吉(しょうきち・曾根そね、歌舞伎作者)	H 2 2 9 8
正吉(まさきち・待乳)	→	正吉(しょうきち・待乳まち、歌舞伎作者)	G 2 2 0 0
正吉(まさきち・峰岸)	→	竜父(りゅうふ・峰岸、書家/朝顔栽培)	F 4 9 4 8
正吉(まさきち・林屋)	→	正吉(しょうきち・林屋、噺家)	H 2 2 9 9
正吉(まさきち・桜井)	→	百之(ももゆき・桜井さくらい、商家/国学)	K 4 4 0 7
政吉(まさきち・山口)	→	花江戸住(はなのえどずみ、狂歌)	F 3 6 4 7
政吉(まさきち・浅羽)	→	筈之助(はずのすけ・浅羽あさば、砲術家)	E 3 6 6 7
政吉(まさきち・大畑)	→	晴潔(はるきよ・大畑おおはた、藩士/国学者)	G 3 6 3 0
政吉(まさきち・角田すみだ)	→	国貞(2世くにさだ・歌川うたがわ、絵師)	B 1 7 5 0
政吉(まさきち・荒井)	→	静野(清野しずの・荒井、国学者/教育)	U 2 1 0 5
政吉(まさきち・滝沢)	→	正樹(まさき・滝沢たきざわ、国学者)	Q 4 0 7 7
政吉(まさきち・大倉)	→	信古(のぶひさ・大倉おおくら/菅原、鑑定家)	H 3 5 6 5
政吉(まさきち・浅岡)	→	正樹(まさき・浅岡あさおか、書肆)	N 4 0 1 1
政吉(まさきち・瀬見)	→	善隣(よしちか・瀬見せみ、国学)	N 4 7 5 3
麻佐岐蔓の舎(まさきのかづらのや)	→	武鷹(たけまる・小橋こばし、神職/歌)	V 2 6 1 6

C4030 雅材女(まさきの[が]むすめ・藤原)? - ? 平安中期歌人、983-5頃「雅材女家歌合」あり、  
兄弟に惟成これげ

C4031 正清(まさきよ・源みなもと、醍醐天皇皇子有明親王男)931-995?65? 母;藤原仲平女、廷臣;正四下、  
左近中将/977-984蔵人頭(頭中将)、歌人;新古今集1154、  
[恋しさにけふぞたづめる奥山の日かげの露に袖はぬれつゝ](新古今;十三恋1154)

C4032 雅清(まさきよ・源みなもと/唐橋、通資3男)1182-123049 母;藤原長輔女、伯父;土御門通親、  
廷臣;1221(承久3)参議/従三位、順徳院近臣/22左近中将/正三位/24出家;多武峰に通世、  
療病のため上京;1230(寛喜2)没、徒然草42段に唐橋中将雅清の息子行雅僧都の奇病話入、  
歌人;1216歌合参加、和漢兼作集入集/新勅撰集1218、  
[迷ひ来こし夢路の闇をいでぬればみやこはよそのすみぞめの袖](新勅;十八雑1218)、  
(雅清が出家後上京したことを聞き詠んだ内大臣藤原実氏の歌への返歌)

L4041 正清(まさきよ・中井なかい、通称;藤右衛門、正吉男)1565-161955 大和法隆寺門前西里村の大工;父門、  
家はもと武士/法隆寺番匠;宮大工とし頭角、京の初代大工頭;秀吉に拔擢、建設図面利用、  
方広寺建設、法隆寺大修理を行う、関ヶ原後;徳川家康の作事方として出仕;  
大和守・四位下・2百石を受領;家康の側近となる、弁慶・矢倉・池上など配下の棟梁を統率、  
二条城を1年で築城/江戸の町割企画/名古屋城・駿府城・江戸城・増上寺・日光東照宮建造、  
正侶・正純の父

C4033 正潔(まさきよ・取田とりだ) ? - 1772 尾張名古屋の神道家;吉見幸和門、  
「乳縄之伝」、「天浮橋弁」/「大蛇弁」(国学弁疑所収)、  
[正潔(;名)の通称] 文左衛門/次左衛門

L4059 正精(まさきよ・阿部あべ、正倫2男)1775-182652歳 江戸生;/備後福山藩5代藩主;1803(享和3)襲封、  
侍従、奏者番/寺社奉行/1817(文化14)老中就任、鞆港築造・義蔵設立・江戸藩邸学問所設置、  
儒・国・洋学の奨励、書;小島成斎門/書画・歌を嗜む、母;津軽信寧女、正粹・正寧・正弘の父、  
1814堀田正敦催「詠源氏物語和歌」入、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
[浅茅原分け入る袖の露けきはよににぬ秋の松虫の声](源氏和歌;榊)、  
[いざわれもとめてをゆかん諏訪の海や氷の上を渡る月影](大江戸倭歌;冬1187)、  
[正精(;名)の字/通称/号]字;子純、通称;運之助/備中守/対馬守/主計頭、  
号;棕軒/蕉亭/裁錦楼/棕雨書屋

- C4034 **正清**(まさきよ・井上いづえ、初名;信清、安部信允男)1776-? 1814存 井上正質の養子、幕臣鉄砲方：1793遺跡相続、家伝井上流砲術を整備、98鎌倉射場での大筒力試し・遠町打ちの功で受賞、1804「鉄砲問答」14「鉄砲初学抄」、「調積星当解」「皇国砲術集成」著、[正清(;)名)の通称]和三郎/左太夫
- M4021 **正清**(まさきよ・神田かんだ/本姓:平、通称;弥右衛門)?-? 江後期;歌人、幕臣?、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、同集入集の神田くら子との関係?、[春霞立野の牧に声すれど月毛の駒もおぼろなりけり](大江戸倭歌;春212/牧春駒)[駒なべて弓矢たばさみ射る犬の叫ぶになる声もいさまし](同;雑1920/犬追物)
- L4092 **政養**(まさきよ・三嶋みしま/本姓;藤原、初名;芳五郎/芳明、夏目なつめ信明男)1821-8666歳 旗本;1848(嘉永元)旗本三嶋政堅急逝のため三嶋家婿養子となる;政養と改名/小普請1300石、維新後;1870浜松に転居、詳細なる日記「旗本三嶋政養日記」(1848-83)を執筆、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[珍しな見し初雪のそればかり霞みて残る春の山の端](大江戸倭歌;春112山残雪)
- C4035 **当清**(まさきよ・柳川やなわ、通称;兼三郎)1836-? 1860遣米使節新見正興の従者として随行、「航海日記」著
- R4096 **昌清**(まさきよ・原はら、昌義男)1845-8743 伊豆君沢郡の国学者;父門、[昌清(;)名)の通称]通称;正八郎
- P4003 **眞清**(まさきよ・川津かわづ、旧姓;萩原)1850-191061 伊豆加茂郡の国学者;平田鉄胤・権田直助門、萩原正平(名主/国学)の弟、神主川津家の養嗣;河津郷の杉梓別命すぎほわけのみこと神社神主、[眞清(;)名)の別名/号]初名;直美/貞夫、号;栂城ぜんじょう/梅翁/五々堂/梅の家
- 雅清(まさきよ・飛鳥井) → 雅世(まさよ・飛鳥井/藤原、歌学・蹴鞠) 4 0 2 3  
 正清(まさきよ・小松) → 正徹(しょうてつ;法諱・清巖;道号、臨濟僧/歌人) 2 2 4 1  
 正清(まさきよ・深田) → 明峯(めいほう・深田ふかだ、藩儒者) 4 3 3 5  
 正清(まさきよ・清家) → 定澄(さだすみ・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 4  
 正清(まさきよ・宇山/鳥山) → 義所(ぎしよ・鳥山とりやま、儒者/尊王派) K 1 6 8 9  
 眞清(まさきよ・荒井) → 静野(しずの・荒井、国学者/教育) U 2 1 0 5
- C4036 **政国**(まさくに・細川ほそかわ、細川持春男/本姓;源)1429-9567 武将/細川持賢[道賢]の養子、1468養父没;細川典厩家当主/73細川勝元没後に後継政元の後見役、中務少輔、1485出家、1486摂津西成郡の分郡守護、禅昌院を建立し住、五山僧らと詩歌会を催、「犬追物射鏡」著、1476「犬追物馬足」/80「細川道賢十三回忌品経和歌」/86「文明十八年二月千句三物」著、[政国(;)名)の初名/通称/法名]初名;元国、通称;六郎、法名;道勝/右馬入道道勝、法号;禅昌院
- C4037 **政邦**(まさくに・榊原さかきばら、別名;勝乗/政辰、榊原勝直男/本姓;源)1675-172652 榊原政倫の養嗣子、1683越後村上藩主;養父継嗣/従4下侍従/1704播磨姫路藩主に転封、藩政改革/領民教育、新田開発・姫路城修復等に尽力、儒;林信篤・中村清助門/国学・歌:中院なかのいん通茂・通躬門、1724「師律要略」、「政邦公歌集」著、[政邦(;)名)の通称/法号]通称;虎之助、法号;泰正院
- S4085 **正邦**(まさくに・三宅みやけ、正武まさたけ[1654-1730]男)1695-174955 江戸の幕臣;御小姓組番士、和学;父門、[正邦(;)名)の通称]弥五兵衛/弥次兵衛
- 04013 **正邦**(まさくに・小津おづ/旧姓;寺田、) ?-? 江中期;伊勢度会郡の国学者;本居宣長門、伊勢松阪の商家小津正啓まさひろ(審斎/1704-79/国学・歌人)の養子、[正邦(;)名)の通称]七郎兵衛/七郎次
- C4038 **昌邦**(まさくに・島村しまむら、通称;丹治) ?-? 江中・後期;水術家、上市水府流水術指南(創始者島村正広の末裔)、水戸藩士に伝授、1813「水術伝習書」著
- R4039 **正邦**(まさくに・西村にしむら/本姓;源、) 1770-? 文化(1804-18)頃;京の廷臣;勘解由判官、歌人;鴨(梨木)祐為(1740-1801)・伴蒿蹊(1733-1806)・香川景樹門、有職故実に通ず、[正邦(;)名)の通称/法号]通称;出羽介/出羽守、法号;尚友
- C4039 **政都**(まさくに・藤原ふじわら/家名;片藤)1803-? 越後村松藩士、1822「神祇道角組葦」著



- M4015 **正邦**(まさくに・中根なかね/本姓;平、通称;五兵衛)?-? 江後期;歌人、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[消えそむる野辺の雪間を尋ねつつやや下もえの若菜をぞ摘む](大江戸倭歌;春102)
- N4043 **正邦**(まさくに・伊吹いぶき/本姓;源)1809-39<sup>31</sup> 近江彦根藩士/長野義言に出仕、歌人/画を嗜む、  
致仕後;池須町住、  
[正邦(;名)の初名/字/通称/号]初名;可苗、字;士享、通称;鼎三、号;芹齋/赤蕭堂
- C4040 **雅邦**(まさくに・大泉おおいずみ、通称;敬介、信常男)1810-? 1839<sup>存</sup> 近江彦根藩士/歌人;小山田文臣門、  
書家;御家流、門人多数、「柳の朽葉」「算法奥義起源秘書」著
- S4034 **昌邦**(まさくに・藤原ふじわら、旧姓;西村)1817-65<sup>49</sup> 伊勢度会郡の国学者、  
[昌邦(;名)の通称/号]通称;圭輔、号;紫香
- R4025 **正国**(まさくに・長崎ながさき/本姓;橘、健たけし[浩齋]男)1826-74<sup>48</sup> 越中高岡の代々医者(町医);父門、  
長崎家6代目、蘭方医;1841京の小石元瑞門/漢学・洋学も修学、1844帰郷、  
国学;五十嵐篤好門(父と同門)/歌;富士谷御杖門/仏学;瑞龍寺閑雲禪師門、  
1850(嘉永3)父隠居;医業継嗣、維新後;東京で大般若経の訓点の研究、  
1871富山藩病院掛/権少属/1872七尾県庶務課に出仕;医事掛兼務、のち帰郷し町医  
1873高岡関野神社祠官/さらに射水神社祠官/権禰宜兼少講義/1874権中講義;病死  
[正国(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;周蔵、字;倚松いより、通称;言定(;父の称)、  
号;敬勝/松江、法号;健功正国大人/松風水月居士
- C4041 **正邦**(まさくに・稲葉いなば/丹羽/越智、二本松藩主丹羽長富男)1834-98<sup>65歳</sup>  
山城淀藩主稲葉正誼の養子、1848家督;淀藩主、長門守/美濃守/民部大輔、  
1863京都所司代/老中;將軍慶喜の幕政改革、大政奉還に尽力、  
国学;平田篤胤門/維新後;神道教管長、歌人、「妖幻夜話」編、  
[正邦(;名)の通称/号]通称;長之助、号;東閣
- 04067 **正国**(まさくに・加藤かとう、)1846-1915<sup>70</sup> 尾張名古屋の国学/歌人;石橋知空(蘿窓)門、  
[正国(;名)の通称/号]通称;秀之助/久右衛門、号;青甫  
正国(まさくに・柴田) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2  
昌邦(まさくに・奥平) → 昌鹿(まさか・奥平おくだいら、藩主/歌人) B 4 0 6 3  
昌郷(まさくに・堀内) → 昌郷(まささと・堀内、庄屋/国学者) C 4 0 5 9
- C4042 **政国女**(まさくにのむすめ・大江おおえ)?-? 南北期歌人、  
勅撰5首;新後撰1092・続千載673/1304/1750・続後拾;675、  
[跡たゆる道のささはらいつまでかよをへだてても人を待ちけむ](新後撰;十四恋1092)
- C4043 **政国女姉**(まさくにのむすめのあね・大江おおえ)?-? 大江政国の女の姉、南北期歌人、続千載1585、  
[ことわりと思ふにつけてかなしきは忘るる身のつらさなりけり](続千載;恋1585)
- C4044 **政子**(まさ・北条ほうじょう、時政女)1157-1225<sup>69</sup> 源頼朝の室/頼家・実朝の母、  
夫没後に剃髪;父と鎌倉幕府の実権を把握、簾中で政務;尼將軍と称される
- C4045 **匡子**(まさこ) ? - ? 伊達家の侍女、方言集「仙台浜荻」著
- S4071 **政子**(まさこ・松平まつだいら/本姓;源、桑名藩主松平忠雅女)1717-42<sup>早世26</sup> 伊勢桑名の生/歌人、  
陸奥棚倉藩主松平武元たけちか(1714-79/右近将監)の正室、1742(寛保2)没;順善院
- C4046 **正子**(まさこ・矢部やべ、別名;久/久子/かね/呉、佳政女)1745-73<sup>早世29</sup> 美濃本巢郡芝原郷の人、  
1760(16歳)大平光二と結婚;1763子連れで離婚、母・兄と京に移住/歌・書;小沢蘆庵門、  
茶・香・礼法・薙刀を修得、1770熊本藩主細川家の招聘;江戸藩邸の藩主女わか子に歌書指導、  
帰京し剃髪/病没、「矢部政子和歌小集」「正子集」著、  
[正子(;名)の剃髪号] 恵静/寂室
- 04014 **正子**(まさこ・小野おの/旧姓;平田、別名;屋重/八重/よし子)1748-1812<sup>65</sup> 讃岐豊田郡の生、  
備中倉敷の庄屋小野季顕すゑあきら(1776-99/24歳早世)と結婚、  
歌;井上夏鼎ひろさだ門(夫と同門)
- C4047 **雅子**(まさこ・北小路きたのこうじ、俊在女/本姓;大江)?-? 京極宮家仁親王家の女房、  
1733公仁親王の母/家仁親王没後出家;雲光院と号す、歌;「公仁親王母雲光院詠草」著
- C4048 **政固**(政箇まさこ・新田につた、別名;政箇まさつ/政父)1746-? 明和1764-72頃活躍;陸奥遠野南部藩士、  
儒;福田興珍門、国学;宇夫方広隆[1688-1768]門、郷土史家、1771-72「三翁昔語」著

- N4035 **政子**(まさこ・井上いのうえ、旧姓;菅)1748-1812<sup>65</sup> 讃岐琴平の生/備中倉敷の井上夏鼎ひろさだと結婚、夏鼎(1740-1803)は富豪宮崎屋の当主で歌人、夫と共に小沢蘆庵門、更に蘆庵門の小川布淑のぶし門、常之(つねゆき/端木はしき)の母、歌;[類題吉備国歌集]入(1首)、[政子(;名)の別名/号]別名;利恵/久娥、号;萩亭  
夫 → 夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、宮崎屋五蔵永美) L 3 7 0 8
- R4088 **眞沙子**(まさこ・林はやし、旧姓;久志本)?-1821 伊勢度会郡の歌人
- P4053 **方子**(まさこ・黒瀬くろせ、初名;宇免うめ、旧姓;守屋)1764-1827<sup>64</sup> 備中浅口郡の生、国学者/歌人、備中倉敷の黒瀬淳(?-1821)と結婚
- T4038 **順子**(まさこ・山内やまのうち、藤堂和泉守高嶺たかさと女)1774-1817<sup>44</sup> 土佐高知藩主山内豊策とよかぜの正室、江戸住/歌人、黒田長元(1811-67/黒田長韶養子)の母、[順子の法号]融相院
- M4088 **まさ子**(まさこ) ? - ? 江後期;歌人、姓不詳、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[汐風に波も高師の浜千鳥みなとにかへる声きこゆなり](大江戸倭歌;冬1208)
- N4084 **長子**(麻左子まさこ・岩橋いわはし、?)?-? 江後期;歌人、紀伊有田郡千田神社祠官の岩崎時夏ときなつ(の妻、国学;本居内遠門)
- P4015 **雅子**(まさこ・松平まつだいら、庄内藩主酒井忠器5女)1828-81<sup>54</sup> 伊予松山藩主松平定通の養女、薩摩藩主島津斉宣男の勝之進(松山藩主12代藩主松平勝喜1835-1856)と結婚、歌人、「雅子日記」(1864)著者の久松邦子(松山14代藩主松平定昭の正室:貞恭院)は娘、[雅子(;名)の別名/法号]初名;鍾れん/鶴姫、別名;久子、法号;和光院
- T4015 **政子**(まさこ・物集もづめ、)1834- 1900<sup>67</sup> 豊後速見郡杵築の物集高世たかよの後妻、先妻春子は1851(嘉永4)没、歌人
- Q4060 **雅子**(まさこ・田中たなか、初名;さと)1841-1911<sup>71</sup> 尾張名古屋の歌人;伊東祐命すけのぶ門
- S4030 **昌子**(まさこ・藤田ふじた、旧姓;鎌田)?-? 京の歌人;香川景恒かげつね(1823-65)門、摂津兵庫の酒造家京屋三五郎の後妻
- S4088 **眞佐子**(まさこ・三輪田みわだ、中条、宇田淵女)1843-1927<sup>85</sup> 母;瀧野、京の生、津山藩漢学者中條侍郎の養女/1855(安政2)漢学・詩文・書画;梁川星巖・紅蘭夫妻門、歌;高橋武之門、自称;[梅野女史]、1867父の友人岩倉具視の内殿侍講;岩倉家子女教育、1869(明治2)伊予久米村の三輪田元綱(1828-79)と結婚;東京に移住;4人出産;3人夭折、1878(明治11)松山移住;翌年夫没、塾明倫学舎を開校/84愛媛県師範学校小学校取締、師範学校漢学教師、1887息子元孝と東京に移住;神田に[翠松学舎]開校、1890元孝病没/93教え子山下富五郎(三輪田元道)を養子/東京音楽学校文学講師、東京府高等女学校の漢文・作文講師/1901日本女子大学校漢学教授/1902(明治35)麹町に三輪田女学校創立;校長、良妻賢母教育提唱/愛国婦人会等で活動、「女子教育論」「女子の本分」「女子修身書」「新家庭訓」「女子の務め」著、「梅野女史詩文集」「眞佐子集」;養子元道編  
[眞佐子(;名)の別名]梅野/正子/梅子
- 正子(まさこ・川喜田) → 遊堀(ゆか・川喜田かわきた/竹川、遊堀女、歌) G 4 6 7 7
- 正子(まさこ・宇田) → 眞佐子(まさこ・三輪田みわだ/中条/宇田、漢学/教育) S 4 0 8 8
- 雅子(まさこ・堀) → 通年子(常子つねこ・堀、歌人) C 2 9 0 6
- 雅子(まさこ・矢部) → 宝樹尼(ほうじゆに、定衡妻、能書家/歌) G 3 9 0 2
- 雅子(まさこ・稲葉) → 鏡子(けいこ・戸田とだ/稲葉、藩主室/歌) N 1 8 8 4
- 政子(雅子まさこ・杉浦/羽倉) → 真崎(まさき・杉浦/羽倉、歌人) C 4 0 2 0
- L4024 **まさご**(真砂;組連) ? - ? 江戸下谷御徒町の川柳の組連、取次;1760「川柳評万句合」入;取次例;[こら程が段々替はる釣のうそ](1760万句合/前句;めつさうな事々々)、(こら程は「これほど」の訛/話すたび大きくなる釣りの自慢話)
- L4038 **まさご**(;組連) ? - ? 江戸青山の川柳の組連、取次;1779「川柳評万句合」入;

取次例;[あぶないよそこに御出おいと守りはたれ](79万句合/前句;やさしかりけり々)  
(子守の小娘が子に優しく声をあけ目を離さずに小用)

真砂庵(まさごあん) → 千則(ほしり・2世桑楊庵/浅草、狂歌) E 3 9 2 1

真砂庵(2世まさごあん) → 仁義道守(じんぎのみちもり、狂歌/絵師) N 2 2 7 9

真砂園(まさごえん) → 尚忠(ひさただ・山田やまだ、藩士/国学/歌) B 3 7 3 1

L4936 真砂組(まさごぐみ;組連) ? - ? 江戸大名小路(丸の内)の雑俳の組連、

取次;1757「2世収月評万句合」/58「菊丈評万句合」入、

取次例;[忠盛に思ひがけなく抱付かれ](1757万句合/前句;こぼし社こそすれ々々)、

(白河院の供をし法師姿の鬼を抱き留めその功で祇園女御を賜る/ここは法師の心)

C4049 雅言(まさこと・まさとき・源みなもと、雅具男)1227-1300<sup>74</sup> 母;土御門院播磨局、廷臣;1266参議/75正二位、  
1285権大納言;同年辞退、歌人;1251影供歌合参加/1268「亀山殿御幸記」著、「雅言卿記」著、  
1265白河殿七百首参/76現存三十六人詩歌入/和漢兼作集・別本和漢兼作集・夫木抄に入集、  
勅撰14首;続古今(603/1216)続拾(97/836/949/982)新後撰(524/1579)玉(2首)新拾以下  
[潮風もよや寒からじ沖つ波高師の浜に千鳥なくなり](続古今;六冬603)、  
(詞書;建長五年[1253]三首歌講じ侍りしに 寒夜千鳥)

T4017 匡琴(まさこと・毛利もうり/本姓;大江、)?-1798 近江彦根の和学者/歌人:[彦根歌人伝・亀]入、  
[匡琴(;)名)の通称/号]通称;弾之進/十郎次/十兵衛、号;七草園

L4012 政言(まさこと・佐野、通称;善左衛門、政豊男)1757-84<sup>切腹28</sup> 旗本幕臣;1773家督、天明事件;  
1784江戸城中で田沼意知を脇差で襲撃;8日後意知の死により切腹/のち世直大明神と称;  
のち田沼騒動に脚色された(石部琴好「黒白水鏡」以下)

S4031 雅言(まさこと・藤田ふじた、)1786-1854<sup>69</sup> 周防岩国藩士、国学・歌;森脇惟久門、  
[雅言(;)名)の通称/号]通称;孝次郎/半右衛門、号;葛潭

P4096 雅言(まさこと・齋藤さいとう/本姓;菅原、旧姓;森山)1819-1876<sup>戦死58</sup> 肥後熊本藩士、  
国学;林有通(桜園)門;高弟、博識;皇典・蘭学に及ぶ、師没後;塾生を指導、  
維新後;肥後飽託郡竜田神社祠官、1876(明治9)敬神復古の敬神党に参加、  
太田黒伴雄らと熊本鎮台を襲う(神風連の乱);戦死、  
[雅言(;)名)の通称]卯三郎/久三郎/求三郎<sup>きゅうざぶろう</sup>

R4097 昌言(まさこと・原はら、)1821 - 1886<sup>66</sup> 信濃小県郡塩尻村の庄屋、歌人;千種有功ありこと門、  
[昌言(;)名)の通称/号]通称;景平/与左衛門、号;天籟/笛仙

C4050 正辞(まさこと・木村きむら、清宮せいみや仁右衛門男)1827-1913<sup>87</sup> 下総成田の人;1842江戸に出る、  
妙法院宮一品親王家臣木村孝之助の養嗣子、;伊能穎則<sup>ひでり</sup>門、漢学;寺門静軒門、  
音韻学;岡本保孝門、1863和学講談所会頭助役/67水戸藩駒込文庫に勤務/維新後文部省、  
万葉集の諸本蒐集と訓釈など、1854「万葉集字音辨証」/55「万葉集文字辨証」「万葉集鳧臚」、  
1855「万葉集三辨証」「万葉集訓義辨証」60「万葉集古注日本紀年紀考」62「万葉集攷文」、  
1860-67「万葉集略解補正」/65「風土記逸文」67「万葉集書目」編/67「万葉集読例」、  
「櫨斎<sup>つきや</sup>集」「櫨斎後集」「転音攷」「転音攷存疑論」「万葉譌字画策」「辛酉雜記」外著多数、  
[正辞(;)名)の幼名/字/号]幼名;莊之助、字;埴麿、  
号;櫨斎<sup>つきや</sup>、集古葉堂/円珠経屋/三十二草庵/爾谷

正言(まさこと・大江) → 正言(まさとき・大江/弓削、歌人) E 4 0 3 0

正言(まさこと・中根) → 正言(まさとき・中根なかね/平、歌人) M 4 0 6 3

雅言(まさこと・広安) → 雅言(まさとき・広安、歌人) E 4 0 3 9

C4051 雅子内親王(まさこないしんのう、醍醐天皇皇女、藤原師輔<sup>もろすけ</sup>の室)910-54<sup>45</sup> 平安期前期;911内親王、  
母源唱の女更衣周子(近江更衣)、931斎宮/936母の死で退下/師輔と結婚、高光/為光の母、  
通称;西四条斎宮、歌人、玉葉1613(;)藤原敦忠への返歌、  
[折らざりし時より匂ふ花なればわがためふかき色とやはみる](玉葉;恋1613/返歌、  
敦忠の贈歌;玉葉1614[匂ひうすく咲ける花をも君がため折りとしをれば色まさりけり])

正子内親王(まさこないしんのう) → 正子内親王(しょうしないしんのう、淳和天皇皇后;809-879) S 2 2 7 9

正子内親王(まさこないしんのう) → 正子内親王(しょうし、後朱雀院皇女/斎院1045-1114) S 2 2 8 0

荣子内親王(まさこないしんのう) → 荣子(えいこ・二条じょう、霊元天皇皇女/歌) U 1 3 1 7

正五郎(まさごろう・太田) → 翠陰(すいゐん・太田おた、儒者/藩士) 2 3 2 5



正五郎(まさごろう・齋藤) → 勝明(かつあき・齋藤さいとう、国学/本草家) N 1 5 2 2  
 正五郎(まさごろう・後藤) → 祐道(すけみち・後藤ごとう、藩士/国学者) I 2 3 5 1  
 正五郎(まさごろう・小野) → 損庵(そんあん・小野おの、藩士/儒/詩文) B 2 5 4 4  
 正五郎(まさごろう・後藤) → 祐良(すけよし・後藤ごとう、文筆家) D 2 3 7 1  
 正五郎(まさごろう・松井) → 隆暢(たかのぶ・松井まつい、里正) Z 2 6 5 3  
 正五郎(まさごろう・本多) → 成紘(なりただ・本多ほんだ、陪臣/歌人) O 3 2 7 3  
 政五郎(まさごろう・都築/畠中) → 胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観斎、狂詩) 3 1 2 2  
 政五郎(まさごろう・伊達) → 村良(むらかた・むらよし・伊達だて、領主) D 4 2 1 1  
 政五郎(まさごろう・伏屋) → 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4  
 政五郎(まさごろう・久須美) → 祐邦(すけくに・久須美/久住/藤原、幕臣) G 2 3 2 9  
 政五郎(まさごろう・福島) → 水樹(すいじゅ・福島ふくしま、俳人) E 2 3 6 4  
 政五郎(まさごろう・山田) → 兵左衛門(へいざえもん・山田、藩士/儒) 2 7 3 6  
 政五郎(まさごろう・高木) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6  
 雅五郎(まさごろう・大沢) → 鼎斎(ていさい・大沢おおさわ、儒者) 3 0 8 9  
 雅五郎(まさごろう・久松) → 風陽(ふうよう・久松/菅原/菅、幕臣/尺八) B 3 8 0 7  
 雅五郎(まさごろう・黒瀬) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2  
 雅五郎(まさごろう・熊谷) → 直治(なおはる・熊谷くまがい/益田、藩士/国学) L 3 2 9 8  
 正左衛門(まさざえもん・山崎) → 以仙(いせん・山崎やまざき/高滝、俳人) B 1 1 0 3  
 正左衛門(まさざえもん・林) → 以成(ゆきなり・林はやし、藩士) F 4 6 1 5  
 正左衛門(まさざえもん・出浦) → 清命(きよのり・出浦いでうら、郷土史家) Q 1 6 1 4

- C4052 **雅定**(まささだ・源みなもと、雅実まさざね男) 1094-1162<sup>69</sup> 平安後期廷臣;1119参議/36正二位/50右大臣、  
 1154出家、有職故実精通;出家後も朝儀に関与、歌人/仏道/管弦;笙・胡飲酒こんじゅの舞、  
 藤原顕季の女婿の縁で六条藤家の歌合に参加、1116/8自邸歌合催、1116鳥羽殿北面歌合参、  
 1116実行家歌合・18人鷹影供・21内蔵頭長実家歌合・34頭輔家歌合・35家成家歌合参加、  
 今鏡・古事談・古今著聞に逸話、後葉集入/1165[続詞花集]入(中院入道右大臣名)、  
 勅撰20首;金(7首70/76/90/120/151/361/427)詞花(95/245)千載(4首53/648/917/975)、  
 新古(827/1881)新勅(1334)新後撰(651)以下、  
 [散りはてぬ花のありかを知らすればいとひし風ぞ今日はうれしき](金葉;春70)  
 [夏の夜はあくるもしらず郭公なきて過ぎぬる空をながめて](続詞花;夏132)、  
 [雅定(;名)の通称/法名]通称;中院右大臣/中院入道右大臣(右府)、法名;蓮如/法如  
 C4053 **政定**(まささだ・裏多/浦田うらた、通称;太郎太夫)?-? 鎌倉期1321-32頃伊勢度会の神職;内宮権禰宜、  
 1332「詔刀師沙汰文」著  
 C4054 **正貞**(まささだ・久保くぼ、通称;金左衛門、正元男)?-1677 母;矢部定清女、江前期幕臣;1643右筆、  
 1664父・兄正永と同様に諸家領地の御朱印書記、のち寺社領地の御朱印書記、  
 「書式日用集」「座右抄」「書札」著  
 T4093 **昌貞**(まささだ・小林こばやし、本姓;藤原)?-? 江前期;武士/歌人、浅井忠能[難波捨草]20首余入、  
 [海原やおなじ緑に末遠く浪路もかすむ松が浦島](忠能[難波捨草]春24)  
 C4055 **政定**(まささだ) ? - ? 江前期京の俳人;初め談林の高政門/のち信徳門、  
 1678「京三吟」信徳・仙庵と興行、1679高政「中庸姿つねのすがた」独吟歌仙入、  
 1681信徳「七百五十韻」参加、  
 [きのふ見し花の枝折しをりや魚の骨](中庸姿;独吟歌仙発句)  
 N4007 **正貞**(まささだ・明石あかし、通称;助九郎/号;友月)?-1746 筑前の和学者/歌  
 C4056 **正登**(まささだ・新見しんみ、通称;愛之助、正恒男/本姓;源) 1766-? 1795存 幕臣/甲斐守・長門守、  
 1781御小納戸/小姓/放鷹・流鏑馬の射手/86家督嗣/93小十人頭/95目付、「新見記録」著、  
 妻;松平田宮恒隆女/正路の父  
 R4099 **正貞**(まささだ・原田はらだ、鶴斎じゃくさい男)?-? 江後期;越後蒲原郡中島村の医者;父門、詩歌人  
 伯父等睡(1756-1808/庄屋)の甥、父は良寛の学友、  
 [正貞(;名)の初名/通称]初名;維則、通称;太一  
 T4064 **正貞**(まささだ・行弘ゆきひろ/本姓;中原、通称;紀伊守) 1775-1840<sup>66</sup> 筑前志摩郡の神職;  
 志摩郡馬場村の六所大明神の神主、国学者;1835平田篤胤[気吹舎]入門

- T4073 **正貞**(まさだ・吉村よしむら、)1822-1882<sup>61</sup> 近江坂田郡の庄屋、国学者/歌人、  
歌:神職の祝部星船せいらい(梅辻希烈まれつら)門、歌;[鴉のうみ]入  
 正定(まさだ・黒田) → 正足(まさたり・黒田/源、藩士/詩歌) D 4 0 6 8  
 正定(まさだ・伊勢村) → 正定(せいてい・伊勢村、俳人/狂歌) G 2 4 9 3  
 正貞(まさだ・久野) → 其律(きりつ・永日庵えいじつあん、狂歌) D 1 6 7 2  
 正禎(まさだ・二宮) → 正禎(まさただ・二宮にのみや、医者/国学) L 4 0 8 0  
 正楨(まさだ・松田) → 自然斎(じねんさい・松田/松、儒者) V 2 1 3 9  
 正詳(まさただ・有房) → 正詳(ただだ・有房ありふさ、歌人) V 2 6 3 1  
 政貞(まさだ・三井) → 高延(たかのぶ・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 8  
 政定(まさだ・山下) → 政彦(まさひこ・山下やました、庄屋/歌) L 4 0 7 7  
 昌貞(まさだ・山県) → 大武(だいに・山県、儒医/尊王家) C 2 6 0 3  
 真幸(まさち・長瀬) → 真幸(まさき・長瀬、国学) 4 0 0 8
- C4057 **政郷**(まささと・北畠きたばたけ、初名;政具、教具のりとも男/本姓;源)1449-1508<sup>60</sup> 伊勢の武将;  
 1471伊勢国司、父を継嗣;1478従四上右近衛権中将;  
 北伊勢の覇権をめぐり一色義春・長野政高と争う、  
 1486家督を息子材親もちかに譲渡、1488室町幕府より諸事詰責される、法号;高德院、  
 連歌:1470教具催「北畠家連歌合」参加(;35句入)、新菟玖波5句入、  
 [人に見せばや我が袖のうへ  
 あはぬ世にたへて待つとはよも知らじ](北畠家連歌合;恋百四十一番左/右は宗祇)
- T4034 **正郷**(まささと・安原やすがら、善兵衛正品2男)1722-1801<sup>80</sup> 備中賀陽郡清水村の醸造業[清水屋]の生、  
 品紹の弟、分家し酒造業[角清水屋]、妻;池田家の女・荒木家の女、国学者/歌人、  
 [類題吉備国歌集]1首入、貞四郎正業(本家を相続)の父・佐伯正条まさえだの養父、  
 [正郷(;名)の字/通称]字;子方、通称;貞八郎
- C4058 **正郷**(まささと・久貝くがい、正順男/本姓;藤原)1729-70<sup>42</sup> 幕臣:兄正保の養子/1744家督嗣;5千5百石、  
 將軍家重に出仕、1749日光門主に随い下野に赴任、「竹馬の鞭」著、  
 [正郷(;名)の通称/法号]通称;八十五郎やごろう/忠左衛門、法号;道吹どうすい
- C4059 **昌郷**(まささと/まさくに・堀内ほりうち、三稜みくり[長郷]男)1791-1846<sup>56</sup> 伊予和気郡興居島の庄屋、  
 郷士、国学:父門/藤井高尚門、歌;石井義郷門、源氏物語を研究、匡平の父、  
 1840「葵の二葉」(18巻)、「底廼玉藻」(10巻)著、匡平が両書のまとめ「源氏物語比母鏡」刊、  
 歌集「堀内三稜翁詠草」著、  
 [咲けばかつ散るものながらいかなれば花のわかれをわすれかぬらん]、  
 [昌郷(;名)の幼名/通称/号]幼名;猶蔵、通称;五兵衛、号;松陰/三稜(さんりょう;父の号踏襲)
- M4064 **政郷**(まささと・小林こばやし) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [縫ひきせん人しなれば古衣やれたるみても恋しかりけり](大江戸倭歌;恋1621)  
 当太(まささと・杉山) → 大象軒(たいぞうけん・杉山、兵法家) K 2 6 5 7
- C4060 **雅実**(まさざね・源みなもと/久我こが、顕房男/母隆俊女)1059-1127<sup>69</sup> 久我家の祖;久我太政大臣と称す、  
 1077参議;従三位/1113従一位/22太政大臣(源姓で初)/24出家、1105・07「雅実公記」、  
 1105・07「伊勢公卿勅使記」、舞楽に精通、歌人;1078内裏歌合など参加、  
 妹賢子と堀河朝歌壇を推進;「和歌合抄」編纂作業(のちの「類聚歌合」の礎)、万代集入、  
 勅撰6首;金葉(31)千載(18)新古今(797)新勅撰(55)新千載(20)、  
 [白河の流れ久しき宿なれば花の匂ひものどけからまし](金葉;31、1124白河殿御幸)、  
 父 → 顕房(あきふさ・源、右大臣/歌人) 1 0 1 2  
 母 → 顕房室(あきふさのしつ・源、隆子、歌人) 1 0 8 1  
 妹 → 賢子(けんし、白河天皇中宮/堀河天皇母/歌人) J 1 8 2 9
- C4061 **昌実**(まさざね・河内山こうちやま) ?-1687 加賀金沢藩士/老臣長連頼に出仕;禄百石、  
 足輕頭、1675「前田創業記」著、  
 [昌実(;名)の通称/号]通称;与五右衛門、号;加隠翁徐行子
- Q4068 **正実**(まさざね・高野たかの、)1755-1810<sup>46</sup> 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、  
 [正実(;名)の字/通称/号]字;華卿、通称;七郎兵衛、号;錦江

- C4063 **正毅**(まさざね・堀田ほつた、正邦男/本姓;紀)1762-1819<sup>58</sup> 近江宮川藩主;1772襲封;従五下豊前守、1786大番頭/97奏者番/1815隠居、堅田藩主堀田正敦と「寛政重修諸家譜」編纂、文学・諸芸に通ず;笛を嗜む、1799望遠鏡で月を観察;藤堂家臣秦保寿(呉水)に写生させる、1791「三子孝状」94「林田建学記」1807「笛製考」12「曹大家女和解」、「瓢中詩話雑記」外著多、[正毅(;名)の通称/法号]通称;門次郎/門二郎/三四郎、法号;元方院、母;八巻氏、正民の父
- M4061 **正毅**(まさざね・山本やまと/本姓;源)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[つれなくてよそにも年をふる川や人の心の二もとの杉](大江戸倭歌;恋1466/久恋)
- R4002 **正実**(まさざね・戸沢とさむ/本姓;平、正令まさのり長男)1832-96<sup>65</sup> 出羽新庄藩11代藩主;1843父没;襲封、幼少(12歳)のため隠居の祖父正胤が補佐;正胤没後は母の桃令院(貢子)が補佐、1846(弘化3)から家老吉高勘解由により藩政改革、1868戊辰戦争で新政府軍に協力、庄内藩に敗北;奥羽越列藩同盟に参加;のち戦線離脱/激怒の庄内藩により落城、城下も灰燼に化し久保田(秋田)藩に逃走、維新後;戦線離脱を評価され新庄知藩事、1870(明治3)新庄城復旧;政庁と知藩事屋敷を城内に戻す/71藩知事免職;東京に住、歌人[正実(;名)の通称]千代鶴(父の称)/上総介/中務大輔
- 雅信(まさざね・源) → 雅信(まさのぶ・源、歌人) F 4 0 4 9
- 正実(まさざね・伊藤) → 忠兵衛(ちゅうべゑ・伊藤、家老/弓術) G 2 8 8 3
- 正実(まさざね・蓮田) → 市五郎(いちごろう・蓮田はすだ、勤王派) G 1 1 1 7
- 正真(まさざね・鈴木) → 周水(しゅうすい・鈴木すずき、書家) X 2 1 6 7
- 政実(まさざね・小倉) → 三省(さんせい・小倉、藩士/儒者;南学) 2 0 5 3
- 政実(まさざね・兼松/山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9
- 眞実(まさざね・鈴木) → 眞実(まこと・鈴木/穂積、藩士/国学) C 4 0 6 2
- P4094 **眞指**(まさ・齋藤さいとう、途興みちおき男)1822-1904<sup>83</sup> 武蔵多摩郡の名主の家の生/国学者、歌;井上頼国門/国学;平田鉄胤門、[真指(;名)の別号/通称]初名;邦矩、通称;源左衛門(父の称)
- C4064 **政二**(まさじ・佐々木さき、名;正朔/蘭平)1792?-? 1855<sup>存</sup> 武蔵川越藩士、俳人;播磨の玉屑門、のち雨塘門、致仕後文政1818-30頃上総大多喜移住;門人多数、55常陸霞ヶ浦に退隠、1827「大道の鯰」編、43暁台「秘註俳諧七部集」増補刊行、俳説「俳道系譜」(:55亀ト編刊)、[政二(;号)の通称/別号]通称;小主水/勘兵衛、別号;希雄/露柱庵/痴泉/泉山/鉄脚道人/北翁/霞江/霞柱庵
- 真三知(まさち・小原) → 実風(さねかぜ・小原/物部、神職/国学) K 2 0 8 0
- 昌鹿(まさしか・奥平) → 昌鹿(まさか・奥平おくだいら、藩主/歌人) B 4 0 6 3
- C4065 **政成**(まさしげ・まさなり・源みなもと、経任つねとう男)?-1082<sup>?</sup> 平安後期廷臣;式部大丞/式部大夫、従五下勘解由判官、歌人、後拾遺637/747、[うれしきを忘るゝ人もあるものをつらきを恋ふるわれや何れなり](後拾遺;恋637)
- U4024 **政重**(まさしげ・小槻おつき、三善国信男/実兄小槻盛仲養子)1094-1144<sup>51</sup> 平安後期廷臣;1122大夫史、20年に亘り大夫史;その間に修理左宮城判官兼算博士、丹後・丹波・能登・播磨の介、1142摂津守/正五下、忠義・正直さの人物、1142(康治元)近衛天皇大嘗会和歌の宣旨を弁官源雅経より伝達受;頭輔に奉ず(袋草紙)、1144(康治3)没;官の上司との微妙な関係死(自害)か、師経・永業の父、死に際し兄弟に遺言;[長男師経を大夫史として後継、次男永業は官文書の進退を担う]ことを起請
- C4066 **雅重**(まさしげ・源みなもと、従三位の行宗男/母;源基綱女)?-1163<sup>?</sup> 平安後期廷臣;従五上/斎院長官、紀伊守/中務権大輔、歌人、妻;平忠盛女、基宗・基能・基行の父、1160清輔家歌合左方・清輔家後度歌合参加、続詞花集3首・万代集入、勅撰;千載集1167、[駒並なめていさ見にゆかむ立田川白波寄する岸のあたりを](千載;十八1167)、(清涼殿の「小板敷いたじき」を句の上にすえた折句;旅の心を詠む)(本歌;駒並めていざ見にゆかむ故里は雪とのみこそ花は散るらめ[古今;読人知らず])[内裏百首歌に はじめの恋の心を、我が恋は岩まをくぐる山水のもらすにつけて袖ぞぬれける](続詞花;恋491)



- C4067 **正成**(まさしげ・楠木/楠くすのき/本姓;橘、正遠男?) 1294?-1336戦死43? 武将;兵衛尉/左衛門尉、  
従五下摂津守/河内守、1331後醍醐天皇に応じ挙兵;赤坂城・千早城を拠点に幕府軍と戦闘、  
建武新政下の中枢;河内の国司守護/和泉守護/足利尊氏の入京を防ぎ戦う;湊川で戦死、  
1335「南木三伝書」、「楠桜井書」「楠君遺事」著、  
正季まさすの兄、正行まさつら・正時・正儀まさのりの父、  
[正成(;名)の幼名/通称]幼名;多聞丸、通称;大楠公だいなこう
- C4068 **正繁**(まさしげ) ? - ? 連歌;1578秀吉「羽柴千句」昌叱らと参加
- C4069 **政重**(まさしげ・本多ほんだ/倉橋/直江、幕臣本多正信男) 1580-164768 倉橋長右衛門の養子、  
兄正澄の養子、幕臣;徳川家康に出仕、1597秀忠の乳母子を斬り逐電;  
変名で伊勢・京の諸家に出仕、1602加賀前田家に出仕、  
1604羽前米沢藩の直江兼続の女婿;直江大和・安房と称す、1611前田家に再出仕、  
前田家藩領の件を幕府と折衝/1615従五下安房守、加賀金沢藩国老、  
金沢藩重臣本多家の家祖となる、「百戦百勝伝」著、  
[政重(;名)の別名/通称/号/変名]別名;長吉(;一時)、通称;長五郎/山城/大和/安房、  
号;大夢、変名;正木左兵衛、法号;回仙院
- C4070 **正重**(まさしげ・高島たかしま、別名;重漸) ?-? 1631存 土佐長岡郡江村郷の武将/長宗我部元親の近習、  
長宗我部滅亡後は山内家に出仕、文筆・書に長ず、1631軍記「元親記」著(元親33回忌に著)
- C4071 **政重**(まさしげ・井上いづえ、清秀男) 1585-166177 幕臣;徳川秀忠に出仕;1603書院番/扶持2百俵、  
大坂陣に出陣/家光の代に大目付;島原乱に活躍/1640下総高岡藩主1万石/従五下筑後守、  
最初の宗門改役に就任;鎖国・切支丹弾圧政策を推進/1660致仕、「契利斯督記」著、  
[政重(;名)の通称/号]通称;清兵衛、号;幽山(;致仕後の号)、法号;幽山日性玄高院、  
遠江横須賀藩主井上正就の弟
- C4072 **正重**(まさしげ・山本やまと、号;友心) ?-? 江前期伊勢の歌人;良恕法親王[1574-1643]門、  
「山本正重聞書」著
- C4073 **正重**(まさしげ・山田やまだ、通称;彦右衛門) ?-? 江前期大和郡山の和算家、  
1659刊「改算記」編(塵劫記の垂流;塵劫記の誤を指摘)
- C4074 **正重**(まさしげ・津田つだ、川北道甫男) 1617-170286 津田小平次興庵の養子/加賀金沢藩士、  
前田利恒に出仕;千石/御先筒頭/御馬廻頭/御算用場奉行/1680二百石加増、93致仕、  
1678「加越能三州絵図調様品品帖」著、  
[正重(;名)の通称/号]通称;宇右衛門、号;計斎
- K4098 **政重**(まさしげ・姓不詳) ? - ? 江前期安藝広島の俳人;貞門系、  
1663成庵「埋草」67湖春「続山井」入
- C4075 **政茂**(まさしげ・野村のむら) ? - ? 江前期常陸茨城郡小鶴村の和算家、  
中西流和算;村松茂清門、1715「銀鐐掛判定法」、「利足積歳定法」「三法秘伝」著
- C4076 **正翼**(まさしげ・富永とみなが、名;正美) 1698-177174 大和郡山藩医/白話・詩文に通ず、  
「医範」「逍遙楼文集」「逍遙随筆」「長南閑話」「長南矢口」「肘後雑方」著、  
[正翼(;字)の別字/号]別字;君巖、号;長南/玄東
- N4076 **正稜**(まさしげ・犬塚いづか、正清2男) 1709-36早世28 父は近江彦根藩家老、歌人  
[正稜(;名)の別名/通称]初名;求之助、通称;豊五郎
- C4077 **雅重**(まさしげ・飛鳥井あすかい、雅香まさか男/本姓;藤原) 1721-7959 母;飛鳥井雅豊女、1745従三位、  
1747侍従/50正三位/右衛門督/52(宝暦2/32歳)参議/54近江権守/55左衛門督;  
東照宮奉幣使、1756(宝暦6)権中納言;従二位/63正二位/64(明和元)大嘗会国郡卜定参仕、  
1768(明和5/48歳)権大納言;72辞任/79(安永8)従一位;没、  
歌;有栖川宮職仁よりひと親王門、1770「有馬六景」著
- Q4015 **雅重**(まさしげ・島しま、本姓;出雲臣) 1749-9749 肥前長崎の伊勢宮いせのみや神社の神主、  
国学者;本居宣長門、歌人、  
[雅重(;名)の通称] 八百道
- Q4008 **正重**(まさしげ・清水しみず、通称;甚吾) 1760-180445 近江彦根藩士、国学者/歌;彦根歌人伝・亀]入
- L4088 **正重**(まさしげ・武重たけしげ/本姓;児玉) 1773-185381 信濃小県郡長窪の商家/国学者;清水浜臣門、  
本居大平門、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、

[正重(；名)の別名/字/通称/号]別名；常穀つねよし/正穀まさよし、字；伸畿、  
通称；和吉/左内/勘右衛門、号；桃堂/休民/桃斎、屋号；亀屋

P4022 **正重**(まさしげ・菊池きくち/本姓；藤原)1800-1858<sup>59</sup> 伊予風早郡喜木きき八幡神社神主、  
国学；二宮正禎門、

[正重(；名)の通称] 和泉/掃部之助かもんのすけ

L4090 **政成**(まさしげ・内藤ないとう、彦根藩主井伊直中8男)1802-60<sup>59</sup> 母；八千代、  
1812三河挙母ころも藩主内藤政峻まさみちの養子；政峻長女の甲子と結婚、  
1813(文化10)養父隠居；家督継嗣；三河挙母藩主/従後下/兵部少輔/山城守/摂津守、  
財政再建のため倭約令発布/1818オランダ式軍制採用/21諸費倭約25条を制定；  
矢作川氾濫など天災続き失意のうちに1830(文政13)実弟政優に家督譲渡し隠居(；晃堂)、  
実弟井伊直弼が暗殺された後に没、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[吉野山けふさへ雪の降る里も木毎の花の春は来にけり](大江戸倭歌；23初春)、

[政成(；名)の幼名/法号]幼名；昌之進、法名；晃堂、法号；潤徳院

R4021 **正誉**(まさしげ・永井ながい、通称；繁太郎)1814-37<sup>早世24</sup> 信濃筑摩郡の歌人；香川景樹門

C4078 **政重**(まさしげ・桜井さくらい、別名；豊記とよのり、政超男)1819-91<sup>73</sup> 陸奥(岩代)会津藩士/神道家；  
神道；橋爪幸求こうきゅう門/吉川富之丞門、卜部流を修学、

幕臣；幕府神道方に出仕；1852神道師範、江戸住、

維新後は会津猪苗代の磐椅いばし神社祠官/大教正、「大祓之註」著、

[政重(；名)の号]厳櫃舎主人いつかしのやしゅじん

P4030 **政重**(まさしげ・北村きたむら、)1827-1880<sup>54</sup> 近江滋賀郡の伊豆神社の神職、国学、  
歌人；[鳩のうみ]入、北村政従まさより(1650-1719/佐太夫/幽安)の子孫、

[政重(；名)の通称/号]通称；佐太夫、号；幽鐘ゆうしょう/曇鏡どんきょう

N4060 **将茂**(まさしげ・石附いづき、)1827-1885<sup>59</sup> 越後新潟の布帛(呉服)商を継嗣；屋号風間屋、  
歌人；岡崎真弘門、戊辰戦争時に軍病院用達；功により苗字許可、1871戸長/県会議員、  
唐楽・能・狂言・割烹・礼式・詩を修学、俳人；月窓庵鬼磨門、  
1857(安政4)同志と和楽会(のち能楽会)創設、

[将茂(；名)の通称/号]通称；五助/五作、号；竹人/嫩柳舎どんりゅうさい柳厓/有君舎笑生/平眠

C4079 **雅重**(まさしげ・岩井いはい、重遠男)1851-86<sup>36</sup> 上州碓氷郡新井村の和算家/詩文；父門、  
暢発学校で修学/父創立の岩井学校や松枝小学校で教鞭、「岩井雅重解義」「浅間抄解」著、  
「按分通析比例」「員際抱斜術起源」「浅致算法第十七番解」1867「菱内容大中小四円解」外多、

[雅重(；名)の幼名/号]幼名；喜四郎、号；雲泉/品山/落山軒、 孚まことの兄弟

正成(まさしげ・服部) → 正成(まさなり・服部半蔵、武将；伝説化) K 4 0 9 6

正成(まさしげ・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9

正翼(まさしげ・浅井) → 紫山(しざん・浅井あさい、藩医者/詩・書) T 2 1 5 9

正重(まさしげ・日根) → 九郎兵衛(くろべえ・日根ひね、幕臣/料理) D 1 7 5 5

正重(まさしげ・片山) → 金弥(きんや・片山かたやま、天文暦学者) R 1 6 9 3

正重(まさしげ) → 正重(せいじゅう、俳人；犬子集入) C 2 4 0 2

正重(まさしげ・古妻) → 正重(せいじゅう・古妻こつま、俳人；生玉万句入) D 2 4 6 2

生重(まさしげ) → 生重(せいじゅう、俳優、文人) C 2 4 0 4

政重(まさしげ) → 政重(せいじゅう、俳人；犬子集入) C 2 4 0 3

政繁(まさしげ・渡辺) → 利容(としかた・渡辺わたなべ、藩士) M 3 1 1 8

雅重(まさしげ・源) → 良空(りょうくう；法諱、廷臣/法印/琵琶) H 4 9 1 3

雅重(まさしげ・荒井/吉田) → 六朶園二葉(ろくだんふたば、商家/狂歌) 5 2 9 8

Q4037 **正静**(まさしげ・鈴鹿すずか、)1837-1921<sup>85</sup> 京の廷臣；有職故実家、1865(慶応元)神祇少祐、  
1914(大正3)大嘗祭の悠紀ゆき・主基すき田の斎田点定の儀に古代以来の亀卜の法を実施、  
京都府会議員

Q4097 **正静**(まさしげ・椿つばき、正舎まさや[1811-73]男)?-1914 長門阿武郡徳佐村の庄屋の家、  
赤間神宮神職、国学/歌；近藤芳樹門、

[正静(；名)の通称] 左文太/才文太

正七(まさしち・宗巴屋) → 貞直(さだなお・笠井かさい、商家/詩歌) O 2 0 2 6

- 政七(まさち・八木岡) → 栗成笑(くりのなりえみ、赤坂、狂歌) B 1 7 7 7  
 正十郎(まさじゅうろう・菊地/林) → 欽次(きんじ・林、洋学/フランス語) R 1 6 1 1
- M4037 雅女(まさじょ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、狂歌の秋風女房(加保茶元成妻村田まさ女)と同じ?、  
 [妻恋によその袖までぬらせとや夕べの雨に鹿ぞ鳴くなる](大江戸倭歌;秋767/雨中鹿)  
 まさ女(政女まさじょ・下村) → まさ(下村、春坡妻、俳人) 4 0 8 6  
 まさ女(まさじょ・村田) → 秋風女房(あきかぜのによぼう、加保茶元成妻/狂歌) C 1 0 5 0  
 順女(まさじょ・志立) → 順女(よりじょ・まさじょ?・志立たち、歌人) K 4 7 9 4
- C4080 政次郎(まさじろう・内藤ないとう、) 1810-8172 肥前唐津藩士;代々藩主水野家の家臣、  
 1817藩主水野忠邦転封で遠州浜松に移住/45水野忠精転封で羽前山形移住、和算家、  
 1848原田能興より関流算学の免許目録を受/52藩の算学師範;勘定奉行兼任、  
 「算学好問」「内藤政次郎草稿」著、  
 [政次郎(;通称)の名/号]名;政氏、号;温和軒
- C4081 政次郎(政二郎まさじろう・福地ふくち、名;広延、佐藤重遠男) 1810-65切腹56 福地広貫の養嗣子;  
 1835家督嗣;常陸水戸藩士/小十人組/諸役歴任/1845神発流砲術指南、  
 藩主斉昭宥免のため奔走;謹慎、1849赦免復職/58鉄砲頭/軍用掛、  
 1864天狗党乱に支藩宍戸藩主徳川頼徳に従い敗戦、下総古河藩で禁固中切腹、  
 「神発流砲術要録」著、法号;鉄山道機信士  
 政次郎(まさじろう・内藤) → 正範(まさのり・内藤、幕臣/歌人) G 4 0 0 4  
 政次郎(まさじろう・歌川) → 国郷(くにさと・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 7 4  
 政次郎(まさじろう・横山) → 政和(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆) B 4 0 8 1  
 政次郎(まさじろう・周) → 文次右衛門(ぶんじえもん・周しゅ、通詞) F 3 8 6 0  
 政次郎(まさじろう・三浦) → 芳政(よしまさ・歌川うたがわ/三浦、絵師) H 4 7 1 5
- C4082 正季(まさすえ・藤原ふじわら、親信男/母;高階成順女) ?-? 平安後期廷臣;五位皇后宮少進、典薬助、  
 歌人;金葉535;[この世には山の端いづる月をのみ待つことにてもやみぬべきかな]、  
 (対山待月/この世は月の出を待つばかりで闇のうちに一生を終えるのではないか)
- C4083 雅季(まさすえ・清水谷しみずだに、実業さねなり男/本姓;藤原) 1684-174764 廷臣;1719参議/25権大納言、  
 1734正二位、1828「春日祭次第」、号;無量光院、実業さねひでの父
- C4084 賢陶(まさすえ・矢沢やざわ/滋野、矢沢[滋野]賢猛男) 1811-7565 信濃伊那郡殿岡村の庄屋;  
 屋号;公文所、国学・歌:本居春庭門・1852本居内遠門/1869平田鉄胤門、詩歌/手習師匠、  
 「おほりのちり」著、  
 [賢陶(;名)の幼名/通称]幼名;恒太郎/太郎、通称;太郎八郎/理左衛門/理
- C4085 正輔(まさすけ・藤原ふじわら、顕忠男) ?-? 平安期廷臣;摂津守、  
 歌;977三条左大臣頼忠殿前栽歌合参加(;右近少将名)、  
 [あまつ空雲間の月も水のおもにながれてちよのかげぞみゆらし](左大臣前栽歌合;68)
- C4086 雅輔(まさすけ・多治たじひ) ? - ? 平安期廷臣;大外記、  
 歌;977三条左大臣頼忠殿栽歌合参加(;木工頭もくのかみ名)、  
 [水の上にさやけき月のいとどしくたまさへそこに照すめるかな](左大臣前栽歌合;62)
- C4087 雅亮(まさすけ・源みなもと、装束師源雅職まさもと男) ?-? 平安後期廷臣;1127正六上/藏人/大舍人、  
 1169伊賀守、藤原頼長の家司/のち徳大寺左大臣藤原実能家に出仕、装束故実精通、  
 1176-84頃「雅亮装束抄」(;息亮行が押紙加筆/娘の甲斐掌侍職子が改訂頼末記を記す)
- C4088 政右(まさすけ・浅井あさい、浅井一政[今木源右衛門]男) 1624-9168 浅井長政の一族、加賀藩士;  
 前田光高に出仕/大小将組/馬廻組頭/1682致仕、歌;阿野季信門、/連歌/能書、茶を嗜む、  
 「わざとの日記」、「月村石の記」著、菊池武康の兄、  
 [政右(;名)の通称/号]通称;作左衛門/源右衛門、号;素庵
- C4089 方祐(まさすけ・諏訪すけ、友意男) 1646-1741長寿96 会津若松の神職、神道;吉川惟足・松平正容門、  
 垂加神道;山岡敬始門/歌・連歌;父・祖父休卜門・正親町おごまち公通門、諏訪社・土津社社司、  
 宮内少輔/従五位、京の吉田家で修学;正一位南宮諏訪大明神の位号を勅賜、  
 「夜雨詠草随筆」「三草物語」「白雲軒記」「連歌修行秘伝記」「会津諏訪宮由来記」外著多数、  
 [方祐(;名)の号] 用成/夜雨軒、神号;用成霊神



- C4090 **正相**(まさすけ・今村いむら、正員まさかず男/本姓;源)1663-1728<sup>66</sup> 近江佐々木氏の末裔、秋田藩士;  
1683家督嗣/旗奉行/境目奉行/1723致仕、武田流兵法・小笠原流礼法;父門、  
1726「石立問答」、「甲陽石立問答」「城取集」「軍法書註解附録」「魚鱗陣取図説」著、  
[正相(;名)の幼名/通称/号]幼名;久松/辰千代、通称;卯之助/喜左衛門/小隼人、  
号;江松軒/幽山、道号;節外
- C4091 **政祐**(まさすけ・榊原さかきばら、政邦男/本姓;源)1705-32<sup>早世28</sup> 播磨姫路藩主;遺跡襲封;  
従四下遠江守、式部大輔、「師律教戒」著;抜粋し家中に頒布、  
1729「榊原家三十三誌」、「榊原政祐侯政令」著、  
[政祐(;名)の通称]図書礼よ/小平太
- N4055 **昌祐**(まさすけ・石井いひ、清九郎重信男)1705-75<sup>71</sup> 筑前遠賀郡若松村の船頭/のち福岡藩士、  
歌人、通称;権太夫、妻;波子なみこ(歌人/1717-97)
- C4092 **正亮**(まさすけ・堀田ほつた/本姓;紀、堀田正武男)1712-61<sup>50</sup> 1719羽前山形藩主堀田正虎の養子;寄合、  
正虎の嫡孫正春没;1731山形藩主を襲封/従四下相模守、藩政改革/1741奏者番/寺社奉行、  
大坂城代/1745老中、46下総佐倉に転封/49老中首座/勝手掛;幕府財政を掌握、  
将軍家重を支える、学問奨励;渋井太室を重用、詩歌・俳諧を嗜む、「自詠集」「清風館詩集」、  
「清風館文集」「共公実録」/1737「日光山行記下書」著、  
[正亮(;名)の幼名/号]幼名;左源治、号;観瀾、法号:、母;小林氏、正順まさありの父
- C4093 **正亮**(まさすけ・村山むらやま) ? - ? 江中期武芸者/安陪立剣道:村山正勝門、  
村山正国に伝授、1769「安陪剣道残心録」、  
[正亮(;名)の通称/号]通称;忠左衛門、号;元鎬士
- M4094 **正右**(まさすけ・阿部あべ、正福2男)1724-69<sup>46</sup> 母;鳥居忠英女、備後福山藩3代藩主/阿部家宗家7代、  
1738伊予守/従五下、1748(寛延元/25歳)家督嗣;藩主、1752奏者番/56寺社奉行、  
1760京都所司代;従四下/後桜町天皇即位の祭礼を司る、1764(明和元)西丸老中、  
1765本丸老中、多く幕政に参加;出費多額;藩政に疎く財政逼迫;領民に負担、  
1753(宝暦3)領民の一揆発生;政策転換するが藩財政は窮迫/藩士の綱紀も弛緩、  
1769(明和6)没;3男正倫が家督嗣、正室;二本松藩主丹羽高寛女、正表・正固・正倫の父、  
[正右(;名)の別名/通称]幼名;富之助、初名;正治、通称;伊予守、法号;西閣院
- C4094 **備資**(まさすけ・中条ちゅうじょう)1732-1807<sup>76</sup> 羽前米沢藩士;代々侍組/藩史に通ず、1765隠居謹慎、  
「藤林年表」「藤林聞書」「家督先後録」著、  
[備資(;名)の通称/号]通称;長太良/兵四郎/周防/筑後/因幡、号;曙雪庵梅二/藤林とうりん
- P4042 **正扶**(まさすけ・雲井くもい、)1762-1842<sup>81</sup> 伊勢津の国学者;富樫広蔭門、  
智貞尼(たけ子1791-1871/81歳)の父、  
[正扶(;名)の通称]才二郎/宗十郎
- 04045 **正輔**(まさすけ・大堀おほぼり/本姓;源、)1767-1830<sup>64</sup> 近江彦根藩士、国学;本居宣長門、  
歌人;上京し賀茂季鷹・江戸で加藤千蔭門、北田重郷の師、  
[正輔(;名)の別名/通称/号]別名;弘足、通称;幾右衛門、  
号;竹園/緑竹園/竹の舎/竹圃/耳眠舎
- 04052 **正佐**(まさすけ・岡おか、)1768 - 1831<sup>64</sup> 備中倉敷の商家;銭屋(屋号)、国学・歌人、  
[正佐(;名)の通称/号]通称;義之助/総左衛門(;銭屋代々の称)、号;鳳毛
- R4079 **正弼**(まさすけ・服部はっとり/旧姓;長沼、)1790-1868<sup>79</sup> 伊予松山藩の家老服部正衆の養嗣子、  
服部正辰を祖とする服部図書家を継嗣;家老(養父正衆の代に一時断絶するも再興)、  
歌人、息子正名が家督嗣、  
[正弼(;名)の通称/号]通称;金之允/玄蕃、号;笑翁
- L4084 **方副**(まさすけ・今井いみ、通称;仁右[左]衛門)?-1865 佐渡羽茂郡赤泊の国学者;佐藤枝彦門、  
のち本居大平門、歌;大平「八十浦の玉」下巻入、  
[三冬つぎ春立ちしよりわが待ちし桜の花は咲きにけるかも](八十浦;723)
- M4052 **正補**(まさすけ・林田はやしだ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集、  
[とふ人の道や絶えなん初み雪もみちとともに積る山里]、  
(大江戸倭歌;冬1258/山家初雪)

- R4055 **正副**(まさすけ・則武のりたけ/本姓;平、) 1835-1907 73 武蔵葛飾郡の歌人;香川景恒(景樹男)門  
歌集「朝しほ」著、  
[ぬば玉のあかつき闇もなかりけりひとつきらめく星のひかりに](暁星/朝しほ・下)
- M4095 **正介**(まさすけ・北川きたがわ/栗生あお、正征まさゆき男) 1836-69 切腹 34 筑後久留米藩士;郡山奉行/国学者、  
1969(明治2)尊皇派により藩士十志士が徳雲寺で屠腹を命じられる;正介もその1人、  
他の十志士;今井栄(敬義)・喜多村弥六(吉尚)・吉村武兵衛(輝方)・久徳与十郎(重之)・  
石野道衛(氏恒)・松岡伝十郎(良実)・本莊忠太(一損)・梯讓平(讓)・松崎誠蔵(発)  
[正介(;名)の通称]角太郎/亙
- 04050 **雅輔**(まさすけ・太田おた、) 1844-1907 64 美濃武儀郡美濃町の郷社八幡神社神職、  
国学・歌人;三浦千春・阪正臣門、  
[雅輔(;名)の通称/号]通称;源十郎/善右衛門、号;泉園/硯之翁
- 正督(まさすけ・馬場/其日庵8世) → 葵々(しんしん・馬場ばば、俳人) E 2 2 7 0  
正相(まさすけ・浦田) → 正相(せいしょう・浦田、俳人) C 2 4 1 9  
正亮(まさすけ・堀) → 蘭沢(らんたく・堀ほり/屈、儒者) C 4 8 9 6  
正輔(正祐まさすけ・松本) → 董斎(とうさい・松本まつもと、書家) E 3 1 3 1  
正輔(まさすけ・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8  
正輔(まさすけ・飯田) → 惟徳(これのり・飯田いいだ、歌人) E 1 9 7 3  
正輔(まさすけ・太田) → 豊年(とよし・太田、医/本草/国学) R 3 1 3 5  
正輔(まさすけ・星川) → 正甫(まさとし・星川/鴨沢、藩士/地誌) E 4 0 4 9  
正甫(正助まさすけ・黒沢) → 雪堂(せつどう・黒沢くろさわ、儒者) L 2 4 3 0  
正甫(まさすけ・堀田) → 正朝(まさとも・堀田ほった、藩主/茶道) S 4 0 4 3  
正甫(まさすけ・寺田) → 正甫(まさとし・寺田てらだ、歌人) M 4 0 4 7  
正甫(まさすけ・松田) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9  
正資(まさすけ・広田) → 則明(のりあき・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 3 5 8 6  
政友(まさすけ・菅かん) → 政友(まさとも・菅かん、医者) E 4 0 7 8  
政助(まさすけ・加藤) → 均斎(きんさい・加藤かとう、暦算家) Q 1 6 9 7  
政助(まさすけ・藤井) → 正麗(まさよし・藤井ふじい、商家/町役) S 4 0 2 7  
政輔(政助/正助まさすけ・山田) → 鹿庭(ろくてい・山田やまだ、藩儒) B 5 2 0 0  
昌相(まさすけ・石尾) → 忠辰(ただとき・内藤ないとう、和算家) Q 2 6 0 1  
昌輔(まさすけ・南部) → 南山(なんざん・南部なんぶ、儒者) J 3 2 0 1  
雅亮女(まさすけのむすめ・源) → 職子(しきし・源、甲斐掌侍、故実家) B 2 1 4 9
- C4096 **当純**(まさずみ・源みなもと、能有男/当時の弟) ?-? 文徳天皇孫、平安前期廷臣;太皇太后宮少輔/撰津守、  
/903少納言/907従五上、歌;892頃「寛平御時后宮歌合」参加(貫之・友則・興風・敏行らと)、  
寛平御時中宮歌合」参加(:貫之・元方・友則・敏行・躬恒らと)、和漢朗詠集入、古今集12  
[谷風にとくる氷のひまごとにうちいづる波や春の初花](古今;12/寛平后宮歌合;2)  
父 → 能有(よしあり・源、右大臣/歌人) 4 7 0 2  
兄 → 当時(まさとき・源みなもと、廷臣/歌人) E 4 0 2 9
- L4001 **雅純**(まさずみ・庭田にわた、重秀男/本姓;源、法号;田豊院) 1627-63 37 江前期廷臣;1638元服/従五上、  
侍従/1646右中將/50正四下/54致仕、「源雅純播州紀行」著、雅秀・重条の父、  
狂歌;1666行風「古今夷曲集」3首入、行風と親交、  
[見るに聞くにほど拍子びやうしよやふりのよや歌も上手や小町をどりの](古今夷曲;秋172)、  
(ほど拍子は拍子の緩急/小町踊は盆や七夕に京を練り歩く少女の踊)
- C4097 **正純**(まさずみ・巨勢こせ/中井/修姓;巨) ?-? 1690 存 京の工匠;幕府に出仕;禁裏大工頭/従五下、  
大和守、1690「本朝儒宗伝」編
- C4098 **正澄**(まさずみ・名取なとり、藩士名取正豊男) ?-1708 紀伊和歌山の兵法家/南木流軍学;楠正辰門、  
島田潜斎・神戸能房門、新楠流[名取流]兵法を創始;忍び兵法、1654和歌山藩士;中小姓役、  
近習詰大御番/勝手不如意故に扶持を受けながら伊都郡大野村在宅、  
1679「建裏設略」編/81「正忍記」、「一兵要功」著、  
[正澄(;名)の通称]三十郎/藤一水
- C4099 **政純**(まさずみ・永田ながた、通称;瀬兵衛、藩医永田意斎男) 1672-1754 83 長門萩藩士/右筆;能書家、

- 史局で家譜・古文書類の整備研究、武器研究、故実家、1753隠居、1725「萩藩閥閥ばつえつ録」編、1742「江氏家譜」45「御家譜考」49「御什書総目録」、「尼子宍道加地家系」「復古撰集」外著多
- D4000 **政純**(まさずみ・田島たじま、通称;文蔵)?-? 江中期享保1716-36頃尾張藩士/兵法家;近松茂矩門、故実家、1725「甲冑難問」問、「升堂階梯」編
- P4052 **正純**(まさずみ・依田よだ、)1681- 1749<sup>69</sup> 江戸の国学者、のち信濃飯田住、歌人;伊那歌壇、慧恭(可円)・黒須教久・心阿(称誉)・信誉・妙阿・松井之翰<sup>これふみ</sup>・楽誉の師、  
[正純(;名)の通称/号]通称;竹松/源之進/大冲、号;梅山/遊雲山人
- D4001 **昌澄**(まさずみ・志貴しき、泰賢男)1688-1753<sup>66</sup> 代々駿河総社神部社神官/昌興の孫、1703(16歳)父没のため家督、国学・神道;江戸の跡部良顕(祖父の門弟)門、歌;伴部安崇門、諸侯に国学神道を講ず、1751徳川吉宗の病御祓献上の下命を受、1749「和歌駿河草」著、「駿河国三穂社記」著、「夏越祓之秘伝」伝、昌芳の祖父、  
[昌澄(;名)の通称] 機山/幸奇
- T4027 **方純**(まさずみ・森脇もりわき、)1772-1843<sup>72</sup> 周防岩国藩士、国学者・歌人;香川景樹門、歌;鈴木高輅[類題玉石集]入、  
[長門の海もろこしかけて入月の葉こしに見ゆるあむ(阿牟)の松原]、  
(萩にありける頃海辺にあそひて/類題玉石集)、  
[方純(;名)の別名/通称/号]別名;方昭/範英、通称;祥次郎/九兵衛、号;洗心亭/梅庵
- D4003 **正澄**(まさずみ・宮城みやぎ/本姓;源)1788-? 伊予松山の国学・歌人;海野遊翁(1794-1848)門、「草亭集」著、  
[正澄(;名)の通称/号]通称;佐五兵衛、号;草亭
- 4009 **雅澄**(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井あすかい、柳村惟別男/本姓;藤原)1791-1858<sup>68</sup> 土佐藩士;白札格、祖の雅春は鹿持(飛鳥井)城主、鹿持・飛鳥井を名乗る、国学/歌;中村世潭・宮地仲枝門、万葉研究:注釈・語学を独学、尊王家、「万葉集古義」「万葉集考証」「万葉集人物伝」著、「万葉集古義」「南京遺響」「山口郷導」「山斎集」「雅言成法」「古学大意」「飛鳥井雅澄長歌」、「乃明理言」「羽山の都と」「用言変格例」「鹿持雅澄稿本」外著多数、長歌;藩中三絶の1、土佐藩藩老福岡孝茂・藩士宮地常磐の師、  
[雅澄(;名)の別名/通称/号]別名;深澄/惟永<sup>これなが</sup>、通称;源太/藤太、  
号;国岑樵夫/醜翁しつおきな/古義堂/古義軒/山斎/樞実<sup>かしのみ</sup>、法号;古義良範居士
- D4004 **正澄**(まさずみ・竜斎りゅうさい;号)?- ? 江後期文政天保1818-54頃の絵師;挿絵(狂歌・滑稽本)、1812・22「世の中貧富論」27「狂歌出世百首」32「狂歌遊覧集」33「春色梅の辻占」画/外画多数
- D4005 **正純**(まさずみ・丸淵まるふち、通称;仲山、正泰[1762-1847]男)?-? 江後期尾張名古屋瀬戸町医者;父門、父は名古屋藩医(賀川玄悦門の産科医)、医を開業、1830年代「救荒食鑑」著、
- T4009 **雅澄**(まさずみ・村上むらかみ、号;山分)1807-81<sup>75</sup> 大坂の国学者
- D4006 **正純**(まさずみ・村井むらい、正豊男)1810-56<sup>47</sup> 周防の商家/父の代に官費支援の功で士籍に列す、家勢傾くも学問専念;周防徳山・長門萩・肥前長崎に遊学、江戸の東条一堂門、帰郷後熊毛郡三丘の勢一尚古を継嗣:邑学徳修館第3代学頭として教授、「安田の滞穂」著、  
[正純(;名)の字/通称/号]字;良甫、通称;嘉右衛門、号;来山、祖父;喜右衛門
- Q4026 **昌純**(まさずみ・白鳥しらとり、)1812- ? 1870<sup>存</sup> 武蔵多摩郡上布田駅の布多天神社神主、国学;佐藤信淵門/1870(59歳)平田鋏胤門
- S4012 **正澄**(まさずみ・平川ひらかわ/本姓;藤原、通称;大和)1813-62<sup>50</sup> 筑前志摩郡桜井の郷士、国学者;平田鋏胤門;宮崎眞澄(大門)の紹介で入門
- D4007 **正純**(まさずみ・高橋たかはし、残夢ざんむ[正澄]男)1813-80<sup>68</sup> 母;栄子はえこ/備中歌人の父大阪淀屋橋筋の時計修復業、  
歌人;香川景樹門、父の清園すみぞのを踏襲、  
「清園後草」編、「茅の一束」「蟬か音」「大和撫子」/1856「園の高かや」著、  
[正純(;名)の字/通称/号]字;正啓、通称;熊彦、号;萱園/清園すみぞの(2世)/春斎
- D4008 **正純**(まさずみ・鎌田かまた、正謀男)1816-58<sup>43</sup> 薩摩藩重臣;島津斉興/斉彬に出仕、1846琉球派遣、英仏軍艦の警備/琉球貿易に関与、江戸詰;西郷隆盛・大久保利通らと連携;軍政に尽力、1841-55「鎌田出雲江戸日記」46-58「鎌田出雲日記」48「鎌田正純東行日記」著、



- 1856「鎌田正純道中日記」56-57「鎌田正純日記」、「鎌田出雲書簡集」著、  
[正純(；名)の通称/法号]通称；藤四郎/藤馬/藏人/刑部/図書/出雲、法号；知徳院
- N4068 **政純**(まさずみ・板垣いたがき/佐々木、)1817-9478 陸奥(陸中)盛岡の国学者/歌、  
[政純(；名)の通称/号]通称；直作、号；桑蔭
- D4009 **正純**(まさずみ・宮永みやなが、東作男)1833-6735 越中砺波群下川崎村の医者；父門/1850上京；医修学、  
徳大寺家典医、尊攘派；志士らと交流/1864禁門変に長州藩のため尽力；叔父玉暎と奔走、  
勤王活動が幕府の忌憚に触る；1867新撰組に捕縛/保釈されるも入牢中の拷問がもとで没、  
「坐右雑記」「医学雑集」「証治集要」「惜陰堂雑記」「備忘抄録」著、  
[正純(；名)の幼名/通称]幼名；竜之助、通称；良蔵/良造/良三りょうぞう
- S4010 **正澄**(まさずみ・土方ひじかた、)? - 1900 筑後八女郡の久留米藩士、  
国学・歌学；船曳磐主いねし(鉄門かなと)門、  
[正澄(；名)の初名/通称]初名；正臣、通称；左源太
- S4066 **正澄**(まさずみ・松沢まつざわ、通称；語一郎)1829-191486 信濃水内郡の国学者
- D4010 **正澄**(まさずみ・江藤えとう、上野正程男)1836-191176 筑前秋月藩医江藤良貞の養子、1863家督、  
秋月藩士；江戸金奉行、国学；宮永保親門/有職故実；坂田九郎右衛門門/小笠原流指南、  
1870神祇官出仕、1849「筑後国石人図考」/1857「国語要語」60「庚申抄録」62「柱杖日記」、  
1865「江藤正澄自著八部集」、「烟の跡」「上妻日記」「法曹至要鈔考証」外著多数、  
[正澄(；名)の幼名/通称/号]幼名；栄次郎/健次郎、通称；蘇平次/弥左[右]衛門、  
号；観古堂/随神屋/瓦礫主人
- 正澄(まさずみ・平松/高橋)→ 残夢(ざんむ・高橋、正純の父、国学/歌学) 2 0 5 7
- 正澄(まさずみ・鎌田) → 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医：外科) F 1 8 9 8
- 正澄(まさずみ・高橋) → 残夢(ざんむ・高橋、国学/歌学) 2 0 5 7
- 正純(まさずみ・杉木) → 如之(じょし：号・杉木、俳人) M 2 2 4 1
- 正純(まさずみ・雨宮) → 正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌) L 4 0 5 8
- 正純(まさずみ・堀) → 正純(せいじゅん・堀、詩人) C 2 4 0 9
- 正純(まさずみ・浅井) → 策庵(さくあん・浅井、医者) H 2 0 2 1
- 正純(まさずみ・深田) → 厚斎(こうさい・深田ふかだ、藩士/儒者) G 1 9 3 1
- 正純(まさずみ・東) → 沢瀉((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2
- 正隅(まさずみ・赤塚) → 正賢(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌) N 4 0 0 6
- 政純(まさずみ・榊原) → 忠知(ただとも・榊原さかきばら、幕臣/国学) X 2 6 3 8
- 昌純(まさずみ・青木) → 桃溪(とうけい・青木、藩士/俳人) D 3 1 0 9
- 雅純(まさずみ・陶山) → 勝寂(しょうじゃく・陶山すやま、絵師) S 2 2 8 4
- 眞澄(まさずみ・岡田) → 眞澄(ますみ・岡田、幕府儒員/国学/歌) D 4 0 0 2
- 眞澄(まさずみ・宮崎) → 眞澄(ますみ・宮崎、国学) J 4 0 2 6
- 眞澄(まさずみ・野々村) → 眞澄(ますみ・野々村、文筆家) J 4 0 2 7
- G4074 **眞貞**(まさだ・善道よしみち、伊与部家守男)768-84578 平安前期廷臣；課試登科/漢学者；大学助教、  
博士、824(天長元)頃大学助/陰陽頭、828善道朝臣姓を下賜/830正五下/831阿波守、  
「令義解りょうのぎげ」編纂に参加(本朝文粹；833小野篁「令義解序」に執議参加記事)/839従四下、  
東宮学士、大学で[公羊伝]を講ず、
- D4011 **眞貞**(まさだ・安部あべ/姓；平、惟貞の長男)1819-9375 毛利家連歌宗匠家の生/安部春貞7世の末裔、  
健臣たけおみの兄、国学；1859平田鉄胤門/本居内遠門、  
長門萩藩校明倫館・江戸藩邸有備館の国学教授、1860桜田門外変以降国事奔走、  
1868宮内省勤務、「和歌庭訓抄」「征戎慨論」1858「禳疫論」著、  
[眞貞(；名)の別名/通称/号]初名；正臣/別名；和臣/盈貞、通称；卯吉、号；桜戸、
- D4012 **政隆**(まさたか・源：清和流、孝道男)?-? 廷臣；下野守/従五下、息子3人/娘2人；うち3人歌人
- 参考 → 行政(ぎょうせい・律師) O 1 6 2 0
- 瑠璃女御(るりによろご、小一条院妾/源信宗母) 5 0 0 2
- 下野(しもつけ・四条宮、歌人) F 2 1 9 3
- D4013 **雅隆**(まさたか・藤原ふじわら、光隆男)1147-? 母；信通女、平安末期廷臣；1186非参議、  
皇后宮権大夫/正三位、1213(建保元)出家、歌人；1200石清水若宮歌合参加(左方)、

家隆(新古撰者)の兄、為信・長隆・仲隆・有鷹・重隆・隆尋・家隆室・忠房室の父、雲葉集入、  
[雲みよりかざしそめける花なれやしめのあたりに匂ふ春風](若宮歌合;七番左13)

D4014 **雅孝**(まさたか・飛鳥井あすかい/本姓;藤原、藤原基長男)1281-1353<sup>73</sup> 飛鳥井雅有[1241-1301]の猶子、  
廷臣;1312従三位/参議/38正二位/45権中納言、51出家/法号;妙恵、  
歌人;京関東を往還し両歌壇で活動、二条家・持明院統・京極為兼・足利氏と交流、  
1303嘉元・19文保・貞和百首参加、1310[柳風抄]入/135京極為兼催「詠法華經和歌」参加、  
1345?小倉実教[藤葉集]5首入/1350(観応元)為世十三回和歌出詠、  
勅撰46首;新後撰(188)玉葉(5首202/368/668/905/992)続千(7首)続後拾(3首)風雅以下、  
[わきてまづたれに語らむ郭公さだかなりつる夜半の一声](新後撰;三夏188)、  
早歌作詩の二条羽林と同一? → 二条羽林(にじょうりん) G 3 3 8 7

D4015 **雅喬**(まさたか・白川しらかわ、雅喬王、雅陳まさのぶ男/本姓;源)1620-88<sup>69</sup> 母;白川雅朝女、  
神祇伯白川家の当主、1642(寛永19)神祇伯/54従三位/73(延宝元)正二位/79讓伯、  
白川神道の家学を確立、歌人;父門、後水尾天皇の命で「源氏物語歌集」編纂、  
「雅喬王記」「雅喬御詠」「白川雅喬卿詠草」、1675「伯家口決」「内侍所渡御記」著、  
1677「雅喬王覚書」/78「内侍所御注連図」著、外著多数、雅光王・雅冬王の父、  
[雅喬(;名)の通称/法名]通称;白川三位、法名;了性(りょうしょう)、法号;現証院、

U4004 **正貴**(まさたか・都築つぎ、) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
[あだなる事侍る比鳥辺野にまかりて、  
鳥辺山たつは煙のそなたぞといひしもいつか人にとはれむ](麓の塵;恋571)

M4099 **政高**(まさたか・青江あおえ/山和)1643-1721<sup>79</sup> 伊予松山の歌人  
[政高(;名)の通称/号]通称;治右衛門、号;宗因、屋号;児島屋

D4016 **正高**(まさたか・宮永みやなが、宗右衛門正意男)?-? 江前期越中砺波郡下川崎村の俳人、  
1689ほそ道旅中の芭蕉を訪問?、1699「宮永由緒記」著、  
[正高(;名)の通称] 治兵衛

L4057 **正隆**(まさたか・磯田/磯田いそだ、通称;助五郎)?-? 江前期歌人;中院通茂門、遊民、  
1702元翠編「三翁和歌永言集」入(通茂門の京極高門・正隆・宮田永悦の歌を撰した歌集)、  
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]/1700茂睡[鳥の迹]/1798刊広通「霞関集」入、  
[おもるとて風やはまたん置きそふも花の色なる萩の上の露]([鳥の迹]秋302)、  
[松の葉は今一しほの色も見つ峰につれなき去年こぞの白雪](霞関;春45/残雪、永言集入)

D4017 **正喬**(まさたか・越智おち) ? - ? 歌人、1704「知海抄ちかいしょう」著(;頓阿「井蛙抄」の注釈書)

D4018 **正高**(まさたか・堀田ほった、下総古川藩主正俊男/本姓;紀)1667-1728<sup>62</sup> 母;稲葉正則女、  
正伸・正虎の弟、1684父の遺領の内下野都賀・安蘇両郡1万石を分与され佐野藩を再興;  
従五下備後守、1698近江滋賀・高島郡に移封;堅田藩主/1722致仕;元海と号す、  
連歌・俳諧を嗜む、本草に通ず、「鳥獸図譜」著、  
[正高(;名)の別名/通称/号]

別名;正有/正在/正輔/茂俊/俊兼/俊季/俊秀/俊実/俊普/正茂/正参、  
通称;内匠/宮内/兵部/大学、号;吟雨/元海、法号;建功院

D4019 **昌隆**(まさたか・中嶋なかじま、通称;和喜右衛門)?-1769 陸中盛岡藩士;右筆/下馬札書きで知られる、  
「下馬相伝巻伝授之聞書」著

N4018 **政隆**(まさたか・東あずま、初名;政智/通称;中務)1732-1806<sup>75</sup> 陸奥(陸中)盛岡南部藩士;加判役、  
歌人

D4021 **正喬**(まさたか・松平まつだいら/伊藤)1741-1805<sup>65</sup> 三河赤坂宿の庄屋/1800松平姓を許可、  
一時伊藤に改姓/のち松平に復姓、赤坂宿の旧記を整理;1800「赤坂旧事記」著、  
[正喬(;名)の通称] 五太夫/清太夫

D4022 **正高**(まさたか・富永とみなが/本姓;藤原、通称;加賀)1767-1825<sup>59</sup> 肥後玉名郡小天村の天子宫神主、  
1799上京;国学・歌;伊勢松坂の本居宣長門、社会事業に尽力、「正高一代記」「浪のくもつ」、  
「まさきのかつら」「柂木葛文集」「国君の捧げる歌」著

N4052 **政孝**(まさたか・池田いけだ、政喬2男)1774-1817<sup>44</sup> 母;側室、備前岡山藩天城池田家8代;国老、歌人  
兄政恒は5千石で家老/1791(寛政3)父の隠居で天城領3万石を継嗣、  
家臣子弟の教育;学問所設置、のち娘輝子の婿政徳(生坂藩第5代藩主池田政恭3男)が継嗣、

歌;[類題吉備国歌集]入(12首)、  
[政孝(;名)の通称]出羽/和泉

- D4023 昌高(まさたか・奥平おくだいら、鹿児島藩主島津重豪男)1781-1855<sup>75</sup> 薩摩鹿児島の子、  
1786(6歳)豊前中津藩主奥平昌男の養嗣;襲封、1790藩校進修館設立、1794大膳大夫、  
従四下/侍従/1825隠居、蘭学修学/和蘭器具蒐集、歌;渡辺重名門、  
「蘭語語彙」編、1810「蘭語訳撰」19「千代の古道」著、  
藩士神谷弘孝に「和蘭辞書」・馬場佐十郎に「蘭語訳述」の編纂を下命、  
[昌高(;名)の幼名/通称/号]幼名;富之進、通称;九八郎/左衛門尉、号;豊海、  
蘭名;フレデリック=ヘンドリック、法号;竜徳院
- D4024 政孝(まさたか・横山よこやま、政寛男)1789-1836<sup>48</sup> 加賀金沢藩士;1801家督嗣/02家禄1万石、  
江戸への使者を務める/世子前田斉泰の傳役、詩人;古賀侗庵・大窪詩仏門と親交、  
花卉画を嗜む、前妻・後妻共に詩人、1815「海棠園合集」、「致堂詩藁」「百華吟」「春遊十絶」著、  
「致堂詩仏唱和集」「致堂遊草」「自得論」「芝草僊園聯吟」「古書画文房器物所蔵目録」外多数  
[政孝(;名)の別名/字/通称/号]別名;孝誼、字;誼夫、通称;小五郎/多門/蔵人/図書、  
号;致堂/海棠園主/蓮湖長翁、政和まさかずの父  
妻: → 蘭蝶(らんちょう、名;桂、詩、津田政本女) C 4 8 9 9  
後妻: → 蘭腕(らんえん、詩人/政和母) B 4 8 6 0
- D4025 雅敬(雅孝まさたか・木村きむら、)1791-1837<sup>47</sup> 備後福山藩士、医者/歌人/備後府中住、  
[雅敬(;名)の字/通称/号]字;士貞、通称;周安、号;葦川いせん
- D4026 正孝(まさたか・長尾ながお)1797- 1838<sup>42歳</sup> 讃岐高松藩士/公子頼該に出仕、詩/書を嗜む、  
「名数録」著、  
[正孝(;名)の字/通称/号]字;貞斎、通称;五大夫、号;孤松軒
- D4027 正孝(まさたか・根木谷ねきや/根岸/本姓;秦、別名;正厚/通称;弥三郎)?-? 江後期伊勢山田の神職、  
国学者;本居大平(1756-1833)門、  
1829「いさはまうで」著、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;739長歌「豊宮崎文庫の桜」入
- 04087 正喬(まさたか・片山かたやま、通称;兵左右衛門)1801-72<sup>72</sup> 筑後久留米藩士/国学者;  
船曳磐主いわぬし(鉄門かなど)門、同門の片山冬子(1825-1907)との関係?
- N4037 正孝(まさたか・井原いはら/本姓;橘、通称;出雲)1803-66<sup>64</sup> 和泉日根郡の神職;  
日根神社の式内社日女(日売)神社神主、国学・神道;平田篤胤門、  
「古学諄辞集」共著(河内盛征兩と、篤胤の祈願詞など所収)
- S4078 正孝(まさたか・丸岡まるおか/本姓;度会/秦、)1806-75<sup>70</sup> 伊勢度会郡の神職;神宮宮掌大内人/正六位、  
度会郡鳥帽子世古に住、国学・歌;本居春庭門、書家;山本源吾門/御家流書道を修学、  
師源吾の没後寺子屋を開設;子女に教育、正善まさよし父、  
[正孝(;名)の別名/字/通称/号]別名;末肇、字;元傳、通称;順之助/帶刀/孫十郎、  
号;黙翁/蛭雪舎
- M4039 政貴(まさたか・飯田いいだ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[籠に込めて人は聞けどもきりぎりす草のまがきに鳴くがあはれさ]、  
(大江戸倭歌集;秋791/籠虫)
- D4028 昌隆(まさたか・杉山すぎやま/本姓;藤原、通称;宗三郎)1811-88<sup>78</sup> 江戸の鍼医者;幕府の鍼医/禄8百石、  
書・歌;屋代弘賢門、「昌隆集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[さをしかにあらぬ我が身もかなしきは人の心のあきにあふなり](大江戸倭歌;恋1593)
- P4020 正竦(まさたか・城戸きど、通称;三郎右衛門)1814-68<sup>55</sup> 伊予喜多郡総津の庄屋、国学・歌人、  
1860「通俗神代記」著(12巻)
- M4034 正隆(まさたか・村山むらやま) ? - ? 江後期;地学研究;1856(安政2)「震雷考説」著、  
歌人;1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[今年また花になれつつ春の日を長きものとも思はざりけり](現存百人一首;90)
- D4030 昌孝(まさたか・名越なごし、昌明男)?-? 江後期幕府御用釜師/名越家8代目、「鑄家略系図」著
- N4093 雅恭(まさたか・植松うえまつ、)1815-1855<sup>41</sup> 京の公卿;植松雅諸の嗣子/修理太夫/正四位



- Q4039 **正孝**(まさたか・妹尾せのお、通称;善右衛門)1815-79<sup>65</sup> 播磨宍粟郡の醸造業、国学者
- R4026 **賢孝**(まさたか・長崎ながさき、)1815-83<sup>69</sup> 陸奥(陸前)遠田郡の薬商、国学・歌;沖安海やすみ門、  
[賢孝(;)名)の通称/号]通称;義兵衛、号;歌僊三枝
- N4047 **正隆**(まさたか・飯田いだ、正純男)1819-1889<sup>71</sup> 甲斐山梨郡の柴言神社祠官、歌人、  
[正隆(;)名)の通称]通称;道之輔/豊視/見積
- S4042 **正儼**(まさたか・細木ほそき、)1821-1894<sup>74</sup> 伊勢亀山藩士、国学・歌人;富樫広蔭、  
[正儼(;)名)の通称/号]通称;甚五左衛門、号;奚疑
- D4029 **政孝**(まさたか・橋本はしもと/本姓;藤原・二階堂、中条肥次男)1822-86<sup>65</sup> 橋本政方まさみちの養嗣子、  
大和奈良奉行書与力;養父継嗣、宝蔵院流槍術の奥義を究める、国学・歌;伴林光平門、  
尊王派と交流;閉門/のち赦免、維新後は手向山八幡社社掌、政宣まさのぶの父、  
1859「大和御陵奉見伺所之記」、「御陵筆記」編/「楽章補闕集」、  
[政孝(;)名)の字/通称/号]字;子友、通称;藤一/喜久右衛門、号;帯川
- T4076 **昌孝**(まさたか・和田わだ、)1835- 1910<sup>76</sup> 伊予松山藩士、詩歌人;詠史に長ず、  
近藤元脩主宰[六稜吟社]・[香蘭吟社](六稜吟社の改称)同人、能・謡曲・囲碁を嗜む、  
「華稿」(詩歌集)/「備忘録」(詩稿集)著、  
[昌孝(;)名)の字/通称/号]字;子達、通称;幾之進、号;石潭
- S4017 **正恭**(まさたか・広岡ひろおか/本姓;藤原、)1841-64<sup>負傷早世</sup>24 長門美禰郡の大嶺八幡宮神主、  
国学;黒神直民・平田鍬胤門、尊皇攘夷を主唱;1863(文久3)長州賊軍の汚名返上に尽力、  
関東関西各地遊説/1862(元治元)6月5日池田屋事件に遭遇し負傷;長州藩邸付近で絶命、  
[正恭(;)名)の通称/号/変名]通称;浪秀なみほ、号;大峰、変名;広分彦也
- 正猛(まさたか・森) → 正猛(しょうもう・森、俳人) L 2 2 7 2
- 正字(まさたか・岩波/高野/河合) → 曾良(そら・河合/岩波、俳人) 2 5 3 0
- 正恭(まさたか・津村) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7
- 正尊(まさたか・中村) → 忠亨(ちゅうてい・中村、藩士/儒者) G 2 8 6 4
- 正高(まさたか・大塩) → 中斎(ちゅうさい・大塩平八郎、儒者/義挙) G 2 8 0 7
- 正高(まさたか・杉村) → 次兵衛(じへい・杉村/梶村、絵師) F 2 1 6 1
- 正高(まさたか・小沢/蓑) → 笠之助(りゅうのすけ・蓑/巳野み、勸農家) F 4 9 3 7
- 正喬(まさたか・稲葉) → 正倚(まさより・稲葉いなば、幕臣/歌人) I 4 0 8 1
- 正喬(まさたか・成瀬) → 種徳(たねのり・成瀬なるせ、藩士/記録) R 2 6 9 4
- 正嵩(まさたか) → 正嵩(せいそう、俳人) E 2 4 0 1
- 正孝(まさたか・物集) → 高世(たかよ・物集もずめ、国学者/歌学) E 2 6 0 3
- 正孝(まさたか・増山) → 正賛(まさよし・増山ましやま/藤原、藩主) I 4 0 5 4
- 正孝(まさたか・村上) → 令敬(れいけい・村上むらかみ、俳人) 5 1 1 8
- 昌嶠(まさたか・小宮山) → 桂軒(けいけん・小宮山こみやま、儒者/詩) E 1 8 6 5
- 昌隆(まさたか・岡) → 昌名(まさな・岡おか/太秦、楽人) E 4 0 9 0
- 昌隆(まさたか・岩城) → 義隆(よししたか・佐竹さたけ/岩城、藩主) D 4 7 9 4
- 政隆(まさたか・馬場) → 董水(とうすい・馬場、書家) F 3 1 7 3
- 雅喬王(まさたかおう) → 雅喬(まさたか・白川しらかわ、神祇伯/歌人) D 4 0 1 5
- D4031 **政武**(まさたけ・駒井、号;高白斎こうはくさい、政時男)?-1555? 甲斐武将;武田信玄の側近、  
「高白斎記」著、政直(1542-95)の父
- D4032 **正竹**(まさたけ・橋村はしむら/本姓;度会、初名;末住、吉沢末規男)1638-1714<sup>77</sup> 橋村正依の養子、  
伊勢山田の神職;外宮権禰宜、正五下、神宮の古典・古典史に精通/歌・画を嗜む、  
「東征記」「乱舞拝見記」著、正弘(1674-1738)の父、  
[正竹(;)名)の通称]伊右衛門/虎之助/伝之丞/源兵衛/内蔵助
- D4033 **正武**(まさたけ・阿部あべ、正能男)1649-1704<sup>56</sup> 母;牧野信成女、武蔵忍藩主;1677父継嗣、10万石、  
従四下美作守・豊後守・侍従、奏者番/寺社奉行/1681老中、將軍綱吉時代の幕政の中心、  
武家諸法度を制定/湯島聖堂再建、1690林信篤・人見友元・木下順庵に命じ「武徳大成記」編、  
儒;三宅尚斎門/画;狩野昌運門、「止戈録」著、  
[正武(;)名)の幼名/法号]幼名;寅之助/善七郎、法号;徳巖院
- S4086 **正武**(まさたけ・三宅みやけ、)1654-1730<sup>77</sup> 江戸の幕臣;御小姓組、和学者、正邦の父、

- [正武(；名)の通称/号]通称；弥十郎/弥左衛門/弥次兵衛、号；江山
- 04062 **正武**(まさたけ・奥平おくだいら、) **1657-1719**<sup>63</sup> 下野の生/江戸住/伊豆大島から彦根江戸藩邸入、  
近江彦根藩士；百人扶持/のち彦根菅原村に隠棲閑居、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入
- D4034 **正武**(まさたけ・竹腰たけのこし、石河章長男) **1685-1759**<sup>75</sup> 美濃今尾藩主竹腰正映の後嗣；1709家督嗣、  
尾張藩付家老、山城守・沓岐守・志摩守、「七十賀和歌」編、  
[正武(；名)の幼名/通称/法号]幼名；竹次郎、通称；民部、法号；正武寺功巖義忠大居士
- D4035 **政武**(まさたけ・磯野いその、本姓；源、平塚近秀男) **1717-1760** 磯野政昉の養子；幕臣；  
將軍吉宗の小姓、のち寄合衆/丹波守・近江守、歌人；冷泉為村門/明和六歌仙の1、  
江戸歌壇で活躍、1763(宝暦13)別荘にて7人の詩歌文[遊角筈別荘記つのはずのべつそうにあそぶのき]編、  
「仰高録」「清水亭の記」「五葉類題和歌」「地方近用大概」「毛利家別館記行」著、  
1798刊広通「霞関集」入(娘・婿養子政共と共に入)、政共の養父、  
[春来ぬとむかへば花のおもかげもまだき霞に匂ふ山眉](霞関；春26)、  
[政武(；名)の別名/通称/法号]別名；正武、通称；三之助/民部/右近/右近将監、法号；好山
- T4018 **政武**(まさたけ・百瀬ももせ、) **1741-1825**<sup>85</sup> 信濃筑摩郡南埴原村の薬舗、歌；冷泉家入/神道；吉川家入、  
自宅庭園を築造、豊田利忠[善光寺道名所図会]製作に関与、松本の有力な文化人、  
[政武(；名)の通称/号]通称；忠雄、号；九十九/竹有軒
- R4098 **眞武**(まさたけ・原はら、旧姓；吉岡) **1744-1826**<sup>83</sup> 土佐高知藩士、儒(経世)・歌人；馬詰親音もとね門、  
宮地水溪(仲枝/1768-1841/儒者)の従兄弟、  
[眞武(；名)の通称]伴九郎/十之丞/唯助/兼太郎
- D4037 **雅威**(まさたけ・飛鳥井あすかい、雅重男/本姓；藤原) **1758-1810**<sup>53</sup> 母；大江直期女、廷臣；1783従三位、  
侍従/1786正三位/89右衛門督/91(寛政3/34歳)参議/92従二位権中納言/98正二位、  
1799民部卿/1804賀茂下上社奉幣使/1806(文化3/49歳)権大納言/08親王宣下上卿、  
1810大納言辞任；没、歌人；1800「於歌道成業譜代頗相違之事」著、法号；崇広業院
- R4048 **正武**(まさたけ・野島のじま、) **1765-1827**<sup>63</sup> 近江彦根藩老小野田家に出仕、  
歌人；[彦根歌人伝・続寿]入、  
[正武(；名)の通称]重次郎/平兵衛
- D4038 **正武**(まさたけ・大江おおえ/垣内、垣内正安男) **1770-95**<sup>早世26</sup> 廷臣；内蔵寮官人、  
1781掃部少允/89従六下、1795(寛政7)没、「中臣直鈔家伝」著
- 04012 **允武**(まさたけ・小田島おだじま、) **?- ?**<sup>文化1804-18頃没</sup> 越後蒲原郡の書肆/国学者、「越後野志」著、  
[允武(；名)の別名/号]初名；雄彦、号；靖節/松翁
- D4039 **正武**(まさたけ・岡おか、通称；金平/号；蛭沢斎) **1774-1842**<sup>69</sup> 幕臣；大番役、国学；村田春海門、  
儒；柴野栗山門、辞書類の索引を作成、平曲；三島自寛(景雄)門・鴨田検校・星野検校門、  
能書家、歌；村田春海門、1820「平曲問答書」1843「和名類聚抄捷見」著、  
「医心方捷見」、「詞藻」編/「新撰字鏡捷見」「前田流琵琶弾法」著
- P4023 **真建**(まさたけ・菊池きくち、) **1775-1849**<sup>75</sup> 伊予風早郡宮内村の三島神社神主、  
国学/歌人；二宮正禎門、  
[真建(；名)の別名/通称]別名；実建さねたけ、通称；清記/越前/大炊
- D4040 **正武**(まさたけ・宮本みやもと、通称；市兵衛、正暎男) **1792-1834**<sup>43</sup> 信州松代藩士、和算家；町田正記門、  
のち町田正記師の最上流和算の祖会田安明門、1819江戸浅草寺境内の算子塚建立に参加、  
「算題苑天元術」著、佐久間象山の和算の師
- P4066 **政毅**(まさたけ・児島こじま、旧姓；土田) **1814-83**<sup>70</sup> 播磨姫路の商家；紅粉屋；姫路藩藩に出仕/国学者、  
[政毅(；名)の通称/号]通称；与三右衛門/又左衛門(代々の称)、号；雲山
- D4041 **正武**(まさたけ・大国おおくに/本姓；野々口、阿波徳島藩士の長手政武男) **1818-83**<sup>66</sup> 淡路由良の国学者、  
大阪に遊学/国学；大国隆正たかまさ門/その女婿、唐物町に開塾/播州小野藩の帰正館教授、  
彦山神社宮司、1848「瓊斎社友年々集」60「近世八家和歌集」、「万葉大日本魂俗解」著、  
[正武(；名)の通称/号]通称；正太郎/進/仙之助、号；瓊斎けいさい/虚静空きよせいせい
- D4042 **政武**(まさたけ・北川きたがわ、政信男) **1823-59**<sup>37</sup> 伊勢山田の国学者；足代弘訓門、画；岡村鳳水門、  
四条派の絵/歌を嗜む、「始鏡雜記」「三宝院大般若経跋抄」編、1845「名目鈔」著、  
1849「奉幣譜」「大神宮修飾調度図」編/58「神境名家譜料」編、「始賞叙雜録」、「奉装品彙」編、

- [政武(；名)の通称/号]通称；丹解<sup>たんげ</sup>/丹下、号；橘園<sup>きつえん</sup>、名島政方の曾孫、養嗣子；政香
- 04038 **正武**(まさたけ・大野おの、通称；金十郎)1824-83<sup>60</sup> 伊予宇和郡河内村の庄屋、歌人、正海の父
- Q4004 **正武**(まさたけ・沢田さわだ、旧姓；奥田)1832-53<sup>早世</sup>22 飛騨高山の国学者；山崎弘泰門、  
[正武(；名)の通称] 半五郎
- D4043 **昌武**(まさたけ・谷村たにむら、昌徳男)1842-69<sup>早世</sup>28 薩摩鹿兒島藩士；1852小姓/奥小姓/小納戸見習、  
1866藩の海軍創設に尽力、新政府の軍艦富士・武蔵の艦長、1863-64「谷村小吉日記」著、  
[昌武(；名)の通称] 愛之助/小吉
- P4081 **眞武**(まさたけ・佐々ささ、通称；金平)1845-69<sup>戦死</sup>25 筑後久留米藩士；馬廻組、  
国学；船曳鉄門(磐主いわぬし)門、応変隊(軍隊)創設の願書を提出；組織編成を命じられる、  
1868水野正名と組織；正名の弟又蔵(正剛)を隊長・眞武は参謀となる；東京・箱館に遠征、  
箱館戦争参戦；参謀兼軍監として壮烈な戦死
- L4032 **正桓**(まさたけ・阿部あべ、浅野懋昭男)1851-1914<sup>64</sup> 阿部正方の病死により1868正弘女寿子の婿；  
備後福山藩主襲封/従五下主計頭/従二位、幕末期官軍諸藩に協力/1869藩籍奉還/知藩事、  
1853-67「阿部正桓家記近事鈔」1859「阿部正桓家記抄」著、幼名；元次郎
- 正猛(まさたけ・森) → 正猛(しょうもう・森、俳人)
- 正武(まさたけ・熊井田) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8
- 正武(まさたけ・滝) → 北山(ほくざん・滝たき、儒者) D 3 9 2 1
- 正武(まさたけ・大岡/大久保) → 湖鯉鮒(こりゅう・便々館、幕臣/狂歌) E 1 9 0 2
- 正竹(まさたけ・人見) → 必大(ひつだい・人見/野/小野、幕臣/医者) C 3 7 6 9
- 正剛(まさたけ・中根) → 正言(まさとき・中根なかね/平、幕臣/歌) M 4 0 6 3
- 政武(まさたけ・松平/本多) → 忠国(ただくに・本多ほんだ、藩主) P 2 6 4 4
- 政武(まさたけ・伊藤) → 伊兵衛(4世いへ・伊藤、植木屋/解説書) B 1 1 8 5
- 政武(まさたけ・藤井) → 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者) M 1 8 8 0
- 雅丈(まさたけ・坂上) → 頼長(よりなが・坂上/阪上さかのうえ、俳人) J 4 7 3 0
- 當剛(当剛まさたけ・苗村) → 子柔(しじゅう・苗村なむら/苗、医者/国学) T 2 1 6 6
- 政武女(まさたけのむすめ・磯野) → はや子(はやこ・磯野政共の妻、歌人) J 3 6 3 8
- D4044 **雅正**(まさただ・藤原ふじわら、中納言兼輔男)?-961 平安期廷臣；従五下刑部大輔/周防守/豊前守、  
紫式部の祖父、清正・守正の兄/為頼・為長・為時の父、紀貫之と親交/伊勢らと贈答、  
歌人；新撰朗詠集入、後撰集7首：43/137/138/212/325/395/1114、  
[ともにこそ花をも見めと待つ人の来ぬものゆゑに惜しき春かな](後撰：138)
- D4045 **雅忠**(まさただ・丹波たんば、典薬頭丹波忠明男)1021-88<sup>68</sup> 本草学；父門/1034医道課試、正五下、  
1052後冷泉天皇を治病；侍医/従四下、57典薬頭/59施薬院使/侍従/正四下、  
「医略抄」「医心方拾遺」「清法略治」著、[日本の扁鵲<sup>へんじやく</sup>]と称さる
- D4046 **雅忠**(まさただ・源みなもと、家名；中院なかのいん、久我通光4男)1228-72<sup>45</sup> 母；家女房藤原光女、  
鎌倉中期廷臣；1244従四上右中将/46正四下/47蔵人頭/48(宝治2)従三位/51正三位、  
1252(建長4)参議/53従二位/54(建長6)権中納言/57正二位/61(文応2/34歳)権大納言、  
中宮大夫/1270淳和奨学院別当/71(文永8/44歳)大納言/1272(文永9)没；号河崎、  
歌人；後嵯峨院歌壇で活躍、1247後嵯峨院歌合・65龜山五首歌合・65八月十五夜歌合参加、  
夫木抄入/勅撰5首；続後撰(63)続古(227/895/1073)続拾(1048)、  
雅頭・後深草院二条の父、  
[なにゆゑか霞<sup>かすみ</sup>すめば雁<sup>かり</sup>のかへるらんおのが越路も春のほかかは](続後撰集；二春63)
- D4047 **政忠**(まさただ・九条くじょう、満家男/本姓；藤原)1440-88<sup>49</sup> 室町期廷臣；1451従三位権/64内大臣、  
1465病のため致仕；籠居/1487関白；88氏長者、1488「長享二年倚廬渡御」「同還御次第」著、  
[政忠(；名)の初名/号]初名；成家、号；普門寺関白、政基の兄
- R4057 **正忠**(まさただ・羽太はぶと、)1622-1705<sup>84</sup> 幕臣；御先弓組頭、和学者、  
[正忠(；名)の別名/字/通称]別名；長徳、字；正久、通称；勘十郎/権兵衛
- D4048 **政尹**(まさただ・小堀こぼり/浅井、小堀政一[遠州]男)1625-94<sup>70</sup> 幕臣；1643將軍家光に謁/45小姓組、  
1647父遺領のうち近江浅井郡千石相続；浅井を称す、丹後宮津の目付代/小普請、  
茶道・書道；父門、画も嗜む、「東海道路の記」著、半井ト養「狂歌画卷」の画、  
[政尹(；名)の通称/号]通称；権十郎、号；蓬雪/篷雪、法号；陽光院



- L4052 昌忠(まさただ・袋谷ふくろや) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第八菊発句入、  
[句作りも一万石や菊の酒](菊発句)
- D4049 昌忠(まさただ・竹田たけだ、永原左六郎男) 1696-1765<sup>70</sup> 竹田源助の養嗣子;加賀金沢藩老;養父継嗣、  
遺知3百石;1724(享保9)表小将番頭/奥小将番頭/持筒頭/1754(宝暦4)大組頭/63致仕、  
儒学:伊藤萃野門、歌を嗜む、1751「木曾路記」著、  
[昌忠(;名)の通称/号]通称;金右衛門、号;雲軒
- Q4064 正忠(まさただ・大坊たいぼう、通称;嘉藤治、旧姓;山崎) ?-1762 陸奥南部藩士;江戸詰、国学者、
- D4050 応忠(まさただ・入江いりえ、通称;十太夫) ?-? 江戸中期羽前新庄藩士/和算家:中西正好門、  
「奇術輯要」/1754「平円空間答演段」、71「六斜括術演段」編
- D4051 政忠(まさただ・竹川たけがわ、号;円寂) ?-? 江中期伊勢飯野郡射和の両替商の一族、  
歌人、「詠草」「をくさ」「道の記」「東下道の記」「題詠百首」「滝ヶ原之紀行詠草」著、  
「円寂公四十八願歌」「春二十首」「政忠六帖和歌」「明和七年試筆元旦雨」著
- D4052 正糾(まさただ・大藤おおふじ、通称;良蔵) ?-1802 安藝広島藩士;郡政に従事、息子恂郷と共に文筆家、  
「温故郡務録」著
- R4031 政尹(まさただ・難波なんば、通称;富右衛門) ?-1811 陸奥盛岡藩の歌人;三輪家入門
- D4053 正忠(まさただ・富岡とみおか/本姓;藤原、初名;正美まさよし) 1774-1859<sup>86</sup> 上野小泉城主富岡秀高8世の孫、  
上野高崎藩士;1780(7歳)御馬廻格/藩の重職/1855(80歳)致仕、国学者/歌:橘守部門、  
1809「上野名跡考」、「御年譜私記」「斯廼夫具左しのぶぐさ」著、遺稿は火中に投ぜられたという、  
[正忠(;名)の字/通称]字;子厚、通称;藤太郎/藤九郎
- N4021 正誰(まさただ・雨森あめのもり) 1746-1818<sup>73</sup> 近江彦根の代々町代官、国学者/歌人、  
1801(享和元)事情あり免職/のち京に移住
- P4026 方忠(まさただ・岸本きしもと、) 1762-1821<sup>60</sup> 備前岡山の歌人;澄月・小沢蘆庵・香川景樹門、  
[方忠(;名)初名/通称/号]初名;忠厚、通称;忠介、号;簑山/落梅舎
- L4080 正禎(まさただ・二宮にのみや、通称;儀三郎/号;春祥) 1777-1856<sup>80</sup> 伊予喜多郡八幡浜の医者、  
医/国学;伊予の梶谷守典門、のち国学・歌;本居宣長・大平門、帰郷し家塾を開設、  
野井安定・梶谷守典・野田広足と共に[宣長四門]と称し南予の国学先駆者となる、  
本居内遠・足代弘訓と交流、清家堅庭・野井安道・浅井定清・岡野中立なかつ・菊池慎治の師、  
歌;歌稿「伊与すだれ」著に8首/「ひなのてぶり」に長歌1首/水沼成蹊母の賀前後集に5首入、  
[春待つは嬉しけれども七十路に明日は及ばむ翁なりけり](老の心境)、  
本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌1首短歌1首入、  
[花ぐはし桜の花は真十鏡見る度毎にいやめづらしも](八十浦;583/長歌「桜」の反歌)
- S4045 正忠(まさただ・堀内ほりうち、) 1788-1855<sup>68</sup> 信濃筑摩郡善光寺街道の会田宿の名主、  
儒・歌人;内山真弓門、国学修学、  
[正忠(;名)の通称/号]通称;源左衛門、号;一志/緑竹園
- N4091 雅政(まさただ・上島うえじま、) 1814-1869<sup>56</sup> 安藝広島の子/大和中宮寺家司、  
儒詩;巖垣松苗(東園)門、  
[雅政(;名)の字/通称/号]字;宣子、通称;掃部かもん、号;鳩聚/鳩翁
- N4025 正但(まさただ・有田ありた/石井、) 1818-80<sup>63</sup> 筑前糟屋郡の外科医/筑前福岡住、  
歌;千種有功門、  
[正但(;名)の通称/号]通称;昌益、号;謙斎/菊翁
- R4047 正忠(まさただ・野口のぐち、通称;忠蔵/号;柿村しづん) 1822-93<sup>72</sup> 近江蒲生郡桜川村の酒造業/国学者、  
歌人;[鳩のうみ]入、多くの文人と交流、息子正章の妻が小蘋しょうひん(千賀、絵師)  
参照 小蘋 → 千賀(ちか・野口のぐち/松村、絵師) N 2 8 2 6
- M4081 正殷(まさただ・六郷ろくごう、本荘藩主六郷政恒2男) 1828-61<sup>34</sup> 1830(文政13)分家六郷主水の養子、  
1839長兄早世のため本家に戻る/1841(天保12)將軍家慶に謁/従五下伊賀守/佐渡守、  
筑前守、1848(弘化5)父隠居で家督嗣;出羽本荘藩10代藩主、1851城下の大火;藩財困窮、  
正室:賀子(貞寿院、岡部長慎女)、1861没;長男政鑑が家督嗣、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;六郷政和名)、  
[いやしきもたかきも君が恵にて此大江戸に月を見るかな](大江戸倭歌;雑2024)、

- [正殷(；名)の幼名/別名/法号]幼名；佳之助、初名；政和まさかず、法号；賢良院
- M4020 **正忠**(まさただ・加藤かとう) ? - ? 江後期；歌人、幕臣？、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[藻塩焼く煙と見しは霞にて波にかけなき春の夜の月](大江戸倭歌；春182/海辺春月)
- L4093 **正縄**(まさただ・山本やまと/本姓；源、通称；新左衛門)?-?慶応1865-68頃没 江後期；讃岐高松藩士、  
大御番、国学者/歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[風吹けば霞のきぬのまよひより乱るる糸ぞ柳なりける](大江戸倭歌；春148/霞中柳)
- P4093 **正忠**(まさただ・西郷さいごう、)? - ? 江後期；紀伊和歌山藩士；寄合役  
国学・歌；紀伊藩士本居内遠(1792-1855)門、  
[正忠(；名)の通称] 健之進
- S4003 **政忠**(まさただ・半谷はんたに、政因まさより男)1845-1916 72 陸奥行方郡北鳩原村熊野大神社神主の家、  
神職/国学者；平田鍊胤門、  
[政忠(；名)の通称]美濃太郎/筑前守
- |               |   |                        |           |
|---------------|---|------------------------|-----------|
| 方正(まさただ)      | → | 方正(ほうせい・姓不詳、武士/歌人)     | G 3 9 5 3 |
| 正忠(まさただ・寺田)   | → | 無禅(むぜん・寺田てらだ、書家/儒)     | 4 2 7 9   |
| 正忠(まさただ・山地)   | → | 東山(とうざん・山地やまじ/千早、儒者)   | E 3 1 6 3 |
| 正忠(まさただ・岡崎)   | → | 槐陰(かいいん・岡崎おかざき、儒者)     | I 1 5 3 7 |
| 正尹(まさただ・和田)   | → | 省斎(せいさい・和田わた、藩儒/暦学/詩)  | B 2 4 5 3 |
| 正恭(正董まさただ・橋村) | → | 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学)  | 3 7 0 5   |
| 政忠(まさただ・池内)   | → | 信夫(のぶお・池内いけうち、藩士/養蚕)   | H 3 5 2 8 |
| 允任(まさただ・松浦)   | → | 霞沼(かしょう・松浦まつうら/修姓松、儒者) | F 1 5 1 2 |
| 允正(まさただ・惟宗)   | → | 允正(ただまさ・惟宗、明法家)        | F 2 6 8 2 |
- D4054 **正立**(まさたつ・橋村はしむら/本姓；度会、滝たき淡路末熙男)1809-89 81 1811(文化8)橋村正代の養子；  
伊勢神宮の神職、伊勢常磐町住；外宮禰宜、橋村正並女の並子(万須/歌人)と結婚、  
1854-59「度会むらい系図」編、  
[正立(；名)の通称]八郎太夫/主膳、正克まさかつの父
- |                  |   |                          |           |
|------------------|---|--------------------------|-----------|
| 正辰(まさたつ・岡村)      | → | 正辰(まさとき・岡村、俳人)           |           |
| 正辰(まさたつ/まさとき・古川) | → | 古松軒(こしょうけん・古河/古川、地誌家)    | 1 9 3 3   |
| 正竜(まさたつ・石河)      | → | 確太郎(かくたろう・石河いしかわ、蘭学者)    | K 1 5 2 0 |
| 正竜(まさたつ・堀)       | → | 孤山(こざん・堀ほり、儒・医者)         | M 1 9 5 7 |
| 正立(まさたつ・北村)      | → | 正立(せいりゅう・まさたつ・北村、国学・歌学者) | D 2 4 1 1 |
| 正毓(まさたつ・朝岡)      | → | 柳昌(りゅうしょう・朝岡あさおか、藩士/儒者)  | E 4 9 6 8 |
| 政辰(まさたつ・清水)      | → | 政辰(まさとき・清水、歌人)           |           |
| 政辰(まさたつ・仙石)      | → | 政辰(まさとき・仙石、藩主)           |           |
| 政辰(まさたつ・浅井)      | → | 政辰(まさとき・浅井、俳人)           |           |
| 政辰(まさたつ/まさとき・竹川) | → | 馬陵(ばりょう・竹川たけがわ、儒/詩人)     | F 3 6 9 0 |
| 昌龍(まさたつ・徳永)      | → | 千春(ちはる・徳永とくなが/徳富、藩士)     | N 2 8 0 7 |
- D4055 **正種**(まさたね・池田いけだ/本姓；藤原)?-? 1494存 摂津池田の豪族；細川家臣、連歌；肖柏らと交流、  
1481宗伊と「何人百韻」/91宗祇と「何木百韻」/95宗祇と「何路百韻」、新菟玖波；2句入
- D4056 **雅種**(まさたね・飛鳥井あすかい、雅康男/本姓；藤原)1479-95天逝17歳 元服後赤痢で急逝、  
歌；「雅種家集」(死後編)
- Q4043 **昌胤**(まさたね・相馬そうま、3代藩主忠胤2男)1661-1728 68 母；亀姫(義胤女)、陸奥相馬中村藩主の家、  
1679(延宝7)兄貞胤没；家督嗣/相馬中村藩5代藩主；従五下弾正少弼、1689(元禄2)奥詰、  
側衆に転ず、国学・歌；玄盛・中院通茂・吉田兼教・打它うた光軌門、  
正室；胤姫(松平頼元女)、1701(元禄14)隠居；婿養子叙胤(佐竹義処2男)が家督嗣、  
領内の幾世橋村の屋敷北原御殿で隠居生活；種々の文化的活動、  
[昌胤(；名)の幼名/通称]幼名；虎之祐、通称；采女/弾正少弼、法号；建徳院
- D4057 **雅胤**(まさたね・臼井うすい/本姓；平、初姓；千葉)?-? 祖；下総印旛郡臼井の出身、神祇伯雅光王の猶子、  
1688-1748頃伯家神道；雅光門、江中期；白川家学頭；雅光・雅冬・雅富三代の伯を支援、  
伯家神道組織化に尽力、「雅胤千首和歌」「臼井家風記続集」「神代紀秘解」「顕正神社考」著、

- 「式内神社考」「古今和歌集序註」「延享五年日記」「三種神宝秘訣」「本朝行事撮要集」外著多、  
[胤胤(；名)の別名/通称/号]初名；胤榮/雅榮、通称；帶刀<sup>たてわき</sup>、号；玄銚子<sup>げんぼうし</sup>
- T4051 **政胤**(まさたね・山名<sup>やまな</sup>、政吉男) **?-1733** 江前中期；伊勢津の国学者；荷田春満(1669-1736)門、  
山名家伝統の家塾寺子屋[修天爵書堂]を經營、稲荷神社別当；父を継嗣、  
「富士山行記」著、  
[政胤(；名)の通称/号]通称；武内/主計<sup>かづえ</sup>、号；靈淵/養蘭齋/蘭齋
- L4062 **正種**(まさたね・北川<sup>きたがわ</sup>) **? - 1755** 江中期津輕藩士；津輕出羽守家出仕、江戸詰、  
神道；吉川惟足門高弟/和学；中院通茂門/歌；冷泉家門、林直秀と交流、  
歌；広通「霞関集」入(妻と共に入集)、  
[春にとく消えにしのちは絶えたるをつぐや垣根の雪の卯の花][霞関；夏、  
林直秀亡くなりて後其の家にて人々に歌詠ませけるに籬卯花/1731直秀没)、  
[正種(；名)の通称/号]通称；新次郎/武左衛門/金右衛門、剃髮号；随流  
妻 → 正種妻(まさたねのつま・北川<sup>きたがわ</sup>、1678-1770/吟賀、歌人) L 4 0 7 4
- D4058 **昌胤**(まさたね・松井<sup>まつい</sup>、政晟男) **1715-6046** 陸前仙台藩医；父を継嗣、京で医術を修学、  
藩主伊達家三代に出仕、1749「医方要訣」著、  
[昌胤(；名)の通称/号]通称；玄潤、号；積水
- D4059 **昌胤**(まさたね・森<sup>もり</sup>、本姓；源、別姓；吉田/雨森) **1716-8570** 甲斐の伯家神道家；白川資顕王家学頭、  
「勤学余談」編、1759-85「神道通国辨義」著(；吉田・吉川・垂加神道を批判)、  
「神代経緯貫義」著、  
[昌胤(；名)の初名/通称/号]初名；顕胤、通称；左京/玄達、  
号；照彦齋/専銚<sup>せんぼう</sup>/専峯/宗麟
- Q4012 **政胤**(まさたね・町野<sup>まちの</sup>、) **1686-173045** 京の生/1716(21歳)頃伊予松山に移住；藩士、  
歌人；中院通茂門、今治歌壇初代宗匠とされる、[ひなのてぶり]12首入、  
[幾里の家つとならし道の辺のゆききにうつす袖の梅が香]  
[しらみゆく雲間の月の影よりも声ほのかなる時鳥かな]  
[政胤(；名)の通称]勘解由左衛門
- P4058 **正胤**(まさたね・小出<sup>こいで</sup>、通称；図書) **1777-184266** 豊前小倉藩士；京都<sup>みやこ</sup>郡の筋奉行、  
国学者/歌に長ず、佐久間果園編「小倉六歌仙」に入
- D4060 **正胤**(まさたね・立石<sup>たていし</sup>) **1786-186075歳** 土佐幡多郡中村の代々酢の醸造と火薬販売業、  
国学；本居春庭門、歌を嗜む、「歌集聞書」著、  
[正胤(；名)の通称/屋号]通称；半右衛門、屋号；三吉屋/美好屋
- D4061 **眞種**(まさたね・檜垣<sup>ひがき</sup>) **? - ?** 江後期大阪油掛町の文人、江戸の生？、  
天保1830年代「浪華風流繁昌記」著
- M4019 **昌胤**(まさたね・椎名<sup>しいな</sup>) **? - ?** 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[あわ雪の下なつかしく見ゆるかな野辺の新草もゆると思へば](大江戸倭歌；168)
- M4070 **正胤**(まさたね・小川<sup>おがわ</sup>) **? - ?** 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[夢にだにうき世へだつる関守は軒端の山の嵐なりけり](大江戸倭歌；雑1737)
- 04064 **正胤**(まさたね・奥山<sup>おくやま</sup>、本姓；藤原) **1805-?** 陸奥伊達郡の国学者；平田鉄胤門、  
1870「塩竈社考」著、  
[正胤(；名)の通称]多左衛門/太左衛門
- T4031 **正胤**(まさたね・矢野<sup>やの</sup>、) **? - 1871** 江後期；紀伊田辺藩士、国学者・歌人、  
国学・歌；本居内遠・加納諸平・能代繁里門、  
[正胤(；名)の通称]平右衛門/平次兵衛
- D4062 **正胤**(まさたね・師岡<sup>しおか</sup>、理輔男) **1829-9971歳** 江戸の国学者；京の大国隆正門、1850平田鍊胤門、  
尊攘運動参加、1863三輪田元綱らと足利尊氏木像梟首事件に連座；信濃上田藩預け、  
1868赦免、維新後；松尾大社大宮司/神道事務局教授；神道の布教活動、「万葉檜乃撰集」著、  
「いせ物語抄」「土佐日記抄」「みすず日記」「語学指掌図略解」「ひとやのすさび」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[もしほ焼く浦のけぶりもわかぬまで立ち隔てたる春霞かな](大江戸倭歌；春69/浦霞)、



- [正胤(；名)の通称/号]通称；豊輔、号；節斎/布志乃舎ふしのや/桜岳
- 04077 **眞胤**(まさたね・垣本かいもと/本姓；菅原、旧姓；坂井) 1832-9059 京の国学者；平田鉄胤門、  
信濃伊那郡に住  
[眞胤(；名)の別名/通称]別名；義明/茂、通称；式部/式部之助
- D4063 **正胤**(まさたね・竹尾たけお、正寛男/本姓；源) 1833-7442 三河額田郡山中村の舞木八幡宮神官家の生、  
儒；伊藤両村門/神道；平田篤胤門、維新後；西京講習所の講師/砥鹿神社兼舞木八幡宮祠官、  
砥鹿神社権宮司；中講義、1857「魯叟孔丘辨」61「大帝国論」63「神威麤狄考」、「非葛花辨」著、  
[正胤(；名)の通称/号]通称；東一郎、号；巖之眞屋いつのまや、正頼の孫、妻；久女
- R4032 **正胤**(まさたね・二宮にのみや、) 1837-191781 阿波美馬郡の国学・神道；岩雲花香はな門、  
美馬郡の郷社八幡神社社司、  
雅胤(まさたね・飛鳥井) → 雅宣(まさつら・飛鳥井/難波/藤原、蹴鞠/歌) E 4 0 2 0  
正胤(まさたね・小林/田中) → 亦太郎(またたろう・田中/小林、藩士/国学) J 4 0 5 0  
正胤(まさたね・海上) → 胤平(たねひら・海上うながみ、藩士/剣術/歌) T 2 6 7 3  
昌胤(まさたね・遠藤) → 安門(やすかど・遠藤えんどう、藩士/弓/歌) F 4 5 4 7  
政植(まさたね・石川) → 政植(せいしよく・石川、談義本)  
政種(まさたね・荏戸のぞき) → 太華(たいか・荏戸のぞき、藩士/藩政改革) B 2 6 0 7  
政胤(まさたね・安井) → 大江丸(おおえまる・安井/大伴、飛脚問屋/俳人) 1 4 0 3
- L4074 **正種妻**(まさたねのつま・北川きたがわ、名；吟賀[銀河]ぎんが) 1678-177093 江中期江戸歌人；  
冷泉家門、陸奥津軽藩士北川金右衛門正種(江戸詰)の妻、  
1798刊広通「霞関集」(1768初撰)入(；夫とともに入集)、  
[あすをさへ頼まぬ老の水無瀬川けふ人なみにありて行くとも](霞関；雑909/河)
- D4064 **正民**(まさたみ・堀田ほつた、正穀男/本姓；紀) 1781-183858 近江宮川藩主；1815父隠居のため襲封、  
従五下美濃・豊前・加賀守、1823伏見奉行/27奏者番、画に長ず；  
「蜻蝶譜」「采眞画圃詩稿」「秋の叢」著、  
[正民(；名)の幼名]友次郎/三四郎、母；亀井氏
- D4065 **眞民**(まさたみ・名和なわ、通称；桂之助、大平男) 1783-186381 肥後飽田郡錢塘村の儒者；  
熊本藩校時習館に修学/熊本藩儒、のち山崎闇斎学を信奉、致仕後は飽田郡台の村で教授、  
「名和氏文集」「村園雜興」「東遊稿」
- D4066 **政民**(まさたみ・福島ふくしま) ? - ? 江後期美作吉野郡赤田村の農家(富農)、  
1852「古の鑑」校訂、52刊「美作鏡」著  
正民(政民まさたみ・沼田) → 月斎(げっさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) H 1 8 0 5  
政民(まさたみ・大竹) → 政文(正文まさふみ・大竹、藩士/神道学者) H 4 0 2 5
- 4010 **政為**(まさたみ・冷泉れいぜい/下冷泉、持為男/本姓；藤原) 1446-152378 廷臣；1475従三位/91民部卿、  
1498正二位/1506権大納言/13出家、幼時に父没/姉の春芳院に養育、歌道に精進、  
播磨細川荘の伝領を継嗣、1503三六番歌合参加、家集「碧玉集へきぎょくしゅう」(☆三玉集の1)、  
「一人三臣和歌」「統一人三臣和歌」「内裏着到百首」「寄合百首歌」「政為卿百首」外歌多数、  
連歌；1500「明応九年何路百韻」/新菟玖波3句入、為孝の父、  
[夏虫も思ひ消けたれてよなよなの涼しき影や庭の遣り水]、  
(三六番歌合；水辺納涼21番右)、7  
[政為(；名)の別名]初名；成為、一字名；碧、法名；曉覚  
☆[三玉集；後柏原天皇の柏玉集・三条西実隆の雪玉集]  
正為(まさたみ・重田) → 蘭溪(らんけい・重田しげた、儒者/医者) B 4 8 8 9  
正為(まさたみ・久米) → 景山(けいざん・久米くめ、藩士/郡代/歌) N 1 8 6 9  
正大夫(まさだゆう・堀) → 蘭沢(らんたく・堀ほり/屈、儒者) C 4 8 9 6  
政太夫(まさだゆう・竹本/和哥竹) → 義太夫(2代ぎだゆう・竹本播磨少掾) 1 6 1 9
- D4067 **全太理**(まさたりor金太理かなたり・神宅臣みやけのおみ) ?-? 天平五733「出雲国風土記」の調査編纂者；  
監修責任者は出雲臣いずものおみ広嶋ひろしま、この出雲風土記は再撰本とする説あり、  
参考 → 広嶋(ひろしま・出雲臣いずものおみ、国造) G 3 7 0 6
- D4068 **正足**(まさたり・黒田くろだ/本姓；源) ?-? 1710存 京の人/1696伊勢桑名藩主松平定重に出仕、  
藩医となる/1710藩主の越後高田移封；書院番、国学；荷田春満門、詩歌・文章・茶に通ず、

- 「日本紀歌」著/「日本書紀小汀鈔」著(1746刊)、  
 [正足(；名)の初名/通称/号]初名；惟繇いよう/これみち?、通称；正達/正定、号；雲洲/憶斎おくさい  
 Q4000 **正足**(まさたり・酒居さかい)、1778-1809<sup>32</sup> 近江彦根の国学者・歌；本居宣長門、  
 歌；[彦根歌人伝・鶴]入、  
 [正足(；名)の別名/通称]別名；近麻呂、通称；志津馬しづま  
 Q4001 **正足**(まさたり・田代たしろ/本姓：藤原、)1822-91<sup>70</sup> 肥後熊本の儒；坂口典助門/国学；中島広足門、  
 歌人；肥後歌壇三足の1(中島広足/羽田真足まさとりと)、桜井直成の師、  
 [正足(；名)の通称/号]通称；万兵衛、号；曲庵/萩園  
 政太郎(まさたろう・林) → 五郎兵衛(ごろうべえ・林はやし、医者/和算) P 1 9 1 3  
 政太郎(まさたろう・福島) → 水樹(すいじゅ・福島ふくしま、俳人) E 2 3 6 4  
 雅太郎(まさたろう・世古) → 延世(のぶよ・世古せこ、商家/和漢学/歌) G 3 5 2 0  
 雅太郎(まさたろう・宮崎) → 東一(とういち・宮崎みやざき/亀井、国学) W 3 1 6 0  
 D4069 **真幸**(まさち・斎藤さいとう)1797- 1859<sup>63</sup> 越後南蒲原郡加茂町矢立新田の名主、俗謡家、  
 和漢学；古川茂陵・雛田葵亭門/兄真卿の家を継嗣；桑名藩の領地の里正、民衛の祖父、  
 俗謡を作り民風の改善を図る、「蒸汽船茶殻口説」「野耆口説鄙里の腸」著、  
 1829「瞽女口説地震の身の上」著、  
 [真幸(；名)の通称/号]通称；七兵衛、号；泣和津地声太夫なきわづじこえぢう(俗謡家の号)  
 真幸(まさち・金子) → 宜胤(よしね・金子かねこ、国学者) M 4 7 2 5  
 真幸(まさち・長瀬) → 真幸(まさき・長瀬ながせ、藩士/歌人) 4 0 0 8  
 D4070 **雅親**(まさちか・藤原ふじわら、有親男or敦雅男)?-? 平安後期廷臣；有親男なら上西門院判官代、  
 敦雅男なら九条院長、歌人；1134顕輔家歌合参加；3首入、1135家成家歌合参加、  
 後葉集・続詞花集入、  
 [露霜やまなく置くらん神なびのいはせの杜の色つきにけり](顕輔家歌合：紅葉十番右)、  
 [夜とともにむすぼほれたるわが恋や野中に立てる岩代の松](続詞花；恋500)  
 4011 **雅親**(まさちか・飛鳥井あすかい、雅世男/本姓：藤原)1417-90<sup>74</sup> 室町戦国期廷臣；1448従三位/50参議、  
 1460正二位/66権大納言、將軍家の歌道・蹴鞠の師範、  
 足利義政・義尚・三条西実隆・宗祇などの師、後土御門天皇時代の歌界の重鎮、  
 後花園院の院宣で勅撰集撰者；1467応仁乱で中絶、73出家、  
 歌；1446文安詩歌合/48(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌](左中将名)/50仙洞歌合参加、  
 家集「亜槐集」「続亜槐集」、1453「榮雅詠草」/81「独吟百首」「文明千首」「和歌秘要」、  
 「飛鳥井雅親卿歌書」「飛鳥井榮雅詠草」「榮雅千首」、蹴鞠；「蹴鞠奥義鈔」「蹴鞠条々」、  
 連歌；1467「雅親独吟百韻」68「義政雅親山何百韻」/新菟玖波集14句入、「源氏要解」外多数、  
 勅撰5首；新続古今(5首；304/677/1233/1397/1743)、  
 [池水のいひいでがたき思ひとや身をのみこがす蛭なるらん](新続古；夏304/水辺蛭)、  
 [うらわかみなびく早苗にはるばると音なき風の見えて涼しき]、  
 (匠作亭詩歌；8/早苗/対するは宗鏡嬭衾**信仲**明篤の詩)、  
 [雅親(；名)の号/一字名/法名/法号]号；柏木、一字名；旅、法名；榮雅、法号；蓮心院  
 K4094 **正親**(まさちか・寒河さむかわ) ? - ? 江初期の浪人?/教訓的読み物作者、1667「子孫鑑」  
 [人ははじめて近づきたる時を後まで思ふべし これは敬を捨てざれと云事也](子孫鑑)  
 D4071 **正親**(まさちか・成瀬なるせ、正虎男)1639-1703<sup>65</sup> 母；小岩井雅楽介女、尾張名古屋藩付家老、  
 1649父と江戸で將軍家光に謁見/59家督；従五下信濃守/隼人正；尾張犬山城主、  
 「正親覚書拔」著、  
 [正親(；名)の通称/法号]通称；熊之助/小吉、法号；柏貞院  
 D4072 **正親**(まさちか・池田いけだ、正式まさり男)1645-? 俳；1659貞室「玉海集」入；  
 [老た親の顔を見上ぐる師走哉](玉海集)  
 D4073 **正親**(まさちか・稲葉いなば、初名；正命まさのぶ、大田原晴川男)1692-1734<sup>43</sup> 稲葉正直の養子；1723家督嗣、  
 1730宗家の稲葉正恒の嗣；山城淀藩主/従四下越中守/佐渡守、奏者番/1734大阪城代、  
 「忠孝通義」著、  
 [正親(；名)の通称/法号]通称；式部、法号；大義院  
 D4074 **政孚**(まさちか・河村かわむら) ? - ? 1745「万葉歌集(歌謡)」蔵書(；1659「与五太夫筆」)

- D4075 **正鄰**(まさちか・神村かみむら、永建男)1728-7144 美濃岐阜の国学者、国学・故実;京の高橋宗直門、神道家;吉田家入門;白川流を修学/吉田家学頭代、1755尾張藩主徳川宗勝の内筆役、河村秀頼・秀根・深田正益らと交流、「神村随筆」「関市令考」「禁秘抄集解」「読式撮要」著、「神祇伯家祭祀儀式集」「講令備考」著、「禁秘御抄考証」編、外多数、養嗣;鈴木忠貞(門弟)、[正鄰(;名)の別名/字/通称/号]別名;胤年/胤相たねすけ、字;子有、通称;大学/源助、号;三苟亭さんこうてい/恭敬斎
- D4076 **正近**(まさちか・高原たかはら、通称;九郎助、次左衛門男)?-? 叔父高原円左衛門の養嗣子、江中期筑後の文筆家、1797「筑後封植録」「大人骨之記」
- D4077 **政隣**(まさちか・津田つだ、初名;正隣、正昌男)1756-181459 加賀金沢藩士;家督;700石嗣/大小将組、大小将番頭/歩頭/町奉行/大小将頭/馬回頭;宗門奉行兼務/1813致仕、「耳目甄録」/1814「政隣記」著、[政隣(;名)の通称]雄平/左近右衛門
- D4078 **方親**(まさちか・諏訪すわ、神号;方慎神霊)1767-180741歳 会津若松の神職、「貞昭神君御仮殿御祭文」著
- D4079 **応周**(まさちか・福井ふくい) ? - ? 江後期京烏丸御池北三条室町東の書家:御家流、文人画を嗜む、1821「続類合千字文」著、[応周(;名)の字/通称/号]字;子行、通称;直蔵、号;一瓢斎
- M4080 **政愛**(まさちか・榊原さかきばら/本姓;源、別名;政恒まさね、政令5男)1813-6149歳 母;豊姫、兄政養まさきよの養子;1839越後高田藩第5代藩主;榊原家13代当主、従四位下/兵部大輔、式部大輔/侍従、幼名;祐之亮/通称;小平太、政恒を政愛に改名したのは1858(安政5)以後、正室;水野忠邦女の倉姫、甥の政敬(三兄・榊原政礼の長男)が家督嗣、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;榊原政恒名)、[高砂の尾上の松は年ふれどなほ万代の色はふくめり](大江戸倭歌;雑2015)
- S4020 **正愛**(まさちか・広田ひろた/本姓;度会、)1814-34早世21 伊勢度会郡の外宮祠官、国学;本居春庭門、[正愛(;名)の通称]富丸/右京/左京
- D4080 **政隣**(政憐まさちか・斎藤さいとう/本姓;藤原)?-? 江後期天保1830-44頃の神職;加賀白川郡五郎島小浜神社の神主、1832「加賀国加賀郡小浜神社記」、「小浜神社由来帳」著
- N4064 **正親**(まさちか・磯部いそべ、)1826-190681 甲斐山梨郡国玉村の玉諸神社(国玉明神)祠官、国学・歌人;橘元輔(冬照)門、[天津神深く恵みの名も高くむね平らかに守らせたまへ](神社の千秋万々春を詠む)、[正親(;名)の通称/号]通称;隼人、号;塩の舎
- P4054 **正親**(まさちか・黒瀬くろせ/本姓;秦、応進まさゆき男)1832-191786 伊勢度会郡の神職/外宮官掌、須原大社社掌、四条派の絵師、応昇まさりの弟、[正親(;名)の別名/字/通称/号]別名;菅生、字;親卿、通称;清吉/左平/勘太夫、号;松琴
- 政周(まさちか・土屋) → 政周(せいしゅう・土屋つちや、禅学) I 2 4 6 1
- 政周(まさちか・中村/浅野) → 栗斎(りつさい・浅野/中村、藩士/儒者) B 4 9 9 6
- 政親(まさちか・福富) → 親政(ちかまさ・福富ふくとみ、武将/藩士) B 2 8 8 1
- 正親(まさちか・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益よしまつ、医者) D 3 9 3 9
- 正親(まさちか・平井) → 雪旭(せつきよく・平井ひらい、紺屋/絵師) O 2 4 2 4
- 政千代(まさちよ・伊達) → 周宗(かねむね・伊達だて、藩主) U 1 5 9 1
- D4083 **政嗣**(まさつぐ・二条にじょう、持通男/本姓;藤原)1443-8038 母;神祇伯雅兼王女、廷臣;1457従三位、1458権中納言/60権大納言/66右大臣/68左大臣/70関白・氏長者/74従一位、自宅で連歌会催、「如法寿院殿関白政嗣公記」「御懺法講次第」著、新菟玖波;2句入、[政嗣(;名)の号/法名]号;如法壽院にほうじゅいん、法名;覚円
- D4084 **正次**(まさつぐ・日置へき、別名;団三郎/宗品/影光/豊秀)1444-150259 伊賀愛田村出身の弓術家;応仁/文明の乱で活躍、諸国遍歴;弓道奥義を会得/日置流弓術の祖、晩年高野山で剃髪、帰郷し伊賀で没、吉田重賢などの師、「日置流弓目録」「日置弾正射術歌」編/「重藤之書」、「日置弾正射術歌」編/「軍陣弓法秘法之巻」「暮目法之書」「暮目満矢之書」外著多数、[正次の通称/号]通称;弾正/弾正左衛門/弾正忠入道、号;瑠璃光坊/威徳/意徳斎/道以



- D4085 **正次**(まさつぐ・内田うちだ/初姓;谷、通称;新六郎、谷[内田]正之男)1547-1606<sup>60</sup> 武将;徳川家康の臣、1580全阿弥と改名し家康最初の同朋衆、1584小牧の戦で戦功、各種文書が残る(藤枝白子町由来書など)、連歌;高台院らと「千句三物」?
- D4086 **正次**(まさつぐ・近藤こんどう、通称;五左衛門、正忠男)?-? 1573-92頃の幕臣/家康に出仕;十八騎の頭、関ヶ原・大坂冬・夏の陣従軍し戦功、徳川忠長に出仕;忠長自刃後は処士、「要騎三馬図」著
- D4087 **正次**(まさつぐ・加藤かとう、通称;美作守)?-? 武将;加藤清正の家老/1618内紛のため配流、又玄「清正記」巻一を筆記
- M4020 **正次**(まさつぐ・雨宮あめのみや/本姓;源、初名;重次)1596-1636<sup>41</sup> 江戸の幕臣、国学者/歌人、[春日野の野辺の若菜をつむ袖に千世ふるとしの雪ぞかかれる](忠能[難波捨草]春10)、[正次(;名)の通称]宇右衛門/鶴右衛門
- D4088 **正次**(まさつぐ・真野まの、通称;三右衛門)?-? 江前期鷹匠:吉田多右衛門門、1675「鷹医書」「鷹十二顔並目形」著、「鷹医万病巻」(受)
- D4089 **正継**(まさつぐ・井上いのうえ、播磨英賀城主井上正俊男/本姓;源)?-1646**自殺** 幕臣/秀忠に出仕、大坂陣で戦功、下総香取郡に采地5百石/砲術家:井上流[外記流]の祖、1635鉄砲百挺製作、1638鉄砲役、砲術家稲富直賢と争い殺害;仲裁役にも負傷させ自殺、「井上流調積集」、1626「井上流息合秘伝書」、「井上流砲術之書」「鳥銃秘事」、「忠如集」「調積集」編、「遠近智極集」「武極集」「玄極大成集」「玄中大成集」「積極集」「井上流星当集」著、[正継(;名)の通称]九十郎/外記
- L4003 **正継**(まさつぐ、自影庵) ? - ? 江前期撰津住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入[ささ波やしがからし酢で食ふ時はたれが口にもあふみ鮎哉](古今夷曲集;75/近江鮎)
- R4022 **正次**(まさつぐ・永井ながい、忠正長男)1625-98<sup>74</sup> 母;戸田重允女、江戸幕臣旗本;6百石/1642御書院番、1668家督嗣、1682致仕、和学者、妻;旗本斎藤信正女、歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、[臥しなるゝ籬の竹をもる月の夏をよそなる影ぞ涼しき]、(若むらさき:48/夏月透竹/臥しと竹の節を掛る/寢室から見慣れた眺め)、[正次(;名)の通称/法号]通称;主馬しゅめ/平兵衛/与次郎/助十郎、法号;自休
- U4001 **正次**(まさつぐ・山脇やまわき、)? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]5首入、[くみてしれ心の水のそこふかみしづみもはてぬ習ひある世に](麓の塵;恋513)
- D4090 **政次**(まさつぐ・桜井さくらい) ? - ? 江中期越中の地誌家、北陸三国の地誌編纂:1753「北三州略記」/59「三州略記」著
- D4091 **昌次**(昌二まさつぐ・寺沢てらさわ)?-1790 大阪の絵師;月岡雪鼎門or雲鯨斎英信門、絵本作者、初め安堂寺町住/のち車町・高麗橋一丁目・木挽町中之丁と移住、1781「絵本蝦夷錦」著、1781「絵本武蔵山」82「義経翁問答」89「絵本武勇大功記」91「絵本武勇七福仁」外著多数
- D4092 **正紹**(まさつぐ・熊野くまの、別名;長恒)?-1797 江中期長崎の漢学者/地誌家、1792「長崎港草」著[正紹(;名)の字/通称/号]字;守廉、通称;与四郎、号;怡斎いさい
- D4093 **正子**(まさつぐ・三浦みうら、朝比奈あさいな弥次郎泰見男)1740-99<sup>60</sup> 幕臣御書院番三浦正範の養子、家督;1766西本丸小姓組番士/85奈良町奉行、従五下伊勢守/91京都町奉行/99任地で没、奈良奉行在任中に神武天皇事蹟を調査;「二葉草」著、妻;小川利喜、[正子(;名)の通称]嘉根吉かねきち/甚五郎
- Q4071 **正次**(まさつぐ・高橋たかはし、通称;源次)1781-1813<sup>33</sup> 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- D4095 **将続**(まさつぐ・長嶺ながみね)1789-1853<sup>65</sup> 陸中盛岡の絵師:2世喜多川歌麿門/藩の浮世絵の祖、俳人、1820「御国中諸産物名所古跡書拔」/22「家元御流生花百花式」画、「俳諧稿」著、[将続(;名)の字/通称/号]字;精之、通称;九郎右衛門、号;梅林舎/清麿/清丸/長斎、将在(まさあり/国学者)の父
- D4096 **正紹**(まさつぐ・取田とりだ/本姓;橘、通称;弘三郎)?-? 江後期尾張藩士/大番組、武家故実に通ず、1819藩命で「大須眞福寺蔵書目録」を作成/古事記写本を完成、「胴丸考」「保呂衣之事」著
- T4060 **正継**(まさつぐ・弓削ゆげ、旧姓;市川)1817-98<sup>82</sup> 越中富山の国学者、弓削正則の養子;朝廷出仕;右馬小属、庭田重胤家司を兼任、1862(文久2)薩摩の島津久光へ浪士鎮撫の勅命を斡旋、近江介/従六位、近江大津に住、正雄(歌人)の父、[正継(;名)の通称]近江介
- P4075 **正卿**(まさつぐ・近藤こんどう、加藤正明男)1819-1879<sup>61</sup> 佐渡相川の生/幼児に父母を失う、

母方の叔父小林正弥に養育、1841(天保12)江戸に出る/歌;井上文雄門、尾高高雅と唱和、  
1860(万延元)幕臣となる;近藤に改姓、国学;平田鉄胤門、潜伏中の常陸の桜任蔵を支援、  
1869(明治2)神祇官に出仕/湯島神社祠官となる、書齋を[此君堂]と称す、  
1876(明治9)息子正利に家督譲渡;隠居、

[正卿(;名)の通称/号]通称;佑左衛門、号;此君堂

正韶(まさつぐ/まさあき・深田)→ 香実(こうじつ・深田、藩士/儒/歌論) B 1 9 2 5  
正韶(まさつぐ・池田/源)→ 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7  
正韶(まさつぐ・並木)→ 栗水(りつすい・並木なみき、儒者/私塾) C 4 9 0 5  
正次(まさつぐ・百川)→ 治兵衛(じへい・百川ももかわ、和算家) V 2 1 5 8  
正次(まさつぐ・長命/鷺)→ 仁右衛門(にえもん・鷺さぎ、狂言師) 3 3 1 0  
正次(まさつぐ・岡本)→ 苔蘇(たいそ・岡本正次、藩士/俳人) B 2 6 7 9  
正次(まさつぐ・松田)→ 自然斎(じねんさい・松田/松、儒者) V 2 1 3 9  
正次(まさつぐ・滝沢)→ 清右衛門(せいえもん・滝沢/鱗形屋、商業/代稿) H 2 4 4 6  
正紹(まさつぐ・曲直瀬まなせ)→ 玄朔(げんさく・曲直瀬/河崎、医者) J 1 8 1 4  
正緝(まさつぐ・中尾)→ 竹厓(ちくかい・中尾なかお、役吏/儒者) C 2 8 8 0  
正統(まさつぐ・跡部)→ 臨谷(りんこく・跡部あとべ、藩士/稲作研究) K 4 9 2 6  
昌次(まさつぐ)→ 昌次(しょうじ、俳人) N 2 1 1 4  
眞継(まさつぐ・大中臣)→ 眞継(まつき・大中臣おおなかとみ、神職) D 4 0 8 1  
眞継(まさつぐ・矢田部)→ 眞継(まつき・矢田部やたべ、廷臣) D 4 0 8 2  
雅継(まさつぐ・飛鳥井)→ 雅庸(まさつね・飛鳥井/藤原、蹴鞠/歌/連歌) E 4 0 0 3  
政筒(まさつぐ・新田)→ 政固(まさこ・新田につた、政父、郷土史家) C 4 0 4 8

U4025 雅綱(まさつな・源みなもと、雅兼[薄雲中納言]男) 1106-1143<sup>38</sup> 母;源忠宗女、平安後期廷臣;

從四上/木工頭/右中弁、

1142(康治元)弁官の雅綱が近衛天皇大嘗会和歌の宣旨を史官小槻政重に伝達(袋草紙)

D4097 雅綱(まさつな・飛鳥井あすかい、雅俊男/本姓;藤原) 1489-1571<sup>83</sup> 戦国期廷臣;1524從三位/38権大納言、  
1562從一位/63出家、歌/蹴鞠に通ず;師範、武家伝奏;公武の歌会出詠、雅春の父、  
1528「蹴鞠聞書」「扇鬨次第相伝御聞書」、「鞠之事」「鞠之条々」、1553「和歌之条々」、  
「伏見宮家百首和歌」「飛鳥井雅綱歌道伝授書」、[雅綱(;名)の号]入道号;高雅、法号;智光院

D4098 当綱(まさつな・竹俣たけのまた、本綱男) 1729-93<sup>65</sup> 羽前米沢藩士;父は早く没/1746祖父充綱の継嗣、  
藁科松伯の菁莪社で修学、江戸家老/1763藩政を私する郡代所頭取森平右衛門を誅殺、  
1767奉行筆頭;新藩主上杉鷹山を支え藩政改革・財政再建に尽力/専制行為多く1782隠居、  
1768「立政録」70「寛政録」79「耳雑談」、「国政談」「治国談」「農家立教」著、  
[当綱(;名)の別名/字/通称/号]別名;鳳、字;君瑞、通称;翁助/美作、号;含章堂主人、  
法号;大忠院

D4099 昌綱(まさつな・守屋もりや、旧姓;磯部) 1747-1815<sup>69</sup> 伊勢度会郡の神職/国学者;本居宣長門、  
内宮風日折宮内人、真淵13回忌追善歌詠、1767「内宮参宮順道記」著、  
吉見幸和[神道五部書説辨]説支持;1773「神部考僻説辨」著(外宮橋村正身[説辨]に反駁)、  
「外宮御名儀之証書説辨」著、  
[昌綱(;名)の通称] 徳太夫

E4000 昌綱(まさつな・朽木くつき、綱貞男) 1750-1802<sup>53</sup> 丹波福知山藩主朽木鋪綱のぶつなの養嗣/1776家督、  
福知山藩主襲封;3万2千石/隠岐守・近江守從五下、1800致仕、和漢学修得/歌人、  
蘭学;前野良沢門、古銭学;宇野宗明門、茶道;松平治郷[不昧]門、参禅;大徳寺一道宗等門、  
1781「新撰錢譜」87「西洋錢譜」89「古今泉貨鑑」「泰西輿地図説」/90「彩雲堂蔵泉目録」編、  
1794「泉貨分量考」/96・99「弄錢奇鑑」/98「泉貨説論」、「孔方図鑑」「洋貨図録」外著多数、  
[昌綱(;名)の幼名/通称/号]幼名;斧次郎、通称;左門、

号;竜橋/不見/宗非/彩雲堂/眞了、茶号;不見庵宗非、法号;不見院

04032 雅綱(まさつな・大住おおすみ、通称;求馬) 1800-68<sup>69</sup> 播磨宍粟郡の山崎八幡神社神楽職、  
歌人;播磨山崎歌壇で活躍

E4001 昌綱(まさつな・奥野おくの、竹内直通男) 1823-1910<sup>88</sup> 江戸御徒町の生/奥野昌豊の養子/幕臣、  
1849輪王寺宮に出仕、維新の時上野彰義隊に参戦;敗走、ヘボンの日本語教師、

1872キリスト教受洗/77日本人最初の牧師、キリスト教文献翻訳・伝道、「雅言集」著、  
[昌綱(；名)通称] 銀三郎/左京

Q4076 **正綱**(まさつな・鷹巢たかす/本姓：藤原、通称；八十郎)？-？ 江後期；伊予松山藩士；町奉行、  
歌人；海野遊翁ゆうおう(1794-1848)門

正綱(まさつな・小倉) → 実澄(さねずみ・小倉おぐら/源、武将/歌人) D 2 0 1 0

4012 **雅経**(まさつね・飛鳥井あすかい/家名；二条/本姓：藤原、藤原頼経男) 1170-1221 52 母；源頭雅女、  
妻；大江広元女、鎌倉期廷臣；1218従三位/1220参議、21父頼経が義経に連座し伊豆配流；  
雅経も鎌倉に下向し蹴鞠を以て頼朝・頼家に厚遇/頼朝の猶子、飛鳥井流蹴鞠の祖、  
後鳥羽天皇の命で上洛；のち後鳥羽院の近習/歌人：藤原俊成門、和歌所寄人；  
1200後鳥羽院催[正治後度百首]参加/01[千五百番歌合]参加/05新古今集の撰者の1、  
歌と蹴鞠両道の家基礎を成す、源実朝と定家・鴨長明の仲介役、筆策にも長ず、  
明恵に帰依、宗長の弟/教雅・教定の父、  
家集「飛鳥井[明日香井]和歌集」、「蹴鞠肝心抄」「御家蹴鞠伝書」「蹴鞠条々」「蹴鞠別記」著、  
「源氏物語絵巻」書/「伴大納言絵詞」書/「夜須礼花絵詞」書、「雅経卿記」外著多、雲葉集入、  
勅撰134首；新古今(22首74/93/94/145/184以下)新勅(20首108/149以下)続後撰(9首)以下、  
[み吉野の山の秋風さ夜ふけて故郷寒く衣うつなり](新古今；秋483/擣衣の心を)、  
[ふるすたつ都も春の梢にて霞をいでぬ鶯のこゑ](正治後度百首；春206)

E4002 **昌経**(まさつね・逸見へんみ/瀬尾/本姓：源)？-1581 武将；若狭高浜城主；若狭守護武田家の支族、  
1570織田信長の越前進攻に参加；戦功で旧領安堵/晩年信長の命で瀬尾に改姓；従五下、  
「犬追物八廻日記」著、

[昌経(；名)の通称/法名/法号]通称：駿河守、法名：永薫、法号：昌福寺天周宗登大居士

E4003 **雅庸**(まさつね・飛鳥井あすかい、初名；雅継/雅枝/一字名；弼きく、雅敦男/本姓藤原) 1569-1615 47 廷臣；  
雅継を雅枝に改名/1597(慶長2/29歳)従三位/98右衛門督/1601(慶長6)雅枝を雅庸に改名、  
1603(慶長8)参議/右衛門督兼任/04正三位、  
1609(慶長14)息子雅賢・雅宣が宮廷女官との乱交事件に烏丸光広らと関与(猪熊事件)；  
息子2人は流罪；雅賢は隠岐配流(謫処に1626没)・雅宣は伊豆配流後に1612赦免、  
1612(慶長17)雅庸は権中納言に昇進/正三位、1613従二位/15(慶長20)権大納言；没、  
蹴鞠家の再興に尽力、歌道；細川幽斎門、10代から歌会催、「雅庸卿記」「蹴鞠之条々」著、  
「雅庸百首」「和歌口伝」「雅庸卿御詠草」「入道大納言雅庸卿百首」、1600「禁中御着到百首」著、  
連歌：各種百韻；1598慶長三年何人百韻/同五年何人百韻など多数、雅賢・雅宣・雅章の父、  
[雅庸(；名)の一字名/法号]一字名；弼きく、法号；芳光院尚雅

E4004 **正庸**(まさつね・土師はじ、通称；清太夫、左馬助男)？-1698 父は浪人/書家：大橋重政門、  
加賀金沢藩主前田綱紀に抜擢され右筆；禄4百石、正忠の兄、正道の養父、  
1675「武家任叙記」編/97「官家不審問答」(問)

E4005 **正常**(まさつね・藤原ふじわら) ？ - ？ 江前期元禄1688-1704頃伊勢三重郡足見田神社神主、  
「日本書紀神代抄」著

E4006 **政恒**(まさつね・国重くにしげ、通称；三郎兵衛) 1638-1710 73 長門萩藩士；毛利綱弘に出仕；功あり、  
「温故私記」「江戸御用所限有事之控」著

E4007 **政経**(まさつね・保科ほしな、正之まさゆき男) 1646-81 36 母；お万の方(藤木弘之女)、1669岩代会津藩主；  
兄早世により襲封/筑前守/従四下侍従、領民に儉約を推進/1681隠居薙髪；没、  
能書家、1674「増会津風土記」著、  
[政経(；名)の幼名/号]幼名；大之助、号；素行軒/致休、法号；鳳翔院

E4008 **政恒**(まさつね・本多ほんだ、通称；頼母/図書、政冬男) 1705-60 56 加賀金沢藩士；1725若年寄/28家督嗣、  
1736藩家老/50免職、「御在府毎日帳」編/1738「元文三年毎日帳」著、政行の兄

E4009 **正恒**(まさつね・新見しんみ、正尹男/本姓；源) 1738-85 48 母；藤方主膳重堯女、新見正伸の養子/幕臣、  
1754家督嗣；河内守/出雲守/長門守、1759西丸の御小納戸/本城勤仕/1764西丸/65寄合、  
「饗応草」著、[正恒(；名)の通称/号]通称；吉次郎、出家号；常照、

U4022 **政恒**(まさつね・森下もりた、通称；幸右衛門) ？-？ 江中期；江戸の幕臣？、歌人、伝不詳、  
歌：冷泉家門、1763磯野政武催「遊角筈つのはずの別荘記」入、政武の歌友、  
[あらし吹く木々の紅葉の落ちたぎつ浪も錦の色にたつらし](遊角筈別荘記)



- R4016 **政常**(まさつね・中東なかひがし、) 1744-1828<sup>85</sup> 伊勢度会郡の国学者/国学・神典;橋村正身まさのぶ門、  
[政常(;)名)の通称/号]通称;治助/治郎太夫、号;長畝園ちやうほえん
- E4010 **正長**(まさつね・中根なかね、長坂信令男) 1754-1802<sup>49</sup> 幕臣中根正壽の養嗣子;1775継嗣;2千石、  
幕臣西丸書院番士/使番、「指南書」著、[正長(;)名)の通称]桃三郎/勘解由
- R4076 **正恒**(まさつね・橋本はしもと/本姓;藤原、通称;筑前守) 1761-1838<sup>78</sup> 越前今立郡の舟津神社宮司、  
国学;足代弘訓門
- E4011 **正識**(まさつね・阿部あべ、正敏男) 1764-1803<sup>40</sup> 武州忍藩主;1787遺領襲封/1796致仕、詩人:  
「鳳楼詩稿」「鳳楼詩稿二稿」/1783「遊芸館詩集」著、  
[正識(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;虎次郎、字;子遠、通称;兵庫、号;鳳楼、法号;浄観院
- E4012 **政経**(まさつね・岡田おかだ) 1773- 1857<sup>85</sup> 上野伊勢崎藩士;御給人格/番頭用人、  
茶道の皆伝/文学;いろは引分類辞書編纂、「事物集成抄」著、  
[政経(;)名)の通称/号]通称;弥兵衛、号;紫蘭亭/宗閑
- E4013 **正庸**(まさつね・今大路いまおじ/本姓;橘/別姓;曲直瀬まなせ、山高信昉男) 1778-1841<sup>64</sup> 今大路親興養子、  
医者/1794養父の遺跡継承;従五下典薬頭、中務大輔/詩;1838・39「今大路正庸詩集」著、  
「今大路正庸之詩記」「陪孤雲老公遊中里本邸記」著、  
[正庸(;)名)の幼名/法号]幼名;梅之助、法号;金蘭院
- E4014 **正恒**(まさつね・鈴木すずき) ? - ? 江後期眼科医;土生玄碩門か?、「鑒視説約」著
- E4015 **政恒**(まさつね・外山とやま、通称;平七郎) ?-? 江後期和泉大鳥郡深井村の歌人、  
1846「自詠稽古題其外」著
- N4099 **正常**(まさつね・内山うちやま/本姓;藤原、通称;十郎右衛門) 1764-1828<sup>65</sup> 近江彦根藩士、歌人/狂歌
- E4016 **政彝**(まさつね・宍戸しじ) 1782- 1865<sup>84</sup> 岩代二本松の米穀商/苗字帯刀を許/検断補佐役、  
最上流和算家;渡辺東嶽門、「諸約混一術」編、丹治庄作・太田研斎らの師、  
[政彝(;)名)の通称/号]通称;佐左衛門、号;研堂、屋号;柏屋、法号;信海院
- E4017 **正識**(まさつね・天野あまの、初名;正猷、天野覚左衛門の養子) ?-1854 幕臣;1848御小納戸方、「封事」著、  
[正識(;)名)の通称]飽之丞
- O4022 **政常**(まさつね・小本おもと、旧姓;金田一) 1817-1904<sup>88</sup> 陸奥盛岡(南部)藩士/勘定奉行、国学/歌人、  
[政常(;)名)の通称/号]通称;助次郎/村司、号;千秋堂/愛竹/閑窓
- S4092 **政恒**(まさつね・水谷みづたに、坂崎勝憲2男) 1819-57<sup>39</sup> 美濃可児郡小泉村根本の生、  
尾張藩領美濃可児郡久々利領主千村家家臣の水谷政高の養子;家督嗣、  
20余歳頃千村家の尾張名古屋支部の下士となる;留守居役/用人格に昇進、  
国学;岳父植松茂岳門、尾張藩の文学者として活動、弓術・兵法を修学、1857(安政4)病没、  
[いそぎつるつかへの道の初みゆきあとを惜しむもときにこそよけれ](初雪)  
[政恒(;)名)の通称]七郎
- R4034 **正庸**(まさつね・丹羽にわ、初名;正統) 1822-82<sup>61</sup> 京の生/三条家諸大夫、大学助、維新後;東京住、  
国学、養子;福田正雄、  
[正庸(;)名)の通称]相模介/豊前守
- N4069 **政常**(まさつね・市来いちき、通称;勘之丞) 1823-82<sup>60</sup> 日向諸県郡の国学者
- M4060 **正庸**(まさつね・寛かけい/本姓;平) ?- ? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[道芝の露とや人にいひてまし今朝の別れの袖の涙を](大江戸倭歌;恋1453)、  
[槇の戸に岩もる清水まつの風世を捨ててこそ聞くべかりけれ](同;雑1740/山居)
- M4068 **正常**(まさつね・柳田やなぎだ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[年をへて巖にねぞす磯馴そな松風吹かぬ日も片なびきせり](大江戸倭歌;雑1684)
- M4025 **政恒**(まさつね・高橋たかはし) ? - ? 江後期;歌人、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[宮人のかさぬるころも卯の花の垣根にかよふ色ぞ涼しき](大江戸倭歌;夏386/衣更)
- N4002 **正恒**(まさつね・遠藤えんどう、兵衛) ?- ? 江後期;伯耆会見郡外江村の神主、  
歌人;平賀元義の美作楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- T4066 **正常**(まさつね・行弘ゆきひろ/本姓;中原、) 1829-79<sup>51</sup> 筑前志摩郡馬場村の郷士、

国学者;平田篤胤[気吹舎]入門

[正常(;名)の別名/通称]別名;千流/千春、通称;頼母

政常(まさつね・小河) → 逸斎(いっさい・小河おがわ、藩士/詩) H 1 1 1 9

政恒(まさつね・片桐) → 良保(りょうほ・片桐かたぎり、俳人) J 4 9 4 2

政恒(まさつね・榊原) → 政愛(まさちか・榊原さかきばら/源、藩主/歌) M 4 0 8 0

正方(まさつね・甲斐庄/馬場) → 正方(まさみち・甲斐庄かいのしょう/橘、幕臣/歌) L 4 0 6 3

正常(まさつね・谷口/尾池) → 薫陵(くんりょう・尾池おいけ/谷口、医者) D 1 7 6 7

正常(まさつね・水野) → 敏樹(としき・水野みずの、藩士/歌人) W 3 1 5 8

正恒(まさつね・石川) → 麟洲(りんしゅう・石川、儒者/徂徠批判) K 4 9 4 2

正恒(まさつね・清野/赤松) → 三陀羅法師(さんだらほうし、狂歌作者) E 2 0 5 4

正恒(まさつね・武元) → 北林(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者) E 3 9 0 8

正恒(まさつね・花房) → 雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者) 4 8 2 6

正経(まさつね・星) → 正喜(真左喜まさよし・星はし、藩士/国学) S 4 0 4 1

正経(まさつね・保田) → 信解(のぶとき・保田やすだ/柴田、藩士/尊攘) K 3 5 2 4

正典(まさつね・浅井) → 篤太郎(とくたろう・浅井あさい、漢方医) T 3 1 0 0

E4018 政連(まさつら・藤原ふじわら、中原?)?-? 鎌倉後期;五位/幕府関係者;鎌倉在住、

歌人;玉葉集1865、1310刊「柳風抄」入、

[春もなほ雪降る里にかへるとや花の錦の衣かりがね](玉葉集;十四雑1865)、

[なにゆゑにかなしき秋のゆふべぞとおもひわかでもぬるる袖かな](柳風抄;秋68)

D4094 正行(まさつら・楠木くすのき、小楠公、正成まさじけ男) 1326-48戦死23 武将/父の遺訓を守り足利氏に対抗、  
高師直こうのもろなお・師泰と戦い河内四条畷に敗戦;弟正時と刺し違えて死、

辞世[かへらじとかねておもへば梓弓なき数に入る名をぞとゞむる](吉野如意輪寺)

E4019 雅連(まさつら・丸まろ/本姓;平)?- ? 1524存 武将;管領細川政元の家臣/刑部少輔、

連歌、1505細川千句に参加/05三条西実隆より未来記聞書「遠情抄」を譲受、

肖柏より「六家抄」を書写して受、1506石見へ行脚、1510「何人百韻」11聴雪宗碩と三吟百韻、  
[雅連(;名)の通称]七郎左衛門尉

E4020 雅宣(まさつら/まさのぶ・飛鳥井あすかい/家名[一時];難波、雅庸まさつね2男/本姓;藤原) 1586-165166 廷臣;

難波宗富没後断絶していた蹴鞠の難波家を再興;13代;1600難波宗勝として授爵;侍従、

1600左近少将、1608猪熊教利・兄飛鳥井雅賢と共に御所女官と密会乱校事件(猪熊事件)、

後陽成天皇の勅勘1608(慶長13/23歳)伊豆に配流(;隠岐配流の兄は1626没)、

1612赦免;帰京、1618雅胤に改名;生家飛鳥井家14代を継嗣(難波家は息子宗種が嗣ぐ)、

1623従三位/26(寛永3)参議/28左衛門督正三位/1628(寛永7/45歳)権中納言;雅宣に改名、

1631従二位/39(寛永16/54歳)権大納言;正二位/40辞任/44武家伝奏/51(慶安4)従一位;没、

弟雅章が嗣、歌;「雅胤卿詠草」、1618「雅胤卿記」、「鞠之触折紙寛永八年於八条宮御亭」著、

[雅宣(;名)の別名/法号]別名;宗勝(;初名)/雅胤、法号;潜竜院太素円雅

R4068 正珍(まさつら・橋村はしむら/本姓;度会、通称;織部/勘左衛門) 1607-5751 伊勢度会郡の外宮権禰宜、  
国学者

U4002 正珍(まさつら・杉木すぎき/本姓;秦、正堯男) 1642-172584 伊勢山田の神職/歌人;宮崎文庫歌会参加、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]6首入、

[うつつともさだめなき世を常と見ば行くも帰るも夢の通路](麓の塵;雑666)、

[正珍(;名)の通称]織部/宇兵衛/勘右衛門

S4049 正陳(まさつら・真野まの、正命まさみち男) 16481-175777 江戸の幕臣;御書院番、和学者;父門

[正陳(;名)の通称]左太郎/左門/佐右衛門/権左衛門

04063 正連(まさつら・奥村おくむら、旧姓;大村) 1680-174263 京の生/近江彦根藩老木俣家に出仕、  
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、

[正連(;名)の通称]八之丞

E4021 勝貫(まさつら・日野西ひのし、初名;兼貫、資興すけおき男/本姓;藤原) 1755-81早世27 母;菅原忠杲女、

廷臣、1781正四下/権左中弁/権左中弁、1767-81「日野西勝貫日記」著、

1775「五位藏人拝賀私記」著、

1777「賀茂下上社正遷宮奉幣発遣参仕交名」80「春日祭参向前後雑記」外記録多数、

法号;祥雲院

- R4082 **端連**(まさつら・花房はなぶさ、徳田尚二2男)1824-9976 備中吉備郡真備町の岡山藩士の家の生、  
備前岡山藩士花房義考の養子、維新後;実業家/1877第二十二国立銀行を設立、  
のち岡山紡績会社の経営/岡山商業会議所・山陽鉄道会社・岡山積金会社の発起人・顧問、  
1889岡山市長、歌人/書画を嗜む、  
義質(長男/外交官)・松田重直(2男/造船技官)・花房直三郎(3男/内閣統計局長)の父、  
[端連(;名)の初名/通称/号]初名;端夫まさお、通称;次郎吉/七太夫、号;蘭堂
- R4069 **正貫**(まさつら・橋村はしむら/本姓;度会、通称;主計、旧姓;中山)1840-190869 伊勢度会の生、  
橋村家の養嗣子;外宮権禰宜、江後期;外宮の御師として筑後・筑前に多くの檀家を有す  
政行(まさつら・二階堂、行二ぎょうじ)→ 政行(まさゆき・二階堂、幕臣/歌/連歌) I 4 0 1 7
- L4082 **真纒**(まさで・荒瀬あらせ/鈴木)1804-5552歳 周防吉敷郡の人/周防佐波郡で商業;綿屋、  
国学;木村豊平・近藤芳樹門、妻;同族の荒瀬百合子ゆりこ(近藤芳樹門の歌人)、  
[真纒(;名)の通称/屋号]通称;虎吉/善六/善七、屋号;綿屋、荒瀬安船やすふねと同族
- E4022 **雅光**(まさてる・まさみつ・源みなもと、顕房男、顕房男雅兼の猶子?広綱男?)1089-112739 母;顕房室清円女、  
平安後期廷臣;従五上治部大輔/越中守、隆兼(興福寺已講)・実覚・堯仁・玄海・良海等の父、  
歌人;1104広綱家歌合参加、1115-26忠通家歌合の常連;7度参加、和歌色葉の名誉歌仙に入、  
後葉集3首・続詞花集・今撰集・万代集・夫木抄に入集、  
勅撰16首;金葉(10首107/143/225/355/413以下)詞花(127/220)千(508/713/849)新続古、  
[時鳥鳴きつと語る人づての言の葉さへぞうれしかりける](金葉集;二夏107)  
[法性寺入道前太政大臣(藤原忠通)恋の心を花に寄せて人々によませ侍りけるに、  
吹く風にたへぬこずゑの花よりもとどめがたきは涙なりけり](続詞花;恋541)
- E4023 **政照**(まさてる・北尾きたお) ? - ? 江後期天明1781-9頃江戸の絵師;北尾政演[山東京伝]門、  
京伝作の黄表紙の挿絵を描く、1788「義士の筆力」画
- E4024 **正陽**(まさてる・渋川しづかわ、川口喜左衛門春芳男)1771-182151 1787幕府天文方渋川正清の養子、  
1792將軍家斉に謁/99家督継嗣;幕府天文方、1809隠居、11法体;一哉いっさいと号す、  
1799「渋川系譜」著、[正陽(;名)の通称/号]通称;勝次郎/富五郎、号;一哉、養子;景佑
- E4025 **正照**(まさてる・高木たかぎ)1774- 186188 信州伊那郡神子柴の俳人;義父の伯先門、  
妻は伯先(伊那俳人)の女、弓道にも長ず、「不二紀行」著、  
[正照(;名)の通称/号]通称;佐太郎、号;雀翁かくおう/雀羽/鶴羽/駒嶽仙
- E4026 **正英**(まさてる・中根なかね、正寧男)1779-181234 幕臣;1797父を継嗣;6千石/寄合/火消役、  
1792「真間国府台遊覧手記」著、[正英(;名)の通称]鍋太郎/内膳/主水もんど
- 04093 **正煥**(まさてる・金子かねこ、)1837-191983 周防徳山の国学/歌;河合宗裕むねひろ・河合蕃江みつえ門、  
歌;佐々木敏雄門、蕃江「千草の露」編
- 04035 **方暉**(まさてる・大坪おおつば、)1842-189554 筑後久留米藩士、国学・歌;船曳鉄門かなと(磐主)門、  
[方暉(;名)の通称/号]通称;三四郎、号;椿山ちんざん
- 正照(まさてる・加藤) → 順庵(じゅんあん・加藤かとう、医者) 2 1 9 8
- 正輝(まさてる・藤原) → 春草(初世しゅんしょう・勝川/勝宮川、絵師) J 2 1 9 4
- 正燾(まさてる・河田/大橋) → 陶庵(とうあん・大橋、儒者) 3 1 8 9
- R4007 **眞郷**(まさと・徳丸とくまる、通称;唯次郎)?-? 江後期;大坂の歌人;香川景樹(1768-1843)門
- 04028 **眞郷**(まさと・大江おおえ、別姓;恒屋/近藤)1849-190961 筑後久留米藩士、  
国学・歌;船曳磐主いわぬし(鉄門かなと)門
- 正登(まさと・新見) → 正登(まささだ・新見しんみ、幕臣) C 4 0 5 6
- 正人(まさと・江馬) → 天江(てんこう・江馬、医者/詩人) D 3 0 4 6
- 正人(まさと・高橋) → 西山(せいざん・高橋たかはし、医者/歌人) O 2 4 2 5
- E4027 **正任**(まさと・相良さがら/本姓;藤原)1430-? 1506存 肥後相良氏の一族/周防守護大内政弘の家臣、  
武将;右衛門尉/遠江守、政弘の信任厚く「大内家壁書」に署名入、連歌;宗祇と親交、  
1477宗祇の「何船百韻」参加、1478「正任記」著、新撰菟玖波;3句入、  
新菟玖波を書写し相良為続ためつぐに送付(為続は新菟玖波の撰集資料を宗祇に提供)  
法名;正任/永全(;顕伝明名録)



- L4021 **正任**(まさとう・井上いづえ、正利男)1630-1700<sup>71</sup> 常陸笠間藩主のち1693美濃郡上八幡藩主；  
1669家督；常陸笠間藩2代藩主/奏者番；1674失態あり；75蟄居/92郡上藩主；93隠居、  
[正任(；名)の通称]大学助/中務少輔/相模守、 呼称；河州公(河内守)  
[はへばたてたてば歩めと思ふにぞ我が身につもる老をわするゝ]  
(其角遺稿「類柑子るいこうじ」1707刊)  
参照 → 調柳(ちようりゅう・種田、這へば立ての句) K 2 8 0 9
- L4047 **正任**(まさとう・大塚おつか) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第九神帰第三句/第八鶉脇句/第八虫発句等入、  
[木幡の秋はすごき猫また](生玉万句；鶉脇句、  
発句古道；とらるゝや鶉なくなる深草の山)  
[鈴虫の声もすむ也神楽堂](虫発句/謡曲高砂；げに様々の舞姫の声も澄む也住の江の)
- T4083 **正任**(まさとう・渡辺、) 1707 - 1770<sup>64</sup> 安藝安藝郡矢野村の国学者/歌人；冷泉家入門、  
1749(寛延2)「水内紀行」著(佐伯郡湯の山温泉入浴)  
正任(まさとう・橋村/荒木田)→ 久守(ひさもり・荒木田、神職/国学) C 3 7 0 7  
正任(まさとう・隅屋) → 臥熊(がゆう・隅屋すみや、製鉄業/俳人) S 1 5 1 8  
政任(まさとう・小川) → 風麦(ふうばく・小川おがわ、藩士/俳人) 3 8 9 8
- E4028 **正遠**(まさとお・前川まえかわ、通称；曾八)?-? 江末期讃岐丸亀藩士、  
「讃岐名義考」「百人一首俚言」著
- E4029 **当時**(まさとき・源みなもと、能有男)868?-921<sup>54</sup>? 文徳天皇の孫/廷臣；911参議/921従三位中納言、  
歌人；906日本紀竟宴和歌参加、新勅撰540、道真「新撰万葉集」下巻撰?、当純まさずみの兄、  
父 → 能有(よしあり・源、右大臣/歌人) 4 7 0 2
- E4030 **正言**(まさとき・まさこと・大江おおえ、一時；弓削ゆげ、大隅守大江仲宣男)?-? 1021<sup>存</sup> 廷臣；993勘解由判官、  
993藤原伊周の使者として藤原実資を数度訪問(小右記)/1006大学大允、従五下、歌人、  
1008頃弟嘉言よしときと共に能因と長楽寺に交流/出雲に旅、能因集・玄々集入、一時弓削姓、  
勅撰3(5)首；後拾遺(38/496)金葉(Ⅲ520/528)詞花(391；拾遺350弓削嘉言よしときと同一歌)、  
[山高み都の春を見渡たせばたゞひとむらの霞なりけり](後拾遺；38/京の長楽寺にて)、  
[出雲へ下るとて、  
ふるさとの花の都に住みわびてやくもたちそふいづもへぞゆく](玄々集；101)、  
弟 → 以言(もちとき・大江・弓削、詩人) 4 4 0 6  
→ 嘉言(よしとき・大江・弓削、歌人) 4 7 1 7
- E4031 **順時**(まさとき・藤原、惟信男/正四下藤原国光の養子)?-? 加賀守/従五下、妻；紀敦経女、  
平円・順円(僧)・弁乳母(べんのめと、明子、参議藤原兼経の妻/頭綱母/歌人)の父  
☆続詞花集入の藤原政時と同一か？、  
[あさくらの声こそ空にきこゆなれあまの岩戸もいまや明くらん]  
(続詞花集；神祇364、朝倉は神楽歌の名)
- U4026 **尹時**(まさとき・藤原、甲斐守師季男)?-? 母；藤原伊房女、平安後期廷臣；従五下刑部少輔、  
歌人；1119(元永2)内大臣忠通歌合参加、覚成(最勝寺/眉間禪師)の兄/済尋法印の甥、  
[ゆふされやあまつ空なるしらまゆみとみれば月ぞ山の端にいる]、  
(忠通歌合；二十巻本[晩月]九番左)
- U4027 **昌言**(まさとき・大江おおえ、従五上維明男)?-? 平安後期廷臣；文章生/少内記、仲宣・理任の弟、  
965(康保2)桜花の宴の左近の陣の座にて小序を記す(袋草紙)
- E4032 **正辰**(まさとき・岡村おかむら) ? - ? 江前期大和郡山の俳人；池田正式まさのり門、  
1670「大和順礼」編(；伊賀に宗房[芭蕉]の名がある)、1672「続大和順礼」編
- Q4014 **政時**(まさとき・柴田しばた)1671- 1712<sup>42</sup> 三河額田郡伊賀八幡宮神官、  
神道；吉田兼連(兼敬かねゆき)門、  
[政時(；名)の通称] 刑部権大輔
- E4033 **政辰**(まさとき・清水しみず) ? - ? 江中期歌人、1737「伊勢神宮奉納千首和歌」著
- E4034 **昌時**(まさとき・須藤/首藤すどう、昌勝男)?-? 江中期越後の兵法家/代々越後流三派の師家、  
合伝流兵法；1717父より伝受、1761門人徳田嶺興むらおきに伝授、  
「五材辨義」「校勝卷明辨」著

- [昌時(；名)の通称/号]通称；隼人、号：一柳子
- E4035 **政辰**(まさとき・仙石せんごく、政因男)1723-7957 江中期1732但馬出石藩主仙石政房の養子嗣、出石藩主；1735襲封/学問振興；1775学校設置、「多地満古理」「茗家与聞」著、[政辰(；名)の幼名/法号]幼名；陽之助、法号；実相院
- R4052 **匡解**(まさとき・野村のむら、) ? - 1794 江中期；信濃飯田藩士、歌人、国学・歌；依田正純(1681-1749)門/歌；澄月門、[匡解(；名)の通称/号]通称；八十五郎やごろう/右善/善右衛門、号；不退
- E4036 **正論**(まさとき・栗屋あわや、通称；弾藏、正憲男)1747-181367 長門萩藩士、弓術家；父門、藩主毛利重就に重用せられ以下4代の藩主に射師として出仕、1808「鳴弦法之書」著、1808「鳴弦法口伝註」「引目法神前行法射行手鑑」著
- 04003 **正辰**(まさとき・浦上うらがみ/本姓；藤原/旧姓；乗松、通称；又市)1757-181559 近江彦根藩士；目付、国学者/歌人(；彦根歌人伝鶴88番入)
- E4037 **政辰**(まさとき・浅井あさい、通称；弁左衛門)1765-183672 福井藩大御番役/俳人；藩中宗匠と称される、1827「恩の夜話」著、「めくる風車集」編、「老鶯集」「発句集」「緑山句集」著、[政辰(；名)の号] 時雨庵/李青/緑山/吹松園/二字亭/里声、法号；亮泰院妻ゆきも俳人 → 可葉(かよう・風姿園、中川善庸女ゆき) P 1 5 6 1
- E4038 **正兌**(まさとき・橋村はしむら/本姓；度会、檜垣常有男)1785-183753 伊勢度会郡の生、生後すぐに外宮禰権宜の橋村正衡まさむら(1755-93)の養子、1786(2歳)外宮権禰宜/従五下、1803(19歳)副御炊物忌職兼任；従四上、和漢学；広田助侑門/国学；本居春庭門、神宮典故に精通、大平・篤胤の三大考論争に参加、「万葉句分」編、「万葉集年次及人名目安」「勸学示蒙」「山橋問答」、1830「法曹至要抄」外著多、歌；本居大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌[周防天神山より多々良三田尻を眺望]入、[三田尻の浦見にくればあまをぶねはららにうけり網引すらしも](八十浦；961反歌)、[正兌(；名)の幼名/初名/通称/号]幼名；亀丸、初名；正風/正淳、通称；隼人/弾正、号；鶉居じゅんきよ、淳風きよかぜの父
- E4039 **雅言**(まさとき・広安ひろやす、通称；久右衛門/屋号；福富屋)1787-186882 備前岡山山崎町商家福富屋、国典に通ず/歌人；1840「百人二首」編
- R4023 **正辰**(まさとき・永田ながた/本姓；藤原、)1801?-1874?74? 近江彦根藩士、国学/歌；小原君雄門、歌；[鴉のうみ]入、[正辰(；名)の通称] 権兵衛/権右衛門
- E4040 **奉時**(まさとき・池内いけうち、貴治男)1814-63暗殺50 近江湖南の生/父は知恩院宮尊超法親王の侍読、京で医業/傍ら青蓮院宮/知恩院宮の侍読、安政1854-60頃三条実方に与し尊攘論主唱、安政大獄で自首；追放刑/大坂に籠居；裏切者と批判され1863尼ヶ崎で暗殺、暗殺の翌日首がその罪状書と共に難波橋に晒される、「攘夷論」/1858「雖在涙痕」著、[奉時(；名)の字/通称/号]字；士辰、通称；大学/退蔵、号；陶所、法号；眞教院
- M4063 **正言**(まさとき・中根なかね/本姓；平、正峽男)1794-1863暗殺70 江後期；幕臣、一橋家に出仕；家老、慶喜の側用人兼番頭として一橋家家老平岡円四郎と共に重用される、慶喜に開国・公武合体を説くが受入れられず、攘夷決行派の恨みを買う、1863、12.3將軍後見職一橋慶喜の発駕を控え尊攘派に江戸雉子橋門外で暗殺、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[人ごころうつりやすさを知りながらみれば思ひぞます鏡なる](大江戸倭歌；恋1613)、[正言(；名)の別名/字/通称]別名；正剛まさたけ、字；求馬、通称；長十郎
- L4033 **政辰**(まさとき・鈴木すずき、別名；円/央、通称；録之丞)?-? 幕末期和算家；平尾家門/馬場正統門、司天家土御門家の都講/1877東京数学会社創立に関与/岩田好算・高久守静と同門、1864「異形同術解義」編、「算学通鑑」「方円数理」「増神壁算法解義」編/「綴込六種」外著多数
- 04056 **正期**(まさとき・岡田おかだ、大橋仁右衛門2男)1821-190787 尾張愛知郡の国学者、近江八幡の商家岡田家11代を継嗣、国学；大国隆正・福羽美静門、家業の傍ら歌人として活動；[鴉のうみ]入、[正期(；名)の通称/号]通称；仁三郎/八十治(八十次)、号；正庸
- 雅言(まさとき・源) → 雅言(まさこと・源、廷臣/歌人) C 4 0 4 9

致時(まさとき・中原) → 致時(むねとき・中原)  
 匡時(まさとき・大江) → 維順(これより・大江、歌人)  
 政時(まさとき・千村) → 赤之御膳(あかのごぜん、藩士/狂歌) D 1 0 2 8  
 政時(まさとき・永山) → 亥軒(がいけん・永山ながやま、藩士/儒者) I 1 5 6 2  
 政辰(まさとき・榊原) → 政邦(まさくに・榊原/源、藩主/歌人) C 4 0 3 7  
 政辰(まさとき・竹川) → 馬陵(ばりょう・竹川たけがわ、儒/詩人) F 3 6 9 0  
 正時(まさとき・蒔田) → 広定(ひろさだ・蒔田まいた、武将/藩主) F 3 7 8 3  
 正時(まさとき・北山) → 桃庵(とうあん・北山、医者) 3 1 8 6  
 正時(まさとき・横地よこち) → 島狄子(とうてきし・横地、医者/書家) G 3 1 6 6  
 正辰(まさとき・古川) → 古松軒(こしょうけん・古河/古川、地誌家) 1 9 3 3  
 正辰(まさとき・興津) → 正辰(まさひで・興津おきつ、藩士/国学者) O 4 0 6 0  
 昌言(まさとき・大地) → 東川(とうせん・大地おち、儒者) G 3 1 1 2  
 順時女(まさとき・むすめ・藤原) → 弁乳母(べんのめと、明子、歌人) 2 7 0 7

- E4041 **雅俊**(まさとし・源みなもと・村上流、号;京極大納言、右大臣顕房男)1066-1122<sup>57</sup> 母;藤原良任女、平安後期廷臣;蔵人頭/右兵衛督/1091参議/正四下/92従三位/95正三位/98権中納言、1100従二位/01左衛門督兼任;正二位/03春宮権大夫兼任/11権大納言/22病没、歌;1093郁芳門院根合参加(右方)、  
 [鳴かずとてうちもふされず郭公声待つ人も寝がたかりけり](郁芳門院根合;二番右6)
- E4042 **雅俊**(まさとし・藤原ふじわら、雅藤男?)1269-1322<sup>54</sup> 廷臣;1303参議/04従三位太宰大貳/14正二位、1299「八幡御幸次第」「正安元年新院両社御幸記」著
- 4014 **雅俊**(まさとし・飛鳥井あすかい、雅親男/本姓;藤原)1462-1523<sup>62</sup> 戦国期廷臣;雅康の猶子;1482家督、1490実父雅親の継嗣;歌鞠両道の飛鳥井家を相続、足利將軍家の歌道・蹴鞠の師範、1498従三位参議、1501頃より北陸近江美濃遍歴/1515権大納言/17正二位、1520周防大内家住;没、法名;敬雅/法号;晴雲院、1492-22家集「園草えんそう」、1511「雅俊百首」「飛鳥井雅俊卿集」著、飛鳥井家「古今集注」を集大成:「飛鳥井家歌道秘伝書」、1520「永正聞書」、「和歌之条々」著、「蹴鞠条々」「蹴鞠十二箇条肝心抄」「鶴物語」/歌学「八代集てには」外著多数、1503三十六歌合参加/新菟玖波6句入、  
 [鳴く蟬の端山はまの梢暮れ初めてもりくる月もうすき影かな](三六歌合;十番右)
- 4015 **昌俊**(まさとし/しょうしゅん・佐河田さかわだ/本姓高階)1579-1643<sup>65</sup> 下野の武将/上杉家司木戸玄斎の養子、家康麾下の永井直勝の家臣/関原・大坂陣活躍、山城淀藩士/晩年;山城薪里一休寺辺隠棲、歌人;飛鳥井雅庸・近藤信尋門/茶人;遠州門、連歌;1621玄陳と百韻、39「松花堂行状記」著、松花堂昭乗・小堀遠州・石川丈山・淀屋个庵らと交流、狂歌;1666古今夷曲集入、  
 [吉野山花咲くころの朝な朝な心にかかる峰の白雲]  
 [昌俊の通称/号]通称;喜六、号;壺斎/黙々翁/臥輪/不二山人/懸壺居士/薪里
- N4032 **正利**(まさとし・井上いづえ、正就長男)1606-75<sup>70</sup> 江前期譜代大名;1628(寛永5)父が殺害;家督継嗣、遠江横須賀藩2代藩主;遺領5万余石のうち横須賀藩4万7500石を継嗣、従五下・河内守、1649(慶安29奏者番/転封;常陸笠間藩初代藩主;5万石/1658寺社奉行;老中酒井忠清と不仲、寺社奉行辞任、歌人、正室;谷村藩主鳥居成次女、正任まさとう・正信・正興・植村家貞継室・青山幸実室・森川重信室・小出英利室らの父、歌;茂睡[鳥の跡]入/了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]3首入、  
 [さをさして引く手や寒き川の瀬に初雪つめる船ぞいざよふ](茂睡[鳥の迹]冬509)、  
 [心なき雲の行き来も秋来ぬといふばかりなる色もこそあれ]、  
 (若むらさき;54/立秋/もこそ;近世は平安用法と異なり[すると困る]の意なし)、  
 [正利(;名)の通称]通称;大学助/河内守、法号;正善院智源日利
- E4043 **正俊**(まさとし・堀田ほつた、老中堀田正盛男/本姓;紀)1634-84<sup>刺殺51</sup> 母;酒井忠勝女/正信の弟、1635家光の命で春日局の養子、41世子竹千代(家綱)の小姓/43春日局及び父遺領等継嗣、1660奏者番/67上野安中藩主/70若年寄/79老中;従四下備中・筑前守、綱吉の幕政に参与、1681下総古河に転封/大老職、左近少将/82加増;13万石の藩主、妻は稲葉正則女、武断的な傾向のため綱吉に敬遠される;従弟若年寄稲葉正休に江戸城中で刺殺される、



歌人：「五十首和歌」「堀田正俊公歌集」、1680「芥説」81「日光山御名代参詣日録」著、  
1683「勸忠書」、「続芥説」「鬲言ようげん録」、「叢翁文集」著、  
[正俊(；名)の通称/号]幼名；正吉/通称；久太郎、号；新叢翁、法号；不矜院、  
正仲・正虎・正高の父

- L4048 **正俊**(まさとし・萩原はぎわら) ? - ? 江前期大阪の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第九頭巾発句/相撲脇句等入、  
[糊加減紙は受けずも頭巾哉](生玉万句；頭巾発句、紙子頭巾の糊がうまくついていない、  
古今；501読人不知；恋せじと御手洗河にせし禊ぎ神は受けずぞなりにからしも)
- E4044 **正俊**(まさとし・川合かわい) ? - ? 江前期大阪の地誌家、1673頃「古今蘆分鶴大全」編
- T4095 **正甫**(まさとし・日比びび、) ? - ? 江前期；武士/歌人；  
1688浅井忠能「難波捨草」30首前後入、浅井忠能<sup>ただり</sup>と親交、  
[玉津島社奉納百首歌に閑路雁といふ事をよみ侍る、  
こゑたてて空行く雁をひと結びむすびもとめよ相坂の閑](難波捨草；雑四季653)
- T4099 **正俊**(まさとし・田辺たなべ、) ? - ? 江前期；武士/歌人；  
1688浅井忠能「難波捨草」入、  
[思ひきやあだ波よする川島のなに流れたる契なりとも](難波捨草；恋540)
- 04068 **正利**(まさとし・加藤かとう、) 1641-1678<sup>38</sup> 江戸の幕臣；大番、国学者、妻；加納探幽女  
[正利(；名)の通称]源四郎/源右衛門
- E4045 **正甫**(まさとし・前田まえだ/松平、前田利次男/本姓；菅原) 1649-1706<sup>58</sup> 富山藩主/従四下/近江守、  
1674襲封/文武振興；儒者南部草寿らを招聘、地域産業育成；越中壳薬の基礎、古銭蒐集、  
1696「化蝶類苑」、「化蝶類苑略集」「化蝶定階」著、  
[正甫(名)の別名/通称/法号]別名；利勝/利昌/利虎/利義/利之/季久、通称；掃部/近江守、  
法号；正甫院天心日菅
- S4082 **雅俊**(まさとし・万波まんみなみ、号；南峯) 1764-? 1839(76歳) 存 備前和気郡藤野村の庄屋(名主)、国学者、  
1939(天保10)和気清麻呂の頌徳碑[美作備前国造和気清磨公之塚]を建立
- E4046 **正敏**(まさとし・木崎きさき、宗賢男) 1689-1766<sup>78</sup> 若狭小浜の酒造業、木崎宗珠の婿養子、  
歌；京の香川宣阿門、連歌、地誌；「拾椎しゅうすい雑話」28巻/追加2巻著、  
[正敏(；名)の通称/号]通称；藤兵衛/草三、号；惕窓てきそう、法号；惕窓院
- P4092 **政利**(まさとし・佐野さの、旧姓；長屋) 1729-1814<sup>86</sup> 筑前鞍手郡上底井野<sup>かみそいの</sup>村の神職/国学者、  
[政利(；名)の通称]壱岐守
- E4047 **正紀**(まさとし・早川はやかわ、和田市右衛門直舎男) 1739-1808<sup>70</sup> 田安家家臣早川伊兵衛正謹の養子、  
1766幕臣直参早川家の宗家を相続/69勘定方/75関東諸河川の普請に尽力し報奨を受、  
1781羽前尾花沢の代官/87美作久世の代官；備中笠岡・倉敷代官を兼任、  
久世に学舎典学館を・笠岡に敬業館を設立；庶民教育に尽力、  
1801関東地廻役代官として武州久喜に赴任；学舎遷善館設立/治水事業に成果、  
1798「麦稻陰陽伝」1804「六教解」、「久世条教談話」「条教談話」「久世条教」著、  
[正紀(；名)の字/通称/法号]字；子綱、通称；岩之助/伊兵衛/八郎左衛門、法号；宝岸院
- P4059 **政敏**(まさとし・小島こじま、号；桂屋) 1778-1848<sup>71</sup> 武蔵都築郡の名主勤方役、国学；小山田与清門  
「年佐免艸・ナル和日記」著(飯田俊郎と共著)
- E4048 **正準**(まさとし・吉田よしだ) 1790- 1846<sup>57</sup> 土佐高知藩士；記録方・分限方・集録方、  
叔父；安並雅景、国学；安並雅景門/1816平田篤胤門、古典に精通/歌・管絃・謡曲を嗜む、  
「御家中名譽」著、「採玉集」初篇(；息孝継と編纂/没後に孝継が1862完成)、  
[正準(；名)の通称]楠蔵/楠弥太
- L4015 **正利**(まさとし・古市ふるいち、通称；辰之助/号；自求堂) 1802-? 1878<sup>存</sup> 越後村上の和算家；藤田貞資門、  
藤田嘉言門、晩年失明、1859「関流算法真術両儀式之伝」67「洪範新書方陣解術」「一千題」編
- E4049 **正甫**(まさとし・星川ほしかわ、名；吉寿、鴨沢金右衛門恒褒2男) 1806-80<sup>75</sup> 陸奥盛岡藩士、  
盛岡南部藩士星川吉律の養子、1823(文政6)藩主南部利用の御使者番給仕、  
盛岡本御蔵奉行/大槌御山奉行/金山吟味方/厨川代官/田名部御山奉行、  
勘定吟味役/1849勘定奉行/上田代官を歴任、地誌家、  
1861(文久元)盛岡藩諸家系図「参考諸家系図」88巻を編纂；藩主に献上、

維新後は岩手県庁地理編輯掛兼国史編輯務；地誌・国誌の編纂、  
「岩手県管轄地誌」編纂中1880(明治13)病没、  
1833「盛岡砂子」49「正甫上書」61「郷村私説」74「増補盛岡砂子」、「公国史」37巻著、  
「公国譚」「来翰記」「私要年代記掃溜草子」外著多数、  
[正甫(；号)の幼名/通称/別号]幼名；栄蔵、通称；茂兵衛/忠平/吉寿/正輔まさすけ、  
別号；宕陽

E4050 **雅寿**(まさとし・白川しらかわ/本姓；源、雅寿王、参議梅溪行通男)1807-34**早世28** 母；松平頼昌女、  
神祇伯白川資延の養子；1819神祇伯/33正四下、法号；転輪院、養子；資敬すけたか王、  
1820-34「雅寿王記」23「御幣之事」「触穢之日次」/30「伊勢公卿勅使発遣記」、外記録多数

M4047 **正甫**(まさとし・寺田てらだ、名；まさすけ・まさもと・まさかず?)?-? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[冬くれば秋の手向けのもみぢ葉を幣と散らせる山風ぞ吹く](大江戸倭；冬1037/初冬)

T4037 **正敏**(まさとし・安原やすはら、河本かわもと公輔さんすけ[1775-1832]男)1818-76**59** 備前岡山の商家の生、  
備中賀陽郡清水村(総社)の醸造業安原正常の養子；久子(正常妻/歌人)の継子、  
国学・歌人；久子門、[類題吉備国歌集]1首入、源三(安原本家を嗣)の父/徳永正学の養父、  
[正敏(；名)の字/通称/号]字；子訥、通称；僊三、号；桃蹊

E4051 **正敏**(まさとし・仙田せんた、重義男)1821-1864**自殺44** 筑前博多祇園町の船方属吏/辞任し「三事録」著、  
福岡藩主黒田長溥に拔擢；藩士；土郡役手付/1862脱藩、上京；姉小路家に出仕；  
勤王派と交流、1864禁門変に大坂で捕縛；獄中で服毒自殺、兵法に精通、1902追贈従五位、  
1854「海防新話」著、  
[正敏(；名)の通称]保平/市郎/一郎、正弘の兄

E4052 **正賛**(まさとし・浅井あさい、紫山男)1828-83**56歳** 医者；脈学；河田寿安門/1847尾張藩医学館代講、  
藩医；1857奥医師格/64薬園奉行、維新後は一等医・漢学二等助教、「映間紀聞」「診脈秘話」、  
「樺園雑録」編/「九臯文稿并詩草」1850「入京紀行」56「舌診考」編/61「身体和名集」外著多数、  
[正賛(；名)の字/通称/号]字；思文、通称；吉太郎/儀一郎、号；樺園かえん/九臯、法号；良善院

E4053 **正俊**(まさとし・石原いしはら、正明の甥)??-? 江後期尾張海東郡神守村の国学者；富樫広蔭門、  
正明から「尾張の家苞」を受、「待花」著、[正俊(；名)の通称]曾左衛門/文右衛門

E4054 **正利**(まさとし・渡辺わたなべ) ?-? 備中後月郡木之子村の農業、1861「備中村鑑」編、  
[正利(；名)の通称] 与平/与兵衛

E4055 **正敏**(まさとし・堤つづみ) ?-? 江後期京の寺町松原北の儒者/のち御幸町姉小路北住、  
禅学を修学、「商道九篇」「商家必読国字解」著、  
[正敏(；名)の字/通称/号]字；子行、通称；兵蔵、号；一雲

P4077 **政敏**(まさとし・近藤こんどう、旧姓；浅野)1846-81**36** 播磨の馬術家/国学者/歌人、  
江戸の幕臣；徳川家茂の馬術師範、信濃伊那郡の七久里神社祠官  
[政敏(；名)の諡] 若楓瑞垣大人命

正利(まさとし・松波/斎藤)→	道三(どうさん・斎藤、武将/領主)	E 3 1 6 8
正利(まさとし・牧村/岡田)→	磐斎(ばんさい・岡田/牧村、神道家)	H 3 6 6 8
正利(まさとし・田中)→	由真(よしざね・田中たなか/源、和算家)	D 4 7 5 2
正利(まさとし・井上)→	遅春(ちしゅん・井上、商家/俳人)	E 2 8 3 6
正俊(まさとし・市島)→	静修(せいしゅう・市島いちじま、商家/書・詩)	I 2 4 6 5
正俊(まさとし・土橋)→	良恵(りょうけい・土橋、商家/連歌)	H 4 9 2 2
正俊(まさとし・小本)→	尚芳(ひさよし・小本おもと、藩士/歌人/書)	C 3 7 1 9
正敏(まさとし・松村)→	篁雨(こうう・松村まつむら、医/俳人)	H 1 9 3 7
正敏(まさとし・浅見)→	巢雲(そううん・浅見あさみ、藩士/書家)	G 2 5 0 9
正敏(まさとし・橘)→	岷江(みんかう・橘たちばな、絵師)	G 4 1 8 0
正敏(まさとし・矢野)→	夜潮(やしお・矢野やの、絵師)	4 5 6 4
正敏(政敏まさとし・石黒)→	済庵(さいあん・石黒いしぐろ、藩医/本草)	H 2 0 0 0
正敏(まさとし・片岡)→	正占(まさうら・片岡かたおか/平田、国学/神道)	O 4 0 8 5
政敏(まさとし・長田)→	比等之(ひとし・長田おさだ、商家/歌人)	I 3 7 9 5

政敏(まさとし・富田/名越)→ 范斎(はんさい・名越なごや、藩士/儒) H 3 6 6 7  
 政敏(まさとし・小沢) → 蘭江(らんこう・小沢おざわ、和算家) C 4 8 0 3  
 政敏(まさとし・長田) → 比等之(ひとし・長田おさだ、商家/歌人) I 3 7 9 5  
 政利(まさとし・井上) → 淑蔭((よしかげ・井上、国学/戯作/歌) 4 7 0 5  
 正教(まさとし・北沢) → 正教(まさのり/まさとし・北沢きたざわ、神職) P 4 0 2 7  
 昌敏(まさとし・岡おか) → 道恕(どうじょ・岡おか、医者) F 3 1 2 7  
 雅寿王(まさとしおう) → 雅寿(まさとし・白川/源/梅溪、神祇伯) E 4 0 5 0  
 正利女(まさとしのむすめ・折井)→ 土佐子(とさこ・黒田、直邦室、日記) L 3 1 8 1

- N4065 **正富**(まさとし・磯部いそべ) 1692- 1764<sup>73</sup> 代々甲斐山梨郡国玉村の玉諸神社(国玉明神)祠官、国学者/歌、  
 [正富(；名)の通称/号]通称；大学、号；蘆乃屋
- E4056 **雅富**(まさとし・白川しらかわ、雅富王、梅溪通条男) 1702-59<sup>58</sup> 白川雅冬の養子/1725神祇伯/36従三位、1740息子雅辰に譲伯/41還任/52従二位、1738-39「雅富王記」49「伊勢遷宮御拝代官之記」著、1752「内侍所御搦御拝次第」、「遷宮次第」「主上御拝相伝次第」外著多数、  
 雅辰王・資顕王の父、  
 [雅富(名)の別名/法号]初名；英方/康英、のち雅富王、法号；景光院
- S4074 **正福**(まさとし・松元まつもと、本姓；塙、通称；寿閑) ?-1767 江中期；薩摩鹿児島島の医者、
- E4057 **正富**(まさとし・三橋みはし) ? - ? 江中期摂津尼崎の和算家、  
 藩主松平家の命で領地興廃を調査、1778-1800「数学守雌録」
- M4091 **政富**(まさとし・堀家ほりけ) 1793- 1838<sup>46</sup> 備中賀陽郡の神職；吉備津宮の社家頭、  
 国学者；藤井高尚・平田篤胤門、貞正の孫/政平の父、  
 [政富(；名)の通称/号]通称；縫殿介ぬいのすけ/佐渡守/東馬、号；常磐舎
- E4058 **正福**(まさとし・久保寺くぼでら、交美男) ?-? 1794前生-1864以後没<sup>70余</sup> 幕臣/和算家；古川氏清門、1816-21氏清の家塾の督学代理、1811「稻荷額写」21「勸事算法」著/25「類題五十条」編、1832「算題十二条」、64「神草算法」著、「続淇澳集拔萃」編、  
 [正福(名)の字/通称]字；君履/珣瓊、通称；忠太夫/辰之助/院平、正久の兄
- E4059 **正富**(まさとし・大森おおもり、通称；左近/号；神武堂) ?-? 江戸後期軍学者；  
 [扶桑古流軍学異轡戦法伝正統授業]の肩書、1855「武道藝術秘伝図会」著(一勇斎国芳画)、1858「武者言葉」(二卷)編
- R4084 **昌富**(まさとし・花輪はなわ/塙/本姓；源、旧姓；中島) 1836-62<sup>早世27</sup> 甲斐巨摩郡の国学者；平田錬胤門、  
 [昌富(；名)の通称]鉄太郎/源太郎/半弥/六郎右衛門
- 正富(まさとし・竹腰) → 正美(まさよし・竹腰たけのこし、藩主/詩歌) I 4 0 6 8  
 正富(まさとし・中根) → 忠富(ただとし・中根なかね、藩士/家老/歌) Y 2 6 5 8  
 正福(まさとし・福田) → 誠斎(せいさい・福田、儒者/藩校教授) I 2 4 3 3  
 正福(まさとし・今大路) → 暘谷(ようこく・今大路いまおおじ、医；典薬頭) 4 7 8 4  
 政福(まさとし・伊藤) → 看寿(かんじゅ・伊藤いとう、将棋士) Q 1 5 9 1  
 当富(まさとし・星野) → 葛三(かつさん・星野ほし、藩士/儒者) H 1 5 7 8  
 雅富王(まさとしおう) → 雅富(まさとし・白川しらかわ/梅溪、神祇伯) E 4 0 5 6
- E4060 **雅具**(まさとし・源みなもと、初名；重能、兼忠男) 1184?-? 鎌倉期廷臣；1245従三位/52権中納言57正二位、1257出家、承久乱後土佐配流の土御門院に供奉(吾妻鏡入)、歌人；和漢兼作集・夫木抄入集、詩人；1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、  
 勅撰4首；続後撰(340)続古今(1847)続拾(172)玉葉(1859)、雅言まさことの父、  
 [あふさかの関たちいづるかげ見れば今夜ぞ秋の望月の駒](続後撰；340/駒迎の心を)、  
 (駒迎は御料馬天覧の秋の駒牽こまきの時諸国からの貢馬を官人が逢坂関まで出迎る行事)
- E4061 **雅朝**(まさとし・飛鳥井あすかい、宗有[定有]男/本姓；藤原) ?-1338? 鎌倉南北期廷臣；伯父雅有の養子、四位、歌；大覚寺統歌壇/1333珣子内親王立后屏風和歌・34七夕七首歌会・35内裏千首参加、源中最秘抄奥書に「元弘揚名介秘説」(丹波忠守に源氏[揚名介]に関する尋問の贈答)入、藤葉とうよう集入、  
 勅撰13首；続千載(1132/1442)続後拾(843)新千載(693/794/1826)新拾(3首)新後拾以下  
 [せきかぬる心のうちの滝つ瀬やはては涙の河となるらん](続千載；十一恋1132)



- E4062 **雅朝**(まさとも・室町むろまち/本姓;藤原、侍従の雅春男)?-1380 南北期廷臣;1356従三位非参議、1366従二位/非参議;侍従、連歌;菟玖波集1句入;1525、  
[さのみなど身をもちかねて嘆くらん](菟;十五雑1525/前句;爪木の山の遠き道かな)
- E4063 **政知**(まさとも・足利あしが/堀越公方、6代将軍義教男)1435-91<sup>57</sup> 武将;  
古川公方の足利成氏を抑えるため鎌倉公方として関東下向;勢力弱く伊豆堀越で対峙、  
鎌倉に入れず伊豆1国のみ所領(ゆえに堀越公方)、息子茶々丸に殺害?
- E4064 **政朝**(まさとも・小峯こみね/結城/白川、小峯直朝男/本姓;藤原)?-1510? 武将;白河結城家の一族、  
1449岩代白河城主;1449家督嗣、弾正少弼/連歌;1481白河鹿島明神で一族と「白河万句」催、  
小峯政重と白河に戦う;敗戦;息子那須資永の許に逃れ客死、  
号;義永/亀山道綱、法名;心江道綱、小峯顕頼・那須資永の父
- E4065 **雅朝**(まさとも・白川しらかわ/本姓;源、雅朝王、中院通為男)1555-1631<sup>77</sup> 母;白川雅業女、雅業の養子、  
1565神祇伯/85従三位/1605息子顕成に讓伯/14正二位/18顕成が嗣子なく急逝;20還任、  
1621辞伯/養嗣子;雅陳王、1624参議、1583-86「雅朝王記」、「触穢条々」「御代官相伝切紙」著、  
[雅朝(;名)の別名/法号]初名;雅英、法号;松岩院
- E4066 **政友**(まさとも・住友すみとも、政行男/母;小仙)1585-1652<sup>68</sup> 越前丸岡の出身/涅槃宗の僧;空源門、  
1618師空源が配流;政友(空禅)も下総佐倉に配流/空源没後に涅槃宗は天台宗に吸収、  
1619上京し還俗、大阪商人;富士屋嘉休と称す/薬舗・書林を経営、豪商住友家の初代、  
大病後;1647嵯峨清涼寺内双軒庵隠棲;臨西号/信仰生活、「法伝記」「旨意書」「遺誠」、  
[政友(;名)の幼名/法名/号]幼名;小次郎、法名;空禅、号;嘉休(;商人)/臨西・文殊院、  
屋号;富士屋、商家住友家2代は養子の友以が継嗣(友以男の友信が3代)
- E4067 **正知**(まさとも・村山むらやま) ? - ? 江前期武芸者/安陪立剣道;安陪頼任・村上忠兵衛門、  
「安陪立剣道歌之巻」、  
[正知(;名)の通称/号]通称;忠左衛門、号;伝鑄士
- L4051 **正倫**(まさとも・多古たこ) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第八月第三句入、  
[夕霧や門の脇より立ちぬらん](月第三/脇句良風;かくれんぼうにまじる小男鹿)
- U4000 **正共**(まさとも・真野まの) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
[心なきものともいはじいつしかと待つにつれなき山桜かな](麓の塵;春63)
- U4017 **正朝**(まさとも・中根なかね、別名;正致まさむね/通称;平十郎)1617-96 幕臣旗本;4千石/幕府寄合、  
神道;吉川惟足門/号;土常霊社つちとこのれいしゃ、歌人;1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[明石渦霞む浪路に飛ぶ雁の翼ぞやがて島がくれ行く](若むらさき;30/帰雁)
- E4068 **政知**(まさとも・関屋せきや、政春まさはる男)1647-1731<sup>85</sup> 加賀藩士;1677新番歩/86遺知相続350石、  
1710留守居物頭/24致仕、「関屋録」「関屋政知録」「関屋政知達書」「関屋政知覚書類聚」、  
[政知(;名)の通称/号]通称;市右衛門、号;政知せいち
- E4069 **正朝**(まさとも・新見しんみ/本姓;源、小栗半右衛門忠次男)1651-1742<sup>長寿92</sup> 母;前田五左衛門定良女、  
幕臣新見義正の養子;家督嗣;将軍綱吉に出仕、書院組頭/1683小普請/94大番、  
1703富士見御宝蔵番頭、21辞職/29致仕、「春御園記」「年かみもの語」「法入翁雑談」、  
1733「飛鳥川物語」、「飛鳥川」「故事抜書」著、  
1733随筆「八十翁疇昔物(むかしむかし物語/新見老人むかし物語/種英翁物語)」著、  
(;財津種英しゅきやう著説あり)、  
[正朝(;名)の通称/号]通称;彦兵衛/伝左衛門、出家号;法入/政友入道、法号;一超院
- E4070 **昌倫**(まさとも・岡おか、昌重男/本姓太秦)1658-1734<sup>77</sup> 天王寺方楽人;笛の名手、左近将監、  
1693伊豆守、1731正四上、岡昌忠(後水尾天皇の笛の師)の曾孫  
「吹笛工夫記」「古鳥蘇泊笛本譜」著
- 04011 **昌倫**(まさとも・小田切おだぎり、知義男)1669-1753<sup>85</sup> 母;高林昌近女、江戸幕臣;1699(元禄12)家督嗣、  
1740(元文5)御書物奉行/50致仕、国学者、妻;佐野政時女、昌行・2人の娘の父、  
[昌倫(;名)の通称/号]通称;治太夫/主水もんど、号;風吟子、法号;紹藤
- E4071 **正知**(まさとも・岸さし、通称;外記、有馬重長男)?-1754 岸貞知の養嗣子、筑後久留米藩家老、  
神道・国学;跡部良顕・岡田磐斎門、儒;合原窓南門/のち神道;正親町公通門、  
「百人一首薄紅葉」著、

- 妻;保科民部女(歌人)→ 正知妻(まさとものつま・岸、1687-1719/歌人) E 4 0 8 1
- R4053 政共(まさとも・荻戸のぞき、) 1674-1756<sup>83</sup> 出羽米沢藩士、和学者、  
[政共(;)名)の幼称/通称/号]幼称;孫惣、通称;平八郎/九郎兵衛、号;吟松
- E4072 正伴(まさとも・吉井よい、屋号;田坂屋) 1678-1763<sup>86</sup> 安藝賀茂郡竹原の浜主(塩田地主)、  
儒/国学/神道;玉木正英(葦斎)・松岡仲良(雄淵)門、和漢学の法を研鑽し庶民教化に尽力、  
1751「瀛津藻いしんそう」、「筒鈴斎箴」「中臣大祓講述」著、  
[正伴(;)名)の通称/号]通称;太左衛門、号;筒鈴斎/柴籬さいり
- S4043 正朝(まさとも・堀田ほつた、正休まさやす[近江宮川藩初代藩主]3男) 1680-1719<sup>40</sup> 母;板倉重郷女、幕臣、  
1710(宝永7)兄正方が廃嫡;正朝が世子となる/15(正徳5)父隠居;家督継;堀田宗家4代目、  
宮川藩2代藩主、正室;亀山藩主板倉重常女、正陣・花房職朝の父、  
国学者、石州流鎮信派茶道を学ぶ、1718大坂城の守衛に当る、  
1719(享保4)江戸へ帰途中に美濃細久手に没、正陣が家督嗣、  
[正朝(;)名)の別名/通称]別名;国藩/正甫まさすけ、通称;仙四郎/采女/駿河守、  
法号;月桂台光正朝院
- E4073 政朝(まさとも・石河いこ、尾張藩家老石川章長男) 1686-1765<sup>80</sup> 旗本石河政郷まさとの養嗣子、  
幕臣;1729家督嗣;目付/小普請奉行/38江戸北町奉行、40將軍吉宗が裁判法典作成を下命、  
老中松平乗邑のりとの命で1742「御定書百箇条(公事方御定書下巻103条)」を共編;  
(共編者は三奉行;寺社奉行牧野貞通・勘定奉行水野忠信と町奉行石河政朝)、  
1744町奉行退任後大目付/54西丸小姓組番頭/56西丸留守居
- L4067 政知(まさとも・田中たなか、通称;兵大夫) ?-? 紀州藩士;松平紀伊守家に出仕、  
歌;1798石野広通「霞関集」入、  
[渡し守待つまほどなく暮れはてて先さし出づる月をこそ見れ](霞関;秋453/渡月)
- L4056 政共(まさとも・磯野いその/本姓;源、萩原雅忠男) 1739-94<sup>56</sup> 磯野政武の婿養子/幕臣;御広舗御用人、  
御先鉄砲頭、歌人;冷泉家門、1798刊石野広通「霞関集」入(養父政武・妻はや子と共に入)、  
[政共(;)名)の通称]又三郎/内記  
[谷の戸の明くる光ものどかなる春告げそめて鶯の鳴く](霞関;春35/鶯のうたの中に)  
養父 → 政武(まさたけ・磯野いその、幕臣/歌) D 4 0 3 5  
妻 → はや子(はやこ・磯野政共の妻、政武女/歌) J 3 6 3 8
- E4074 正倫(まさとも・阿部あべ、正右男) 1745-1805<sup>61</sup> 備後福山藩主;1767兄早世のため嫡子、  
1769襲封;第4代藩主/阿部家宗家8代、伊勢守従四下/侍従;10万石/奏者番/寺社奉行、  
1787老中/田沼派の失脚で幕政に勢力を失い1788老中辞任/1803致仕、  
藩政においては前代からの財政逼迫;財政改革は進まず一揆再発、遠藤弁蔵を再建担当;  
遠藤の苛烈な施策で領民の恨み増大/寺社奉行の立場で借入金返済を凍結、  
老中就任のため臨時税徴収を計画;藩史最大の天明大一揆勃発;藩士の綱紀も乱れる、  
藩主親政・経費削減・農政改革等で一揆を抑制/遠藤弁蔵は処刑、  
正室;郡山藩主柳沢信鴻女/継室;津軽信寧女、正精・頼潤の父、  
歌人、1797「拙論」著、  
[正倫(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;運之助、字;子範、通称;主計かづえ、  
号;緒水・字和卿・閑旭楼、法号;熙徳院
- E4075 政智(まさとも・南部なんぶ、東あずま直張男) ?-1825 陸奥(陸中)盛岡南部藩士;加判役、  
盛岡藩家老;父を継承/藩主南部利敬利用利経に出仕、文化1804-18頃南部姓を賜う、  
歌人、「東雲集」著、  
[政智(;)名)の通称/号]通称;勘解由かげゆ/主殿とのも、号;東雲とううん、
- E4076 正靱(まさとも・竹尾たけお/本姓;大江) 1781-1862<sup>82</sup> 三河額田郡山中村の舞木八幡宮神主、  
神道;平田篤胤門、詩・画を嗜む、1817「祭事冤論」、「神祇伯職掌演説書」、正寛まさひろの父、  
[正靱(;)名)の字/通称/号]字;敬甫、通称;但馬/六郎/章郷、号;竜峯、正胤の祖父
- E4077 正朝(まさとも・高木たかぎ) ?-? 江後期紀州和歌山藩久野近江守の家臣、  
応心流弓術家、1831日向延岡藩で指南(1年余)、1833「日本古義」40「弓張月」、「弓法聞書」、  
「指矢の大事」「射学辨解」「靱図考」「矢数指南師弟問答」著、

- [正朝(；名)の通称/号]通称；尚三郎、号；応心斎
- 04079 **正朝**(まさとも・景安かげやす、旧姓；檜原、通称；伊豆守)1820-1854<sup>38</sup> 備後御調郡の神職；  
三原城北山中村の賀羅加波神社神主、国学；鈴木直徳・平田鉄胤門、
- N4061 **雅朝**(まさとも・石山いしやま、毛内茂肅男)？-？<sup>嘉永</sup>1848-54<sup>頃没</sup> 江後期陸奥弘前の絵師；墨竹を得意、  
石山彦市の養子/歌人；間山祐真・橘由之門、「雅朝歌集」(；斎藤規冲編)、  
[雅朝(；名)の通称/号]通称；喜兵衛、号；月澗
- M4040 **政備**(まさとも・渥美あつみ) ？ - ？ 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[足柄の八重山つづき雲晴れて杉むらすごく月ふけにけり](大江戸倭歌；秋863/深山月)
- M4084 **正朝**(まさとも・戸田とだ/本姓；藤原)？-？ 江後期；歌人、幕臣or藩士？、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[年経てもかはらざりけり葉がへせぬ常磐の松の色のみどりは](大江戸倭歌；雑2044)
- S4001 **正靱**(まさとも・春田はるた、)1822-1898<sup>77</sup> 周防岩国藩士；細工方、国学・歌；藤井高尚<sup>たかなお</sup>門、  
[正靱(；名)の通称/号]通称；東二郎、号；成斎/桃乃舎
- L4097 **正和**(まさとも・松平まつだいら、正敬まさたか長男)1823-62<sup>40歳</sup> 上総大喜多大河内松平家出身、  
1826父没；幼少のため叔父正義が家督嗣/1837(天保8/18歳)家督継嗣；大喜多8代藩主、  
大河内松平家10代、1842城の天守閣焼失・46大洪水・49日光祭礼奉行などで財政窮迫、  
正室；加納久儔女、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[眺むれば雪の衣を脱ぎかへて花になり行く四方の山の端](大江戸倭歌；241花満山)、  
[正和(；名)の通称]通称；主膳/織部正
- E4078 **政友**(まさとも・まさすけ・菅かん、政則男)1824-97<sup>74</sup> 代々水戸医者/国学/儒；正志斎・豊田天功・東湖門、  
常陸水戸藩士；1858彰考館出仕/「大日本史」志・表の編纂参加、  
「菅政友全集」(南山皇胤譜・滝田川考など)、のち石上神宮大宮司、  
[政友(；名)の字/通称/号]字；子干、通称；松太郎/理琢/亮之介、号；桜廬、
- M4012 **政友**(まさとも・遠山とおやま/本姓；藤原)？-？ 江後期；幕臣/歌人、  
1854(嘉永7)成島柳北邸での錦江忌日和歌会に遠山政光と共に参加、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[散り残る紅葉をさそふ夕風にやがてしぐれの雲きそふなり](大江戸倭歌；冬1042)
- E4079 **政友**(まさとも・堀ほり、通称；辰助)？-？ 出羽鶴岡の和算家；森直道(会田安明高弟)門、  
1858「算題一十問」60「二葉算題」
- P4007 **政友**(まさとも・河村かわむら、)1825-1894<sup>70</sup> 伊勢三重郡の国学者；平田鉄胤・佐々木弘綱門、  
歌；中村良顕<sup>よしあき</sup>門；妻たづ(田鶴/1837-87/歌人)と同門、大坂住、  
[政友(；名)の通称/号]通称；束鮒/古僊/古仙、号；池の舎
- E4080 **政朝**(まさとも・土屋つちや、政陽[1891没]男)？-？ 幕末期洋学者；物理に精通、  
「北洋航話」「窮理余談」著、「仏蘭西学制」訳、政和の弟
- Q4029 **正与**(まさとも・新保しんぼう、旧姓；朝妻)1832-93<sup>62</sup> 越後蒲原郡の新保磐根の養嗣子、国学者、  
弥彦神社祠官、  
[正与(；名)の字/通称/号]字；靖爾、通称；清次、  
号；西水/鮎郷釣徒<sup>ろさきょうちようと</sup>/天地一醉道人
- S4090 **政和**(まさとも・美甘みかも、)1835-1918<sup>84</sup> 美作大庭郡の神職；美作一宮の中山神社宮司、  
美作国神道事務分局長、国学者、「神道宇宙観略説」著、  
[政和(；名)の通称/号]通称；与一郎、号；旭香/自然翁<sup>じねんおう</sup>/楽天翁
- S4060 **正幹**(まさとも・まさもと・松井まつい、)1840-76<sup>37</sup> 肥後熊本藩士；敬神党参加、  
1876(明治9)10月24日；神風連の乱に敗戦；自刃、  
[国のためつくししかひも荒波のあとばかり消ゆるはかなさ](辞世)
- S4059 **正同**(まさとも・増山ますやま、永井直方2男？；異説あり)1843-87<sup>45</sup> 幕臣の家の生、国学修学、  
1852(嘉永5)伊勢長島藩分家の幕臣増山銀之助の家督を継嗣；小普請組、61御書院番士、  
1866(慶応2)御使番、維新後；1869(明治2)横須賀奉行支配；静岡水口屋源右衛門方に寄留、  
1869伊勢長島藩主増山正修の養子；家督嗣；伊勢長島藩8代(最後)藩主/知藩事/71免官、



東京住;1876宮中祀候/侍従、正室;水野忠啓女喜美子(真如院)、娘の婿養子溝口正治が嗣、  
[正同(;名)の通称]勇之助/隼人/大学/備中守

正友(まさとも・杉木) → 正友(せいゆう/まさとも・杉木、神職/俳人) D 2 4 0 2  
正友(まさとも・遠藤) → 正友(せいゆう・遠藤、俳人) D 2 4 0 3  
正友(まさとも・斎木) → 瑞枝(みずえ・斎木さいき/藤原、神職/歌) 4 1 9 1  
正知(まさとも・渥美) → 赫州(かくしゅう・渥美/渥見、藩士/唐画) J 1 5 9 8  
正朝(まさとも・山田) → 麟嶼(りんしょ・山田/菅原/菅、幕臣/儒) K 4 9 4 3  
正朝(まさとも・片山) → 秋月(しゅうげつ・片山かたやま、俳人) H 2 1 1 1  
正朝(まさとも・大島) → 朝信(ともぶ・大島おおしま、藩士/歌) U 3 1 5 0  
正倫(まさとも・永原/深田) → 慎斎(しんさい・深田/永原、藩儒) O 2 2 3 8  
正倫(まさとも・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4  
政智(まさとも・東) → 政隆(まさたか・東あずま、藩士/歌) N 4 0 1 8  
政具(まさとも・北畠) → 政郷(まささと・北畠/源、武将/連歌) C 4 0 5 7  
旦智(まさとも・長瀬) → 旦智(あきとも・長瀬ながせ、歌人) G 1 0 7 3  
雅共(まさとも・六条) → 有藤(ありふじ・六条、廷臣/画) F 1 0 7 6  
雅朝(まさとも・飯島) → 平蔵(へいぞう;通称・飯島、郷土史家) 2 7 6 3  
雅朝王(まさともおう) → 雅朝(まさとも・白川/源/中院、神祇伯) E 4 0 6 5

E4081 正知妻(まさともものつま・岸さし、保科民部女)1687-1719<sup>33</sup> 筑後久留米藩家老岸正知と結婚、  
歌文:柴田常昭門、「庚辰紀行」、歌人、法号;寿源院、

夫 → 正知(まさとも・岸/有馬、家老/国学/歌) E 4 0 7 1  
政共女(まさたものつま・磯野) → はや子(はやこ・磯野政武の娘、歌人) J 3 6 3 8

E4082 政豊(まさとよ・山名やまな、持豊[宗全]男/本姓;源)1441-1499or1502<sup>59-62?</sup> 武将;正四下治部少輔、  
弾正少弼/左衛門佐/右衛門督/山城・但馬・安藝の守護、応仁乱中に兄教豊没;家督継嗣、  
1474細川政元と和議;乱終息に導く、但馬に下り領国安定/1487政元と図り義視を将軍に、  
「山名家犬追物記」編、[政豊(;名)の通称/法号]通称;小次郎、法号;宗源院

E4083 正豊(まさとよ・橋たちばな) ? - ? 1618存 安桃期廷臣;後陽成天皇時代に文章博士・外記、  
兵学者;大江家伝と称する大江元綱・秦武元所伝の兵学書を継承;[源家古法]と称さる、  
「続訓閥集」著(近衛前久[1536-1612]の命による)/「秘符略」「秘符略訓解」「秘符略口義」、  
「秘符略解」「輔将策句義」、[正豊(;名)の号]竜虎真人/東山隠士

E4084 雅豊(まさとよ・飛鳥井あすかい、名;マサ、雅章男/本姓;藤原)1664-1712<sup>49</sup> 母;家女房の越前(忠昌女)、  
廷臣;兄雅直の継嗣、1688(元禄元/25歳)従三位、89左衛門督/99正三位/1701(元禄14)参議、  
1703(元禄16/40歳)権中納言/04賀茂伝奏/05従二位/07親王宣下上卿/11(正徳元)辞任、  
歌人:1679「歌道雑談」著/1700「雅豊卿詠百首」1705「雅豊卿愚詠着到百首」、

1706「雲上和歌集」「宝永三年内裏御会始和歌」入、

家集「雅豊卿詠」、「和歌樵談」「飛鳥井雅豊日記」外著多数、法号;大智院凉室円雅

E4085 政豊(まさとよ・松井まつい、通称;一学)1678-1746<sup>69</sup> 京の医者、歌;中院通茂・通躬・烏丸光栄門、  
「蓮沼和歌集」著、「松井一学政豊師教訓」

P4083 昌豊(まさとよ・佐々木ささき、通称;善兵衛)1704-50<sup>47</sup> 陸奥磐井郡の国学者

N4008 正豊(まさとよ・県あがた/本姓;藤原、通称;彦八/左中)?-? 江中後期;遠江城飼郡高天たかてん神社神主、  
国学/歌;内山眞龍またつ(1740-1821)門

S4097 正豊(まさとよ・光田みつた、通称;庄左衛門)1796-1834<sup>39</sup> 伊勢津の国学者;小西春村門

T4075 眞豊(まさとよ・米内よねうち、旧姓;高橋)1823-98<sup>76</sup> 陸奥和賀郡の遠野南部家家臣、  
神道・国学;小原実風門、維新後;灌漑工事により良田開拓、横田村戸長、  
[眞豊(;名)の通称/号]通称;左司/臨平、号;春潭

T4052 正豊(まさとよ・山根やまね、通称;兵蔵)1830-1917<sup>88</sup> 大和宇陀郡の神職;御井神社社家、  
神道実行教大和国教長

P4000 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、政明4男)1851-79<sup>早世29</sup> 母;遊堀ゆか、伊勢津の商家;久太夫家15代、  
国学;佐々木弘綱・芝原音信おずれ門、政令(半泥子)の父、  
[政豊(;名)の通称/号]通称;佐久之助/久太郎/久太夫、号;合歓磨なまろ/枕木/櫛舎いしや

- 尹豊(まさとよ・勸修寺) → 尹豊(ただとよ・勸修寺かじゅうじ、日記) Q 2 6 1 8  
 正豊(まさとよ・保科) → 正静(まさやす・保科ほしな、幕臣/記録) I 4 0 0 3
- E4086 **正虎**(まさとら・前田まえだ、利太男)?-? 江初期加賀金沢藩士/書家;光悦様、  
 禄を離れ七尾に没、1615「前田家之記」、  
 [正虎(;名)の通称] 安太夫/保太夫/康太夫
- E4087 **正虎**(まさとら・堀田ほった、正俊男/本姓;紀)1662-1729<sup>68</sup> 母;稲葉正則女、兄正仲と双生児、  
 そのため1668(7歳)まで母方稲葉家の家臣に養育、1684父遺領下野都賀郡2万石を分与、  
 大宮に陣屋設置/1694兄の遺領継嗣;岩代福島藩主/1700兄の采地羽前山形に転封、  
 1728大坂城代;伊勢亀山で客死、歌人:福島之歌枕を保護、  
 「千種集」「蒙庵録」「両代文集」著、  
 幼名;織部/法号;慈徳院、正高の兄
- S4018 **将虎**(まさとら・広瀬ひろせ/本姓;源、)1767-1831<sup>65</sup> 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、  
 [将虎(;名)の通称/号]通称;助之進、号;如毫
- S4039 **正虎**(まさとら・古林ふるばやし、通称;見宜けんぎ/号;威臣)?-1818 大坂の代々の医者、国学/歌、  
 古林見宜けんぎ正温(1579-1657)の子孫
- E4088 **正虎**(まさとら・茂山しばやま、佐々木甚兵衛浄喜男)1810-86<sup>77</sup> 京の大蔵流狂言方茂山家9世、  
 京の生;江戸の大蔵弥太郎虎文門、1825茂山家を相続、37近江彦根藩のお抱え狂言師、  
 禁裏御所御能御用、京狂言を固守し茂山家隆盛の礎、8世茂山英政ひでまさ「旧正録」補填、  
 [正虎(;名)の別号/法号]別名;忠三郎(;初名)/千五郎/千吾/千作、法号;勇進院
- M4028 **昌虎**(まさとら・大井おおい、通称;鍬三郎)?-? 江後期;歌人、国学者、幕臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [呉竹のまがきに秋やこもるらんほのめく月の影の涼しさ]、  
 (大江戸倭歌;夏536/夏月透竹)
- 正虎(まさとら・大饗/楠) → 長諱(ちょうあん・楠、武家故実/書家) 2 8 2 0  
 正虎(まさとら・丸山) → 作楽(さく・丸山、国学/歌人) F 2 0 1 3  
 政虎(まさとら・長尾/上杉) → 謙信(けんしん・上杉、武将/歌人) C 1 8 3 5  
 政虎(まさとら・吉益よしやす) → 恬庵(てんあん・吉益、医者/儒者) D 3 0 1 1
- E4089 **政名**(まさな・松田まつだ/本姓;藤原)?-? 江前期甲斐府中藩江戸詰(桜田藩邸住);馬術家、  
 神当流馬術;渡辺長直門/神当流3代目、柴崎正勝に相伝、藩主徳川綱重/綱豊に出仕、  
 1667「神当流馬術」著、  
 [政名(;名)の通称]藤五郎/伝兵衛
- E4090 **昌名**(まさな・岡おか、昌純男/本姓;太秦)1681-1759<sup>79</sup> 母;岡昌重女、天王寺方楽人:玄蕃助/遠江守、  
 初名;昌信/1700昌隆/1714昌名[正名]に改名、1729壱岐守/35正四下、  
 「雅楽根源記」「雅楽曲調伝」「楽道類聚」「楽道見聞記録」「新撰楽道類集大全」著、  
 「楽譜要録」「金鼓要略集」「管絃教録」/1708「管絃按譜」「竜笛要録譜」/10「東皐琴譜」外著多
- L4064 **昌名**(まさな・田沢たざわ/本姓;源)1713-80<sup>68</sup> 幕臣;大番、一橋宗尹(小五郎君)の近習番/大番に復す、  
 歌人;武者小路家入門、1798石野広通「霞関集」入、  
 [夏刈なつかりの蘆まの夜の水すみて数も沢辺さばに螢飛ぶ影](霞関;夏306)、  
 [昌名(;名)の通称]通称;五兵衛/政之丞、法号;良水
- N4048 **正号**(まさな・飯田いだ、字;子先/通称;瀬兵衛)?-?享和1801-04頃没 周防徳山藩士;弓隊長、  
 歌人;有栖川家入門
- E4091 **正名**(まさな・松元まつもと/本姓;橘、別名;精義)1768-1832<sup>65</sup> 京丸太町富小路の書家、  
 「研斎先生眞跡帖」著、  
 [正名(;名)の字/号]字;順叔、号;研斎、法号;松樹院
- E4092 **正名**(まさな・松原まつばら/本姓;源)1808-70<sup>63</sup> 盛岡藩士/厨川・花輪・大槌など各地代官、  
 詩文;藩士中村松水門、随筆、「浦賀叢録」「西野詩集」「田名部録」「大槌録」外著多数、  
 [正名(;名)の通称/号]通称;茂市/順太夫/順平、号;西野居、法号;環学道順居士
- P4025 **正名**(まさな・岸上きしがみ、通称;掬之丞)1808-92<sup>85</sup> 摂津神戸の生/三田藩士;九鬼家の家臣、  
 国学;村田春野門、1879「算額法定位規則」著

- E4093 **正名** (まさな・矢島やじま、通称; 庄三) **?-?** 江後期出雲松江藩士; 江戸詰、国学者、  
「皇国田畝里制考」「赤県衡考」著
- E4094 **正名** (まさな・葦園あしぞの; 号/姓; 福田) **?-?** 江末期下野日光の狂歌作者; 山水連判者、  
1847「狂歌鼓舞賀播楽」編/50「興歌漫詠集」
- R4080 **正名** (まさな・服部はっとり、正弼まさすけ男) **1810-1868****599** 伊予松山藩の家老; 父を継嗣、  
服部正辰を祖とする服部図書家; 代々家老、  
[正名(;)名)の通称/号] 金之允(父の称)/図書ずしよ、号; 笑翁(父の称)/淡叟
- E4095 **正名** (まさな・水野みずの、家老水野正芳男) **1823-72****獄死 50** 筑後久留米藩士; 1842奏者番、  
1852眞木保臣らと藩政改革を建言; 弾圧され投獄/1863赦免後藩命で上京; 七卿落に随行、  
1868藩の奏者番/参政/中老; 藩政改革/尊攘主旨の応変隊を組織、藩籍奉還の大参事、  
大楽源太郎を隠匿の罪で新政府から終身禁固刑; 弘前で獄死、  
1866「幕吏小林甚六郎来宰日記」、「近聞雑記」「水野溪雲斎手記」著、  
[正名(;)名)の通称/号] 通称; 岩次郎/丹後、号; 溪雲斎/鴻州
- E4096 **正名** (まさな・前田まえだ、藩医善安男) **1850-1921****72** 薩摩の蘭学者; 英語、正穀まさよしの弟、  
1869和英「薩摩辞書」(高橋新吉・兄前田正穀と共編)、  
北海道阿寒に前田一步園設立; 阿寒周辺の自然保護、殖産興業を実践
- |                |   |                            |           |
|----------------|---|----------------------------|-----------|
| 正名 (まさな)       | → | 東菰(とうし、俳人)                 | E 3 1 7 4 |
| 正名 (まさな・森)     | → | 横谷(おうく・森もり、藩士/儒者)          | C 1 4 1 1 |
| 正名 (まさな・三宅)    | → | 石庵(せきあん・三宅みやけ、儒者/詩/俳人)     | D 2 4 3 1 |
| 正名 (まさな・地主)    | → | 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人)           | F 3 8 5 5 |
| 正名 (まさな・堀田/毛利) | → | 元世(もとよ・毛利もうり/堀田、藩主/歌)      | I 4 4 7 8 |
| 政名 (まさな・新免/宮本) | → | 武蔵(むさし・宮本/新免、武芸者/書画)       | 4 2 5 5   |
| 政名 (まさな・八木田)   | → | 桃水(とうすい・八木田やぎた、藩士/郷土史家)    | F 3 1 7 9 |
| 雅名 (まさな・飛鳥井)   | → | 雅有(まさあり・飛鳥井/二条・藤原、廷臣/歌/蹴鞠) | 4 0 0 5   |
| 斉名 (まさな・紀)     | → | 斉名(ただな・紀/田口、漢学者/詩人)        | 2 6 2 8   |
| 政演 (まさな・北尾)    | → | 京伝(きょうでん・山東)               | 1 6 3 7   |
| 政苗 (まさな・山田)    | → | 蟻堂(かくどう・山田、儒者/詩)           | H 1 5 3 5 |
- E4097 **雅直** (まさなお・飛鳥井あすかい、雅章男/本姓; 藤原) **1635-62****早世 28** 兄雅知の継嗣、廷臣; 1655左近中将、  
1659従四上、1653「雅直朝臣記」著、法号; 悟入院
- E4099 **正直** (まさなお) **? - ?** 摂津の住人; 狂歌; 1666行風「古今夷曲集」入、  
古妻正直と同一?
- L4049 **正直** (まさなお・古妻こづま) **? - ?** 江前期上方俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第七花火発句入、  
[見物も散り失せずして花火かな](生玉万句; 花火発句)
- L4054 **正直** (まさなお・中井なかい) **? - ?** 江前期京の俳人、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[池にはる氷は魚のめがね哉](手鑑)
- E4098 **正脩** (正修まさなお・南条なんじょう/初め熊沢、本姓; 紀/源、淡庵[1629-91]男) **1655-1724** 岡山藩士、  
父は儒者; 熊沢蕃山の妹婿(のち1690南条に改姓)、蕃山の甥。  
1691(元禄4)父没; 継嗣; 禄200石/1718(享保3)400石、歌人; 父(飛鳥井雅章門)門、  
「志士清談」著(父の「武将感状記」の続編)、  
歌; 1688浅井忠能「難波捨草すてぐさ」入、1690不深ふしん「堀江草ほりえぐさ」入  
[見る人の千世もと思ふ花の枝にさらぬ別れの山風ぞ吹く](難波捨草; 春63)  
[正修(;)名)の通称] 八郎、息子正路の時に[熊沢]に復姓
- F4000 **雅直** (まさなお・木全きまた、屋号; 小刀屋こがたなや) **?-1761** 江中期尾張名古屋の商人、歌; 武者小路実陰門、  
小刀屋藤左衛門雅直として高名な歌人、1735「蘿窓夜の雨」著、深田厚斎と交流、  
国政に関心; 1739藩主徳川宗春の隠居謹慎の非を幕府に訴え赦免を上書;  
尾張藩流刑地の南知多町篠島に配流; 同地に没、  
のち篠島に石碑; 門人の直交・寂水・荘之らが建立、  
[なには瀉あしの一よのなこりかな あまたの秋の月はすむとも](辞世; 石碑)、



[雅直(；名)の通称/号]通称；藤左衛門/節左衛門、号；湛水/蘿窓主人、  
法号；湛水日法

- F4001 正直(まさなお・三宅みわけ、通称；権左衛門)？-？ 江中期加賀金沢藩士；1773小姓頭勤仕、  
「日光御使一卷」著
- M4072 正直(まさなお・長谷川はせかわ) 1710-9283 江中期；旗本長谷川本家、駿河に知行、幕臣；  
1730(享保15)小姓組/45西丸小姓組/46西丸徒頭/47西丸小姓組組頭/51寄合、  
1752(宝暦2)家督相続；1450石、1761徒頭/63先手弓頭/78持筒頭/81鍵奉行、  
1791(寛政3/82歳)致仕、歌人長谷川正直(能登守)は息子？、  
[正直(；名)の幼名/通称]幼名；隼人、通称；小膳/主膳/太郎兵衛
- F4002 正直(まさなお・吉田よしだ、正村[吉田]命成男) 1740-180768 美濃羽栗郡徳田の神道家、名古屋流川住、  
売卜・加持祈祷を業、神道；栗田清政門/日蓮宗学；森川南堂門/垂加神道；堀尾春芳門、  
「故郷二葉草」「古今邪神集」「命成一代記」「秀斎先生事状之尾」、1775「高藏神社神体考」、  
1775「法華八幡宮夢参詣記」/77「法華神道童子問」/1801「尾張葉栗見聞集」著、  
[正直(；名)の通称/号]通称；弥太郎/儀平治/平蔵/一成/一定、号；竜泉亭、法号；顕一院
- S4054 匡直(まさなお・牧まき、) 1748 - 182780 讃岐琴平の儒者、書；皆川淇園門  
歌人；小沢蘆庵・小川布淑のぶよし(萍流)門、物産学に通ず(屋号；十海屋)  
[匡直(；名)の字/通称/号]字；温夫、通称；久兵衛、号；石潭せきたん/象頭山人ぞうずさんじん
- P4089 正直(まさなお・佐野さの、) 1750-180051 信濃飯田藩士、儒・歌；加藤尚質ひさただ門、国学、  
[正直(；名)の通称/号]通称；惣助、号；文魚、正修まさながの父
- F4003 正直(まさなお・毛利もうり、正堅2男) 1761-180343 薩摩鹿兒島加治屋町の薩摩藩士；小姓格、  
曾祖父は池坊華道家正周まさかね/祖父は藩奥医師の正治、父は郡奉行；1767没/生活困窮、  
兄が家督嗣；兄嫁方から生活支援で修学、1773元服/75(安永4)分家；小姓組/内職傘張り、  
国学；田代親常門/1784(天明4)致仕；草牟田村池之平に移住；内職で戯作者生活、  
白石直之助女と結婚；1795(寛政7)男子誕生；夭折/離婚、栗野郷士上田源兵衛女と結婚；  
男子(正賛)誕生/1800離婚、健康を害し1803(享和3)病没、  
「大石兵六夢物語」「大福夢中小鍵」「移居記」「煙草記」「田代翁の絵像に題す」著、  
「夫婦論聞書」「酒餅論」「夢中の夢」「毛利集」著  
[正直(；名)の幼名/通称/号]幼名；虎次郎、通称；治右衛門、号；月智庵/夢橋散人  
法号；秋山常英居士
- F4004 昌直(まさなお・松村まつむら) 1765-183470 代々肥後熊本藩士；1793家督嗣200石、郡代、  
勘定所目付/1818奉行/諸役歴任、刀剣研究、武蔵・相模・薩摩遍歴、1797「刀剣或問わくもん」著、  
[昌直(；名)の字/通称/号]字；仲廉、通称；英記、号；大観、昌言の父
- S4025 眞直(まさなお・福田ふくだ、) ？ - ？ 江中後期；遠江見附宿の脇本陣隣の旅籠を経営/町役人、  
国学者；本居宣長(1730-1801)門、妻；神職大久保家の女、半香はんこう(1804-64/絵師)の父、  
[眞直(；名)の初名/字/通称/号]初名；愿、字；白恭、  
通称；市郎右衛門/六郎右衛門/文右衛門/源蔵、号；鶴洲/柿の屋
- 04049 正直(まさなお・太田おた、) 1781-183858 信濃飯田藩士；家老、  
歌人；加藤千蔭・村田春海門、  
[正直(；名)の別名/通称/号]別名；正修、通称；小左衛門、号；大椿堂
- P4014 正直(まさなお・木原きはら、) 1798-188285 安藝賀茂郡小松原の庄屋、  
儒学・垂加神道；上田玄節(成章)門、  
[正直(；名)の通称/号]通称；保右衛門、号；左来/一要
- P4070 政直(まさなお・村井むらい、) 1789-184052 出羽能代の商家；越前屋久右衛門9代目、  
国学者/歌人；鈴木重胤・黒川春村・大国隆正門・さらに1841(天保12)冷泉為則門、  
後藤逸女の師、  
[政直(；名)の通称/号]通称；庄蔵/久太郎、号；竹廬屋
- 04040 昌尚(まさなお・大橋おおはし/本姓；平) 1800-186162 薩摩鹿兒島藩士、国学；平田篤胤門、  
[昌尚(；名)の通称]喜十郎/彦太郎
- F4005 正直(まさなお/まな・一条、名；坦) 1805-8884 陸前仙台藩士/天文測量役/江州代官、

1857蝦夷出張/帰藩後勘定奉行、家老、垂加神道/儒：桜田欽斎門/天文暦数；秋保運記門、歌；千種有功門、1857「蝦夷地行程記」著、「欽斎先生講説」編、「磁針与正子午線之差図」著、「推算貞享暦術書」編、

[正直(；通称)の字/別通称/号]字；仲平、通称；初；弥三郎/後；正直、  
号；約斎/静観/坦翁/陸奥山人

T4053 正直(まさなお・山吹やまぶき、旧姓；鈴木) 1813-79<sup>67</sup> 尾張名古屋藩士；本丸目付役、歌人；冷泉家入門、国学；植松茂岳門、

[正直(；名)の字/通称]字；正裕、通称；房吉/清三郎/仁三郎

N4039 正直(まさなお・伊東いとう、) 1815-85<sup>71</sup> 備前岡山藩士、国学；業合なりあい大枝おえ門、歌人、維新の時国事奔走、藤本鉄石と交流、

[正直(；名)の通称/号]通称；佐兵衛、号；有涯

S4072 政直(まさなお・松葉まつば、) 1815-80<sup>66</sup> 伊勢度会郡の国学者/歌人；足代弘訓ひろのり門、さい(1843-1924/歌人)の父、

[政直(；名)の通称/号]通称；左衛門、号；左叟

M4023 政直(まさなお・鈴木すずき、通称；次左衛門) ?-? 江後期；歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[大方の花は咲けども色に香に心うつるは桜なりけり](大江戸倭歌；春227)

M4056 正直(まさなお・古川ふるかわ) ? - ? 江後期；歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[冬の日の黄昏ちかき里林さとばやしきしく聞ゆひえ鳥の声](大江戸倭歌；冬1349/冬鳥)

M4079 正直(まさなお・長谷川はせかわ、通称；源一郎) ?-? 江後期；歌人、旗本/幕臣；駿河に知行、能登守、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、鍵奉行長谷川正直(1710-92)との関係；親子？、

[蔭ひろく若枝の緑さしそひて名のみ老木の松の色かな]、

(大江戸倭歌；雑1770/古松有佳色)

[寄る波のたちみひまなき汐がひに拾ひのこせる玉も有りなん](同；雑1967、

源勝敬[かつよ・土方、幕臣/浦賀奉行]家の紅葉絵合に鬚籠ひに貝つものを入れて)

04094 雅直(まさなお・鎗木がぶらき、) ? - 1854 信濃高遠の砲術家/歌人；桃沢夢宅門、

国学；植松茂岳門、信濃飯田藩士；砲術指南役、直益なおすの父、

[雅直(；名)の通称/号]通称；貫之介/賢蔵、号；蘆城

Q4092 政直(まさなお・都筑つづき、通称；治左衛門) 1819-97<sup>79</sup> 江戸の幕臣；小普請、和漢学者、

M4033 正脩(まさなお・菊地きくち) ? - ? 江後期；歌人、

1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[人ごとに汲む若水のみづ鏡たが若返る春を見るらむ](現存百人一首；88)

R4037 正直(まさなお・西城戸にしきど、正義男) 1826-84<sup>59</sup> 播磨姫路の代々姫路総社祠官の生、神職、国学者；本居内遠門、

[正直(；名)の通称]竜馬/貞太郎

N4004 正直(まさなお・赤坐あかざ) 1830- 1892<sup>63</sup> 豊後岡藩士、国学者、

[正直(；名)の通称/号]通称；弥太郎、号；狂生/楽我/再生

F4078 正直(まさなお・高橋たかはし、正家男) 1843-1921<sup>79</sup> 肥後の医者；松下元圃・緒方洪庵門/大阪住、維新後は大阪慈恵病院長、歌；「塵外菴歌集」著、

[正直(；名)の通称/号]通称；鼎蔵、号；蘇山/塵外/緑窓

正直(まさなお・戸部)	→	一慙斎(いっかんさい・戸部とべ、史学/軍記)	G 1 1 8 3
正直(まさなお・鈴木)	→	正直(せいちよく・鈴木、俳人)	C 2 4 6 5
正直(まさなお・杉木)	→	如之(じょし・号・杉木、師職/俳人)	C 2 2 5 3
正直(まさなお・香川)	→	将監(しょうげん・香川かがわ、神職/儒者)	I 2 2 5 7
正直(まさなお・小野)	→	素秋(そしゅう・小野おの、庄屋/俳人)	D 2 5 8 2
正直(まさなお・柴田)	→	千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人)	M 2 8 6 8
正直(まさなお・中村)	→	敬宇(けいう・中村なかむら、幕臣/教育家)	E 1 8 6 4
正直(まさなお・杉谷)	→	彝倫(つねのり・杉谷、神職/国学)	E 2 9 8 1
正直(まさなお・池田)	→	嵩山(こうざん・すうざん・池田、藩士/医者)	J 1 9 1 4

正直(まさなお・中島) → 松堂(しょうどう・中島/中嶋、藩士/日記) L 2 2 2 1  
 正直(まさなお・内藤) → 碧海(へきかい・内藤、漢学者/史学) 2 7 8 8  
 正修(まさなお・山田) → 正修(まさなが・山田、医/儒者) F 4 0 2 9  
 政直(当直まさなお・久田/藤村) → 庸軒(ようけん・藤村/久田、商家/茶人) 4 7 7 3  
 政直(まさなお) → 政直(せいちよく、京俳人) C 2 4 6 6  
 政直(まさなお・大河内) → 輝規(てるのり・大河内/松平、藩主) C 3 0 8 5  
 政直(まさなお・浅井) → 凶南(となん・浅井、医/本草/詩) O 3 1 5 6  
 政直(まさなお・河村/川村) → 瑞軒(ずいけん・河村、材木商/土木) 2 3 5 0  
 真直(まさなお・山口) → 襲明(よりあき・山口権三郎、国学/経済人) P 4 7 8 3  
 昌直(まさなお・香坂) → 衡山(こうざん・香坂こうさか、藩儒;朱子学) J 1 9 3 2  
 柢直(まさなお・岡) → 直廬(なおり・岡おか、神職/国学/歌人) O 3 2 0 8

- F4006 **允仲**(政仲まさなか・祝部ほうりべ/はふりべ、祝部玄成男)?-? 1193存 祝部成仲の養子、神職;日吉社禰宜、  
 従四上/大蔵大輔、禰宜惣官/小比叡執行、養父成仲の死を悼む後徳大寺実定の弔問を受く、  
 その答歌(続後撰集1270入)、歌;勅撰4首;新古1566続後撰1270続拾遺1401新続古今1692、  
 [白露は置きにからしな宮木野のもとあらの小萩末たわむまで](新古今;十六雑1566)、  
 (本歌;宮城野のもとあらの小萩露を重み風を待つごと君をこそ待て)  
 姉;成仲女(勝命入道の妻)、允仲の子;成茂・信濃(後鳥羽院下野)ら
- F4007 **雅仲**(まさなか・高階たかしな、初名;惟仲/法名;順空、邦仲男)1276-? 1352存 鎌倉南北期廷臣;美作守、  
 治部卿/木工頭/1330大蔵卿/40従二位/52出家、「高大府記」/1345「天竜寺供養記」著、  
 邦雅の父
- F4008 **政仲**(まさなか・五辻いつじ、改名;泰仲、重仲男/本姓;源)?-? 室町期廷臣;蔵人式部丞/1465左衛門佐、  
 1469従四上/70出家;法名;宗巧、富仲とみなかの父、歌;1450宝徳二年仙洞歌合参加(;式部丞)、  
 連歌:1485「文明十七年六月二十六日中御門中納言・宗巧等何百韻」参/新撰菟玖波4句入、  
 [橋姫の待つ夜ながらの袖かけて紅葉ふき入る宇治の川風](仙洞歌合;15番右30)
- U4021 **正仲**(まさなか・中野なかの、通称;新左衛門)?-? 江前中期;陸奥盛岡南部藩士/江戸詰?、  
 歌人;1690(元禄3)南部家江戸桜田邸詩歌会参加、  
 [涼しさの露を残して雨過ぐる砌みぎりに清き夏の月影](桜田邸詩歌;雨後夏月/砌は庭)、  
 [尋ねくる人目稀なる山里は軒端の花を友とこそ見れ](同;山家花)
- F4009 **正仲**(まさなか・堀田ほった、正俊男/本姓紀)1662-9433 母;稲葉正則女、正虎・正高の兄、正虎とは双子、  
 1683阿部正武と「武徳大成記」編纂;服忌令を改訂、1684父の遺領襲封;下総古川藩主、  
 正虎に2万石・正高に1万石を分与/1685羽前山形藩移封/86岩代福島藩主へ転封、歌人、  
 1677-93歌集「正仲公和歌」、「両代文集」著、幼名;左京、通称;下総守、法号;常楽院
- F4010 **正仲**(まさなか・杉山すぎやま、正義まさよし男)1725-9369 筑後久留米京隈洗切の生/久留米藩士;  
 1750家督継嗣;馬廻組/物成取立役/町奉行歴任、文学者;利光采庵門、  
 1785藩校講談所開設に伴い講席掛、  
 1777「筑後志」、「大秘米府録」編/「武学須知」「嘉礼集覧」「北筑志略」「米藩詩文選」外著多数、  
 [正仲(;名)の通称/号]通称;清兵衛、号;観斎
- F4011 **允中**(允仲まさなか・首藤すどう、山高信順男)1784-186683 末長柳慶の養嗣子/尾張名古屋藩士、  
 兵法;実父門;家学神影流を受、国学/有職故実;稲葉通邦門、茶儀;末長柳慶門、  
 1814藩主養女の徒士として上京;故実の奥義を究める/帰国後歩目付/大番組/広敷詰、  
 馬廻組/1834末長の本姓首藤に改姓、多くの古書/珍書を書写、深田香実・植松茂岳と交流、  
 「雄園漫録」「雄園漫志」「盃斎漫志」「盃斎雜記」「首藤雜記」「首藤日録」「家蔵幅人名伝記」、  
 「首藤柳左衛門日記」「喫茶活法奥義集」「身延の記」「武道要話雜抄録」、山高信篤のぶあつの弟、  
 [允中(;名)の字/通称/号]字;子和、通称;慶吉/柳左衛門、号;雄園/温斎/盃斎、法号;円蹄院、
- M4049 **正中**(まさなか・松崎まつさき) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [網代木に氷魚をはかからでいたづらに紅葉のみ寄す宇治の川風](大江戸倭歌;冬1199)
- N4088 **応中**(まさなか・印東いんどう、)1824-189774 武蔵川越の生/上野前橋藩士;勘定奉行、  
 歌人;尾高高雅門、



[応中(；名)の通称/号]通称；小弥太/弥一左衛門、号；聞霜/鶴眠堂叟

- Q4089 **正中**(まさなか・千葉ちば、田中周平長男)1826-9772 紀伊日高郡上湯川の生/漢学；平松良蔵門、劍術；柏木兵衛門、1847(弘化4)江戸で心形刀流伊庭軍兵衛秀業に入門；病で帰郷、庄屋、1862(文久2)上平主税等と上京；諸藩の志士交流、1863郷土総代；中川宮に上書；禁裏御守衛の任に就く；御守衛人数を率いて上京/以後[京詰]と称し交替で王城警固、これにより十津川は[明治維新魁の村]と称される、1868十津川御親兵人選方に就任、軍事監司/郷中人数取締を歴任、罹病し郷里で林業に専念/1896京都に住；没、歌人山林樹木を愛し愛樹・樹山と号す、[勤皇と殖産は万古不易なり]を信条とす、田中主馬蔵・田中賢七郎・千葉小助・岡本良橘の兄、  
[はるばると見渡す山の春景色かすみのあなたはてなしの峰](津越野遠望)  
[正中(；名)の初名/通称/号]初名；義功、通称；金吾/良平/左中/良之進、号；愛樹/樹山

- R4020 **正中**(まさなか・中守なかもり、通称；孫太郎)1844-192784 近江蒲生郡の薬種商、歌人；[鴉のうみ]入  
允中(まさなか・谷口) → 渭陽(いよう・谷口たにくち、儒者/詩人) I 1 1 3 5  
正中(まさなか・池田屋) → 風蔵(ふうぞう・三角みすみ、測量家) 3 8 9 1  
正仲(まさなか・浅井) → 東軒(とうけん・浅井、医者) D 3 1 3 1  
正央(まさなか・道工) → 彦文(ひこぶみ・道工どうく、歌人/紀行) 3 7 7 0  
政仲(まさなか・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8  
雅仲(まさなか・源) → 雅頼(まさより・源みなもと、廷臣/歌人) I 4 0 7 9

- F4012 **政長**(まさなが・源みなもと；宇多流、資通男)1038-109760 母；源頼光女、平安期；廷臣、民部大輔/刑部卿/備中守、源家流催馬楽；郢曲/笛；堀河院の師、妻；藤原経季女、有賢ありかた[1070-1139]の父、歌；1072or73白河院「承保二年九月殿上歌合参」(；民部大輔政長名)/78「内裏歌合」参加、[ほのかにも浪よるかはや見えつらんあしかり小舟こぎて来たるは](殿上歌合；六左)[年を経て聞けどあかぬはわが宿の花にこづたふ鶯の声(内裏歌合；三番左5；刑部卿名)]

- U4014 **雅長**(まさなが・大中臣おおなかとみ、雅宣[1177没]男)?-? 平安鎌倉期；廷臣/伊勢神職?、歌；1233刊[御裳濯集]入、雅輔の弟/雅高・雅成の兄、  
[花ざかり吉野の山をながむれば松には雪もつもらざりけり](御裳濯集；春107)

- U4015 **雅長**(まさなが・度会わたらい)?-? 平安鎌倉期；伊勢外宮の神職・歌人、歌；1233刊[御裳濯集]入、大中臣雅長と同一?  
[秋風は野辺のあるじにあらはれてちちの草葉のなびかぬぞなき](御裳濯集；秋325)

- F4013 **政長**(まさなが・北条ほうじょう、政村男/本姓；平)1250-130152 武将；鎌倉幕府の評定衆・引付頭人、式部丞・駿河守/正五下、時村の弟、時敦・重村の父、歌人；閑月集・拾遺風体集入、勅撰8首；続拾遺(402/879)新後撰(1472)玉葉(747/2526)続千載(617/1124/1887)、  
[見し秋の露をば霜におきかへて花のあとなき庭の冬草](続拾遺；六冬402)

- F4014 **匡長**(まさなが・祝部ほうりべ/はふりべ、国忠男)?-? 日吉社禰宜/惣官、1330後醍醐天皇行幸を日吉社で迎、歌；玉葉2751、  
[神にのみつかふる道の家の風ふきつたへても世を祈るかな](玉葉集；神祇2751)

- F4015 **正長**(まさなが・小笠原おがさわら、貞宗男)1319-6547 母；藤原光義女、武将；信濃国守護；従四上兵庫頭、飛騨・越中・近江・遠江四国の管領、故実家；父より秘伝伝受；足利尊氏・義詮の師範、武者所に就任、射騎に長ず、「軍術兵用記」「馬書」著、長基の父、  
[正長(；名)の幼名/通称/法号]幼名；豊末丸、通称；孫次郎、法号；東禅院

- F4016 **雅永**(まさなが・飛鳥井あすかい、雅縁男/本姓；藤原、法号；浄空)?-? 1458存 廷臣；1441従三位、1446正三位参議、49権中納言、將軍足利義教の家司、歌人；1414頓証寺法楽百首参加、1433永享百首入/43前撰政兼良家歌合・46文安詩歌合・47畠山匠作亭詩歌参加/49出家、1450仙洞歌合・55内裏歌合参加、58後花園院百首に一条兼良・飛鳥井雅親と合点；まもなく没か、「飛鳥井雅永百首和歌」著、雅世の弟/雅藤の父、勅撰；新続古今(8首191/280/583/716/1007/1357/1418/2137)、  
[いはで思ふ心の色か妹背山中かななる川の山吹の花](新続古今；二春191)  
[山桜いまぞひらくる枝かはす柳のまゆも花の心も]、

(匠作亭詩歌;4/桜下嫩とん柳/対するは風月主人愚極礼才の詩)

- F4017 **政長**(まさなが・畠山はたけやま/本姓;源、持富男)1442-93**自害52** 伯父管領畠山持国の養子;室町期武将、持国の実子義就と家督抗争;細川勝元の仲介で畠山宗家の家督相続;1464室町幕府管領、將軍御相伴衆、河内・紀伊・越中の守護/從三位、1467応仁乱に細川方で西軍義就と戦闘、その後3度管領/1493足利義材と共に義就の子基家を攻撃し細川政元軍に包囲される;河内正覚寺城で自害、連歌:新撰菟玖波集4句入、1476「文明八年政長宗祇何船百韻」、  
「畠山左金吾四季題万句三物」催(;賢盛・宗祇と)、1479-81賢盛「諸家月次連歌抄」入、  
[政長(;名)の幼名/通称/号]幼名;次郎/弥二郎、通称;尾張守/左衛門督/彈正少弼、  
号;勝仙院、法号;実隆寺殿
- L4055 **政長**(まさなが・花山院かざんいん/本姓;藤原、名;忠熙、持忠男)1451-1525**75歳** 戦国期廷臣、  
1467從三位左近中将/1470權中納言/72正三位/76權大納言/79從二位/82右近大将兼任、  
1485(文明17/35歳)内大臣・正二位/86辭任/87(文明19/37歳)右大臣/88從一位/90辭任、  
1493(明応2/43歳)左大臣/96辭任/1518(永正15/68歳)太政大臣/21辭任/25出家;没、  
法名;覺円/法号;鳳栖院入道太政大臣、歌;1503(文龜3)三十六番歌合参加、  
[茂りあふ木の間の月は見ずもあらず見もせで明ける夏の夜の空](三六番歌合;5番左)
- F4018 **政長**(まさなが・中村なかむら、通称;勝三郎)1572?-1644**73?** 能役者・安照門、熊本細川家に属す、  
師より能伝書など相伝
- F4019 **正長**(まさなが・九里くのり、正貞の孫)1613-94**82** 加賀藩士;江戸用人、病氣退隱後に馬廻頭、  
1686致仕;剃髮、歌の研究、1685「王代積年記」著(木下順庵跋)、  
[正長(;名)の字/通称/号]字;仲天、通称;覺右衛門、号;夕庵せきあん/三三里人、法号;法身院
- F4020 **正永**(まさなが・九保くぼ、別名;正信、正元男)1622-? 1682**存** 母;矢部定清女、幕臣;家光に出仕、  
1633右筆、諸家・寺社領の御朱印書記/1677家督嗣/79右筆支配、勤務不届のため禄没収、  
越後長岡藩お預、1664「書札当用法式」「当用書札」/76「当用集」編、「久保書用集」著、  
[正永(;名)の通称] 求之助/五兵衛/吉右衛門
- L4004 **昌長**(まさなが・若林) ? - ? 摂津住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[一昨日おとひもきのふも今日も斎ときに布施やるは三世さんどの縁通じたり]  
(古今夷曲;釈教918/法事に円通寺の僧を三日続けて招いた人に)
- F4021 **政長**(まさなが・本多ほんだ、政重男)1631-1708**78** 加賀金沢藩士;1647家督嗣;藩政に参与/81大年寄、  
1691從五下安房守/1701隱居、「梯神社由来記」著、「本多安房守書翰」「本多政重伝」著、  
[政長(;名)の幼名/通称/号]幼名;長松、通称;左馬助、号;素立軒、法号;浄明院
- F4022 **政長**(まさなが・平子ひらこ) ? - ? 江前期地誌家/俳人;三田さんだ浄久と交流、  
1672「有馬私雨ありましぐれ」著(;生白堂行風校/地誌・狂歌・発句など)、  
1673西鶴「生玉万句」第八唐辛子発句入、  
[鼻に入るやくれなる句ふ唐がらし](生玉万句;唐辛子発句)
- F4023 **方長**(まさなが・甘露寺かんろじ、嗣長男/本姓;藤原)1648-94**47** 廷臣;1672参議/正四上/73從三位、  
1681權大納言/94正二位、「方長卿記」/1673「寛文十三年九月廿一日改元草」著、  
法号;真巖院
- F4024 **正長**(まさなが・井上いのうえ、初名;正方、正任3男)1654-1720**67** 1693父所領の内美濃郡上3千石を分与、  
幕臣;寄合/中奥小姓・使番・目付歴任/1712常陸下妻藩主;1万石/遠江守十後下、  
1715奏者番/寺社奉行、1716致仕、1705「長昌院贈從三位君改葬紀事」著、  
[正長(;名)の通称/法号]通称;主税ちから/内記、法号;正長日休本義院
- R4070 **正長**(まさなが・橋村はしむら/本姓;度会、)1662-1713**52** 伊勢度会郡の外宮権禰宜/從四上、  
和学・歌;中院なかのいん通茂門/古典・歌学;北村季吟門/国学・歌;中西信慶門、  
[正長(;名)の初名/通称]初名;正矩、通称;大助/主水/図書
- F4025 **政長**(まさなが・岡部おかべ/本姓;賀茂)1670-1741**72** 遠江浜松藩士;藩主松平資俊・資訓に出仕、  
物頭役、1729資訓の三河吉田藩移封に随従、歌人、「西三紀行」著、賀茂真淵の養父(従兄)  
[政長(;名)の通称] 三郎兵衛/安右衛門
- F4026 **当永**(まさなが・横山よこやま、号;慎終軒)?-? 江戸中期武蔵の神道家/江戸住、日本書紀講義、  
本文改削し多田南嶺らに非難、1707「日本書紀三元卷」34「道字辨」、「神道正義元解」著

- F4027 昌長(まさなが・辻つじ) ? - ? 江前中期江戸の和算家:1714「算法定率集」
- F4028 正永(まさなが・小林こばやし、小林宗倫男)1685-1735<sup>51</sup> 母;小林正成女、小林正久の養嗣子;1696家督、幕臣;御納戸番/新番/二の丸/西城番歴任、「日光山紀行」著、通称;方五郎
- F4029 正修(まさなが・山田やまだ、初名;正、賢敬男)1734?-90?<sup>57?</sup> 尾張名古屋の医者/儒;山本格安門、律令;神村正鄰門、1772城下日置村で医開業、1760「楽曲名義」、「容軒編年録」「古武談」著、「続古武談」「世良田家譜攷」「松平家譜攷」「山田雑伝」/1782「豊国公家伝」著、[正修(;)名)の字/通称/号]字;仲胤ちゅうち、通称;忠治、号;容軒
- F4030 政永(まさなが・小池こいけ)1698- 1777<sup>80</sup> 常陸水戸藩士;1749進仕/72致仕、「小池政永記」、[政永(;)名)の通称/号]通称;水之助、号;勇水
- F4031 斉長(まさなが・なりなが・藤とう、初名;忠雄、斉延まさのぶ2男/本姓;藤原)1699-1787<sup>89</sup> 対馬藩士;家学[国学/史学/神学]修学/1733家督/神職;総宮司職(;)父を世襲)、小笠原礼法を修得/兵学;竹森貞勝門、定房の弟、仲郷なかさとの父、「津島亀ト伝義抄」「対馬神社古伝」「対馬国大小神社帳」著、[斉長(;)名)の幼名/字/通称]幼名;虎之助、字;子信、通称;形左衛門/斎宮
- F4032 正長(まさなが・鈴木すずき、重武男)1732-1806<sup>75</sup> 儒・剣法;祖父門/1744家督嗣;下野黒羽藩士、大吟味役/1768家老;農政に尽力、産業振興/郷蔵建立、1783天明飢饉にも餓死を出さず、1790松平定信に国政建白書提出/98致仕;備荒の著述に専念、「農諭」著/「農民懲誡篇」著(;)黒羽藩天明飢饉惨状と備蓄の重要を説く/小宮山楓軒編)、[正長(;)名)の通称/号]通称;政之丞/武助、号;蘭庭/為蝶軒、法号;隆徳院
- P4049 正修(まさなが・竹鼻たけはな、)1744-1805<sup>62</sup> 伊予小松藩士;家老、歌人、黒川通惇みちあつの師、歌;[周桑歌人集]入、[正修(;)名)の別名/字/通称/号]別名;見遠/夏遠、字;士効、通称;富次/左膳/厚次/堅蔵、号;藍谷/淡斎
- F4033 正永(まさなが・坂/阪さか、通称;新蔵)?-? 大阪島の中の商家(富商)/暦算:麻田剛立[1734-99]門、数学・天文学を修得、1785頃幕府の司天官、1781「算法学海」編、「基応算法」「二精評註」、「算法奥義起源秘書」「算法容題解義」「拾璣算法弧術演段」、「時憲暦図解」編
- F4034 昌永(まさなが・山村やまむら、昌茂男)1770-1807<sup>38</sup> 常陸土浦藩士;1790馬廻/藩主土屋家3代に出仕、幼時より地理書愛読/蘭学:1789大槻玄沢の芝蘭堂入門;玄沢の四天王の1、「訂正増訳 采覧異言」(新井白石著を改訂)を幕府に献上/幕命で露国国情を訳述/病没、「魯西亜国志」「亜細亜諸島志」「印度志」「大西要録」「東西紀游」「百児西亜志」訳、1795「蘭説辨正」96「外紀西語考」1801「西洋雜記」1806「華夷一覽図説」07「印度亜志」外著多、[昌永(;)名)の字/通称/号]字;子明、通称;弥一/才助、号;夢遊道人、法号;将応院
- P4090 正修(まさなが・佐野さの、正直[1750-1800]男)1798-1871<sup>74</sup> 3歳父と死別/信濃飯田藩士;父跡継嗣、下郷代官、蘭学・歌;太田中彦門、国学/歌人、飯田真光寺の恵州えしゅうと交流、[正修(;)名)の通称/号]通称;先之助/勝蔵/彦助/孫左衛門、号;茂々枝/邑芳亭ゆうほうてい
- M4017 正修(まさなが・小幡おばた/本姓;藤原、通称;重次郎)?-? 江後期;幕臣、書院番小幡武兵衛の養嗣子、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[氷りみし池の心も青柳の糸吹く風にうちとけにけり](大江戸倭歌;春151)
- M4062 昌長(まさなが・朝比奈あさひな/本姓;源)?-? 江後期幕臣;歌人、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[住吉の岸根の松をたぐひにてつれなきいろに年をふるかな]、(大江戸倭歌;恋1467/久恋)
- F4035 正長(まさなが・進藤しんどう、通称;三左衛門)?-? 江後期幕臣;1861小姓組頭/63病のため致仕、「松平補任」著
- 04041 正修(まさなが・大林おおばやし/本姓;源)1824-86<sup>63</sup> 伊勢松坂住;紀伊藩士;松坂学問所教官、国学;足代弘訓門、[正修(;)名)の別名/字/通称/号]別名;修、字;子本、通称;常之進/五一郎、号;梅軒/習圃/省軒
- P4047 正修(まさなが・倉知くらち、瑞枝長男)1833-1925<sup>長寿93歳</sup> 土佐高知の国学者;父門、維新後;富山師範学校国学教師、



[正修(；名)の通称/号]通称；泰平、号；愛雀

Q4017 **正長**(まさなが・島津しまづ、)1841-1901<sup>61</sup> 備前邑久郡の国学者/歌人、  
和漢学；上田及淵しきぶら門/国学；業合年緒門/歌；高崎親義ちかよし(正風)門

P4029 **雅長**(まさなが・北原きたはら、神保内蔵助2次男)1843-1913<sup>71</sup> 神保修理の弟、母方実家北原光吉の養子、  
陸奥会津藩士；京都守護職就任の藩主松平容保に随行；機密事項の担当/禁門変に参加、  
1868会津戦争で参謀役；藩主のもと籠城戦を指揮/敗戦；東京で謹慎、1873赦免、  
工部省に入省/秋田県権大属/長崎県少書記官；対馬島島司として長崎に赴任、  
初代長崎市長に就任；長崎市の融和に尽力；1891上水道工事完成/95退任、晩年；浜松住、  
「七年史」(続日本史籍協会叢書入)、歌人、  
辞世[人の世を離れてすめる月影にさそわれて行く西の山の端]、  
[雅長(；名)の通称/号]通称；半助、号；清華/歌仏庵

正永(まさなが・松平) → 信綱(のぶつな・松平/大河内、藩主/老中) C 3 5 1 0

正長(まさなが・中根) → 正長(まさつね・中根、幕臣) E 4 0 1 0

正長(まさなが・岩井) → 正長(せいちょう、泉州狂歌) C 2 4 8 9

正長(まさなが・島本) → 正長(せいちょう・島本、美濃俳人) C 2 4 6 4

正長(まさなが・寺尾) → 東海(とうかい・寺尾、儒者；音韻) B 3 1 8 8

正長(まさなが・石川/鷹見) → 爽鳩(そうきゅう・鷹見/高見/鷹、藩家老/儒者) B 2 5 0 3

正長(まさなが・薬師寺) → 寿軒(じゅけん、薬師寺やくしじ、医者) Y 2 1 7 4

正修(まさなが・南条) → 八郎(はちろう・南条/熊沢、記録者) E 3 6 9

正修(まさなが・河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6

政長(まさなが・大河内) → 輝規(てるのり・大河内/松平、藩主) C 3 0 8 5

政長(まさなが・池田) → 長寛(ながひろ・相良さがら、藩主/学制) F 3 2 5 5

政永(まさなが・久野) → 二栗(じりつ・久野くの、篆刻家) M 2 2 9 7

昌長(まさなが・米倉) → 長昌(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌) K 3 2 1 3

昌長(まさなが・鎌田) → 碩庵(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人) J 2 4 9 1

昌長(まさなが・小林) → 源蔵(げんぞう・小林こばやし、工匠) K 1 8 8 5

昌栄(まさなが・森本) → 一瑞(いちずい・森本、藩士/軍学) G 1 1 2 8

U4016 **雅夏**(まさなつ・度会わたらい、)? - ? 鎌倉末南北期；伊勢外宮の権禰宜、  
歌人；1330(建武元)度会朝棟亭歌会参加(3首)、  
[須摩のあまのもしほの煙それまでも月に心のある今宵かな](朝棟亭歌；58)  
[朝霧の跡にまよはぬ道や有ると晴るる今宵の月にとはばや](同；60)

S4081 **正並**(まさなみ・万澤まんざわ、通称；六郎)1746-1802<sup>57</sup> 近江彦根藩士/歌人；[彦根歌人伝・亀]入

R4071 **正甫**(まさなみ・橋村はしむら/本姓；度会、旧姓；村山)1762-97<sup>36</sup> 伊勢度会の外宮権禰宜/御師、  
1790(寛政2)伊予内子町で御師代替り大坂歌舞伎興行に出席；旦家勧化、  
[正甫(；名)の初名/通称]初名；末矩/正矩、通称；門太郎/主馬/新蔵/木工もく/大蔵、

R4061 **正並**(まさなみ・橋村はしむら/本姓；度会、中山正樹2男)1785-1852<sup>68</sup> 伊勢の外宮神職橋村正河の養子、  
外宮権禰宜、万須(橋村並子/歌人/橋村正立の妻)の父、  
[正並(；名)の初名/通称]初名；正眞、通称；兵庫/主水/宰記/喜聞多(実父の号)

U4028 **政業**(まさなり・高階たかしな)? - ? 平安後期廷臣；判官代、歌人、  
1075(承保2)陽明門院殿上歌合参加、  
隆資入道主催の四要講(法華経主要四品を講説)の歌会に出詠、  
[聞く度たびにめづらしければ時鳥いつも初音の心地こそすれ]、  
金葉集夏113；但し永縁僧正作；  
☆袋草紙；四要講法会の講師永縁が強引に自歌と主張懇願し入集した逸話あり、  
この歌により永縁は[初音の僧正]と称される

F4036 **政誠**(まさなり・細川ほそかわ/本姓；源、大原持綱男?)?-? 室町幕臣；伊豆守/治部少輔、  
歌；1503-5頃「武家歌合」参加(10首入)、  
[別れゆく姿のみかは天つ雁はては霞に声もきえつゝ](武家歌合；八番右)

F4037 **雅業**(まさなり・白川しらかわ/本姓；源、雅業王、資氏男)1488-1560<sup>73</sup> 神祇伯忠富王の猶子；

1510神祇伯、18従三位/36正二位/伯在任中没;孫雅朝が継嗣、  
「雅業王記」「神祇官御太刀神馬事」著、  
[雅業(;名)の別名/法名]初名;雅益、法名;乗品

K4096 **正成**(まさなり/まさしげ・服部はつとり、通称;半蔵、保長男)1542-9655 三河武将/家康臣;戦功;  
鬼半蔵の異名をとる、槍の名手/伊賀同心を支配;のちに忍者頭領として脚色

F4038 **正成**(まさなり・成瀬なるせ/本姓;藤原、吉右衛門正一男)1567-162559 母;熊谷直連の妹、三河の生、  
武将;徳川家康の家臣、長久手・小田原・関ヶ原に従軍戦功/1610尾張藩主徳川義直に属す、  
付家老として藩政に参加、1617尾張犬山城主、「成瀬正成遺訓」著、  
[正成(;名)の幼名/通称/法号]幼名;小吉、通称;隼人、法号;白林院

F4039 **政登**(まさなり・小笠原おがさわら、初名;政庸、政尚男)1685-176985 母;小笠原政朋の養女、幕臣;  
初め紀伊藩士;1716徳川吉宗に随い江戸城入/小姓/新番頭/小姓組番頭;5千5百石/従五下、  
石見守/1758致仕;安房守、「騎射稽古心得」/1717-18「享保日光御参記」、  
[政登(;名)の通称/法号]通称;弥之助/善五右衛門/平右衛門/壺岐助/玄蕃、法号;高然

F4040 **正生**(まさなり・津田つだ、盛政男)1776-185277 尾張海東郡根高村の酒造業、儒;恩田蕙楼けいろう門、  
国学;鈴木朧あきら門、地誌家;神社・地理研究、実地踏査・資料蒐集、登山家;1833槍ヶ岳登頂、  
1805「婚姻男子訓」16「尾張地名考」28「眼前教近道」46「良姻心得草」、「尾張方言集」  
「白挽歌註解」「日本郡国名解」「日本語正字通」「古典地名弁」「槍ヶ岳日記」外著多数、  
[正生(;名)の別名/通称/号]別名;義宗、祇宗、通称;三輪助/神助みわすけ、  
号;六合庵/六合亭/賤屋しずのや、穂積ほづみ(神職)の父

L4014 **正業**(まさなり・剣持けんもち) ? - ? 江前期上州の人/高山彦九郎正之まさゆき[1747-93切腹]の叔父、  
「剣持正業日記」著

F4041 **正業**(まさなり・神谷かみや・養勇軒) ? - ? 紀伊和歌山藩士、俳人;  
一雪の随筆「新著聞集」(1704一雪自序)を1749編刊

F4042 **方成**(まさなり・林はやし) ? - ? 江中期尾張の儒者;千村夢沢門、1751刊「崑玉集後篇」

F4044 **昌業**(まさなり・大地おおち、大地東川とうせん(の養子)1732-8352 加賀藩士;1753養父を継嗣;御馬廻、  
御書物奉行/改作奉行を歴任、詩人;「雑題詩百篇」著、  
[昌業(;名)の通称]茂右衛門/助七

F4045 **正作**(まさなり・伊藤いとう、別名;信前)1779-186486 若狭三方郡河原市村の医者;伊藤圭斎門/開業、  
詩文;頼山陽・梁川星巖・貫名海屋門/書画を嗜む、1804里正/09-38諸国巡歴し農業研究、  
1837「耕作早指南種稽歌」39「農業蒙訓」著、  
[正作(;名)の通称/号]通称;宗兵衛/惣兵衛、号;耕楽舎、法号;養寿院

M4045 **正業**(まさなり・向井むかい/本姓;源、通称;源次郎) ? - ? 江後期;歌人、幕臣or藩士?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[染め尽す色は時雨の後に見んまだ初しほの木木の紅葉](大江戸倭歌;秋978/初紅葉)

R4024 **政業**(まさなり・長岡ながおか、)1801-187979 近江伊香郡の下塩津神社神職、  
歌人;[鴉のうみ]入  
[政業(;名)の通称]若狭/左京

4016 **正生**(まさなり・武田、跡部正統男)1804-65斬罪62歳 本家の伯父跡部正房の養子;水戸藩士、  
跡部本家を継嗣後に本姓武田に復姓、小姓/使番/1839若年寄/42大番頭、尊攘派、  
藩主斉昭の失脚・将軍継嗣問題などで罷免・再任の繰返;尊攘派の重鎮/1861執政、  
1864伊賀守/1864天狗党筑波山挙兵;謹慎処分/天狗党再編し全軍の首領、  
西に進軍中金沢藩に降る;越前敦賀で処刑、「伯道歌集」「武田耕雲斎日記」「筑波於呂志」著  
「歎願書」著、1857「武田修理手記」著、歌;1868宮地維宣「歎涕和歌集」入、  
[正生(;名)の字/通称/号]字;伯道、通称;彦太郎/彦九郎/修理/伊賀、号;如雲/耕雲斎

R4038 **正也**(まさなり・西原にしはら、)1813?-1890?78歳 伊予松山の国学者・歌人;田内董史ただふみ門、  
歌;熊谷直好門/儒・歌;西村清臣門、  
[正也(;名)の通称/号]通称;伊平太、号;自謙

T4004 **政成**(まさなり・宮脇みやわき、)1815-188268 三河吉田藩士;飛び領の近江滋賀郡大津郡代(23村)、  
国学者、詩歌人、画を能くす、維新後は実業家;滋賀新聞社を興業/近江米商会所頭取  
[政成(;名)の字/通称/号]字;民聴、通称;忠右衛門、号;睡仙/節斎

- Q4090 **政成**(まさなり・千村ちむら、) 1817-1866<sup>50</sup> 信濃筑摩郡の歌人;香川景恒門、妻;静子しづこも歌人、贅川の宿場本陣千村重琦しげかたの一族?、  
[政成(;)名)の通称] 載次郎/精一郎/右衛門司えもんのかさ
- Q4067 **正也**(まさなり・高根たかね、号;良什坊幸貫) 1822-94<sup>73</sup> 豊前英彦山修験奉行職、国学;原田種信門、1863(文久3)座主高千穂教有きょうゆうの命で長門で尊攘運動推進、宇都宮堯珉ぎょうみんと英彦山で挙兵計画;小倉藩兵に知られ捕縛;脱獄、維新後;内務省に出仕
- M4073 **正也**(まさなり・近藤こんどう/本姓;藤原、通称;弥之助) ?-? 江後期;剣術家;江戸本所住、忠也ちゅうや派一刀流の遣い手、1861講武所剣術教授/64剣術師範役、大政奉還後;彰義隊数十人が決起を求め自宅に押しかける;正也は將軍恭順に従うよう説得するも斬合いとなり追い返す、歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[もののふの心に学べ剣太刀鞘に袋にをさまれる世も](大江戸倭歌;雑1804)
- 04069 **正柔**(まさなり・加藤かとう、) ? - 1873 江後期;三河宝飯郡前芝村の船問屋加藤広正の養子、国学;内山真竜・本居大平門、  
[正柔(;)名)の通称] 治作/六蔵(;)代々の称)
- 04027 **昌蔵**(まさなり・大岩おおいわ、昌言まさり長男) 1832-1905<sup>74</sup> 信濃松本藩士;中小姓、浅井湧きよ・小川昌成の兄、国学;倉科希言まれこと門/歌人香川景恒・加藤千浪・中島広行門、松本に吟天社を創立;印刷業/雑誌[清籟新誌]を発行;文芸活動を提唱、1888「日本史要字解」著、1895(明治28)松本同好会を組織、同好会の三浦義遵・佐々木了綱・折井親信・高橋相蔵・加藤登志子らと交流、  
[昌蔵(;)名)の字/通称/号]字;子寿、通称;隼之丞/宏十郎、号;乾山
- |                |   |                        |           |
|----------------|---|------------------------|-----------|
| 政成(まさなり・源)     | → | 政成(まさしげ・源、廷臣/歌人)       | C 4 0 6 5 |
| 政成(まさなり・黒田)    | → | 孝高(よしとか・黒田くろだ/源、武将/連歌) | D 4 7 9 3 |
| 政成(まさなり・岡部/賀茂) | → | 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌)    | 4 0 3 1   |
| 政成(まさなり・鈴木/吉岡) | → | 勇平(ゆうへい・吉岡よしおか/鈴木、幕臣)  | D 4 6 7 0 |
| 正成(まさなり・中井)    | → | 正成(せいせい・中井、俳人/狂歌)      | C 2 4 4 1 |
| 正成(まさなり・岡本)    | → | 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人)   | C 1 5 5 7 |
| 正也(まさなり・中村)    | → | 正也(まさや・中村なかむら、藩陪臣/歌人)  | R 4 0 1 7 |
| 正業(まさなり・岡本)    | → | 継業(つぐなり・岡本おかもと、藩士/歌人)  | F 2 9 4 7 |
| 昌成(まさなり・竹村)    | → | 夙夜(ふくや・竹村鶴叟、俳人)        | I 2 1 6 2 |
| 政業(まさなり・百々ど)   | → | 百雄(ひやくゆう・花月堂、狂歌)       | E 3 7 8 2 |
| 雅業王(まさなりおう)    | → | 雅業(まさなり・白川/源、神祇伯)      | F 4 0 3 7 |
- F4046 **雅成親王**(まさなりしんのう・六条宮/但馬宮、後鳥羽天皇皇子) 1200-55<sup>56</sup> 母;高倉範季女修明門院重子、宜陽門院勤子内親王の養子、土御門天皇・道助親王・順徳天皇・尊快親王らの兄弟、三品、源実朝没後に後継の要請;父上皇が承諾しなかった/1221承久変に但馬に流罪;1226脱出に失敗;出家/但馬で没、歌人;「雅成親王集」「雅成親王百首」著、続詞花・雲葉集入、勅撰33首;続後撰(9首275/396/651以下)続古(7首243/433以下)続拾(64/472/1248)以下、  
[憂きものと思ひとりてもこりずまにまたながめつる秋の夕暮](続後撰集;五秋275)
- T4061 **正縄**(まさなわ・由井ゆい/旧姓;金子) 1817-98<sup>82</sup> 伊予松山藩士/国学者/歌人、明教官助教、  
[正縄(;)名)の字/通称/号]字;子直、通称;源次郎、号;洋陰囂々斎
- |             |   |                       |           |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 正縄(まさなわ・相良) | → | 縄正(なわまさ・相良さがら、藩士/武芸者) | I 3 2 4 7 |
| 正縄(まさなわ・山本) | → | 正縄(まさただ・山本やまと/源、藩士/歌) | L 4 0 9 3 |
- L4087 **正主**(まさぬし・和田わだ/本姓;橘) 1773-1843<sup>71歳</sup> 和泉日根郡の生/紀伊和歌山の商家;大年寄格、国学;本居大平門/大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[味酒三輪山ざくら咲く見れば心うらげぬ三輪山ざくら](八十浦;757)、  
[正主(;)名)の通称/号]通称;小太郎/斎助/九内/大六/水之助、号;冬山、屋号;和泉屋眞主(まさぬし・北島) → 勝孝(かつり・北島さたじま、神職/国学) U 1 5 5 0
- F4047 **正根**(まさね・賀島/加島かしま/本姓;藤原) ?-? 阿波徳島藩士/国学・歌;本居大平・内遠門、1817-18「直霊考」/18「疑問」/19「太布の由来」、「試に解きたる本末の歌」著、



大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、

[大舟のいゆきはばかり鳴門の海さきくて渡る海士の釣ぶね](八十浦;1027鳴門反歌)、

[正根(;名)の別名/通称/号]別名;長総ながふさ、通称;禎蔵、号;穀之屋よしのや

C4062 眞実(まごね・鈴木すずき/穂積)1749-1819 71歳 尾張名古屋藩士;清須の代官、

国学者・歌;田中道麿・本居宣長門、道彦「春風集」入、本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、

[天の川夕霧立ちぬいざ子ども真楫しじぬき今はこぎてな](八十浦;453/七日夜)、

[眞実(;名)の別名/通称]別名;早稲/和佐禰/王社年わさね、通称;正平/仙蔵

正之丞(まさのじょう・岩崎)→ 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4

政之丞(まさのじょう・鈴木)→ 正長(まさなが・鈴木すずき、藩家老/農政) F 4 0 3 2

政之丞(まさのじょう・田沢)→ 昌名(まさな・田沢たどわ/源、幕臣/歌) L 4 0 6 4

政之丞(まさのじょう・野田)→ 成方(しげかた・野田、鶴鼠、幕臣/俳/地誌) C 2 1 0 5

真之丞(まさのじょう・片岡)→ 正占(まさうら・片岡かたおか/平田、国学/神道) O 4 0 8 5

正之進(まさのしん・安東)→ 侗庵(とうあん・安東あんど、儒者) 3 1 7 6

正之進(まさのしん・久保寺)→ 正久(まさひさ・久保寺くぼでら、幕臣/和算家) G 4 0 6 0

正之進(まさのしん・酒井)→ 加辰(ますとき・酒井さかい、藩士/儒者) J 4 0 0 8

政之進(まさのしん・菅沼)→ 斐雄(あやお・菅沼すがぬま、歌人) B 1 0 5 8

政之進(まさのしん・佐枝)→ 尹重(これしげ・佐枝/佐岐さゑだ、兵法家) E 1 9 2 4

昌之進(まさのしん・田中)→ 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6

昌之進(まさのしん・内藤)→ 政成(まさしげ・内藤ないとう/井伊、藩主) L 4 0 7 2

F4048 政之助(まさのすけ・周布すふ、名;兼翼かねすけ、兼正男)1823-64 自刃 42 母;村田信嘉女の竹、長州萩藩士、

父・兄(五郎左衛門)は早く没;生後6ヶ月で家督継嗣/国学;村田清風門/儒;小倉遜斎門、

藩校明倫館入学/嚶鳴社を組織;時事を論ず、1847蔵元検使暫役/藩右筆本役、

藩政主導;藩政改革;謹慎処分数度、表番頭格麻田公輔の変名で朝幕諸藩への周旋活動、

禁門変・下関撃破など打開策尽き自刃、1862「周布政之助詩」、「周布政之助筆記」著、

[政之助(;通称)の字/号]字;公輔、号;観山/麻田/瘦梅/沢江漁人/雛翁/為春/慎独斎、

変名;麻田公輔/松岡敬助

S4023 政之助(まさのすけ・吹原ふきはら、名;重文しげあや)1841-82 42 尾張名古屋の商家?、

国学者;植松茂岳しげおか門、吹原九郎三郎くろさぶろう(重巽しげやす/綿布商)と同族?

[政之助(;通称)の別通称]正六

政之助(まさのすけ・村田)→ 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1

政之助(まさのすけ・渡辺)→ 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3

政之助(まさのすけ・小原)→ 桃洞(とうどう・小原/源、藩医/本草家) G 3 1 7 7

政之助(まさのすけ・藤井)→ 右門(うもん・藤井ふじい、国学/尊王論) E 1 2 7 5

政之助(まさのすけ・佐伯)→ 祐之(すけゆき・佐伯さえき、国学者) I 2 3 5 4

政之介(まさのすけ・佐分利)→ 政一(まさかず・佐分利/佐分さぶり、家老) B 4 0 8 2

政之允(まさのすけ・中島)→ 松堂(しょうどう・中島/中嶋、藩士/日記) L 2 2 2 1

雅之助(まさのすけ・公地)→ 美能理(みのり・大原おおはら/公地、国学/歌) I 4 1 4 9

将之佐(まさのすけ・長)→ 連愛(つらよし・長ちよう、藩士) E 2 9 5 3

将之佐(まさのすけ・長)→ 連弘(つらひろ・長ちよう/本多、養子/藩士/経済改革) E 2 9 4 7

F4049 雅信(まさのぶ・源みなもと;宇多流、敦実親王男、母;藤原時平女)920-993 74 廷臣;951参議、

978左大臣、987従一位/993出家、管絃;催馬楽の源家流の祖、

詩に一定の旋律を付けた朗詠の祖?、贈正一位、蹴鞠に長ず、

歌人;960「内裏歌合」参加、新古今集1438、

[あはれなり昔の人を思ふにはきのふの野辺にみゆきせましや](新古今;十六雑1438)、

(円融院の譲位後の翌年[985]2月13日船岡山で子日の酒宴歌会あり翌日院に贈る歌)

[雅信(;名)の通称/法名] 一条左大臣/鷹司左大臣、法名;覚貞/覚実

妻 → 雅信室(まさのぶのしつ・源、新勅撰歌人、源定有女?) F 4 0 8 5

室(3人); 藤原為光女・藤原朝忠女穆子ばくし(倫子・時通母)・源定有女

妾? ; 源公忠女(時中・済信母)・藤原元方女(扶義母)

男 → 時中(ときなか・源、管絃/歌人) J 3 1 5 4

→ 時叙(ときぶ・源、赤染と恋) J 3 1 7 0

外に 扶義(近江源氏祖)・通義・時通・時方・済時・済信

女 → 雅信女(まさのぶのむすめ・源、拾遺歌人、下記4人の誰か不明)

→ 倫子(りんし、道長室、新勅撰歌人) K 4 9 3 6

外に 藤原道綱妻(兼経母)・藤原貞[定]時妻(実方母)・致平(むねひら親王室(成信母)

- F4050 致信(まさのぶ/むねのぶ・清原きよはら、元輔男)?-1017殺害 為成・戒秀・清少納言の兄弟、  
廷臣;大宰少監、藤原保昌の郎等/保昌と源頼親との大和国の利権争いに関与;  
1017・3月8日夕刻京の自邸で騎兵等に襲撃され殺害(御堂関白記);同居清少は難を逃れる
- F4051 政宣(まさのぶ・明智あけち、初名;六郎、玄宣男/本姓;源)?-? 1499存 美濃の土岐氏の一流か、京に住、  
室町幕臣;足利義尚に出仕、中務少輔、連歌;1487「近江安養寺三十首続歌」参加、  
1490/99宗祇と「何船百韻」2度、宗長らと「何人百韻」、新撰菟玖波7句入、  
[政宣(;名)の通称/法名]通称;左馬助、法名;宗文
- F4052 正信(まさのぶ・狩野、号;祐勢) 1434?-1530長寿95? 室町幕府の絵師;狩野派の祖、元信の父、  
「将軍義政東山山荘襖絵」画
- F4053 昌信(まさのぶ・高坂こうさか、名;源助・虎綱、通称;弾正、春日大隅男) 1527-7852 甲斐石和の豪農の生、  
武田晴信の家臣;美少年で奥近習として寵愛される/1552戦功;侍大将/海津城主、  
高坂(香坂)家の女を娶り高坂弾正虎綱を名乗る、軍学;「甲陽軍鑑」原作者、「甲陽武談」著、  
「甲陽武田之系図」「甲陽軍鑑末書」「兵学正宗」著/1577「練兵要録」「武具要説」著、  
1577「武道心鑑」編/78「結要」著、
- F4054 正信(まさのぶ・本多ほんだ、初名;正保/正行、俊正男/本姓;藤原) 1538-161679 三河の武将;  
徳川家家臣、1563三河一向一揆に加担した廉で追放/のち帰参;  
政治手腕を買われ家康の側近、1586従五下佐渡守/90関東総奉行、  
関ヶ原後は江戸幕府の重臣;1603老職、  
「治国家根元」、1612「本佐録ほんさろく」著(;秀忠への為政者心得)、政純・政重の父、  
[百姓は天下の根本なり 飢えず寒こえず困窮せぬごとく養ふべし](本佐録)、  
[正信(;名)の通称/法号]通称;弥八郎、法号;善徳納海院
- F4055 正信(政信まさのぶ・平内へいのうち、吉政男)?-1645 幕臣;幕府作事方大棟梁;以後代々世襲、  
四天王寺流(大隅流);父吉政と1608から3年かけて秘伝書を著作;体系的木割書を完成、  
1632増上寺台徳院霊廟造営・42日光東照宮造営に参加、1608-10秘伝書「匠明」共著
- F4056 雅陳(まさのぶ・白川しらかわ/本姓;源、雅陳王、高倉水孝2男) 1592-166372 母三条西実枝女、  
神祇伯白川雅朝の養子;1622神祇伯/37従三位/42讓伯/52従二位、雅喬王の父、  
「雅陳王神事覚書以下雑々」著、法号;現光院、  
歌;1638後鳥羽院四百年忌御会参加、  
[したふとてとまるならひもかた岡の山とびこえて帰るかりがね](後鳥羽四百年忌;47)
- L4007 正信(まさのぶ・富田とみた) ? - ? 摂津俳人;「難波草」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」8首入  
[想ふ人をうるしの名にしあふ時は満足せしめふたりぬる也](古今夷曲;七401逢恋)、  
(漆の縁語仕立/漆に得る・負ふに逢ふ・せしめ漆にしめ[謙譲]・塗るに寝るを掛る)
- F4057 政宣(正宣まさのぶ・中川なかがわ、通称;勘左衛門)?-? 江前期弓術家、1664「足踏之大事」(伝)、  
1672「採梔集覧」編
- F4058 正信(まさのぶ・小幡おばた) ? - ?天和1681-84頃没 江前期歌人、  
1682「歌林拾葉集(拾遺笑木鈔)」著(12巻;西順[1616-?93存]序/黒川道祐跋)
- F4059 正信(まさのぶ・堀田ほった、老中堀田正盛男/本姓;紀) 1631-80自殺50歳 下総佐倉藩主;  
1651父が将軍家光に殉死;遺領襲封、年貢増税徴収;「佐倉惣五郎」伝承が発生、  
1660保科正之・阿部忠秋に幕閣批判の意見書提出;改易;信濃飯田藩お預、  
謹慎中に石清水八幡宮に将軍家綱の継嗣誕生祈願;1677阿波徳島藩お預/慈光寺に幽閉、  
家綱の死を聞き自殺、1663「忠義士拔書」編、「捨心同心集」「一願同心集」「驢鞍橋拔書」著  
[正信(;名)の通称/法号]通称;与一郎、法号;正信院
- F4060 政信(まさのぶ・出口でぐち、通称;伊左衛門)?-1705 加賀の兵学者;甲州流、加賀藩老長氏の家臣?、  
「菅家見聞集」著
- 04061 正命(まさのぶ・奥おく、) 1640 - 170465 近江蒲生郡鏡山村字小口村の医者;京に修学、

1678(寛文18)領主の求めに応じ出任、歌人;[鳩のうみ]入、  
[正命(;名)の号] 東江/春庵/採成子/五窪子ごれし

- 04058 **政信**(まさのぶ・岡部おかべ、) 1654-1732 79 遠江敷智郡浜松庄伊場村の賀茂神社神職、  
賀茂真淵の父、3男真淵の生母は近郷の長生郡天上村の名家竹山孫左衛門茂家女(後妻)、  
[政信(;名)の初名/通称]初名;定信、通称;長右衛門/与三郎
- F4061 **斉延**(まさのぶ・藤とう/斎藤、初名;定昌、定之男/本姓;藤原) 1661-1738 78 対馬藩士/国学者・神職、  
皇学;伊勢の出口延佳・延昌門/有職故実;京の松下見林門、1698対馬で門弟教育、  
1702父を継嗣;対馬の総宮司職(以後世襲);対馬国内の神務を統括、厳原八幡宮祠官  
定房・斉長まさながの父、仲郷なかさとの祖父、  
1698「古語拾遺句解」1708「神道八重垣伝」36「中臣祓祝詞素義」、「正直物語」「後世物語」、  
「為問集」「神代総論集」「亀ト伝并祭文」「国津神本義」「天神本義」「日本紀神代大意」外著多、  
[斉延(;名)の通称]伝千代/佐助/内蔵助
- F4062 **昌言**(まさのぶ・磯辺/磯部いそべ、通称;正徑) 1669-1738 70 下総佐倉藩士;行軍使/転封;山城淀に移住、  
兵法家/国史に通ず、1715「総葉概録」22「佐倉風土記」33「八陣要解九軍之法八陣図」、  
「大田三楽斎戦場履歴」「勝下合戦記」「古語拾遺纂註」「麻加多社志」「西遷紀行」外著多数
- F4063 **正延**(まさのぶ・林はやし、字;子長) ?- ? 江前期京の暦算家:中根元圭門、  
1707「授時図解發揮」(;中根元圭著の説あり)
- F4064 **政信**(まさのぶ・奥村おくむら、名;親妙) 1686-1764 79歳 江中期浮世絵師;独習;鳥居清信に私淑、  
寛保1741-44頃[浮絵]と呼ぶ遠近法の構図を採用、幅広柱絵などの自称創出者、  
享保1716以降江戸通塩町で書肆奥村屋経営、俳諧;不角門、1703「好色華すまふ」、  
1707「若草源氏物語」・挿画「男色比翼鳥」/11「奥村政信遊女の像」40「絵本小倉錦」、  
「絵本鶴の嘴」「色羽二重」「絵本諺草」「姫小松恋若草」「三津蒲団」「春閨染」外画多数、  
[政信(;号)の通称/別号]通称;源八/源八郎、別号;芳月堂/丹頂斎、俳号;文角、  
文筆号;梅翁/赤瓢箪、変名;東の紙子あづまのかみこ?、石川流宣ともものぶの弟弟子  
→ 東の紙子(あづまのかみこ、浮世草子[男色比翼鳥]作者) E 1 0 4 7
- F4065 **正信**(まさのぶ・小倉おぐら、為信男) 1688-1757 70歳 伊予松山の酒造業;松山藩御用商河内屋主人、  
町方大年寄、国学・神道;大山為起門、儒;大月履斎門、垂加神道;留守友信門、  
家業を弟善信に譲渡;学問に専念/歌・書を嗜む、1718「伊予二十四社考」、「神代略記」著、  
[正信(;名)の別名/通称/屋号]別名;通邦みくに、通称;勇吉/勇助/忠右衛門/惣右衛門、  
屋号;河内屋
- F4066 **正信**(まさのぶ・児玉こだま) ?- ? 加賀吉崎の人;同郷の船問屋長尾与四郎の手日記を編纂、  
1712与四郎「海陸世話かいりくせむ日記」校訂:序(難破漂着した地の役人との裁判等の旅日記)
- P4019 **政信**(まさのぶ・木村きむら、) 1705-1743 39 安藝賀茂郡の神道/国学者;玉木正英/松岡雄淵門、  
木村好賢の甥、  
[政信(;名)の別名/通称/号]別名;賢雄、通称;助七/助右衛門、号;忍斎/深淵子
- F4067 **正陳**(まさのぶ・堀田ほった、初名;正附まさす、正朝男/本姓;紀) 1709-53 45歳 母;板倉重常女、  
近江宮川藩主;1719遺領襲封/23従五下/出羽守、1745若年寄;加賀守、  
1745従弟板倉勝該の江戸城内の傷害事件に連座;出仕停止、1748西丸の若年寄、  
「宗建卿堀田加賀守正陳問答」問、幼名;小太郎/三四郎、法号;眞現院
- F4068 **正信**(まさのぶ・平元、幾秋/偕楽堂、正久男) 1713-55 43 秋田藩勘定奉行/詩/俳;叔父梅隣・湖十門、  
1550梅隣「梅の月」編、「旅の月夜」「旅之笑草」著
- F4069 **正身**(まさのぶ・橋村はしむら/本姓;度会わたらい、正章男) 1714-71 58 伊勢山田神職;外宮権禰宜/正四下、  
国学・神典・漢学に精通;宮崎文庫にて毎月神典を講ず、画;長崎の河村若元門、  
「開国神都考」「辨肉食辨」「三角柏考」「両宮御名儀註」/1757「中臣祓辞古訓」外著多数、  
[正身(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;弥太郎/鞆負ゆげひ、字;整卿、通称;主計かづえ/左兵衛、  
号;沼樹園
- P4013 **昌敷**(まさのぶ・木梨きなし、弥三兵衛政平男) 1715-1803 89 加賀金沢藩士;150石継嗣/組外に列す、  
定番御馬廻/1753(宝暦3)御作事横目、1785致仕、国学者、釣雪と号す;茶の湯/詩歌を嗜む、  
[昌敷(;名)の号]号;釣雪
- S4076 **正羽**(まさのぶ・松本まつもと/本姓;藤原、) 1717-80 64 近江彦根藩士、国学者/歌人、



歌;[彦根歌人伝・亀]入、  
[正羽(;名)の通称]要人/安左衛門

- N4066 **正紳**(まさのぶ・磯部いそべ、正富の長男)1727-77<sup>51</sup> 甲斐山梨郡国玉村の神職、  
代々玉諸神社(国玉明神)祠官、神道・国学・歌;加賀美光章(1711-82)門、  
[正紳(;名)の通称/号]通称;大学(父の称継嗣)、号;萩の舎
- L4071 **昌信**(まさのぶ・山本やまと、通称;菊次郎、忠右衛門男)?-? 江中期紀伊の和筆家;山本流、  
歌;広通「霞関集」入、  
[下紐のしるしはさすがしるからん解くるにかたき心なりとも](霞関;恋759/寄紐恋)
- F4070 **方信**(まさのぶ・寺井てらい) ? - 1789 京の心学者;手島堵庵門/師の子和庵と親交、  
明倫舎の都講、老荘学の立場で石田梅岩の心学を論証、「案山子草」著(没後1791刊)  
[方信(;名)の字/通称]字;讓元、通称;菱屋善右衛門
- F4071 **正修**(まさのぶ・加藤かとう)1745- 1838<sup>長寿94歳</sup> 常陸水戸藩士/1763進仕、1830致仕、  
「鉄英」編/1793「武徳成業」編、  
[正修(;名)の通称/号]通称;伝之衛門でんのえもん、号;一睡
- F4072 **正謚**(まさのぶ・稲葉いなば、正益男)1749-1806<sup>58歳</sup> 兄正弘の嗣;1773山城淀藩主/従四下丹後守、  
奏者番/1787寺社奉行、「集要録」編/1802「御城代勤役被仰付候後聞書」外記録多数、  
[正謚(;名)の通称]幸之助/図書ずしよ/兵部
- F4073 **政信**(まさのぶ・関藤せきとう、政則男)1751-1808<sup>58</sup> 備中吉備郡入田村の神職、吉浜村に移住、  
神官の傍ら医業、和漢学に通ず/歌を嗜む、1797「大河原村孝婦伝」、「孝婦伝」、「丹斎遺稿」、  
[政信(;名)の通称/号]通称;注連丞しめのじょう/右京、号;丹斎、関政方・関藤藤陰の父
- T4042 **正伸**(まさのぶ・山岸やまざし/本姓;平、)1760-1820<sup>61</sup> 近江彦根藩家老西郷家の家臣、国学者/歌人、  
歌;[彦根歌人伝・亀]入、  
[正伸(;名)の通称/号]通称;宗蔵、号;松岳
- F4074 **昌信**(まさのぶ・山田やまだ、号;東岡)?-? 江後期寛政1789-1801頃京の和算家、  
1796「袖珍算法」
- F4075 **政信**(まさのぶ・竹川たけがわ)1770-1834<sup>65歳</sup> 伊勢飯野郡射和の両替商、1794幕府為替方拝命、  
苗字帯刀を許可;三人扶持、妻;菅子すがこ(荒木田久老女)、国学者;1800本居宣長門、  
書画に秀でる、1829隠居、殿村篠斎・加藤千蔭・村田春海・月儼・文晁らと交流、  
「落葉の宿」「北国遊記」「秘聞集」「木曾路日記」「高野及熊野紀行」「富士の日記」著、  
「三岳日記」「一の瀬日記」「政信覚書」著、  
[政信(;名)の幼名/通称/号]幼名;大吉、通称;彦太郎/新兵衛/彦太夫、  
号;円庵/竹斎、法号;蕩誉曠山顕道居士、政寿まさほぎ・竹斎ちくさいの父
- F4076 **正信**(まさのぶ・有松ありまつ) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃中西流和算家;鈴木直好門、  
1796-99「算学枢要」編/1800「授時暦経諸数」/15「天元術和算写」、  
[正信(;名)の通称/号]通称;哲治、号;松林堂
- 04081 **正陳**(まさのぶ・梶川かじかわ)1787-1861<sup>75</sup> 伊勢桑名藩士;物頭、国学者;富樫広蔭門、  
[正陳(;名)の通称/号]通称;弥左衛門、号;習々、正安まさやすの養父
- F4077 **正信**(まさのぶ・阿部あべ/本姓;阿倍、通称;大学)?-? 江後期1804-44頃幕臣;1817駿河加番、  
1821寄合火事場見廻役、1843「駿河雑誌」、「駿河随筆」著、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[としさむき霜のうちにもしるきかな千年へぬべき松の緑は](大江戸倭歌;冬1346)
- F4079 **正宣**(まさのぶ・山川やまかわ、本姓;源、大三郎定正男)1790-1863<sup>74</sup> 摂津池田の酒造業西大和屋、  
国学者;1814賀茂季鷹門、先賢の遺跡を調査考証、狂歌;六樹園系、書画・金石学に造詣、  
没後従五位追贈、「山川正宣家集」「金石秀彙」「へ字考」「在根良記」「剛卯故事」「握蘭考」、  
「山川正宣雑考」「古泉輯纂」/1825「俳諧古変」編/26「仏足石歌集解」55「山陵考略」外著多、  
[正宣(;名)の初名/字/通称/号]初名;正信字;子轍/子和/士善/源布、  
通称;寅之助/大三郎/大作、  
号;葎園/清宜園/六倉園/無窮園、芳流居/静処/静斎/呉嶺、  
俳号;瀧雄/狂名;物毎早秋/物毎早穂/倉卒亭、屋号;大和屋/西大和屋、法号;猶見院
- F4080 **昌言**(まさのぶ・鎌田かまた、別名;廉吉/昌弘)1798-1859<sup>62</sup> 京三条東洞院角の医者/有栖川宮の侍医、

歌：香川景樹門、書を修得、「桂園一枝講義」編、「崇蘭館往来」編、「嵐鎌問答書」著、  
[昌言(；名)の号/法号]号；苟完、法号；不退院

- F4081 **正信**(まさのぶ・菱川/一楊斎)?-? 1818-48頃大阪絵師：読本挿画、  
1825「鳥辺山調綫」/26「北川蜆壳」/「三山草紙」/27「復讐棗物語」/34「古今妙塵記」著
- T4049 **昌言**(まさのぶ・山田やまだ)1804-1872<sup>69</sup> 京の吉田家家司、国学・歌人；香川景樹門、  
[昌言(；名)の通称/号]通称；宰記、号；細軒
- F4082 **正信**(まさのぶ・水野みずの)1805-1869<sup>65</sup> 尾張名古屋の陪臣/尾張藩家老大道寺家の同心/用人、  
大道寺直寅(玄蕃)の側近；秘書的存在；国学者/各地の膨大な資料を蒐集、  
耽古連八天狗の1、細野要斎・小寺玉晃ぎょくちよう・奥村得義のりよし・松浦武四郎らと交流、  
「郁李園隨筆」「青窓紀聞」「青窓漫筆」「対青軒雜記」「水野正信筆記」「睡蚕謾筆」著、  
「広州越年日記」、「江戸大風雨通用集」「享保尾事」/地誌「青牖叢書せいゆうそうしょ」編、  
「北地秘録」著、「資治雜笈」編、1861「二夜語」編、外編著多数、 牖  
[正信(；名)の通称/号]通称；万太郎/方太郎/与十郎/三四郎/清八郎/三右衛門、  
号；郁李園/青窓/対青軒/酔讀堂/睡蚕/雄風
- F4083 **正信**(まさのぶ・山口やまぐち、正鄰男/本姓；藤原)1805-? 1868-1912頃没 代々三条家の家侍、  
1837近江介/45右馬大允/53正六下、「山口日記」著
- Q4022 **正暢**(まさのぶ・莊司しょうじ、)1805-1874<sup>70</sup> 讃岐豊田郡の国学者、  
[正暢(；名)の通称/号]通称；和之輔、号；物外/松斎、
- F4084 **昌栩**(まさのぶ・飯室いむろ、昌親男)?-? 江末期江戸の本草家；設楽甚左衛門門、  
幕末期の代表的博物学研究者、1835「珍卉図説」37「梅花図譜」38「升麻図説」47「柿品」、  
1856「虫譜図説」、「草花写生図」「草花説第一・二」著、  
[昌栩(；名)の幼名/通称/号]幼名；安太郎、通称；庄左衛門、号；楽圃/千草堂
- S4013 **昌信**(まさのぶ・平川ひらかわ/本姓；平、通称；帯刀)1812-75<sup>64</sup> 甲斐巨摩郡の国学者；平田鋏胤門、  
1868官命で各地の神社の由緒を調査/のち近江阪田郡山田神社祠官、権田直助と交流、  
「天地夜見開闢十図」著
- P4037 **政信**(まさのぶ・久保くぼ、)1812-1903長寿<sup>92</sup> 武蔵高麗郡坂石村の生、国学者、維新後；戸長  
[政信(；名)の通称/号]通称；新衛門、号；冠月庵耕一
- Q4062 **正誠**(まさのぶ・多々羅たら、)1813-1890<sup>78</sup> 伊予周敷郡の医者、歌人、  
[正誠(；名)の通称/号]通称；良碩、号；杏隱
- O4042 **正敷**(まさのぶ・大原おおはら/本姓；源、福島常映2男)1816-86<sup>71</sup> 信濃飯田本町の大原正胤の養子、  
歌；岩崎長世門/国学者；1868平田鉄胤門、歌人、正樹の父、櫻井光章・野村正基と交流、  
[正敷(；名)の通称/号]通称；栄吉/与兵衛/六兵衛、号；古録
- Q4011 **昌信**(まさのぶ・鹿野しかの、通称；彦六)1816-83<sup>68</sup> 美濃不破郡綾野村の庄屋、国学者
- M4074 **正信**(まさのぶ・樋野ひの) ?-? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[行先をわれ急がずは木の本に一夜は寝なん手まぐらの松]、  
(大江戸倭歌；雑1857播磨国手枕の松をみて)
- S4037 **正順**(まさのぶ/まさより・古高ふるたか、大津代官所手代の周蔵男)1829-64斬首<sup>36</sup> 母；すみ(旧姓松本)、  
近江栗太郡古高村生/父辞職；京へ移住、1859(安政6)山科毘沙門堂門跡に出仕；父継嗣、  
国学；梅田雲浜門；尊攘を学ぶ、烏丸光徳みつえ門、  
1862(文久2)河原町四条の枡屋(筑前福岡藩御用達)を継嗣；枡屋喜右衛門を名乗る、  
古道具・馬具を商う/宮部鼎蔵らと交流；有栖川宮と連絡する長州間者の元締となる、  
大名・公家の屋敷に出入りし情報活動と武器調達をする、1864(元治元)新選組に捕縛；  
武器弾薬・浪士書翰・血判書が発見され逆さ吊りの拷問；自白し池田屋事件に発展、  
六角獄舎に収容；禁門変の火災時に逃亡を恐れた役人により斬首、自白内容の真偽不明、  
[正順(；名)の通称/変名]通称；頼母/俊太郎しゅんたろう、枡屋喜右衛門、変名；湯浅喜右衛門
- S4005 **政信**(まさのぶ・肥田ひだ、通称；忠蔵)1831-1887<sup>57</sup> 讃岐高松藩士、国学者
- O4023 **政信**(まさのぶ・尾崎おさき、)1834-1881<sup>48</sup> 伊予の歌人；星野久樹門、  
[政信(；名)の別号/通称]別名；義篤/忠道、通称；又八
- R4075 **政宣**(まさのぶ・橋本はしもと/本姓；藤原、政孝男)1840-98<sup>59</sup> 大和奈良の国学者；父門、

[政宣(；名)の通称/号]通称:平三、号;玉英

P4071 正信(まさのぶ・高坂こうさか、)1842-1895<sup>54</sup> 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門、

[正信(；名)の通称]程太郎/忠兵衛/文蔵

T4050 雅信(まさのぶ・山田やまだ、初名;義長/通称;藤次郎)?-1895 筑後久留米の国学者

T4011 正宣(まさのぶ・村田むらた、旧姓;検本けんもと)1842-77戦死<sup>36</sup> 日向佐土原藩士/国学者、  
維新後;藩校学習館教頭、廃藩後;大属だいさかん、1877(明治10)西南戦争;佐土原隊を組織、  
島津啓次郎を総裁として西郷軍に参加;熊本県甲佐で負傷;没、

[正宣(；名)の通称]祐之進/十郎左衛門

R4036 正履(まさのぶ・西尾にしお、)1849-1904<sup>56</sup> 駿河駿東郡の国学者、

[正履(；名)の通称/号]通称;林道、号;果軒

雅宣(まさのぶ・飛鳥井)	→	雅宣(まさつら・飛鳥井/難波/藤原、蹴鞠/歌)	E 4 0 2 0
雅陳(まさのぶ・荒巻)	→	菊男(きくお・荒巻あらまき、商家/俳人)	K 1 6 0 4
正信(まさのぶ・藤原)	→	喜太夫(きだゆう・虎屋とらや/天下一上総、浄瑠璃)	F 1 6 7 6
正信(まさのぶ・保科/松平)	→	正容(まさかた・松平/保科、藩主/歌)	B 4 0 8 7
正信(まさのぶ・南部)	→	行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人)	F 4 6 2 1
正信(まさのぶ・竹内)	→	自休斎(じきゅうさい・竹内たけのうち、藩士/故実家)	Q 2 1 1 7
正信(まさのぶ・九保)	→	正永(まさなが・九保くぼ、幕臣/書記)	F 4 0 2 0
正信(まさのぶ・近藤)	→	峨眉(がび・近藤こんどう/藤原、儒者/書)	P 1 5 2 0
正信(まさのぶ・村上)	→	養純(ようじゅん・村上むらかみ、医者)	B 4 7 1 9
正信(まさのぶ・竹内たけのうち)	→	自休斎(じきゅうさい・竹内、武家故実)	Q 2 1 1 7
正信(まさのぶ・稲葉)	→	黙斎(もくさい・稲葉いなば、儒者)	4 4 8 2
正信(まさのぶ・渡辺)	→	素元(そげん・渡辺わたなべ、書家)	J 2 5 6 2
正信(まさのぶ・木田)	→	雪鼎(せつてい・月岡つきおか/木田、絵師)	E 2 4 6 0
正信(まさのぶ・楠瀬)	→	清蔭(きよかげ・楠瀬くすのせ、藩士歌人)	T 1 6 9 8
正信(まさのぶ・三輪)	→	靈泉(りょうせん;法諱、僧)	M 4 9 4 8
正信(まさのぶ・川崎)	→	正信(せいしん・川崎、京俳人)	C 2 4 3 0
正信(まさのぶ)	→	正信(せいしん、宮津俳人)	C 2 4 3 4
正信(まさのぶ・竹村)	→	悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者)	E 1 5 3 8
正信(まさのぶ・曾根田)	→	黄斎(こうさい・曾根田そねだ、藩士/儒者)	J 1 9 0 2
正信(まさのぶ・深町)	→	北荘(ほくそう・深町ふかまち、商家/詩文)	D 3 9 6 8
正信(まさのぶ・三宅)	→	庄市(しょういち・三宅みやけ、和泉流狂言師)	G 2 2 7 4
正宣(まさのぶ・香田)	→	朋水(ほうすい・香田こうだ、俳人)	B 3 9 8 6
正靖(まさのぶ・村尾)	→	嘉陵(かりよう・村尾、幕臣/紀行文)	P 1 5 7 3
正述(まさのぶ・佐久間)	→	續(つづき・佐久間さくま、藩士/和算家)	2 9 9 4
正命(まさのぶ・大田原/稲葉)	→	正親(まさちか・稲葉/大田原、藩主)	D 4 0 7 3
政伸(まさのぶ・立川)	→	曾秋(そしゅう・立川たちかわ、農/俳/心学)	L 2 5 0 5
政宣(まさのぶ・神田)	→	蝶々子(ちょうちょうし・神田/平野、俳人)	J 2 8 4 7
政信(まさのぶ・畠山)	→	休山(きゅうざん・畠山はたけやま、幕臣)	M 1 6 6 4
政信(まさのぶ・松平)	→	信庸(のぶつね・松平、藩主/学問奨励)	C 3 5 1 5
政信(まさのぶ・奈須)	→	宗泉(そうせん・狩野/奈須、狩野派絵師)	C 2 5 3 8
政信(まさのぶ・苅類屋)	→	政信(せいしん・苅類屋、俳人)	I 2 4 8 9
政信(まさのぶ・八十島)	→	皆富(みなとみ・八十島やしま、藩医者)	F 4 1 3 7
政信(まさのぶ・日置)	→	忠尚(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画)	Z 2 6 4 0
政布(まさのぶ・山本)	→	参九郎(さんくろう・山本やまもと/源、歌人)	N 2 0 4 9
政演(まさのぶ・北尾/葦斎)	→	京伝(きょうでん・山東)	1 6 3 7
昌信(まさのぶ・岡)	→	昌名(まさな・岡おか/太秦、楽人)	E 4 0 9 0
昌信(政信まさのぶ・佐藤)	→	清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学)	O 1 6 6 6
昌信(まさのぶ・葛巻)	→	昌興(まさおき・葛巻かづらまき、藩士/歌)	B 4 0 4 9
昌敷(まさのぶ・山本/藤原)	→	昌敷(しげのぶ・山本/藤原、官人/歌/語学)	R 2 1 9 7
昌宣(まさのぶ・鈴木)	→	去角(きょかく・鈴木すずき、藩士/俳人)	H 1 6 1 1



昌延(まさのぶ・鄭てい) → 敏斎(びんさい:号・鄭、通事/語学教育) H 3 7 8 2  
真信(まさのぶ・神谷) → 真信(しんしん・神谷かみや、歌人) U 2 2 5 5  
雅陳王(まさのぶおう) → 雅陳(まさのぶ・白川/源/高倉、神祇伯) F 4 0 5 6

- F4085 **雅信室**(まさのぶのしつ・源みなもと、源定有女?)?-? 平安期歌人/源雅信[920-993]の妻(一条左大臣室)、左近中将源成信(母は雅信女)の三井寺出家時に装束袈裟に付けて贈る歌;新勅撰集1210、[けさのまも見ねば涙もちどまらず君が山路にさそふなるべし](新勅撰;十八雑1210)
- F4086 **雅信女**(まさのぶのむすめ・源、4人いるが誰か不詳)?-? 平安期歌人;拾遺集1258;藤原忠君への返歌、[涙河水まさればやしきたへの枕の浮きて留とまらざるらん](拾遺;十九雑恋1258)、(結婚の破綻を嘆く歌/忠君[師輔男/968没]に贈った沈むの枕を返してきたので詠む)  
参考 → 雅信(まさのぶ・源)の項
- 正家(正屋/正宅/正舎まさのや・鎌田)→広海(ひろみ・鎌田かまた/藤原、神職/国学) I 3 7 4 0
- F4087 **雅規**(まさのり・菅原すがわら、高視男)919-97961 母;菅原宗岳女、道真の孫、平安期廷臣;紀伝道に修学、文章生/因幡守/山城守/左少弁/文章博士、文時の兄、詩人、清慎公藤原実頼の侍読、詩;扶桑集・類聚句題抄・江談抄入、文粹1首入
- F4088 **匡範**(まさのり/まさひろ・大江おおえ、維光男)1140-120364 廷臣;従四下/太皇太后大進、大宰大貳/左京大夫、広元の兄弟/匡房の曾孫/周房の父、歌人;1178或所廿一番歌合参加/千載1084、[思ひやれ十代とよにあまれる灯火ともしびの掲かげかねたる心細さを](千載集;十七1084)、(大江音人より11代目、学問の大江家に灯燭料[学問料]の下賜のないことを嘆く歌)
- F4089 **政範**(まさのり・千秋せんしゅう、範宗男/本姓;藤原)?-? 鎌倉後期熱田大宮司家の武士、左衛門尉/五位/三河守、歌;「藤原政範集」、新千載1471、[我ながらなれしや夢とたどる夜の寝覚にうかぶ面影もうし](新千載;恋1471)
- F4090 **政則**(まさのり・赤松、性存男/本姓;源)1455-9642 赤松満祐みつすけの甥、室町期武将;播磨・備前・美作の守護、将軍義政に寵遇、仏法への志厚い、猿楽の名手/歌人、[政則(;名)の幼名/号]幼名;法師丸、法号;松泉院
- F4091 **雅教**(まさのり・) ? - ? 連歌;1518宗長「東山千句」(安養寺千句)連衆
- F4092 **正則**(まさのり・福島ふくしま、市兵衛正信男)1561-162464 尾張海東郡二寺邑の武将;秀吉の近臣、賤ヶ岳7本槍など数々の軍功/検地奉行・兵糧奉行/1595尾張清洲城主24万石、1600加藤清正と組み石田三成を失脚させ東軍に与す/安藝備後藩主49万石;広島城主、1617参議従四下/19広島城無届修築の責で信濃川中島移封;高井野邑に蟄居;没、1609景洪と和漢聯句/1616昌琢と懐旧百韻、「福島左衛門大夫正則日記」「福島正則書状」著、[正則(;名)の幼名/通称/号]幼名;市松、通称;左衛門大夫、号;高斎、法号;海福寺月翁正印大居士
- F4093 **正矩**(まさのり・香川かがわ、家継[1591-1669没]男/本姓;平)?-1660 代々周防岩国藩主吉川家の家老、文学;父門、歴史に関心;軍記作者、1695「陰徳太平記」著(;息子の景継宣阿校訂)、「藝話」「石山禦寇記」著、[正矩(;名)の字/通称/号]字;無適、通称;四郎兵衛、号;昨木軒
- F4094 **正式**(まさのり・池田いけだ) ? - 1672?入水 大和郡山藩本多政勝の家臣/不遇で晩年浪人、奈良住、正親の父、古典/俳諧;貞室・貞徳門、1646「古保里山(郡山)」(;重頼の[毛吹草]を論難)、1648「土佐日記講註」「霊怪あやし草」(怪異小説)、1659貞室「玉海集」入、以後俳諧から離れる、晩年は狂歌を嗜む;1671「堀河百首題狂歌集」、自狂歌合「狂歌百首歌合[正式百首]」著、世をはかなみ入水自殺、遺作[老が身の城攻めよする歳暮哉](西鶴「古今俳諧師手鑑」入)、[正式(;名)の通称/号/狂名]通称;十郎右衛門、号;委斎、狂名;平群実柿へぐりのさねがき、布留田造ふるのたづくり
- U4007 **正令**(まさのり・山路やまち) ? - ? 江前期;上方の歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、[人のおやの身にはつもらぬ老ならばこは歎くべき年のくれかな](林葉累塵;冬744)
- F4095 **正納**(まさのり・杉谷すぎたに) ? - ? 江前期;京の俳人/歌人;1672種寛しゅかん「続詞友俳諧集」465句入/73種寛「俳諧誘心集」35句入;種寛に財政的支援、

1682河瀬菅雄[麓の塵]15首入、

[風過ぐるあし分小舟跡たえて波ばかりこそ道はありけり](麓の塵; 羈旅391)

- F4097 **正則**(まさのり・稲葉いなば、正勝男) 1623-9674 母; 山田重利女/1626母没; 祖母春日局に養育、1634相模小田原藩主; 遺領相続、日光参詣に供奉・代参/江戸城西丸・紅葉山造営、幕政の中心となる、皇室との関係が深い/美濃守、1683致仕、神道; 吉川惟足門、黄檗宗を外護; 隠元隆琦の滞留を図り法嗣鉄牛道機に帰依、「春日局略譜記」著、[正則(;名)の幼名/号]幼名; 鶴千代、号(致仕後); 泰応/泰翁/潮信軒
- F4096 **正則**(まさのり・中西なかにし、別名; 正利/通称; 文左衛門) ?-? 江前期江戸の和算家; 兄正好まさよし門、兄正好の開いた中西流を研究; 門人仙台藩士江志知辰により仙台に中西流が広まる、1684「至極算法」「算法続適等集」、「因解伝」「算法直術百好」「因解算法百好并答術」著
- T4098 **正教**(まさのり・山本やまと/本姓; 源、) ?-? 江前期; 武士、歌人、1688浅井忠能ただのり[難波捨草]5首入、[淡路がた夕しお風に波あれて浦も定めず鳴く千鳥かな](難波捨草; 冬389)
- F4098 **正矩**(まさのり・花房はなぶさ、初名; 幸連、花房幸昌正次男) 1649-172476 幕臣; 1695父の継嗣; 小普請、1697遠州に知行5千石/1719寄合、1706「梅花百品歌集」著、[正矩(;名)の通称/法号]通称; 大助/右近、法号; 全融
- F4099 **昌儀**(まさのり・浅羽あさば、通称; 伝四郎/甚五兵衛) 1656-172873 常陸水戸藩士; 徳川光圀の家臣; 彰考館入、1680「吉野考纂」/1701「近代諸士伝略」「御役人帳」、「南方記」著
- P4091 **正意**(まさのり・佐野さの、) 1656-1752長寿97 紀伊和歌山藩士; 小姓役、のち伊予西条藩に出仕、国学者、1748「老翁柳谷山にすむ事三十二年丙寅村中にくつろぐの記文」著、[正意(;名)の通称/号]通称; 市三郎/吉右衛門、号; 隠山/北山翁
- G4000 **正則**(まさのり・松田まつだ、通称; 四郎兵衛) ?-? 江前期武州の和算家; 佐治一平門、1705佐治一平「算法入門」を「算学詳解」と改題し編刊
- G4001 **正則**(まさのり・太田おた、法号; 一漚、正房男) ?-1718 幕臣; 1708家督嗣、1713小十人組、「大日本染殿屋由来」著
- P4006 **正卿**(まさのり・河島かわしま、) ?-? 江中期京の歌人; 中院なかのいん通躬みちみ(1668-1739)門、加賀金沢に住; 商家/詩歌人、1727(享保12)5月湯涌温泉に遊び「湯涌十景」を賦す; 湯涌十景; 祇林紅樹・荒屋夜雨・育王暮雪・戸室夕照・市瀬秋月・笠松晚涼・杉村藤花・高尾朝霞・蓋淵緑水・湯涌温泉; (詩及び歌)、[正卿(;名)の字/通称/号]字; 尚齡、通称; 島屋与三兵衛よそべえ、号; 南楼
- Q4034 **正範**(まさのり・菅沼すがぬま、通称; 図書、正氏まさうじ男) 1663-174886 江戸の幕臣; 寄合、国学者/歌人、[涼しさに名残とめつつ行く袖をひかふる程のまつの下陰](茂睡[鳥の迹]夏273)
- N4049 **正紀**(まさのり・飯田いだ、) 1708-175346 甲斐山梨郡の神職/国学者、歌人; 1727(享保12)京の姉小路実紀門(加賀美光章と共に)、国学; 島谷長庸門、帰郷; 国学・歌を指導/1745(延享2)甲府柴宮しばみや神社祠官、[正紀(;名)の初名/通称/号]初名; 台賢/正彦、通称; 右膳/遠江守、号; 玉山
- G4002 **正矩**(まさのり・河田かわだ) ?-1768 讃岐山田郡元山村の農家(富農)/俳人/心学を修学、1740「家業道德論」49「三世道しるべ」59「辨惑金集談」、「怪談重問菁種」著(没後1776刊)、[正矩(;名)の号]孤松/古松/孤川/荷乗庵かへいあん 正休まさやすの父
- G4006 **雅伯**(まさのり・野崎のさき) ?-? 江中期富山藩士; 会所物書/先手足軽小頭、勘定所算用役/1774寄合所筆役、職務の傍ら越中の歴史調査; 古老の口碑収集、息子雅明まさあき[1757-1816]が研究継承、1811「喚起泉達録」著、[雅伯(;名)の通称/号]通称; 伊太夫、号; 蘇金
- G4003 **政礼**(まさのり・横山よこやま/修姓; 山、横山貴林男) 1742-8342 横山正従の養子; 加賀金沢藩士; 1760家督嗣/家禄1万石、1769「東臯初稿」著、政寛まさひろの父、[政礼(;名)の別名/字/通称/号]別名; 隆明/正迪、字; 子慎、通称; 平十郎/多宮、号; 東臯/峰霞楼/坐嘯亭
- R4072 **正令**(まさのり・橋村はしむら/本姓; 度会、正身のぶ長男) 1743-180058 伊勢度会郡上中ノ郷の生、外宮権禰宜/正四上、神典・国学者; 父門、漢学; 伊藤東涯門、荒木田久老の兄、釈蕉仲と親交、奥田三角・恩田仲任・僧大典・月僊と交流、山口凹巷・阪柳園・釜屋南陵の師、

[正令(；名)の初名/字/通称/号]初名；令祐、字；行美、  
通称；弥太郎/左兵衛/監物/主計かづえ/三助、号；痴亭ちてい(；書画号)

- G4004 **正範**(まさのり・内藤ないとう/本姓；藤原、政利2男)1747-160761 内藤正雄の養嗣子/1765家督；幕臣、  
1774定火消/86小姓組番頭/従五下/安藝守/甲斐守、小普請組支配/御書院番頭、  
1805駿府城代/07致仕、内藤久五郎の弟、  
歌人；冷泉為村門/日野資枝・芝山持豊門、横瀬定臣・石野広通と近世武家(幕臣)三歌人、  
1801「蘆の仮寝廻記」著、05家集「春草」、1798広道「霞関集」入、「一橋御屏風画讃」著、  
[正範(；名)の通称]初名；政安?/政次郎まさじろう/外記けき、正博の父、  
[つららみし笈かひの竹のよの程に音づれそめて春は来にけり](霞関；春21)
- P4018 **正則**(まさのり・木村きむら、)1756-180348 近江彦根藩士/歌人；[彦根歌人伝・亀]入、  
[正則(；名)の通称/号]通称；仲右衛門、号；筍和
- L4060 **正記**(まさのり・比留ひる/本姓；藤原、)1711-? 幕臣；大番/納戸番/同組頭/御膳奉行/御納戸頭、  
西丸御広敷用人、田安宗武女の種姫の御用人/寄合、1795(寛政7)致仕/隠居号；安睡、  
歌；1798刊石野広通[1718-1800]編「霞関集」入、  
[山づとの色香に添へていや増る木高き花も君ぞ手折らん](霞関；春142、広通への返歌、  
山づととして贈られた桜を正記に遣すとて；  
広通；人はかく手折らば手折れ山桜などわがかたに花の木高き)  
[正記(；名)の通称/法名] 通称；辰之助/与十郎/法名；安睡
- G4005 **昌則**(まさのり・鈴木すずき) ? - ? 江後期1789-1801頃播磨姫路の兵法家、  
1800「古戦要らんよう」著
- P4079 **正度**(まさのり・佐伯さえき、)1762-183978 伊勢度会郡の御師代官、国学；本居春庭門、  
[正度(；名)の通称/号]通称；斎助、号；百杉
- G4007 **正紀**(まさのり・玉江たまえ) ? - ? 江後期京室町二条北の医者、1813「傷寒論約説」著、  
[正紀(；名)の字/号]字；士綱、号；春堂/春道/物園
- 04044 **政徳**(まさのり・大原おおはら、旧姓；野中)1771-? 京の内舎人、歌人；香川景樹(1768-1843)門、  
[政徳(；名)の通称] 兵庫大允ひよごのだいじん
- Q4030 **正令**(まさのり・須田すだ、通称；柔太郎)?-1830 信濃飯田藩士；江戸詰、歌人；岩沢幸年ゆきとし門、  
歌；桃沢夢宅門、国学；植松茂岳しげおか門
- G4008 **雅則**(まさのり・渡部わたなべ、通称；儀平)1778-183659 出羽鶴岡の金工渡部家5代目；庄内藩抱え、  
「庄内金工名譜」著
- G4010 **政憲**(まさのり・筒井つひ、久世広景男)1778-185982 母；内藤信庸女、1798旗本筒井正盈の養子、  
幕臣；1815目付/17長崎奉行/21江戸町奉行/41西丸留守居/45学問所御用、  
1853露使節の応接掛/54大目付(海防掛)；伊豆下田で日露和親条約締結に尽力、  
1855講武所御用/57槍奉行、将軍に論語を講ず、従五下伊賀守/和泉守/紀伊守/肥前守、  
「黒船雑記」「異船雑筆」「異船雑筆」/1817「西鎮紀行」20「喁蘭演戯記」34「浜の松風」著、  
1849「備蛮策」「簡憲帷策」外著多数、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[田鶴のゐる竹田の原の初若菜千年ちとせの声もそへて摘ままし](大江戸倭歌；春105)、  
[政憲(；名)の字/通称/号]字；子恒、通称；右馬助/左次右衛門、号；鑾溪らんけい/順斎、  
法号；政憲院、下曾根信敦の父
- G4009 **政徳**(まさのり・田中たなか、正康男)1780-182142 出羽庄内大山の素封家；1802家督嗣/15総代名主、  
和漢・文学；祖父田中朝陽門/暦算；田中万春ばんしゅん門、諸国歴遊/伊勢の益谷末寿に添削受、  
「伊勢のみち草」「郷政録」「撞鐘録」「大泉通誌」、「量地備考」編、  
[政徳(；名)の字/通称/号]字；子教、通称；新五郎、号；稽古/堯載/鳳嶽
- G4011 **政典**(正典まさのり・田代たしろ、政定男)1782-1841自刃60 肥後人吉藩士/儒；江戸の細井平洲門、  
平洲没後久留米藩儒樺島石梁門、帰郷し家塾を開/1816勘定奉行兼槍手隊将/用人/郡奉行、  
1821家老；新田開発・殖産興業に尽力/農民と対立；打毀発生；自刃、「御家老日記抄」  
[政典(；名)の字/通称/号]字；子礼、通称；厚次郎/善右衛門、号；毅軒、嗣子；弟の簡窩
- G4012 **政徳**(まさのり・天野あまの/本姓；藤原)1784-186178 旗本幕臣；5百石/本所南割下水横町住、  
歌学；大石千引門、画・印刻・一絃琴を能くす、歌文；1819「草縁集」25「続草縁集」編、  
「葛廬集」「江戸職人絵合」「奇辞題林」「和歌題意考」「言葉の栞」「奇辞類韻」「庚申夜話」、



- 「百人一首集註」「墳墓漫録」「天野政徳随筆」外著多数、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(息女の水枝子と共に)、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[色かへぬみぎりの竹のあを馬を千代経へん春のためしにぞ引く]、  
(大江戸倭歌;42白馬節会)、  
[月花を見る折折に思ひ出でよ我も世になき人となりなば](同;雑1958/心地煩ふ時)、  
[もののふと言ふも恥かし月花のやつことなりて過ぐるこの身を](現存百人;100)、  
[政徳(;名)の字/通称/号]字;其所、通称;図書<sup>ずしょ</sup>、号;葛廬/後野乃舎<sup>のちののや</sup>、法号;眞政院
- N4079 **政典**(まさり・今井いまい、宣政の<sup>の</sup>まさ男)1784-1839<sup>56</sup> 信濃伊那郡小野村の歌人;桃沢夢宅門、  
政明<sup>まさあき</sup>の父、  
[政典(;名)の字/号]字;小惇、通称;元亮、号;霧谷
- P4038 **正意**(まさり・久保倉くぼくら、)1784-1855<sup>72</sup> 伊勢度会郡の国学者、檜垣常善<sup>つねよし</sup>と交流、  
[正意(;名)の通称/号]通称;要人、号;楓橋
- G4013 **正記**(まさり・町田まちだ)1785- 1857<sup>73</sup> 信州松代藩士;勘定方/和算家;初め宮城流入門、  
のち会田安明門;高弟となる、1847善光寺付近の大地震に犀川決壊日を正確に予測;  
藩主より雅暁の字<sup>あざな</sup>を賜、「最上流算法伝書部分目録」編、  
[正記(;名)の字/通称/号]字;雅暁、通称;源左衛門、号;自然斎<sup>じねんさい</sup>/棗斎<sup>そうさい</sup>/棗原
- G4017 **方升**(まさり・友部ともべ、方考男)1787-1854<sup>68</sup> 讃岐高松藩士;蔵奉行/郡奉行、歌;木村千之助門、  
国学;藤井高尚門、1838(天保9)修史局(歴史書編集所)考信閣総裁;「曆朝要記」編纂校訂、  
「雨夜物語」「神道百談」「朝日桜廼歌解」「日夷交易異見」「百人一首浅香山」「海防根源記」、  
「友部方升雑考」外著多数、  
[方升(;名)の通称/号]通称;新八郎/新安、号;鳩舎<sup>はのや</sup>、方秀<sup>まさひで</sup>の父
- N4080 **政徳**(まさり・今田いまだ/旧姓;岡、)1788-1837<sup>50</sup> 讃岐那珂郡の国学者/文人、  
[政徳(;名)の通称/号]通称;多喜蔵、号;越斎/越木斎
- S4077 **雅徳**(まさり・松本まつもと、)1788-1832<sup>45</sup> 近江彦根藩士、国学者・歌人;村田泰足門、  
歌;「彦根歌人伝・鶴」入、  
[雅徳(;名)の通称/号]通称;七太夫、号;竜鱗館
- G4014 **政礼**(まさり・本多ほんだ、政成男)1789-1820<sup>早世</sup>32 加賀金沢藩士;1803家督嗣/04従五下安房守、  
1816「勝手方覚書」、「本多政礼覚書」著、政和<sup>まさかず</sup>の父、  
[政礼(;名)の幼名/通称]幼名;直次郎、通称;主殿<sup>とのも</sup>
- G4015 **正徳**(まさり・志田じだ、号;白淡亭/春治)1790-1866<sup>77</sup> 岩代信夫郡鎌田の郷土史家;  
1841信夫伊達両郡の踏査;地誌編纂、1831「信達一統志」、「大鳥城昔語」著、「白淡亭遺稿」
- G4016 **政徳**(まさり・桑木くわき、又助男)1795-? 熊本藩士;1814家督嗣/17小姓/36玉名郡郡代、  
1850病のため隠居、藩主細川斉樹に近侍;藩主の行状記録「観公嘉善録」/「忍草」著  
[政徳(;名)の通称/号]通称;源太右衛門/格助、号;可山
- P4044 **正帥**(まさり・雲井くもい、)1795-1837<sup>43</sup> 伊勢津の国学者;本居春庭・富樫広蔭門、  
[正帥(;名)の字/通称]字;才次郎/勘三郎、通称;子先
- 04004 **雅典**(まさり・浦野うらの、通称;雄輔)?-?天保1830-44<sup>頃没</sup> 紀伊和歌山藩士;小十人役、  
国学・歌人;本居内遠(1792-1855)門
- G4018 **正矩**(まさり・今木/今城いまき)?- ? 1830<sup>存</sup> 羽後土崎港の最上流和算家;斎藤尚中門、  
1830「角館神壁」、[正矩(;名)の通称/号]通称;寛蔵、号;秦水
- G4020 **正徳**(まさり・村上むらかみ)?- ? 江後期陸奥の医者;蘭医学との融合・同化を図る、  
1826「粘敗療談」、「粘敗療談続編」著、  
[正徳(;名)の字/通称/号]字;温卿、通称;養潤、号;精理堂
- M4002 **政憲**(まさり・中村なかむら、孟政たけまさ長男)1803-49<sup>47歳</sup> 母;此子(旧姓高戸/木下幸文門歌人)、  
備後鞆浦の酒造業;保命酒製造;7代目、歌人;木下幸文門、1842(嘉永元)箱館に赴く;没、  
[政憲(;名)の通称/号]通称;吉兵衛(代々の称)、号;宗逸/自好庵  
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の中村正憲と同一?  
[郭公鳴く声すなり隅田川船漕ぎ戻せもとの堤に](大江戸倭歌;466/舟中聞郭公)
- S4062 **正典**(まさり・松浦まつうら、旧姓;沢近)1803-71<sup>69</sup> 伊予宇和郡の神職/国学・歌;宍戸大成<sup>おなり</sup>門、  
宇和島一宮の宇和津彦神社<sup>うわつひじんじや</sup>榊森大宮司、

- [正典(；名)の初名/通称/号]初名；信典、通称；島太郎/上総、号；葵舎  
G4021 **正則**(まさのり・清水しみず、通称；次郎、赤城男)1806-? 江戸の兵学者/武芸家、  
「鎌宝蔵院世譜略」著、磯洲の弟/大橋訥庵の兄  
04051 **方度**(まさのり・岡おか、通称；常陸)1808-32**早世**25 筑前遠賀郡の商家/歌人、病没、  
扒村神官波多野上総の異母弟  
04080 **方教**(まさのり・梯かけはし、通称；**豊太**)1808-49**42** 筑後久留米藩士；江戸藩邸住/目付役、  
国学者/歌；橘守部門、能書家、妻；以登いと(1820-86；国学者/歌人)  
G4022 **正準**(まさのり・山脇やまわき、正修男/本姓；橘)1809-71**63** 美濃郡上藩士；兵法家；猪瀬忠之ただゆき門  
越後流佐久間系江戸伝要門派、甲州北条・山鹿・長沼流兵法も修得、水軍・武家故実精通、  
郡上藩物頭/軍師/参政役、1851江戸で講武館を開塾；開港論主唱/西洋兵学採用、歌人、  
1843「兵士軍陣大概長歌并短歌」49「籌海叢誌」編/54「海防太郎百首」56「海防三郎百首」、  
1856「浦賀日記」62「海防百首」、「城事記」「意筌録」「操練略式」「武門無窮録」「砲術彙解」著、  
[正準(；名)の通称/号]通称；治右衛門、号；正斎  
T4065 **正論**(まさのり・行弘ゆきひろ/本姓；中原、通称；安房守)1809-70**62** 筑前志摩郡馬場村の郷士、  
国学者；1856平田篤胤[気吹舎]入門  
G4023 **正典**(まさのり・久貝くがい、蘭斎男)1812-65**54歳** 幕臣直参；5千5百石/因幡・河内・遠江守/従五下、  
1841大番頭、留守居/大目付/1860講武所奉行；安政大獄の処置をめぐり降格/1862隠居、  
1864講武所奉行に復帰、歌人；小林歌城門、1849「歌城歌集」編、家集「久貝正典歌集」、  
「正典詠草」「諏善永言」「諏善堂集」「はしたか集」「久貝因幡守系図」著、  
地位財力で当時の文人を庇護(歌城集・源氏新釈刊行など)、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」20首(最多；因幡守正典名)入、  
[とりよろふ君が御衣みけのこむらさきこや武蔵野の初春の色]、  
(大江戸倭歌；春9/元日御側にて心のうちを詠)、  
[草の原秋風さむみ朽ち残る骨さへ動く心地こそすれ](同；雑1941/古戦場)、  
(同；恋1508/思三人恋)、  
[正典(；名)の通称/号]通称；甚三郎/因幡守、  
号；諏善堂しゅぜんどう/柳厩りゅうがい/養翠、法号；高德院  
Q4095 **正矩**(まさのり・辻つじ、本姓；度会)1812-72**61** 伊勢度会郡の神職；月読宮御炊物忌、  
神道・国学；足代弘訓ひろのり(1784-1856)門、  
[正矩(；名)の通称]左京  
G4024 **正令**(まさのり/まさよし・戸沢とざわ、正胤男)1813-43**早世**31 母；松平治昭の養女伊与子、  
羽前新庄藩主；1840襲封、従五下能登守、学問・文藻；祖母門、歌；1827村田多勢子門、  
国学・歌；齋藤彦磨門、在職4年没、  
1830-34「鶯樹観かつらのや歌集」、「稜威舎いつのや集」「真珠亭歌集」「石上草紙」「つぼの白雪」、  
「をかしをかしの辨」「花使考」「ことばのしもと」「鄙の鶯」/1843「最上川舟行」、外著多数、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[すめらぎの玉ふりみせて桜花よに似ぬ春のいろににほへり](大江戸倭歌；春228)、  
[正令(；名)の幼名/号]通称；千代鶴/能登守、号；風月/風月閑人/鶯樹観かつらのや、  
稜威舎いつのやのあるじ/飛月亭/嘯月亭/玉堂/錦園/道別大人みちわきのうし、法号；仁亮院  
P4028 **昌孝**(まさのり・北島きたじま、通称；秀主)1813-1884**72** 出雲出雲郡の神職、国学者、  
「北島昌孝 玉持大国図」筆  
M4013 **正徳**(まさのり・彦坂ひこさか/本姓；源、通称；要之助)?-? 江後期幕臣；御徒頭など歴任(勤用覚留入)、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[明けゆけど木の間をさらぬ鶯は花のねぐらやたちうかるらん](大江戸倭歌；春90)  
M4022 **正教**(まさのり・山田やまだ) ? - ? 江後期；歌人、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[すみれ摘む野辺のゆききになれなれてあがりもはてず鳴く雲雀かな]、  
(大江戸倭歌；春218)、  
[あな恋しいかで螢に身をかへて燃ゆる思ひを君に見せまし](同；恋492)  
M4029 **正徳**(まさのり・橋本はしもと) ? - ? 江後期；歌人、

歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[舟させば暑さもしばし夏の夜の月も涼しき隅田川かな](大江戸倭歌;夏541)

- G4025 **政教**(まさり・藤原ふじわら) ? - ? 江末期岩代会津の神職;神祇道博士、  
1847「中臣祓独断評論」、「中臣祓大意示蒙解」著
- G4026 **政教**(まさり・砂川すなわ) 1816-1883 68 京西町奉行所組与力;父を継承、考証家:  
同僚の平塚茂喬と共に山陵調査、安政大獄で解職/1863復職、泉涌寺普請見廻役/奉行手付、  
維新後京都府地誌掛、「陵墓考証」/1857「歴代廟陵考補遺」59「歴代廟陵考補遺後案辨」、  
[政教(;名)の通称/号]通称;健次郎、号;馨斎
- M4090 **応昇**(まさり・黒瀬くろせ/本姓;秦、応進まさゆき男) 1821-1854 34 伊勢度会の国学者;  
本居春庭・清水珍一門、さらに御巫清直門、黒瀬正親まさちかの兄  
[応昇(;名)の通称] 政平・左十郎
- T4026 **正憲**(まさり・森田もりた、初名;正慶/通称;五右衛門/号;不及) 1821-? 伊予小松の国学者、  
国学・歌;医者半井梧庵(忠見)門/佐々木弘綱門、息子;保之助/養孫;恭平
- G4027 **雅範**(まさり・穎川えがわ/本姓;葉/一時;盧、穎川雅之2男) 1822-62 41 盧氏の養子/長崎通事;  
1834(13歳)稽古通事、1847(弘化4)穎川に復姓/小通事並/50小通事/61長崎大通事過人、  
1862辞職;没、「清文鑑和解」校訂、  
[雅範(;名)の通称/号]通称;駒之助/君平、号;雨林、法号;冬嶽院
- G4028 **雅典**(まさり・飛鳥井あすかい、雅久男/本姓;藤原) 1825-83 59 廷臣;1849従三位/64正二位、  
1867権大納言、議奏・武家伝奏・御用掛を歴任/公武合体派のため参朝停止、  
維新後赦免;宮内省勤務、歌人、  
「飛鳥井雅典和歌並消息」「烏丸光政飛鳥井雅典歌道応答書」「御法楽和歌備忘草」外著多数
- O4005 **正範**(まさり・遠藤えんどう、名;奥守おきもり) 1825-68 44 陸奥(磐城)田村郡御代田村の神官、吉田良芳門
- T4040 **正典**(まさり・山川やかわ、正宣まさのぶ2男) 1825-59 35 摂津池田の酒造業の家、国学者/歌人;父門  
[正典(;名)の通称]与太郎/与左衛門
- G4029 **政徳**(まさり・長川ながかわ、高杉武左衛門男) 1826-93 68 肥前長崎の人;早く父と死別、  
儒者;向井紫溟門、1842長川東洲の養子/46日田の広瀬淡窓門、57漢学教導方手伝、  
1860助教手伝/67教授所助教手伝出役/68長崎府取締役/漢学教導/71退職、  
1852「鄙稿」/60「鄙藁」著、  
[政徳(;名)の字/通称/号]字;士恒、通称;幹二、号;二水晋斎/復堂/鉄壁次翁
- N4022 **正紀**(まさり・綾野あやの、通称;紋太夫) 1828-91 64 筑後久留米藩士;砲術師範、国学者、  
歌学;井上文雄門/詩歌;戸田藤蔭ふじかげ門
- G4030 **雅矩**(まさり・大井おおい、号;敦軒) ?-? 江後期摂津の文筆家;「清廚全書」著
- G4031 **正矩**(まさり・奥貫おくぬき、通称;幸右衛門) ?-? 幕末期武蔵入間郡の国学者;平田鉄胤・権田直助門、  
「古道訓蒙頌対唱」著
- P4062 **脩徳**(まさり・小西こにし、旧姓;清水) 1830-90 61 摂津伊丹の小西業重の妹婿、  
国学者・歌人;中村良臣・良顕門、  
[脩徳(;名)の初名/通称]初名;秋迅、通称;四郎右衛門
- T4029 **政徳**(まさり・八木田やかた、) 1830-1913 84 肥後熊本藩士;鉄砲頭/禄200石、  
国学・歌;中島広足門、詩;白木柏軒(熊本藩士)門/俳諧;園部煤公門、維新後;戸長、  
1881私立共立学舎の漢学教授、1882園部煤公を継嗣;鶏口門の8世宗匠(号;梅雄)、  
清人王治本の熊本滞在中の発星山観桜会に参加、  
[政徳(;名)に字/通称/号]字;栗崖、通称;小右衛門、号;坦路/梅雄(;俳号)
- G4032 **政礼**(まさり・村井むらい、水野公国男) 1831-67 刑死 37歳(一説;33歳) 尾張の人、  
1858京の蔵人所衆村井政敬の養嗣、正六位修理少進/蔵人所衆、和漢学・兵学に通ず、  
勤王派;1862変名し薩長連合等で国事奔走、1863投獄/67?斬罪、  
「村井政礼手録」、1858-63「村井政礼日記」62「村井政礼筆記」63「精神一注」著  
[政礼(;名)の通称/号/変名]通称;修理少進、号;紫門/紫山/弊冠子/群玉堂、  
変名;松延次郎
- N4054 **祇徳**(まさり・池永いけなが、) 1831-1895 65 紀伊田辺藩士、国学・歌人;熊代繁里門、  
[祇徳(;名)の字/通称]字;伯庸、通称;弥三郎/藤蔵



- P4027 **正教**(まさのり/まさとし・北沢きたざわ、) 1831-1892<sup>62</sup> 信濃小県郡長村の山家神社神職、国学者、  
「源氏百人一首」著/1968「越の日記」(北越戦争従軍日記)著(猪坂直一校訂)、  
[正教(；名)の通称]金作/文七/金平
- N4024 **政恵**(まさのり・新井あらい/井村いむら保之進茅寛2男) 1832-84<sup>53</sup> 信濃飯田池田町の生、歌人、  
同町本町の新井藤左衛門の養子、歌・笛；岩崎長世門(実兄井村守恭と同門)、  
北原稻雄・桜井光章・桜井盈叙・大原正敷・野原正基・福住貞庸・林言方・林言文と交流、  
[政恵(；名)の通称]通称；藤三/藤右衛門、法号；至道院
- N4010 **政紀**(まさのり・浅井あさい、政達まさみち男) 1833-1901<sup>69</sup> 伊予松山藩士、歌人  
[政紀(；名)の通称]市太郎/盛太郎
- T4032 **正則**(まさのり・矢吹やぶき、旧姓；日笠) 1833-1906<sup>74</sup> 美作勝南郡行信村の国学者；平賀元義門、  
美作津山藩士、剣術；松尾慎六・斎藤彌九郎門/経史；信澤遊龜・馬場簡斎門、  
1862(文久2)上京；藩主への勅書を受領/外事係に昇進、故実通ず・郷土史家、  
維新後；郷土地誌編纂に従事、中山神社禰宜、西北條・東南條各郡書記、矢吹正巳の父、  
「美作略史」(全4巻)/「津山史」「貞享合鏡」「發蒙私言」「院庄作樂香」著、  
[正則(；名)の通称/号]通称；弓治、号；弓斎
- G4033 **正典**(まさのり・新見しんみ/本姓；源、新見正路男) 1834-90<sup>57</sup> 幕臣；1857新見正興の養子；中奥番、  
学問所教授方手伝出役/小納戸/小姓/1864学問所頭取/65目付、漢学；村尾元融門、  
「指谷小草」「新見記録」「杉田小誌」「蕪稿」著、  
[正典(；名)の通称/号]通称；郁三郎、号；旗山きざん
- T4066 **政徳**(まさのり・横田よこた、) 1834-1892<sup>59</sup> 母；ふき女、武蔵川越の豪商；米穀商/川越藩御用達、  
地主として富を蓄積；米穀・酒・醤油製造業経営、武蔵最大の豪商；藩財政を支援、  
1875同志と川越町内に志義学校創立、1878第八十五国立銀行創設に参画；頭取に就任、  
入間県会議員/埼玉県会議員、秋足あきたりの兄、歌人；尾高高雅門(母・弟も同門)、  
[政徳(；名)の通称/号]通称；恵造/治郎吉/五郎兵衛、号；共轂きょうこく
- G4034 **正憲**(まさのり・櫻井さくらい) ? - ? 漢学者/詩人；  
1862「文久二十六家絶句」編纂(；家里松濤序/京の書肆擁万堂の依頼)
- 04020 **昌訓**(まさのり・小幡おばた、) 1843- ? 下野芳賀郡小井戸村の荒樞神社祠官、  
国学者；岩松某門、伊勢信仰の布教母体の神風講社に参加/権少教正
- Q4028 **正則**(まさのり・進藤しんどう、通称；越前守) 1844-? 豊後国東郡香々地かから別宮八幡神社宮司、  
神道・国学；近藤弘記ひろふみ・松本庸夫つねお・物集もづめ高世・糸永茂昌門、維新後；権少講義
- T4007 **正徳**(まさのり・村岡むらおか、藤兵衛竹所男) 1846-67<sup>拷問死22</sup> 母；小橋箏子こと(和漢学者/歌人)、  
讃岐丸亀の商家村上家の生；家業は醤油醸造業、1851(嘉永4)父没；村岡家5代目を継嗣、  
母が家業経営/母の勤王思想を受け伯父小橋安蔵らと尊攘運動、天誅組挙兵参加計画、  
敗報に接し中止；1866(慶応2)丸亀藩に捕縛；拷問を受け67(慶応3)没、  
[正徳(；名)の通称]甚吉/宗四郎  
母； → 箏子(ことこ・村岡むらおか/小橋、和漢学/歌/書) R 1 9 4 0  
村岡家について → 景福(かげとみ・村岡むらおか、2代目/商家/歌) V 1 5 9 1
- S4089 **政載**(まさのり・水沼みぬま、) 1849-1912<sup>64</sup> 伊予喜多郡の国学者、  
陸奥塩竈の志波彦・塩竈神社宮司
- 雅教(まさのり；初名・飛鳥井) → 雅春(まさはる・飛鳥井、廷臣/歌) 4 0 1 3  
正則(まさのり；俳人) → 正則(せいそく；17ct京俳人) C 2 4 5 3  
正則(まさのり；横井) → 豊山(ほうざん・横井、儒者/樺太探検) B 3 9 1 5  
正徳(まさのり；巨勢) → 卓軒(たくけん・巨勢こせ、儒者) E 2 6 2 0  
正徳(まさのり；大橋/野村) → 秋足(あきたり・野村のむら、藩士/国学) D 1 0 5 0  
正徳(政教まさのり；伊達) → 村侯(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7  
正徳(まさのり；清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7  
正徳(まさのり；木原) → 可昇(かしょう・木原、俳人) S 1 5 2 3  
正徳(まさのり；菅) → 良史(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学) N 4 7 4 2  
正徳(まさのり；福田) → 誠斎(せいさい・福田、儒者/藩校教授) I 2 4 3 3

正矩(まさり・橋村) → 正長(まさなが・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 7 0  
 正矩(まさり・橋村) → 正甫(まさなみ・橋村/度会/村山、神職) R 4 0 7 1  
 正矩(まさり・喜多山) → 毛続(もうがん・大雅堂たいがどう、藩士/俳人) 4 4 4 9  
 正升(まさり・松平) → 天府(てんぷ・葆光斎、藩主/俳人) E 3 0 1 7  
 正功(まさり・高橋) → 垣堂(たんどう・高橋たかはし、藩士/勤王) I 2 6 5 5  
 正礼(まさり/まさひろ・服部) → 日記(につき・服部はっとり、日記随筆) D 3 3 7 9  
 正式(まさり・井上) → 平五郎(へいごろう・井上/橋屋、茶人) 2 7 3 0  
 正典(まさり・河原) → 雄蔵(ゆうぞう・太田/河原、商人/棋士) D 4 6 3 3  
 正卿(まさり・奥貫) → 友山(ゆうざん・奥貫おくぬき/荻生、名主/救荒) B 4 6 9 1  
 正卿(まさり→まさつぐ・近藤) → 正卿(まさつぐ・近藤こんどう/加藤、神職/歌) P 4 0 7 5  
 政典(まさり・山田) → 政平(まさひら・山田やまだ、藩士/神職) M 4 0 9 2  
 政範(まさり・栗田) → 樗堂(ちようどう・栗田、俳人) K 2 8 4 3  
 政式(まさり・川喜田) → 夏蔭(なつかげ・川喜田/川北/河北、国学) G 3 2 6 5  
 政紀(まさり・小山) → 駿亭(しゅんてい・小山こやま、藩士/書家) L 2 1 5 1  
 政矩(まさり・林) → 為成(ためなり・林はやし、幕臣/歌人) U 2 6 0 7  
 政徳(まさり・田鎖/根城) → 恭斎(きようさい・根市ねいち、藩士/儒者) N 1 6 7 9  
 政徳(まさり・堀) → 達之助(たつのすけ・堀ほり、通事/英語) G 2 6 2 5  
 政徳(まさり・竹内) → 以德(もちり・竹内たけうち、藩士/国学) K 4 4 4 4  
 政識(まさり・千村) → 景村(かげむら・千村ちむら、歌人) L 1 5 3 7  
 政度(まさり・高田) → 清兵衛(せいべえ・高田たかだ/堺屋、書肆) J 2 4 5 7  
 政矩(まさり・井上) → 残夢(ざんむ・井上いのうえ、藩士/詩人) M 2 0 7 9  
 政矩(まさり・柳田) → 凌雲(りょううん・柳田やなぎだ、医者/藩士) G 4 9 3 8  
 政教(まさり・志賀/宮川) → 政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家) B 4 0 7 8  
 政教(まさり・青島) → 俊蔵(しゅんぞう・青島あおしま、蝦夷地調査) L 2 1 3 4  
 匡儀(まさり・永井) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8

Q4078 **正柱**(まさし・竹川たけがわ、) 1819-1880<sup>62</sup> 伊勢飯野郡の商家:両替商/国学者、

[正柱(;)名)の通称] 八百吉/彦太郎

正八郎(まさちろう・原) → 昌清(まさきよ・原はら、国学者) R 4 0 9 6

N4067 **正逸**(まさはや・磯部いそべ、正紳の長男) 1756-1828<sup>73</sup> 甲斐山梨郡国玉村の神職、

代々玉諸神社(国玉明神)祠官、国学・歌人、

[正逸(;)名)の通称/号] 通称;乙磨/隼人、号;玉乃舎

T4020 **匡逸**(まさはや・桃沢ももさわ、夢宅[1738-1810]長男) 1759-1840<sup>82</sup> 母;眞しん(日野家/1740-1820/歌)、

信濃伊那郡飯島本郷村の名主;父継嗣、国学・歌;父門、養子;大沢匡好まさよし、

「病家須知能毒之類」(1838筆写)、

[匡逸(;)名)の通称] 与一右衛門

G4035 **政春**(まさはる・湯川/湯河ゆかわ、政吉男/本姓;源) ?-? 室町中期紀州日高郡小松原の武将、

1470幕府から所領の課役を免除/1487將軍足利義尚近江出陣に上京し前將軍義政の護衛、

連歌:北野松梅院での連歌会参加/1492宗祇から政春戦勝祈念「独吟百韻連歌」を贈らる、

1894足利義澄から南方副將軍に任じらる(紀伊続風土記入)、新撰菟玖波5句入、

[政春(;)名)の通称/法名] 通称;湯川新庄司、法名;岱宗建康

G4036 **政春**(まさはる・細川ほそかわ、教春男/本姓;源) 1456-1518<sup>63</sup> 母;右大臣三条公冬女、武将、

従五下/民部少輔/安房守、高国・晴国の父、

1515息子の管領高国の將軍義植への要請で備中守護、備中浅口郡鴨方で統治、

連歌:1488宗祇らと「何路百韻」、

通称;九郎、法名;道亘どうこう/どうせん、法号;東漸寺

4013 **雅春**(まさはる・飛鳥井あすかい、初名;雅教、雅綱男/本姓;藤原) 1520-94<sup>75</sup> 母;丹波親康女、廷臣;

1548従三位/74正二位/75権大納言/家督継承;歌道・蹴鞠の師範家、秀吉の歌会参加、

武家伝奏、1568「飛鳥井歌道秘伝書」著/80正親町御会「天正内裏歌合」参加/判者?、

1582雅春に改名、1589「蹴鞠八境図」著(伝)、「真蹟和歌集」「和歌会席次第」「一日百首」著、

「住吉道記」外著多数、自家の領地保全を兼ね諸国旅行;地方武士と交流、法号;昭善院

- L4006 **昌治**(まさはる・長浜ながはま) ?-? 江前期摂津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[花よりも団子を歌の題ならばくはずと腹にあぢはひちべし](古今夷曲;雑488)、  
(団子を歌題にしたら食べなくても腹[心]で味わえる)
- G4037 **正玄**(まさはる・関せき、正成男/本姓;藤原)?-? 母;岡部喜兵衛正次女、江前期幕臣;1649大番、  
1669御納戸組頭/81御納戸頭/88小普請に降格、1701致仕、「武家補任」著、  
[正玄(;名)の通称]九十郎/八郎右衛門
- T4094 **雅治**(まさはる・幸田こうだ/本姓;源、)?-? 江前期;武士/歌人;浅井忠能[難波捨草]入、  
[待つほどの日かずばかりはうつれども咲くとしわかぬ山ざくらかな]
- G4038 **政春**(まさはる・関屋せきや、通称;新兵衛、佐左衛門男)1615-8571 美濃野村領主織田長孝の家臣、  
織田家断絶後;1631加賀藩士/2百石馬廻番/77百五十石加増/使番/先筒頭、槍術家、  
兵法;山鹿素行門、「政春古兵談」/1669-71「乙夜之書物」73「古兵談拔萃」著、  
八丞・政知まさとも・雲八郎・政晟の父
- G4039 **昌春**(まさはる・西山にしやま、昌時男)1633-170270 幕臣;1659書院番/78家督嗣/熱田社修造奉行、  
1687代官;88職務不行届につき逼塞ひっそく/赦免後1692辞職/99納戸方/1701寄合、  
「憐民撫育法」著、  
[昌春(;名)の通称/法号]通称;六郎兵衛、法号;全提、昌諄の父
- R4077 **正張**(まさはる・幡垣はたがき/本姓;平、)1656-173277 出雲松江外の中原八幡照床神社の祠官、  
神道・歌;朝山(勝部)芳房(1672-1727)門、  
[正張(;名)の通称]数馬/周防/式部少輔しきぶのしょう
- T4089 **政春**(まさはる・山室やまむろ、通称;五郎兵衛)?-? 江前中期;歌人、山室法橋了慶の一族、  
[秋近き庭のなつ草露わけん茂みに咲ける花も有りやと](茂睡[鳥の迹]夏253)
- Q4069 **祇治**(まさはる・高野たかの、通称;丹四郎)1680-176283 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- G4040 **正晴**(まさはる・寺田でらだ) ?-? 江中期大阪の書肆、薩摩堀東町・日向町に住、  
心斎橋筋伝馬町いづみ屋与兵衛借家に住、1716「住吉名所鑑」20「諸職往来」26「花鳥文章」、  
1729「女用花鳥文章」31「花鳥百人一首手染錦」35「住吉名所志」36「筆海重宝記」、  
1737「扶桑雷除考」40「文宝節用字林集」41「童訓小謡磯玉藻」、64「女要新珠文庫」外著版多、  
[正晴(;名)の通称/号]通称;大津屋与右衛門/与左衛門、号;文熙堂  
田寺如柳(「住吉名所記」著)と同一?
- G4041 **正治**(まさはる・杉田すぎた、号;青琴)?-? 越前福井の俳人;1676季吟「続連珠」77ト琴「玉江草」入  
妻/息女も俳人 → 正治妻(まさはるのつま・杉田) G4048  
→ 正治女(まさはるのむすめ・杉田) G4049
- Q4058 **正晴**(まさはる・田中たなか、)1731-181282 三河吉田の国学者/歌人、  
[正晴(;名)の通称/号]通称;伝兵衛、号;落梅舎麦甫
- G4042 **正春**(まさはる・源みなもと、号;自多楽軒)?-? 信州松代出身の歌人、江戸住、  
大村光枝みつえ[1753-1816]の「藤原とうげん歌集」を同郷の人から借覧転写し1823序文を付す
- 04018 **政春**(まさはる・小野おの、右衛門大尉政方男)1772-184473 京の廷臣/地下官人;滝口を継嗣、  
左衛門少尉正六下;終生職務に専念;恩賞を受、程朱の学を修学研究/詩文・歌を能くす、  
[政春(;名)の字/通称]字;伯陽、通称;左衛門少尉
- T4000 **正治**(まさはる・宮澤みやざわ/本姓;橋、)1802-6968 上野利根郡沼田の須賀神社祠官、  
国学;平田篤胤門、  
[正治(;名)の通称/号]通称;秀之進/隼人/内記、号;得所
- N4033 **正春**(まさはる・井上いのうえ、井上正甫長男)1806-4742 遠江浜松藩主の父は醜聞で1817陸奥棚倉移封、  
1820(文政3)家督嗣;陸奥棚倉藩襲封、奏者番/寺社奉行/大坂城代を勤務、  
1836(天保7)老中石見浜田藩主松平康任が仙石騒動等で蟄居;棚倉藩に蟄居転封、  
よって正春が上野館林藩主に移封、1840西丸老中;43辞任、  
1845天保改革政争で水野忠邦謹慎、よって正春が遠江浜松藩主に移封;  
従四下/侍従/河内守、父の醜聞以来28年目に井上家の浜松復帰、  
水野家への批判で一揆発生;調停し鎮定/館林の機織技術を導入し浜松織物を増産/  
藩校克明館を設置;教育振興、正室;阿部正精女/継室;松平忠学女(松平忠徳女)、  
継々室;秋田孝季女、正直・最上義連・正信・水野忠精室・松(松平忠恕室)・脇坂安斐室の父、



歌人;一柳ひとつやなぎ千古ちふる門、  
[正春(;名)の幼名/通称]幼名;武丸/亀丸、通称;河内守

- L4085 **雅春**(まさはる・花岡はなおか) ?- ? 紀伊那賀郡名手の国学者;本居大平門、  
大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[雨な降り風な吹きそね山桜散らぬかざりは日並ひならべて見む](八十浦;730)
- G4043 **正春**(まさはる・毛利もうり、通称;丹波守) 1810-78 69 豊前田川郡の位登八幡宮宮司/従五下、  
和漢学;1827-1834筑前秋月で修学/宮永保親門、  
豊前小倉藩郡代河野通棟の賛同で藩内全域調査、領民の事跡を記録;「孝義旌表録」著、  
妻は歌人 → 正春室(まさはるのしつ・毛利もうり、歌人)
- G4044 **眞春**(まさはる・朝比奈あさいな) ?- ? 江後期歌人;小林歌城うたき[1778-1862]門、  
1849「歌城歌集」校合
- S4021 **正陽**(まさはる・広田ひろた/本姓;度会、中須興治2男) 1818-81 64 伊勢外宮権禰宜広田正方の養嗣子、  
外宮権禰宜;1871(明治4)廃官、絵師;上部茁斎門;四條派修学/のち横山清暉せいき門、  
[正陽(;名)の初名/通称/号]初名;範恒、通称;丑三郎/筑後/常陸、号;篁斎
- N4075 **正治**(まさはる・稲見いなみ、) 1825-1896 72 伊予伊予郡宮内村の製蠟・製菓業(屋号;水口屋)、  
歌人
- G4045 **正治**(まさはる・伊地知いちぢ、秀平男) 1826-86 61 薩摩藩士、兵学;法亢宇佐衛門門;合伝流奥義修得、  
藩校造士館教官/1860軍賦役/62島津久光上京時の軍師;功績あり軍奉行/68東山道参謀、  
戦功あり左院議長・修史館総裁など政府要職、「伊地知正治書翰集」、西郷従道の兵学の師  
[正治(;名)の初名/通称/号]初名;季靖すえやす、通称;竜駒/竜右衛門、号;一柳
- S4055 **昌陽**(まさはる・正木まさき、) 1827-1905 79 筑前直方藩士/のち筑前福岡藩士、  
国学者;小中村省吾門、皇典/故実を修学、1852藩校修猷館の加勢見習/助役/本官、  
[不狭学舎(昌陽塾)]により学問研究・子弟教育;尊王愛郷・神社崇拝を主唱、権中講義、  
金子堅太郎の師、高場乱おさむ(眼科女医)の人参畑塾と共に福岡双壁と称される、  
[昌陽(;名)の通称/号]通称;善太夫、号;木鶏
- P4002 **政治**(まさはる・川喜田かわきた、遠里とおさと5男) 1828-52 早世 25 伊勢津の商家;久太夫家の生、  
母;三千子(田鶴子)、国学;富樫広蔭門(母と同門)  
[政治(;名)の通称] 祥之助
- G4046 **正治**(まさはる・刀禰とね/本姓;荒木田、通称;弾正) ?-? 江後期伊勢の神職;伊佐奈岐宮内人、正六上、  
「正治雑写録」著
- M4065 **政治**(まさはる・坂井さかい/本姓;藤原、通称;錦之助) ?-? 江後期;歌人、藩士?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[逢ふ事はいとどなぎさの蜚小船こがれてのみも過ぐるころかな](大江戸倭歌;恋1634)
- T4057 **正晴**(まさはる・山本やまと、通称;新次郎/屋号;京口屋) 1838-1902 65 尾張名古屋の酒商;京口屋、  
国学・歌;植松茂岳しげおか門/漢学・歌;渡忠秋門
- G4047 **昌春**(まさはる・岡田おかだ、号;滄海) ?-? 幕末期本草学者/幕府医学校躋寿館司書、  
「むべの考」著
- 正春(まさはる・都築/畠中) → 胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観斎、狂詩) 3 1 2 2
- 正春(まさはる・井上) → 士朗(支朗しろう・井上、医者/俳人) 2 2 1 6
- 正春(まさはる) → 正春(しょうしゅん、京の俳人) T 2 2 0 3
- 正春(まさはる・井田) → 正春(しょうしゅん・井田、俳人) T 2 2 1 9
- 正春(まさはる・杉浦) → 正職(まさもと・杉浦すざうら、幕臣/琴曲) H 4 0 9 0
- 正治(まさはる・土居) → 実忠(さねただ・土居とい、藩士、国学) O 2 0 8 5
- 正治(まさはる・益) → 喬(たかし・益ます/井上、医者/神職) Z 2 6 5 0
- 政春(まさはる・宇夫方) → 広隆(ひろたか・宇夫方うぶかた、藩士/伝記) G 3 7 1 8
- 政春(まさはる・原田) → 君熙(くんき・原田はらだ、和算家) D 1 7 6 1
- 政治(まさはる・久米) → 吉有(よしあり・久米くめ/水野、神職) M 4 7 5 1
- 政治(まさはる・土岐) → 信風(のぶかぜ・土岐とき/齋藤、国学者) J 3 5 2 5
- 真春(まさはる・安元) → 真満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9
- M4001 **正春室**(まさはるのしつ・毛利もうり) ?- ? 豊前位登八幡宮宮司毛利正春(1810-78)の妻、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[玉葛たまかづり長きためしともろ人のけふに葵あひをかざしそめけん]、  
(大江戸倭歌;夏416)

G4048 **正治妻**(まさはるのつま・杉田すぎた)?-? 越前福井の俳人;

1684西鶴「俳諧女哥仙にかせん」入;正治女の誤記か?  
[横雲や浪にはなれぬ藤の棚](女哥仙;23、

新古今;37家隆/霞立つ末の松山ほのぼのと浪に離るゝ横雲の空)

G4049 **正治女**(まさはるのむすめ・杉田すぎた)?-? 越前福井の俳人/有賀四朋の妻、  
俳人;1677卜琴「玉江草」・1680卜琴「越路草」入

G4050 **正彦**(まさひこ・山下やました、初名;正氏・正/通称;愛蔵)1766-184075 安藝広島藩士、  
書家;吉川禎蔵門;高弟、剣術・弓術・歌を嗜む、「庭のをしへ」著

L4077 **政彦**(正彦まさひこ・山下やました、別号;政定)1768-182659 遠江豊田郡敷地村の庄屋、  
国学;内山真竜・本居宣長門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、  
[芽子はぎの花見に来こしものを心なく夕霧たちぬ引馬野ひくまの原]、  
(八十浦;433/霧、三河引馬野は万葉集57長奥麻呂の歌)、  
[政彦(;名)の通称] 武助/彦左衛門

正彦(まさひこ・飯田) → 正紀(まさのり・飯田いいだ、神職/国学/歌) N 4 0 4 9

正彦(まさひこ・宮沢) → 清房(きよふさ・宮沢みやざわ、神職/国学) T 1 6 4 6

正彦(まさひこ・芝) → 秀恭(ひでやす・芝しば/加藤、藩士/神職) J 3 7 7 7

正彦(まさひこ・民上) → 永隣(ながちか・民上たみのえ、医者/神職) N 3 2 8 3

雅彦(まさひこ・小田島) → 松翁(しょうおう・小田島おたじま、書肆/地誌) H 2 2 3 8

眞彦(まさひこ・河喜多) → 眞彦(まひこ・河喜多、国学者/歌人) G 4 0 5 1

眞彦(まさひこ・南部) → 広矛(ひろはこ・南部なんぶ、藩士/歌人) K 3 7 5 2

眞彦(まさひこ・樋口) → 光訓(みつり・樋口ひぐち、藩士/国学者) K 4 1 2 0

G4052 **雅久**(まさひさ・賀茂かも、師久男)1298-? 1367存 上賀茂社神主/歌;頓阿と交流、  
1367新玉津社歌合参加、  
勅撰6首;風雅1582/新拾遺1116/新後拾622/新続古1368/1938、号;松下神主  
[をちこちのきぬたの音にいく里もおなじ夜寒のあはれをぞ知る](風雅集;雑1582)

G4053 **雅久**(まさひさ・小槻おづき、晴富男)?-? 1497存 延徳1489-92頃廷臣;主殿頭/1472左大史/氏長者、  
11491従三位、「雅久卿記」「父母正忌日其人随神事例」

G4054 **匡久**(まさひさ・隈江くまへ/本姓;大蔵)?-? 1526存 日向飢肥の武家;新納忠勝の臣?、筑前or伊勢守、  
1498頃数年間在京/連歌:宗祇門/歌と蹴鞠;飛鳥井雅康門、1500:7月7日宗祇と何人百韻、  
宗祇没後は宗長の会に参加、1517宗碩を日向に迎える/1526北野社に文台を寄贈

G4055 **正尚**(まさひさ・中川なかがわ)?-? 江前期美濃の風山流兵学者;伊賀武寛門、  
1690刊「古戦評判」著

K4097 **正久**(まさひさ・丹羽にわ)?-? 江前期備後三原の俳人;貞門系/1655令徳「崑山土塵集」入、  
1660季吟「新続犬筑波集」入、63梅盛「木玉集」68梅盛「細石」入、79宗臣「詞林金玉集」入

U4010 **政久**(まさひさ・澤さわ)?-? 江前期;上方の武士/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[美濃の国をへてあづまに下る時よめる、

たびの空あすは雨ともみゆるかな雲立ちくれしみのの中山](林葉累塵;雑1069)

G4056 **正尚**(まさひさ・笠折)?-? 伊勢の御師おし/神風館系俳人;1679「杉の村立」入

G4057 **順久**(まさひさ・松下まつした、別号須久、矩久のりひさ男/本姓;賀茂)1651-172070 上賀茂神社神主、  
民部大輔、従三位、「松下順久日記」著

S4091 **雅久**(まさひさ・美濃部みのべ、通称;徳左衛門)1719-7961 陸奥盛岡の国学者/歌人;三輪派歌道

G4058 **昌向**(まさひさ・築瀬やなせ)?-?寛政1789-1801頃没 下野黒羽藩士;藩主大関増備の傳役、  
1764家老、郷倉を設置;凶作に備える政策;のち鈴木正長に継承される、  
「大姓彙」「論語徴疑問」著、  
[昌向(;名)の通称/号]通称;太郎兵衛、号;玄水

P4032 **雅尚**(まさひさ・北村きたむら、通称;平三郎)?-?1815-18頃没 讃岐高松の国学者、

安雅やすまさ(1815-63)の父

- G4059 **政壽**(まさひさ・久木ひさき) 1752- 1818 67 近江彦根藩士/国学・歌:本居宣長・大平門、  
村田泰足門、狩野派の画を嗜む、「桂花集」「月非佐文章」「国風浜真砂」「三鳥賊侍略」著、  
[政壽(;)名)の通称/号]通称;儀右衛門、号;葛屋/小角豆廬、法号;寛兵教祐信士
- G4079 **方久**(まさひさ・橋野はしの、檜崎信美男) 1779-1840 62 備後府中の生、  
備中笠岡の商家橋野輝珍てるよし(要蔵/李山)の養嗣子、家督継嗣/宿老を勤める、  
儒;木村韋川(韋山)門/漢学;菅茶山門/国学・歌;小寺清先門、歌人、  
頼杏坪・山陽・西山復軒・亀井昭陽・小寺廉之らと親交、1825「緑陰亭尚齒会」編、  
[方久(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;芳右衛門、字;君恒、通称;文左衛門、号;晨川
- T4039 **昌壽**(まさひさ・山県やまがた、通称;臨平) ?-? 江中後期;遠江磐田郡の中泉代官所役人、  
国学;内山真竜(1740-1821)・本居大平(1756-1833)門
- G4060 **正久**(まさひさ・久保寺くぼでら、交美男) 1795-1863 69 幕臣;兄正福の継嗣、和算家:古川氏清門、  
1817「極数小補」編/19「算法極数録」30「一席一題」、「算法三徳」「増続淇澳集拔萃」編、外多、  
[正久(;)名)の字/通称]字;珺琚、通称;富之進/正之進
- G4061 **雅久**(まさひさ・飛鳥井あすかい、雅光男/本姓:藤原) 1800-57 58 廷臣;1824従三位/52権大納言、  
1857従一位、歌人:「飛鳥井雅久歌道消息」「籠虫を聞く歌」「聖廟水無瀬御法楽歌題之事」著、  
1819「公宴和歌御会始備忘」/57「伊勢物語聞書」、「蹴鞠童形着用物色目例」外著多数、  
[神や知る春日の野辺の若葉にも君が千歳をかねて摘むとは]、  
(松平春嶽[古今百人一首入;49])
- G4062 **正古**(まさひさ・菊池きくち、正麿(立腹りつぺい)男) 1809-67 59 陸奥(陸中)和賀郡十二ヶ村(鐺戸)の生、  
漢学・国学・医学:父門、1827(19歳)従兄の家で寺子屋師匠/1830(22歳)江戸の平田塾入、  
平田篤胤塾で国学研究に専念/塾長、盛岡藩校作人館の教官/辞職、  
1832(24歳)帰郷;藤本富とみと結婚、医業;父を継嗣、近在に寺子屋経営;子弟約百人を教育、  
読書き・謡曲・裁縫・機織を指導、歌人、  
門人;安俣おひょう村の及川良寿・佐々木儀三ぎさう・谷内の小原実風・晴山の横川政業・  
成島の前田信之・土沢の佐々木忠義など、歌人、  
「松屋家集」「科戸風辨」「大祓集解」「漢字音起源」、1858「松廼屋五十宴賀歌集」外著多数、  
[正古(;)名)の別号/通称]別名;正与、通称良助/宜見/良斎
- P4087 **正壽**(まさひさ・佐藤さとう/本姓:藤原、通称;大和) ?-1856 陸奥行方郡海老沢村の稻荷明神社神主、  
国学者;平田篤胤門
- G4063 **政壽**(まさひさ・佐分さぶり/本姓:佐分利、号;竹屋) ?-? 姓は前田家代々の諱の利を避け佐分とする、  
江後期;大聖寺藩士/歌、「竹屋遺草」(没後1857息子政養の編)
- M4009 **真久**(まさひさ・彦坂ひこさか/本姓:源;清和源氏満政流) ?-? 江後期;歌人、幕臣?  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/1860鋤柄すきから助之すけゆき「現存百人一首」入、  
[秋萩の花ずり衣着てみれば露もににけるかな](大江戸倭歌;秋730/萩露)  
[青柳の糸より細き三日月の影おぼろにもかすむ春かな](現存百人一首;68)
- P4011 **正壽**(まさひさ・神戸かんべ、) 1833-1908 76 三河吉田の神職;吉田神社社司、国学者
- G4064 **正久**(まさひさ・竹尾たけお) 1834- 1904 71 三河八名郡賀茂神社の祠官/国学:大国隆正門、  
歌人、妻;小笹小ささ(歌人/1843-1908)、  
1866「類題三河歌集」共編(三河歌人の釈公阿・寺部宣光・村上忠順・中山繁樹と編)、  
[正久(;)名)の通称/号]通称;中務なかつかき、号;随園、浦野孝正の師
- 方旧(まさひさ・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、藩士/詩/俳人) B 5 2 1 8
- 政壽(まさひさ・竹川) → 政壽(まさひさ・竹川、国学) H 4 0 3 1
- 正久(まさひさ・竹中/増穂) → 残口(ざんこう・増穂/十寸穂ますほ、神道家/唱導) F 2 0 7 9
- 正久(まさひさ・羽太) → 正忠(まさただ・羽太はぶと、幕臣/和学) R 4 0 5 7
- 政久(まさひさ・島津) → 忠将(ただまさ・島津しまづ、武将/日記) Q 2 6 7 9
- 政久(まさひさ・池田) → 斉政(なりまさ・池田いけだ、藩主/日記) I 3 2 1 6
- 政尚(まさひさ・小原) → 実雄(じつゆう・小原おはら/原、僧/国学) N 2 1 6 8
- 昌寿(まさひさ・加古) → 角洲(かくしゅう・加古かこ、医者) J 1 5 9 7
- N4087 **正秀**(まさひで・岩脇いわわき、) 1610-1682 73 近江彦根藩士;長野家の家臣、国学者/歌人、



- 国学;松永貞徳/皇朝学修学、歌;烏丸光広/北村季吟門、竹中流の軍伝を習得、  
[正秀(;名)の幼名/通称/号]幼名;宗千代丸、通称;九兵衛、号;一二斎
- R4043 昌秀(まさひで・西山にしま、通称;喜六郎)?-1689 江前期;江戸の幕臣;小普請奉行、和学者  
昌秀(しょうしゅう・西山) → 昌秀(まさひで・西山にしま、幕臣/和学) R 4 0 4 3
- S4011 正秀(まさひで・兵頭ひょうどう、通称;主水)1657-1721<sup>65</sup> 伊予大洲の八幡神社祠官、歌人、  
守敬もりたかの父/守枝もりえだの祖父
- 4017 正秀(まさひで・せいしゅう・水田みづた/永田?)1657-1723<sup>67</sup> 近江膳所の商人/町年寄、藩士説もある、  
歌;竹内惟庸門、俳人;尚白門・1690芭蕉門、湖南蕉門として活躍/義中寺に無名庵建立、  
1696頃山城伏見住、のち帰国し松本住;医業、1679「靈鏡抄」編/1702「白馬」洒堂と共編、  
1707「百雀」編、1687尚白「孤松」/90之道「あめ子」7句/90「ひさご」23句/91「猿蓑」7句入、  
1693洒堂「俳諧深川」2句/94「炭俵」2句/98「続猿蓑」9句、  
1702轍士「花見車」1句入、追善集「水の友」(;松琵琶編)、  
[鎗持やりもちのなほ振りたつる時雨哉](猿蓑;一冬5/大名行列の街道風景)、  
[正秀(名;まさひで)の通称/号]通称;伊勢屋孫右衛門/利右衛門、屋号;伊勢屋、  
号;正秀(伊勢屋→勢州→正秀せいしゅう)/竹青堂/節青堂/竹節堂/散正士/清庵
- G4065 当栄(まさひで・成瀬なるせ、当胤男)1667-1733<sup>67</sup> 金沢藩士;1686家督/1716定番頭/24人持組、  
寺社奉行/公事場奉行、1702「御成献上物之帳」16「成瀬内匠書状」著、  
[正秀(名;まさひで)の通称] 左門/又六/弾正/内匠たくみ、当秀の父
- G4066 正英(まさひで・玉木たまき/橘/初姓;大村)1670-1736<sup>67</sup> 京の梅宮大社神職、1691出雲路信直門、  
垂加神道;1713正親町公通門;26秘伝「持授抄」を受、神道;橘以貞門/橘家きつ神道を大成、  
自ら橘諸兄の29世裔と称し橘氏を名乗る、門人;吉見士清・岡田正利・谷川士清・谷垣守ら、  
「橘家神道行事」「潮翁語類」「潮翁講義」「神道口伝頭記」「神道大意」「原根録」外著多数、  
[正英(;名)の通称/号]通称;幸助/幸祐/幸佑こうすけ/宇右衛門/兵庫、  
号;葦斎/潮翁/五十鰭翁いそきう/五十鰭霊神/谷鶯山人/谷鶯老人/五鰭翁ごきおう
- 04060 正辰(まさひで・興津おきつ、通称;藤左衛門)1683-1738<sup>56</sup> 信濃松代藩士、国学;吉川惟足・荷田春満門  
測量術「規矩元法秘訣」の編纂に参加?、湖山こざん(1718-1802)の養父
- P4010 昌秀(まさひで・神沢かんだ、通称;文庵)1685-1758<sup>74</sup> 播磨三木郡高木村の医者、国学者
- G4067 正秀(まさひで・波多野はたの、号;橘山)1694-1774<sup>81</sup> 安藝高田郡吉田の神職/代々郷社の祠官、  
書家;草書が得意、「清すが神社造立覚書」編
- G4068 正英(まさひで・東あずま) ? - ? 信濃の槍術家;梅田治英門/本心鏡智流修学、  
穴沢流・一元流・輪鍵を加え一中派本心鏡智流(神道流一中派)を興す、「一元鍵観鑑」著、  
[正英(;名)の通称/号]通称;甲田新左衛門正英、号;梅竜軒/一中
- G4069 正英(まさひで・高山たかやま、宜繁男)1717-89<sup>73</sup> 武蔵川越藩の兵法家;初め甲州流を修得、  
のち高松正栄門;要門派高松系(正徳流)を修学/1748高松正忠より皆伝;1751師位継承、  
1755江戸日本橋に家塾神略亭を開;門人の常陸谷田部藩主細川興晴の藩臣となる、  
家老に至る、致仕は兵学教授に専念、「集三教」「要門三才教」「融方老弼語類」著、  
1762「日本伝守行矩」63「日本伝治乱要決」著、  
[正英(;名)の号] 健貞剛弼
- G4070 正英(まさひで・畑井/嘆井はたい/畑屋、畑井正興男/本姓;度会)1729-90<sup>62</sup> 伊勢度会郡山田の国学者、  
橋村正身・賀茂真淵門/歌;中西良佐門/書;源葛辰門、諸所を遊歴、「開国神都考」著、  
[正英(;名)の字/通称/号]字;沼樹、通称;理兵衛、号;旅麿たびまろ
- P4065 政秀(まさひで・児島こじま、旧姓;三宅)1734-1824<sup>長寿91</sup> 播磨姫路の商家;紅粉屋、大年寄、  
国学;芝山持豊門、  
[政秀(;名)の通称/号]通称;又左衛門、号;宗寿
- G4071 正英(まさひで・三島みしま)1749-1832<sup>84</sup> 飛騨高山の大原騒動に連座;新島に流罪、実録小説作者、  
1793「天明水滸伝」(寛政元1789火付盗賊改長谷川平蔵に捕縛処刑の真刀徳次郎の実録);  
捕縛後に江戸に護送中から執筆し新島渡島後に当地長永寺の和尚に勧められ完成、  
以後真刀徳次郎は歌舞伎に脚色され伝説化する、  
[正英(;名)の通称/号]通称;勘左衛門、号;酔楽斎/移嶋散人/島界散人普山亭曙雀
- G4072 正秀(まさひで・川部かわべ/本名;鈴木三治郎)1750-1825?<sup>76?</sup> 山形赤湯新田の刀工;相州綱広門、

1774山県藩主秋元永朝に刀工として出仕;江戸浜町住、鎌倉・長船両伝を修得;  
刀鍛錬術を復興;新刀を製作/門弟の指導に尽力;刀工の中興、  
1812・20「刀劔実用論」16「刀劔辨疑」23「劔工秘伝志」、「鍛錬玉函」外著多、  
[正秀(;名)の初名/通称]初名;英国ひでくに、通称;川部儀八郎/水心子みしんし正秀

- G4073 正栄(まさひで・平) ? - ? 歌人;萩原宗固門、  
1784宗固家集「志野乃葉しののは草」著(;師の歌を記録)
- G4075 政秀(まさひで・竹川たけがわ) ? - ? 江中期伊勢飯野郡射和の歌人:烏丸光荣門、  
両替商竹川家の一族か?、「政秀詠草」、
- L4086 真栄(まさひで・村松むらまつ、通称;栄蔵)?-? 江後期;陸奥伊達郡桑折藩士、  
国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌/短歌入、  
[春雨はつぎてふるともしまらしくは散りな乱れそ山桜花](八十浦;731)
- S4000 眞英(まさひで・原田はらだ、通称;判左衛門)1788-1824<sup>37</sup> 周防岩国藩士、国学者
- G4076 昌秀(まさひで・飯田いだ、山本兵三郎茂義男/母;多美子)1793-1832<sup>40</sup> 三河宝飯郡西方村の国学者、  
中山美石・本居大平門、書;市河米庵門、遠州新居宿本陣の飯田家の養子、「花溪追善集」編、  
山本花溪の弟/羽田野敬雄たかお(神職・国学者)の実兄、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[年ごとにあふぎ見るかなさす竹の君がことばの花の色香を]、  
(八十浦;965/木下肥後守利徳[足守藩主]へ贈る)  
[昌秀(;名)の通称] 武兵衛/軍次/郡二
- G4077 方秀(まさひで・友部ともべ、方升まさり男)?-1866 讃岐高松藩士;勘定所作事奉行/国学・歌:父門、  
「かきは草」「墮涙帖」著、小林信周のぶかねの師、  
[方秀(;名)の幼名/通称/号]幼名;好太郎、通称;亦吉、号;実副舎みぞえのや、法号;文庵方秀居士
- G4078 政英(まさひで・清水しみず、通称;伊藤治)?-? 江後期和算家:谷松茂門、「神壁解」著、「約法」編
- N4003 正秀(まさひで・矢吹やぶき、通称;定太郎)?-? 江後期;美作勝田郡和気郷行延村の歌人、  
歌;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- N4072 理秀(まさひで・稲川いながわ/本姓;藤原、理徳男)1831-88<sup>58</sup> 越前南条郡宮谷村の神職、  
日吉山王宮の大宮司/従五下、国学;平田鉄胤門;「伊吹舎国分門人姓名録」に名あり、  
[理秀(;名)の通称]通称;伯耆守/播磨守
- |                   |   |                                |           |
|-------------------|---|--------------------------------|-----------|
| 正英(まさひで・堀)        | → | 立庵(りつあん・堀、儒者/藩儒)               | B 4 9 5 5 |
| 正英(まさひで・中根)       | → | 正英(まさてる・中根、幕臣)                 | E 4 0 2 6 |
| 正英(まさひで・片岡)       | → | 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者)              | D 1 2 9 7 |
| 正栄(まさひで・狩野)       | → | 正栄(しょうえい/まさひで・狩野かのう、絵師)        | H 2 2 1 5 |
| 正栄(まさひで・本木)       | → | 正栄(しょうえい・本木、通詞、語学)             | H 2 2 1 6 |
| 正栄(まさひで・戸田)       | → | 儀左衛門(ぎざえもん・戸田とだ、書家)            | J 1 6 6 7 |
| 正栄(まさひで・山高)       | → | 信順(のぶより・山高やまたか、藩士/軍法家)         | E 3 5 0 9 |
| 正秀(まさひで・川村)       | → | 誓真(せいしん・川村かわむら、武家/故実家)         | I 2 4 8 8 |
| 政秀(まさひで・帆足)       | → | 長秋(ながあき・帆足ほし、神道/歌学)            | D 3 2 1 0 |
| 政秀(まさひで・大橋)       | → | 宗桂(9代そうけい・大橋おおはし、将棋士)          | G 2 5 9 7 |
| 政栄(まさひで・内藤)       | → | 露沾(ろせん・内藤ないとう、風虎男/俳人)          | 5 2 0 6   |
| 昌秀(まさひで・小宮山)      | → | 楓軒(ふうけん・小宮山、藩士/儒/農政)           | 3 8 5 3   |
| 雅仁親王(まさひとしんのう)    | → | 後白河天皇(ごしろかわてんのう、今様/歌)          | 1 9 5 6   |
| 政仁親王(まさひとしんのう)    | → | 後水尾天皇(ごみずのおてんのう、古典/歌人)         | D 1 9 8 9 |
| 眞仁法親王(まさひとほっしんのう) | → | 眞仁法親王(しんにん/まさひとほっしんのう、天台座主/日記) | P 2 2 5 5 |
- G4080 全仁親王(まさひとしんのう・みつひと・たけひと・常盤井宮、常盤井宮恒明親王男)1320-67<sup>48</sup> 三品中務卿、  
太宰帥/1367病により出家、歌;新千載1455/新拾遺1379、満仁親王の父、  
[絶えねただかけひの水の音信よなかなか袖はぬるるものゆゑ](新千載集;十四恋1455)
- |                |   |                        |           |
|----------------|---|------------------------|-----------|
| 正仁親王(まさひとしんのう) | → | 正仁親王(ただひとしんのう・有栖川宮、歌人) | Q 2 6 6 3 |
| 眞仁親王(まさひとしんのう) | → | 眞仁法親王(しんにんほっしんのう、日記)   | P 2 2 5 5 |
| 正夷(まさひな・佐竹)    | → | 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師)   | C 3 9 4 9 |
| 綵姫(まさひめ・伊達)    | → | 徽子(のりこ・伊達だて、栄心院、藩主室)   | I 3 5 9 1 |
- G4081 理平(まさひら・三統みむね、姓かばね;宿禰、字;三讓)853-926<sup>74</sup> 廷臣;891方略の宣旨/895渤海客存問使、

備中権掾/少内記/896少外記/904大内記/文章博士/式部大輔/従四下、詩文の秀づ、  
906日本紀寛宴に和歌序と作歌、908菅原淳茂策試の問者、901「三代実録」編、「延喜式」編、  
「延喜格」編、詩集「統理平集」(散佚)、文粹・和漢朗詠集入、雑言奉和・類聚句題抄入、  
新古今集2首1867/1868、元夏もとなつゝの父、  
[飛び翔ける天の岩舟たづねてぞ秋津島には宮はじめける](新古今;神祇1867)

- 4018 匡衡(まさひら/ただひら・大江おえ、重光男)952-1012<sup>61</sup> 母;一条摂政家三河、妻;赤染衛門、廷臣/漢学者、  
紀伝道に修学/979対策/文章博士/東宮学士/996菅原輔正と・997紀齊名と試判につき論争、  
998一条天皇の侍読;尚書・史記・老子・文選・白氏文集等を講ず/1000「集注文選」を献上、  
尾張守/1010式部大輔、丹波守/侍従/正四下、詩文/歌人、中古36歌仙の1、挙周・江侍従の父、  
同時期の大江以言もちとき・紀齊名ただなど共に文名並称、  
家集「大江匡衡集」「江吏部集ごうりほうしゅう」著、詩;本朝文粹・本朝麗藻・朝野群載などに入、  
公任から昇進不快のため納言辞表の代筆を依頼され 妻赤染衛門の知恵で書した逸話;  
袋草紙・十訓抄入/大江以言もちときが対抗心で匡衡の屏風の詩に一句付す逸話(袋草紙入)、  
歌;続詞花集2首入(637;妻赤染衛門病のころの歌)、  
勅撰12首;後拾遺(7首272/719/883以下)新古(824/1015)続古(592/1452)新続古(1386)、  
[夜もすがら昔のことを見つるかな語るやうつつありし世や夢]、

(新古今;哀傷824/続詞花集832;一条院に参り昔物語りして翌朝奉る歌)、  
[赤染衛門わづらひけるころ 人のとぶらひにきたりけるを疑がしくや思ひけむ、  
かりにくる人にとこよを見せければよを秋風におもひなるかな](続詞花;恋637)

- G4082 政平(まさひら・賀茂かも、成平なりひら男)?-1176 平安後期神職;1162太田禰宜から片岡社禰宜に転ず、  
家平の兄弟、歌林苑歌人;1167経盛歌合/70住吉社歌合/72広田社歌合参加、  
母も歌人(→成平妻)、勅撰6首;詞花345/千載143/322/758/1189/1271、続詞花集・雲葉集入、  
[ゆくすゑのいにしへばかり恋しくは過ぐる月日もなげかざらまし](詞花集;九雑345)、  
(将来への望みの持てないゆえの懐旧の情)

- R4058 正平(まさひら・羽太はぶと、)1639-1706<sup>68</sup> 江戸の幕臣;小普請、和学者、  
[正平(;名)の通称]六左衛門/庄左衛門

- 04070 昌融(まさひら・加藤かとう、翼[竹亭]男)?-? 江中期;甲斐府中の商家;  
国学;加賀美光章みつあき(桜塙/1711-82)門、  
[昌融(;名)の字/号]字;士明/延齡、号;竹亭(父号を継承)/書斎

- G4083 匡衡(まさひら・佐藤さとう) ? - ? 江中期尾張の文筆家、彫工か?、1786刊「東西相撲全書」

- Q4027 昌平(まさひら・白子しろこ、) ? - 1794 伊勢奄芸郡白子の酒倉問屋、国学;本居宣長門、  
のち木綿問屋を営む、1789(寛政元)宣長が白子の村田並木宅を来訪;同地の門人達と歓迎、  
1789[四十八番歌合]出詠/1790渡辺重名撰文「馭戎慨言」序、  
[昌平(;名)の別名/通称]初名;孝昌、通称;兵太夫/弁太夫?

- R4065 正衡(まさひら・橋村はしむら/本姓;度会、旧姓;檜垣)1755-93<sup>39</sup> 伊勢度会の外宮権禰宜、  
養嗣子;檜垣正允まさとき、  
[正衡(;名)の初名/通称]初名;貞義、通称;右京/源之丞/隼人

- G4084 正衡(まさひら・堀田ほった、号;裕斎、正敦男/本姓;紀)1795-1854<sup>60</sup> 母;堀田正富女、画に長ず、  
下総佐野藩主;1832襲封、従四下撰津守、1836-43若年寄、父の遺稿「観文猷譜」編、  
「消閑和歌」「猷譜」画、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[思ふどち雪まにあさる若菜こそ心をのべのはじめなりけれ]、  
(大江戸倭歌;春104/雪間若菜)  
[及びなき身をも忘れて世の中をとあれかかれと先思ふかな]  
(同;雑2054/若年寄になりし時に)

- M4086 政平(まさひら・源) ? - ? 江後期;歌人、堀家政平と同一?、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[薄雲のへだつる影も大方の秋にまれなる望の夜の月](大江戸倭歌;秋841)

- M4087 政平(まさひら・堀家ほりけ、政富まさとも[1793-1838]男)?-1870 江後期;備中賀陽郡吉備津神社社家、  
国学;藤井高尚門、父を継嗣;社家頭、掃部亮かもんのすけ

- P4048 政均(まさひら・栗田くりた、旧姓;松田)1819-80<sup>62</sup> 伊予和気郡の国学者/歌人、



[政均(；名)の字/通称]字；了甫、通称；与七郎

- G4085 **匡平**(まさひら・堀内ほりうち、別名；糾綱、昌郷まささと男) 1824-8360 伊予興居島村門田の庄屋/国学；父門、藤井高尚門/勤王思想、1859上京；矢野玄道・三輪田元綱・近藤芳樹と交流；国事に奔走、1864伊予松山藩政改革案を貼出しの罪で禁固/1868赦免；藩命で朝廷と周旋/教務省出仕、「花のしからみ」編、1858「源氏物語比母鏡」補填(父の研究書をまとめて刊)、「堀内凌」(堀内家の資料集)に匡平著「良夜不見月の文並其叙」「堀内家蔵書目録」がある、  
[佛のきえぬ昔の古ことをふり出でて今日雪に語らん]、  
[匡平(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；亀之助/清太郎、字；知郷ともさと、  
通称；寛左衛門/伸八/太郎次、  
号；桑崖/四十八崖/松蔭/東厓/西津/看雲/松莊/九華/大英山莊主人、吉啓の兄、

- S4036 **雅平**(まさひら・船坂ふなさか、) 1825-188056 飛騨高山の餅屋、和漢学；富田節斎(礼彦)門、維新後；水無神社官司、  
[雅平(；名)の通称/号]通称；半右衛門、号；画餅

- G4086 **方平**(まさひら・岩下いわした、典膳男/本姓；藤原) 1827-190074 薩摩藩士/国学；1856平田鉄胤門、歌人、1863薩英戦争後の対英和平交渉の正使、1866家老職/維新後は判事・知事・議員、1866「岩下方平旅日記」「岩下方平書簡」著、

[方平(；名)の別名/通称/号]別名；方美、通称；左次右衛門/左二/左次兵衛、号；南谷、

- G4087 **正平**(まさひら・柿並かきなみ、通称；市太) ?-? 江後期長門萩藩士/歌人、1853「柿並市太日記」著

- M4092 **政平**(まさひら・山田やまだ) 1831- 190878 讃岐高松藩士、石清尾神社社司、国学；友安三冬門、江戸住、  
[政平(；名)の別名/通称/号]別名；政典、通称；吉太郎/三九郎

- G4088 **正平**(まさひら・萩原はぎわら、初名；直胤/茂道、義利男) 1838-9154 伊豆君沢郡川西村の名主、国学者；1863平田篤胤没後門・権田直助門、1868官命で伊豆七島式内社調査、三島社少宮司、伊豆/1876静岡に皇学舎設立；子弟教育、「矢筈の山ふみ」/1864「磐長姫命神社考」著、  
[正平(；名)の通称/号]通称；直次郎/莊兵衛、号；山桜戸、川津眞清まさきよ(神職)の兄

方平(まさひら・猪瀬) → 尚賢(なおかた・猪瀬いのせ、書家/歌/俳人) 3 2 9 9

正平(まさひら・五十嵐) → 正之(まさゆき・五十嵐いがらし、大庄屋/歌) N 4 0 2 8

正衡(まさひら・阪元) → 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者) H 2 4 4 1

匡範(まさひら・大江) → 匡範(まさのり/まさひら・大江、廷臣/歌人) F 4 0 8 8

政平(まさひら・土肥) → 黙翁(もくおう・土肥どひ、儒者/講説業) 4 4 7 1

政平(まさひら・黒瀬) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2

政平(まさひら・黒瀬) → 応昇(まさのり・黒瀬くろせ、応進男/国学者) M 4 0 9 0

政均(まさひら・田中) → 万春(ばんしゅん・田中、暦算家) H 3 6 9 7

匡衡衛門(まさひらのえもん) → 赤染衛門(あかぞめえもん、歌人) 1 0 0 1

政平母(まさひらのかは・賀茂) → 成平妻(なりひらのつま・賀茂かも、歌人) K 3 2 0 2

- G4089 **雅平女**(まさひらのむすめ・藤原ふじわら) ?-? 鎌倉後期歌人；藤原雅平(1229-78)女、玉葉集2496/新続古今集1308(；大納言長雅の恋人の代筆返歌)、  
[世のうさに思ひ入るべき山の端を住みうかれてや月は出づらん](玉葉；十八雑2496)

雅平女7人(尊卑分脈/系図纂要)

①中納言典侍従三位雅子(ちゅうなごんのすけのさんみまさこ)

②新陽明門院中納言(しんようめいもんいんのちゅうなごん)

③大宮院権中納言(おおみやいんのごんちゅうなごん) → 権中納言(ごんちゅうなごん・大宮院) E 1 9 7 7

④後二条院按察使典侍(ごにじょういんのあぜちのすけ)

⑤龜山院堀河(かめやまいんのほりかわ)

⑥大宮院女房(おおみやいんのによぼう)

⑦今出川院中納言(いまでがわいんのちゅうなごん) → 権中納言(ごんちゅうなごん・今出河院) E 1 9 7 6

- G4090 **雅広**(まさひろ・藤原ふじわら) ? - ? 連歌作者；菟玖波集2句入、  
[柴の戸の秋の日くらし独りみて](菟玖波集；雑1147/前句；蟬の鳴くをも悲しとそ聞く)

- G4091 **政弘**(まさひろ・大内おおうち、教弘男/本姓；多々良) 1446-9550 武将；周防・長門・豊前・筑前の守護、従四上/左京大夫；1465家督嗣、1467応仁乱に上京；西軍の雄将/77帰国/94家督を義興に譲、王朝文学・注釈書を蒐集/文学者の兼良・雪舟・宗祇・兼載らを後援、新撰菟玖波集出版援助、

- 1491家集「拾塵和歌集」著、1477宗祇らと「文明九年正月何船百韻」、新撰菟玖波75句入  
[政弘(；名)の幼名/法号]幼名；龜童丸/太郎、法号；法泉寺直(眞)翁眞正
- G4092 **政熙**(まさひろ・一色いっしき/本姓；源)？-？ 室町幕臣；將軍義尚の近臣/歌人；  
1481義尚催「三十番歌合」参加
- G4093 **正弘**(まさひろ・山口やまぐち、初名；宗永/宗長むねなが、光広男)1545-1600**自刃**56 武將；加賀大聖寺城主、  
秀吉の臣/1583賤ヶ岳戦に参加/丹波の山奉行、劍法山口流の祖、小早川秀秋を補佐、  
小早川領国の筑前・筑後で検地、朝鮮出兵後に秀吉配下に戻る/大聖寺7万石領主、  
関ヶ原は大坂方；大聖寺城で自刃、「山口玄蕃戸次村毛付」著、  
[正弘(；名)の通称/法号]通称；甚兵衛尉/左馬助/玄蕃頭げんばのかみ、法号；/松元院
- T4096 **正弘**(まさひろ・源みなもと、) ？ - ？ 江前期；武士/歌人；1688浅井忠能[難波捨草]入、  
[越えやらで高根の雲になくかりの数だに分かぬ夕暮の空](難波捨草；秋256/雲間雁)
- R4067 **正弘**(まさひろ・橋村はしむら/本姓；度会、正竹男)1674-1738**65** 伊勢度会郡山田の外宮権禰宜、国学者、  
[正弘(；名)の初名/通称]初名；正方、通称；内蔵
- G4094 **昌弘**(まさひろ・村井むらい、昌利男)1693-1759**67** 伊勢度会群東大淀村の兵法・測量家；父門、  
幼児期江戸で兵学鍛錬/1712龜山侯に出仕/1716頃致仕/伊勢安濃津住；家塾神武館開設、  
兵学神武流の始祖、江戸で島津侯に出仕/市ヶ谷で病没、「武原録」「耶蘇天誅記」「大淀記」、  
1729「単騎要略被甲辨」編/32「量地指南」34「神武講習家訓」54「量地指南後編」外著多数、  
[昌弘(；名)の通称/号]通称；大輔、号；蘇道/蘇道子、法号；常宣院/正眼院
- Q4061 **雅広**(まさひろ・多賀谷たがや、)？- ？ 加賀金沢の生/福井藩士；寄合席、  
歌人；冷泉為村(1712-74)門、  
☆越前の同門；菅沼吉次(1737-95)・小川英長・山室松軒(1729-1803)・坂野致知むねとら、  
[雅広(；名)の通称] 舍人/権兵衛
- G4095 **政熙**(まさひろ・鷹司たかつかき、輔平男/本姓；藤原)1761-1840**80** 廷臣；1769従三位権中納言/91左大臣、  
1795関白/氏長者、1814辞任/15准三后/23出家、歌人；1840「鷹司政熙詠草」著、  
1798「輔平すけひろ六十賀和歌懷紙」入、「天明度大嘗会記」外著多数、母；侍従重就女、  
子；政通・依子(東本願寺法主達如室)・隆子(加賀藩主前田斉広室)・吉子(孝仁親王妃)・  
繫子(仁孝天皇女御)・景子(邦家親王妃)・祺子(仁孝天皇女御・皇太后)・  
定子(尾張藩主徳川斉温室)・并子(徳島藩主蜂須賀斉昌室)・任子(將軍徳川家定室)・  
皐子(広幡基豊室)・道子(津守国福室)・辰子(醍醐輝弘室)・祥子(西本願寺主広如室)・  
定演(醍醐寺三宝院門主)・備子(仙台藩主伊達慶邦室)  
[政熙(；名)の幼名/法号]幼名；鶴君、法名；樂山、法号；文思恭院
- G4096 **方弘**(まさひろ・城崎しろさき、別名；方正/通称；庄右衛門)？-？ 江後期筑後久留米の和算家；藤田貞資門、  
1796久留米藩校明善堂の算学指南/1788高良神社に算額奉納/1802致仕、  
「極数解前後編」「牛島答術」/1799「原田送変題」著
- 04075 **昌丕**(まさひろ・葛西かさい、)1765-1836**72** 陸奥気仙郡唐丹村の旧家の生/仙台で国学者、  
天文暦学修学；天象を論ず、晩年；書を嗜む、1833(天保4)飢饉に救民対策；新畑開発など、  
[昌丕(；名)の字/通称/号]字；廉、通称；善右衛門、号；嘉遯かんとん
- G4097 **政寛**(まさひろ・横山よこやま、政礼まさり男)1770-1801**32** 加賀金沢藩士；1784世録1万石/1793家老、  
詩；富田景周門、1793「政寛覚書」98「御道中日記」99「太梁公帰国覚書」外記録多数、  
[政寛(；名)の字/通称/号]字；子綽、通称；多門/蔵人、号；白華、 政孝まさたかの父
- L4073 **正博**(まさひろ・内藤ないとう/本姓；藤原、通称；四郎左衛門、正範男)？-？ 江中後期；幕臣？、  
歌；1798刊広通「霞関集」入、  
[住みし世の跡を見せてや古里にたえだえ残る庭の柴垣](霞関；雑966/故郷)
- G4098 **正博**(まさひろ・名・沢さわ、通称；八十郎)1778-1841**64** 肥後熊本の楠木流兵法家；師範、  
「太平記評判秘伝鈔」著
- 04016 **正博**(まさひろ・小野おの、正徳男)1779-1847**69** 備中浅口郡玉島阿賀崎の商家の生/小野正雄の兄、  
歌；木下幸文門、家督を弟に譲り船穂村に住、  
[正博(；名)の通称/号]通称；文次/小源次、号；太逸、法名；仁山琢雲信士
- M4085 **真広**(まさひろ・原はら) ？ - ？ 江中後期；近江大津の歌人、

本居大平「八十浦の玉」下巻上入、

[野辺ひろく春立つままにあしひきの山も霞みて遠ざかるかも](八十浦;714)

04053 **正寛**(まさひろ・岡おか、号;富士の屋)1785-1827<sup>43</sup> 越中富山藩士、国学者;富士谷御杖門

T4084 **政寛**(まさひろ・渡辺わたなべ、)1792-1856<sup>65</sup> 信濃松本藩士、郡所産物掛;殖産振興策を建白、藩がその建白を不採用としながら一部無断実行/政寛は書類・器械・資料すべてを焼却、閉門座敷牢/のち禅門に入り各地を遊歴、晩年は若年寄の林忠英<sup>ただよ</sup>の顧問、和学者、[政寛(;)名]の通称/号]通称;十太兵衛、号;不徹<sup>ふてつ</sup>居士

H4000 **政寛**(まさひろ・市原いちばら、陶々男)1803-81<sup>79</sup> 讃岐高松の絵師;父門/書家/歌人、「画帖」著、[政寛(;)名]の字/通称/号]字;叔明、通称;善助、号;筠斎<sup>いんさい</sup>

G4099 **正寛**(まさひろ・竹尾たけお/本姓;源、正靱男)1806-57<sup>52</sup> 三河額田郡山中村舞木八幡宮神主、国学・神道;1927平田篤胤門、1856「幽界物語愚問」、「非葛花辨附録」著、平田篤胤撰「弘仁歴運記考」共同で校訂(草鹿砥宣輝・寺部宣光と)、正胤の父[正寛(;)名]の初名/通称]初名;高靱、通称;東一郎/主計<sup>かずえ</sup>/上総

M4055 **正熙**(まさひろ・橋本はしもと) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[雪深き年の内より咲きそめて色にも春と見ゆる梅かな](大江戸倭歌;冬1331/早梅)

M4076 **正博**(まさひろ・甲斐庄<sup>かいのしょう</sup>/本姓;橘/楠木、正誼男)?-? 江後期;旗本;4千石、河内錦部郡甲斐庄を領す、明治維新時の当主、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[いつしかと冬のみけさはめぐりきて袖の涙のしぐれとぞみる]、(大江戸倭歌;雑1894/冬懐旧)

M4053 **政恕**(まさひろ・竹川たけがわ)1812-1870<sup>59</sup> 伊勢飯野郡の国学者;佐々木弘綱門、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、妻;井上峯子<sup>みね</sup>(歌人)[旅人は行き悩むらん鈴鹿山深くも雪の降る積りけり](大江戸倭歌;冬1280/山雪)、[政恕(;)名]の通称/号]通称;虎市/彦治郎/彦兵衛、号;竹堂

S4070 **正広**(まさひろ・松平まつだいら、)1813-1887<sup>75</sup> 尾張名古屋藩士/国学者/歌人、間島冬道の叔父、[正広(;)名]の別号/通称]別名;巽<sup>たつみ</sup>/高蔭、通称;庄十郎/竹之丞/竹蔵

H4001 **正弘**(まさひろ・阿部あべ、正精3男)1819-57<sup>39歳</sup> 兄正寧の養子/1836兄早世;備後福山藩主;10万石、伊勢守従四下/侍従/奏者番/寺社奉行見習/1843老中/45老中首席、53ペリー来日に対応、1854和親条約締結など外交多事/55講武場・洋学所を設置、杉純道を招聘し洋書講義、書画・詩歌を嗜む、1849「海岸防禦紀事」、「赦律」編/「魯西亜使節ニ答フルノ書」外著多数、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[つらなれる駒の行来もことなきや道ある御代のためしなるらん]、(大江戸倭歌;雑1940/鎌倉に遠馬せし時)、[正弘(;)名]の幼名/字/通称/号]幼名;剛蔵、字;叔道、通称;正一/主計<sup>かずえ</sup>、号;裕軒法号;良徳院

H4002 **眞弘**(まさひろ・まひろ・広川ひろかわ、長谷川甚左衛門男)1820-86<sup>67</sup> 越後三島郡有信の国学者;岡部春平門、広川家の養子、羽前上山藩に招聘され国学指南役、歌を嗜む、維新後柏崎桐島神社社司、「堅室著書一覽」編/「浦浜日記」「ささ栗」著、[眞弘(;)名]の幼名/通称]幼名;発八、通称;九郎右衛門

H4003 **正弘**(まさひろ・服部はっとり)1821-1896<sup>76</sup> 伊予今治藩士;1843家老/稻富流砲術家;皆伝、第一次長州征討に二番手隊長/戊辰戦に銃隊率い京の警衛/1871隠居、隠居後は藩の修史事業に専念、「今治拾遺」編/「続今治夜話」著、[正弘(;)名]の通称/法号]通称;和泉、法号;弘台院

L4017 **正寛**(まさひろ・不破ふな、左太郎男)1822-1868<sup>暗殺47</sup> 筑後久留米藩士;1855兄の嗣/奏者番、藩校明善堂の責任者;学制改革、1863参政;開明派の登用/殖産興業・富国強兵策、1868下城途中で同藩尊王派に暗殺、「富国問答」著、[正寛(;)名]の通称] 与三吉<sup>よそきち</sup>/左門/義門/美作

M4035 **昌広**(まさひろ・松前まつまえ、見広2男)1825-53<sup>早世29歳</sup> 蝦夷松前福山城に生、1784江戸住、1839(天保10)兄良広の養嗣子;養父病没し家督継嗣/松前藩11代藩主、



1840従後下/志摩守、当時藩は重臣松前内蔵広純(曾祖父の8代藩主道広の5男)が専横、  
 1843(天保13)義父松平乗全を後ろ盾にし内蔵の家禄を半減・失脚;江戸に蟄居させる、  
 儒者山田三川を側用人・表用人として登用;藩政改革に着手;倭約・風紀粛清・奢侈禁止、  
 昌広は病弱のため江戸に滞在;藩政は三川と松前広茂が執る、  
 病状はさらに悪化し酒色に耽る;1849(嘉永2)家督を養子崇広に譲り隠居、  
 のち福山城北東の北殿に余生を送る、正妻;松平乗全女の浪子/側室;山崎静、徳広の父、  
 ☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[松前征広]と同一?

[秋はまだふかくも立ちはいらねどもさすがにすすし萩のうはかせ]、  
 (大江戸倭歌;秋707)

H4004 **政弘**(まさひろ・矢野やの、通称;雲八)1827-1901<sup>75</sup> 三河西尾藩士/歌;井上文雄門、  
 1864文雄「さきはひ草」入

S4056 **雅広**(まさひろ・正宗まさむね、通称;懿助いすけ)1827-1901<sup>75</sup> 備前和気郡の国学者/歌人、  
 歌;[類題鮫玉集]入/[類題吉備国歌集]3首入

政広(まさひろ・杉浦)	→	持広(もちひろ・小笠原/杉浦、幕臣/故実)	B 4 4 6 0
政広(まさひろ・小笠原)	→	宗元(そうげん・小笠原おがさわら、武将/幕臣/連歌)	H 2 5 1 2
政広(まさひろ・松枝)	→	誠斎(せいさい・松枝まつえだ、和算家)	I 2 4 3 7
政演(まさひろ・まさのぶ・北尾)	→	京伝(きょうでん・山東)	1 6 3 7
政寛(まさひろ・野原)	→	蘭二(らんじ・野原のはら、俳人)	C 4 8 4 0
政寛(まさひろ・京屋)	→	政寛(せいかん・京屋きょうや、俳人)	C 2 4 5 9
政寛(まさひろ・岡部)	→	政美(まさよし・岡部おかべ、神職/俳人)	O 4 0 5 9
正大(まさひろ・牧)	→	東海(とうかい・牧/橘、儒者/兵学/歌)	B 3 1 9 1
正広(まさひろ・秋山)	→	仙朴(せんぼく・秋山、小倉道喜/棋士)	N 2 4 1 2
正博(まさひろ・朝岡)	→	柳昌(りゅうしょう・朝岡あさおか、藩士/儒者)	E 4 9 6 8
正博(まさひろ・中田)	→	祭堂(さんどう・中田/膝、与力/儒者)	M 2 0 6 6
正礼(まさひろ・服部)	→	日記(にっき・服部はっとり、日記随筆)	D 3 3 7 9
正啓(まさひろ・下村)	→	彦右衛門(ひこえもん・下村、呉服業大丸屋初代)	3 7 5 2
正啓(まさひろ・篠原)	→	景雄(かげお・篠原しのはら、国学者)	K 1 5 8 0
正啓(まさひろ・小津)	→	審斎(しんさい・小津おづ、国学者/歌人)	O 2 2 4 1
正洋(まさひろ・高山)	→	照洋(てるひろ・高山、兵法家)	C 3 0 8 9
正弘(まさひろ・玉木)	→	彦介(彦助ひこすけ・玉木、藩士/日記)	3 7 6 3
正篤(まさひろ・堀田)	→	正睦(まさよし・堀田/紀、藩主/老中)	I 4 0 6 7
昌弘(まさひろ・鎌田)	→	昌言(まさのぶ・鎌田かまた、医者/歌人)	F 4 0 8 0
昌弘(まさひろ・黒田)	→	次章(つぐあき・黒田くろだ、庄屋/国学/歌)	F 2 9 6 5
真弘(まさひろ・木下)	→	梅里(ばいり・木下きのした、儒者)	C 3 6 1 7
真弘(まさひろ・山本)	→	操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治)	J 4 1 7 2
雅弘(まさひろ・野宮)	→	定輔(さだすけ・野宮/藤原/中院、廷臣)	I 2 0 3 0
雅広(まさひろ・飛鳥井/難波)	→	宗尚(むねひさ・難波/藤原、廷臣/日記)	C 4 2 2 9

K4095 **まさふ**(:姓不詳) ? - ? 平安前期廷臣/歌;921醍醐御時菊合参加  
 [〇〇さとにをしみぞとむる菊の花霜にうつろふいろをみむとか](醍醐菊合)

L4042 **まさふさ** ? - ? 平安前期廷臣/歌;956坊城右大臣師輔歌合参加、  
 [きりぎりす声なつかしく秋の夜のあくといふことのなきよとぞ思ふ]、  
 (師輔歌合;きりぎりす左)

4019 **匡房**(まさふさ・大江おえ/一字姓;江、成衡男)1041-1111<sup>71</sup> 母;橘孝親女、漢学;紀伝道に修学、  
 廷臣;1058対策/88参議/94権中納言/1102正二位/東宮学士・侍読/09大宰権帥/11大蔵卿、  
 道真の遺徳を讃え安楽寺に満願院建立、詩歌に通ず:万葉集に加点/堀河百首の歌題撰定、  
 詩;続文粹・本朝無題詩に入/歌:1096自家歌合催、「江帥集(匡房集)」、説話「江談抄」著、  
 故実「江記」「江家次第」、1091「平安帝都記」1101「狐媚記」、「本朝神仙伝」「洛陽田楽記」、  
 「遊女記」「傀儡子記」「暮年記」「兵法虎巻」外著多数、義家の兵法の師、[前の三房]の1、  
 寂超「後葉集」12首/清輔[続詞花集]10余首入、雲葉集4首入、  
 勅撰120首;後拾遺(120/571)金葉(8首51/56以下)詞(14首1/22以下)千(17首)新古(14首)、

- 新勅(6首)続後撰(9首)続古(6首)続拾(3首)新後撰(2首)玉(10首)続千(3首)以下、  
[高砂の尾上の桜咲きにけり外山の霞立たずもあらなむ](後拾遺;一120;師通邸の宴で)  
[匡房(;名)の通称/唐名]通称;江帥ごうのそち/江都督/江大府卿、唐名;満昌
- H4005 雅房(まさふさ・源みなもと/家名;土御門、太政大臣源定実男)1262-1302<sup>41</sup> 母;平政平女、鎌倉後期廷臣、  
1278従三位/86正二位/97大納言、徒然草128段に大将になれなかった逸話、「蹴鞠要書」著
- H4006 雅房(まさふさ・村上むらかみ、義頭男)?-? 室町中期伊予能島の武将、村上水軍の出?、  
北畠親房も末裔で祖父師清の代に村上姓となる、1505「船行要術」著
- H4007 正房(まさふさ・横山よこやま、長治男)?-1693 加賀金沢藩士;父より5百石受/藩主綱紀より重用、  
家禄1万石、1659中小将番頭/若年寄/86家老;以後代々家老職、  
1664「万覚」編/64「万留帳」著、  
[正房(;名)の通称] 志摩/筑後
- H4008 雅房(まさふさ・万里小路まのこうじ、綱房男)1634-79<sup>46</sup> 母;橋本実村女、廷臣;1659参議/70権大納言、  
1673正二位/賀茂伝奏・按察使、79病気で致仕、「大雅記」著
- H4009 政房(まさふさ・榊原さかきばら、忠次男/本姓;源)1641-67<sup>早世27</sup> 母;唐津藩主寺沢広高女、  
上野館林の生、1665播磨姫路藩主;父の遺領襲封/従四下刑部大輔、  
和漢学を修学/歌:烏丸光広門、連歌、「詠三百首」、「東海道紀行」著、  
了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[世の外はの物かとぞみる富士のねの雪はさながら雲につゞきて](若むらさき;171)、  
[政房(;名)の通称/法号]通称;熊之助、法号;大宝院崇悟
- H4010 昌房(まさふさ・しょうぼう・磯田いそだ、通称;茶屋与次兵衛)?-? 1729<sup>存</sup> 近江膳所の俳人;1689芭蕉門、  
歌も詠む、1690之道「江鮭子あめご」/90珍碩「ひさご」/91「猿蓑」/98「続猿蓑」入、  
1729七里追善集「其鑑」入、  
[新田しんでんに稗穀ひえがら煙るしぐれ哉](猿蓑;一冬12)
- H4011 正房(まさふさ・浮島うきしま、通称;慶平)?-? 江中期享保1716-38頃の幕臣、  
駿府在番の頃;由井正雪関係資料を編纂:「慶安四年江戸駿府往復書」編
- N4077 正房(まさふさ・稲生いとう、) ? - 1705 江中期;幕臣;地震奉行、国学者、  
[正房(;名)の通称/法名]通称;次郎八郎/頼母/七郎右衛門、法名;切蔭or功蔭/
- M4006 正房(まさふさ・小倉おぐら/本姓;源、正矩男)1703-65<sup>63歳</sup> 江中期旗本/幕臣、1730(享保15)書院番、  
1736(元文元)家督継嗣;1200石、1761(宝暦11)小普請/1763致仕、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)妻久波子と入集、  
[影宿す玉江の芦の節のまも心みじかき夏の月かな](大江戸倭歌;夏544/江夏月)  
[正房(;名)の通称]吉之丞/十兵衛/式部
- P4057 正房(まさふさ・小泉こいずみ、)? - ? 出羽久保田(秋田)藩士;財用奉行、国学者、  
[正房(;名)の通称/号]通称;吉太郎/七郎右衛門、号;耕喜
- L4079 正房(まさふさ・飯田いだ/本姓;源、通称;大蔵おおくら)1764-1812<sup>49</sup> 甲斐山梨郡酒折宮の神主、  
神道;加賀美光章・国学;本居宣長門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含め5首入、  
[むらさきの名高の浦のほととぎす名高くなのれ人のきかくに](八十浦507/浦郭公)
- H4012 政房(まさふさ・奥村おくむら;号、別号;文志)?-? 絵師;奥村政信門、草双子の挿絵、  
1747琴鶴「花重窟内裏」画/「盛景両面鏡」画、「栄花義経蝦夷錦」「鶴竹情の商人」画
- H4013 政房(まさふさ・阿久津あくつ、別名;安世、政謹男)?-1784 秋田藩士;能代奉行/郡奉行、  
詩、吉田謙斎/疋田柳塘と交流、「阿仁銅山次第聞書」著、  
[政房(;名)の字/通称/号]字;士繻/士参、通称;祐蔵/三左衛門、号;小民/法号;頑翁了愚
- H4014 昌房(まさふさ・森もり) ? - ? 大阪の講釈師;回生堂、  
1770「全書仙台菰[伊達実録]」編
- H4015 政房(まさふさ・万里小路まのこうじ、勸修寺かじゅうじ高頭男)1729-1801<sup>73</sup> 母;万里小路尚房女、  
万里小路植房の養嗣子、廷臣;1761参議/従三位/63権大納言/66致仕、1780本座を聴される、  
1793光格天皇実父尊号事件に関与し幕府より1ヶ月出仕停止/1797従一位、  
「韶房朝臣記」、1747「春日社御祈下知進達状」48「大嘗会由奉幣次第」71「政房卿記」著、  
[政房(;名)の別名/法号]別名;説道(;初名)/韶房、法号;深禅定院
- 04074 正房(まさふさ・葛西かさい、通称;勝弥)1738-1806<sup>69</sup> 肥後熊本の国学者

- H4016 **征房**(まさふさ/ゆきふさ・水上みなかみ/修姓;水、脇わき政次男)1752-1831<sup>80</sup> 水上善右衛門芳舛の養子;  
紀伊和歌山藩士;江戸詰/安永1772-81頃右筆/1796家督を継嗣、歌人;冷泉為村門、  
「水上征房和歌」/1794「水上征房紀行」著、征房(;名)の通称;長次郎
- N4050 **正房**(まさふさ・飯田いいた/本姓;源、通称;大蔵)1764-1812<sup>49</sup> 甲斐山梨郡の酒折宮神主、  
国学・歌人;加賀美光章門/1793(寛政5)本居宣長門、
- N4082 **正房**(まさふさ・今村いまむら、)1784-1828<sup>45</sup> 近江彦根藩士、歌人、  
[正房(;名)の初名/通称]初名;正義、通称;源兵衛/藤三郎
- H4017 **昌房**(まさふさ・中川ながわ、別名;采義/通称;徳二良)?-? 江後期大阪高津新地の読本作者、  
感和亭鬼武と交流、1800「絵本三韓軍記」07「小説東都紫」08「信夫摺在原草紙」著、  
1812「金鱗化粧桜」「日蓮上人行状図会」著
- H4018 **正房**(まさふさ・山下やました) ? - ? 考証、1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加
- M4026 **正房**(まさふさ・中村なかむら、通称;源十郎)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[一声は夜半に聞きしを玉櫛笥あけて二度ふたび鳴く郭公](大江戸倭歌;春448)
- S4028 **昌房**(まさふさ・藤井ふじ、通称;常造)1801-? 江後期;上野前橋の歌人:尾高高雅(1812-87)門、
- H4019 **正房**(まさふさ・なほふさ・万里小路までのこうじ、初名;寿房、建房男)1802-59<sup>58</sup> 廷臣;1838参議/57権大納言、  
武家伝奏、公武間を奔走、「正房卿記」「万里小路正房卿詠」「唱和詩」「侍中要備忘」外著多数、
- H4020 **正房**(まさふさ;名・前田まえだ、通称;清九郎、太田おた道吉男)?-? 1836金沢藩士前田瀬太夫の婿養子、  
江後期加賀金沢藩士、1867「前田清九郎家系」著
- S4058 **正房**(まさふさ・増田ますだ、)1840-1865<sup>処刑</sup>26 近江膳所藩士;藩校句読師/尊攘派、歌人、  
1865(慶応元)将軍家茂の膳所城宿泊予定に暗殺計画嫌疑で膳所藩士尊攘派11人が逮捕、  
11烈士のひとりとして処刑、歌:[鴉のうみ]入、  
[正房(;名)の通称/変名]通称;主計かづえ/仁右衛門、変名;菅井秀助
- |              |   |                         |           |
|--------------|---|-------------------------|-----------|
| 正房(まさふさ・北条)  | → | 氏長(氏永うじなが・北条、軍学者)       | 1 2 4 4   |
| 正房(まさふさ・奥村)  | → | 得義(徳義のりよし・奥村、藩士/国学)     | G 3 5 3 2 |
| 正房(まさふさ・木瀬)  | → | 三之(さんし・木瀬きせ、国学;歌学革新)    | E 2 0 3 4 |
| 正房(まさふさ・吉村)  | → | 海州(海洲かいしゅう・吉村、和算:測量)    | I 1 5 7 0 |
| 正房(まさふさ・高木)  | → | 亀伯(きはく・高木たかぎ、俳人/和算家)    | L 1 6 7 9 |
| 昌房(まさふさ・関)   | → | ト圃(ぼくほ・関せき、立圃門俳人)       | D 3 9 8 9 |
| 昌房(まさふさ・平)   | → | 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者)  | D 1 6 7 1 |
| 政房(まさふさ・馬場)  | → | 春水(しゅんすい・馬場、書家)         | K 2 1 0 2 |
| 政房(まさふさ・亀岡)  | → | 宗山(そうざん・亀岡かめおか、幕臣/記録)   | C 2 5 7 3 |
| 政房(まさふさ・由之軒) | → | 由之軒政房(ゆうしけんまさふさ、浮世草子作者) | C 4 6 2 1 |
- H4021 **匡房妹**(まさふさのいもうと・大江おおえ、成衡女)?-? 平安後期歌人、金葉集657(Ⅲ649、連歌付句)、  
[鶉舟うねにはとりいれし物をおぼつかな](金葉集;十連歌657/鮎を見て)、  
(前句;何にあゆるを鮎といふらん・読人不知/あゆるは「落あゆ」or「肖あゆ」)
- H4022 **政藤**(まさふじ・安東あんど、通称;右馬助/平六)?-? 武士;室町幕府申次衆、  
1509「茲照院殿年中行事」「長禄二年以来申次記」、「細川家秘書」著
- |                |   |                     |           |
|----------------|---|---------------------|-----------|
| 政藤(まさふじ・堀/多賀)  | → | 秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) | D 3 7 1 6 |
| 政藤(まさふじ・岡部/賀茂) | → | 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) | 4 0 3 1   |
| 眞師(まさふつ・村居)    | → | 眞師(まふつ・村居/丸屋、書肆/国学) | H 4 0 2 4 |
- H4025 **政文**(正文まさふみ/まさふみ・大竹おおたけ、孫右衛門男/本姓;藤原)1750-1819<sup>70</sup> 陸奥(岩代)会津藩士、  
神道;野村俊胤・吉川従門門、岩代会津藩校日新館神道師範・和学指南、歌人、  
1795藩主松平容頌の侍講/律令格式;1796京の裏松光世に入門、神籬磐境の奥秘を修学、  
吉川家を補佐、1804「会津地名考」/1807-12「山路仮標」編、「西洲神都考」「神陵譚」外著多数、  
[政文(正文;名)の初名/通称/神号]初名;政民、通称;喜三郎/木三郎、  
神号(諡);玉彦靈社
- S4064 **正文**(まさふみ・松尾まつお、号;文了/青竜舎)1766-1838<sup>73</sup> 近江伊香郡の生/彦根住、歌人、  
歌;[彦根歌人伝・寿]入
- H4026 **正文**(まさふみ・田中たなか、号;千尋舎ちひろのや、正矩男/本姓;平)1783-1861<sup>79</sup> 花山院家諸大夫、



- 1812太宰大典、歌;熊谷直好門、京二条住/大坂堂島に移住、1822「歌文うひまなひ」著  
 N4083 **正文**(まさふみ・今村いまむら、) 1791-1842<sup>52</sup> 近江犬上郡の生/彦根藩士、歌人;彦根歌人伝入、  
 博覧で和漢の文に通ず、  
 [正文(;名)の通称/号]通称;彦助/源助、号;百合
- H4027 **雅文**(まさふみ・栗田くりた) ? - ? 江後期天保1830-44頃常陸水戸下市の油商、歌人、  
 1830頃「波類之須佐備はるのすさび」著、恭徳たかひ[1823-78]・寛ひろし[1835-99]の父
- 04033 **昌誌**(まさふみ・大滝おおたき、通称;友右衛門) 1803-76<sup>74</sup> 越後頸城郡の国学者
- M4024 **真文**(まさふみ・水野みずの) ? - ? 江後期;歌人、廷臣or幕臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [殿守も心そらにやなりてみん雲みの庭の花のさかりは](大江戸倭歌;春266/禁中花)  
 [藻塩焼く須磨の夕べの秋風はこと浦よりもさびしかりけり](大江戸倭歌;秋827)
- P4009 **正文**(まさふみ・河村かわむら、通称;有平) 1832-84<sup>53</sup> 伊勢三重郡の国学者
- 04036 **正文**(まさふみ・大友おおとも) 1839-1920<sup>82</sup> 陸奥名取郡増田町の医者/児童教育にも従事、  
 1904(明治37)仙台住、歌人;佐藤直翁ちよくおう門、  
 [正文(;名)の別号/通称]初名;正修、通称;大淳
- P4040 **正文**(まさふみ・国重くにしげ) 1840-1901<sup>62</sup> 長門萩藩士/藩老/1864明倫館の頭人役、国学者、  
 のち山城伏見神社の宮司、内務省に出仕/1871京都府少参事/同大書記官、  
 富山県初代県令/富山県知事/内務省社寺局長、致仕後;東京國學院長/1898稻荷神社宮司、  
 [正文(;名)の通称/号]通称;篤次郎/徳次郎、号;半山
- 04008 **真文**(まさふみ・小川おがわ、通称;吉右衛門) 1847-71<sup>早世25</sup> 筑後久留米の国学者、  
 国学・儒;船曳鉄門(磐主いわぬし)門  
 雅文(まさふみ・佐々木) → 源六(げんろく・佐々木ささき、藩士/儒者) N 1 8 1 7  
 正文(まさふみ・壬生) → 水石(すいせき・壬生みづ、与力/篆刻家) 2 3 7 6  
 正文(まさふみ・原) → 信好(のぶよし・原はら/秦、国学/歌/官吏) J 3 5 6 9  
 正文(まさふみ・広田) → 正方(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学) S 4 0 1 9  
 正章(まさふみ・戸川) → 正章(まさあき・戸川とがわ、藩士/国学) R 4 0 0 1
- H4028 **雅冬**(まさふゆ・度会わたらい、) ? - ? 伊勢外宮禰宜、歌;1321外宮北御門歌合参加、  
 [つれなさのうつつに限る中ならば夢にや人の逢ふと見えまし](外宮歌合;29番右58)
- H4029 **雅冬**(まさふゆ・飛鳥井あすかい、雅孝男/本姓;藤原) ?-? 兄雅宗の猶子/南北期廷臣;四位/左近中将、  
 歌人;1357[延文百首]追加参加、勅撰3首;新千載(1112)新拾遺(90/1097)、  
 [いかにせん我が身こがれて下もえのけぶりの末は行方ゆくたもなし]、  
 (新千載;恋1112/延文百首;3073寄煙恋)
- R4073 **正冬**(まさふゆ・橋村はしむら/本姓;度会、正親男) 1662-1721<sup>60</sup> 伊勢度会郡の外宮権禰宜、歌人、  
 定家[近代秀歌]を写本(天徳歌合を合綴)、  
 [正冬(;名)の通称/法名]通称;熊之助/主膳/将曹/主税ちから、法名;恵正
- H4030 **雅冬**(まさふゆ・白川しらかわ/本姓;源、雅冬王、雅喬男) 1679-1734<sup>56</sup> 兄雅光王の嗣;1698神祇伯、  
 1704辞任/06還任/15従三位/22正二位/25讓伯;養子雅富王が継嗣、「雅冬王記」著、  
 1708「内侍所仮殿渡御并調進物之事」21「種穂忌部神社記」、「奉幣作法」著、  
 [雅冬(;名)の別号/法号]初名;康起、法号;現得院
- L4068 **正冬**(まさふゆ・樋口ひぐち、通称;五右衛門/隠居号;故白) ?-? 江中期幕臣;与力、  
 1798刊広通「霞関集」入、  
 [いく秋の光やそはん宿の菊言葉の露をかけし契りに](霞関;秋540/菊の歌の中に)  
 正冬(まさふゆ・磯部) → 出雲(いずも・磯部いそべ、神職) F 1 1 7 4  
 雅冬王(まさふゆおう) → 雅冬(まさふゆ・白川/源、神祇伯/記録) H 4 0 3 0  
 政平(まさへい・星野) → 輝文(てるふみ・星野、郷士/商家/勤王) C 3 0 9 1
- Q4093 **正穂**(まさほ・塚本つかもと、通称;市右衛門) ?-1839 遠江金谷宿駅の人、  
 国学者・歌人;石川依平よりひら門
- H4031 **政壽**(まさほぎ・竹川たけがわ、政信男) 1792-1862<sup>71</sup> 伊勢飯野郡伊射和の両替商;父を継嗣;  
 江戸両替店御為替御用方/1851退隠、国学者;本居春庭・本居大平門、「木曾路日記」著、  
 1834鉄胤かねたね「毀誉相半書」論評入、政胖まさやす[竹斎]の兄、大平撰「八十浦の玉」下巻入、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[風寒み垣ねの雪は消えなくに春來にけりと鶯の鳴く](八十浦;706)、

[星うたふ声さやかなる夜神樂に神のこころや澄みまさるらん](大江戸倭歌;冬1324)

[政壽(;名)の幼名/通称/号]幼名;八百吉、通称;彦太郎/彦左衛門、号;竹翁/素行、

法号;淡蒼風月光水居士

正附(まさす・堀田) → 正陳(まさのぶ・堀田/紀、藩主/若年寄) F 4 0 6 7

H4032 眞麿(まさまろ・大石おおい、魚住藤右衛門男) 1790-1837 48 大石家の養嗣子;肥後熊本藩士、  
穿鑿所目付/郡代/天守方目付;百五十石、国学;長瀬真幸まさき門、郷土史家;著作、  
1821「肥後古記集覽」、「菊池旧記」「隈部軍記」「隈部物語」「昔嘶聞書」「城村守戦記」外多数、  
[眞麿(;名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;素直、初名;長竜、字;潜夫、  
通称;十郎右衛門、号;鳳兮ほうけい、法号;広学院

H4033 昌麿(まさまろ・斎藤さいとう/笠倉) 1802-66 65 上総周准郡波岡村小浜の漁師、国学者/歌人、  
初め江戸蔵前の札差佐藤鉄之介に勤務/歌;橘守部・冬彦門、飯泉友輔・小林良典らと交流、  
安政の大獄で捕縛;刑は免れる、獄中「夢の浮橋」の一書を執筆;多く焼棄、  
「昌麿家集」著(没後刊)、1861松平春嶽「古今百人一首」入、  
[昌麿(;名)の通称/号]通称;源助、号;雲根斎

正麿(まさまろ・池坊) → 専正(せんしょう;法諱、池坊42世/華・歌) O 2 4 2 1

真麿(まさまろ・安元) → 真満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9

T4033 正美(まさみ・安江やすえ、) 1771- 1825 55 江中後期;美濃苗木の生/信濃伊那郡で医業、  
医・国学・歌;森広主門、歌人、  
[正美(;名)の初名/通称/号]初名;温、通称;恭三、号;静斎/文迪

Q4016 正躬(まさみ・島田しまだ、通称;三十郎) ?-1832 江中後期;摂津西宮の幕府西宮勤番所地付同心、  
国学者

H4034 正躬(まさみ・磯谷いそがや、通称;貞一郎/定一郎) ?-? 江後期化政期1804-30頃尾張藩士/町方吟味役、  
国学者;1810本居春庭門、歌に長ず、1819「槻の落葉名古屋餞別篇」著

H4035 正巳(まさみ・萩原はぎわら) ? - ? 江後期江戸小石川鷹匠町の書家/歌を嗜む、  
1848「夢百首」書、  
[正巳(;名)の字/通称/号]字;文寿ふみひさ、通称;紋次郎/門次郎、号;楽水/萩園/温故堂

Q4059 正躬(まさみ・田中たなか、) ? - 1861 江後期;出羽田川郡庄内大山の酒造業、  
総代名主、歌人;千種有功ありこと門、大滝光憲の一族、  
[正躬(;名)の通称/号]通称;徳右衛門/勘解太かげた、号;鵝湖

S4050 正弼(まさみ・前島まえじま/本姓;源、) 1801-64 64 信濃伊那郡大鹿村大河原(天領)の定名主を世襲、  
1824(文政7)定名主;村政指導;樽木くわきを江戸に納入の責任者、政美まさよしの父、  
国学者;平田鍊胤門、  
[正弼(;名)の通称]八郎九郎/靱負ゆげひ

Q4009 雅見(まさみ・清水しみず、) 1821- 1892 72 伊予の国学者/歌人;和氣貞規門  
[雅見(;名)の通称]源吉/保三/斎兵衛

P4082 正躬(まさみ・佐々木ささき、) 1822-1896 75 安藝山県郡の国学/歌人;近藤芳樹門、  
[正躬(;名)の通称/号]通称;八右衛門、号;蔵六蔵ぞうろくあん

H4036 正見(満佐美まさみ・羽田はねだ、羽田竜助利見男) 1826-93 68 江戸湯島の生/幕臣;1854家督嗣;  
出羽尾花沢代官・丹後生野代官/1864目付/65勘定吟味役/67勘定奉行、68駿府安東村移住、  
農業と子弟教育、1856「貨幣通考」、「読詩附箋」「講礼瑣言」「制度法議」著、  
[正見(;名)の通称/号]通称;次郎/十左衛門、号;安堂

R4006 正躬(まさみ・遠山とおやま、通称;惣兵衛) 1826-97 72 讃岐丸亀の歌人;物集高世門、  
1889「百人一首野守の鏡」著(序文)

H4037 正観(まさみ・成瀬なるせ/城所きどころ、成瀬正義男) 1838-1900 63 城所一夢斎の養子/伊予今治藩士、  
1856江戸で儒;林学斎・羽倉簡堂門、帰国後藩に出仕;1861京に派遣/藩校克明館教授、  
維新後は今治藩権大参事、「正観詩文稿」著、

[正観(；名)の別名/通称]別名；高介、通称；力/主税ちから

政美(まさみ・北尾) → 政美(まさよし・北尾、絵師) I 4 0 6 0  
政美(まさみ・高橋) → 梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩) B 3 6 4 7  
政躬(正巳まさみ・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1  
正美(まさみ・小林) → 葛古(かっこ/くずふる・小林こばやし、俳人) C 1 5 4 3  
正覧(まさみ・服部) → 日記(にっき・服部はつとり、日記随筆) D 3 3 7 9  
正己(まさみ・早野) → 橘隧(きつすい・早野はやの、儒者/講説/詩) I 1 6 6 5  
正視(まさみ・山岡) → 静山(せいざん・山岡やまおか、旗本/槍術家) N 2 4 8 5  
正身(まさみ・津田) → 政本(まさもと・津田つた、藩家老) H 4 0 9 4  
正躬(まさみ・小谷) → 秋水(しゅうすい・小谷おたに、藩士/儒者) H 2 1 7 8

H4038 正通(まさみち・橘たちばな、字；橘能、実利男) ?-? 982前没 平安前期廷臣；宮内卿、正四下、詩歌；源順門、具平親王の侍読、972女四宮歌合；講師/963善秀才詩合/977三条左大臣頼忠家歌合参加、後葉集入、勅撰；詞花122、

詩；本朝文粹・和漢朗詠・類聚句題・新撰朗詠・和漢兼作・擲兼抄・香藥字抄入、本朝神仙伝に伝記入、詩巻一帙(本朝麗藻入)は現存しない、

[秋風に露を涙となく虫の思ふ心をたれにとはまし](詞花集；秋122/女四宮歌合；虫声)

H4039 雅通(まさみち・源みなもと、通称；丹波中将、時通男) ?-1017 母；源堯時女、987父没；祖父雅信の養子、1005左近少将/蔵人/12左近中将兼丹波守/従四下/15出家、往生の説話が「法華験記」入、歌人；和泉式部・伊勢大輔と贈答、後拾遺集84、

[折らば惜し折らではいかゞ山桜けふを過ぐさず君に見すべき](後拾遺集；一春84)

(盛少将への贈歌/女の返歌；折らでたゞ語りに語れ山桜風に散るだに惜しきにほひを)

参考

→ 盛少将(さかりのしょうしょう、貞孝女/三条院女房) H 2 0 1 4

4020 雅通(まさみち・源みなもと；村上流、通称；久我内大臣こがのいだいじん、源頭通男) 1118-1175 母；源能俊女、叔父源雅定の養嗣子、廷臣；左近権中将/1150(久安6)参議/52右兵衛督/55従三位、1156(保元元)権中納言/57正三位/58左衛門督/60(永暦元)権大納言/従二位、1161(応保元)正二位/大納言/68(仁安3)皇后宮(建春門院)大夫/内大臣/右近大将、美福門院権亮/1172公卿勅使として伊勢に下向/74退任/75(承安5)没、正室；藤原家保女、妻(妾)；美福門院女房(藤原行兼女or長信女)、雅縁・通親・通資・雅平・通望・女2人の父、歌人；続詞花集・今撰集・月詣集・万代集・秋風集・拾遺風体集などに入集、勅撰10首；千載(6首126/583/662/812/859/987)新古(1226)続拾(1318)玉(2642)風(1289)、[入日さす山の端さへぞ恨めしき暮れずは春のかへらましやは](千載；126/三月尽の心)[美福門院の御服にて侍りけるを宣旨にて程なくぬぎ侍るとてよめる、心ざし深くそめたしふじ衣きつるひかずのあさくもあるかな](続詞花；哀傷430)

H4040 正通(まさみち・忌部いむべ) ? - ? 南北朝神道家；忌部神道説の展開に影響を与える、1366「神代口訣じんたいくけつ」著

S4048 正命(まさみち・真野まの、通称；半助) 1648-1723 江戸の幕臣；小普請、和学者、正陳まさつらの父

Q4044 正路(まさみち・田井たい、) 1685- 1750 大坂の歌人；香川宣阿門；儒学・連歌など修学、[正路(；名)の通称/号]通称；茂一郎、号；梅水堂

H4041 政方(まさみち・小堀こぼり/旧姓；滝田) 1700-75 母；多羅尾光忠女、小堀政因の養子/妻は政因養女、1717養父遺領相続；幕臣6百石/小姓組番頭/西丸御側役/知行5千石/760寺社奉行/67致仕、1732「曲水宴詩歌」著、

[政方(；名)の通称/法号]通称；山三郎/主殿とのも/式部、法号；日清

H4042 正路(まさみち・河原かわはら) 1712-1788 常陸水戸藩士/1760進仕、1784致仕、1772「神宮御祭礼記」著(；常磐山鎮座東照宮祭礼の次第の集録)、

[正路(；名)の通称/号]通称；太郎左衛門、号；採菊(；致仕後)

L4063 正方(まさみち・甲斐庄かいのしょう/本姓橘、通称；武助、馬場三左衛門信篤男) 1734-1814 江中期幕臣、甲斐庄正雄の養子、幕府評定所番/支配勘定/評定所留役/評定所勘定組頭、歌；冷泉家門、武州大師河原の池上幸豊(1718-98)と交流(池上家文書に書簡入)、1798広通「霞関集」入、妻；鈴木常右衛門英香女、

[晴れぬべき空をもいつと待ちわびぬ五月の日数雨にふるころ](霞関272/五月雨)



[正方(;名)の通称] 武助

- H4044 **政方**(まさみち・小堀こぼり、初名;政弥まさみつ、政峯7男)1742-1803<sup>62</sup> 山城伏見の生/近江小室藩主;  
1761父の遺領襲封、従五下/備中・和泉守、大番頭/伏見奉行;重税課し町人の越訴;  
1785(天明5)免職、1788改易;小田原藩主大久保忠領に永預け、  
茶道;父門/画を嗜む、「宗友記」編、  
[政方(;名)の通称/号]通称;金次郎、号;宗友そうゆう/修禅庵、妻;牧野康周女
- M4004 **正路**(まさみち・小原おはら、初名;正道)1745-97<sup>53歳</sup> 備前岡山藩士、国学/歌、  
[正路(;名)の字/通称/号]字;義卿、通称;弥一郎、号;魯庵
- L4016 **正路**(まさみち・古川ふるかわ、茂正しげまさ男)?-? 丹波福知山藩士/地誌家;父門、  
父茂正と篠山藩永戸貞著の丹波地誌編纂事業を継承・1794「丹波志」完成:藩主に献上;  
(総論と多紀・天田・氷上三郡を追加した)
- H4046 **修融**(まさみち・石井いい) ?-? 江後期寛政-文政1789-1830頃常陸筑波郡筑波山町の人、  
連歌:里村玄碩門、屢々筑波山で連歌会主催、連歌の集大成に尽力;「連歌叢書」(70余巻)編、  
1797「廿八社略縁誌」編/1811「筑波山奉納詩集」編/22「古今鐘銘集」29「奥羽名所の記行」著、  
「古代連歌集」編/「常陸俗諺志」著
- L4091 **正道**(正路まさみち・松平まつだいら/本姓;源、正升の長男)1765-1808<sup>44歳</sup> 大河内松平家7代目、  
1788従五下/備中守、1803(享和3)父隠居により家督継嗣;上総大多喜藩第5代藩主、  
通称;隼人、妻中川久徳女、正敬・正従らの父、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[雪消えぬ深山の里は鶯の鳴くねや春のしるしなるらん](大江戸倭;春100)
- N4094 **正路**(まさみち・植村うゑむら、)1772-1817<sup>46</sup> 江戸幕臣;鳩組御書院与力、和学者、  
歌人;加藤千蔭・村田春海門、  
[正路(;名)の通称/号]通称;金平、号;荻廼舎おぎのや
- H4043 **正道**(まさみち・武藤むとう、致和むねかず男/本姓;藤原)1779-1838<sup>60</sup> 高知豪商美濃屋の生、国学/歌、  
画も嗜む、父の著「南路志」120巻編纂を兄平道と支援(;図絵・筆蹟の鈔写を担当)、  
1814「古武器之図」著、  
[正道(;名)の通称/屋号]通称;忠左衛門/忠次郎/宗二、屋号;美濃屋  
父 → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8  
兄 → 平道(ひらみち・武藤、商家/国学者) F 3 7 4 1
- T4022 **旁通**(まさみち・守田もりた、)1779-1854<sup>76</sup> 周防玖珂郡の国学者;安田広治門/歌;香川景樹門、  
[旁通(;名)の初名/通称/号]初名;季豊、通称;半之助/長右衛門/兵左衛門、  
号;室屋/琴舎
- H4047 **正通**(まさみち・馬場ばば、三郎助男)1780-1805<sup>早世26</sup> 近江高島郡東万木の経世家、  
近江大溝藩に出仕、1797江戸へ従役/98致仕、江戸で儒(経世);鷹見星皐門、  
1801幕府目付の蝦夷巡見の従者、1804箱館奉行羽太正義に随従し箱館で学舎建設;教育、  
1805病で江戸で没、1801「北征日誌」02「万木雜稿」03「造幣策」、「蝦夷古今変」、「長夜余論」著、  
「ゆるき物語」「浮宝志」外著多数、  
[正通(;名)の字/通称/号]字;子成、通称;源二郎/右源次/寛蔵、号;権斎
- H4048 **政通**(まさみち・鈴木すずき) ?-? 江後期江戸の石州流茶人;3世伊佐幸琢(半寸庵)門、  
1854(嘉永7)9月19日成島錦江追悼和歌会に佐々木一陽かずあきらと参加(硯北日録入)、  
1796「茶人系譜」著、1804「古今茶人華押」編/35「古今茶人華押叢」著、「千家系譜」編、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[よしさらば吹くにまかせて散る花を木末こずゑにかへせ庭の春風](大江戸倭歌;春301)、  
[政通(;名)の通称/号]通称;宗休、号;半静/半静庵
- H4051 **正迪**(まさみち・西島にしじま) ?-? 江後期蘭学者;大槻玄沢の芝蘭堂修学、  
1804「磐水(玄沢)先生著述書目」編
- H4052 **正路**(まさみち・根津ねづ、通称;清次郎)?-? 江後期国学者、「藩翰譜続篇」編纂に参加、  
屋代弘賢と交流、歌人、1809-11「草庵百首組題詠草」
- P4085 **方達**(まさみち・佐藤さとう、)1778-1829<sup>52</sup> 近江彦根藩士;手代役、国学/歌人;小原君雄門、  
歌;[彦根歌人伝・寿]入、  
[方達(;名)の通称/号]通称;七郎平、号;竹雄亭

- H4053 **政方**(まさみち・名島なじま/北川/村主/秦、度会わたり政範まさのり男)?-1832 伊勢一志郡大村の医者、国学;谷川士清ことすが(1709-76)門/足代弘訓門、1826「晤語ご」(高橋知周序)、41「雙樹落葉」、「宇知登能玉伽伎」「神代管窺」「神代紀略解」「等由氣太神宮儀式帳鈔」著、  
[政方(;)名)の別名/号]別名;政身、号;文方/桃源/雙樹園なみきのその
- Q4038 **正路**(まさみち・鈴鹿すずか、通称;主殿とのも/号;松亭)1781-1847<sup>67</sup> 京の吉田家の雑掌、歌;香川景樹門
- H4049 **政通**(まさみち・渡部わたなべ、通称;平太夫)1785-1848<sup>64</sup> 伊勢桑名藩士/米蔵の出納掛、  
1839養子勝之助(簀斎)が桑名藩領越後柏崎勘定役に赴任の9年間桑名情勢を日記で送る;  
1838-48「桑名日記」著
- 4006 **政方**(まさみち・関せき、関藤せきとう政信男)1786-1861<sup>76</sup> 備中小田郡吉浜の医者;村上伊豆門、  
笠岡で医者、国学・歌;小寺清先門、上代音韻額に通ず/詩・俳諧を嗜む、  
東条義門・木下幸文らと交流、語学;1835-36「傭字例」36「春風消息」40「声調篇」著、  
1842「傭字例評辨」44「男信質疑」、「衣耶美」「嘉平田舎詠草」「言葉のかけはし」著、  
「神遺方傍註」「厚顔抄書入」「拝学問」著、姓の関は関藤の一字姓、  
関藤藤陰とういん(儒者)の兄、  
[政方(;)名)の別書名/字/通称/号]マサケの別書;正方/政三千/政御路/万沙御路、  
字;子常/士常、通称;常三郎/立介、  
号;鳧翁きょうおう/葭汀/嘉平田舎かへでのや/鶏頭樹屋かえでのや/杏隱居士、
- H4050 **政通**(まさみち・鷹司たかつかき、関白政熙まさひろ男/本姓;藤原)1789-1868<sup>80</sup> 廷臣;1801(13歳)権大納言、  
1815従一位左大臣、1823(35歳)関白氏長者/42太政大臣/46摂政;朝幕の交渉、  
公家の学問所(学習院)設立/1856関白辞任し准三后;太閤の称、58日米条約時に攘夷論、  
関白九条尚忠と対立/55安政大獄時水戸と内通の嫌疑受け將軍継嗣にも関与;59落飾退隠、  
歌学研究/有職故実・書道・茶道に精通、「歌詠格之事」「詠歌之口伝」「詠歌之愚意草」、  
「拾玉抄」編、「秀歌大牀朱墨井蛙抄」「歌道伝授之事」「肩鼓匡皮集」「詠歌之口伝」外著多数、  
幼名;為君、法名;拙山/法号;眞誠院、母;蜂須賀重喜女/輔熙の父  
[夏蔭の青葉の山の遅桜春をここにやとめて咲くらむ](松平春嶽[古今百人一首]入)
- H4054 **正路**(まさみち・新見しんみ、正登男/本姓;源、母;かよ)1791-1848<sup>58</sup> 幕臣;伊賀守、御小納戸/御使番、  
目付/1829大坂西町奉行;淀川大浚工事に尽力/1831西丸小姓組番頭格式/41御側御用取次、  
1843水野忠邦失脚で罷免、歌人、書籍蒐集;賜蘆文庫と称す、1834-40家集「茅山ぼうざん樵集」、  
1812-45「賜蘆詠草」「歌稿」/1826-48「新見正路歌文稿」/1830「安治川浚渫記」、「茅山秀葉」、  
「賜蘆拾葉」「雙輝抄」編、「賜蘆書院儲蔵志」「観菊詩歌」「糸桜詩哥」「教訓抄」外著多数、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[入日さす高田の千町末晴れていなばの雲に落つる雁がね](賜蘆詠草;新見正路歌文稿)、  
[隅田川堤の桜咲きにけり波の花さへ香に匂ふまで](大江戸倭歌;281河上花)、  
[正路(;)名)の字/通称/号]字;義郷、通称;吉次郎/兵部少輔/河内守/伊賀守、  
号;茅山/賜蘆/賜蘆堂しどう、法号;正学院
- B4092 **政方**(まさみち・橋本はしもと)1792-1852<sup>61</sup> 奈良奉行所の与力/大和奈良池之町住、  
「奈良役所雑記」著、  
[政方(;)名)の通称/号]通称;喜久右衛門きくえもん、号;陶々
- H4055 **正盈**(まさみち・間島まじま、易清男)1800-32<sup>33</sup> 尾張名古屋藩士;1817家督嗣、馬廻/藩主小姓、  
書院番/小納戸/膳番/表錠口番/1831(天保2)致仕;寄合、歌;芝山国豊門/書を嗜む、  
「間島正盈家集」著、  
[正盈(;)名)の通称/法号]通称;安四郎/源太郎/源次郎、法号;勝安院、冬道ふゆみちの父
- H4056 **昌通**(まさみち・武藤むとう、通称;外記、康昌男)1800-68<sup>暗殺69</sup> 母;栄名井広聡女、  
甲斐御坂檜峯社神主、幼少時父と死別;母の訓育を受ける、小沢雅楽之助信秀の師、  
幕末に同志を募り護国隊の組織を企画;釜無川原で暗殺される、「武藤外記日記」著
- L4094 **正路**(まさみち・塩谷しおのや、正義男)1801-74<sup>74</sup> 母;塩谷かね、父が代官の天領丹後久美浜に生、  
1812父が大坂代官;大坂谷町に移住/16父は日田代官となり単身赴任、家族と江戸役宅住、  
1823(文政6)幕臣として仕官;小姓組・書院組(両番)、25小納戸役;將軍家慶4男政之助付、  
1836父没;家督継嗣/51大夫;中務少輔/正五位豊後守;西丸小納戸頭;1500石、  
1858政之助が將軍世子家茂となる;60家茂が將軍となる;功績とし呉服を賜る、1864隠居、

息子正是が家督を嗣ぐ、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[いかにして折り残しけんかち人の行来もしげき岡のさわらび](大江戸倭歌；春172)、

[正路(；名)の幼名] 捨五郎、通称；中務少輔なかつかさのしょう/豊後守

S4069 **正迪**(まさみち・松田まつだ、通称；甚十郎)1803-30**早世**28 伊勢津の国学者・歌；富樫広蔭門

H4057 **正路**(まさみち・中田なかつ、通称；甚三郎、鷹匠中田甚三郎正帰男)?-? 江後期旗本/鷹匠、

1846「諸国鷹出所地名郡附」著

H4058 **正路**(まさみち・井上いのうえ、正治男)?-1855 幕臣；1827父の遺跡継嗣/鉄砲方；1831先手鉄砲頭、

將軍の日光参詣御供/1850近海岸検分に派遣、1843「鉄砲初学抄」著、47「井上流調積集」編、

「井上流塩硝製法」編/「井上流鉄砲近要抄」「魯西亜戦艦架砲図説奇正」「玉町之巻」著、

[；名)の通称]紹太郎/左大夫さだいふ

H4045 **正路**(まさみち・津田つだ) ? - 1863 幕臣；1848小納戸/56目付、

1857米国総領事ハリスの出府を奏上のため上京、紀州徳川慶福(家茂)の養君用掛、

1858応接掛；露・英・仏三国との通商条約調印、箱館奉行/1860外国奉行/63勘定奉行、

1864大目付、1854「異国往来略譜」著、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[降る雪に磯辺の松はうづもれぬ梢も波と思ふばかりに](大江戸倭歌；冬1263/松雪)、

[正路(；名)の通称] 半三郎/近江守

M4071 **正路**(まさみち・瀬能せの)1807 - 1870**64** 長門萩藩士；大検使格、国学・歌；前田夏蔭門、

松下下の蔵書家として有名、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[大伴のみの浦松まつらめど昔の人は浪のうたかた](大江戸倭歌；雑1769/海辺松)、

[正路(；名)の別名/通称]別名；言直、通称；吉次郎

04031 **正路**(まさみち・大塩おおしお)1808-1893**86** 常陸笠間藩士；牧野家の重臣/時習館教授、

のち輪王寺宮に出仕、国学者/詩歌人、「張弛軒詩歌集」、

[正路(；名)の号] 義卿/張弛軒

M4011 **政方**(まさみち・羽太はた/本姓；藤原、正栄男)?-? 江後期；旗本/幕臣；1821將軍家斉の御目見、

1823父没；家督継嗣；400俵/書院番/御徒頭、1963(文久3)御役御免；寄合/隠居；息栄次郎嗣、

歌；1858蜂屋光世「集」入、

[はづかしと神も思はん葛城や久米路の橋を照らす月影](大江戸倭歌；880)、

[政方(；名)の初名/通称/号]初名；伊之吉、通称；左衛門/伝十郎/左京、致仕号；閑山

H4059 **正道**(正通まさみち・新居にい/あらい、稲葉男)1821-85**65** 阿波名東郡田宮村新明社社司/菅原神社神主、

国学者；本居内遠・池辺眞榛まはり門、歌・考古学に通ず、猪熊方主・坪内主水と親交、

徳島藩校長久館教官/大麻比古神社禰宜、

「新居正方詠草」「淡路廻道艸」「山陵図絵」「名乗字引」「律令図解」/1855「伊勢両宮神宝図」、

「大麻比古神年中祭事記」「新居因幡守神事諸控書」「丹生社考」「銘読書」外著多数、

[正道(；名)の別名/通称]初名；正方まさみち、通称；**稲葉**/因幡守

H4060 **正通**(正道まさみち・丸田まるた)?- ? 江後期越後新発田藩士、最上流和算家；

会田安明門(最上流四天王の1)、1848「算法撰術要法」、「算法天生法」編/「弧背眞術」外著多、

[正通(；名)の字/通称/号]字；子周、通称；源五右衛門、号；景山、山本方剛の師

P4034 **正道**(まさみち・清岡きよおか、)1826-1864**処刑**39 土佐安芸郡の郷士；文武を修行/尊攘運動家、

清岡道之助の従兄、江戸の安積良斎門/平田国学研究、勤王志士として土佐勤王党に参加、

1862(文久2)勅使三条実美江戸下向に副使姉小路公知に随従、

1863(文久3)首領の武市瑞山ら幹部が投獄；その釈放要求のため安芸郡野根山に集結；

従兄ら同志22人と共に捕縛；1864(元治元)奈半利河原で処刑

[正道(；名)の通称/号]通称；**治之助**じのすけ、号；曲水/桂山

N4009 **政達**(まさみち・浅井あさい/本姓；藤原)?-1869 江後期伊予の歌人、松山藩士浅井政紀まさのりの父

歌；[ひなのてぶり]に7首入、

[政達(；名)の通称/号]通称；虎之介/新三郎、号；月まろ/月丸

R4009 **正路**(まさみち・富田とみた、旧姓；岩沢)?-1880 信濃飯田藩士、歌人、

[正路(；名)の初名/通称]初名；協、通称；藤治/柔太郎

S4083 **正道**(まさみち・三浦みうら/本姓；藤原、)1828-87**60** 石見邑智郡の日和神社社司、国学者/歌人、



国学・歌学; 大國隆正門、維新後; 島根県神社取調員/ 皇典講究所地方委員、  
隠岐騒動の後; 隠岐水若酢みづわかし神社宮司、  
[正道( ; 名) の通称] 上総/ 大炊おい

P4039 **正道**(まさみち・楠原くすはら、) ? - 1897? 備前和気郡の国学者・歌; 藤原忠朝(1820-93) 門、  
のち歌; 大阪瓦町中村良顕(1829-1900) 門/ 大坂住、  
[正道( ; 名) の通称] 礼右衛門/ 志朗

Q4074 **正路**(まさみち・高宮たかみや、) 1841-1922<sup>82</sup> 豊後佐伯藩大坂定府、国学者/ 歌; 黒沢翁満門、  
歌人; 近藤芳樹門、のち枚方神社少宮司、  
[ひげ長き海老江の松の千代かけてふとしき立てる宮柱かな](住吉大社を詠)、  
[正路( ; 名) の別名/ 通称] 別名; 正老、通称; 文吉郎/ 健介

正路(まさみち・本庄)	→	宗敬(そうけい・本庄ほんじょう/ 藤原、茶人)	G 2 5 9 6
正路(まさみち・和田)	→	烏江(うこう・和田、藩士/ 儒者/ 書家)	C 1 2 1 8
正路(まさみち・浅井)	→	南溟(なんめい・浅井あさい、医者)	J 3 2 5 8
正路(まさみち・奥宮)	→	暁峰(ぎょうほう・奥宮おくみや、儒/ 書家)	I 1 6 8 2
正路(まさみち・山中)	→	敬叟(けいそう・山中やまなか、医者/ 砲術書)	G 1 8 3 1
正路(まさみち・丸山)	→	作楽(さくら・丸山、藩士/ 国学/ 詩歌)	F 2 0 1 3
正路(正道まさみち・津江)	→	四谷庵月良(よつやあんつきよし; 号、幕臣/ 狂歌)	I 4 7 1 6
正路(まさみち・倉知)	→	瑞枝(みずえ・倉知くらち、兵学・国学者)	I 4 1 9 8
正通(まさみち・柄井からい)	→	川柳(初世せんりゅう、名主/ 前句付点者)	2 4 3 9
正通(まさみち・稲葉)	→	正往(まさゆき・稲葉いなば、藩主/ 老中/ 茶)	N 4 0 7 3
正道(まさみち・志賀/ 原)	→	徳斎(とくさい・原はら、儒者)	K 3 1 7 2
正道(まさみち・勝野)	→	台山(たいざん・勝野かつの、勤王家)	K 2 6 0 9
正道(まさみち・井上)	→	正岑(まさみね・井上、藩主/ 幕政)	H 4 0 7 1
正道(まさみち・田端)	→	年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/ 国学)	V 3 1 5 6
正道(まさみち・赤川)	→	知哲(ともさと・赤川あかがわ/ 岩松、藩士/ 歌)	T 3 1 9 1
正道(まさみち・公地)	→	美能理(みのり・大原おおはら/ 公地、国学/ 歌)	I 4 1 4 9
匡道(まさみち・広橋/ 交野)	→	時雍(ときちか・交野かたの/ 平、廷臣)	J 3 1 2 8
雅通(まさみち・船田)	→	耕山(こうざん・船田ふなだ、書家)	B 1 9 4 7
雅通(まさみち・原田)	→	槐雲(かいうん・原田はらだ、神職/ 国学)	V 1 5 4 4

H4061 **雅通女**(まさみちのむすめ・源みなもと、通称; 権中納言、丹波中将源雅通女) ?-? 平安中期女房歌人、  
1013後一条天皇皇女の斎院馨子内親王の乳母/ 1031馨子内親王の着袴に奉仕、  
後拾遺集884、備前典侍の妹か/ 同一説もある、丹波乳母と同一説もある、  
[わりなしや心にかなふ涙だに身のうきときはとまりやはする](後拾遺; 十五884)  
(あだし心の藤原定輔とのこじれた恋の歌)、

→	備前典侍(びぜんのみすけ・源、雅通女)	C 3 7 5 3
→	丹波乳母(たんばのめと・源、雅通女)	E 2 6 9 4

H4062 **正光**(まさみつ・藤原ふじわら、関白太政大臣兼通男) 957-1014<sup>58</sup> 母; 藤原有年女、平安中期廷臣;  
1004参議、大蔵卿、中宮亮; 彰子に出仕、顕光・朝光・皇子(円融天皇皇后)の兄弟、  
土御門御匣殿の父、  
歌; 正暦990-95頃花山法皇東院歌合参加、逸話; 枕草子入( ; 耳とき人)、新古今1503;  
[浮雲に隠れてとこそ思ひしかねたくも月のひまもりにける](伊勢大輔への返歌)、  
(正光の朧月夜に忍び訪れる姿をみて;

浮雲はたち隠せどもひまもりて空ゆく月の見えもするかな/ 伊勢大輔; 1502)

H4063 **政光**(まさみつ・渋江しぶえ、初名; 弥五郎、荒川秀景男) 1574-1614<sup>戦死</sup><sup>41</sup> 下野の生、  
父は下野豪族小山家の臣/ 秀吉の北条征伐で浪人; 1589常陸佐竹家家臣人見藤道に寄寓、  
その紹介で佐竹義宣の近侍/ 1593小山家旧臣の渋江兵部大輔氏光うじみつ<sup>41</sup>の養子、  
1602国替で秋田藩士; 藩主佐竹義宣に重視され家老; 新領地経営に尽力; 渋江田法を立案、  
大坂冬の陣今福の戦で戦死、「検地秘伝之書」「古今検地之大意」、連歌; 1614「唐何百韻」、  
[政光( ; 名) の通称/ 法号] 通称; 内膳、法号; 全良寺殿孝山政光大居士

S4053 **正満**(まさみつ・曲淵まがりぶち、通称; 彦助/ 庄左衛門) ?-1705 江戸の幕臣; 大番、和学者

- H4064 **雅光**(まさみつ・白川しらかわ/本姓:源、雅光王、雅喬男)1660-1706<sup>47</sup> 母;四辻公理女、1679神祇伯、1688従三位/98病のため辞伯;弟雅冬に讓伯/1704還任/05従二位/07辞伯、「雅光王記」、1687「小忌事」「改名款状」「大嘗会御拝相伝記」、「白川家日記」「神祇官神拝作法」外著多数、[雅光(;)名]の別名]初名;雅元
- R4056 **昌光**(まさみつ・羽間はさま、旧姓;井岡/村上、)1696-1724<sup>早世29</sup> 大坂の商家、国学者、羽間重義の甥?、[昌光(;)名]の通称/号]万吉/十一屋清市郎/丈助、号;梨棗<sup>りそう</sup>
- H4065 **昌充**(まさみつ・岡おか、初名;昌実/昌賀、昌喜男/本姓;太秦)1704-82<sup>79</sup> 楽人、父昌喜が江戸へ招聘され同行し以後江戸住/1756従四下/駿河守、「昌充聞書」著
- T4046 **昌満**(まさみつ・山崎やまさき、通称;与三左衛門よそうさもん)?-1799 長門萩藩士;遠近方(給禄帳管理職)、歌人;[萩の歌人]入、799(寛政11)没、[山川の氷流れて改玉のとし浪ぞ今日立初そめにける](萩の歌人)
- Q4070 **眞盈**(まさみつ・高野たかの)1755-1833<sup>79</sup> 近江彦根藩士、歌人;[鳩のうみ]入、[眞盈(;)名]の通称/号]通称;久兵衛/重之進、号;丸斎
- H4066 **昌盈**(まさみつ・内藤ないとう)1759-1834<sup>76</sup> 長門萩藩士/藩校明倫館で修学;山根南溟門、藩主毛利斉房の近侍、江戸直目付・明倫館用掛歴任/1812斉房室貞操院浦年寄/29致仕、1821「官暇漫吟」著、[昌盈(;)名]の字/通称/号]字;子謙、通称;順太/十郎兵衛、号;静修  
☆蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入の[昌盈]と同一?  
[いかにしてあらはれそめしうき名ぞと今宵の空の月にとはばや]、(大江戸倭歌;恋1460/顕恋)、[汐風の荒き磯辺の岩がねにくだけてかへる沖つ白浪](同;雑1683/磯巖)
- H4067 **緝光**(まさみつ・深栖ふかす) ? - ? 江中期儒者;若林強斎門;闇斎学修学、西依墨山門、1785「中臣祓講義」、「詩伝師説」「中庸輯略師説」著
- H4068 **正盈**(まさみつ・石山いしやま、通称;彦右衛門)?-? 江中期常陸水戸藩士/和算家、1723「算法指掌」編、「算法図解指掌大成」著
- H4069 **雅光**(まさみつ・飛鳥井あすかい、雅威男/本姓:藤原)1782-1851<sup>70</sup> 母;本多康伴女、廷臣;1806従三位、1831権大納言/49従一位、歌:「二条家和歌詠草認方」「和歌三部抄切紙」、蹴鞠;「鞠之記」著
- 04019 **真満**(まさみつ・安元やすもと、)1811-1860<sup>50</sup> 筑後久留米の若宮八幡宮祠官、国学・歌;本居大平門、佐久美さくみ(滋足げたり)の父  
[真満(;)名]の別名/通称/号]別名;真麿/真春、通称;監物/志摩/肥後守、号;檀舎
- H4070 **正光**(まさみつ・宮川みやがわ/本姓:源、秋山正知男)?-1863 幕臣旗本;宮川姓を称す/小姓組番頭、1859山田奉行;任地で没、従五下/安房守、1860「松杉しょうさん和歌集」(伊勢名所の神職の歌、正光の発起/大中臣長量・御巫清直編)
- 04029 **正盈**(まさみつ・大神おおが、通称;土佐守)1834-1904<sup>71</sup> 近江栗太郡の鞭崎神社官司、国学;皇典修学、歌人;香川景樹門?、1861(文久元)従五位土佐守/1873江若福参謀/85建部神社官司
- 04090 **正満**(まさみつ・勝野かつの、正道[台山/1809-59]男)?-?明治1868-1912<sup>頃没</sup> 国学者、1886「諺百人一首」編
- P4060 **将満**(まさみつ・小島こじま、小島兵馬4男)1839-1868<sup>処刑30</sup> 母;やす、下総相馬郡の富豪郷士の生、家督継嗣、国学と兵学を修学/私塾を開く、1861(文久元)上州・信州・羽州を遊歴、尊攘活動に身を投ず/1863小島家から5千両の資金を得て関東の義勇軍組織に尽力、桃井可堂の慷慨組の赤城山挙兵を援助;失敗/1864天狗党の乱に参戦;失敗/江戸に帰る、1866(慶応2)上洛し活動;西郷隆盛・大久保利通と交流、67西郷の命を受け江戸で倒幕運動、西郷の指示の指示で益満休之助と伊牟田尚平らと江戸薩摩藩邸拠点に関東の擾乱を企画、江戸で放火・略奪により幕府を挑発;幕府軍による江戸薩摩藩邸の焼討事件;紀伊に脱出、1868(慶応4)戊辰戦争が勃発;近江の金剛輪寺で赤報隊を組織;隊長となる、東山道鎮撫総督府に随わず単独で東山道で活動;新政府の命令にも従わず官軍名を使用、信濃下諏訪宿で偽官軍として捕縛;幹部8人と下諏訪で処刑、この報に妻の照は自殺、一般に変名の[相良総三さがらそうぞう]で通称される、[将満(;)名]の別名/字/通称/変名]別名;健夫/武振、字;信臣、通称;四郎/四郎左衛門、変名;相良総三・村上四郎・内田四郎・二荒二郎

- S4084 **和光**(まさみつ・三室戸みむろど、陳光2男) 1842-1922<sup>81</sup> 京の三室戸家8代当主;華道/神職、維新後;伊勢神宮大宮司、妻;武者小路唯子(武者小路公香長女)、後妻;鷺尾房(鷺尾隆聚4女)、鷺尾光遍・土御門晴善の父  
昌光(まさみつ・春木/中西)→ 弘通(ひろみち・中西/度会/春木、神職) H 3 7 3 3  
昌充(まさみつ・滝本) → 柳蔭(りゅういん・滝本たきもと、歌人/儒者) C 4 9 7 6  
雅光(まさみつ・源) → 雅光(まさてる・まさみつ・源みなもと、廷臣/歌) E 4 0 2 2  
将光(まさみつ・町/柳原) → 淳光(あつみつ・柳原/町まち、廷臣/記録) E 1 0 8 4  
正光(まさみつ・片山) → 敬斎(けいさい・片山かたやま、書家) F 1 8 6 4  
正盈(まさみつ・間島) → 正盈(まさみち・間島、歌人) H 4 0 5 5  
正盈(まさみつ・橘) → 峻江(しゅんこう・橘たちばな、書家/文筆家) K 2 1 6 8  
正盈(まさみつ/まさみち・都築/畠中)→ 胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観斎、狂詩) 3 1 2 2  
政弥(まさみつ・小堀) → 政方(まさみち・小堀こほり、藩主) H 4 0 4 4  
政満(まさみつ・石井) → 三庵(さんあん・石井いし、藩の侍医) L 2 0 7 5  
雅光王(まさみつおう) → 雅光(まさみつ・白川/源、神祇伯/記録) H 4 0 6 4
- H4071 **正岑**(まさみね・井上いのうえ、別名;正通、正任男) 1653-1722<sup>70</sup> 母;本多忠義女、1690大和守、1693美濃郡上5万石を襲封/97丹波亀山藩主に転封/99若年寄/1702常陸笠間藩主に転封、1705老中/河内守/06侍従、儒者;将軍家綱に論語を講ず/国絵図完成、「諸家群集秘録」著、[正岑(;名)の通称/法号]通称;巳之助/民部、法号;良覚知方日成泰量院
- H4072 **正岑**(まさみね・橘たちばな) ? - ? 詩人;石川丈山門、1691丈山「北山紀聞ほくざんきふん」共編(;鷗波・伯琳らと)
- L4058 **正峯**(まさみね・雨宮あめのみや/本姓;源) 1670-1745<sup>76</sup> 幕臣;御書院番(正峰に改名)、桐間番、1710(宝永7)致仕、歌;中院家門/のち烏丸家門、1745(延慶2)没、1798刊広通「霞関集」入、[埋もれし軒端の梅の花の紐下解けぬらし匂ふ白雪](霞関;春51/軒梅)、[正峯(;名)の別名/通称/法名]初名;正好/正純、通称;長太郎/隼人、法名;正峰(剃髪後に名を法名とす)
- H4073 **政岑**(まさみね・榊原さかきばら/大須賀、初名;高胤、旗本榊原勝治男) 1713-43<sup>31</sup> 父命で大須賀を名乗る、1731兄勝久没;旗本を継嗣;榊原勝岑と改名、1732榊原政祐まさすけの養嗣/姫路藩主;政岑名、吉宗の儉約令を無視し遊興;1738国元の一揆をよそに吉原で豪遊;三浦屋の高尾を請出、1739吉宗の怒りを買って強制謹慎蟄居/41家督を嫡男政永が継嗣;越後高田藩に転封、高田では息子を支え儉約し新田開発・灌漑工事など名君に豹変、逸話多し
- Q4083 **政峯**(まさみね・立川たちかわ、) 1723-1802<sup>80</sup> 近江甲賀郡和田村の農業/米・粟・綿の交易、藤堂家などの金融にも関与、歌人;澄月門、俳諧も嗜む、妻;中尾家の女/長男専太郎早世/1783(天明3)2男政伸(俳人曾秋[1758-1815])に家督譲る、[政峯(;名)の通称/号] 卯之助/庄十郎/金右衛門3世/庄八、号;遊賀(;俳号)、
- H4074 **正岑**(まさみね・宮下みやした/本姓;源、修姓;宮、堀越貞兵衛男) 1774-1838<sup>65</sup> 宮下正昌の養子、信州伊那郡飯島村の名主、国学・歌;桃沢夢宅門/1804古今伝授を受、澄月の孫弟子、1807以降香川景樹に親近;桂門歌人と交流、彫刻に長ず;歌集板木・仏像など、妻;とみ(1781-1814/歌人)/正宜まさよし(1797-1859)の父  
1824「古今集朗解」著/30家集「峯の若葉」、31「夢宅和歌集」編・澄月家集「垂雲和歌集」編、1836「歌学卞和玉かがくべんかぎよく」、「桂乃曲枝」「千蔭正岑百番歌合」「三吟和歌集類題」、「三吟集」「二百番歌合」「しきしま日記」「今様小唄」「農夫論語」「山路の夢」「百さへづり」、「鬼拉句集」「東都紀行」「脚本相生染恋の色揚」「豊岡弥生奥の記」「おのが心」外著多数、[正岑(;名)の幼名/通称/号]幼名;直三郎、通称;八右衛門/栄七郎/鎮平/棟平、号;自然亭鬼拉じねんていきらち、屋号;多賀屋、法号;高雲正岑居士  
正峰(まさみね・加藤) → 巨橙(きょとう・加藤かとう、俳人) P 1 6 9 3  
正峯(まさみね・保科) → 正静(まさやす・保科ほしな、幕臣/記録) I 4 0 0 3  
整峰(まさみね・殿村) → 整方(まさかた・殿村とのむら/山上、商家/国学) R 4 0 0 8
- H4075 **雅宗**(まさむね・飛鳥井あすかい/家名;二条、雅孝男/本姓;藤原) ?-1343 廷臣;1340右兵衛督/43従三位、一時雅光の名/経有・雅家の兄弟/嗣子雅冬まさふゆは実弟、歌人;1359光厳上皇仙洞三席御会始に参加、藤葉集入集、



勅撰3首;新拾遺(1210)新続古(963/1759)、  
[あさからぬ契の程は年月のつもるにつけて人も知るらん](新拾;恋1210/契経年恋)  
[八月十五夜仙洞に三首歌講ぜられし時、  
野辺に咲く萩のにしきのたてぬきにおりえて今宵すめる月かな](藤葉;秋244)

H4076 **政宗**(まさむね・伊達だて、法名円孝、宗遠男/本姓;藤原)1353-1405?53? 南北期武将、五下兵部権少輔、  
大膳大夫、陸奥伊達郡を本拠;9世、陸中中部を支配、伊達家を中興、  
1397上洛し足利義満と親交、1399(応永6)・1402(応永9)鎌倉公方足利満兼に叛逆し敗退、  
妻;石清水善法寺通清法印の女(義満の母の姉妹)  
歌;新後拾遺878、伊達家は代々歌や連歌を嗜む;父宗遠・孫成宗・玄孫植宗たねむねなど、  
[明けばまたひとりや行かん夜もすがら月に友なふうつの山越](新後拾遺;羈旅878)

H4077 **政宗**(まさむね・伊達だて、賜姓;羽柴/松平、輝宗男/本姓藤原)1567-163670 母;義姫(最上義守女)、  
植宗たねむねの曾孫、伊達氏17世/米沢城武将、  
1584家督;90奥羽大半を領有/秀吉に臣従/91岩出山築城/1600関ヶ原で徳川方、  
1601仙台移城/03初代仙台藩主、従四下右近衛権少将/陸奥守/参議、従三位権中納言、  
1613南蛮貿易企画;支倉常長をローマ派遣/禁教のため挫折、贈従二位、  
正室;三春城主田村清顕女(愛姫/陽徳院)、側室;新造の方・飯坂局・於山方・莊厳院・勝女姫、  
子;秀宗・忠宗・宗清・宗泰・宗綱・宗信・宗高・竹松丸・宗実・宗勝・亘理宗根・五郎八姫の外多、  
詩/歌;近衛信尋・烏丸光広門、幽斎/長嘯子と雅会催/連歌;青葉城「若菜連歌」催(恒例)、  
百韻連歌多数、茶;利休/織部門、能楽/書道、「貞山公集」「貞山公詩鈔」「仙台黄門公歌集」、  
[皆人は帰る浪なる名取川われは残りて瀬々の埋木]、  
[政宗の幼名/通称/号]幼名;梵天丸、通称;藤次郎、号;貞山、法号;瑞巖寺殿、  
神号;武振彦命、渾名;独眼竜

H4078 **政致**(まさむね・河田かわだ、通称;弥兵衛)?-? 江戸期石見津和野藩士/歌、「柿元社奉納和歌集」  
正宗(まさむね→しょうじゅう;道号)→ 龍統(りゅうとう・正宗、臨濟僧) 4 9 1 1  
正宗(まさむね・成田/稲葉)→ 蚕水(さんすい・稲葉/成田、医者) E 2 0 4 3  
正致(まさむね・中根) → 正朝(まさとも・中根なかね、幕臣/神道/歌) U 4 0 1 7  
正棟(まさむね・大中臣) → 彦演(いちえん/いつえん;法諱、廷臣/真言僧) G 1 1 0 5  
政宗室(まさむねのしつ) → 愛姫(めぐひめ・伊達だて/田村、陽徳院/歌) 4 3 6 1  
雅致女式部(まさむねのむすめ/のしきぶ) → 和泉式部(いづみしきぶ) 1 1 1 1

H4079 **政村**(まさむら・北条ほうじょう、義時4男/本姓;平)1205-7369 母;伊賀(藤原)朝光女、鎌倉幕府7代執権、  
1264就任、常陸大掾/式部少丞/右馬権頭/評定衆執権連署/陸奥守/相模守歴任/正四下、  
武家歌人、京を敬重し東方遺老と自称;1241御所影供・宗尊親王家百首に参加、  
1262自邸で1日千首・63千首探題など歌会催、鎌倉歌壇の中心、雲葉・閑月集・東撰六帖入、  
勅撰40首;新勅撰(1318)続後撰(181/1069/1218)続古(13首)新後撰(785)玉葉(4首)以下、  
[宮木野の木この下深きゆふ露も涙にまさる秋やなからん](新勅撰;十九雑1318)、  
[政村(;名)の通称/法名]通称;陸奥四郎/東方遺老、法名;覚崇かくそう/覚宗/定崇、  
法号;常磐院、  
☆泰時・朝時・重時の弟、時村・政長の父

T4019 **正村**(まさむら・桃井ももい、通称正十郎)1694-176471 近江彦根藩士/国学者/歌;[彦根歌人伝・鶴]入

04098 **正村**(まさむら・蒲がま/長谷川、蒲正茂まさもち4男)1832-8655 飛騨古城郡の国学者;山崎弘泰門、  
神職;郷社高田神社社司、  
[正村(;名)の別名/通称]別名;秀豊/盛村/茂村、通称;甚五郎/長右衛門

N4013 **政邑**(まさむら・浅村あさむら/本姓;藤原、通称;政右衛門)1747-180559 近江彦根藩士/歌人

04007 **雅藻**(まさも・小川おがわ、通称;貞吾、栄貞3男)1799-1825早世27 備前児島郡粒江の国学者/歌人、  
歌;木下幸文・佐藤千秋門、小川真澄ますみの弟

H4080 **昌茂**(まさもち・城じょう、通称;織部、号;半俗庵、景茂男)1551-1626 武田家の武将/のち家康の臣;  
武蔵忍の采地/1615改易、連歌;1604昌琢と「懐旧百韻」

H4081 **正望**(まさもち・神戸かんべ、通称;左京)?-? 江前期軍記作者;1633「氏郷記」(3巻)著

4021 **雅望**(まさもち・石川いしかわ、豊信男)1753-183078 江戸小伝馬町旅宿業、国学;津村淙庵門;古典研究、  
漢学;古屋昔陽門、読本作者、狂歌;頭光・四方赤良(南畝)門;狂歌四天王の1、狂歌師で頭角、

1791-1808公事宿の件で江戸払; 霊巖島の中村梅太郎宅に仮寓隠棲; 源氏物語等古典研究、1808江戸に帰り天明調狂歌を主唱; 1812「万代狂歌集」撰、「狂歌六部集」「狂歌和合集」、「金石狂歌集」「狂歌著聞集」編、古典:「雅言集覧」「源注余滴」、読本「飛騨匠物語」、狂文「吾孀那万俚あづなまり」、雅文集「都の手ぶり」/「六樹園叢書」「五老園雑誌」外著多数、[歌よみは下手こそよけれあめつちの動き出してはたまるものかは](才蔵集/古今序の振)[雅望(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名; 清之助、字; 子相、通称; 糠屋七兵衛/五郎兵衛、号; 六樹園/五老山人/逆旅げきり主人/蛾術斎/宿屋飯盛やどやのめしもり、屋号; 糠屋ぬかや、法号; 六樹院

H4082 政以(まさもち・荏戸のぞき、太華[善政よしまさ]男) 1760-1816 57 羽前米沢藩士; 1776藩校興譲館学生、1783父隠居; 家督嗣; 中之間詰、1789(寛政元)藩主世子上杉顕孝の用人/90顕孝の傳役; 小姓頭次席兼任/顕孝没後; 94世子上杉斉定の傳役/父が隠居の身で中老職; 藩政に参画、1798父の補佐; 中老職/1803父没; 1804(享和4)奉行職/郷村頭取/御勝手方、藩政改革に尽力、実学に通じ経義に精通、奉行職中に没、妻; 小川喜知(1761-1821)、1810「政体通言」13「興譲館規」、「学而弁」「子愛篇」著、[政以(;)名)の幼名/別名/字/通称/法号]幼名; 八郎、別名; 為政/以德もちり、字; 恭卿、通称; 九郎兵衛(代々の称)、法号; 共徳院

04097 正茂(まさもち・蒲がま、) 1783 - 1837 55 飛騨古城郡の商家蒲家5代; 小島屋、国学者; 田中大秀門、八十村やむら・正村の父、幸言ゆきのぶ・清民の祖父、[正茂(;)名)の通称/号]通称; 与三兵衛/長右衛門、号; 若菜麿/臣木蔭/寸松斎/小蝶亭春夢屋号; 小島屋

T4074 正秉(まさもち・芳村よしむら/本姓; 大中臣、泰治2男) 1839-1913 75 母; 留乃(木山閑静女)、美作真庭郡上福田の医者の子の生、1850和漢学・槍術; 新見藩藩儒の丸川義三門、1853(嘉永6)詩文・経史・歌; 播磨林田藩の河野鉄兜門、1857(安政4)上京; 梁川星巖と親交、堀河の伊藤家入学; 仁斎の古学修学、春日潜庵・頼三樹三郎・月照らと交流; 尊攘思想、幕府に追われ鞍馬山に逃亡; 神道家を志向/維新後; 神祇官; 神祇省の大教院設立に反対; 退職/伊勢神宮司序出仕; 東京神道事務局設置に尽力、神道布教; 神風講社の設立に尽力、伊勢神宮出納課長/常務課長を歴任/1880龍田神社宮司; 着任せず東京で神習講結成; 神習教として独立; 初代管長、「宇宙之精神」著、[正秉(;)名)の字/通称/号]字; 均卿、通称; 謙助、号; 陽洲

正望(まさもち・桑原) → 桂叢(けいそう・桑原くわばら、絵師) G 1 8 2 8

正持(まさもち・佐藤) → 北溟(ほくめい・佐藤さとう、絵師/国史) D 3 9 9 8

H4083 当幹(まさもと・藤原ふじわら、別名; 当雄/字; 藤与、良尚男) 864-941 78 母; 菅野高年女、廷臣; 898文章生、923参議/936従三位/治部卿/播磨守、「海棠書舎文集」著

H4084 政元(まさもと・藤原ふじわら/家名; 二階堂、時元男) ?-? 南北期; 左衛門尉?、歌; 新拾遺1282、[いかにせんかよふ夢路も頼まれず思ひ寝ならぬよはしなれば](新拾; 十四恋1282)

H4085 正職(まさもと・丹波たんば) ? - ? 連歌作者、1356成立「菟玖波集」4句入、[あまの刈るもしやと人を待つ程に](菟玖波; 九恋778/前句; 恨みわびてぞ我からとうき)、(本歌; 海人の刈る藻にすむ虫のわれからと音ねをこそなかめ世をば恨みじ/古今807)

H4086 政基(まさもと・九条くじょう、満家男/本姓; 藤原) 1445-1516 72 母; 唐橋在豊女、政忠の弟/廷臣; 1460従三位権中納言/65兄政忠隠居により継嗣/右大臣/左大臣/76従一位関白; 氏長者、辞任; 准三后、1496息子尚経と家司唐橋在数を殺害; 勅勘/解かれた機に薙髪、歌・連歌・聯句を嗜む、古典; 「花鳥余情註・河海註・装束抄付隨身」著/「玉葉集部類目録」編、1487「長享元年和漢聯句」2度/92「山何百韻」/1501-4「政基公旅引付」02「七宝滝寺縁起」著、[政基(;)名)の通称/法号]通称; 御方、法号; 慈眼院

H4087 政元(まさもと・細川ほそかわ、勝元男/本姓; 源) 1466-1507 殺害 42 1473家督嗣/室町幕府管領/御相伴衆、従四下武蔵守、足利義澄を擁立/1493畠山政長を倒し幕府実権把握、修験道に没頭; 政務を疎んず/妻帯せず養子を取る/政務を近臣に委ね抗争を生む; 自邸で弑逆される、「弓法日記」著、連歌; 細川京兆家では二月に千句連歌会を催、1486「文明十八年千句三物」、新菟玖波; 発句3句入、養子; 澄之・澄元・高国、[政元(;)名)の幼名/通称/法名]幼名; 聡明丸、通称; 九郎、法名; 大心院、

- H4088 **正元**(まさもと・久保くぼ、初名;正之、正俊男)1602-78<sup>77歳</sup> 幕臣:秀忠に出仕/1620右筆;29家督嗣、家光の命で曾我古祐門;書式法式を修得、1646右筆支配/1664-65諸家・寺社領御朱印書記、千石を知行/1677致仕、「書式日用集」「書札法式」「当用書札法式」「鷹文字」「日用集」著、[正元(;名)の通称/法号]通称;吉右衛門、法号;性海、妻;矢部定清女/正永まさながの父
- H4089 **正甫**(正圃まさもと・日比ひび・北峯/北岑きたみね)?-? 江前期和泉堺の土佐派の絵師/歌人/俳人;重頼門、1688忠能「難波捨草」/蘭子らん「細江草」入、「堀江草」入、1686「幼悟家書」著俳;1673西鶴「哥仙大坂俳諧師」西鶴「生玉万句」;第四更衣百韻発句等入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、[奥山や狼も花の衣更](生玉万句;更衣発句)、[浅う被がづく山おのづから今朝の春](難波色紙;36/1682[天和2]歳旦句、山の尾根に朝靄が薄く衣を被ったように棚引くさま)
- H4090 **正職**(まさもと・杉浦すぎうら、初名;正春、正植男/実は祖父正綱男?)1671-1711<sup>41</sup> 母;伊奈忠勝女、幕臣、1699家督/1709書院番頭、儒;東条一堂門、光圀や心越興壽と交流/琴曲;人見竹洞門、「任中窓稿」著、心越興壽の伝えた琴譜「東皐琴譜」編、[正職(;名)の通称/号]通称;市十郎/内蔵允くらのすけ、号;蹇斎けんさい/琴川きんせん、法号;泰山
- Q4072 **正元**(まさもと・高橋たかはし)?-1728 江戸の幕臣;大番、和学者、[正元(;名)の通称]木工助もくすけ/平八郎
- L4070 **正本**(まさもと・井出いで/本姓;藤原)1682-1770<sup>89</sup> 幕臣;桐間番/大番/新番/裏御門切手番之頭、歌;武者小路家門、石野広通「霞関集」入、[沖つ風さそへば浪の白玉にあられの玉ぞみだれそひぬる](霞関;冬627/海上霞)、[正本(;名)の別名/通称]初名;茂濟、通称;八之助、法号;良然
- H4091 **方基**(まさもと・今大路/奈須、今大路親顕男/本姓;橘)1714-49<sup>36</sup> 江中期医者;幕府医師奈須玄筑良音の養子、1743將軍吉宗に謁す/養父に先立つ、「天平医事医言」編/「起源競事」「草沢便法」著、[方基(;名)の通称]忠四郎/玄節
- N4015 **昌始**(まさもと・朝比奈あさひな)1743-1827<sup>85</sup> 江戸幕臣;1798-1800長崎奉行/大目付、歌人、[昌始(;名)の通称]熊蔵/次左衛門/河内守/長門守
- H4092 **正元**(まさもと・高橋たかはし)1747-1806<sup>60</sup> 土佐藩士;明和1764-72頃家督嗣/浦戸在役、御殿守方役、国学;谷真潮門/歌を嗜む、谷好井・宮地春樹・仲枝と交流、「中興鑑言打聞」著、[正元(;名)の幼名/通称]幼名;左之助、通称;喜兵衛
- H4093 **正元**(まさもと・田でん)?-? 江中期金沢藩士、旧記収集編纂;1790「庁事通載」
- H4094 **政本**(まさもと・津田つだ、初名;正身、正昭男)?-1829 加賀金沢藩士/1770家督嗣;1万石/78定火消、1784家老/86加判、1824「津田家系譜」著、津田玄蕃正忠の裔で代々重臣、[政本(;名)の通称]玄蕃げんぱ/修理しゅり/猪之助/内蔵助くらのすけ
- H4095 **当職**(まさもと・成瀬なるせ、当義男)1792-1865<sup>74</sup> 加賀金沢藩士;1816家督/17定火消/25公事場奉行、1826御家老兼御勝手方、1836執政に反抗したため罷免、詩人:「迂斎詩集」、「留記」著、[当職(;名)の字/通称/号]字;子典、通称;貞吉/内蔵助くらのすけ/掃部かもん、号;迂斎/晴雪/楽山
- Q4031 **正元**(まさもと・須田すだ、通称;伊織)1800-84<sup>85</sup> 上野佐波郡采女村の雷電神社祠官、国学;荻野美孝門
- H4096 **眞激**(まさもと・宍戸しじ、林三介隆州男)1804-64<sup>刑死61</sup> 宍戸藤兵衛知之の養子;長門萩藩士、国学;伴信友門/歌;近藤芳樹門、藩の典故に精通、国事に奔走/1856京藩邸の都合人役、1858所帯方/64大阪藩邸留守役;形勢探索に当る/64蛤御門の変に連座;野山獄に刑死、「にほのうきす」「間荒加多満」著、[眞激(;名)の初名/通称/号]初名;忠美、通称;山三郎/九郎兵衛/左馬之介、号;橘廂きしょう/小肉翁/宍翁にくおう/鳩浮巢翁におのうきすおう
- P4098 **政幹**(まさもと・坂部さかべ、渡辺政香まさか2男)1805-1867<sup>63</sup> 三河幡豆郡の商家;大浜陣屋御用達、国学;本居大平門、歌・茶道を能くす、[政幹(;名)の通称/号]通称;弥八郎/安平/三重郎/順治、号;白檮はくとう屋
- M4008 **正基**(まさもと・野原のはら)1819-1871<sup>53歳</sup> 信濃飯田の商家[綿屋];飯田藩御用達、



国学者/歌;岩崎長世門、野原正明(1786-1847/飯田藩御用達)の一族、  
1868綿商から金物店経営に転換、  
[正基(;名)の通称]久米之助/半三郎(代々の称)

M4098 **正元**(まさもと・愛敬あいけい/あいきょう、幼名;亀助/通称;左司馬)1823-76 自刃54 肥後熊本藩士、  
代継神社祠官、国学;林有通(桜園)門、尊攘運動に参加、  
1876(明治9)神風連の乱に長男元吉もとよし(17歳)と参加し敗退;筑前三国峠で自刃

L4095 **昌服**(まさもと・奥平おくだいら/本姓;源、昌暢2男)1831-190171 母;照寿院、豊前中津藩江戸藩邸に生、  
1832父没/叔父昌猷が7代藩主襲封;その養子、1842(12歳)家督嗣;豊前中津藩8代藩主、  
従五下/大膳大夫、祖父昌高のち家老奥平壱岐が藩の実権を掌握/のち壱岐を更迭、  
実権把握後に藩政改革、1868隠居後も藩政参与、1871東京住/96正三位、  
正室;熙姫(保科正丕女)/側室;奥平千代(鶴昌院)・鈴木安(誠隆院)、  
子;鉄五郎、鋼之丞、豊彦、拡、稲垣長昌、直三郎、昌久、忠善、昌繁、昌友、娘(安生順一室)、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[春の夜の寝覚の窓をとびすててふけ行く月にかへるかりがね]、  
(大江戸倭歌;春209/深夜帰雁)、  
[昌服(;名)の号/法号]号;逸堂、法号;観光院

N4058 **正基**(まさもと・石河いしかわ、光茂7男)1831-190777 尾張藩士;石河当博の後継/1863(文久3)側用人、  
1865御城代、維新後;1869軍務副知事/94裁判所判事、退職後;県社東照宮の社司、  
国学;植松茂岳門/歌人、春日井郡住、  
[正基(;名)の通称/号]通称;芳満之丞/竹次郎、号;芳園/桂斎、法号;道香院

T4088 **正元**(まさもと・渡わた、藩士田中善平3男)1839-192486 安藝広島松川町の学者;広島藩学問所入学、  
;洋学を修学/1859(安政6)[渡]に改姓、1866藩命で洋学生50人と江戸遊学;  
開成所教授林正十郎入門;フランス学修学、1868頃長崎で仏商人からフランス学修学、  
新政府より生野銀山鉱山局に派遣/1870渡仏;普仏戦争勃発;パリ籠城を記録;  
のち[孝仏戦争日誌]として刊行、1871歩兵学科に国費留学;陸軍士官学校予備科に修学、  
1872岩倉使節団のパリ到着後随行/1874帰国;陸軍少佐/77太政官少書記官/法制局専務、  
西南戦争で行征討本営詰で従軍/参事院議官/1890貴族院勅選議員/錦鶏間祇候  
1871「法普戦争誌略」/1914「巴里籠城日誌」著、  
[正元(;名)の初名/通称]初名;正範、通称;六之助/六之介

R4013 **正朔**(まさもと・中田なかた、本姓;沢潟おもたか)1840-191374 伊勢度会(度会)の神職、漢学;鷹羽竜年門、  
書;養徳寺雪鷗門/国学;八羽光穂門、歌人/書家、1872(明治5)宇治山田神社祠掌、  
1876(明治9)伊勢神宮外宮豊受大神宮主典/80禰宜/87神宮皇学館長/神宮儀式課長、  
1894兵庫県広田神社宮司/1902(明治35)大阪堺の大鳥神社宮司:03致仕、1913(大正2)没、  
[正朔(;名)の初名/字/通称/号]初名;庚年、字;子稽/養甫ようすけ、通称;源太郎、  
号;臘晦/稽山/春亭/乗心斎

政元(まさもと・木内)	→	子陽(しょう・木内きうち、漢学/詩人)	Q 2 2 6 6
正元(まさもと・栗崎)	→	道喜(どうき・栗崎/橘、外科医)	C 3 1 5 5
正幹(まさもと・竹内)	→	玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医)	L 1 8 9 5
正幹(まさもと・松井)	→	正幹(まさとも・松井まつい、藩士/歌)	S 4 0 6 0
正甫(まさもと・寺田)	→	正甫(まさとし・寺田てらだ、歌人)	M 4 0 4 7
雅元(まさもと・白川)	→	雅光(まさみつ・白川/源、神祇伯/記録)	H 4 0 6 4

H4097 **正盛**(まさもり・平たいら、正衡男/清盛の祖父)?-? 平安後期武将/白河法王の近臣;検非違使、  
追捕使として諸国の賊を討伐;伊勢平氏興隆の道を開く

H4098 **正盛**(まさもり・池田いけだ/本姓;藤原)?-? 1510存 摂津池田の豪族;細川家の家臣、  
連歌;宗祇・肖柏と交流、特に池田に隠棲中の肖柏と親交、  
1510(永正七年)肖柏・宗碩と「三吟何人百韻」(性繁名)、新菟玖波4句入、  
[正盛(;名)の通称/法号]通称;兵庫助/遠江守、法号;性繁

H4099 **正盛**(政盛まさもり・中根なかね、近藤正則男)1588-166578 幕臣中根正時の養子;家督/幕臣;側用人、  
従五下壱岐守/武蔵橘樹・荏原/相模愛甲・高座/上総埴生・武射の6郡に采地を得る、  
1655致仕、「中根正盛書状集」著、

- [正盛(；名)の通称/法号]通称；平十郎、法号；幽仙  
 I4000 **正盛**(まさもり・今西いまし) ? - ? 江前期大和今井村の俳人；貞徳門、「俳諧耳無草」、  
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [みゝ鐘に散るな心の花盛](手鑑/耳鉦・耳鳴り)  
 [正盛(；名)の通称] 与二兵衛よじべえ
- Q4021 **正守**(まさもり・庄田しょうだ、1614-8572 加賀金沢武士/奥村栄政はるまさ(1590-1652)の老臣；罷免、  
 1654(承応3)赦免；栄政の子栄清に出仕/のち前田綱紀(松雲1643-1724)に出仕、  
 漢学/歌人、軍学・鈴籥；有澤永貞(1639-1715)門；師の代筆、「正守文藻」著、  
 [正守(；名)の初名/通称/号]初名；考叙、通称；九兵衛、号；鼓缶子/夕斎せきさい
- L4061 **正守**(まさもり・横山よこやま/本姓；源、伊左衛門正喜男)1699-176870 江中期幕臣；大御番組頭、  
 歌人；武者小路家門、妻；小田切昌處女、歌；広通「霞関集」入、  
 [咲きにほふ弥生の藤の花かづらはひまつはりて春をとどめよ](霞関；春197)  
 [正守(；名)の通称/法号]通称；伊左衛門(父の称嗣)/兵四郎、法名；日清
- I4001 **正盛**(まさもり・原はら、通称；半兵衛)?-? 江中期磯矢流砲術の祖、1744「磯矢流留矢之事」著  
 04039 **正盛**(まさもり・大野おおの、)1803-186866 伊予東宇和郡小倉の庄屋/歌人、  
 のち同郡河内の庄屋/さらに横林村の庄屋に転ず、  
 [正盛(；名)の通称]三郎右衛門
- R4067 **正衛**(まさもり・橋村はしむら/本姓；度会、)1827-5630 伊勢度会の外宮権禰宜、国学；足代弘訓門、  
 養嗣子；中山正環まさあきら(1845-1919)、  
 [正衛(；名)の字/通称/号]字；仁卿、通称；大蔵、号；桃園/二水/林園すいゑん  
 正衛(まさもり・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5  
 正盛(まさもり・堀部/曲直瀬) → 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ、医者) G 1 1 9 4  
 正森(まさもり・林) → 自見(じけん・林はやし、町役/郷土史家) D 2 1 5 4  
 昌盛(まさもり・中林) → 竹洞(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌) D 2 8 6 0
- R4017 **正也**(まさや・中村なかむら、別名；千足/通称；助平)1736-180368 近江彦根藩家老横地家臣、  
 歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、
- Q4096 **正舎**(まさや・椿つばき、) 1811 - 187363 長門阿武郡徳佐村の庄屋、国学；岡熊臣門、  
 [正舎(；名)の別名/通称]別名；正純、通称；清兵衛、正静まさしずの父  
 眞清(まさや・山川) → 眞国(まくに・石橋、国学者) 4 0 6 8
- I4002 **雅康**(まさやす・平たいら、播磨守平生昌男)?-? 1046-53頃没 平安中期廷臣；文章生/正五下安藝守、  
 斎宮寮頭を務める、歌；千載569(；父に死別し同僚の嵯峨野の花見に行けず嘆く歌)、  
 [もろともに春の花をば見しものを人におくるゝ秋ぞかなしき](千載集；哀傷569)
- L4013 **政保**(まさやす) ? - ? 室町期；尾張熱田神宮の神職、  
 連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(4句)、  
 [まがきに残る草のあさ露](熱田法楽；初裏6/菊の盛りも終り籬の草に朝の露、  
 前句；守幸；冬さきてひさしき菊の花盛り)
- L4040 **政泰**(まさやす) ? - ? 室町期；連歌作者；心敬・宗祇らと一座、  
 1466(寛正7)心敬宗祇と「何人百韻」参加(2句)、  
 [旅に人暫ばしの程は語らひて](何人百韻；初裏7/その人は少し話ただけで旅立った、  
 前句；慶俊；待てともいはぬ我が中ぞうき)
- 4022 **雅康**(まさやす・飛鳥井あすかい、雅世男/本姓；藤原)1436-150974 兄雅親の猶子/廷臣；1467従三位、  
 1471正三位/73家督継嗣/79権中納言/82家を猶子雅俊に譲渡/近江松本に出奔；出家、  
 家伝の歌学・蹴鞠を伝承/書道；二楽流の祖、尺八も堪能、「富士歴覧記」「文明易然集」著、  
 1482將軍家歌合/1491「宋世百首」「宋世口伝(歌道抄)」「蹴鞠秘伝」/1503三十六番歌合参加、  
 1503「宋世三十首」06「蹴鞠百首和歌」、「詠五十首和歌」「蹴鞠百首和歌」家集「雅康卿詠草」、  
 「詠富士十首和歌」「鞠道三十首之和歌」「愚見抄」「晩学抄」外著多数、連歌；新菟玖波10句入、  
 [茂るなり秋にはいつか檜の葉をならし顔にも月はもりこす]、  
 (三六番歌合；樹蔭夏月九番右/宋世名)、  
 [雅康(；名)の号/法名]号；二楽軒/二楽院、法名；宋世そうよ 雅康女(歌人)の父

- I4003 **正静**(まさやす・保科ほしな、別名;正豊/正峯、正英男/本姓;源)1653-1712<sup>60</sup> 幕臣;1775家督/82使番、出羽庄内の藩主酒井忠真の政事を監す/1685越後高田城目付代/1701先手弓頭2500石、1682「庄内巡見記」83「羽州庄内旧記」著、養嗣子;正純、  
[正静(;名)の通称/法号]通称;巳之助/主税ちから、法号;宗簾
- I4004 **正安**(まさやす・奥平おくだいら、名;節)?-? 江中期1716-36頃長州萩藩士/儒;朱子学・書家、1774「書法要録」、[正安(;字)の号]潜思堂/竹溪老人/浄軒居士
- I4005 **正倫**(まさやす・横浜よこはま) ? - 1785 江中期上州高崎藩士/文筆家:「旅のすさび」
- I4015 **正休**(まさやす・河田かわた、正矩男)?-? 江中期安永(1772-81)頃讃岐山田郡元山村の農家(富農)史家;文筆家、「燕君夜話」「茶道論」「後生禁」「万世百勝記」著、  
[正休(;名)の通称/法号]通称;八右衛門、法号;東川
- P4069 **昌預**(まさやす・春日かすが、別名;山本金右衛門、2代加藤竹亭3男)1751-1836 甲斐甲府八日町の町人、商家若松屋(呉服・薬種・香具を商う)の生、昌融まさひら(3代)・昌齡(4代)の弟/昌標(5代)の兄、1775(安永4)甲府柳町の山本家の婿養子/1784(天明4)甲府町年寄(世襲);40年間、歌人、家集「丑年詠歌」、  
1789(天明6)甲斐歌人代表として「駿河国庵原郡蒲原郷稚宮代明神奉納十二首」を奉納、  
☆12首作者;春日昌預・春日翼(父;加藤竹亭)・春日昌齡・萩原元克もとえ(清書)・岩間徳光・初鹿建雄・藤原元直・藤原好謙・藤原庸昌・小野蒿道・源土麿・五味益雄、  
[昌預(;名)の通称] 助三郎
- I4006 **政養**(まさやす・羽太はぶと、正香男)1752-1814<sup>63</sup> 幕臣旗本;1776家督/安藝守、大番/御蔵奉行、田安家用人/1796目付/99蝦夷地取締御用掛(新設に伴い赴任)/1802箱館奉行、1807ロシア人扨捉島ナイボ襲撃事件で警護責任を問われる;小普請入逼塞、俳諧を嗜む、1795・1807「正養院家訓」1803「蝦夷俳諧歌仙」「辺策私辨」/1807「休明光記」著、  
「休明光記附録別館」「孝子糸太郎略記」「辺策私辨評」「唐渡島彙草」著、  
[政養(;名)の通称/法号]通称;弥太郎/左近/主膳/庄左衛門、法号;正養院
- I4007 **正容**(まさやす・小沢おざわ、別名;正)1767-1806<sup>40</sup> 和算家;内藤貞久・山路徳風門、1800常陸水戸の彰考館史生、航海術;命を受け江戸の本多利明門、「流星考」「暦算家譜略」、1794「授時暦南北差考」1800「元嘉暦草」01「算家譜略」04「大衍暦草」、「文化元年暦」著  
[政容(;名)の字/通称]字;子恭、通称;市二郎
- I4008 **将泰**(まさやす・藪やぶ、別名;泰、孤山[1735-1802]男)?-? 1818存 母;元田八右衛門女、肥後熊本藩士、1790父隠居により4百俵/大組付/1802父の石塔に碑文を書く、1816「孤山先生遺稿」編纂
- N4053 **政雍**(まさやす・池田いけだ、)1774or5-1820<sup>56-57歳</sup> 讃岐高松藩士;香川郡代官、国学者、  
[政雍(;名)の通称/号]通称;七助、号;弦斎/弦峯
- 04084 **正康**(まさやす・柏原かしわばら、)?- ? 伊勢度会郡の国学者;本居春庭(1763-1828)門、  
[正康(;名)の通称/号]通称;莊司、号;雛鶴うかく/雲処/雲鶴
- T4041 **昌保**(まさやす・山県やまがた、旧姓;工藤)1777-1833<sup>57</sup> 近江彦根藩士、国学者/歌人、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[昌保(;名)の通称]新右衛門/苔巖舎
- L4096 **正寧**(まさやす・阿部あべ、正精3男)1808-70<sup>63歳</sup> 備後福山藩江戸藩邸生;兄正粹廃嫡のため家督嗣、1826(文政9/18歳)福山藩6代藩主/阿部家10代);対馬守/伊予守、母;井出家出身、1831奏者番;病弱致仕、藩政にも消極的;天保年間1831福山大洪水・32大凶作に対策無対策、1832弟正弘に家督譲渡し隠居、正室;佐賀藩主鍋島齊直女、正教・正方の父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[雲や花はなやくもともみまがへば同じ野山を尋ねわびつつ](大江戸倭歌;春233尋花)、  
[道しあれば御代の光にひらけけり柳のまゆも人の心も](同;雑2019/春祝)  
[正寧(;名)の通称/号]通称;寛三郎/対馬守/伊予守、号;不浄斎、法号;常德院
- M4057 **正安**(まさやす・土井どい) ? - ? 江後期;歌人、「東洞翁遺草」(吉益東洞遺稿)編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[したひてもとまらぬものをいかにせんされどもをしきとしのくれかな]、  
(大江戸倭歌;冬1357/歳暮)



- S4096 **正容**(まさやす・三橋みつはし、通称;市左衛門)1819-99<sup>81</sup> 上総市原郡島野の国学者
- I4009 **眞保**(まさやす・吉野よし)1820- 1870<sup>51</sup> 武蔵埼玉郡の人/1846(27歳)江戸移住、  
諸士と時事を論ず、「嘉永明治年間録」著
- I4010 **政養**(まさやす・佐藤さとう、与兵衛男)1821-77<sup>57</sup> 羽前飽海郡升川村の農家、  
砲術;1844江戸の広木貫助門/蘭学;勝海舟門、1859庄内藩士;組外徒士格、  
幕府軍艦操練所蘭書翻訳方/のち大阪鉄砲奉行、維新後東京横浜の鉄道敷設に尽力、  
彫刻;後藤恒俊門/儒;伊藤鳳山門、俳諧を嗜む、「新刊輿地全図」「和洋時辰儀比較表」作製、  
「操卒定則」訳、「測量三角或問」「地質鉱学地殻図説」著、  
[政養(;名)の通称/号]通称;与之助、号;李山/笙溪
- I4011 **政安**(まさやす・今田いまだ、通称;代兵衛よへ)?-? 1857<sup>存</sup> 和算家;御粥安本門、  
「市谷八幡祠算術四題之解義」著
- 04034 **政泰**(まさやす・大竹おたけ/本姓;平、)?-1875 三河賀茂郡六所明神の神主/国学;平田鉄胤門、  
[政泰(;名)の通称]将監/健次郎/斎
- B4023 **正居**(まさやす/まい・成瀬なるせ、正敦まさあつ男)1828-1902<sup>75</sup> 加賀金沢藩士/人持組所属;2千5百石、  
歌学;田中躬之門、1869(明治2)金沢藩権少参事/74石川県出仕;学務担当;国史国文を奨励、  
1882(明治15)白山比咩しらやまひめ神社禰宜;宮司を助け[白山神社献詠集]編纂、  
鶴来町金劔神社献詠会設立、1857「魚津雑記」61「軍装調理書」62「泊在番御用日記」著、  
1863「寺社方御用日記」、「言霊伝」「歌題四季部類」外著多数  
[さかさまによこさに風のさそひつゝ降る白山の雨のはげしさ](白山の詠)  
[正居(;名)の通称/号]通称;甚五/主税ちから、号;松窩
- N4097 **昌保**(まさやす・歌田うただ/旧姓;藤原、歌田正常男)1831?-1894 歌田昌房の養子;神職、  
甲斐巨摩郡円野村の諏訪神社祠官、国学・歌;日野家門、  
1867(慶応3)門弟に和漢学を伝授/維新後;1872円野小学校校長、歌田靱雄ゆきおの父  
[昌保(;名)の初名/通称]初名;昌之、通称;丹後
- I4012 **政安**(まさやす・中原なかはら、通称;豊太郎)1824-1903<sup>80</sup> 信州上伊那郡河南村の和算家;石川推徳門、  
1866高遠藩主内藤頼直に従い大阪で福田理軒門、1859「精要算法解」、「算学拮据くんせき」著
- I4013 **正保**(まさやす・矢野川やのがわ、正好男/母;萩野)1831-1905<sup>75</sup> 土佐幡多郡三崎村の医者;  
漢方医学;開業、本草に通じ工芸に長ず;甲冑・刀剣・神輿・人形など製作、「措葉集」著
- N4045 **正廉**(まさやす・猪木いのき、通称;士郎、渡邊正方3男)1835-1913<sup>79</sup> 備中川上郡下原村の生、  
備中浅口郡の猪木義行長女の伊登(いと/富子)と結婚;婿養子;猪木家の分家、国学者、  
歌人;近藤芳樹・小野春発門;妻と同門、乙島村の里正を務め村の教育・産業振興に尽力  
妻 → 伊登(いと・猪木いのき、1842-99/歌人) J 1 1 8 7
- I4014 **正安**(まさやす・河本/川本かわもと、柳玄男)1840-62<sup>討死</sup>23 代々越後十日町の医者;江戸の尾谷榕堂門、  
経史;芳野金陵門/京の岩垣月洲門/剣術;伊庭軍兵衛門、討幕論者;久坂玄瑞と交流、  
1862(文久2)水戸浪士平山兵介らと老中安藤信正を坂下門外で襲撃;斬殺討死、  
詩文・歌に長ず;「殉烈余響」著、贈従五位、  
[正安(;名)の別名/字/通称/号]別名;一はじめ/惟一、字;貫之、  
通称;杜太郎もくたろう/豊原邦之助[邦之輔/邦之丞くにのすけ]/豊原親忠、号;筑川
- 04082 **正安**(まさやす・梶川かじかわ、旧姓;宮崎)?-1868<sup>戦死</sup> 伊勢桑名藩士/梶川正陳の養子、  
国学;富樫広蔭門、  
戊辰戦に対し抗戦派藩士の大砲隊小隊長となり交戦;与板領大山で戦死  
[正安(;名)の通称]記三郎/弥左衛門(;養父の称)
- R4040 **正保**(まさやす・西村にしむら、通称;保太郎)1842-1907<sup>66</sup> 但馬養父郡の国学者
- S4087 **正保**(まさやす・三宅みやけ、通称;陸奥守)1842-89<sup>48</sup> 大和宇陀郡の宇太水分うだみくまり神社祠官、  
国学・歌;足代弘訓・伴林光平門
- 正安(まさやす・野口) → 東溟(とうめい・野口、儒者) H 3 1 3 7  
正安(まさやす・谷) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4  
政安(まさやす・内藤) → 正範(まさのり・内藤、幕臣/歌人) G 4 0 0 4  
正休(まさやす・間島) → 冬道(ふゆみち・間島まじま、藩士/歌人) E 3 8 4 1

正保(まさやす・本多) → 正信(まさのぶ・本多ほんだ、幕臣/老職) F 4 0 5 4  
 正保(まさやす・高桑) → 關更(らんこう・高桑たかくわ、商家/俳人) 4 8 0 3  
 正保(正優まさやす・小堀) → 宗中(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人) B 2 5 8 6  
 正恭(まさやす・吉田) → 正恭(せいきょう・吉田、医者/蘭学) H 2 4 9 3  
 正靖(まさやす/まさのぶ・村尾) → 嘉陵(かりよう・村尾、幕臣/紀行文) P 1 5 7 3  
 政安(まさやす・川喜田) → 遠里(とおさと・川喜田かわきた/芝原、商家/国学) U 3 1 8 2  
 政養(まさやす・小原/新井) → 抱義(かねよし・新井、幕臣/白石著書目録) P 1 5 0 8  
 政胖(まさやす・竹川) → 竹斎(ちくさい・竹川たけがわ、商家/殖産家) D 2 8 0 6  
 匡安(まさやす・桃沢) → 匡好(まさよし・桃沢ももさわ/大沢、国学/歌) T 4 0 2 1

- H4023 雅康女(まさやすのむすめ・飛鳥井あすかい、宋世女そうよのむすめ) ?-? 室町期歌人、  
 雅康[法名;宋世そうよ1436-1509]の女、「宋世女詠草」(;三条西公条きんえだの点)
- I4016 雅行(まさゆき・庭田にわた、長賢男/本姓;源) 1434-9562 室町期廷臣;1456参議/従三位/75権大納言、  
 1493按察使/95従一位、歌/連歌;1483將軍義尚の打聞編輯に詠草提出、「雅行朝臣三十首」著、  
 1481「文明十三年何路百韻」参加、新撰菟玖波;3句入、重有の孫/重經の父
- I4017 政行(まさゆき/まさつら・二階堂にかいどう、法名;行二ぎょうじ、忠行男/本姓藤原) ?-1503 室町幕府評定衆、  
 左衛門大尉/1467檢非違使、従四下、88中務権大輔、將軍義尚企画の「打聞撰集」の奉行、  
 1489義尚没;等持院で剃髪;法名沙弥行二、歌人;1484歌合参、公武の歌合・連歌会に参加、  
 1478「二判問答」問(兼載と)、連歌;1490宗祇と「何人百韻」、新撰菟玖波5句入
- I4018 政行(まさゆき・松田まつだ、四郎左衛門男/本姓;源) 1554-160653 京の武士:奉行前田玄以も家臣、  
 京都支配の実務担当、1600関ヶ原後徳川家康の家臣;丹波桑田郡内2千石、  
 京都所司代加藤正次に所属;1601所司代補佐、連歌:1591「天正十九年紹巴政行初何百韻」  
 [政行(;名)の通称/法名]通称;勝右衛門尉、法名;鉄公、慈超(建仁寺僧)の父、勝政の養父
- I4019 正之(まさゆき・保科ほしな、將軍徳川秀忠男) 1611-7262 母;お静の方(神尾栄加女)、  
 1617保科正光の養子、1631信濃高遠藩主襲封;3万石/36羽前山形藩20万石、  
 1643会津藩主23万石、將軍家綱を補佐、幕政を主導、  
 儒;山崎闇斎門/神道;吉川惟足門/歌人;「土津靈公御詠集」、1663「玉講」、  
 1666「会津風土記」編/72「会津神社志」「玉山講義」「土津公三書」編、「保科正之家訓」外著多、  
 [正之(;名)の幼名/通称/神号]幼名;幸松丸、通称;会津中将/肥後守、神号;土津靈社、  
 將軍家光の異母弟、正經・松平正容の父
- 04099 正之(まさゆき・川井かわい、) 1627-169973 江戸の幕臣;御書院番、国学者/歌人、  
 [よしやふけ花にはつらき風ながら隣の梅のにはほひさそはば](茂睡[鳥の迹]春38)、  
 [正之(;名)の通称]喜左衛門/源三郎
- L4002 正之(まさゆき・中川なかがわ) ? - ? 江前期大和箸尾に住、  
 狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、  
 [君ならでたれかはなめむ法味ほふみをば甘いも酸いも知る人ぞ知る](古今夷曲集;十釈教)、  
 (祈祷僧へ出す法事の招請状に添えた歌/  
 本歌「君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る」古今;一友則)
- L4005 政之(まさゆき) ? - ? 江前期摂津住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、  
 [海原のそれにはあらで冷え腹にをきの石とや是を申さん](古今夷曲集九/温石おんじやく)
- T4090 正之(まさゆき・小西こにし/本姓;源、) ?-? 江前期;武士/歌人、  
 [滝川の岩根の氷とけそめて玉ちる波や春をみすらん](忠能[難波捨草]春7)
- N4073 正往(まさゆき・稲葉いなば、正則男) 1640-171677 母;毛利秀元女、父が幕政中心にあり早くから幕臣、  
 1663將軍家綱の日光社参の先導役/1681奏者番兼寺社奉行/京都所司代;父とは別に3万石、  
 1683(天和3)父隠居;家督嗣;多くの弟たちに領地を分与/相模小田原藩3代藩主;10万千石、  
 従四下侍従/1684親戚の若年寄稲葉正休が大老堀田正俊を暗殺した事件に連座;遠慮処分、  
 1685年京都所司代免職/越後高田藩に転封、1700江戸城大留守居/01老中就任;幕政復帰、  
 下総佐倉藩初代藩主、赤穂事件当日は月番老中で事後処理を即断、1707内匠頭、  
 石州流茶道を嗜む、正室:保科正之女の石姫/継室;持明院基定女、  
 正知・松平定直正室・小笠原長円正室の父、1707隠居;家督を次男正知が家督嗣、  
 [正往(;名)の別名/通称/法号]別名;義雅/正通、通称;宇右衛門/丹後守/内匠頭、

法号;仁裕竜沢高德院

- I4020 **政行**(まさゆき・植村うゑむら、政春男)1662-88**早世**27 幕臣;1671遺跡継嗣/小普請、「植村家伝」著、  
[政行(;)名]の通称/法号]通称;五郎/大膳、法号;芳玄
- I4021 **昌行**(まさゆき・鮎川あゆかわ、通称;竹)?-? 江中期兵法家;肥前平戸藩士小沢喜平太安貞門、  
紅毛火術の秘伝を受、1727「紅毛火術録」編
- I4022 **正之**(まさゆき・上村うゑむら、石黒嘉次右衛門男)1707-66**60** 上村伊右衛門の養子/加賀藩士、  
1739作事奉行/51職以外の遠慮を命ぜらる、具足製造術に精通、「軍学事理本末流義之辨」著、  
[正之(;)名]の通称/号]通称;久兵衛、号;木雞もつがい
- Q4091 **正行**(まさゆき・津山つやま、旧姓;平野)1659-1751**長寿**93 山城葛野郡の生/近江彦根住/美濃大垣住、  
歌人;[彦根歌人伝・寿]入、  
[正行(;)名]の字/通称/号]字;古尾、通称;寿庵、号;古船
- Q4024 **匡之**(まさゆき・白井しらい、)1719-1755**37** 大坂の医者、国学者、  
[匡之(;)名]の字/通称/号]字;時中、通称;左京、号;馬台
- I4023 **誠之**(まさゆき・幸田こうだ、高成男/本姓;藤原)1720-92**73** 母;高柳行氏女、幕臣;  
1735將軍吉宗に謁見、組頭/富士見宝蔵番頭、儒/闇齋学:野田剛斎・稲葉迂斎門、  
「幸田先生詩歌稿」「幸田先生論語筆記」「論語講義」著、  
「幸田先生語録続編並附録」著(1793刊)、  
[誠之(;)名]の別名/字/通称/法名/諡号]別名;精義、字;子善、通称;善太郎、  
法号;道安、諡号;穆靖ぼくせい先生
- I4024 **正恭**(まさゆき・江坂えさか、江坂正範の養子)1720-84**65** 幕臣;1746家督嗣/表火番/支配勘定、  
評定所留役/同組頭/勘定吟味役、1755越後の検地、1767「科条類典」編纂に参画、  
1773飛騨天領の一揆取締に派遣され参加者の吟味、「青表紙」「憲府起原」「二葉草」著、  
「浦佐村年中行事」「検地一件留」「壘關軌範」著、  
[正恭(名)の通称]孫三郎
- I4025 **政行**(まさゆき・本多ほんだ、本多政冬男)1728-97**70** 1742本多政昌まさよしの養子;1748家督継嗣;  
加賀金沢藩士、1749従五下安房守/遠江守、1797隠居、政恒の弟、政成の父、  
「本多家譜」編、「道中日記」著、  
[政行(;)名]の幼名/通称/号]幼名;左進/万作、通称;主殿とのも、号;悠々斎、法号;天章院
- I4026 **正運**(まさゆき・宮永みやなが、正長男)1732-1803**72** 越中砺波郡下川崎村の農政家、  
1780加賀金沢藩山廻役;郡内を調査し農事指導に従事/農政推進に貢献、  
1784藩産物会所の越中三郡産物裁許役、各地の伝承伝説を蒐集、国学・歌・俳諧を嗜む、  
1785「養蚕私記」86「越の山路」「春の山路」/88「私家農業談」95「宮永累代記」97「世々の櫟」、  
1801「古稀発句集」、「内山日記」「越之下草」、外著多数、 正好の父、  
[正運(;)名]の幼名/通称/号]幼名;幸次郎、通称;伝右衛門/治兵衛/十左衛門、  
号;桃岳/桃岳斎
- I4027 **正之**(まさゆき・高山たかやま、良左衛門正教男)1747-93**切腹**47 上州秩父新田郡細谷村の生、  
儒;伊勢崎藩儒の門/1752(13歳)太平記を読み発憤/64(18歳)京に出奔;岡白駒入門、  
諸国遊歴/儒;細井平洲門、国学/歌人、勤王家:京三条橋より皇居伏拝/寛政3奇人の1、  
筑後久留米滞在中幕吏の迫及され自刃、紀行・日記多し、1773「赤城行」75「乙未の春旅」著、  
1776「斉中記」77「武江旅行記」83「高山正之道中日記」85「北上旅中日記」87「墓前日記」著、  
「高山朽葉集」「再京日記」「江戸旅行日記」「忍山湯旅の記」「古河のわたり」外著多数、  
[正之(;)名]の字/通称/号]字;仲縄、通称;彦九郎、号;赤城、法号;松蔭以白居易
- N4071 **方之**(まさゆき・稲垣いながき、通称;太四郎/号;長諷)?-?宝暦1751-64**頃没** 江中期土佐香美郡の歌人、  
有賀長伯あるがちょうはく(1661-1737)門、谷真潮・内藤中心なかごの師
- R4042 **正之**(まさゆき・西山にしやま、)1768-1827**60** 江戸の幕臣;御広敷御用人、国学者、  
[正之(;)名]の初名/通称]初名;昌生、通称;源之助/源蔵/宗助
- R4015 **政恭**(まさゆき・中西なかにし、)1772-1820**49** 伊勢度会郡の田丸領の代々御城米役、  
国学;本居宣長門、先祖は慥柄たしから浦の郷士、用水路を建設・新田開発した彦右衛門の裔、  
[政恭(;)名]の初名/通称]初名;正恭、通称;彦右衛門(代々の称)



- I4028 **昌幸**(まさゆき・藤井ふじい/原、禰宜藤井昌継男)1776-1836<sup>61</sup> 伊豆白浜伊古那比咩命社禰宜、1809京の神祇伯白川資延門;神職許状を受/1811江戸で医卜業/平田篤胤門・伴信友門、国学;本居大平門、帰郷後伊豆白浜社の復興に尽力、神主原家の婿、「白浜旧記」「白浜大社縁起」著、  
[昌幸(;)名)の通称/神号]通称;要蔵/伊予、神号;道守靈神
- I4029 **昌之**(まさゆき・猪俣いのまた) ? - 1829 通事;小通詞並格/1826-28天文台詰通詞、シーボルト事件に連座;詮議中没、「和蘭併有地誌」訳/1828「雪の形状試験の説」訳、  
[昌之(;)名)の通称/号]通称;源三郎、号;顧卿、法号;顕鑑原卿居士
- I4030 **政行**(まさゆき・三島みしま、西丸留守居役三島政春6男)1780-1856<sup>77</sup> 江戸牛込船河原町に生、1794一族の三島政世の養子/幕臣;1815養父継嗣、御書院番/清水家物頭、1815地誌編集に参画;26幕命で戸府内の地誌「御府内風土記」編纂、昌平覺地理局総裁林述斎の「新編武蔵風土記稿」「新編相模風土記稿」編纂に参画、1842致仕、1849(70歳)自葬;以降余生を楽しむ、  
1821「葛西志」24「江戸名所方角注解」、29「府内備考」編、41「六十化話ろくじゅうかわ」著、「古絵図附説」「古弓名」「新武蔵考証文書」「武蔵国略考」著、  
[政行(;)名)の通称/号]通称;政蔵/六郎、号;知還老人/仙字山人/凸凹斎、法号;知還院
- I4031 **正幸**(まさゆき・森もり、通称;覚之丞、村越半十郎男)1782-? 森三左衛門の養子;幕臣/鷹匠同心、のち鷹匠同心組頭/1866老衰で小普請、江戸雜司ヶ谷住、1836「四季繫」47「鷹術実類聚」著、1848「護国寺山内鷹ノ巢見廻日記」54「鷹術四季書」、「鰍寄絵図」「雲雀羽合形之図」外著多
- Q4086 **政之**(まさゆき・丹下たんげ、通称;仙左衛門)1782-1862<sup>81</sup> 薩摩鹿兒島の歌人;家老諏訪兼利門門
- I4032 **応進**(まさゆき・黒瀬くろせ/本姓;秦、別名;雅昌/政寿)1787-1846<sup>60</sup> 伊勢度会の国学者;本居春庭門、高田武泰門/医・方位;宇仁富元門、「時家指掌大意」編、応昇まさのり・正親まさちかの父、  
[応進(;)名)の通称/号]通称;雅五郎/政平/勘左衛門、号;千穂舎せんすいしゃ・ちほのや
- I4033 **雅之**(まさゆき・穎川えがわ/本姓;葉、穎川四郎太延年男)1794-1858<sup>65</sup> 肥前長崎の唐通事;父継嗣、1804稽古通事/27小通事/36大通事/57唐通事頭取(破格の昇進)、「英国侵犯事略和解」訳、  
[雅之(;)名)の通称/号]通称;新作/四郎八、号;春池/淡安、法号;藤養院
- I4034 **方之**(まさゆき・斎藤さいとう) ? - ? 江後期信州の和算家;竹内武信門、1832「升高算梯」注
- I4035 **正行**(まさゆき・加藤かとう) ? - ? 江後期幕臣/1828使番;布衣に列す/36目付、1838駿河町奉行;駿河在任中「徳川実紀」編纂に参加;業半ばで召還;小普請組支配、一橋家家司;役料二千俵/1855御留守居寄役;禄五千石/62和宮御用役、従五下伯耆守、1863隠居、1840「名乎離曾の記」65「斥候録」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[泣きしづむ我が身涙の川長かはをさとなりてぞ恋のうき瀬をば知れ]、  
(大江戸倭歌;恋1541/寄河恋、川長は渡舟の船頭)、  
[正行(;)名)の通称]勘右衛門/鞆負/伯耆守
- M4042 **正之**(まさゆき・高月たかつき) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[水錆みさびみる池の波間にすむ月は空に知られぬ雲ぞかかれる](大江戸倭歌;881)
- M4069 **政行**(まさゆき・天野あまの/本姓;源)?-? 江後期;歌人、幕臣?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[山里は軒の松風滝の音いひあはせつつ夢破るなり](大江戸倭歌;雑1736/山家夢)
- M4078 **昌之**(まさゆき・小貫おぬき/本姓;源)?-? 江後期;歌人、出羽秋田藩士?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、同集入集の小貫昌固との関係?、  
[ますらをが駒馳せながら弓取りて的射る姿見るも勇まし](大江戸倭歌;雑1922/騎射)
- M4096 **正征**(まさゆき・北川きたがわ/栗生あお、号;外波、旧姓;松岡)1811-67<sup>57</sup> 筑後久留米藩士;参政/用人格、国学者;真木保臣・船曳鉄門門、正介の父
- I4036 **昌之**(まさゆき・山田やまだ)1816- 1878<sup>63</sup> 長門萩藩士/諸役歴任後に物頭、国学者、歌人;近藤芳樹門、「大八洲廻調」編、家集「柴屋集」著、  
[うるま川わたりおくれて船よべばこたへぬ霧に秋風ぞ吹く]([萩の歌人]入)、  
[昌之(;)名)の通称/号]通称;重作、号;柴屋しほく

- R4046 昌之(まさゆき・年梅ねんばい、)1818-1878<sup>61</sup> 大坂の接骨医、国学者、  
[昌之(；名)の字/通称/号]字；長言、通称；佐左衛門、号；孤山/玉堂/雲楼/伊吹堂
- 04030 正之(まさゆき・大木おおき)1819- 1895<sup>77</sup> 下総埴生郡の村役人/国学者、弓道・馬術を嗜む、  
維新後も公務に就く/敬神の念厚く晩年に権中講義となる、歌人、  
[正之(；名)の通称/号]通称；良輔/七左衛門、号；梅の舎
- N4028 正之(正行まさゆき・五十嵐いがらし、善治の長男)1826-1898<sup>73</sup> 出羽飽海郡の庄内松山藩の大庄屋の生、  
漢学；庄内松山藩士富田米輔門、1840(天保11)家督継嗣；勘定所詰、小右筆勘定方；  
屢々江戸に在勤；国学・歌；1849鈴木重胤門；高弟となる、能書家、維新後；1870藩庁出仕、  
1874酒田県出納兼租税方雇/鶴岡県のち山形県書記/1879-89飽海郡書記、  
[正之(；名)の別名/通称/号]別名；正平/正行、通称；熊平、号；青斎/梅の屋/湖月
- P4067 当行(まさゆき・児玉こたま、)1828-1900<sup>73</sup> 信濃更級郡の治田神社祠官、  
国学；飯塚久敬・平田鉄胤門、  
[当行(；名)の通称/号]通称；掃部かもん、号；いなゝの舎
- Q4094 正之(まさゆき・塚本つかもと、定右衛門2男)1832-1918<sup>87</sup> 近江神崎郡川並村の商人(豪商)の家、  
定次(1826-1905)の弟、兄の家業を助け兄と共に公共事業；道路・学校建設/植林事業など、  
湖国治山の父と称される/1882県会議員/97県農工銀行取締役/99滋賀県農会副会長、  
歌人；[鳩のうみ]入  
[正之(；名)の通称] 糸右衛門
- I4037 正之(まさゆき・加藤かとう)1833- 1899<sup>67</sup> 出羽鶴岡の骨董商、漢学；常念寺住職門、  
画・詩歌・囲碁を嗜む、勤王の藤本鉄石の感化；尊王思想を抱く、維新後県議員、  
「山桜書院集」「修築経営門規矩準」著、  
[正之(；名)の通称/号]通称；捨蔵/兼修/子徳、号；山桜楼
- I4038 雅之(まさゆき・鈴木すずき/穂積、鈴木清兵衛男)1837-71<sup>35</sup> 下総南羽鳥村の歌人；1856神山魚貫門、  
国学者；伊能穎則・権田直助門/神道も修学、妻と離別後下総各地を遍歴/1869穎則に招聘、  
上京；大学少助教/穂積に改姓/1870神祇官宣教使中講義/71少博士；任官前に急逝、  
家集「花のしべ」、1863「藻屑」64-67「民政要論上」/66「清風集」編/67「与林氏学論」、「漂藻」、  
「松葉集」「歌学新語」「歌学正言」「花実百首」「詞の花筐」「日本書紀訳解」「清風集」外著多数、  
[雅之(；名)の初名/通称/号]初名；昌之、通称；一平/清兵衛、号；霞山/霞崖/霞岳/霞洞/霞堂
- Q4007 眞幸(まさゆき・志々目じめ、十郎左衛の長男)1840-1880<sup>41</sup> 薩摩揖宿郡喜入郷麓ふとの剣術/兵法家、  
剣術；東郷藤兵衛門(示現流)/砲術；上原孫太郎門(萩野流)、兵学；伊地知正治門、国学者、  
戊辰戦争に京に出陣；薩摩常備隊半隊長、帰郷；1874(明治7)喜入の戸長、  
喜入郷内の壮年百余名を率い私学校に加盟/西南役に従軍；熊本城攻撃参加、  
田原坂の激戦で銃創/転戦し都城で再銃創/喜入の自宅で療養；眼病を患い官軍に降伏、  
東京護送；市ヶ谷監獄に入；獄中で歌の研究/獄中で病没、志々目藤彦の父、  
[七夕草花；七夕のあかぬ別れの朝つゆにぬれても咲くか秋萩の花]  
[残月；今朝もまた百舌鳥の鳴くまで岡の上の松の上高く月ぞ残れる]
- P4056 正庸(まさゆき・毛山けやま、旧姓；松浦)1844-1911<sup>68</sup> 伊予宇和島の一宮神社祠官、  
国学；平田鉄胤門/音韻学；木村正辞まさこと門、歌人、  
[正庸(；名)の別名/通称]別名；正恭まさゆき、通称；伊勢
- |               |   |                         |           |
|---------------|---|-------------------------|-----------|
| 正幸(まさゆき・花房)   | → | 道悦(どうえつ；法名、城主/歌/連歌)     | B 3 1 3 9 |
| 正行(まさゆき・小西)   | → | 正行(せいこう・小西こにし、俳人)       | C 2 4 7 2 |
| 正行(まさゆき・宮川)   | → | 松堅(しょうけん・宮川みやがわ、歌・俳人)   | S 2 2 0 6 |
| 正行(まさゆき・本多)   | → | 正信(まさのぶ・本多ほんだ、幕臣/老職)    | F 4 0 5 4 |
| 正行(まさゆき・上田/源) | → | 未生斎(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) | 4 1 8 8   |
| 正之(まさゆき・布施)   | → | 守之(もりゆき・布施ふせ、藩士/兵法家)    | G 4 4 7 3 |
| 正之(まさゆき・久保)   | → | 正元(まさもと・久保くぼ、幕臣/書記)     | H 4 0 8 8 |
| 正之(まさゆき・山崎)   | → | 以仙(いせん・山崎やまざき/高滝、俳人)    | B 1 1 0 3 |
| 正之(まさゆき・樋口)   | → | 垂水(たるみ・樋口ひぐち、国学者)       | Z 2 6 1 9 |
| 正之(まさゆき・安原)   | → | 種友(たねとも・安原やすはら、国学/歌人)   | 2 7 0 8   |
| 正羽(まさゆき・栗崎)   | → | 道有(どうゆう・栗崎、外科医者)        | H 3 1 6 4 |

正幸(まさゆき・坪井) → 貞之(さだゆき・坪井つばい、国学者) Q 2 0 9 9  
 昌之(まさゆき・歌田) → 昌保(まさやす・歌田うただ/藤原、神職/歌) N 4 0 9 7  
 政之(まさゆき・団/松浦) → 東溪(東溪とうけい・松浦、詩/記録蒐集) D 3 1 1 2  
 真之(まさゆき・千村) → 拙庵(せつあん・千村ちむら、医者) K 2 4 6 5  
 匡幸(まさゆき・増山) → 正賛(まさよし・増山ましま/藤原、藩主) I 4 0 5 4  
 誠之(まさゆき・加藤) → 弘之(ひろゆき・加藤、法学/ドイツ学) D 3 7 5 1  
 雅幸(まさゆき・飛鳥井) → 雅縁(まさより・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠) 4 0 2 5

- 4023 **雅世**(まさよ・飛鳥井あすかい、雅縁男/本姓;藤原)1390-1452<sup>63</sup> 廷臣;1422従三位/30権中納言、  
 1441正二位/41出家;贈権大納言、歌学・蹴鞠の師範、1407内裏九十番歌合参加(;雅清名)、  
 1434永享百首入、将軍足利義教の推挙で後花園天皇勅により単独で1439「新続古今集」編、  
 1450後崇光院貞成催[宝徳二年仙洞歌合]の判(:沙弥祐雅名/一条兼良と)、  
 家集「雅世集」(飛鳥井雅世歌集)、「石清水者百首続歌」、  
 「三社百首」「入道大納言雅世卿百首」「八景和歌」「富士紀行」「蹴鞠条々大概」外著多数、  
 1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]参加、  
 勅撰:新続古今(18首24/58/215/281/405/535/633/686/754/952/1082/1215/1243以下)、  
 [詔みことのり独ひとりうけつつ雲の上に今なしつぼの跡忍ぶかな](雅世集/独撰への風当り)  
 [難波がたしほやく煙立ちそひて霞もなびく浦風ぞ吹く](新続古今;24)  
 [ちらぬ花さきえぬ雪とやながめまし梅さかりなる春の軒端を]、  
 (匠作亭詩歌;2冒頭歌[祐雅名]/新正梅/対するは景南翁[景南英文]の詩)  
 [雅世(;名)の幼名/別名/号]幼名;寿応丸、別名;雅氏(;初名)/雅清、入道号;祐雅
- P4005 **正世**(まさよ・河崎かわさき、) ? - ? 江中期;伊勢度会郡の神職、  
 国学;橋村正身まさのぶ(1714-71)門、  
 [正世(;名)の別名/字/号]別名;延世、字;弥光、号;南阜
- R4064 **正代**(まさよ・橋村はしむら/本姓;度会、)1761?-1800<sup>40?</sup> 伊勢度会郡の外宮権禰宜、  
 国学;本居宣長門、養嗣子;正立まさたつ(1809-89/妻;橋村正並女の並子)、  
 [正代(;名)の通称]勝三郎/主膳
- N4092 **和世**(まさよ・上原うえはら、) ? - 1805 筑前怡土郡の総社高祖神社大宮司、歌に長ず、  
 [和世(;名)の通称]六太郎/大蔵/安藝守
- R4028 **将世**(まさよ・長嶺ながみね、将在まさあり男)1832-1911<sup>80</sup> 陸奥盛岡藩士/国学・歌;父門、  
 茶道;大田原珍朴門、  
 [将世(;名)の通称/号]通称;益人、号;将世庵
- 昌世(まさよ・辻/小宮山) → 謙亭(けんてい・小宮山こみやま、幕臣/儒者) E 1 8 9 6  
 政世(まさよ・服部) → 甫庵(ほうあん・服部はつとり、医者) 3 9 0 4
- I4039 **政義**(まさよし・中原なかはら、重頼男、長国と兄弟) ?-1047 廷臣;左少史/従五下/大外記、  
 歌;橋俊綱家探題歌会に参加、後拾遺658、  
 [つれなくてやみぬる人にいまはたゞ恋死ぬとだに聞かせてしがな](後拾遺;哀傷658)、
- I4040 **和義**(まさよし/かざよし・斯波しば/本姓;源、石橋[吉田]義博男) ?-? 武将;足利尊氏に従い挙兵、  
 1336尊氏西走後は山陽の兵を率いて畿内で戦う/1351剃髪/52室町幕府引付頭人、  
 1353上洛;南朝軍入京阻止に軍功/奥州下向し所領安堵;奥州国人の支持得られず、  
 従四位下左衛門佐/三河・尾張守/左近将監/1361若狭守護代、  
 二条派歌人;自邸で歌会催、1350為世十三回忌和歌参加、  
 勅撰9首;風雅(1485)新千載(1256/1569)新拾遺(3首1270/1559/1860)新後拾(3首)、  
 [玉づさもことづててまし春の雁我がふるさとに帰ると思はば](風雅;十五1485/帰雁)  
 [和義(;名)の初名/通称/法名]初名;氏義うじよし、通称;尾張三郎/左衛門入道、法名;心勝  
 カズヨシ(勅撰作者部類)・マサヨシ(太平記の訓)
- I4041 **雅能**(まさよ・飛鳥井あすかい、雅家男/本姓;藤原) ?-? 南北室町期廷臣;侍従/歌;新後拾遺599、  
 [我がかたによるともなかぬ契をもちあへればしたふ春のかりがね](新後拾遺;七599)
- I4042 **正能**(まさよし・池田いけだ/本姓;藤原) ?-? 1485存 摂津池田の豪族;細川家臣、連歌;肖柏と親交、  
 1482「正種宗伊等何人百韻」/85「肖柏宗春等何路百韻」連衆参加、新菟玖波;2句入、  
 [正能(;名)の通称]帯刀允たてわきのすけ/伊賀守



- I4043 **正能**(まさよし・幸こう、忠能[四郎次郎]男)1539-1626<sup>88</sup> 能楽師;幸流宗家2世、初め金春座小鼓方、足利義昭の毛利家庇護に協力/毛利輝元に小鼓を教授;庇護を受/秀吉・羽柴秀長の愛顧、研究を積み独自の藝境に至る、「幸正能口伝書」著、  
[正能(;名)の通称/法号]通称;五郎次郎、法号;天朗雲星月軒
- I4044 **正賀**(まさよし・立石たていし)1565-1659<sup>長寿95歳</sup> 武将;土佐幡多郡立石村領主、初め一条家の臣、長宗我部氏の家臣、1582伊予高森の戦で功/1600関ヶ原敗戦で長宗我部は断絶;  
武を排し城明渡しに尽力、のち肥後細川家に出仕;千五百石、歴史に通ず、  
1659?「長元物語」著、  
[正賀(;名)の通称]右京進/助兵衛
- S4015 **正芳**(まさよし・平元ひらもと、通称;長兵衛)1613-1674<sup>62</sup> 出羽久保田(秋田)藩士:祐筆、歌人;藩主佐竹義寛門
- 04095 **正好**(まさよし・釜屋かまや、本姓;秦)?-?元禄1688-1704<sup>頃没</sup> 江前期伊勢度会郡の国学者;  
出口(度会)延佳のぶよし(1615-90)門、  
[正好(;名)の通称]六郎右衛門
- L4008 **正好**(まさよし・中島なかじま) ? - ? 江前期摂津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入  
[法問を聞くほど奥の深ければ口からうかぶ念仏申さん](古今夷曲集;十釈教/口誦念仏)
- I4045 **正因**(まさよし・高森たかもり)1640-1718<sup>79</sup> 肥後阿蘇大宮司高森家の裔孫、紀州の生、山城伏見で医業;大和高取藩主植村侯を治療;名医の称/宝永飢饉に勝平散製造;窮民救済、仏教を信仰/詠歌を嗜む/自作歌20首を霊元上皇に献上;東蘭亭の号を賜る、  
1715「東蘭亭和歌集」編、  
[正因(;名)の号]寂嘯/疎竹/破竹庵/東蘭亭
- I4046 **正良**(まさよし・永井ながい、通称;伝七郎/織部)1643-1720<sup>78</sup> 加賀金沢藩士:1659前田綱紀に召出さる、1675歩頭兼中小将番頭/御馬廻頭/定番頭/1709人持組2千5百石、世子吉徳付、  
1692「飛州高山品々覚書」1712「栄君様御附人御供女中御扶持方御給金品々役付留帳」著
- L4018 **方好**(まさよし・不破ふむ、勝次男)1643-1727<sup>85</sup> 金沢藩士:大小将裁許/御歩頭/御馬廻頭/1724致仕、  
1698「越中越後両国境目改之留帳」著、  
[方好の通称/号]通称;平左衛門、号;秋夕
- I4047 **政義**(まさよし・一塵軒) ? - ? 俳人;  
1680心友「江戸宮笥えどみやげ」序(心友との両吟百韻入)
- I4048 **正好**(まさよし・中西なかにし、初姓;床井、通称;文左衛門/十太夫)?-? 江前期江戸の和算家、池田昌意門/関孝和の門人にも修学、中西流を開く、川勝丹波守広綱に出仕、正則の兄、  
1683「勾股弦適等集」86「算法一覧記」88「町見至極集」編、「軍数動静記」「軍用町見記」著、「算法気数約式」「中西流算法」「算学難教」著、弟正則が中西流を発展させる
- I4049 **正義**(まさよし・杉山すぎやま)1686-1749<sup>64</sup> 筑後久留米藩士/易学;合原窓南門書を嗜む、「恒斎集」「酔吟聯句六千句」「易経本義和解」著、正仲の父、  
[正義(;名)の通称/号]通称;謙/清兵衛、号;恒斎
- D4020 **全昌**(まさよし・富永とみなが、富永昌親の養嗣子)1687-1764<sup>78</sup> 加賀金沢藩士:1691遺知継嗣、表小将/御使番/定番馬廻頭/人持組千五十石/1763致仕、「稽古記聞」「栄辱日記」、  
1728「六組御歩人高帳」編/59「富永数馬覚書」、「全昌武貞問答」、  
[全昌(;名)の通称/号]通称;数馬、号;、晩静
- I4050 **政昌**(まさよし・本多ほんだ、政敏男)1689-1748<sup>60</sup> 加賀金沢藩士:1723兄没のため家督嗣/24従五下、安房守、1726「折懸包上書」著、政行まさゆきの養父、  
[政昌(;名)の幼名/法号]幼名;才一郎/嘉藤次、法号;万機院
- J4017 **方淑**(まさよし・中村なかむら、別名;芳淑)?-? 江中期大和葛上郡の本草家;薬用の人参栽培提唱、  
1732「漫園録しんえんろく」著
- I4051 **昌芳**(まさよし・藤原ふじわら、号;蒼山)?-? 江中期歌人、1743「松島遠目鏡」著
- S4067 **当義**(當義まさよし・松沢まつざわ、?)?-1753 信濃伊那郡の国学者・歌;依田正純(1681-1749)門、  
[当義(;名)の通称]通称;新太郎
- I4052 **正義**(まさよし・殿村とのむら、字;子方)?-? 江中期京篆刻家/書家、池大雅と親交、

1755「博古齋印譜」、「大雅堂水流帖」篆刻/俳諧;1777江涯「仮日記」入;亞岱名

[正義の通称/号] 通称;平太/平八、号;博古齋/亞岱<sup>あたい</sup>/亞岱山人

- I4053 **昌喜**(昌熹<sup>まさよし</sup>・入江<sup>いりえ</sup>、道喜男)1722-1800<sup>79</sup> 大阪町人;1724(3歳)父死別/1745兄死別;家督、幼少より書習得/国学者:契沖に私淑、師も門人もない、歌人、小沢蘆庵・小山儀<sup>ただし</sup>と交流、1774「幽遠隨筆」/74「和田津海」/79「青陽唱詠」/「鳥追歌の解」/83「異名分類抄」著、1784「久保之取蛇尾」著/94「墨古歌合」編、「葦手考」/「栄花採葉」/「春雨茗談」/「本朝地名考」著、1797(寛政7)妙法親王の令旨を受け「万葉類葉抄補闕」15巻を編纂、養子;寿喜<sup>ひさよし</sup>(石亭)、[昌喜(;名)の通称/号]通称;榎並屋半次郎/五郎兵衛、屋号;榎並屋  
号;獅子童/狻猊子<sup>さんげい</sup>、浪速蘆父/白沢老人/長翁/長輔/幽遠崛[窟](;亭号)

- I4054 **正賛**(まさよし・増山<sup>ましま</sup>、<sup>まさやま</sup>/本姓;藤原、毛利匡弘男)1726-1776<sup>51</sup> 伊勢長島藩主増山正武養嗣、1747遺領襲封;従五下/対馬守、在任中天災凶荒が続き幕府より復興資金貸与される、藩学を振興;学者を招聘、「公家衆御馳走御能之節当番勤向」著、[正賛(;名)の幼名/別名/法号]幼名;仙五郎/千五郎、別名;匡幸(;初名)/正順/正孝、法号;相巖院、正賢<sup>まさかた</sup>の父

- 04086 **政良**(まさよし・片桐<sup>かたぎり</sup>/本姓;源、字;明卿)1726-80<sup>55</sup> 江戸の国学者

- I4055 **正良**(まさよし・室田<sup>むろた</sup>、雅矩男)1729-? 1799<sup>存</sup> 幕臣;1765家督嗣/西丸表右筆/勘定/代官、1790油漆奉行/91細工頭/99西丸切手門番頭、長沼流軍学;杉島氏成・岡田正勝門;1760免許を受/室田派の祖、隠居後は岩代会津藩で軍学を教授、宝暦1751-64頃「握奇八陣集解口義」著、政映の養父、[正良(;名)の通称/号]通称;金之丞/仁三郎/金左衛門、号;虚実軒

- I4056 **当義**(まさよし・関<sup>せき</sup>、家老関当意男)1733-1804<sup>72</sup> 上州伊勢崎藩士;儒/古義学修学・のち朱子学、古兵法修得;弓術に長ず、1763家老;藩財政再建/1783浅間噴火の災害復旧、1788致仕、俳諧を嗜む;藩内の指導者、「聞見録」著、重嶺<sup>いげたか</sup>の父、[当義(;名)の字/通称/号]字;子重、通称;豊五郎/豊之進/助之丞、号;讓齋/垂白、法号;大空院

- I4057 **昌芳**(まさよし・岡<sup>おか</sup>、昌春男/本姓;太秦)1734-1817<sup>84</sup> 天王寺方楽人、伊豆守/下野守/内匠権助、1804讃岐守/08甲斐守/17正四上、1812「竜笛要鑑」著

- I4058 **尹祥**(まさよし・森<sup>もり</sup>、繁勝男/本姓;源)1740-98<sup>59</sup> 幕臣;1757家督嗣/幕府右筆/小普請、1761本丸出仕/1762西丸出仕、1781致仕、書家;祖先より入木道<sup>いりもくどう</sup>を相伝、持明院宗時の門で修行、「尹祥叢書」「入木道訓」「書道訓」「右史訓」著、「入木道伝書目録」「古案集」編、外編著多数、[尹祥(;名)の通称/号]通称;伝右衛門、号;源流/梅花樹林齋、法号;瑞光院

- 4024 **雅嘉**(まさよし・尾崎<sup>おさき</sup>、別名;嘉)1755-1827<sup>73</sup> 大阪の医者/儒;奥田尚斎門/国学者・歌人、書肆、1795「掌中明題集」96「古今和歌集鄙言」「和歌幣<sup>はに</sup>袋」「掌中題林抄」/97「掌中源氏物語」編、1801国書分類「群書一覽」、家集「蘿月<sup>らげつ</sup>集」/「源語参註」「事物博採」「百人一首一夕話」著、「新松葉名所和歌集」「伊勢物語鄙言」「万葉集鄙言」「蘿月庵歌文集」「六歌仙一夕話」外多数、没後:弟の谷川于喬<sup>ゆきたか</sup>が未完著述の編纂補訂をし刊行、[雅嘉(;名)の字/通称/号]字;有魚/勇魚、通称;俊蔵/春蔵、号;華陽/春廼屋/春陽軒/羅月/蘿月/蘿月庵/伝古知今堂/紺足袋先生

- I4059 **正義**(まさよし・尾関<sup>おえき</sup>/小関<sup>おせき</sup>)1755-98<sup>44歳</sup> 筑後久留米藩士/垂加神道・国学者:不破守直門、伊勢松坂の本居宣長門、帰藩後国学を指導、「近思録聞書」編、「徳川将軍編年」編、1782「年号便覧」「小学聞書」編/82「十九朝大綱年号便覧」編、「在方御掟問答」著、通称;権平、歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末;長歌入、真勝<sup>まさかつ</sup>の父

- M4003 **政善**(まさよし・中村<sup>なかむら</sup>)1756-1818<sup>63歳</sup> 江中後期;備後鞆浦の酒造業;代々保命酒製造、歌人;木下幸文門、妻;幾世<sup>きよ</sup>(旧姓河村/同門の歌人)、[政善(;名)の通称] 通称;吉兵衛(代々の称)/泰輔

☆ 保命酒は大坂の医師中村吉兵衛が考案した薬用酒;1659(万治2)鞆浦で製造;中村家が代々独占的に製造販売し製造法を門外不出一子相伝;明治期に廃業

- S4027 **正麗**(まさよし・藤井<sup>ふじい</sup>)1760-1804<sup>45</sup> 安藝広島商家、

東西町奉行配下の中島組(本・材木・天神・元柳町など)の大年寄、和漢学者、

[正麗(；名)の字/通称/号]字；公沢、通称；政助、号；寛斎

- I4060 **政美**(まさよし・北尾きたお、名；紹真つぐざね、暈職の赤羽義珍男)1764-1824<sup>61</sup> 江戸の絵師；  
初世北尾重政門、家業を継がず画道専心/初め挿絵師/錦絵で活躍、  
略画式絵本に新境地を開く、1794美作津山藩主松平家の御抱絵師、  
その命で狩野派を修得；狩野惟信門/(狩野紹真名)、森島中良・版元須原屋市兵衛らと親交、  
1780挿画「浦山太郎兵衛竜宮の巻」/「空音本調子」、1785藍摺「江都名所図会」画、  
1787「絵本吾婦鏡」88「悦鼻肩蝦夷押領よろこんびいきのえぞおし」/1789絵本「海舶来禽図彙画」、  
1789「鸚鵡返文武二道」90「心学早染艸」95「略画式(人物)」/1800「山水略画式」画、  
1808「人物略画」13「草花略画式」画、「今様職人尽歌合」(没後刊)外画多数、  
[北尾政美(；号)の字/通称/別号/狂名]字；子景/通称；三二郎(俗称；三公)、  
別号；鋏形蕙斎けいさい/蕙心斎/杉阜さんこう、  
狂名；麦野大蛇磨おろちまろ/麦藁雄魯智むぎわらのおろち/氣象天業きしょうてんこう、法号；彩淡蕙斎居士
- I4061 **政愛**(まさよし・杉ざ、字；子敬)?- ? 江後期寛政1789-1801頃江戸の文筆家、  
「養眞堂遺稿」編
- 04076 **正良**(まさよし・垣本かきもと/本姓：源、)1767-1821<sup>55</sup> 伊勢飯高郡の駅部田村代官、  
国学；本居宣長門、  
[正良(；名)の別名/通称]別名；元良/茂良/**重良**、通称；半之丞/庄右衛門/幸右衛門
- R4041 **昌良**(まさよし・西村にしむら、)1767-1829<sup>63</sup> 近江彦根藩士、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、  
[昌良(；名)の通称]荒之介
- N4056 **正義**(まさよし・石尾いお/本姓；荒木、通称；太右衛門)1770-1830<sup>61</sup> 近江彦江藩士/歌人、  
1844野津基明「彦根歌人伝」亀ノ巻入、文武に精通；博覧の人
- R4086 **正好**(まさよし・早崎おはやさき、通称；半六)1771-1809<sup>39</sup> 近江彦根の国学者/歌人、  
国学・歌；彦根藩士村田泰足・小原君雄門、歌；[彦根歌人伝・続寿]入
- T4021 **匡好**(まさよし・桃沢ももさわ、初名匡安/通称；雄吉・与一右衛門[代々の称]、旧姓；大沢)1771-1830<sup>52</sup>  
信濃伊那郡飯島村名主の桃沢匡逸まさはや(夢宅男/1759-1840)の養子、国学/歌人；夢宅門、  
りの(里乃・片桐源一の妻)の父
- Q4006 **昌芳**(まさよし・志貴しき、別姓；惣社)1771-1839<sup>69</sup> 駿河府中の総社神社神主、国学；本居宣長門、  
志貴昌澄の孫、  
[昌芳(；名)の別名/通称/号]別名；昌方、通称；中務、号；樟園
- N4098 **正美**(まさよし・内田うちだ、通称；茂平次)1771-1841<sup>71</sup> 近江彦根藩士；書写方/国学者・歌人
- M4083 **政養**(まさよし・池田いけだ、鴨方藩主政直長男)1772-1819<sup>48</sup> 1800(寛政12)父隠居；家督継嗣；  
備中鴨方藩6代藩主、従五位下/内匠頭、家督は政共が継嗣、  
正室；池田治政女の兼子(瑞松院)/後室；清厚尼(大江戸倭歌集の歌人)?、  
政共・政広(栄)・政善・水野元茂の父、  
[政養(；名)の幼名/法号]幼名；陽助、法号；養賢院
- Q4035 **正芳**(まさよし・杉本すぎもと、通称；治源太)1777-1847<sup>71</sup> 近江滋賀郡の国学者/歌人；[鳩のうみ]入、  
光伴の父
- I4062 **正義**(まさよし・西城戸にしきど/本姓；菅原)1778-1859<sup>82</sup> 西城戸相模守宗秀の養子/播磨姫路の神職、  
西城戸家は代々姫路総社(射楯兵主神社)の祠官；継嗣/駿河守、国学/易学を修学、  
1839「氣候懸断録」/1842「播磨国総社図絵」著、  
[正義(；名)の通称/号]通称；駿河守、号；白竜、正直まさなおの父
- R4050 **正巧**(まさよし・野原のはら、旧姓；平沢)1779-1860<sup>82</sup> 信濃伊那郡の商家；飯田の[綿屋]の一族、  
飯田藩御用達、国学・歌；植松茂岳門、妻；森本信彌女のノブ(森本眞弓の叔母)、  
[正巧(；名)の通称/号]通称；文四郎/文七郎、号；明啓、屋号；綿屋
- I4063 **昌義**(まさよし・志村しむら、別名；昌寿)?-? 江後期文化1804-18頃江戸の和算家；古川氏清門、  
1808-16「淇澳集」編、  
[昌義(；名)の通称]通称；彦太郎/又三郎
- I4064 **正義**(まさよし・岡島おかじま、佐野春郷男)1784-1858<sup>75</sup> 岡島三右衛門養嗣/1794継嗣；鳥取藩士370石、  
1824大目付/26頃致仕、地歴の研究、「鳥府志」編、「因府年表」「因府年表続編」「霜眉随記」著、  
「因府年表続々編」「因府歴年大雑集」「化政厳秘録」「天保厳秘録」/1834「旧墨鑿覧」著、



- [正義(；名)の通称/号]通称；儀三郎/五郎右衛門/儀三右衛門ぎざえもん、号；石梁、  
T4036 **正令**(まさよし・安原やすはら、貞四郎正業男)1784-1835<sup>52</sup> 備中賀陽郡清水村の醸造業[清水屋]の生、  
正路の兄、正郷の孫、父の跡安原本家を相続、国学者・歌人；[類題吉備国歌集]3首入、  
[正令(；名)の通称]貞八郎
- I4065 **正好**(まさよし・宮永みやなが、正運まさゆき[1732-1803]男)?-? 江中後期；越中砺波郡下川崎村の農政家、  
文化1804-18頃父を継嗣；6代目宮永家当主/加賀金沢藩山廻役・山廻列、詩を嗜む、  
菽園・大蔵・東作の父、1814(文化11)長男正作(十左衛門)に家督譲渡、  
多数の資料を渉猟し著述、1781「御用心覚算用仕立覚」1811「私由緒帳」著、  
1816「農業談拾遺雑録」著(父著[私家農業談]の補填)、父蒐集資料「養蚕私記」編；父著で刊、  
[正好(；名)の通称]通称；十右衛門/恒右衛門
- N4059 **正督**(まさよし・石毛いしげ、)? - 1820 下総海上郡の猿田神社神主、国学者
- S4093 **正芳**(まさよし・水野みずの、)1793-1869<sup>77</sup> 筑後久留米藩士；参政；中老、水野敏樹の孫、  
国学・歌；祖父敏樹としき・宮崎信敦のぶあつ・真木保臣門、妻；鶴子(稻次縫殿成興女)、  
正名まさな・道之助(吉田博文)・恭之進(稻次正訓)の父、  
[正芳(；名)の通称/号]通称；養太郎/文三郎/又蔵、号；淡水
- R4051 **正甫**(まさよし・野原のはら、旧姓；宮沢)1795-1834<sup>40</sup> 信濃伊那郡の商家の野原正巧まさよしの養子、  
国学・歌；養父門、養父より早世、  
[正甫(；名)の通称]綿屋文四郎(養父の称)
- T4001 **正宜**(まさよし・宮下みやした/本姓；源、正岑まさみね男)1797-1859<sup>63</sup> 母；とみ(1781-1814；歌人)、  
信濃伊那郡飯島村の名主の家/国学；父門/歌；片桐源栄門、  
[正宜(；名)の初名/通称/号]初名；八十麻呂、通称；銀次郎、号；貞松館/椿園/東風亭
- I4066 **正芳**(まさよし・野田のだ)1802 - 1831<sup>30</sup> 美濃岐阜の醸造業/歌；冷泉為村門、  
加納広敏など同郷の歌人と交流、「尾州伝来太鼓秘事」著、  
[正芳(；名)の通称/法号]通称；文右衛門、法号；釈休芳
- I4073 **政良**(まさよし・下村しもむら)? - ?1830-44頃没 江後期京室町丸太町北の暦算家、  
呉服商大丸の一族か、「拋消長法用数」著、  
[政良(；名)の字/通称/号]字；惟選、通称；甚之丞、号；謙斎
- S4016 **正義**(まさよし・平山ひらやま、正名男)1807-62<sup>56</sup> 下総香取郡の漢学者；父平山正名門、  
歌；神山魚貫門、  
[正義(；名)の通称]通称；友吉/信一郎
- I4067 **正睦**(まさよし・堀田ほった、初名；正篤まさひろ、正時男/本姓；紀)1810-64<sup>55</sup> 母；源田右内光寿女、  
1824下総佐倉藩主堀田正愛(正時の養嗣)の養嗣子；25藩主襲封/29奏者番/寺社奉行、  
大坂城代/西丸老中、従四下/侍従/相模守/備中守、水野忠邦の推挙で本丸老中；  
天保の改革推進/失敗し1843罷免、1855老中再任；首座/56外国御用掛；  
日米条約締結に奔走/将軍後継問題も絡む；58罷免、1859家督を息子正倫に譲渡、  
隠居；後見として藩政改革推進/1862老中時の不届で蟄居、  
藩政改革では農政改革・文武奨励/藩校成徳書院設置；医学所を附属し蘭方医学を採用、  
「寺社奉行堀田正篤まさひろ留書」「条約草稿演説書」/1857-58「正睦日記」著、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(；侍従正篤名)、  
[あさがすみ霞みこめたる川づらはくだす高瀬の音ばかりして](大江戸倭歌；春63)、  
[正睦(；名)の通称/号]通称；左源治(佐源次)/相模守/備中守、号；見山、法号；文明院
- M4082 **政善**(まさよし・池田いけだ、鴨方藩主政養3or4男)1811-46(公式には1847没)<sup>36</sup> 母；側室(岩田氏の女)、  
1824(文政7、14歳)兄政共が早世；内密で異母兄池田政広(甚次郎)とすり替り家督を継嗣、  
備中鴨方藩第8代藩主(；公式には政広と政善は同一人とす)、1826元服/27政善を名乗る、  
従五位下/信濃守、元の甚次郎政広は剃髪し池田栄(虎吉)とされ1839(29歳)で没、  
正室；福原資敬女、政樹・宇多子(池田慶政正室)の父、  
1846(弘化3)在所で没/鴨方藩は幕府に死亡届を1847に提出；池田政詮(章政)を継嗣、  
[政善(；名)の幼名/別名/通称]幼名；虎吉、別名；政広(；初名)/政敏、通称；甚次郎、
- M4097 **正孝**(まさよし・栗生あお、通称；理八郎)1815-1874<sup>60</sup> 筑後久留米藩士/国学；大隈言道・船曳鉄門門、  
明善堂教官

- P4050 **昌芳**(まさよし・黒阪くろさか、通称;鷺之助)1816-1904<sup>89</sup> 備中小田郡稲木村の神職;道祖神社祠官、国学;小寺清之・大国隆正門、1884教導職/権少教正、「掃溜集」著
- R4095 **昌義**(まさよし・原はら、通称;助九郎)1818-74<sup>89</sup> 伊豆君沢郡の国学者、昌清の父
- I4068 **正美**(まさよし・竹腰たけのこし、正定男)1819-84<sup>66</sup> 美濃今尾藩主;1837家督嗣/尾張藩付家老、兵部少輔/従五下、1860桜田門外変後藩内に洋学開設;文武奨励、直弼との親近関係嫌疑;1862今尾に蟄居/63;家督譲渡、詩歌・書を嗜む、1851「諫争録」著、[正美(;名)の別名/号]別名;正諛まさあと(せいし)/正富、号;蓬月
- I4069 **政義**(まさよし・内藤ないとう、井伊直中男)1820-88<sup>69</sup> 日向延岡藩主内藤政順の養嗣子、井伊直弼の弟、1834襲封;延岡藩主/従五下能登守/右近将監、飢饉に蔵米放出・水田開発・洋式砲術採用、学寮拡充;広業館と改称/延岡算学の復興、1862致仕、歌;1857-59「内藤侯詠草」著 [政義(;名)の幼名/通称/法号]幼名;銓之助、通称;帯刀たてわき、法号;興徳院
- I4070 **正義**(まさよし・有馬ありま、正直男/本姓;坂木/榊)1825-62<sup>38</sup> 薩摩伊集院の生/薩摩藩士、儒;1843江戸で山口菅山門/45京の梅田雲浜と交流、江戸薩摩藩邸学問所教授/造士館訓導、勤王派;寺田屋事件で没、1844「楠公論廻辨」57「富士山紀行」58「都日記」、「建白書」著、「有馬新七自叙伝」「挙義要録」「遊歴中偶録並草稿文留」「大疑問答」、「有馬正義遺文」著、[正義(;名)の別名/通称/号]別名;敬熙/信輝、通称;新七、号;武磨/武満/埴鈴子しよくれいし、法号;養法院
- I4071 **正美**(まさよし・内藤ないとう/本姓;藤原)?-?早世 江戸期幕臣?、歌;小林歌城うたき[1778-1862]門、「藤原正美詠藻」(338首入)
- M4089 **政よし**(まさよし・飯田いいだ)?-? 江後期;歌人、幕臣?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[恨のみ重なる夜半の恋ごろもかへせど夢もむすばざりけり](大江戸倭歌:恋1512)
- I4072 **正儀**(まさよし・太田おおた)?-? 江後期長岡藩士/和算家;日下誠門、「雑題五十問」編/「算題象形類五十問」、通称;寛兵衛
- I4074 **昌良**(まさよし・金子かねこ、別名;昌寿)?-? 江後期江戸の和算家;菊池長良門、1845「算法整数起源抄初編」47「当世改算記」編、「約術詳解」「算法自約術解」「算法天元術」編、「開平開立独稽古」「招差解」編、[昌良(;名)の通称/号]通称;左右平そうへい、号;清雄
- Q4055 **正良**(まさよし・田代たしろ、通称;庄作)?-? 筑前福岡藩士/国学・歌;大隈言道(1798-1868)門、言道の次女うめと結婚
- O4059 **政美**(まさよし・岡部おかべ、)1823-1901<sup>79</sup> 遠江浜松の吾社神社祠官、秋葉神社祠官、国学者;金原清宗・有賀豊秋門、俳人、[政美(;名)の別名/通称]初名;政寛、通称;次郎左衛門/主膳
- R4018 **祇歛**(まさよし・中村なかむら、)1823-1900<sup>78</sup> 長門萩藩士;藩主毛利敬親たちかの右筆、国学者/歌人、文久(1861-64)頃藩主に随行李江戸へ;尊攘運動、維新後;石見浜田県に勤務、[言葉にも筆にも尽ぬ悲しさはまたなき親のわかれなりけり](:[萩の歌人]入)、[祇歛(;名)の字/通称/号]字;広胖、通称;文右衛門、号;梅処
- Q4088 **方義**(まさよし・千野ちの、本姓;源)1828-1899<sup>72</sup> 信濃諏訪郡の高島藩士、諏訪大社権宮司、歌人;海野遊翁門、[方義(;名)の通称]男也/十郎兵衛
- S4041 **正喜**(真左喜まさよし・星ほし、)1831-1907<sup>77</sup> 信濃飯田藩士、国学・歌;岩崎長世門、[正喜(;名)の初名/通称]初名;正経、通称;真左喜
- N4040 **允讓**(まさよし・伊藤いとう、)1832-1910<sup>79</sup> 伊予伊予郡五本松砥部とべの陶工/里正、砥部焼の再興を志し有田焼の職人を招聘;染付や金襴手きんらんでの磁器制作、歌人、[允讓(;名)の通称/号]通称;才吉/本吉、号;陶潤/五松斎/幽雅
- S4051 **正美**(まさよし・前島まえじま/本姓源、正弼まさよし男)1833-1902<sup>70</sup> 信濃伊那郡大鹿村大河原(天領)定名主、;1851(嘉永4)父より世襲、村政指導;江戸へ樽木納入の責任、維新後;戸長、国学者;平田鉄胤門、正英(1848-1923/神職)の父、[正美(;名)の通称]善五郎
- S4040 **正義**(まさよし・保坂ほさか、庄兵衛男)1834-91<sup>58</sup> 母;守子(須田)、上野七日市藩家老、

- 国学・歌;新居守村門、幕末に藩の内紛を収める、  
[正義(;名)の初名/通称/号]初名;千文、通称;鍛/奎、号;竹廼家
- N4057 **政昌**(まさよし・石神いしのみ/本姓;藤原、政種男)1834-190067 信濃伊那郡山吹村の座光寺累代の家臣、  
国学・歌人;片桐春一門/1862春一の紹介で平田鉄胤門(篤胤没後門)、  
片桐春一を中心とする本学神社(国学四大人春満・真淵・宣長・篤胤を祀る)の創建に尽力、  
維新の時;座光寺軍に従軍、  
[政昌(;名)の通称/号]通称;権五郎、号;作楽香/榊廼舎さかきのや
- S4079 **正善**(まさよし・丸岡まるおか/旧姓;久米、丸岡正孝男)1836-7742 伊勢度会郡の神職、  
国学・歌;足代弘訓門、書家;父門、  
[正善(;名)の初名/通称]初名;久芳、通称;雅楽うた/宗太夫
- I4075 **正健**(まさよし・伊吹いぶき)1837- 189054 因幡鳥取藩士;40俵5人扶持/国典・武術に精通、  
1862国事周旋方;長門・越前を巡見/63探索方;京詰/本圀寺の重臣暗殺事件に関与、  
維新後鳥取藩大属/宇倍神社宮司/大神山宮司「伊吹正健手記」著、  
[正健(;名)の通称]市太郎/勘右衛門
- I4076 **正慶**(まさよし・池田いけだ) ? - ? 幕末期大阪上本町の和算家;福田金塘門、  
「円理求積解」/1848「円理求積解初門」60「万延元年十月帯食同年十一月日食推歩」、  
1861「奉掲清水寺福田派算法図解」、「貫通術難解初編上」「算法極数術」外著多数、  
[正慶(;名)の通称/号]通称;弥三郎、号;毎山とうざん/貫徹斎
- I4077 **正毅**(まさよし・前田まえだ、通称;献吉、藩医善安男)?-? 薩摩の蘭学者;英語に通ず、正名まさなの兄、  
1869和英「薩摩辞書」(高橋新吉・弟正名と共編/開成所「英和对訳袖珍辞書」に拠る)
- M4007 **正毅**(まさよし・山本やまもと/本姓;源、通称;元七郎)?-1876 江後期;旗本;下総中野村に知行地、  
1868中野村本郷の郷蔵を改修し私塾開設、幕府への上書あり、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[狩人のいるさの山の下露や照射ともしの鹿の涙なるらん]、  
(大江戸倭歌;夏571/照射;篝火で目が光るのを的に射る/入佐山;出石の歌枕)
- N4034 **正義**(まさよし・井上まいのうえ、通称;文右衛門)1830-1920長寿91 伊勢河芸郡の国学者、法律学、  
1877「公証案文」著
- T4014 **方義**(まさよし・室むろ、) 1839 - 190365 越後高田本誓寺町の商家の長男、  
文武済美堂ぶんぜいみどうに修学/国学;室直輔門/歌;近藤芳樹門、勤王思想、  
戊辰戦争時;地域の有志を募り[方義隊/後の居之隊]を組織/北上する新政府軍に合流;  
旧幕府勢力の越後長岡藩・会津藩と戦闘、高田藩校修道館皇学助教、高田病院設立に尽力、  
弥彦神社宮司、西頸城郡長/信越鉄道発起会主催;1889直江津輕井沢間開通、  
1881頸城自由党に参加/のち上越立憲改進黨を組織/1890衆議院議員、  
[方義(;名)の字/通称/号]字;子成、通称;**孝次郎**こうじろう/市郎右衛門、号;桜蔭、  
変名;正木小七郎
- N4074 **正善**(まさよし・稲葉いなば、岩槻藩主大岡忠恕2男)1848-190255 1861(文久元)稲葉正巳の養子、  
1861従五位下備後守/1864(元治元)養父隠居;家督嗣;安房国館山藩第5代藩主、  
1867海軍費用3000両を幕府に献金;海軍練習所の英国人より英学・数学を学ぶ、  
1868上洛し恭順姿勢を示す;詰問される/69館山藩知事/従三位、神道管長、  
正室;中川久昭女、子に恵まれず養子を迎える
- 雅良(まさよし・久我こが) → 具房(ともふさ・久我、権大納言/歌) Q 3 1 4 9  
雅好(まさよし・水谷) → 川柳(5世せんりゅう、水谷、名主/雑俳点者) 2 4 4 3  
雅好(まさよし・田辺) → 良輔(りょうすけ・田辺たなべ、幕臣/兵学) I 4 9 3 9  
正由(政由まさよし・宮川) → 松堅(しょうけん・宮川みやがわ、歌・俳人) S 2 2 0 6  
正由(まさよし・奥宮) → 慥斎(ぞうさい・奥宮おくのみや、藩士/教育) B 2 5 5 8  
正休(まさよし・西川) → 正休(せいきゅう/まさよし・西川、天文暦学/幕臣) B 2 4 0 0  
正令(まさよし・戸沢) → 正令(まさのり/まさよし・戸沢とざわ、藩主/国学/歌) G 4 0 2 4  
正封(まさよし・浅井) → 貞庵(ていあん・浅井、医者/詩人) 3 0 2 6  
正幸(まさよし・青山) → 忠高(ただたか・青山、藩主) P 2 6 7 4  
正美(まさよし・富永) → 正翼(まさしげ・富永、医/漢学) C 4 0 7 6



正美(まさよし・富岡)	→	正忠(まさただ・富岡、藩士/国学/歌)	D 4 0 5 3
正芳(まさよし・木村)	→	魯石(ろせき・木村きむら、商家/俳人)	5 2 0 5
正芳(まさよし・広見)	→	章(あきら・広見ひろみ、歌人/教育)	I 1 0 3 4
正義(まさよし・安田)	→	貞成(さだしげ・天野/安田、武将/記録)	I 2 0 2 1
正義(まさよし・吉岡)	→	洞鑑(どうかん・吉岡、藩医者)	C 3 1 4 1
正義(まさよし・鈴木/稲葉)	→	迂斎(うさい・稲葉いなば、儒者)	B 1 2 3 0
正義(まさよし・辻)	→	正義(せいぎ・まさよし・辻つじ、俳人)	2 4 9 6
正義(まさよし・露木)	→	府尺(ふしゃく・露木つゆき、俳人)	C 3 8 6 7
正義(正美まさよし・安岡)	→	寛之助(かくのすけ・安岡、蘭学/勤王家)	K 1 5 3 7
正義(まさよし・岩淵)	→	加兵衛(かへえ・岩淵いわぶち、藩士/馬術家)	P 1 5 2 9
正義(まさよし・若林)	→	強斎(きょうさい・若林わかばやし、儒/神道/詩歌)	C 1 6 5 0
正義(宜祥まさよし・飯田)	→	桂山(けいざん・飯田、醸造業/詩人)	D 1 8 4 8
正義(まさよし・小原)	→	大丈軒(だいじょうけん・小原おはら/伴、儒者)	B 2 6 6 3
正義(まさよし・伊東)	→	道右衛門(どうえもん・伊東、藩士/槍術)	B 3 1 4 3
正義(まさよし・中村)	→	困斎(こんさい・中村なかむら、儒者/教育)	P 1 9 2 2
正義(まさよし・植村)	→	蘆洲(ろしゅう・植村うえむら、幕臣/詩人)	B 5 2 7 4
正義(まさよし・今村いまむら)	→	正房(まさふさ・今村いまむら、藩士/歌人)	N 4 0 8 2
正義(まさよし・大利)	→	正樹(まさき・大利おおり、藩士/勤王/歌)	O 4 0 4 7
正好(まさよし・木内)	→	一桃(いっとう・木内きうち、其日庵、俳人)	H 1 1 7 2
正好(まさよし・雨宮)	→	正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌)	L 4 0 5 8
正好(まさよし・近藤)	→	閑里(かんり・一瓢庵、幕臣/華道家)	R 1 5 7 8
正好(まさよし・市川)	→	甚左衛門(じんざえもん・市川、藩士/林政)	E 2 2 2 8
正吉(まさよし・木戸)	→	正吉(しょうきつ・木戸、武家/歌人)	G 2 2 0 1
正芳(まさよし・野田/吉川)	→	仙鼠(せんそ・吉川/野田、鶺鴒男/俳人)	G 2 4 2 6
正慶(まさよし・堀部/曲直瀬)	→	一溪(いっけい・曲直瀬みなせ、医者)	G 1 1 9 4
正慶(まさよし・花房)	→	雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者)	4 8 2 6
正慶(まさよし・森田)	→	正憲(まさのり・森田もりた、国学者)	T 4 0 2 6
正能(まさよし・楠木)	→	傑堂(けつどう・道号・能勝、曹洞僧)	H 1 8 2 8
正能(まさよし・蜂須賀)	→	綱通(つなみち・蜂須賀/源、藩主/歌)	B 2 9 3 3
正能(まさよし・安部)	→	竜平(りゅうへい・安部/安倍あべ/安、藩士/蘭学)	F 4 9 5 2
正誼(まさよし・杉村)	→	健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜)	H 1 8 4 7
正幸(まさよし・青山)	→	忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設)	P 2 6 7 4
正方(正芳まさよし・山田)	→	宗円(そうえん・山田やまだ、幕府医官)	G 2 5 3 2
正穀(まさよし・武重)	→	正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、商家/歌)	L 4 0 8 8
政義(まさよし・佐々木/源)	→	眞願(心願しんがん; 法諱、武家/僧/歌)	D 2 2 7 5
政義(まさよし・松平/本多)	→	忠国(ただくに・本多ほんだ、藩主)	P 2 6 4 4
政義(まさよし・小倉)	→	三省(さんせい・小倉、藩士/儒者; 南学)	2 0 5 3
政由(まさよし・成田/植崎)	→	九八郎(くはちろう・植崎、幕臣/上書)	D 1 7 3 8
政美(まさよし・安藤)	→	野雁(ぬかり/のかり・安藤、国学/歌人)	3 4 0 2
政吉(まさよし・浅羽)	→	筈之助(はずのすけ・浅羽あさば、砲術家)	E 3 6 6 7
政慶(まさよし・高田)	→	清兵衛(せいべえ・高田たかた/堺屋、書肆)	J 2 4 5 7
昌吉(まさよし・馬田/柴田)	→	大介(だいすけ・柴田しばた、洋学者; 英語)	B 2 6 1 1
昌臧(まさよし・田村/栗本)	→	丹洲(たんしゅう・栗本/田村、医/博物学)	I 2 6 8 2
昌宜(まさよし・宮川/近藤)	→	勇(いさみ・近藤、剣術/新撰組)	F 1 1 5 1
昌宜(まさよし・伏屋)	→	素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者)	K 2 5 1 4
昌義(まさよし・荒井)	→	和水(わすい・荒井あらい、商家/心学者)	5 3 3 3
当能(まさよし・小此木)	→	紅磧(こうせき・小此木おこのぎ、俳人)	K 1 9 0 9
将徼(まさよし・牧)	→	香松(こうしょう・牧まき、藩士/詩歌/書)	J 1 9 8 0

I4078 政由女(まさよしのむすめ・宮川みやがわ、松堅の娘) ?-? 京の俳人; 父母共に俳人、  
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、

[あいらしや浅黄あざ桜の花の匂かほ] (女哥仙;28)

父政由(まさよし・宮川)→ 松堅(しょうけん・宮川みやがわ、歌・俳人) S 2 2 0 6

- I4079 **雅頼**(まさより・源みなもと;村上流、初名;雅仲、雅兼男)1127-1190<sup>64</sup> 母;源能俊女、廷臣;右大弁、蔵人頭/1164(長寛2)参議、65左大弁/67備中守従三位/68正三位/69権中納言/79解官、1183正二位;散位/87出家、故実;「雅頼卿次第」「宮御灌頂次第」著、1164「雅頼記」、歌人;1166中宮亮重家歌合参加、78別雷社歌合参加、1165成立[続詞花集]入(右大弁名)/今撰集・月詣集・夫木抄に入集、歌人;勅撰6首;千載(5首168/270/813/882/948)玉葉(245)、  
[都人引きなつくしそあやめ草かりねのこの枕ばかりは](千載集;夏168/旅宿菖蒲)  
[霞にも雲にも誰かまがふらんだぐひも見えぬみねの桜を](続詞花;春46)  
[雅頼(;名)の通称] 猪隈中納言いのくまのちゆうなごん/壬生みぶ/綾小路あやのこうじ

- 4025 **雅縁**(まさより・飛鳥井あすかい、雅家男/本姓;藤原)1358-1428<sup>71</sup> 南北室町期廷臣;1397参議従三位、1398従二位権中納言;義満剃髪に随い即日出家、足利義満の寵を得て蹴鞠・歌学の師範;幕府歌会の題者、1407内裏九十番歌合参加/「後崇光院百番歌合」判者など歌壇の指導者、「宋雅集」「宋雅百首」「宋雅千首」「両吟千首」「詠十五首和歌」歌学「諸雑記」、「宗祇伝抄」問、「二楽秘伝鈔」、1401「恵心僧都絵巻」14「頓証寺法楽百首」27「宋雅道すからの記」外著多数、勅撰新30首;新後拾(534)新続古(29首;冒頭歌/29/103/162/183/205/259/295/337以下)  
[春来ぬといふより雪の降るとしを四方にへだてて立つ霞かな](新続古今;春1)  
[雅縁(;名)の別名/法名]初名;雅氏/雅幸、入道号(法名);宋雅、 雅世・雅永の父

- I4080 **正頼**(政頼まさより・瓦林・河原林かわらばやし、本姓;平)?-1520 戦国期摂津豊島郡の豪族、細川政元の臣、細川家家督争いで高国方に属し転戦;鷹の尾城・越水城を築く、1520通敵の嫌疑;京で自刃、連歌作者;1488・94宗祇・肖柏と連歌会/1452小鴨千句参加、1518宗長「東山千句」参;百韻発句、新撰菟玖波入、  
[正頼(;名)の通称/号]通称;対馬守、入道号;宗芸  
歌人正頼と同一? → 正頼(しょうらい、歌、1457「武家歌合」参) L 2 2 8 7

- T4028 **正仍**(まさより・森脇もりわき、香川宗尤そうゆう[春継]4男)1599-1690<sup>長寿92</sup> 周防岩国藩士、和学者/歌人、父は毛利元就・吉川元春の家臣(武将)で吉川家家老、森脇家養子、三久みつひさの父  
[正仍(;名)の通称/号] 通称;小兵衛、号;自安

- I4081 **正倚**(まさより・稲葉いなば、初名;正喬、稲葉正則2男)1647-1714<sup>68</sup> 母;毛利秀元女、幕臣、1661將軍家綱に出仕;従五下出羽守・駿河守、書院番頭/大番頭;7千石、幼時より詩文習得、歌;飛鳥井雅章・中院通茂門、1673「一庵口儀」、歌学書;1704「知海抄」08「席話抄」著、歌集「桃葉集」、「香陰亭記」「辨邪復正抄」著、  
[正倚(;名)の通称/法号]通称;主税介ちからのすけ、諡号;竜沢公、法号;大理院

- U4005 **正順**(まさより・田宮たみや、)?-? 江前期上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[水無月のあつさ忘れむ折りかけて雪ともみばや庭の卯花](林葉累塵;夏247)

- L4053 **正因**(まさより・伊丹いたみ)?-? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入  
[遠山の道なき事はいはせまい](物種集/前句;雲に霞のはるゝ横物/横に長い掛軸)

- P4031 **政従**(まさより・北村きたむら、六右衛門正利男)1648-1719<sup>72</sup> 近江滋賀郡本堅田村の郷士・豪農の生、茶道;藤村庸軒門/作庭・茶室設計・茶器制作、庸軒と庭園[天然図画てんねんずえ亭]創設、料理、[幽安焼](鮎のつけ焼)・[幽安焼](食用菊)を考案、堅田本福寺住職三上千那と俳諧、妻;堅田の郷士居初正幸いそめまさゆきの妹、歌人;[鳩のうみ]入、「近世叢語」に逸話あり、  
[政従(;名)の通称/号]通称;佐太夫、号;幽安/祐庵/道邃どうずい

- I4082 **正因**(まさより・前波まえなみ、通称;和兵衛)1679-1750<sup>72</sup> 加賀金沢藩士;1704兄小左衛門の遺知継嗣、割場奉行/御預地方御用/先筒頭/1747持筒頭、1738「言上留」著

- L4031 **正従**(まさより・横山よこやま、正武男)?-? 江戸中期加賀金沢藩士;家老職、政礼まさのりの養父、1740「繁姫様御婚礼一件」著

- R4063 **正因**(まさより・橋村はしむら/本姓;度会、旧姓;上部)1716-40<sup>早世25</sup> 伊勢度会郡の外宮権禰宜、国学、養子正河(1741-1812)が家督嗣、

[正因(；名)の通称]六太郎/主膳

I4083 **正因**(まさより・山田やまだ) ? - ? 江後期尾張名古屋藩家老石河家家臣、  
1792「山田随筆」編

I4084 **正從**(まさより・加藤かとう、正識男)1771-1834<sup>64</sup> 出羽庄内藩士；1804学校御用、  
1805藩校致道館の司書・司器、1806-34(約30年間)藩の古文書を整理；「鶏肋編」著、  
1804「秋の終夜」、「鶏肋篇抄」著、  
[正從(；名)の通称/号]通称；多太夫、号；秋月/芝蘭堂

I4085 **正頼**(まさより・久野くの、初名；清輝/清照きよてる、為清男)1821-91<sup>71</sup> 肥後熊本藩家老米田家に出仕；  
父を継嗣、熊本藩右筆/小姓頭、故実に通ず/歌；二条家流、1853主君に従い上京し浦賀警備、  
維新後は軍艦方、武備局監察/地誌掛/1876隠居致仕、槍術・居合・剣術目録相伝を受く、  
「筑紫衣」「鳥の跡」「御供日記」「從駕私記」「千日鑑」「奉納歌日記」著、  
[正頼(；名)の通称/号]通称；勘太郎、号；潭月/一桂堂、法号；修文院

S4002 **政因**(まさより・半谷はんたに/本姓；藤原、)1829-99<sup>71</sup> 陸奥行方郡北鳩原村の熊野大神社の神主、  
政忠(1845-1916/平田門国学者)の父、  
[政因(；名)の通称]日向守

T4062 **正因**(まさより・柚木崎ゆきさき、通称；強介)1842-? 日向諸県郡高岡の郷士、国学者、  
娘(2女)婿；日高德太郎(実業家)

正因(まさより・富森とみのもり助右衛門)→春帆(しゅんぱん・富森、俳人/討入) K 2 1 3 9

正因(まさより→まさよし・高森)→正因(まさよし・高森、医者/歌人) I 4 0 4 5

正順(まさより・増山)→正賛(まさよし・増山ましやま/藤原、藩主) I 4 0 5 4

正順(まさより→まさあり・堀田)→正順(まさあり・堀田ほった/紀、藩主/歌) B 4 0 2 1

正順(まさより・古高)→正順(まさのぶ/まさより・古高/枳屋、商家/尊攘) S 4 0 3 7

政從(まさより・立川)→從(まさる・立川たつかわ/たち、心学/歌人) Q 4 0 8 5

眞頼(まさより・黒川)→眞頼(まより・黒川くろかわ/金子、国学者) K 4 0 1 8

Q4085 **從**(まさる・立川たつかわ/たちかわ、)1817-78<sup>62</sup> 近江甲賀郡の心学者；石門心学を修学、  
開墾事業に従事/1890(明治3)甲賀郡和田村など25村の組合総代/区長/県属、  
歌人；[鳩のうみ]入、

[從(；名)の別名/通称/号]別名；政從まさより、通称；三郎/金右衛門、号；鹿山

勝(まさる・平沢)→白翁(白鷗はくおう・平沢ひらさわ、卜占家) C 3 6 7 6

増(まさる・古賀)→茶溪(さけい・古賀こが、幕府儒官) G 2 0 1 4

I4086 **磨三**(まさる・来鷗亭、別号；蓬雨)?-? 尾張知多郡横須賀の俳人；暁台門、  
1768暁台「秋の日」6句入

馬山(まさる)→吟風(ぎんふう・庄司しょうじ、俳人) R 1 6 1 4

眞字垣(まじがき)→眞風流(眞古ふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6

4026 **眞潮**(ましお・谷たに/大神おおみわ、谷垣守かきもり男/秦山の孫)1727?-97<sup>71</sup>? 土佐藩士；香実郡山田村出身、  
家学(国学神道)；父門、儒臣として山内家に出仕、国学・歌；賀茂真淵門/土佐に万葉学普及、  
1752家督；小姓格/藩主侍読/78浦奉行、藩主山内豊雍の天明改革に拔擢；郡・普請奉行、  
国政に参画し大目付に至る/91致仕；藩校教授、1778「磯辺のもくつ」、漢文「北溪集」著、  
歌「北溪子歌集」「北溪詠草三十首」「北溪撰集」、「神道本論」「東路日記」「北溪随筆」著、  
「あるまじざるべし」「北溪雜纂」「広恵簿跋」、「北溪遺稿」(真淵が評を加えた歌)、外著多数、  
[眞潮の幼名/通称/号]幼名；挙準、通称；虎蔵/丹内、号；北溪、 谷亀野(歌野)の兄

益城山人(まきさんじん)→黙斎(もくさい・中山/藤原、儒者/教育) 4 4 8 4

04002 **眞滋**(まじげ・梅谷うめや、賀茂真淵男)1738-98<sup>61</sup> 遠江浜松の本陣の当主/国学；内山真竜門、  
[眞滋(；名)の別名/通称/号]初名；方滋、通称；模作/市左衛門/力之助、号；芳洲

L4078 **眞重**(眞繁まじげ・鈴木すずき/本姓；藤原、通称；若狭/周防)1751-1811<sup>61</sup> 三河吉田鎮守の天王社神主、  
国学；1771本居宣長・本居大平門、大平「八十浦の玉」中巻；長歌を含む5首入、重生げなりの父、  
「鈴木眞重歌集」(孫石見磐根編)、村上忠順ただまさら共編「類題三河歌集」入(渥美郡56)  
[若菜摘む衣手寒し春浅き浅沢水にのこるうすらひ](八十浦；501/春の歌)

N4001 **眞茂**(まじげ・小林こばやし、通称；建造)1809-? 江後期；美作苦東郡大笹村の医者、  
歌人；1858(安政5)平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入



- 満志子(まし・岡田) → 鍵子(かぎこ・岡田おかだ、国学者) U 1 5 0 1
- S4065 満志女(ましよ・松本まつき、) 1800-1851 越後新潟の歌人;新潟の玉木勝良門・京の千種有功門
- I4087 眞静(ましず・まさよ菅すが、別名;常昭) 1652-? 1706(55歳) 存 備前の和学者;中院通茂門、京住、  
1706師の推挙で金沢藩主前田綱紀に源氏物語を講義;藩主に随い江戸金沢を往復、  
「源語釈義」「源氏物語訓解」「自叙録」著
- I4088 眞鎮(ましづ・田内たのうち、別名;眞鉏ますき) ?-? 江後期1789-1844頃土佐城東菜園場の国学者;  
中山巖水門、歌人/蔵書家;苦学生に貸与、49歳頃藩主家の姻戚松本家の家宰;家政整理、  
「群書読通録」「群書読通録令義解」著、養子;武市衛吉えさち(茂稔いげとし)、  
[眞鎮の通称/号]通称;喜三次、号;菜園
- 摩志田好話(ましだこうわ) → 好阿(こうあ・浄観房、談義本作者) 1 9 6 3
- 麻志天之屋(ましてんのや) → 況斎(きょうさい・岡本保孝、儒/国学者) I 1 6 7 9
- 益人(まし・田口) → 益人(ますひと・田口/姓;朝臣、廷臣/歌) 4 0 2 8
- 益人(まし・鞍作) → 益人(ますひと・鞍作くらつくり/姓;村主、廷臣/歌) 4 0 2 7
- 益人(まし・朝倉) → 益人(ますひと・朝倉あさくら、防人/歌人) D 4 0 3 6
- I4089 眞柴(ましば・檜廼屋ならのや) ? - ? 江後期羽前新庄の狂歌師;四方側狂歌判者、  
1821「紅井の地理」編
- 眞柴庵(ましばあん) → 素塙坊(そにゅうぼう・寒松館、俳人)
- R4089 眞自彦(まじひこ・林はやし、初名;通門/通称;七郎) 1768-? 筑前志摩郡の和学者
- I4090 眞島(ましま・物部ものべ) ? - ? 755防人/下野国火長かちよう(火は兵十人の隊)、  
万葉集廿4375、  
[松の木けの並みたる見れば家人いはびとの我を見送ると立たりしどころ](万葉;4375)
- 眞清水乃舎(ましみずのや) → 磐根(いわね・安部井あべい/源、藩士) J 1 1 7 5
- S4075 ましめ(・松本まつもと、) 1800- 1851 越後新潟の歌人;玉木勝良かつら・千種有功門
- I4091 万志羅(ましら、馬城ばじょう男) ?- ? 江後期甲斐北巨摩郡五町田の俳人:父門、  
1819父の追善集「かれあやめ」編刊
- 眞白廼舎(ましろのや) → 菅賢(すがよし・古屋、藩士/歌人) F 2 3 4 3
- ます(・鈴木/江口) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9
- ます(・奥村/関) → 貞心尼(ていしんに、曹洞宗/歌文) B 3 0 2 9
- 升(ます・前田) → 升女(ますじよ・前田まえだ、歌人) M 4 0 4 4
- 升(ます・西/相沢) → 升子(ますこ・西にし/相沢/石川、歌人) R 4 0 3 5
- 満寿(ます・内藤) → 萬春子(ますこ・内藤ないとう、国学/教育) R 4 0 1 1
- 万須(ます・橋村) → 並子(なみこ・橋村はしむら/度会、歌人/画) O 3 2 3 4
- I4092 眞酔(ますい・石橋庵いしばあん/せつきょうあん、名;時恭、屋号;つた屋) 1774-1846 美濃石橋村出身?、  
尾張名古屋御園町住、国学;市岡猛彦門、戯作者;読物制作、川柳作者;点者、彫工/かもし商、  
洒落本;1803「指南車」12「浮世穴見論」、惣八編「軽世界四十八手」の「見抜かれた手」著、  
滑稽本;1814「津島土産」16「滑稽祇園守」32「滑稽駅路梅」、雑俳;1822撰集「鸚鵡返」編、  
1824「俳風妻楊枝初篇」37「撰集楽」編、「狂俳冠句撰集楽」編、「津島土産」外編著多数、  
[石橋庵眞酔(;号)の字/通称/別号]字;豹恵、通称;伊兵衛/源尋袂げんじんべい、  
別号;満寿井/万寿井/増井/増井山人/万寿井山人、彙斎/平奇山、無事庵/無事老/無事楽斎
- S4061 益江(ますえ・松井まつい、) 1814- 1884 尾張名古屋藩士;大番/西洋銃陣調練の火薬締方、  
書院番を歴任、本草家;嘗百社会員、国学・歌;富樫広蔭門、歌人、俳諧/画を嗜む、  
[益江(;名)の別名/通称/号]別名;鶴羨、通称;丹右衛門/吉蔵、  
号;松寿亭雨白/朝寝斎白翁、居所号;大班廬/亀望亭
- 増右衛門(ますえもん・鈴木) → 東阿(とうあ・鈴木、俳人) 3 1 7 3
- 増右衛門(ますえもん・中村/渡辺) → 寛(ひろし・渡辺/中村、郷土史家) F 3 7 8 7
- 益右衛門(ますえもん・上田) → 春道(はるみち・上田/木村、国学者) G 3 6 9 3
- 益右衛門(ますえもん・山田) → 興雅(おきまさ・山田やまだ、国学/歌人) E 1 4 2 2
- I4093 十寸尾(ますお・未熟庵みじゅくあん) ?- ? 江戸雑俳点者;枝桑庵夢仏門、師と夢仏側を結成、  
1775千百「相合袴」/77吐屑「芝さかな」入
- I4094 増夫(ますお・石松いしまつ、通称;源五郎) ?-? 江後期文政1818-30頃筑後柳川の歌人、

1828「拾遺十訓抄」著

- N4000 **益雄**(ますお・熊沢くまざわ、通称;権右衛門)?-? 江後期播磨竜野藩士、歌人、  
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- N4085 **益男**(ますお・岩松いわた、)1821-1873<sup>53</sup> 下野芳賀郡日枝神社大宮司、国学者、  
[益男(;)名)の別名/通称/号]別名;吉栄/吉武、通称;造酒介みきのすけ/主膳/播磨正、号;吉風  
益夫(ますお・大谷) → 尚古(しょうこ・大谷おたに、儒者/俳人) I 2 2 6 8  
益夫(ますお・山本) → 重胤(しげたね・山本やまと/賀茂、国学者) a 2 1 0 1  
益雄(ますお・五味) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6  
益興(ますおき・今泉) → 千春(ちはる・今泉、歌人) F 2 8 1 8  
増男(ますお・座田) → 重就(しげなり・座田さいた/紀、廷臣/絵師/歌) O 2 1 5 9
- R4078 **ますを女**(ますおじよ・蜂屋はちや、)?-? 陸奥仙台6代藩主伊達宗村(1718-56)の傳姆ふば、  
江戸住、和学/歌人
- I4095 **眞清**(ますが・本多/本田ほんだ、通称;玄確)?-1820 江後期因幡八束郡殿村の国学者、  
「倭漢道異わかんみちのけじめ」著(1819「道廻佐喜草」名で刊)
- L4076 **眞清**(満須賀ますが/ますけ・羽根はね、通称;織部)?-1789 伊勢度会郡の国学者/歌;荒木田久老門、  
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末入、  
[領うはける神のあらびか年をへてけぶり立つなる伊豆の大島](八十浦;308、  
関東滞在中に伊豆大島に十年ほど煙が立っていると聞き詠)
- T4054 **眞菅**(ますが・山本やまと、通称;玄慶)1794-1876<sup>83</sup> 信濃埴科郡の医者、歌人;橘守部門、鬼雄の父
- I4096 **眞清**(ますが・桑原くわばら)1821- 1903<sup>83</sup> 代々遠州浜名の津毛利神社神官/国学者;勤王家、  
維新に報国隊を組織/赤心隊を結成;江戸警備、維新後;兵部省・神祇官・陸軍省勤務等歴任、  
のち帰郷して神官、「桑原眞清伏見戦争聞記」「桑原眞清日記」著、  
[眞清(;)名)の通称]虎次郎/式部/美須賀/瀛えい
- T4081 **眞菅**(ますが・渡辺わたなべ、)1830-1907<sup>78</sup> 周防佐波郡の周防一宮玉祖たまのおや神社禰宜、  
歌人;近藤芳樹門、  
[眞菅(;)名)の初名/通称/号]初名;敬満、通称;石見、号;古溪/椰屋なごや/老猿/九臯亭
- S4046 **眞清**(ますが・堀江ほりえ)1840 - 1887<sup>48</sup> 陸奥盛岡の国学者、  
[眞清(;)名)の別名/通称/号]別名;泰通/典、通称;善太郎、号;日昇
- T4023 **眞清**(ますが・守屋もりや) ? - ? 江後期;甲斐巨摩郡穴山村の神職、  
神道・国学・歌学;堀秀成ひでなり(1819-87)門、浅間神社禰宜/穂見神社宮司/神道事務局出仕、  
妻;よし、伊藤うた(教育者)の父  
眞清(ますが→・ますみ・石川)→ 眞清(ますみ・石川いしかわ/本姓;源) J 4 0 2 8  
眞清(ますが・ますみ・荒井)→ 静野(清野しずの・荒井あらい、商家/国学) U 2 1 0 5  
眞清(ますが・川津)→ 眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学) P 4 0 0 3  
眞菅(ますが・栗田)→ 眞菅(ますげ・ますが・栗田くりた、国学者) I 4 0 9 8  
真鉏(ますき・田内)→ 眞鎮(ましず・田内たのうち、国学者) I 4 0 8 8  
益吉(ますきち・速水)→ 行道(ゆきみち・速水はやみ、藩士/国学) F 4 6 7 1  
舛吉(ますきち)→ 舛吉(せんきち、俳人) D 2 4 4 6  
斗吉(ますきち・吉田)→ 親辰(ちかとき・吉田ちかとき、大庄屋/国学) N 2 8 7 8
- I4097 **増熊**(ますくま/ますたけ・黒田くろだ、立花増名男)1807-89<sup>83</sup> 筑前福岡藩士;家老、  
1834父を継嗣の叔父増良を継嗣、国学;中村良顕門、1854財用元締;藩政改革主導、  
1863黒田姓を拝領、64隠居を命じらる、1868復職/69致仕、歌・書・茶道を嗜む、  
連歌;1852「嘉永五年御忌御奉納何路百韻」著  
[増熊(;)名)の別名/通称/号]別名;延美/延本/延象/増豹、  
通称;磯寅/犀七郎/治郎大夫/平左衛門/弾正/山城/近江/左衛門、  
号;静軒/吟松/醒翁、法号;一慈軒醒翁日山居士
- I4098 **眞菅**(ますげ・ますが・栗田くりた、別名;菅磨/通称;市右衛門)?-1806 遠州城飼郡の国学者;  
栗田土満ひまろ・本居宣長門、1804「栗田土満詠草」跋文執筆、  
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、  
[海の面は夕日照りつつ墨の江のあらら松原しぐれ降る見ゆ](八十浦;417/時雨)

- 04066 眞菅(ますげ・加藤かとう、別名;時喬)1839-1888<sup>50</sup> 尾張名古屋の絵師/維新後;東京住/国学者  
 眞菅(ますげ・渡辺) → 顕孝(あきたか・渡辺わたなべ、神職/国学) I 1 0 8 2  
 眞菅(ますげ・渡辺) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1  
 眞菅乃屋(ますげのや) → 篤胤(あつたね・平田、国学/神道) 1 0 2 2  
 眞菅の舎(ますげのや) → 直槌(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人) N 3 2 5 0
- I4099 在子(ますこ・一橋ひとつばし、京極宮公仁親王女)1756-70<sup>夭逝</sup>15歳  
 1766(11歳)一橋(徳川)治済はるさだの妻、1767江戸下向、「寿加宮筆のゝ字家仁親王詠狂歌」書、  
 [在子(;名)の通称/法号]通称;万種宮/寿加宮/寿賀宮、法号;桂芳院
- J4000 満寿子(ますこ・伴はん、伴信近のぶちか[1799-1858小浜藩士]の妻、旧姓;?)1806-75<sup>70歳</sup> 江戸の歌人、  
 1886「伴信友翁家集」に「富士山五十首」入
- M4041 満寿子(ますこ・山田やまだ) ? - ? 江戸後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [荒れはててさびしく立てる故郷の松に変らぬ月ぞやどれる](大江戸倭歌;874/故郷月)
- M4027 ます子(ますこ・有馬ありま) ? - ? 江戸後期;歌人、越前丸岡藩主有馬左衛門佐の後室、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [五月雨の晴れ間の月のほのかにも一声もらすほととぎすかな]、  
 (大江戸倭歌;夏453/月前郭公)
- R4000 増子(ますこ・手塚てつか、旧姓;山崎)1814-62<sup>49</sup> 江戸の生;和漢の書に通ず、  
 下野宇都宮の尊攘家;安藤信正襲撃(坂下門外の変)に関与の娘婿児島強介を励ます、  
 幕吏の尋問に堂々と答える
- R4011 萬春子(ますこ・内藤ないとう、別名;満寿ます)1823-1901<sup>79</sup> 甲斐甲府の国学者、内藤伝右衛門の妻、  
 絵草子・古本・古着・古道具類・反物などの商家;屋号;藤屋、夫病身のため中心で働く、  
 八幡北村の農業手塚伊左衛門家の幼児猪之甫いのすけ(1844生)を養子とし満寿が養育に当る、  
 1860(万延元)夫没;猪之甫を2代目伝右衛門として家督継嗣させ国学など訓育、  
 自らも社会教育に尽力;1875(明治8)女学塾を開設/遊郭の娼妓に読書・裁縫を指導、  
 甲府監獄服務者の教戒、「女教草」著(内藤末須すな名)、  
 ☆養子2代目伝右衛門は1872(明治5)山梨県最初の[峡中新聞](のち甲府新聞)を発行・  
 教科書出版・1878婦人新聞の魁[をとめ新聞]発刊;母満寿の社会教育活動を支援
- R4035 升子(ますこ・西にし、旧姓;相沢、医者石川有節女)1841-1921<sup>81</sup> 母;通子、江戸の生、1844母没;  
 深川木場酒商鈴木竹次郎の養女;翌年養家没落し生家に戻る/1854戸田家の御小姓見習、  
 1859(安政6)啓蒙思想家の西周あまね(1829-97)と結婚;夫の和蘭留学中松平家夫人に出仕、  
 歌人;兄の相沢求門/のち佐々木弘綱門、佐々木信綱の竹柏会に参加、  
 子なく1869林洞海六男の紳六郎を・1874手塚律蔵女の好子を養子とす、  
 1892夫が病気のため大磯に移住;1897夫没、1921(大正10)大磯で没、  
 「西升子日記」著(2冊①安政元年より慶応三年/②明治八年十一月まで)、  
 古希記念歌集「磯菜集」著(姪の山辺定子編刊)/没後「ももよぐさ」刊(山辺定子編)、  
 [升子(;名)の別名]みち(幼名)/つた/升
- R4005 量子(ますこ・藤堂とうどう、旧姓;蜂須賀昭順女)1832-1907<sup>76</sup> 江戸の生/蜂須賀斉昌の養女、  
 伊勢津藩主藤堂高潔たかきよの正室、歌人
- Q4013 益子(ますこ・芝山しばやま、宮内大輔芝山国典女)1843-1906<sup>64</sup> 京の廷臣芝山持豊の曾孫、  
 坊城俊明養女、芝山敬豊(1837-62)の正室、夫没後;養子慶豊(1861-?)が家督嗣、  
 1879慶豊が隠居;益子が芝山家家督を継嗣、1884養子祐豊(1873-1894)に譲る、  
 相模三浦郡に住、歌人;高島たかばたけ式部・貞信尼門/国学;近藤芳介・宇田健斎(淵)門、  
 「放懷楼歌集」著、  
 [益子(;名)の号]放懷楼/昌徳院
- 升子(ますこ・神方かみかた) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9  
 益子(ますこ・横田) → ふき女(ふきよ・横田よこた、商家/歌人) I 3 8 7 8  
 増子女王(ますこじょう) → 家重室(いえしげのしつ・徳川とくがわ、歌人) K 1 1 4 7  
 増五郎(ますごろう・稲村) → 三羽(みつは・稲村いなむら、幕臣/国学/歌) H 4 1 6 6  
 益左衛門(ますざえもん・江尻) → 菟松(うしょう・江尻えじり、儒者/詩文) C 1 4 1 4



- J4002 **益郷**(益卿ますと・進藤しんどう、益俊男/本姓;藤原)1719-8062 京の坊官/粟田青蓮院宮の侍法師、  
1775従六下/左衛門少志、1756常陸介、「青蓮院領和州年貢米受入高」著、  
増実(ますね・宮部) → 鼎蔵(ていぞう・宮部、兵学/倒幕運動) B 3 0 4 0
- J4003 **増重**(ますしげ・末吉すえよし) ? - ? 撰津平野銀山の水運業/俳人;貞徳門、  
1638西武さいむ「鷹筑波集」入  
益十郎(ますじゅうろう・間宮) → 業智(なりとも・間宮、茶人/歌) H 3 2 7 9
- M4010 **満寿女**(ますじよ・戸田とだ、号;良寿)1806-8378歳 戸田直安なおやす(1789-1862/美濃大垣藩老)の妻、  
歌;富樫広蔭門(夫や義姉都賀女と同門)
- M4044 **升女**(ますじよ・前田まえだ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[置く露も心しておけ秋の夜の月もやどれる庭の白菊](大江戸倭歌;秋950)  
升女(ますじよ・神方かみかた) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9
- J4004 **益次郎**(ますじろう・大村おむら、初名;永敏、医者村田孝益男/母;むめ)1825-69殺害45 長州藩士、  
漢学;梅田幽斎・広瀬淡窓門/蘭医学;緒方洪庵門、兵学修得、帰郷し医を開業、  
のち伊予宇和島藩で蘭学・兵学を教授/江戸で開塾/蕃書調所・講武所出仕/1860長州藩士、  
蘭学・兵学を教授/軍政改革を指導;大組士1865藩主命で大村益次郎と改名、  
維新後国の兵制改革を企図;旧士族に襲撃され没、  
「海軍銃卒練習規範」訳/1857「礮兵ほうへい操練全書」訳/67「兵家須知戦闘術門」訳、  
[益次郎(;名)の通称/号]通称;宗太郎/蔵六/六蔵、号;良庵/良安/亮安/亮庵/淵山、  
益次郎(ますじろう・曾根) → 孝直(高直たかなお・曾根/曾禰、国学者) M 2 6 5 4  
益二郎(ますじろう・檜垣) → 常典(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職) D 2 9 1 4  
増次郎(ますじろう・藤田) → 孝之(たかゆき・藤田ふじた、国学者・歌人) Z 2 6 3 4
- S4080 **眞篤**(ますず・丸山まるやま、) ? - 1841 江後期;信濃伊那郡の国学者;内山真竜門、  
国学・歌;森広主門、  
[真篤(;名)の通称]幾三郎/活松いくまつ/酒造松みきまつ
- J4005 **眞篤**(ますず・宮本みやもと、名;憲吉、宮本貞人[八朗]男)1829-7446 信濃埴科郡戸倉の俳人;天姥の孫、  
祖父母の教育を受け天姥以来の虎杖庵を継承/近隣の子弟教育/俳画も嗜む、  
1864「あふぎ集」編、  
[真篤(;号)の幼名/別号]幼名;清吉郎、別号;虎杖庵4世/亀守/舟山人/月之本/月下庵  
万寿助(ますすけ・中田) → 威克(たけかつ・中田なかつ、藩士/国学) Y 2 6 5 5  
升蔵(ますぞう・市川、通小紋息人;狂名) → 雷蔵(3世らいぞう・市川、歌舞役者) D 4 8 3 2  
増蔵(ますぞう・深田) → 香実(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌学) B 1 9 2 5
- J4006 **益敬**(ますたか・鷺尾わしのお)1647-171872 常陸水戸藩士;郡奉行/1687進仕、  
光圀の常陸太田巡見の際に役人に意識させないため光圀を無視して検見を指揮した逸話、  
1708致仕、「磬空要録」著、  
[益敬(;名)の通称/号]通称;角之丞、号;慶翁
- R4014 **益孝**(ますたか・中津なかつ/本姓;秦、通称;長太夫)1755-181157 伊勢度会郡の国学者;本居宣長門  
益孝(ますたか・徳弘とくひろ) → 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) K 1 9 3 7  
増熊(ますたけ・黒田) → 増熊(ますくま・黒田くろだ/立花、家老/歌人) I 4 0 9 7  
升太郎(ますたろう・田中) → 箕山(きざん・田中たなか、儒者/詩/書) K 1 6 7 2  
益太郎(ますたろう・山本屋/古屋) → 文喬(ぶんきょう・村井、俳人) F 3 8 0 3  
増太郎(ますたろう・浅野) → 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3  
益人(ますと・長嶺) → 将世(まさよ・長嶺ながみね、藩士/国学者) R 4 0 2 8
- J4008 **加辰**(ますとき・酒井さかい、通称;正之進)?-? 江後期文化1804-18頃下総結城藩士、  
藩主水野勝愛かつぎねに出仕、儒・歌;1816加藤景範門、1813「仁説古義」校訂
- P4084 **益友**(ますとも・佐藤さとう、)1812-188574 上野群馬郡の国学者、茂世の父、  
[益友(;名)の通称]長兵衛/長次郎
- J4009 **益直**(ますなお・島田しまだ/本姓;紀)?-? 室町期廷臣;1413大蔵権少輔/正五下、  
1415「益直記」著  
益直(ますなお・佐藤) → 理珊(りさん・佐藤さとう、藩医) B 4 9 1 1

- J4010 **益長**(ますなが・東坊城ひがしほうじょう、長遠男/本姓;菅原)1407-7468 廷臣;文章博士/1444従二位、1446参議/56権大納言/正二位/58大納言辞退、後花園・後土御門天皇の侍読、「益長卿記」
- Q4018 **益栄**(ますなが・下平しもひら、旧姓;大原)1845-188844 信濃伊那郡の国学者/歌;平田鍊胤門、[益栄(;名)の通称] 輔造すけぞう/寿家造/七郎
- J4011 **増業**(ますなり・大関おおぜき、伊予大洲藩主加藤泰衡男)1782-184564 下野黒羽藩主大関増陽の養嗣子、1811黒羽藩主11代襲封、国学・武道奨励/産業振興に尽力;重臣の反感を買い失敗/15隠居、妻;堀田正敦2女、1823以降江戸藩別邸に過す/国学・歌道・神道・兵学・医学・茶道に通ず、1804-「大洲和歌集」編(加藤泰周名/常盤井守貫が協力)、1811「熊野日記」12「練革私記」/18「掌中妙薬奇方」20「組紉そじゅん備考」編、26「機織彙編」、1837「喫茶新語」40「神道明証辨」、「革冑制造秘訣」「工匠哀録こうしょうほうろく」「感響録」、「鉄砲書」外著多数、後藤基充・増誠・建部昌滋・杉浦正宣・業孝の父、養子;増儀、1824隠居;養子増儀(養父増陽2男)が家督嗣、[増業(;名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名;舍人、初名;泰周、字;不叱、通称;丹後守、号;括囊斎/黒羽隠者/黒羽主人/乗化亭、法号;括囊院  
升成(ますなり・黄金) → 黄金升成(こがねますなり・辻、狂歌師)
- J4012 **益根**(ますね・河村かわむら、秀根ひでね男)1756-181964 尾張の儒者;家学の紀典学を修得、儒;岡田新川門、訓古に通ず、詩歌・書を嗜む、箏;四辻公亨門/笙;豊原順秋門、筆簞;阿倍季康門、家で教授、終生仕官せず、秀根「書紀集解」校訂、「音楽解」「国郡図覧」「万葉集集解」「載籍通覧」著、「宰輔通覧」「制度通覧」「西遊詩稿」「詩題三百」「乾堂集」「乾堂詩稿」「益根詠藻」外著多数、[益根(;名)の字/通称/号]字;培公、通称;鋏九郎/桑九郎/培次郎、号;乾堂/上野/上野山房  
益之助(ますのすけ・伊達) → 村風(むらかぜ・伊達だて、藩士/右京家) D 4 2 9 4
- J4013 **益信**(ますのぶ・田中たなか号;三晴堂)?-? 江中期1736-48頃絵師、奥村政信風の浮絵に長ず、「武者鏡」「りう神そろへ」「文七」画  
益信(ますのぶ・狩野) → 洞雲(とううん・狩野益信、絵師) B 3 1 2 0  
増地(ますのぶ・奥村) → 城山(じょうざん・奥村おくむら、暦算家) S 2 2 6 1
- J4014 **益徳**(ますのり・三浦みうら)1784- 186178 尾張佐屋村の属吏/1836名古屋藩納戸詰役掛に抜擢、藩士;扶持米11石・俸三口、儒;恩田蕙楼・秦滄浪・松田棣園ていえん門/国学;鈴木胆あきら門、「協園叢書」編、1861-62「文久二年至万延二年日記」、[益徳(;名)の字/通称/号]字;裕卿、通称;吉助/又四郎、号;協園、法号;協園裕卿居士  
増則(ますのり・末吉) → 道筋(どうせつ・末吉すえよし、俳人) G 3 1 0 6
- Q4098 **益春**(ますはる・壺井つばい、旧姓;山本)1769-182658 山城伏見の澱河漕公船の吏員/和学者、[益春(;名)の初名/字/通称/号]初名;存英、字;伯陽、通称;喜六/又左衛門、号;菰山/寧斎/草阜/澱河漕吏
- T4071 **増春**(ますはる・吉松よしまつ、執冬もりふゆ男)?-1815 土佐高知藩士、儒学・国学;宮地仲枝門、萬齡かずなが(1810-71/藩士/国学者)の父、[増春(;名)の通称] 能助/清兵衛
- J4015 **益久**(ますひさ・賀茂かも、富久男)?-1471 上賀茂神社神主/五位、歌人、新続古今1672、[神まつるみとしろ小田に引くしめの夕ゆふ掛くるまでとる早苗かな](新続古:雑1672)  
益英(ますひで・小亀) → 勤斎(きんさい・小亀こがめ/新山/津高、書肆/仮名草子) I 1 6 9 8
- 4028 **益人**(ますひと・田口たのぐち/たぐち/姓;朝臣)?-? 万葉三期歌人、廷臣;708従五上・上野守、709右兵衛率かみ、715正五上 上野国赴任途上に駿河清見の崎の歌2首;万葉三296/297、[廬原いほはらの清見の崎の三保の浦のゆたけき見つつ物思ものもひもなし](万葉;三296)
- 4027 **益人**(ますひと・桜作くらつくり/姓;村主すぐり)?-? 廷臣;天平六・七734-5頃内匠寮大属たくみのだいさかん、万葉三期歌人;2首/三311(豊前より上京)/六1004;内匠寮大属のとき長官佐為王を饗宴、[思ほえず来きましし君を佐保川のかはづ聞かせず帰しつるかも](万葉;1004)
- D4036 **益人**(ますひと・朝倉あさくら) ? - ? 755防人/上野国、万葉集廿4405、[我が妹子が偲いぬひにせよと付けし紐も糸になるとも我わは解かじとよ](万葉;4405)  
(我が妹子;約音形わざもこ以前の形/偲ひは思い出の品)  
益人(ますひと・弦掛つるがけ) → 弦掛益人(つるがけのますんど、狂歌) E 2 9 7 8

- 益人(ますひと・井上) → 祐文(すけふみ・井上いづえ、神職/国学) L 2 3 2 6  
 益平(ますひら・大坪) → 寛近(ひろちか・大坪おつぼ、役人/国学) I 3 7 8 7
- Q4084 増弘(ますひろ・立花たちばな、通称;勘左衛門/号;空山)?-1717 筑前黒田藩の武蔵領主、和学者、  
 元禄年間(1688-1704)焼失していた武蔵の天満宮を再建
- J4020 益弘(ますひろ・黒瀬くろせ、種弘男/本姓;度会)1641-1732長寿92 代々伊勢外宮権禰宜;1653父を継嗣、  
 従五下、1657大物忌父;物忌職(68年在職)/正四下、神典;出口延佳門/俳人、  
 医薬;新薬[如神散]販売、  
 1665「黒瀬氏系図」72「櫟木文書」編/87「黒瀬益弘日記」99「神衣祭記」1700「参考禁忌要録」、  
 1711「禁忌集唾」、「日本書紀集説」「日本書紀諺解」「外宮鎮座記」「斎館記」外多数、  
 [益弘(;名)の字/通称/号]字;子謙、通称;半兵衛、号;従斎
- R4087 益裕(ますひろ・早崎はやさき、旧姓;仙石)?-1816 土佐高知藩士;馬廻役、国学者、  
 [益裕(;名)の通称/号]通称;祐八、号;桃亭
- 升平(ますへい;通称) → 平右衛門(へいえもん・升屋ますや、商家) 2 7 1 2
- L4029 ますほ(;組連) ? - ? 江戸四谷の川柳の組連、  
 取次;1780「川柳評万句合」入;  
 取次例;[紅葉より笹屋をほめる下卑びたやつ](1780万句合/前句;笑ひ社こそすれ々々)、  
 (真間等の紅葉狩の話で盛り上がる最中に深川笹屋の饅頭の話で腰を折る)
- 増穂(ますほ・井尻) → 好古(よひこ・井尻いじり/源;松島、国学) L 4 7 4 0  
 益穂(ますほ・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0
- J4021 益政(ますまさ・神じん/本姓;物部、通称;豊前守/法名;其阿きあ)?-1466 室町期武家;細川家の家臣、  
 連歌;新撰菟玖波集;3句入
- J4022 升丸(ますまる) ? - ? 江後期俳人;雑俳/狂句作者、  
 1831松鱸「狂句むめ柳」第二編入(;腥斎佃なまぐさいたづくりと)
- 増丸(ますまる・杉浦) → 菅満(すがまる・杉浦すざうら、国満男/神職) L 2 3 0 9
- J4023 眞澄(ますみ・菅江すがえ、名;知之/秀超/秀雄/真隅、祈祷師白井秀真2男)1754-182976歳(一説77歳)、  
 三河岡崎の国学者、歌;植田義方・栗田知周ともかね門、尾張藩薬園で本草学を修得、  
 考証学;河村秀根門、漢学;丹羽嘉言門、1783(天明3)-1801(享和元)北辺・奥羽の旅、  
 以後主として出羽秋田郡に住/1810(文化7)から菅江眞澄を名乗る、  
 多くの地誌/随筆/紀行/日記/考証を著作、秋田陵内の角館で没、  
 1783「委寧能中路」「わかこゝろ」/87「月の松島」92「牧の夕かれ」1801「雪の出羽路」、  
 1810「小鹿の鈴風」17「道の夏草」24「槻のわか葉」、「眞澄遊覧記」「小町寒泉」、  
 「愛瀬詩歌合」「浪岡物語」「ふみのはしたか」「あさまのけふり」「をかたのさと」外著多数、  
 [眞澄の字/通称/号]字;常冠、通称;永治/英二、号;菅水斎
- J4024 眞澄(ますみ・村上むらかみ、通称;新左衛門)?-? 江中後期;石見浜田藩士、国学者/歌人、  
 国学;本居大平(1756-1833)門、江戸住、1816「催馬楽小説」/28「古文類葉」著、  
 「うきしまりそりたし考」「神楽催馬楽小説東遊」著、「古葉類聚」編  
 「芥明紀童謡の考」「日本紀万葉之語考」著、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
 [たぶれらがみくさはかると伏せれかも雁みだるなる行きてしうたむ]、  
 (八十浦;1048/義家朝臣の帰雁乱行の図かけたるに詠)
- D4002 眞澄(ますみ/まさずみ・岡田おかだ/本姓;源、寒泉男)1779-183860 儒(家学);父門/幕府儒員、  
 国学者;加藤千蔭門、歌人/書家;仮字研究、歌会を催、  
 家集「隣月楼集」、1822「仮字考」、「仮字類聚」「仮字類辨」「岡田眞澄詠草」「月楼静筆」著、  
 「月楼寓筆」「本朝書話」「本朝墨帖論」外著多数、歌;玉藻集入、  
 [眞澄(;名)の字/通称/号]字;隣、通称;美毛比磨/徳一郎/源蔵、号;隣月楼
- 04006 眞澄(ますみ・小川おがわ、栄貞ひでさだ男)1796-185459 備前児島郡粒江村の豪農・里正(父を継嗣)、  
 歌人;木下幸文・香川景樹・佐藤千秋門、茶道を嗜む、雅藻まさもの兄/清臣の父、  
 [眞澄(;名)の通称/号]別名;寿詞/直常、通称;嘉利作/権四郎/利太郎、  
 号;幽石/清虚庵/竹下庵/竹園
- N4029 眞澄(ますみ・井上いづえ)1800-185657 備中窪屋郡の足高神社祠官、  
 国学;平賀元義・関政方まさみち(梟翁きょうおう)門、



- [眞澄(；名)の別名/通称/号]別名；謙満/弦丸、通称；祐吉、号；屏石いせき/楠堂  
 J4025 眞躬(ますみ・宮地みやぢ、宮地左門神斎男/本姓；藤原)1802-6362 土佐比島村の神明宮社司；  
 1845家督継嗣；和泉守を称す、国学；鹿持雅澄門、鹿門十哲の1、詩歌文に長ず、  
 「三紀歌々集」「滯穂抄」「蝶花形」「古言徴」「土佐国坂本神社考」「益躬詩集」著、  
 「十寸翁文集」外著多数、「益躬翁遺詠」、  
 [益躬(；名)の通称/法号]喜次郎/太夫/主領/和泉守、法号；春然堂意信士  
 J4026 眞澄(ますみ・宮崎みやざき/本姓；安曇)1805-? 代々筑前志摩郡久家村神職/老松神社・竜神社祠官、  
 国学者；本居大平・平田篤胤門、1839-40「幽頭問答」、「志賀島古伝鈔」「筑紫小戸靈蹟考」著、  
 [眞澄(；名)の通称]通称；大門/加賀/多門、元胤(1832-1900)の父  
 N4014 眞澄(ますみ・朝日あさひ、)1815-188773 武蔵秩父郡我野あがの神社祠官、  
 俳諧；江戸の羽鳥寥和門、1851養仁叟を嗣/68平田鍊胤門/神道を広める、  
 [眞澄(；名)の別名/通称/号]別名；明信、通称；隼人/播磨、号；いろは堂月雄  
 T4068 眞澄(ますみ・吉住よしづみ、)1820-189879 近江滋賀郡の商家/歌人、歌[鳩のうみ]入、  
 [眞澄(；名)の通称/号]通称；永原屋与次兵衛、号；月廬家  
 J4027 眞澄(ますみ・野々村のむら、鎗術家野々村秀太雅知男)1824-190481 新当流鎗術；太田當久門、  
 盛岡藩士；1840家督嗣/61寺社奉行/用人/68詰合中家老御用勤/藩を代表し列藩同盟出席、  
 新政府との折衝を主張し抗戦したが敗退；謹慎/1870赦免、1863「京都公私ちりふくろ」著、  
 [眞澄(；名)の幼名/法号]幼名；伍一、法号；雅言齋眞澄日翁居士  
 R4010 眞澄(ますみ・友田ともだ、)1824- 189168 河内若江郡の別宮村神社(矢作神社)社司、  
 国学/歌；香川景樹・岩崎美隆・佐々木春夫門、  
 [眞澄(；名)の初名/通称/号]初名；義愛、通称；越前、号；菅之舎  
 T4082 眞澄(ますみ・渡辺わたんべ、通称；源兵衛)1824-190683 豊後国東郡の白鬚田原しらびね神社祠官、  
 神道・国学・歌；真木保臣門、維新後；中講義  
 J4028 眞清(ますみ・石川いしかわ/本姓；源、別名；敬重/清澄)1828-9871 尾張名古屋の酒造業、  
 書；柳沢維賢門/梵曆法；信曉門/国学；野村秋足門/歌、間島冬道ら尊攘派と交流；国事奔走、  
 維新後；愛知県出仕；教育職/小学校開設に尽力、のち県会議員、  
 1856「蒙賊記もぞくき」60「つたの露」、「栄花物語釈」「仮字拾要」著、  
 [眞清(；名)の通称/号]通称；三川屋太兵衛、号；方円軒/雙鑠楼かくしゃくろう/鶴山、法号；専信  
 04026 眞素美(眞澄ますみ・大石礎おおいし/旧姓；望月/本姓遠祖；大伴、登男)1832-191382  
 父は医者・神札配り、壬申乱の後継者として望月を姓とし伊賀・近江に住す、  
 眞素美(広矛)22歳の時黒船来航し憤慨/国学；美濃の山本秀道門/古典を修学、  
 1870既成神道廃止を主張；投獄/赦免帰郷；1873大祖の姓に復し大石凝眞素美と改名、  
 1878秀道宅で天津金木あまつかなぎ学・日本言霊学を研究し大成、  
 靈感強く1891国会議事堂焼失・98神宮正殿焼失などを予言し的中、1907名古屋で皇学講義、  
 「古事記神秘之正説」「世界大戦乱の予言」著、  
 [眞素美(；名)の別名/通称]幼名；春雄/初名；広矛、通称；大輔  
 R4029 眞澄(ますみ・半井なからい、梧庵[忠見]2男)1833-190675 伊予今治の眼科医/国学；平田鍊胤門、  
 のち護王神社宮司、中講義、  
 [眞澄(；名)の通称]駒次郎  
 S4068 眞澄(ますみ・松田まつだ、)1837- 191074 備前岡山藩士、国学者  
 S4094 眞澄(ますみ・溝口みぞぐち、旧姓；上松)1838-190467 美濃厚見郡の神職、国学者/書・俳人・華道家、  
 美濃本巣郡北方町の大井神社祠官、華道天真流を創始  
 04092 眞純(ますみ・葛城かつらぎ、)1843-190563 大和葛城郡の人；菊亭尚季の猶子、  
 1853(嘉永6/11歳)金剛山大宿坊相続人、奈良・高松に遊学；国学を修学/尊攘派と交流、  
 天誅組の変に密かに支援、維新後；金剛山を神道に改宗；社殿改築・道路修繕などで再興、  
 04024 眞澄(ますみ・大池おおいけ、敏国長男)1852-192372 飛騨高山の神職；水無神社宮司、  
 国学；山崎弓雄・飯田年平門、妻；富田道彦女の妙子  
 [眞澄(；名)の通称]斧太郎  
 眞清(ますみ・荒井) → 静野(清野しずの・荒井あらい、商家/国学) U 2 1 0 5

- 眞澄(ますみ・青木) → 千枝(ちえだ・青木、藩士/国学者) 2 8 4 5  
 眞澄(ますみ・岡/佐渡守) → 吉胤(よしね・岡おか、藩士/国学者) E 4 7 3 9  
 眞澄(ますみ・飯淵) → 櫟堂(れきどう・飯淵いぶち、藩士/詩人) 5 1 8 2  
 眞澄(益躬ますみ・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F 4 5 7 6  
 眞澄(ますみ・山下) → 盛好(もりよし・山下やました、神職/国学者) L 4 4 8 0  
 升見(ますみ・縣あがた) → 風前雲助(ふうぜんのかむすけ、狂歌) G 3 8 9 0  
 増実(ますみ・宮部) → 鼎蔵(ていざう・宮部、兵学/倒幕運動) B 3 0 4 0  
 十寸見可慶(ますみかけい) → 可慶(かけい・十寸見、浄瑠璃太夫) K 1 5 7 3  
 十寸見河東(ますみかとう) → 河東(かとう・十寸見、浄瑠璃太夫) 1 5 2 5  
 十寸見千四(ますみせんし) → 千四(せんし・十寸見、浄/歌舞伎作者) M 2 4 3 7
- P4068 益道(ますみち・児玉こだま、) ? - ?寛文1661-73頃没 紀伊和歌山藩士、国学者、  
 [益道(；名)の初名/通称]初名；貞行、通称；莊右衛門/八十島坊
- Q4019 増通(ますみち・森もり、) 1707 - 1755 49 伊予久米郡の茶問屋：泉屋主人/のち松山住、  
 歌学；姉小路あねがこうじ実紀さねえ門  
 [増通(；名)の通称/屋号]通称；九右衛門、屋号；泉屋
- J4029 益光(ますみつ・裏松うらまつ、法号；唯心、意光のみつ男/本姓；藤原) 1685-1758 74 廷臣；1723参議/從三位、  
 1724権中納言/44正二位、1708「益光卿記」著  
 十寸見堂(ますみどう) → 河東(初世かとう・十寸見ますみ、浄瑠璃太夫) 1 5 2 5  
 眞澄廼舎(ますみのや) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6  
 眞澄舎(ますみのや) → 操(みさお・齋藤さいとう、神職/国学者) J 4 1 1 6  
 益守(ますもり・梅津) → 六車(ろくしゃ・梅津うめづ、書家/日記) 5 2 9 0  
 益長(ますなが・滝川) → 遊節(ゆうせつ・滝田たきた、兵法家) D 4 6 1 0  
 勝從(ますゆき・上野) → 麿谷(きゆうこく・上野うえの、儒者) M 1 6 5 8  
 益之(ますゆき・東とう) → 素明(そみよう；法師、東とう益之、武将/歌) E 2 5 3 8  
 益之(ますゆき・志村) → 天目(てんもく・志村しむら、篆刻/神学) E 3 0 4 0
- 4073 益良(ますよし・東坊城ひがしぼうじょう/本姓；菅原、広橋勝胤[兼胤]男) 1747-91 45 東坊城綱忠の養嗣子、  
 廷臣；1778從三位/81正三位、右大弁/勘解由長官/式部大輔を歴任、1787-90「益良卿記」著、  
 [益良(；名)の初名] 保資やすすけ  
 升芳(ますよし→のりよし・間宮) → 升芳(のりよし・間宮、国学/歌) G 3 5 3 0  
 益荒(ますら・伊藤) → 嘉融(よしゆき/よしなが・伊藤いとう/藤原、尊攘) B 4 7 7 3  
 升六(ますろく；号) → 升六(しょうろく/ますろく；号、商家/俳人) C 2 2 1 5  
 益人(ますんど・弦掛つるがけの) → 弦掛益人(つるがけのますんど、狂歌) E 2 9 7 8
- T4069 満勢(ませ・吉田よしだ、屋号；笠島屋) 1781-1850 70 讃岐丸亀の商家、歌学；芝山持豊門、  
 吉田盛重もりしげ(1773-1840/笠島屋/歌；同門)の一族、笠島の廻船業吉田彦右衛門家出身？  
 麻青庵(ませいあん) → 直生(ちよくせい、俳人) K 2 8 3 1  
 麻績一(ませきいち→おみいち) → 麻績一(おみいち・蘆野屋、鍼医/国学) B 1 4 5 8  
 麻績王(ませきおう→おみのおきみ) → 麻績王(麻績王おみのおきみ、万葉歌人) B 1 4 2 0
- S4008 萬世子(ませこ・匹野ひきの、) ? - 1874 江後期駿河府中の匹野尊賢たかた(1795-1859)の妻/歌人  
 麻蘇娘子(まそおとめ) → 巫部麻蘇娘子(かむなざべのまそおとめ、万葉歌人) 1 5 4 0
- J4030 磨輒(磨塙ません；法諱・関浪かんろう；道号、智元男) 1759-1838 80 越後曹洞僧；鈍令賢齡門；法嗣、  
 伯耆退休寺・能登総持寺歴住/宇治興聖寺26世、「破関撃節録聴書」著
- J4031 又市(またいち・津田つだ) ? - ? 江中期1744-51頃江戸の歌舞伎作者；市村座で活動、  
 初めは芝居囃子方の地謡の謡手、  
 1744「今川中心伝」46「拾あい伊豆日記」/47「満月小栗楼」「女菅丞相現雷神」著、  
 1749「我孀挑弥生模様」、「初花隅田川」「放下僧弓勢鉢木」「頼朝軍配鑑」著  
 又市(またいち・吉村) → 宣徳(のぶのり・吉村よしむら、家老/歌) C 3 5 7 5  
 又市(またいち・中森) → 梅路(ばいろ・中森/伊藤、俳人) C 3 6 3 6  
 又市(またいち・吉川) → 弘道(ひろみち・吉川よしかわ、絵師) H 3 7 3 5  
 又市(またいち・吉村) → 静軒(せいけん・吉村よしむら、家老/国学者) Q 2 4 5 9  
 又市(またいち・荻野) → 重道(しげみち・荻野おぎの、藩士/歌人) D 2 1 0 1

又市(またいち・浦上) → 正辰(まさとき・浦上うらがみ/藤原/乗松、藩士/歌) O 4 0 0 3  
 又一(又市またいち・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3  
 又一(またいち・高原屋/逸見) → 在綱(ありつな・逸見へんみ、医者/勤王派) F 1 0 4 4  
 又一(またいち・小栗おぐり) → 忠順(ただまさ・小栗上野介、幕臣/軍政) Q 2 6 8 5  
 復一(またいち・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7  
 又一郎(またいちろう・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7  
 又一郎(またいちろう・高橋) → 垣室(たんしつ・高橋、藩士/歴史編纂) I 2 6 8 0  
 又一郎(またいちろう・荻野) → 重道(しげみち・荻野おさの、藩士/歌人) D 2 1 0 1  
 又一郎(またいちろう・服部) → 常職(つねより・服部はっとり、幕臣/国学) G 2 9 1 8  
 又一郎(またいちろう・服部) → 常純(つねずみ・服部はっとり、幕臣/奉行) E 2 9 9 5  
 又一郎(またいちろう・桜井) → 道考(みちたか・桜井さくらい、代官/歌人) I 4 1 8 2  
 又一郎(またいちろう・五十君) → 夷守(ひなもり・五十君いそぎみ/五十嵐いがらし、歌人) L 3 7 7 7  
 又一郎(またいちろう・城村) → 五百樹(いおき・城村しろむら/じょうむら、神職/国学) K 1 1 3 3

J4032 又衛門(またえもん・荒木あらき、名;保和) 1599-1638<sup>40</sup> 伊賀荒木村剣客;十兵衛門、郡山藩剣術師範、  
 1634妻の弟数馬に助勢:伊賀上野鍵屋の辻で又五郎を討つ;  
 のち[伊賀越の敵討]として天下三大仇討の1

J4033 又右衛門(またえもん・佃田/佃つくだ) ?-?火刑 江前期福島正則の家臣/キリシタン、  
 1615大坂落城時に脱出した宣教師ポルロを保護/のち改宗を拒否;広島で火刑、「佃軍歌」  
 [又右衛門(;通称)の別通称]又衛門/又左衛門

J4034 又右衛門(またえもん・天井あまい) ?- ? 上方の歌舞伎役者、  
 1697「卯月九日其暁の明星が茶屋」の太郎三の役(京の都万太夫座)など

J4035 又衛門(またえもん・白石しらいし、名;意隆) 1753-1826<sup>74</sup> 常陸水戸藩士;八田郡奉行/1819致仕、  
 「家庭旧聞」/1803「百姓教訓書」04「真宝琢志」/11「農民制詞」/「白川氏教訓書」著、  
 [又右衛門(;通称)の号] 迷悟堂/一如/自閑

J4036 又右衛門(またえもん・浜屋はまや) ?- ? 江後期越中砺波郡城端町の算用方、  
 1816「算用聞勤方書上申帳」編

又右衛門(またえもん・柳生) → 宗矩(むねのり・柳生やぎゅう、藩主/剣術) C 4 2 1 9  
 又右衛門(またえもん・大津/中村) → 知至(ともゆき・中村、国学/歌) Q 3 1 8 8  
 又右衛門(またえもん・井関) → 盛英(もりひで・井関/越智/井門、藩士) G 4 4 3 1  
 又右衛門(またえもん・板倉) → 重宗(しげむね・板倉いたくら、藩主) D 2 1 1 0  
 又右衛門(またえもん・板倉) → 重矩(しげのり・板倉、藩主/遺訓) C 2 1 8 1  
 又右衛門(またえもん・大久保) → 有隣(ゆうりん・大久保、藩家老/俳人) E 4 6 1 2  
 又右衛門(またえもん・及川) → 茂光(しげみつ・及川おいかわ、藩士/馬術家) S 2 1 8 5  
 又右衛門(またえもん・小野) → 武雅(たけまさ・小野おの、幕臣/国学者) W 2 6 0 0  
 又右衛門(またえもん・小野) → 慶孝(よしたか・小野おの/宇治、神職/歌人) L 4 7 8 3  
 又右衛門(またえもん・北村) → 七里(しちり・北村、回漕問屋/俳人) E 2 1 6 8  
 又右衛門(またえもん・丹羽) → 南荘(なんそう・丹羽にわ、老荘学/書) J 3 2 2 3  
 又右衛門(またえもん・石井) → 如自(によじ・石井、俳人) F 3 3 9 2  
 又右衛門(またえもん・高麗/林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4  
 又右衛門(またえもん・林) → 信方(のぶかた・林やはし、幕府儒官) B 3 5 1 9  
 又右衛門(またえもん・斎藤) → 秋圃(穉圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7  
 又右衛門(またえもん・首藤) → 俊章(としあき・首藤じすどう、幕臣;右筆/国学) V 3 1 4 2  
 又右衛門(またえもん・奥井) → 英為(ひでため・奥井おくい、藩士/国学) I 3 7 3 9  
 又右衛門(またえもん・竹村) → 方壺(ほうこ・竹村、農家/俳人) F 3 9 1 4  
 又右衛門(またえもん・村井) → 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8  
 又右衛門(またえもん・高橋) → 有孚(ありだね・高橋たかはし、商家/歌人) H 1 0 9 5  
 又右衛門(またえもん・辻) → 宗範(むねのり/そうはん・辻つじ、茶道家/歌) D 4 2 9 9  
 又右衛門(またえもん・吉村) → 静軒(せいけん・吉村よしむら、家老/国学) Q 2 4 5 9  
 又右衛門(またえもん・吉成) → 信貞(のぶさだ・吉成よしなり、藩士/記録) B 3 5 4 9  
 又右衛門(またえもん・升屋) → 信敬(のぶあき・西島にしじま、商家/歌人) J 3 5 5 0



又右衛門(またえもん・蓮沼)→ 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0  
 又右衛門(またえもん・曾根)→ 栄道(えいどう・曾根、和算家) D 1 3 2 3  
 又右衛門(またえもん・木代)→ 近宜(ちかよし・木代きしろ/藤原、藩士/歌) M 2 8 3 9  
 又右衛門(またえもん・渡辺)→ 幸嗣(ゆきつぐ・渡辺わたなべ、藩士/歌人) H 4 6 5 2  
 又右衛門(またえもん・宮和田)→ 光胤(みつたね・宮和田みやわだ/平、国学) K 4 1 7 4  
 又衛門(またえもん・加藤)→ 松蘿(しょうら・加藤かとう、酒造業/記録) L 2 2 8 5

T4059 復一(またかず・山本やまもと、号;鴻堂、錫夫せきふ[榕室]長男)1840-1912<sup>73</sup> 京の本草家山本家当主:  
 山本亡羊(医・本草・儒学者)の孫、1650(慶応3)岩倉具視の秘書;東京住、  
 1871-2岩倉に随行し渡米、帰国後;正院に出仕/1877(明治9)太政官御用掛、  
 岩倉没後[岩倉公実記]編纂に従事;事故により委員辞任/1891免職/一家で京都に移住、  
 一時復職/1894再び免職、京都愛宕神社宮司、叔父の山本章夫あやおと「山本氏家譜」共著

又勝(またかつ・前田)→ 貞一(さだかず・前田、藩家老/記録) H 2 0 9 3  
 又勝(またかつ・前田)→ 貞道(さだみち・前田、藩家老/記録) J 2 0 7 6  
 又勝(またかつ・前田)→ 貞彦(さだなり・前田、藩士/系図) J 2 0 1 1  
 完(またき・波多)→ 完(またし・波多はた/秦/金原、国学者) J 4 0 4 3  
 又吉(またきち・平野)→ 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6  
 又吉(またきち・猿丸)→ 安時(やすとき・猿丸さるまる、庄屋/溜池築造) F 4 5 9 4  
 又吉(またきち・前田)→ 利寛(としひろ・前田またえだ、藩主男/和学) W 3 1 4 2  
 又吉郎(またきちろう・玉置)→ 賢孝(よしとか・玉置たまおき/原、醸造/国学) N 4 7 8 8  
 股臭(またくさ・大尻)→ 大屁股臭(おおべのまたくさ、狂歌) C 1 4 1 8

J4037 又玄(またくろ・竹内たけうち、医者竹内元溪男)1826-82<sup>57</sup> 信州水内郡野尻の医者;父祖の業を継嗣、  
 西洋医学修学、本草学に精通/詩歌・画に通ず、1853「芙蓉湖十二勝」「香山採種」著、  
 「菓草植物図」「信濃草木小誌」「人体解剖図」著、  
 [又玄(;通称)の号]鉄如/鶴鳴外史

又九郎(またくろう・井尻)→ 忠鋤(忠助ただすけ・平たいらの、漢学、戯文) F 2 6 1 8

J4038 眞竹深藪(まだけのふかやぶ、姓;太田おた、通称;政右衛門)?-? 飯野藩用人/江戸小石川市兵衛河岸住、  
 狂歌;小石川連、1785「徳和歌後万載集」3首/「才蔵集」1首(626)入、  
 [一つづゝ撞くまにつくやため息の身は捨てがねとかねて思へど](後万載;654/鐘撞述懐)

U4023 又五郎(またごろう・衛士) ? - ? 鎌倉期官人;六衛府の衛士/公事に精通、  
 徒然草102段;朝廷の儀式に精通と機転の故事入

又五郎(またごろう・一柳/曲直瀬)→ 正琳(しょうりん・曲直瀬まなせ、医者/連歌) L 2 2 9 6  
 又五郎(またごろう・松倉)→ 嵐蘭(らんらん・松倉まつくら、俳人) 4 8 0 7  
 又五郎(またごろう・呉服屋/仁木)→ 道智斎(どうちさい・二鬼島にきじま、史家) G 3 1 4 0  
 又五郎(またごろう・横山)→ 政賢(まさかた・横山/山崎、藩家老) B 4 0 8 9  
 又五郎(またごろう・北村)→ 春水(しゅんすい・北村きたむら、国学/歌人) K 2 1 0 3  
 又五郎(またごろう・平田)→ 篤胤(あつたね・平田、神道/国学者) 1 0 2 2  
 又五郎(またごろう・猪田屋)→ 猪来(ちよらい・服部、俳人) K 2 8 4 6  
 又五郎(またごろう・長坂/安倍)→ 親任(ちかとう・安倍/長坂、藩士/農政/歌) B 2 8 2 5  
 復五郎(またごろう・増山)→ 守正(もりまさ・増山/藤原、医者/詩歌) G 4 4 5 3

J4039 又左衛門(またざえもん・津打つうつ/つうち;号、初号;津打又次[治]郎)?-? 歌舞伎作者;2世津打治兵衛門、  
 享保1716-36頃江戸市村座で活動、  
 1728「浦島7世孫」32「栄代蔵櫟鑑」34「長生殿白髪金時」著

J4040 又左衛門(またざえもん;通称・長曾ながそ、名;長雄)?-? 江中期山鹿流兵学者;  
 1772頃出雲広瀬藩主松平直義に招聘され兵学師範、森山富涯の師、  
 「三重伝并六物」「山本勘介兵法大星目録」著

J4041 又左衛門(またざえもん・松本まつもと、松本又左衛門守遠男)1792-1865<sup>74</sup> 筑後久留米一条村の町別当職、  
 屋号;泉屋、嗣子;種良、晩年は独居;誦経・読書三昧、1818-65「松本日記」著

J4042 又左衛門(またざえもん・遠藤えんどう、名;喜典)1813-68<sup>刺殺56</sup> 蝦夷松前藩士;中書院席/用人、  
 1854<sup>ペ</sup>リー箱館来航の際の応接掛、1868勤王派の正義隊に襲撃され刺殺、  
 1854「彼理応接顛末」著

又左衛門(またざえもん・花房)→ 道悦(どうえつ;法名、城主/歌/連歌) B 3 1 3 9  
 又左衛門(またざえもん・香川)→ 宗尤(そうゆう・香川かがわ、武将/連歌) J 2 5 0 2  
 又左衛門(またざえもん・佃田)→ 又右衛門(またえもん・佃田/佃、武将/キリシタン) J 4 0 3 3  
 又左衛門(またざえもん・曾我)→ 尚祐(なおすけ・曾我/平、幕臣/故実) B 3 2 3 3  
 又左衛門(またざえもん・曾我)→ 古祐(ひさすけ・曾我、尚祐男/幕臣/故実) B 3 7 1 6  
 又左衛門(またざえもん・曾我)→ 近祐(ちかすけ・曾我、古祐男/幕臣/故実) B 2 8 0 2  
 又左衛門(またざえもん・山本)→ 重実(しげさね・山本やまと/桑津、藩士・歌) a 2 1 1 9  
 又左衛門(またざえもん・藤田)→ 懋斎(ぼうさい・人見/小野/野・藤田、儒者/藩士) 3 9 8 9  
 又左衛門(またざえもん・蜂屋)→ 可敬(よしのり・蜂屋はちや/源、藩士/詩) F 4 7 8 0  
 又左衛門(またざえもん・前田)→ 吉徳(よしのり・前田まえた、藩主/書翰) F 4 7 8 2  
 又左衛門(またざえもん・前田)→ 宗辰(むねとき・前田まえた、藩主/和学) E 4 2 2 3  
 又左衛門(またざえもん・田)→ 季成(すえなり・田でん、捨女の夫/俳人) I 2 3 8 4  
 又左衛門(またざえもん・松岡)→ 士喬(しきょう・松岡まつおか、俳人) Q 2 1 2 3  
 又左衛門(またざえもん・檜垣/足代)→ 弘氏(ひろうじ・足代/度会、神職/俳人) F 3 7 5 6  
 又左衛門(またざえもん・田代)→ 陣基(陳基つらもと・田代、藩士/文筆家) E 2 9 5 0  
 又左衛門(またざえもん・西田屋)→ 道恕斎(どうじょさい・庄司、妓楼主人) F 3 1 5 4  
 又左衛門(またざえもん・近藤)→ 寿俊(ひさとし・近藤、幕臣/馬術家) B 3 7 5 1  
 又左衛門(またざえもん・老沼)→ 近周(きんしゅう・老沼おいぬま、俳人) S 1 6 0 6  
 又左衛門(またざえもん・石田)→ 未得(みとく・石田、俳人/狂歌) 4 1 3 3  
 又左衛門(またざえもん・前田)→ 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8  
 又左衛門(またざえもん・中根)→ 梅老(くまの・中根なかね、俳人) C 3 6 3 8  
 又左衛門(またざえもん・加藤)→ 枝直(えなお・加藤/橘、国学/歌) 1 3 8 0  
 又左衛門(またざえもん・加藤)→ 千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人) 2 8 0 3  
 又左衛門(またざえもん・磐瀬/加藤)→ 千年(ちとせ・加藤、幕臣/国学) F 2 8 0 5  
 又左衛門(またざえもん・斎藤)→ 徳元(とくげん・斎藤、武将/俳人) K 3 1 6 5  
 又左衛門(またざえもん・滝川)→ 忠貫(ただつら・滝川たきがわ、藩士/記録) P 2 6 9 0  
 又左衛門(またざえもん・筑井)→ 昆陽(こんよう・筑井つくい、儒者) P 1 9 3 0  
 又左衛門(またざえもん・新居)→ 守村(もりむら・新居あらい、国学者) G 4 4 6 7  
 又左衛門(またざえもん・間宮)→ 永好(ながよし・間宮まみや、藩士/国学者) G 3 2 4 7  
 又左衛門(またざえもん・中野)→ 清貞(きよさだ・中野なかの/藤原、歌人) S 1 6 9 7  
 又左衛門(またざえもん・香川)→ 景達(かげとう・香川かがわ、藩士/国学者) U 1 5 1 1  
 又左衛門(またざえもん・志茂)→ 実明(さねあきら・志茂しも、藩士/歌/経史) K 2 0 7 0  
 又左衛門(またざえもん・木下)→ 光宝(みつとみ・木下きのした/鷺津、商家/陪臣/国学) I 4 1 8 0  
 又左衛門(またざえもん・木下)→ 光昭(みつあき・木下きのした/野原、陪臣/歌) I 4 1 7 7  
 又左衛門(またざえもん・前田)→ 慶寧(よしやす・前田まえた/藤原、藩主/歌) H 4 7 8 5  
 又左衛門(またざえもん・林)→ 勝平(かつひら・林はやし、藩士/国学) V 1 5 4 3  
 又左衛門(またざえもん・壺井)→ 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8  
 又左衛門(またざえもん・児島)→ 政秀(まさひで・児島こじま/三宅、商家/国学) P 4 0 6 5  
 又左衛門(またざえもん・児島)→ 政毅(まさたけ・児島こじま/土田、商家/国学) P 4 0 6 6  
 又左衛門(またざえもん・徳田)→ 元定(もとさだ・徳田とくさだ、国学者) K 4 4 7 0  
 又左衛門(またざえもん・山口)→ 正養(まさかい・山口やまぐち、漢学者) T 4 0 4 4  
 又左衛門(またざえもん・山田)→ 興雅(おきまさ・山田やまだ、国学/歌人) E 1 4 2 2  
 又左衛門(またざえもん・猿丸)→ 安時(やすとき・猿丸さるまる、庄屋/溜池築造) F 4 5 9 4  
 又左衛門尉(またざえもん・前田)→ 利家(としいえ・前田まえた、武将) M 3 1 0 7  
 又作(またさく・添田)→ 一芳(かずよし・添田そえだ、里正/国学者) U 1 5 8 6  
 復定(またさだ・増山)→ 守正(もりまさ・増山/藤原、医者/詩歌) G 4 4 5 3  
 又三郎(またさぶろう・玉木)→ 吉保(よしやす・玉木/玉置たまき、武将) H 4 7 7 3  
 又三郎(またさぶろう・島津)→ 氏久(うじひさ・島津、武将/馬術) C 1 2 6 3  
 又三郎(またさぶろう・島津)→ 貴久(たかひさ・島津、武将、いろは歌作) M 2 6 9 5  
 又三郎(またさぶろう・島津)→ 義久(よしひさ・島津しまづ/惟宗、武将/連歌) G 4 7 2 7

又三郎(またさぶろう・島津)→	光久(みつひさ・島津しまう/松平、藩主)	E 4 1 5 7
又三郎(またさぶろう・島津)→	綱久(つなひさ・島津しまう、藩世嗣/歌人)	F 2 9 8 2
又三郎(またさぶろう・島津)→	綱貴(つなたか・島津、藩主/財政再建)	B 2 9 1 0
又三郎(またさぶろう・島津)→	重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学)	C 2 1 9 0
又三郎(またさぶろう・島津)→	宗信(むねのぶ・島津しまう、藩主/弓術)	D 4 2 8 6
又三郎(またさぶろう・島津)→	斉宣(なりのみ・島津しまう、藩主/詩歌)	H 3 2 9 4
又三郎(またさぶろう・伊勢)→	貞孝(さだたか・伊勢/平、幕臣/故実家)	I 2 0 3 3
又三郎(またさぶろう・林)→	羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政)	4 8 0 2
又三郎(またさぶろう・林)→	春勝(はるかつ・林、鷺峰、羅山男/儒者)	3 6 3 0
又三郎(またさぶろう・萩原)→	宗固(そうこ・萩原/鈴木/源、幕臣/歌人)	2 5 0 8
又三郎(またさぶろう・林)→	櫻宇(ていう・林はやし、幕府儒官)	3 0 3 1
又三郎(またさぶろう・林)→	壮軒(そうけん・林、櫻宇男/幕府儒官)	H 2 5 1 1
又三郎(またさぶろう・林)→	梅洞(ばいどう・林、儒者)	B 3 6 8 9
又三郎(またさぶろう・山田)→	復軒(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者)	D 3 8 3 2
又三郎(またさぶろう・稲葉)→	黙斎(もくさい・稲葉いなば、儒者)	4 4 8 2
又三郎(またさぶろう・佐奈具屋)→	鷺秋(ろしゅう・橋井はい、俳人)	B 5 2 7 1
又三郎(またさぶろう・根来屋)→	素庵(そあん・桂井かつらい、郷士/儒者)	F 2 5 8 2
又三郎(またさぶろう・土屋)→	義休(よしやす・土屋つちや、勸農家)	H 4 7 7 4
又三郎(またさぶろう・島屋)→	平山(へいざん・多々良たたら/鳥山、俳人)	2 7 4 2
又三郎(またさぶろう・山名/清水)→	時庸(ときもち・清水、幕臣/神道/兵学)	K 3 1 1 5
又三郎(またさぶろう・村井屋)→	塵生(じんせい、俳人)	2 2 4 0
又三郎(またさぶろう・大和田)→	気求(ききゅう・大和田おおわだ、書肆/和漢学)	1 6 9 0
又三郎(またさぶろう・大蔵屋/千葉)→	葛野(かどの・千葉、国学/歌)	1 5 7 1
又三郎(またさぶろう・芝屋)→	芝叟(しそう・司馬、永富/雄崎、浄瑠璃/歌舞伎作者)	E 2 1 4 6
又三郎(またさぶろう・堀)→	親審(ちかしげ・堀、藩主/天保改革)	2 8 9 8
又三郎(またさぶろう・志村)→	昌義(まさよし・志村むら、和算家)	I 4 0 6 3
又三郎(またさぶろう・本多/長)→	連弘(つらひろ・長ちよう/本多、藩士/経済改革)	E 2 9 4 7
又三郎(またさぶろう・京屋)→	可楽(からく・三笑亭、落語)	1 5 4 3
又三郎(またさぶろう・川瀬屋)→	知十(ちじゅう・川瀬/河瀬、商家/俳人)	E 2 8 3 4
又三郎(またさぶろう・新居)→	守村(もりむら・新居あらい、農業/国学者)	G 4 4 6 7
又三郎(またさぶろう・松金屋)→	満慶(みつよし・田中たなか、商家/歌人)	J 4 1 4 4
又三郎(またさぶろう・池浦)→	信基(のぶもと・池浦いけうら、歌人)	H 3 5 2 9
又三郎(またさぶろう・塙)→	重義(しげよし・塙はなわ、藩士/攘夷論)	T 2 1 1 7
亦三郎(またさぶろう・寺島)→	亀石(きせき・寺島てりしま、俳人)	L 1 6 0 9

J4043 **完**(またし・またき・波多はた/本姓;秦、初姓;金原)?-1838 遠江敷智郡志都呂陣屋の役人(代官)、  
 国学・歌:本居大平・石塚竜麿門、有玉下村の高林方朗・小栗広伴と親交、  
 1818(文政元)浜松宿梅谷本陣での賀茂真淵50年忌に参加、「詠藻」著、1838(天保9)没、  
 [完(;名)の通称/号]通称;一郎/市郎、号;諺輔/漣舎、法号;其玄院

J4044 **又治**(またじ・熱海あつみ、又左衛門男)1815-7864 和算家:千葉胤道門、学問;大平亮雅門、子弟教育、  
 維新後小学校教員、「釣股法」「関流算法約術」「関流算法自問自答」「初学容題解義」外著多、  
 [又治(;名)の字/号]字;光隆、号;牛算

又七(またしち・伊勢)→	貞明(さだあきら・伊勢/平、故実家)	H 2 0 6 9
又七(またしち・河合)→	乙州(おとくに・河合/川井、俳人)	1 4 8 9
又七(またしち・竹村)→	報竹(ほうちく・竹村、俳人)	C 3 9 2 8
又七(またしち・磯村)→	道彦(みちひこ・磯村いそむら、国学/歌)	C 4 1 3 0

T4070 **又四郎**(またしろう・鴻池こうのけ、名;宗吉、旧姓;山中)?-? 江後期;和泉堺の生、  
 大坂の商家2代目鴻池善右衛門宗利の養子;3代宗誠女と結婚/豪商鴻池の分家;今橋に住、  
 大名家の蔵元を務める、和学者、懷徳堂創設の[五同志]の1(町人の学問所創設)

又四郎(またしろう・島津)→	義弘(よしひろ・島津しまう、武将/記録)	G 4 7 5 5
又四郎(またしろう・内藤)→	元康(もとやす・藤原/内藤、歌人)	E 4 4 4 5



又四郎(またしろう・佐竹) →	義術(よしやす・佐竹さたけ、城代)	I 4 7 0 5
又四郎(またしろう・林) →	竜潭(りゅうたん・林はやし、幕臣/儒者)	F 4 9 1 7
又四郎(またしろう・大西) →	惟斐(これあや・大西おおにし、歌人/茶道)	Q 1 9 5 4
又四郎(またしろう・速水) →	氏紀(うじのり・速水はやみ、酒造業、歌人)	E 1 2 8 4
又七郎(またしちろう・樋口) →	定次(さだつぐ・樋口ひぐち、剣術家)	I 2 0 5 6
又七郎(またしちろう・堀) →	親昌(ちかまさ・堀ほり、藩主/歌人)	B 2 8 8 2
又七郎(またしちろう・桃井) →	友直(ともなお・桃井もものい、藩士/史家)	Q 3 1 0 1
又七郎(またしちろう・島津) →	以久(もちひさ/ゆきひさ・島津、藩主)	B 4 4 5 7
又七郎(またしちろう・宮後) →	朝雄(ともたけ・宮後みやじり/度会、神職)	P 3 1 6 7
又七郎(またしちろう・島津) →	家久(いえひさ・島津/惟宗、武将/連歌)	1 1 5 6
又七郎(またしちろう・人見) →	元徳(玄德げんとく・人見ひとみ/野、医者)	M 1 8 0 1
又七郎(またしちろう・人見) →	鶴山(かくざん・人見、元徳男/幕府儒官)	B 1 5 4 9
又七郎(またしちろう・人見) →	桃源(とうげん・人見、鶴山男/幕府儒官)	D 3 1 4 2
又七郎(またしちろう・人見) →	雪江(せつこう・人見、桃原男/幕臣/儒詩)	K 2 4 8 8
又七郎(またしちろう・片桐) →	且昭(かつてる・片桐かたざり、幕臣)	N 1 5 5 4
又七郎(またしちろう・堀) →	親長(ちかなが・堀ほり、藩主/築堤)	M 2 8 1 6
又七郎(またしちろう・宮下) →	穂垂(ほたり・宮下みやした、国学者/歌人)	G 3 9 4 1
又七郎(またしちろう・河本) →	公唯(きみただ・河本かわもと、商家/国学)	U 1 6 0 2
又十郎(またじゅうろう・頼) →	亨翁(こうおう・頼、紺屋/歌人)	H 1 9 7 2
又十郎(またじゅうろう・升屋/西島) →	信廉(のぶやす・西島にしじま、商人/日記)	D 3 5 5 6
又十郎(またじゅうろう・山内) →	致亭(ちてい・山内やまうち、藩士/儒者)	E 2 8 8 0
又十郎(またじゅうろう・江良) →	仲文(ちゅうぶん・江良えら、儒者/犬追物)	G 2 8 8 2
又十郎(またじゅうろう・伊地知) →	貞馨(さだか・伊地知いちち、藩士)	H 2 0 8 7
又十郎(またじゅうろう・奥村) →	六石(りくせき・奥村おくむら、藩士/儒者)	4 9 7 7
又十郎(またじゅうろう・溝口) →	直景(なおかげ・溝口みぞぐち/源、旗本/歌)	K 3 2 3 6
又十郎(またじゅうろう・西村) →	有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌)	I 1 0 2 2
又四郎(またしろう・島津) →	忠将(ただまさ・島津しまづ、武将/日記)	Q 2 6 7 9
又四郎(またしろう・小瀬/坂井) →	甫庵(ほあん・小瀬おぜ、医者/軍記)	3 9 5 0
又四郎(またしろう・伊東) →	祐等(すけとし・伊東いとう、兵法家)	G 2 3 6 2
又四郎(またしろう・林) →	鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭)	3 9 5 3
又四郎(またしろう・三浦) →	益徳(ますのり・三浦みうら、藩士/国学者)	J 4 0 1 4
又四郎(またしろう・和田) →	芳長(よしなが・和田わだ、国学者/歌人)	Q 4 7 1 1
又四郎(またしろう・森岡) →	玖ト(ふぼく・森岡、船問屋/俳人)	D 3 8 7 5
又四郎(またしろう・佐竹) →	義術(よしやす・佐竹さたけ、城代)	N 4 7 0 5
又二郎(またじろう・増山) →	遷永(ゆきなが・増山ますやま、御師/国学)	H 4 6 2 6
又次郎(またじろう・小笠原) →	長秀(ながひで・小笠原、武将/故実家)	F 3 2 4 7
又次郎(またじろう・小笠原) →	貞朝(さだとも・小笠原、武将)	I 2 0 8 9
又次郎(またじろう・吉川) →	広家(ひろいえ・吉川きっかわ、武将/領主/連歌)	F 3 7 5 3
又次郎(またじろう・曾我) →	助乗(すけのり・曾我/平、武将/故実家)	G 2 3 8 9
又次郎(またじろう・志野) →	宗温(そうおん・志野しの、香道家)	G 2 5 3 9
又次郎(またじろう・川野辺) →	寛(ひろし・川野辺/川辺、藩士/地誌)	F 3 7 8 6
又次郎(またじろう・島津) →	久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権)	C 3 7 0 1
又次郎(またじろう・山崎) →	堅丸(かたまる・地形堂ちがたどう、狂歌)	N 1 5 0 9
又次郎(またじろう・岡田) →	寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官)	E 1 5 0 6
又次郎(またじろう・横瀬) →	貞隆(さだたか・横瀬よこせ/源、幕臣/歌人)	N 2 0 2 1
又次郎(又治郎またじろう・津打) →	又左衛門(またざえもん・津打つつつ/つうち、歌舞伎作者)	J 4 0 3 9
又次郎(又二郎またじろう・頼) →	支峯(しほう・頼らい、名;復、漢学者)	F 2 1 7 0
又次郎(またじろう・金子) →	幸忠(ゆきただ・金子かねこ、藩士/語学)	E 4 6 7 8
又次郎(またじろう・西村) →	有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌)	I 1 0 2 2
又治郎(またじろう・乙幡/三浦) →	元簡(もとりのり・三浦、藩士/国学/歌)	D 4 4 8 5

- 又治郎(またじろう・竹内) → 重意(しげおき・竹内、郷土史家/詩歌) Q 2 1 7 2  
 亦次郎(又次郎またじろう・薬師寺) → 種逢(たねあい・薬師寺、砲術家) R 2 6 7 6  
 亦次郎(またじろう・岩田) → 凉菟(りょうと・岩田/神風館3世、俳人) 4 9 2 1  
 又四郎左衛門(またしろうざえもん・長沼) → 宗泰(むねやす・長沼/中沼/藤原、幕臣/歌) C 4 2 6 5
- J4045 又助(またすけ・古橋ふるはし) ? - 1588? 加藤清正の家臣、又玄「清正記せいしやうき」巻一を筆記、  
 1588天草合戦後に没
- J4046 亦助(又助またすけ・中沢なかざわ、名;照、甚七郎重綱男) 1636-1726長寿91 岩代二本松藩士;  
 1678兄厚の継嗣、1680蠟燭・麻・漆奉行、和算:1659磯村吉徳門/藩算学の指導者、  
 「算法適等集」著、夕庵の兄
- 又助(またすけ・太田) → 牛一(ぎゅういち・太田、武士/軍記作者) B 1 6 9 0  
 又助(またすけ・高橋) → 五左衛門(ござえもん・高橋、料理人) M 1 9 5 1  
 又助(またすけ・河村) → 信道(のぶみち・河村かわむら、商家/歌人) I 3 5 0 4  
 又助(またすけ・鳥山) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4  
 又介(又助またすけ・井伊) → 乗徳(じょうとく・明達院、真宗僧/歌人) U 2 2 9 8  
 又甫(又介またすけ・鈴木) → 半山(はんざん・鈴木すずき、儒者) H 3 6 7 9  
 亦介(亦助またすけ・山田) → 公草(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9  
 亦介(またすけ・斎藤) → 秋圃(しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7  
 亦助(またすけ・横田) → 実礎(さねもと・横田よこた/土肥、藩士/神職/歌) P 2 0 7 8
- J4047 又蔵(またぞう・木村きむら) ? - ? 武士/加藤清正の家臣;文禄・慶長役に参加、  
 のち毛利氏に仕え長州藩士、1662又玄「清正記」巻二-三筆記(「木村又蔵覚書(清正記)」)
- J4048 又蔵(またぞう・小田おだ、後閑ごかん信近男) 1804-7067 信濃岩村田の人/1818小田彰信の養嗣子;  
 1818家督継嗣;幕臣、外国奉行師範組頭/蕃書調所組頭/書物奉行、1864御役御免/67致仕、  
 「安政二年七月和蘭貢献電信機実験顛末書」著、  
 [又蔵(;通称)の名/別通称/号]名;信贛(シソウ)、初通称;和三郎、号;鉄斎、法号;太清院
- 又蔵(またぞう・茂木) → 知教(ともり・茂木もてき、藩士/歌人) Q 3 1 2 5  
 又蔵(またぞう・安部井) → 武氏(たけうじ・安部井あべい、藩士/歌人) O 2 6 2 6  
 又蔵(またぞう・鷹見) → 泉石(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) M 2 4 7 8  
 又蔵(またぞう・竹村) → 広蔭(ひろかげ・竹村たけむら、庄屋/歌人) F 3 7 6 4  
 又蔵(またぞう・藤井) → 柳所(りゅうしょ・藤井ふじい、藩儒者) E 4 9 6 0  
 又蔵(またぞう・水野) → 敏樹(としき・水野みずの、藩士/歌人) W 3 1 5 8  
 又蔵(またぞう・水野) → 正芳(まさよし・水野、敏樹孫/藩士/国学) S 4 0 9 3  
 又三(またぞう・服部) → 文礼(ふみひろ・服部はっとり、藩代官/国学) I 2 8 6 5
- J4049 又太夫(まただゆう) ? - ? 大阪道頓堀の幸若舞の座元、  
 狂歌:1666行風「古今夷曲集」入
- 又太夫(まただゆう・岡田/鶴飼) → 貞義(さだよし・鶴飼/岡田/石部、神職) K 2 0 2 9  
 全太理(またたり・神宅) → 全太理(まさたり・神宅、出雲風土記) D 4 0 6 7
- J4050 亦太郎(またたろう・田中たなか/本姓;源、小林遜斎男) 1843-7331 父の任地高崎藩領越後三条の生、  
 田中正武の養子/上野高崎藩士、儒;若槻担斎門/国学;鈴木眞年・平田鉄胤門/皇典学、  
 篆刻・歌に長ず、病氣貧困の中で平田篤胤伝記を著、1870致仕、「温故書楼叢書」著、  
 1861「気吹舎先生伝」、「高崎藩神名帖」「高崎藩神名帖別記」著、  
 [亦太郎(又太郎とも;通称)の名/号]名;行/正胤(まさたね、号;毛野/鶴堂/温古/鶴雄/行氏
- 又太郎(またたろう・岡本) → 元朝(もととも・岡本、藩士/日記) D 4 4 3 3  
 又太郎(またたろう・三宅) → 橘園(きつえん・三宅みやけ、儒者) B 1 6 5 0  
 又太郎(またたろう・林) → 三洲(さんしゅう・林はやし、藩儒臣/詩人) M 2 0 3 7  
 又太郎(またたろう・朝倉) → 豊陳(とよぶ・朝倉、幕臣/詩人) R 3 1 4 4  
 又太郎(またたろう・足利) → 義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人) F 4 7 4 9  
 又太郎(またたろう・金森) → 頼錦(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳) I 4 7 5 7  
 又太郎(またたろう・八木) → 静修(しずさね・八木/鎬木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
 又太郎(またたろう・毛束) → 義恭(よしとか・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7  
 復太郎(又太郎またたろう・河村) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌) D 3 7 5 4

又千代(またちよ・前田) → 利郷(としさと・前田また、藩主男/歌人) W 3 1 4 1

- 4030 眞龍(またつ・内山うちやま、美眞男) 1740-1821 82 遠江豊田郡大谷村の庄屋の生、  
国学:1762賀茂真淵門、歌と古典研究、鈴屋門人と交流、遠江国学の祖、石塚竜麿らの師、  
1786「出雲行」87「出雲風土記解」/89「遠江国風土記伝」編/96「国号考」1803「国図」、  
1812「日本紀類聚解」13「古事記謡歌註」、「古歌集」「伊都母日記」「熊野詣之記」外著多数、  
[眞龍(;名)の別名/通称/号]幼名;市六、初名;竜麿、別名;几/敬美、通称;弥兵衛/徳右衛門  
号;竜洞/雲里/弁舩/奉国史翁/叢、後妻;渡辺布佐(歌人)
- J4051 眞龍(またつ・湯沢ゆざわ/本姓;川又) 1760-1837 78 下野鹿沼の神職;加蘇山神社社司、国学者:京遊学  
本居宣長・荒木田久老門、1804帰郷;道別舎開;子弟教育、万葉・古語仮名遣研究、  
「仮名清濁」「仮名清濁」「伊勢物語註解」「古言梯補遺」「ふりわけ髪注釈」「眞龍歌集」、  
1828「耕作始之記」著、  
[眞龍(;名)の通称/号]通称;権太夫ごんたけ、号;道別舎みちわきのや、河野守弘・山口安良の師
- T4012 全次(またつ・たけつ・村田むらた、元次もとつ[1655-1733]男) ?-1751 江中期;伊勢松坂の商家/神道家、  
父と同じ垂加流神道、国学者、  
[全次(;名)の通称/号]通称;孫兵衛(父の称)、号;寅斎  
真竜麿(またつ・水野) → 忠幹(ただもと・水野みずの、家老/藩主/歌) U 2 6 4 1
- 4029 眞楯(またて・藤原朝臣、初名;八束やつか、房前ふさき男) 715-766 52 奈良期廷臣、  
母;美努王みのおほきみの女の牟漏むろ女王、740従五下/748参議/760従三位/764正三位、  
中務卿・摂津大夫・太宰帥歴任、766大納言兼式部卿/没後贈太政大臣従一位、  
聖武天皇に厚遇;従兄仲麻呂に妬まれ不仲、病と称し籠居し読書専念、  
永手の弟/清河・魚名の兄、内麻呂の父/冬嗣(;摂関家)の祖父、  
万葉四期歌8首(398/399/987/1547[旋頭歌]/1570/1571/4271/4276、978左注/1040題詞)  
山上憶良に私淑;病床の憶良を河辺東人に見舞わせる(978左注;憶良「土やも」の返歌)、  
続古今513、  
[ここにありて春日やいづち雨あつつみ出でて行かねば恋ひつつそ居る](万葉;八1570)
- 04091 眞楯(またて・勝部かつべ、旧姓;佐々木) 1822-97 76 出雲飯石飯石郡の国学者/神道・国学;金築春久門、  
国学・歌;西田直養門、松江修道館の大助教、神社祠官  
[眞楯(;名)の別名/通称/号]別名;綱足ちゅうそく、通称;富得/内蔵之介くらのすけ、  
号;檉窓ていそう/飯石/山長/華溪/漁長/雲樵
- 眞楯(またて・森) → 広主(ひろぬし・森もり、医/国学者) G 3 7 7 7  
眞楯(またて・菅) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1  
真種(またね・今村) → 真種(みたね・今村いまむら、藩士/歌人) I 4 1 1 3
- J4052 又之丞(またのじょう・潮田うしおだ、名;高教) 1669-1703 切腹 35 播磨赤穂藩士:馬廻/国絵図奉行;2百石、  
大石良雄に従い吉良邸討入;細川綱利邸預;切腹、「赤穂義士書翰」入、  
[又之丞(;通称)の変名] 原田斧右衛門、法号;刃窓空剣
- 又之丞(またのじょう・塩田) → 随斎(ずいさい・塩田、藩士/儒者/詩) 2 3 5 9  
又之進(またのしん・一松) → 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者) J 2 4 9 5  
又之進(またのしん・奥村) → 道賢(みちまさ・奥村おくむら/桜井、陪臣/歌) I 4 1 6 1  
又之進(またのしん・島津) → 忠寛(ただひろ・島津しまづ、藩主/国学) X 2 6 5 5  
又八(またはち) → 素兄(そけい・菜庵、俳人) D 2 5 6 3  
又八(またはち・尾崎) → 政信(まさのぶ・尾崎おさき、歌人) O 4 0 2 3  
又八(またはち・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6  
又八郎(またはちろう・島津) → 家久(いえひさ・島津しまづ/松平、藩主) E 1 1 9 6  
又八郎(またはちろう・松平) → 忠利(ただとし・松平、藩主/連歌) Q 2 6 0 3  
又八郎(またはちろう・松平) → 忠侯(ただこれ・松平まつだいら、藩主) P 2 6 4 5  
又八郎(またはちろう・成田) → 頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編) J 4 7 2 6  
又八郎(またはちろう・成田) → 頼裕(よりひろ・成田、頼直男/藩士/文筆) J 4 7 6 7  
又八郎(またはちろう・人見) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0  
又八郎(またはちろう・尾崎) → 良福(よしとみ・尾崎おさき、神職/歌人) L 4 7 8 7



又八郎(またはちろう・竹本)→ 正興(まさおき・竹本たけもと石亭、幕臣/絵師) Q 4 0 8 1

又八郎(またはちろう・大沼)→ 俊直(としなお・大沼おおぬま/城取、藩士/礼法) U 3 1 5 3

J4053 又玄(またはる・ゆうげん・古橋ふるはし、通称;左衛門尉、古橋清助氏保男)?-? 武将;加藤清正家譜代の被官、  
1662軍記「清正記せいしゅうき」編著/自序に資料記す(1663京の長尾平兵衛刊);

巻一;家老加藤美作守正次・古橋又助筆、

巻二・三;下川兵大夫・木村又蔵筆、

巻三末;氏保筆

J4054 又久(またひさ・前田まへだ/本姓;菅原/修姓;菅)?-? 江中期播磨姫路藩士、1795「古今刀剣差料私鑑」、  
1795「差料私鑑」、[又久(;名)の別名]延春/利賛

又平(またへい・寺嶋/矢野)→ 信厚(のぶあつ・矢野、藩士) 3 5 9 1

J4055 又兵衛(またべえ・岩佐いわさ/本姓;藤原、名;勝以かつもち、伊丹城主荒木村重男)1577-1650<sup>74</sup> 絵師、  
1579摂津伊丹有岡城落城;母も処刑/本願寺子院に隠れて成長/母方の岩佐姓を名乗る、  
学問;織田信雄家臣の内藤重郷門/画;土佐光則門、  
1624-36頃越前福井藩主松平家の知遇で福井移住、1637徳川秀忠の招聘で江戸住、  
「山中常盤物語」「三十六歌仙図」画、「浮世絵手鑑」著、浮世絵の元祖(源流)と称される、  
[又兵衛(;通称)の号/法号]号;道蘊どうん/碧勝宮へきしょうぐう、法号道栄信士

又兵衛(またべえ・村井)→ 長頼(ながより・村井むらい、藩士/記録) G 3 2 5 4

又兵衛(またべえ・村井)→ 長明(ながあき・村井むらい、藩士/記録) D 3 2 1 6

又兵衛(またべえ・村井)→ 長時(ながとき・村井むらい、藩士/記録) E 3 2 7 1

又兵衛(またべえ・村井)→ 長穹(ながたか・村井むらい、藩士/記録) E 3 2 0 4

又兵衛(またべえ・村井)→ 長世(ながよ・村井むらい、藩士/記録) G 3 2 2 9

又兵衛(またべえ・村井)→ 長道(ながみち・村井むらい、藩士/能研究) F 3 2 8 8

又兵衛(またべえ・村井)→ 長在(ながあきら・村井むらい、藩士/記録) D 3 2 1 8

又兵衛(またべえ・近藤)→ 長令(ながのり・近藤、藩士/軍学者) F 3 2 3 0

又兵衛(またべえ・宮崎/大坂屋)→ 桂素(けいそ・俳、文亭綾継:戯作) 1 8 8 1

又兵衛(またべえ・長/長谷部)→ 桃妖(とうよう・長/長谷部、旅宿業/俳人) H 3 1 7 3

又兵衛(またべえ・松下)→ 為運(ためゆき・松下まつた、藩士/和学) Z 2 6 5 6

又兵衛(またべえ・升屋)→ 信廉(のぶやす・西島にしじま、商人/日記) D 3 5 5 6

又兵衛(またべえ・人見)→ 桃源(とうげん・人見ひとみ、幕府儒官) D 3 1 4 2

又兵衛(またべえ・人見)→ 雪江(せつこう・人見、桃源男/幕臣/儒詩) K 2 4 8 8

又兵衛(またべえ・人見)→ 美至(のりゆき・人見ひとみ、雪江男/幕臣/儒) G 3 5 1 1

又兵衛(またべえ・四王天)→ 周信(ちかのぶ・四王天しおうてん、藩士/故実) B 2 8 5 4

又兵衛(またべえ・浅見)→ 巢雲(そううん・浅見あさみ、藩士/書家) G 2 5 0 9

又兵衛(またべえ・佐藤)→ 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4

又兵衛(またべえ・大野)→ 一貫(いっかん・大野、藩士/兵術/故実) G 1 1 8 0

又兵衛(またべえ・加藤)→ 枝直(えなお・加藤/橋、国学/歌) 1 3 8 0

又兵衛(またべえ・深沢)→ 喬山(きょうざん・深沢ふかざわ、藩士/儒/歌) N 1 6 8 9

又兵衛(またべえ・近江屋)→ 無休(むきゅう;号・上原うえはら、心学者) 4 2 3 9

又兵衛(またべえ・樋口)→ 碩果翁(せつかおう・樋口好古、藩士/詩) E 2 4 0 9

又兵衛(またべえ・伊藤)→ 重枝(しげき・伊藤いとう/直江、藩士/歌) N 2 1 9 3

又兵衛(またべえ・益田)→ 就祥(なりよし・益田ますだ、家老/国学) O 3 2 7 9

又兵衛(またべえ・渡辺)→ 頑石(がんせき・渡辺わたなべ、詩文) R 1 5 1 9

又兵衛(またべえ・宮崎)→ 桂素(けいそ・宮崎、商家/俳人/狂歌) 1 8 8 1

又兵衛(またべえ・山中)→ 盛美(もりよし・山中やまなか、幕臣) G 4 4 9

又兵衛(またべえ・染崎)→ 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8

又兵衛(またべえ・川地)→ 義裕(よしひろ・川地かわち、藩士/歌人) M 4 7 3 2

又兵衛(またべえ・桔梗屋)→ 凝式(なりのり・高木たかぎ、商家/儒・歌人) N 3 2 7 1

又兵衛(またべえ・高田)→ 吉近(よしちか・高田たかだ、藩士/地誌) E 4 7 5 6

又兵衛(またべえ・熊谷)→ 直治(なおはる・熊谷くまがい/益田、藩士/国学) L 3 2 9 8

又兵衛(またべえ・西島)→ 信好(のぶよし・西島にしじま、歌人) J 3 5 4 9

- 又兵衛(またべえ・小島) → 嘉木(よしき・小島こじま/水原、陪臣/歌人) M 4 7 7 3  
 又兵衛(またべえ・土屋) → 惟秋(これあき・土屋つちや、国学/歌人) R 1 9 0 3  
 又兵衛(またべえ・伊島) → 重枝(しげえ・伊島いじま/直江/伊藤、庄屋/勘定奉行) N 2 1 2 5  
 又兵衛(またべえ・森川) → 頼(たのむ・森川もりかわ、楽人/国学/歌) 2 7 0 2
- P4073 眞瑤(またま・近藤こんどう、旧姓; 関川) 1815-8167 越後三日市の国学者/歌人; 橘守部門、江戸住、  
 [眞瑤(;)名)の通称/号]通称; 周三郎、号; 瓊舎たまのや  
 真玉廻屋(またまのや) → 恒由(つねよし・宮坂みやさか、酒造業/国学) E 2 9 9 1
- T4024 眞民(またみ・森もり、) 1797 - 187781 加賀金沢の国学者  
 J4056 復義(またよし・五味ごみ、通称; 喜太郎)?-? 江後期江戸の和算家; 金子昌良門?、  
 1864「算盤道調」編  
 亦吉(またよし・友部) → 方秀(まさひで・友部ともべ、藩士/国学者) G 4 0 7 7  
 摩陀羅毛乾堂(まだらもうけんどう) → 隆盛(たかもり・三木みき、国学者/俳人) N 2 6 4 8
- J4058 眞足(またり・佐々木ささき) 1761-183878 京の国学者; 1794本居宣長門、歌; 小沢蘆庵・香川景樹門、  
 鼓に長ず; 加賀藩抱の能役者(鈴屋翁門人帳入)、木下幸文・桃沢夢宅と交流、  
 「東さとし」(春海「筆のさが」の評)、  
 [眞足(;)名)の通称/号]通称; 寿六、号; 青峯/隻岳/鼓聖堂、法号; 鼓聖堂塊然隻岳居士
- J4057 眞足(またり・高内たかうち/額田ぬかだ、別名; 永種)?-? 江後期河内の額田神社祠官、  
 1830「ぬから縁起」34「十二月和名考」35「河内国額田神社考証」、「額田辨」
- R4085 眞足(またり・羽田はねだ、) 1816- 190388 肥後熊本藩士、国学・神道; 長瀬真幸まさき門、  
 国学・歌; 中島広足門/国学; 林有通門、肥後歌壇三足の1(中島広足/田代正足と)、  
 遺稿「蓬園歌文集」(田中豊子編)、  
 [眞足(;)名)の通称/号]通称; 太次郎、号; 蓬園  
 真足(またり・木原) → 藤園(とうえん・木原、国学者) B 3 1 5 3
- J4059 眞足女(またりめ・大伴部、檜前ひのくまの舎人石前いさきの妻)?-? 武蔵那珂郡住人/万葉歌人; 廿4413、  
 755防人に旅立つ夫石前への別れの歌、  
 [枕大刀まくらたし腰に取り佩はきまかなしき背ろがまき来こむ月のしらなく](万葉集; 4413)
- 又六(またろく・成瀬) → 当栄(まさひで・成瀬なるせ、藩士/記録) G 4 0 6 5  
 又六(またろく・村井) → 長道(ながみち・村井むらい、藩士/能研究) F 3 2 8 8  
 又六(またろく・井上) → 信友(のぶとも・井上いのうえ、藩士/国学) H 3 5 2 1  
 又六郎(またろくろう・浅野) → 長治(ながはる・浅野あさの、藩主/記録) F 3 2 3 6  
 又六郎(またろくろう・曾我) → 尚祐(なおすけ・曾我、幕臣/故実) B 3 2 3 3
- J4060 町(まち、三国町みくにのまち、紀種子?、紀名虎女?)?-? 平安前期仁明天皇の更衣、貞登の母、  
 父について; 紀名虎のほか惟喬親王の説あり、母は三国氏か、過失あり、歌; 古今集152、  
 紀名虎女の紀種子なら常泰親王の母でもある、  
 皇子貞さだ登のぼるは源姓であつたが母町の過失で属籍剥奪/出家; 866許され還俗し貞姓となる、  
 [やよや待て山郭公やまほととぎす事つてむわれ世の中に住みわびぬとよ](古今; 三152)  
 参照 → 登(のぼる・源・還俗後の姓; 貞、廷臣/歌) E 3 5 1 5  
 → 常泰親王(つねやすしのう、雲林院宮/歌) E 2 9 0 9
- 町(まち、三条町さんじょうのまち、紀静子、惟喬親王の母) → 三条町(さんじょうのまち) E 2 0 4 5  
 町(まち・徳山、祇園町子) → 玉瀾(ぎょくらん・徳山、町、大雅妻、絵師/歌人) P 1 6 4 0  
 まち(・工藤) → 眞葛(まぐず・只野ただの/工藤、歌人/随筆) 4 0 6 3  
 まちをさ君(まちおさぎみ) → 高光(たかみつ・藤原、多武峯少将入道/歌人) 2 6 1 8
- J4061 町子(まちこ・正親町おぎまち、実豊女) 1676?-1724(23?) 49or48 16歳で柳沢吉保に出仕;  
 側室となり2男子(経隆・時睦)出産、文筆・歌を嗜む:  
 1704(宝永元)霊元院に千首歌「如葉集千首」献上、家集「如葉によう集」著(1724刊)、  
 吉保の栄達伝「松蔭日記」著  
 [さかゆべき生おさき見えて今よりやにひ玉松の陰しげるらん](公家→武家への心境)
- 町尻(まちじり) → 道兼(みちかね・藤原、栗田関白/歌) B 4 1 3 8
- J4062 町尻子(まちじりのこ/町尻の君)?-? 平安前期・女房歌人:  
 延長六(928)年10月常寧殿の御前に菊を移植した際の歌、万代集入集、

玉葉集896、後撰集764題(；藤原師氏の贈歌)/師氏甥の伊尹とも交渉(一条摂政御集入)、  
[置く霜に色は見えねど菊の花こむらさきにもなりにけるかな](玉葉；六冬896)  
☆町とは室町と西洞院の間の南北路で土御門以北を町口・中御門以南を町尻(；拾芥抄)

参照 師氏 → 師氏(もうじ・藤原ふじわら、大納言/歌人) 4 4 3 1

伊尹 → 伊尹(これまさ・藤原、摂政太政大臣) 1 9 4 7

町住(まちずみ・小川) → 小川町住(おがわのまちずみ、藩士/狂歌) B 1 4 7 8

J4063 待名齋今也(まちなさいいまなり)?- ? 江後期黄表紙作者：南柚笑楚満人門、  
1804「敵討春手枕」著、

楚満人の匿名説あり → 楚満人(そまひと・南柚笑、草・黄表紙) 2 5 2 8

町乃舎(まちのや) → 徳風(とくふう・富田、商家/儒/国学者) L 3 1 3 3

待人(まちびと・悠々館) → 悠々館湖遊(ゆうゆうかんこゆう・狂歌作者) D 4 6 9 5

K4093 待人久留壽(まちびとのくす)?- ? 狂歌作者：1787「才蔵集」入；527

[今ははや有りたけ質も置炬燵かゝらう島のとんだになし](「才蔵集」；527)、  
(寄炬燵述懐/かからうは寄りかかるの意/島は縞)

J4064 町丸(まちまる・建興亭けんこうてい、姓；北風、通称；兵庫屋源兵衛)?-? 江後期大阪の狂歌作者；丸派、  
土佐堀一丁目住、「あさ良かは百首」著

J4065 麻中(まちゅう・高橋たかはし)?- ? 江後期江戸の俳人：岩松門、松江藩主松平斉恒(月潭)の師、  
1820「春帖集」「歳旦」編/-23「昨日夢」28「誹諧拾二歌僊行」編、「文政発句合」、  
[麻中(；号)の別号] 庭瓢斎/蓬草庵/伽羅庵/百万坊2世

U4012 まつ(松・園城寺)?- ? 鎌倉期；三井寺(園城寺)の童、  
歌人；1237刊[檜葉集]入(童菊苑眞珠との贈答)、

[承元の末(1211)三井寺の童まつ山階寺(興福寺)に移し侍りけるなごりに、  
さまざまのけづりばなつかはしけるにそへ侍りける、

移しやる花はものこそいはずともしたふ心の色はみゆらむ](眞珠の歌/檜葉；雑673)、  
松の返歌；

[これぞそのうつろふいろといはねども人の心や花にみゆらむ](檜葉；雑674)

同じ時に奈良の金毘羅・三井寺の鶴王の歌あり

M4000 まつ(まつ女・福沢ふくざわ、旧姓；桜井)1767-182256歳 信濃飯田の歌人、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[夏山は月影のみか降る雨のもらぬまでにも繁りぬるかな](大江戸倭歌；夏398)

松(まつ；一字名) → 公益(きんます・西園寺、廷臣/聯句) R 1 6 8 1

松(まつ；一字名) → 貞敦親王(さだあつしんのう・伏見宮、詩歌/連歌) B 2 0 6 9

松(まつ；一字名) → 秀吉(ひでよし・豊臣/羽柴、武将/連歌) 3 7 1 0

松(まつ・篠原/前田) → 松子(まつこ・前田まねだ、利家の妻) J 4 0 7 1

まつ(松まつ・古川/横山) → 花讃女(かざめ・古川/横山、俳人) C 1 5 0 6

まつ(・小宮山) → 嫁々(かか・節松おまつ・管江妻、狂歌) 1 5 0 3

J4066 浚明(まつあけ/まつあきら・山岡やまおか、景熙男/本姓；大伴)1726?-8055? 幕臣；1737遺跡嗣；450石、  
1749西丸小姓組/小普請組、国学者；1759賀茂真淵門、1771隠居/上方で瘡疾により没、  
和漢学に精通/古典の校勘考証、歌・狂歌・戯作を嗜む、「紫のゆかり」「万葉集考」、  
「類聚名物考」編/「源氏物語逸文考」「示蒙抄」「武蔵志料」「文のしをり」「以呂波字類」編、  
「筆のまゝ」「擁書漫筆」、戯著「逸著聞集」、1749洒落本「跣婦人伝せきふじんでん」(泥郎子名)、  
1762「神楽佐伊波良考」64「伊香保の口すさみ」71「腹切考」78「文の栞」「都之手振」外著多数、  
[粹じゃ粹じゃといへど 来ぬが粹なり](廓へ来ないのが粹；跣婦人伝)

[浚明の字/通称/号]字；子亮、通称；千次郎/源右衛門/佐次右衛門

号；泥郎子/盃簪楼こうしんろう主人/梅橋散人/武庫散人/澹斎たんさい/山隠/大伴宿弥/ともの宿禰、  
剃髮号；明阿みょうあ/明阿弥/明阿弥陀仏、狂名；大蔵千文おおくらのせんもん、法号；梅橋院、景躡の父

末員(まついん/すえかず・亀田/春木) → 房光(ふさみつ・春木/度会、神職/国学) C 3 8 2 7

J4016 松歌(初世まつうた)?- 1830 江戸の武士?/雑俳；川柳作者、  
「誹風柳多留二六篇」初見、五六・七二・七三・七四・七篇で評者、  
没後；1833追福会(息松歌二世の催)、



[きめ所をきめて年増は静しずか也](柳多留;二九)

J4019 **松歌**(2世まうた、松哥、別号;武隈楼、初世男)?-? 1846存 江戸の雑俳;川柳作者、能書家、  
「誹風柳多留」一二八・一五五・一五八・一六〇・一六四篇で評者、

1831「元祖川柳肖像」に川柳の辞世・礪川の句賛など染筆、1845初音会参(新編柳多留)、  
[あとけなさいいつから表盆ざんす](柳多留;一二八)

J4067 **松浦検校**(まうらげんぎょう) ? - 1822 京の音曲家/箏の名手/上方歌;手事物を作曲

末盈(まつえい・福井) → 末盈(すえみつ・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 6 8

末盈(まつえい・吉澤) → 末盈(すえみつ・吉澤よしざわ/度会、国学) J 2 3 3 9

末栄(まつえい・一柳) → 末栄(すえなが・一柳ひとつやなぎ、藩主) H 2 3 9 4

末益(まつえき・吉野) → 末益(すえます・吉野よしの、神職) F 2 3 6 4

R4083 **松江子**(まつえこ・花安はなやす、) 1762-179635 京の歌人/能書家、

[松江子(;通称)の名/通称]名;好子、号;歌津女

松衛門(まつえもん・西野) → 泰定(やすさだ・西野にし、藩士/記録) B 4 5 4 0

松右衛門(まつえもん・中西/天野) → 玄隆(げんりゅう・中西、医者/俳人) M 1 8 8 9

松右衛門(まつえもん・永井) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1

松右衛門(まつえもん・土田/永井) → 星岬(せいこう・永井ながい/土田、俳人) I 2 4 1 2

P4024 **松雄**(まつお・楊井やない、通称;勝三郎)?-? 江中後期;長門萩藩士、国学者歌人、

小笠原流礼法家;射礼に精通、静間三積みさか・岸御園みその師、

[風すさぶまがきの竹の節の間のいとゞ短き夏の夜の夢]([萩の歌人]入)

T4010 **松男**(まつお・村上むらかみ/本姓;源、) 1835-8551 近江大津の国学者/歌人;八田知紀門、

三条家家侍、歌;[鳩のうみ]入、

[松男(;名)の初名/通称/号]初名;義質、通称;大和介、号;四琴斎/相宜亭

T4085 **松岡**(まつおか・渡辺わたなべ、疋田重陽女) 1724-52早世29 父は出羽庄内藩家老、渡辺家に嫁ぐ、

歌人、才女と称される、疋田進修しんしゅうは姉の夫

P4088 **松岡**(まつおか・佐藤さとう、通称;琢蔵) 1820-8768 陸奥名取郡の地役人;名取郡吏、国学者

松岡(まつおか → しょうこう・豊田) → 松岡(しょうこう・豊田、藩儒/史書編纂) M 2 1 6 4

末雅(まつが・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5

松垣内(まつがいち・飯塚) → 久敏(ひさとし・飯塚、国学/歌人/教育) B 3 7 5 3

松垣内(まつがいち・岡原) → 常島(つねしま・岡原おかはら、神職/国学) F 2 9 4 6

L4025 **松枝**(まつがえ;組連) ? - ? 江戸麻布四千堂の雑俳;川柳の組連、

取次;1759・60・61・62・70「川柳評万句合」64「東馬評万句合」70「麟舎評万句合」入、

取次例;[しわくちやな手を美しい手に引かれ](61川柳万句合/前句;ありがたいこと々)、

(志賀寺上人の恋の逸話) → 志賀寺上人(しがでらしょうにん) M 2 1 1 3

松枝(まつがえ・黒沢) → 敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) W 2 6 8 2

P4063 **松蔭**(まつかげ・小林こばやし、旧姓;竹田)?-1855 信濃埴科郡の神職;信濃小諸の鹿島神社祠官、

国学;本居大平門、

[松蔭(;名)の別名/通称/号]別名;秀倉/重香、通称;真栄、号;松年

松蔭(まつかげ・入谷) → 入谷松蔭(いりやのまつかげ、狂歌) I 1 1 7 6

松蔭の屋(まつかげのや) → 元義(もとよし・中津なかつ、国学者) E 4 4 7 5

松蔭屋(まつかげのや) → 大枝(おおえ・業合なりあい、神職/国学) B 1 4 7 0

松蔭廼舎(まつかげのや) → 千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人) M 2 8 6 8

松風(まつかぜ・峯) → 峯松風(みねのまつかぜ、榊原男依、狂歌) F 4 1 5 3

松風(まつかぜ・徳山) → 玉瀾(ぎょくらん・徳山、町、大雅妻、絵師/歌人) P 1 6 4 0

松か根(まつがね・田島) → 仲道(なかつみち・田島たじま、神職/国学) N 3 2 5 9

J4068 **松川勾当**(まつかわこうどう) ? - ? 地唄(上方歌)三弦/「琴線和歌の糸」安永勾当と共編;1751刊

松貫四(初世まつかんし) → 貫四(初世かんし・松、浄瑠璃作者) D 1 5 8 4

松貫四(2世まつかんし) → 貫四(2世かんし・松、浄瑠璃作者) D 1 5 8 5

04054 **松樹**(まつき・岡崎おかざき、通称;才蔵) 1817-8165 紀伊日高郡の国学者;本居内遠・能代繁里門

末起(まつき・福井) → 末起(すえおき・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 6

D4081 **眞継**(まつぎ・大中臣おなかとみ、姓かばね;朝臣、宮主男)?-807 平安前期の神職/803大神宮司/正八上、

- 804「皇太神宮儀式帳」「太神宮儀式帳」、「伊勢太神宮禰宜謹解申儀式并年中祭行事事」
- D4082 **眞継**(まつぎ・矢田部やたべ、通称;白石先生)?-? 平安前期廷臣;右衛門督/851頃出家、  
紀長谷雄きのせお「紀家集きけしゅう」に「白石先生伝」がある
- L4034 **松菊**(まつぎく;組連) ? - ? 江中期江戸青山の組連、  
取次;1737「雲鼓評万句合」入、  
取次例;[黒主はいけづうづうと洗はせて](万句合/前句;しづくもしらぬ顔がにくいぞ)、  
(謡曲「草子洗小町」;洗うと書込の墨が流れ小町の勝)
- 松菊(まつぎく・蜂須賀) → 斉裕(なりひろ・蜂須賀はちすか、藩主/歌人) I 3 2 0 8  
松吉(まつきち・内藤/井上) → 清直(きよなお・井上いのうえ、幕臣/奉行) Q 1 6 0 2
- J4069 **末矩**(まக்கு) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」1句入、  
[なびきあふ竹をくだにや糸柳](犬子集;一270/管は機織の緯よいとを巻きおく竹の道具)
- J4070 **眞嗣**(眞継まつぐ・大橋おほし) 1764-? 1830存 京の歌人;11823「我身のため」校、「和歌名所集覧」撰、  
「伊勢詣」著、  
[眞嗣(眞継;名)の通称/号]通称;要介/要助、号;祖述/無極庵
- 末偶(末耦まつぐ・荒木田) → 末偶(すえとも・荒木田/菊家・菊屋/益谷、神職/歌) B 2 3 2 8  
末継(まつけい・小野) → 末嗣(末継すえつぐ・小野、廷臣/詩人) B 2 3 8 4  
末経(まつけい・福井) → 末経(すえつね・福井ふくい/度会、神職/国学) J 2 3 1 0  
末景(まつけい・宇多) → 末景(すえかげ・宇多うた、砲術家) F 2 3 3 7  
末敬(まつけい・慶徳) → 訓夫(のりお・慶徳けいとく/度会/村上、神職/歌) I 3 5 3 5  
末慶(まつけい・吉澤) → 末慶(すえよし・吉澤よしざわ/度会、国学) J 2 3 4 0
- J4071 **松子**(まつこ・前田まえだ、別名;松、号;;篠原主計女) 1548-1617尾張海東郡中之島の生、  
父没後1551(4歳)伯母の婚家前田利昌に預けられる/1558(11歳)利家の妻/99利家と死別、  
落飾;芳春院/1600-14徳川家との和議のため家康の人質として江戸住、「東路記」著
- 04010 **松子**(まつこ・小田おだ、金川政文3女)?-? 筑前鞍手郡新北村神官の家の生/歌人  
小田彦蔵茂種の妻
- 松子(まつこ・宮坂) → 道子(みちこ・宮坂みやさか、国学者/歌人) K 4 1 7 2
- J4072 **末光**(まっこう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」1句入、  
[雲切くもぎれはたゞタ立のしわざ哉](犬子集;三900/タ立は太刀を掛る)
- 末光(まっこう・高林) → 末光(すえみつ・高林たかばやし、1800頃伊勢の故実家) F 2 3 6 9  
松五郎(まつごろう・植木屋) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞役者) 1 6 9 5  
松五郎(まつごろう・遠田) → 自延(よりのぶ・遠田とおだ、藩士/書簡) J 4 7 4 2  
松五郎(まつごろう・佐藤) → 懋徳(よしり・佐藤さとう、藩儒) F 4 7 8 8  
松五郎(まつごろう・津軽) → 信明(のぶあきら・津軽つがる、藩主/財政再建) J 3 5 1 0  
松五郎(まつごろう・稲村) → 三羽(みつは・稲村いなむら、幕臣/国学/歌) H 4 1 6 6  
松五郎(まつごろう・林/鹿島) → 芳宗(初世よしむね・歌川/林/鹿島、絵師) H 4 7 6 2  
松五郎(まつごろう・香川) → 景敏(かげとし・香川かがわ、歌人) U 1 5 1 2
- J4073 **末昆**(まக்குん) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」入、  
[待つに遅き花はすね木の心かな](犬子集;二368/遅咲桜;拗ね木は拗ね気を掛ける)
- 松崎僧都(まつさきそうず) → 永慶(えいけい;法諱、平安期天台僧) C 1 3 6 4  
松三郎(まつさぶろう・遠山) → 景賢(かげかた・遠山とおやま、幕臣) K 1 5 8 5  
松三郎(まつさぶろう・山田) → 東海(とうかい・山田、藩士/儒者/国学) B 3 1 9 5  
松三郎(まつさぶろう・頼) → 春風(しゅんぷう・頼らい、儒者/医者/詩) K 2 1 4 2  
松三郎(まつさぶろう・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8  
松三郎(まつさぶろう・中里) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5
- J4074 **末山**(まっさん;道号・通松つうしょう;法諱) 1791-1857肥前長崎の黄檗僧;雷震眞安門、  
1821長崎興福寺で嗣法/興福寺21世、1840遠州瀬戸村の宝林寺20世、1853退隠、  
「初山末山禅師語録」「初山余稿」著
- 末枝(まつし・源) → 末枝(すええだ・源みなもと、歌人) L 2 3 1 6  
末嗣(まつし・小野) → 末嗣(末継すえつぐ・小野、廷臣/詩人) B 2 3 8 4
- J4075 **松茂**(まつしげ・谷たに、良八男) 1800-41家は代々美濃大垣の印判彫刻業判木屋、

和算家;尾張の水野政和・北川孟虎門、美濃飛騨に和算盛行;藩主より褒賞を受、門弟多数、  
1827「綴術新意」31「幽斎算約初編」40「幽斎一派額面題」、「谷子算法」「算法三秘術」著、  
「新撰側円通汎式」「量地算法」外著多数、清水政英・土屋信義・信篤らの師、  
[松茂(;名)の字/通称/号]字;士好、通称;次郎八、号;幽斎、法号;大道虚玄居士

松茂(まつしげ・稲村) → 山海(さんかい・稲村いなむら、俳人) L 2 0 9 0

- J4076 松下禅尼(まつしたぜんに、秋田城介安達景盛女)?-? 北条時氏(執権泰時長男/1203-30)の室、  
4代執権経時(1224-46)・5代執権時頼[1227-63]の母、1230(寛喜2)夫28歳で病没;出家、  
1260(文応元)父景盛(入道覚智)第3追福の施主、夫の没後30  
障子張の倭約:時頼薫育説話(徒然草184段などに入)

末質(まつしつ・福井) → 末質(すえかた・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 8

松島漁隠(まつしまぎょいん) → 巴山(はざん・高橋、儒者) E 3 6 3 3

- J4077 松島検校(まつしまけんぎょう) ? - ? 大阪の地唄三絃の名手、

1812「増補大成糸のしらべ」校訂;津山検校らと

松島上人(まつしましょうにん) → 見仏(けんぶつ:法諱、僧/歌人) C 1 8 9 8

松島聖(まつしまのひじり) → 見仏(けんぶつ:法諱、僧/歌人) C 1 8 9 8

松島屋(まつしまや:屋号) → 仁左衛門(にざえもん・片岡、歌舞伎役者)

末守(まつしゅ・紀) → 末守(すえもり・紀き、廷臣/詩人) B 2 3 5 3

末寿(まつじゅ・菊屋/益谷) → 末寿(すえほぎ・益谷/荒木田/菊屋、神職/国学) B 2 3 4 3

末寿(まつじゅ・荒木田、菊家) → 末寿(すえほぎ・荒木田/益谷、国学) B 2 3 4 3

末寿(まつじゅ・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5

松十郎(まつじゅうろう・藤村) → 光鎮(みつね・藤村おじむら/篠崎、国学者) K 4 1 3 7

末昭(まつしょう・吉野) → 末昭(すえあき・吉野よし、神職) F 2 3 3 3

末彰(まつしょう・榎倉/福井) → 端隠(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻) T 2 6 1 5

松次郎(まつじろう・畑中) → 光輝(みつてる・畑中たなか、歌人) D 4 1 9 6

松次郎(まつじろう・吉田) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7

松二郎(まつじろう・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5

松二郎(まつじろう・樋口/天川屋) → 紀綱(のりつな・樋口ひぐち、商家/儒/歌) J 3 5 7 8

松二良(まつじろう・中川) → 経竿(つねのり・中川ながわ、神職/国学) G 2 9 0 5

松代の三山(まつしろのさんざん);信州松代藩士で「山」のつく3人のすぐれた儒者/常山・象山は桐山門

→ 桐山(とうざん・鎌原かんばら、1774-1852) E 3 1 6 2

→ 常山(じょうざん・山寺やまでら、1808-78) N 2 1 1 1

→ 象山(しょうざん/ぞうざん・佐久間、1811-64) N 2 1 0 4

末眞(まつしん・車館) → 末眞(すえまさ・車館くるまだて/和田、神職/茶人) F 2 3 6 3

末晨(まつしん・福島) → 末晨(すえあき・福島ふくしま/度会/亀田、神職) J 2 3 1 3

松助(まつすけ・葦田) → 友興(ともおき・葦田あしだ、武将/連歌) P 3 1 2 4

松助(2世まつすけ・尾上) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5

松助(松輔まつすけ・近松) → 千葉軒(せんようけん・近松、浄瑠璃・歌舞伎作者) G 2 4 7 3

松輔(まつすけ・新堀;変名) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9

末成(まつせい・平野) → 末成(すえなり・平野ひらの、俳人) H 2 3 7 8

末清(まつせい/すえきよ・福井) → 公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職) M 1 6 0 2

末清(まつせい・生田) → 末清(すえきよ・生田いくた、俳人) H 2 3 3 5

末晴(まつせい・梅谷) → 末晴(すえはる・梅谷うめたに/荒木田/岡田、国学) I 2 3 1 2

末洗童(まつせんどう) → 心操(しんそう・玉井たまゐ、俳人) P 2 2 1 8

- J4078 松蔵(まつぞう・河竹かわたけ) ? - ? 歌舞伎作者:1781治助「四天王宿直着綿」番付

松蔵(まつぞう・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まさ、詩人) Q 2 1 1 3

松蔵(まつぞう・中尾) → 長秋(ながあき・中尾ななお、国学/歌人) O 3 2 0 2

末代の幸人(まつだいのこうじん) → 資長(すけなが・日野/藤原、如寂、廷臣) C 2 3 6 2

松足(まつたり・小林) → 忠明(ただあき・小林こばやし、陪臣/歌人) X 2 6 0 0

松太郎(まつたろう・菅) → 政友(まさとも・まさすけ・菅かん、儒/国学者) E 4 0 7 8



- 松太郎(まつたろう・中山) → 豊正(とよまさ・中山/丹治部、歌人) R 3 1 6 0  
 松太郎(まつたろう・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5  
 松太郎(まつたろう・吉田) → 秋安(あきやす・吉田よしだ、国学者) I 1 0 7 9  
 松太郎(まつたろう・今村) → 信行(のぶゆき・今村いまむら、国学者) H 3 5 4 5  
 松太郎(まつたろう・白井) → 巖(いわお・白井しらい/原、神職/国学) K 1 1 3 2  
 松千代(まつちよ・賀茂) → 元久(もとひさ・賀茂かも、神職/連歌) D 4 4 9 7
- U4018 **松千代妻**(まつちよのつま・有馬ありま、糸姫、松平讃岐守頼重女) 1653-1701 49 母; 万姫(土井利勝女)、  
 歌人/筑後久留米藩主有馬頼利(松千代/1652-68)の室、夫は17歳で没(毒殺説あり)、  
 法号; 青涼院、歌; 了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
 [有り明の月は枕にありながら恋しき人の影はとまらず](若むらさき; 120/涙に映る月)  
 読人しらずの[松千代みまかりける時]の哀傷歌;  
 [有馬山いなさゝ原置く露の風にとまらぬ人ぞ恋しき](同; 119)
- J4079 **末長**(まつちよう) ? - ? 伊勢山田の俳人; 1633重頼「犬子集」1句入、  
 [松笠の緒をか花ぶさのさがり藤](犬子集; 二569/松笠にかかる下り藤を笠の緒に見立)  
 末肇(まつちよう・丸岡) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書) S 4 0 7 8
- J4080 **末直**(まつちよく) ? - ? 伊勢山田の俳人; 1633重頼「犬子集」1句入、  
 [冬咲くは季違ひもよい梅の花](犬子集; 六1360)  
 松戸庵(まつどあん) → 和国(わこく・壺声庵、商家/川柳作者) 5 3 7 7
- S4024 **松年**(まつとし・福住ふくずみ、清風男) 1799-1856 58 信濃飯田の商家; 飯田藩御用達、  
 国学・歌人; 父門、  
 [松年(;)名)の別号/通称]別号; 秀貞/利貞/入香/春年、通称; 四郎三郎/喜三郎(父の称)
- L4046 **松友**(まつとも・田原たはら) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [あさる野飼麦負あうふせ鳥となん読めり](難波色紙; 85/餌をあさる野飼い牛、  
 古今伝授の「稲負ふせ鳥」は馬/ここは牛を「麦負ふせ鳥」と洒落る)  
 松殿(まつどの) → 忠嗣(ただつぐ・藤原、大納言/歌人) F 2 6 2 8  
 松殿関白(まつどのかんぱく) → 基房(もとふさ・藤原、摂政・関白/歌人) E 4 4 2 0
- U4011 **松殿大納言入道女**(まつどのだいながんにゅうどうのむすめ、松殿忠嗣ただつぐ[1297-1377]の娘) ?-? 南北期の歌人、  
 1400[菊葉集]4首入、  
 [九月十三夜人々歌よみけるついでに、  
 名にしおふ二夜の月も今夜こそことわりしるき光なりけり](菊葉; 秋600)
- J4081 **眞綱**(まつな・さねつな・和気け、清麻呂男) 784-846 63 廷臣; 文章生/803内舍人/治部少丞/中務少丞、  
 春宮大進/民部大輔/刑部大輔/右大弁など歴任/840参議、842左衛府で承和の変を推勘、  
 兄広世と神護寺を創建; 最澄・空海を招聘、仲世の兄、詩; 経国集入
- J4082 **眞維**(まつな・松野まつの、通称; 広蔵) 1837-1910 74 淡路洲本の廻船問屋/漢学; 岡田南陽門、  
 国学; 萩原広道門、書家・歌人、維新後: 教部省出仕/のち神職; 金比羅宮宮司/国上神社宮司、  
 晩年大阪に住、「国学六家手翰」著  
 松苗(まつなえ・西尾/岩垣) → 東園(とうえん・岩[巖]垣/源、儒者) B 3 1 4 9
- J4083 **松根**(まつね・古川ふるかわ、初名; 德基、儒綱男) 1813-71 殉死 59 歳 佐賀藩士/藩主鍋島直正の近習、  
 直正葬儀後殉死、母; 刀工橋本忠吉女、刀剣鑑定/国学/歌; 景樹門/書画/焼物図柄、  
 家集「檜廼落葉」、「小車集」編、「初夢合」「嵯峨のしをり」「楽譜」著、  
 [松根(;)名)の通称/号]通称; 英次/与一、号; 檜園/寧楽園ならぞの/霞庵/霞廼屋
- J4084 **松根**(まつね・村山むらやま/木村、別号; 時澄、樺山資満男) 1822-82 61 薩摩鹿児島藩士/国事奔走、  
 国学; 山田清安門/歌; 香川景樹・八田知紀・香川景恒門、霧島神宮少宮司/宮内省出仕、  
 「名のりその花」「忘れ貝」著、  
 [松根(;)名)の通称/号/変名]通称; 三之助/木村仲之丞/斉助/下総/東作、号; 清遠楼、  
 変名; 谷右衛門/北条右門
- S4029 **松野**(まつの・藤井ふじい、高豊[1791-1825]女) 1821-45 早世 26 備中賀陽郡の歌人; 父母門、高尚の孫、  
 母; 美禰みね(1800-41/旧姓; 河野)、吉備津神社宮司の家の子、  
 藤井高雅(たかまさ/たかつね/1819-63暗殺/美禰に養育/吉備津神社社家頭/歌人)の妻

松廼翁(まつのおう) → 耒耜(らいし・中村なかむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2  
 松野勾当(松之-まつのこうとう) → 松軒(しょうけん・後藤、儒者;程朱) R 2 2 3 1  
 松之丞(まつのじょう・藺田) → 守洪(もりひろ・藺田/荒木田、神職) G 4 4 3 9  
 松之丞(まつのじょう・秋山) → 惟祺(これよし・秋山あきやま、幕臣;右筆) O 1 9 9 7  
 松之丞(まつのじょう・北角) → 茂棟(もちかど・北角/鈴木、幕臣/歌人) M 4 4 1 9  
 松之丞(まつのじょう・島崎) → 春景(はるかぜ・島崎しまざき、国学/歌人) K 3 6 2 5  
 松之丞(まつのじょう・篠田) → 惟成(これなり・篠田しのだ、藩士/歌人) Q 1 9 9 0  
 案之亮(松之助まつのすけ) → 忠重(ただしげ・竹林たけばやし、和算家) P 2 6 5 8  
 松之助(まつのすけ・深見) → 有隣(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学) E 4 6 0 9  
 松之助(まつのすけ・戸谷/葛野) → 本因坊丈和(ほんいんぼうじょうわ、棋士) E 3 9 9 8  
 松之助(まつのすけ・亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9  
 松之助(まつのすけ・味池) → 修居(しゅうきよ・味池あじち、儒者) H 2 1 0 7  
 松之助(まつのすけ・藤江) → 梅軒(ばいけん・藤江みじえ、藩儒者/詩文) B 3 6 0 9  
 松之助(初世まつのすけ・岩井) → 半四郎(7世はんしろう・岩井いわい、歌舞伎役者) I 3 6 0 6  
 松之助(まつのすけ・武田) → 泰信(やすのぶ・武田たけだ、藩士/泳法) C 4 5 5 9  
 松之助(まつのすけ・三輪) → 茂興(しげおき・大神おおが/大三輪、神職) N 2 1 7 3  
 松之助(まつのすけ・公地) → 美能理(みのり・大原おおはら/公地、国学/歌) I 4 1 4 9  
 松之助(まつのすけ・新庄) → 直政(なおまさ・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 1  
 松之助(まつのすけ・山中) → 直興(なおおき・山中やまなか、商家/和学者) P 3 2 2 1  
 松之助(まつのすけ・加藤) → 称平(みつひら・加藤かとう、商家/志士/歌) I 4 1 6 4  
 松之助(まつのすけ・栗田) → 千嶺(せんれい・栗田くりた、商家/歌人) O 2 4 1 0  
 松之助(まつのすけ・円尾) → 鶴雄(つるお・円尾まるお/藤田、国学/商家) G 2 9 4 2  
 松之助(まつのすけ・佐々木) → 高行(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学) X 2 6 1 7  
 松之助(まつのすけ・中山) → 久章(ひさあき・中山なかやま、歌人) K 3 7 3 9  
 松之助(まつのすけ・樋口) → 光信(みつふ・樋口ひぐち/源/北原、国学/銀行家) K 4 1 1 9  
 松戸(まつのと) → 曙覧(あけみ・橘/正玄、商人/国学/歌) 1 0 1 4  
 松廼戸(まつのと) → 朝平(ちょうへい・金丸、俳人) J 2 8 7 9  
 松乃門三草子(まつのとみさこ) → 美佐子(みさこ・小川おがわ、芸妓/歌人) H 4 1 6 6  
 松宣(まつのぶ・半井) → 和年(わねん・半井なからい、俳人) 5 3 5 5

K4091 松藤浪(まつのふじなみ) ? - ? 狂歌: 1787「狂歌才蔵集」入; 447/529、  
 [寄詩人恋 今こんとかたう約束ある門を推すか敲くか君が心は](才蔵集; 十一447)

松の本(まつのもと・岸田) → 素屋(そおく・岸田きしだ、町役人/俳人) J 2 5 3 3  
 松の本(まつのもと・石井) → 長寿(ながひさ・石井いしい、村役/歌人) L 3 2 1 3  
 松屋(まつのや) → 与清(ともしよ・小山田/高田、国学/歌) 3 1 6 0  
 松屋(松廼屋まつのや、歌人) → 正古(まさひさ・菊池きくち、医者/教育) G 4 0 6 2  
 松舎(まつのや) → 鶴彦(つるひこ・三橋、歌人; 魚貫門) E 2 9 6 6  
 松舎(まつのや) → 安輝(やすてる・三浦みうら、藩士/歌) G 4 5 7 8  
 松舎(まつのや) → 紀孝(のりたか・島村しまむら、商家/国学) I 3 5 7 0  
 松舎(まつのや) → 重方(しげかた・中柳なかやぎ、陪臣/歌人) Z 2 1 5 8  
 松舎(まつのや) → 為質(ためただ・山中やまなか、藩士/歌人) 2 7 1 8  
 松舎(まつのや) → 正方(まさかた・向山むこうやま/源、藩士/歌) T 4 0 0 5  
 松舎(まつのや) → 良運(よしかず・吉井よいし、神職/歌人) Q 4 7 0 4  
 松ノ屋(まつのや) → 師淳(もろきよ・大中正臣おおなかとみ/西、神職) H 4 4 1 9  
 松の屋(まつのや) → 直紀(なおのり/なおき・安藤あんどう/内藤、藩士/歌人) K 3 2 9 2  
 松の屋(まつのや) → 陸夫(みちお・林はやし、国学/歌人/軍人) K 4 1 1 4  
 松の舎(松屋まつのや) → 高尚(たかなお・藤井/大中正臣、神職/歌学) 2 6 1 3  
 松の舎(まつのや) → 定輔(さだすけ・野宮/藤原/中院、権中納言/和漢学) I 2 0 3 0  
 松の舎(まつのや) → 常島(つねしま・岡原おかはら、神職/国学) F 2 9 4 6  
 松の舎(まつのや) → 利亮(としすけ・酒井さかい、医者/歌人) V 3 1 3 4  
 松の舎(まつのや) → 保信(やすのぶ・栗原くりはら/源/長坂、名主/国学) F 4 5 8 6

松の家(まつの家)	→ さゝを(鎮盈ささお・小沢こさわ/山川、藩士/俳人) H 2 0 4 5
松の家(まつの家)	→ 列根(つらね・小沢、さゝを男/藩士/俳人) E 2 9 4 3
松之舎(まつの家)	→ 頼道(よりみち・芝しば/井上、国学/歌) N 4 7 3 0
松廼舎(まつの家)	→ 魚貫(なつら・神山かみやま、歌人) G 3 2 7 4
松廼舎(まつの家)	→ 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人) T 1 5 7 0
松廼舎(まつの家)	→ 公俊(きみとし・緒方おがた/内田/大神、神職/国学) T 1 6 7 3
松廼舎(まつの家)	→ 忠成(ただなり・本庄ほんじょう/源、国学/歌) Z 2 6 4 3
松廼舎(まつの家)	→ 順子(じゅんこ・吉川きつかわ/木下、歌人) O 2 1 2 7
松廼家(まつの家)	→ 公庵(こうあん・滝沢たきざわ、医/本草/歌) H 1 9 2 6
松廼屋(まつの家)	→ 盛隆(もりたか・黒川、藩士/国学/歌人) F 4 4 5 9
松廼屋(まつの家)	→ 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2
松廼屋(まつの家)	→ 久敏(ひさとし・飯塚、国学/歌人/教育) B 3 7 5 3
松廼屋(まつの家)	→ 稻麿(いなまろ・西尾にしお、農家/国学者) D 1 1 7 0
松廼屋(まつの家)	→ 耒耜(らいし・中村なかむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2
松廼屋(まつの家)	→ 素郷(そきょう・小野、商家/俳人/謡曲) D 2 5 4 8
松廼屋(まつの家)	→ 与叔(ともよし・小山田/高田、国学/歌) T 3 1 8 2
松廼屋(まつの家)	→ 元孝(もとたか・山本やまもと、国学者/歌人) L 4 4 8 3
松廼屋(まつの家)	→ 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2
松廼家(まつの家)	→ 峻徳(しゅんとく・三枝さいぐさ、藩医/教育) L 2 1 6 8
松廼家(まつの家)	→ 三千矛(みちほこ・本間ほんま、国学/歌人) K 4 1 4 4

L4026 **松ば**(まつば;組連) ? - ? 江戸神田橋の雑俳/川柳の組連/取次、  
取次;1748「筑丈評万句合」入;

取次例;[血の道と思ひながらもおそろしい](1748前句;忘られもせず忘られもせず)、  
(平生しとやかな奥様の逆上狂乱の姿におびえる奉公人の気持ち)

L4027 **まつば**(;組連) ? - ? 江戸青山久保町/赤坂表伝馬町二丁目の川柳の組連/取次、  
取次;1761・62・67・68・70「川柳評万句合」入/70「麟舎評万句合」入、取次例;  
[可愛あいいといつそ憎いを胴どふに突き](1761川柳万句合/前句;尤もな事々々)  
(胴に突くは年末大掃除後に行う恒例の胴上げ)、  
(若い衆に狙われるのは可愛い下女と憎まれ役の乳母など/川柳評万句合)、  
[ここはのやおれがうちだと姑しうとばゞ](麟舎評/のやは終助詞なあ/じわりと嫁いびり)

松橋大僧都(まつはしのだいそうず)	→ 元海(げんかい;法諱、真言僧) I 1 8 1 1
松葉姫(まつばひめ)	→ 理慶尼(りけいに、武田勝頼乳母/記録) 4 9 9 3
松葉法師(まつばほうし)	→ 行円(ぎょうえん、二階堂行宗、幕臣/歌人) C 1 6 2 6
松原庵(まつばらあん)	→ 星布(せいふ・松原庵しょうげんあん2世、俳人) C 2 4 9 0
末美(まつび・福島)	→ 末美(すえよし・福島ふくしま/谷田、神職) J 2 3 1 5
松彦(まつひこ・谷森)	→ 善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者) C 4 7 4 2
松姫(万津姫まつひめ・徳川)	→ 明子(あきこ・南部、徳川斉昭女/歌人) D 1 0 3 6

J4085 **末武**(まつぶ) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」1句入、  
[天あまの戸をあけつたてつの霞哉](犬子集;一208)

松平(まつへい)	→ 耳鳥斎(にちようさい、絵師) D 3 3 5 3
松兵衛(まつべゑ・松島)	→ 段二(だんじ・松島、2世笠縫専助、歌舞伎作者) I 2 6 2 6
松丸(まつまる・磯野)	→ 正郎(まさお・磯野いその、歌人/禅学) N 4 0 6 3

J4086 **松麻呂**(まつまろ) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、  
[憎くや蚊の妻戸の団うちは紋付もんつけし](新撰都曲;下414)

J4087 **末満**(まつまん・泉いずみ) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」1句入、  
[苗代なほろをせむる蛙のいくさ哉](犬子集;二588/代は城を掛る)

末茂(まつも・紀)	→ 末茂(すえしげ・紀き朝臣、廷臣/詩) B 2 3 1 6
末茂(まつも・福島)	→ 末茂(すえしげ・福島/度会、神職/詩) B 2 3 1 7
末也(まつや・高嶋)	→ 末也(すえなり・高嶋たかしま、俳人) H 2 3 3 6
松弥(まつや・堀)	→ 参禎(かずただ・堀ほり、藩士/家老/国学) V 1 5 6 6



- 松屋(まつや) → 宗輔(そうすけ・並木、千柳、浄/歌伎作) 2 5 1 2  
 松屋(まつや) → 百合[女](ゆり[じょ]・木村、歌人) G 4 6 1 6  
 松屋(まつや) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学者) 3 1 6 0  
 松舎(まつや) → 鶴彦(つるひこ・三橋みつはし、歌人) E 2 9 6 6  
 松屋伊兵衛(まつやいへ) → 庭雨(ていう・潤樹亭、狂歌) 3 0 3 2  
 松屋平三郎(まつやへいざぶろう) → 耳鳥斎(にちょうさい、絵師) D 3 3 5 3  
 松山(まつやま・狂名) → 静山(せいざん・松浦、藩主/詩歌) B 2 4 7 6
- J4088 末祐(まつゆう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」3句入、  
 [歌や舞まひ蝶てふ鶯のげいくらべ](犬子集;一192)  
 待宵の小侍従(まつよいのこじゆう) → 小侍従(こじゆう・大宮、歌人) C 1 9 7 7  
 まつら(マツラ;狂名) → 熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革) H 3 7 4 5
- J4089 松浦佐用媛(まつらさよひめ) ? - ? 大伴狭手彦(佐提彦)の妻、  
 万葉集五;領巾振ひれふり伝説歌868-83注、肥前風土記にも入、  
 渡海する夫を慕い鏡山から領巾を振り悲しみのあまりそのまま石になったという  
 → 弟日姫(乙日姫おとひひめ、肥前風土記) D 1 4 2 9
- U4029 松浦の仙女(まつらのせんによ) ? - ? 万葉集五;853「松浦川に遊ぶ序」以下歌群に登場する娘ら、  
 大伴旅人?の創作(神功皇后の新羅征討成否を占う女達の釣る吉兆の鮎の伝説に因む)  
 [玉島のこの川上に家はあれど君をやさしみ表あらはさずありき](万葉;854)外3首  
 祭和樽(まつりのわたる) → 鈍々亭和樽(どんどんていわたる、髪結/狂歌) S 3 1 4 6  
 未了(まつりょう;法諱) → 虚庵(きょあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8  
 末良(まつりょう・藤井) → 末良(すえよし・藤井ふじい、神職/国学) J 2 3 1 7
- J4090 眞鶴(まつる・山本やまもと) ? - 1840 江戸後期歌人;無極庵眞嗣(大橋眞継)門/のち松園門、  
 「山の辺の小草」著
- U4013 松若(まつわか・仁和寺) ? - ? 鎌倉期;仁和寺眞乗院の童/歌人、  
 1237刊[檜葉集]入;同院の童の千手王・薬師と共に入集、  
 [詞書;千手王せんじゅおうの歌に同じ、  
 わかの浦のなみにおりたつかひぞなき拾へる玉の数ならぬ身は](檜葉;雑童715)  
 万里小路(までのこうじ) → 公基(きんもと・西園寺、右大臣/歌) E 1 6 7 8  
 万里小路殿(までのこうじどの) → 後宇多天皇(ごうだてんのう、歌人) B 1 9 6 5  
 万里小路大臣(までのこうじのおとど) → 在衡(ありひら・藤原、廷臣/詩人) C 1 0 8 2  
 万里小路右大臣(までのこうじうだいじん:続拾/新後撰/玉葉) → 公基(きんもと・西園寺、歌人) E 1 6 7 8  
 万里小路局(までのこうじのつばね) → 壽賀(すが・万里小路/池尻、大奥老女) J 2 3 2 4  
 馬刀之助(までのすけ・中屋/木下) → 光忠(みつただ・木下きのした、商家/歌人) I 4 1 7 9  
 麻田(までん・松岡) → 政之助(まさのすけ・周布すふ、藩政改革) F 4 0 4 8  
 円居(まどい・大友) → 大友円居(おおとものまどい、狂歌) C 1 4 0 9
- T4086 円(まどか・渡辺わたなべ、) 1819 - 190183 阿波徳島の国学者
- 04025 円(まどか・大石おおい) 1829 - 191688 土佐香美郡の国学者・歌人;鹿持雅澄門、  
 1861(文久元)藩命で江戸に洋学研究;勝海舟に入塾、武市瑞山と交流し志士として活動、  
 1863土佐勤王党を率いる瑞山が投獄;その救出のため助命嘆願に尽力するが不成功、  
 戊辰戦に土佐藩兵を指揮;参謀・小目付として活動、維新後新政府出仕;伊勢神宮司庁出仕、  
 致仕後;自由民権運動高まりのなか旧郷士の保守派グループ古勤王党で活動/のち易学者、  
 [円(;名)の別名/通称]初名;元敬、通称;弥太郎  
 円(まどか・小林) → 退結(たいけつ・小林、兵法家/水軍研究) J 2 6 8 0  
 円(まどか・清水) → 羽長(うちよう・清水しみず、名;円) D 1 2 1 5  
 円(まどか→まどし・泉) → 円(まどし・泉いずみ、商家/国学/歌) J 4 0 9 1  
 規(まどか・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
- J4092 円方(まどかた/えんほう・村上むらかみ) 1769-182355歳 伊勢松阪の国学者;本居宣長門/歌を嗜む、  
 摂津伊丹に移住、国学を教授、「倭文舎集」著、「万葉集賤夫撰」編/1813「万葉集類葉鈔」著、  
 「万葉集類葉抄長歌之部」編、中村良臣・鶴嶺戊申しげのぶの師、  
 歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌1首入、

[円方(；名)の別名/通称・号]別名；榮亮/有行/潔夫さやけお、通称；吉太郎/三介、  
号；倭文舎しづのや、法号；円鏡慈照居士

- J4093 **円方女王**(まどかたのおおきみ、長屋王[675/683-729]女)?-774 729父長屋王の変/従五下/737従四下、  
763正四上/764従三位/768正三位、母；吉備内親王(草壁皇子女)、万葉四期歌人；廿4477、  
[夕霧に千鳥の鳴きし佐保道ちをば荒しやしてむ見るよしをなみ](万葉集；廿4477)、  
(智努女王ちぬのおおきみへの挽歌/佐保道は智努女王宅へ通った道であろう)
- K4086 **眞年**(まとし・稲次いねづぐ、字；子音/号；錦江)1796-1830<sup>35</sup> 上総木更津の薬種商；豪商、  
国学/歌人；岡田真澄門、詩文・書も能くす、歌人稲村いなむら喜勢子きせこの弟、  
1830(文政13閏3月)陸奥松島の旅先で客死
- J4094 **眞年**(まとし・鈴木すずき、甚右衛門[今井惟岳]男)1831-94<sup>64</sup> 江戸神田旅籠町の煙草商橘屋の生、  
1847(弘化4)病弱で紀州熊野本宮で静養；竹亭と号；49「御三卿系譜」「古代来朝人考」著、  
1849(嘉永2)江戸帰郷；旗本家臣の娘と結婚；離婚/家督を弟広吉に譲渡；上野奥山に出家、  
剃髪；不存の号/1858(安政5)父没；還俗/源牟知良と改名・新田愛民と号す、御嶽教に入門、  
1860(万延元)上総久留里藩医安西一方女の信子と結婚、上総大多喜藩に出仕、  
御嶽教権大教正中教教監に就任、1861故実家栗原信充門；系譜学修学、国学；平田鍊胤門、  
1865(慶応元)紀伊和歌山藩に招聘；藩士となり同藩の系譜編集事業に従事；熊野本宮に住、  
織田家系草稿など諸系譜・諸家譜草稿を著、維新後；士族/1869弾正台・71宮内省に出仕、  
東京帝国大学など歴任、退官後は国学校設立や熊野大社復興に尽力、1894大阪に没、  
[眞年(；名)の通称/号]通称；今井舎人/源牟知良/武知良/鈴木舎人、  
号；松柏/竹亭/不存(；剃髪)/新田愛民、屋号；橘屋、法号；松柏院、  
☆中田憲信のりさねの師(鍊胤の同門)
- J4091 **円**(まとし・泉/和泉いづみ)1773- 1837<sup>65</sup>歳 越後蒲原郡五泉の商家；米商、貧家ながら町年寄就任、  
国学/歌；安田躬弦・清水浜臣・同光房・小山田与清門、城戸千楯・足代弘訓・藤井高尚と交流、  
「泉円長歌稿本」著、遺稿「鄙佐遍豆理ひなさへり」、千秋の兄/久澄の父、  
[円(；名)の幼名/通称/号]幼名；仙松、通称；新平、号；随亭/香木園/千尋園、法号；子方理円  
窓村竹(まどのむらたけ) → 園村竹(そのむらたけ、多田敏包、狂歌) E 2 5 1 7  
窓廼屋(まどのや) → 梅好(ばいこう・2世鶴廼屋つるのや、狂歌作者) B 3 6 1 9
- J4095 **眞虎**(まると・大石おおい、医者小泉隆助男)1792-1833<sup>42</sup> 母；一本亭芙蓉花の女、尾張春日井の生、  
名古屋で絵師；月樵・渡辺周溪門、仏画；吉川一溪門/人物画；西村楠亭門、諸国遍歴、  
のち名古屋に帰る、小泉家は大石良雄の末裔と称し大石姓を名乗る、晩年聾となり発狂、  
「色紙押形古鑑」「本朝鎧色考図解」「百将伝」著/「女小学教草」「張替行燈」画、  
1829「神事行灯」第1編画；書肆東壁堂刊/1829「匳画国風」32「匳画百物」33「女小学」画、  
1833雅嘉「百人一首一夕話ひやくにんいっしゅひとよがり」画、  
[眞虎(；名)の幼名/通称/号]幼名；門吉、通称；吉太郎/小門太/衛門七/寿太郎/順平、  
号；樵谷/軀舎ものや、法号；阿閼遊林  
☆蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入集の[真虎]と同一？  
[には鳥のかつしか小田に立つ鶴つるや君が千年にあはんとすらん](大江戸倭；雑2039)
- J4001 **眞鳥**(まとり・斎藤さいとう、通称；弥一郎)?-? 江後期尾張名古屋の国学者；鈴木腹あきり門/歌人、  
1856「泰平講武兵士物語」著
- Q4073 **眞井**(眞名井まない・高水たかみず、本姓；斎部)1783-1844<sup>62</sup> 伊予桑村郡の氷見神社神官、国学者/歌人、  
[眞井(；名)の通称/号]通称；紀伊守、号；朴翁/楽亭
- S4044 **眞名井**(まない・堀ほり、)1797 - 1880<sup>84</sup> 播磨明石の国学者；入江珍うず・大国隆正門  
眞名井廼舎(まないのや) → 汲元(くみもと・清水しみず、神職/国学) E 1 7 2 3
- P4017 **眞苗**(まなえ・根本ねもと、) ? - ? 江後期；豊後岡藩士、神道・国学者、  
「大祓詞三条弁」著(；大祓詞解説書/大教宣布運動の根本教条[三条教則]の解説書)、  
「鈴屋翁霊祭歌集」共編(7人；三輪義方・猿渡容盛らと)
- J4096 **眞直**(まなお・安倍あべ朝臣)? - ? 平安前期廷臣；806賜姓；朝臣/学者、  
衛門佐従五下兼左大舎人助相模介/808「大同類聚方」撰述/808少納言/809従五上、  
主殿頭兼豊後守/815左少弁

- 正直(まなお・一条) → 正直(まさなお/まなお・一条、藩士/天文) F 4 0 0 5  
 真直(まなお・福田) → 真直(まさなお・福田、旅館経営/国学) S 4 0 2 5  
 真魚尾(まなお・森) → 元温(もとはる・森もり/志貴、神職/尊攘) L 4 4 7 1
- N4081 眞中(まなか・今掘いまぼり、) 1792-1873 82 京建仁寺の住僧/国学者・歌人; 福田美楯門、  
 [真中(;法諱)の通称/号]通称; 一二/喜右衛門、号; 黙痴/向月楼/辰見堂
- J4097 眞中(まなか・小林こばやし、別名; 光直、栗敬男/本姓; 度会) 1838-85 48 伊勢の神職; 外宮別宮物忌職、  
 国学; 足代弘訓・中島広足・平田鉄胤門、和泉流狂言; 父(伊勢志摩狂言取締役)門; 名手、  
 「海人乃佗言」/1868「外宮相殿祭神考」著、  
 [眞中(;名)の通称/号]通称; 好種丸/竜丸/舎人、号; 常葉園とこはのその、
- 中心(まなか・内藤) → 中心(なかご・内藤、国学/歌人) D 3 2 6 3
- J4098 眞長(まなが・矢作部やはぎべ) ? - ? 755 防人/下総結城郡、万葉廿4386、  
 [我が門かつの五本柳いづもとやなぎいづもいづも母おもが恋すす業なりましつしも](万葉; 4386)
- 眞名子(まなこ・矢内) → 千俊(かずとし・矢内やない、国学/歌人) W 1 5 0 1
- J4099 眞夏(まなつ・藤原/日野、藤原内膳男) 774-830 57 日野家の祖/平安前期廷臣; 810 参議/按察使、  
 810 菓子乱で失脚、関雄の父
- K4000 眞縄(まなわ・大戸おおへ) ? - ? 平安前期雅楽の舞人、  
 承和834-848 頃雅楽「胡飲酒こんじゅ」の舞を作る(作曲は大戸おおへ清上?-839)
- 摩尼(まに; 号) → 道一(どういつ; 法諱・漢三かんさん、曹洞僧) B 3 1 0 2  
 摩尼院(まにいん) → 智叡(ちこく; 法諱・法興、修験/真言) E 2 8 1 9
- K4001 間拔安穴(まぬけのあんけつ・本名不詳) ?-? 洒落本: 1781「金枕遊女相談」  
 まぬけ庵不調法師(なぬけあんぶちようほうし) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/図会/雑俳) N 1 6 6 7
- K4002 眞根(まね・物部もののか) ? - ? 755 防人/武蔵橘樹郡たちばなのこおり上丁かみのよほろ、万葉廿4419  
 [家はろには葦火あしふ焚けども住み良よけを筑紫に至りて恋こふしけ思はも](万葉集; 4419)  
 妻も歌人 → 弟女(おとめ・棕椅部) 1 4 9 6  
 磨之助(まのすけ・大草) → 公明(きみあき・大草おおくさ、幕臣/儒官) G 1 6 2 2  
 真野首弟子(まののおびとでし) → 弟子(でし・真野首、伎楽伝承) C 3 0 1 0  
 真萩舎(まはぎのや) → 真坂(まさか・小倉おぐら、商家/国学/歌) O 4 0 0 9  
 眞柱(まはしら・後醍院) → 真柱(みはしら・後醍院ごだいいいん/大河平おこびり、国学/神職) F 4 1 7 1
- K4003 眞婆行(まばゆき・山旭亭さんきよくてい、通称; 藤代屋太兵衛) ?-? 江戸神田名部町の骨董商/戯作作者:  
 1795「わらひ鯉」96「廓寿賀書」著、98「市川白猿口上」編/1804「孔雀染勒記」「五臓眼」外著多、  
 [山旭亭眞婆行(;号)の別号]旭眞婆行/旭間婆行/山旭亭主人/穂並庵のあるじ  
 小金厚丸説あり? → あつ丸(あつまる、狂歌) 1 0 2 3
- K4004 眞榛(まはり・池辺いけべ、医者 of 武右衛門光友男) 1830-1863 獄死 34 阿波徳島の国学者; 萩原広道門、  
 1849 紀伊の本居内遠門、1859 藩主蜂須賀斉裕に招聘され江戸に出仕; 側近に妨害される、  
 帰郷し著述に専念/藩政批判し志士と国事を論ず; 幽閉され7ヶ月後病没、  
 「麻能葉集」「麻能葉草紙」「万葉集示蒙」「朧月夜集」「源氏物語管見」「詠歌沿革概論」著、  
 「大元実義」「類題鳴門集」「類題味凝歌集」「和名類聚鈔彙言」/1855「古語拾遺新註」外多数、  
 [眞榛(;名)の幼名/通称/号]幼名; 通太郎、通称; 太平/佳右衛門/嘉右衛門、  
 号; 麻生垣内、法号; 勇哲居士
- L4000 万彦(まひこ/かざひこ・佐々木ささき、石野いしの広通2男/佐々木一徳の養嗣子) 1751-1821 71 母; 勇子ゆうこ、  
 竹尾喜左衛門元貞の養嗣子; 病で石野家戻る/1790(寛政2)佐々木新左衛門一徳の養嗣子、  
 幕臣; 1797 幕府大御番、歌; 冷泉家門、江戸堂上歌人、中原広温ひろはる弟、実弟一陽かざあきを養子、  
 1768 父の広通「霞関集」入; 1798 広通「霞関集再撰本」出版に援助、霞関集に妻みた子も入集、  
 [万彦(;名)の別名/通称/号]別名; 元典つねのり、通称; 三蔵/多六、  
 号; 花禅/海棠園/蒿斎、  
 [沖つ浪幾重霞みてなぐはしき印南いなみの海の春は立つらん]、  
 (霞関; 春/姫路侍従酒井忠以ただねの歌会に初春海)
- G4051 眞彦(まひこ・河喜多/川喜田/川北かわきた、本姓; 藤原) 1818-68 斬殺 51 京の国学者; 六人部是香門、  
 史学/歌人/俳人/上代風書家、勤王派; 東征軍先鋒隊に従軍; 軍令に抵触し桑名で斬殺、  
 「都の錦」「近世三十六名家集」「神皇正統記標註」「高山彦九郎伝」「神皇御系譜」編、



1844「平安十詠」49・54「古今墨蹟鑒定便覧」編/62「再撰花洛名勝図会東山の部」編刊、  
1849「近世三十六家集略伝」51「百人一首梓語初篇」/52「名家年表」編/53「紀年大成」編  
[眞彦の通称/号]通称;眞一郎/眞市郎、号;樞園/挙樹園/作楽さくら居

眞彦(麻毘古まひこ・丸山)→ 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3

Q4075 眞淹(まひさ・高山たかやま、) 1767-1847 81 上野吾妻郡の大宮巖鼓明神社祠官、茂樹の祖父、  
国学;松岡内記・本居大平門、

[眞淹(;名)の字/通称/号]字;伯臨、通称;主計かづえ、号;大彦

G4019 眞人(まひと・栗田あわた、姓かばね;臣/朝臣、島男) ?-719 大和奈良期廷臣;681小錦下/689筑紫大宰、  
;直大弼/700刑部[忍壁]おさか親王・藤原不比等の下で大宝律令撰定に關与、  
民部尚書直大弼/701遣唐執節使(無位山於[山上]億良も少録として随行)/702渡唐、  
704帰国;大倭の田20町・穀1千石を賜/705中納言從三位/708大宰帥/715正三位、  
帰朝報告書あり/釈日本紀所収「唐曆」「旧唐書」に真人の進退容儀の立派さを記す

K4005 眞人(まひと・生石おいし/大石おいし/姓かばね;村主ずり) ?-? 廷臣;738頃美濃少目しょうざかん/750外從五下、  
万葉四期歌人;355、生石は万葉集/大石は続日本紀・正倉院文書、  
[大汝おはむち少彦名すくなびこのいましけむ志都けの岩屋は幾代いよ経ぬらむ](万葉;三355)  
(志都の岩屋は現島根県瑞穂町岩屋の弥山山麓の岩屋か?)

R4090 眞人(まひと・まこと・林はやし、旧姓;原) 1796-1851 56 周防三田尻生;萩藩士、国学者/歌人、多芸、  
[色青きむかしの淵も谷川のしろき瀬よりぞかくはなりけめ](寄水述懷/[萩の歌人]入)、  
[眞人(;名)の字/通称/号]字;不邁/愚公、通称;寿之進、

号;百非/大平山人/如是/百是/三宝道人

眞人(万比等まひと・長谷川)→ 延年(えんねん・長谷川、劍術/篆刻家) B 1 3 3 1

眞人(まひと・山崎) → 九臯(きゅうこう・山崎やまさき、医者/儒) M 1 6 5 1

眞人(まひと・白石) → 桃花洞(とうかどう・白石、医/道学) C 3 1 2 5

K4006 眞枚(まひら・池田いけだ朝臣) ?- ? 奈良期廷臣;天平宝字八764從五下/  
[万葉四期;十六3840大神おほみわ朝臣奥守おきもりへの嗤笑;餓鬼の歌]の作者か?、  
[寺々の女餓鬼めがき申さく大神おほみわの男餓鬼賜たばりてその子孕まむ](万葉;3840)  
この歌は池田朝臣足継(たりつぐ)説もある、

参照 → 池田朝臣(いけだのあそみ) 1 1 7 8

眞弘(まひろ・広川) → 眞弘(まさひろ・広川ひろかわ/長谷川、国学) H 4 0 0 2

K4007 麻父(麻生まふ・初世ノゝ庵へつほつあん) ?-1774 越中富山藩士/俳人;諸国遊歴、1748「寛延元歳旦」、  
1769「丑名月」著、追善集「ノゝ集」(:息子玉父ぎよくふ編)

K4008 麻父(まふ、別号;雷堂) ?- ? 江後期俳人;寥松門、1833師追善「峰廼雲」編

N4044 眞藤(まふじ・高平たかひら、初名;清敏) 1831-95 65 陸奥一関藩士;右筆、藩校教成館学頭、  
国学者;佐々木親覧門/歌;前田夏蔭門、地誌家、「平泉志」編、  
[眞藤(;名)の号] 虚甕/岡の舎おかのや

4031 眞淵(まぶち・賀茂かも、岡部政信男/本姓;賀茂) 1697-1769 73 遠江敷智郡浜松庄伊場村神職家の生、  
母;竹山重家女、幼時は事情あって姉婿の岡部政盛に養育;政盛に実子が生まれ離縁、  
從兄賀茂政長の婿養子/1724妻没;実家に帰る、1725浜松脇本陣梅谷方良の婿養子、  
和学;杉浦国頭・森暉昌門/漢学;渡辺蒙庵門、1737江戸で和学・歌学の研究;荷田春満門、  
1746田安家に和学御用で出仕(故荷田在満の代り);当主宗武の厚遇を得て門弟多数;  
万葉調和歌の提唱、1760(64歳)隠退;研究・指導・著述に専念;門流を県居あがたい派と称す、  
「万葉考」「国意考」「冠辞考」「万葉解」「国歌八論余言拾遺」「県居集」「県居大人歌文集」  
歌文集「賀茂翁家集」、歌論「歌意考」「にひまなび」、「県居翁筆記」「和歌三神説」外著多数、  
[秋の夜のほがらほがらと天の原てる月影に雁鳴きわたる](賀茂翁家集;秋歌180、  
九月十三夜県居にて)、

[眞淵(;号)の名/通称/別号]名;政躬まさみ/正巳/政藤/政成/春栖はるすみ、

通称;庄助/莊助しょうすけ、三四/三之/参四/参之/三枝/驂四さんし、与一・衛士えじ、

別号;淵満まふちまろ、麻輔知/麻輔智まふち、県満・県丸あがたまろ、屋号;県居あがたい/県主あがたぬし、

漢学号;湍城/茂陵/維陽、法号;玄珠院/梵行院

- [真淵県居派門人];宗武/魚彦/宇万伎/宣長/久老/千蔭/春海ら  
 真淵(まぶち・榊原) → 百川(ひゃくせん・榊原さかきばら、絵師/俳人) E 3 7 6 4  
 馬淵丹下(まぶちたんげ) → 雪鼎(せつてい・月岡つきおか/木田、絵師) E 2 4 6 0
- H4024 眞師(まふつ・村居むらい、名;薫古、丸屋清七男)1807-6357 近江大津下北国町の書肆、幼時より読書、  
 国学者;江戸の平田篤胤門;学僕、1834帰郷;下北国町小泉家に出仕/藩儒黒田五平と交流、  
 「阿波岐廼志豆衣」「鳳雞論」「櫛の禰蔵志」「鳥の本すゑ」「夾脊考」著、小泉義彦の師、  
 [眞師(;号)の通称/屋号]通称;三次郎/三弥、屋号;丸屋  
 馬仏(まぶつ) → 馬仏(まぶつ・六成堂、藩士/俳人) F 3 6 6 0
- K4009 眞船(まふね・村松むらまつ、豊章男)1768-181548 代々駿河府中宮ヶ崎町の葉茶屋経営;継嗣、  
 病のため伯父春枝に譲渡、国学者;栗田士満門・1812本居春庭門、1810「遊伎乃不類道」著、  
 [眞船(;号)の通称]通称;彦次郎/太助/多助/紺屋甚兵衛、  
 伯父春枝 → 春枝(はるえ・村松むらまつ、茶商/国学/歌) K 3 6 8 9  
 真船(まふね・並河) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B 4 5 8 4
- T4080 眞文(まふみ・渡辺わたなべ、)1805-186056 駿河駿東郡の富士南口浅間神社祠官、  
 国学者、息子隼雄はやお(1823-92)が祠官を継嗣  
 [眞文(;名)の通称]通称;五郎次/隼人祐はやとのすけ
- K4010 眞古(まふる・岡本おかもと、別名;信古、岩右衛門男)1780-185677 土佐安藝郡安藝浦の郷土史家、  
 1804父の代勤;御浦下代御浦廻定加役/1841医学方役、国学;今村楽・谷眞潮門、  
 「塵壺」「東浜叢書」「三安漫筆」「事物終始」「新民基元」「土陽名産志」「土佐国刀工伝」著、  
 「土佐国名所図会草按」「土佐海」「土佐志」「東浜雜録」/1813「癸酉日記」44「土佐崎人伝」著、  
 [眞古(;名)の通称/号]通称;忠次郎、号;東浜/中時楼/水荃主人
- Q4066 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、)1821-190888 常陸行方郡の国学者・歌;中村良頭門、  
 [鳴る神の音をきゝつゝ来て見れば雲より落つる滝川の水](梯瀑轟雷/[模手十勝]入)  
 [眞風流(眞古;名)の別名/通称/号]別名;慶輔、通称;吉平、号;仰山亭/万菟春/眞字垣
- Q4032 眞穂(まほ・末田すえだ、丹下男)1834-9158 周防古敷郡の生/長門一宮大宮司に随従、  
 赤間神社・赤間神宮祠官、大社教権中教正、詩;桂月洲門/国学;平田鍊種門、百千もちの兄、  
 1882(明治15)出雲大社山口分院を創設、  
 [眞穂(;名)の別名/通称/号]初名;実徳、通称;安之輔/楯衛門、号;黄山  
 馬圃(まほ・芦田) → 霞夫(かふ・芦田/堺屋、醸造業/俳人) D 1 5 1 9
- S4026 眞壽(まほぞ・藤井ふじい、)1830- 189970 駿河府中の浅間神社祠官、国学者  
 [眞壽(;名)の号]足繁竹美止理/杉の舎  
 馬渤斎(まぼつさい) → 蘭二(らんじ・野原のはり、俳人) C 4 8 4 0  
 馬勃坊(まぼつぼう) → 治泉(ちせん・横山、俳人) E 2 8 5 7  
 衛(まほる・藤原) → 衛(まほる・藤原ふじわら、廷臣) K 4 0 1 4
- K4067 儘成(ままなり・東朔軒とうさくけん)?- ? 1812以前没 江後期江戸川柳作者;俳風柳多留二六篇から入、  
 柳多留六二篇に追善会あり、[片乳房握るが欲の出来はじめ](柳多留;二六)、  
 (1737「雲鼓評万句合」四日市やしま取次;「乳ををしむ気から小児せうにの欲もでき」が原型)
- 4037 眞間手児名(ままでのごな) ? - ? 葛飾真間娘子かつしかのまのおとめ/万葉伝説歌人物/巫女?、  
 下総真間にいて手児奈と称した伝説の悲劇の美女/赤人・虫麻呂・東歌に長短歌がある、  
 万葉集;三431-3/九1807-8/十四3384-7  
 ままよ(・岸) → 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2
- K4011 眞麻呂(ままろ・丈部はせつかべ)?- ? 755防人、遠江山名郡やまのこおり、万葉集廿4323、  
 [時々ときときの花は咲けども何すれそ母ははとふ花の咲き出来でずけむ](万葉;4322)
- 4032 眞道(まみち・菅野すがの朝臣、津連山守男)741-81474 奈良平安初期安殿親王(平城天皇)の東宮学士、  
 790菅野朝臣を賜う、治部大輔/民部大輔/左大弁/805参議/809従三位/宮内卿/大蔵卿、  
 794「続日本紀」継縄らと編纂、803「延暦交替式」「官曹事類目録」著、  
 805「阿部広主東大寺使内侍宣」著、詩;凌雲集1首入
- K4012 眞道(まみち・津田つだ、別名;眞一郎、藩士文行男)1829-190375 美作津山の洋学者、儒;大村桐陽門、  
 兵法;越後流皆伝、蘭学;1850江戸の箕作阮甫門/洋式兵学;佐久間象山門、  
 1851伊東玄朴の象先塾入門/56津山藩命で江戸警備/藩の忌憚に触れ脱藩、

1857蕃書調所教授手伝並/1862西周あまねらとオランダ留学;万国公法・統計学を修学、1865帰国、  
1866幕府開成所教授/74明六社に参加;論文24編発表、初代衆議院副議長/法学博士、  
1866「泰西国法論」訳/67「日本国総制度」、「はなのしをり」、

[眞道(;名)の通称/号]通称;喜久治/亀次郎、号;鉄斎/恥桜居士/天外如来/鉄薇/漏落子

M4048 **眞道**(まみち・小笠原おがさわら)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[冬がれのそのはら山にすむ月は木賊の霜のみがくなりけり](大江戸倭歌;冬1181)

L4066 **眞光**(まみつ・直光なおみつ・鈴木すずき/本姓;源、通称;市三郎)1711-5444 江戸の幕臣;大番/新番、  
歌人;武者小路家門/のち三条西家門、1798刊石野広通「霞関集」入、法号;徹髓  
[玉しまや秋の光もあらはれて河上遠くすめる夜の月](霞関;秋452/河辺月)

茨田王(まむたのおおきみ) → 茨田王(まんだのおおきみ、万葉歌人)

L4019 **眞室**(真屋まむろ・文室ふんや、姓かばね;朝臣)?-? 平安初期廷臣/対策及第/840大宰少式、  
843従五下;下総守/850紀伊守、詩;経国集入

K4013 **眞守**(まもり・後藤こう/枚岡ひろおか、後藤守只男)1805-8278 豊後大分郡乙津国学者、儒;帆足万里門、  
詩画;田能村竹田門/国学;渡辺重名門、地理、高山彦九郎を敬慕;勤王派/有栖川家に出入、  
維新後;1871西寒多神社主典/80権大講義、生涯かけた豊後地誌叢書「碩田叢史」458冊編、  
1844「大化帖」「杉本氏古文章外」編/44「中古鑑考」/47「豊後国図田帖考証」、「土偶人辨」著、  
[眞守(;名)の字/通称/号]字;大化、通称;今四郎、

号;碩田せきでん/豹陰/耕雲主人/遊戯三昧室/仰見千古書屋/望三益堂/萩花風葉楼、  
斌楽斎ひんらくさい/狂言日本一黍団子

S4014 **眞守**(まもり・平野ひろの、通称;平兵衛)1823-9775 佐渡相川の歌人;鈴木重嶺しげね(佐渡奉行)門

S4006 **眞守**(まもり・肥丹ひたん/旧姓;高橋、)1834-190875 武蔵加美郡肥土村の金鑽かなざな神社禰宜、  
国学・歌;;新居守村門、「不二大山」「雲見嶽」「未ニ富士山頂上及御中道参拝日記」著、  
[眞守(;名)の初名/通称]初名;郷重、通称;茂三郎/周兵衛

04001 **眞守**(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/本姓;平)1840-64早世25 肥前島原の梅村某の男、  
島原藩士坂本甚助の従子、島原藩士小林家を継嗣、国学;平田鋏胤・丸山作楽門/勤王家、  
足利木像梟首事件・高台寺焼討に関与/のち水戸の義挙に参加;敗走し潮来にて没、  
[眞守(;名)の別名/通称/号]別名;千引/知毘伎/道引ちびき、  
通称;徳太郎/一郎/与一郎/真一郎、号;栄斎

K4014 **衛**(まもる/まぼる・藤原ふじわら、内麻呂10男)799-85759 母;藤原永手女、平安前期廷臣;  
816文章生試及第、中判事/大学助/822遠江守/827従五上/木工頭・右少弁・式部少輔歴任、  
834式部大輔兼伊予守/842大宰大貳/弾正大弼/849渤海使応対の中使/851勘解由長官、  
854正四下/857右京大夫、冬嗣の弟、「四条起請文」著(;続日本後紀入)、詩;経国集1首入、  
「令義解りようぎげ」編参加/本朝文粹;883小野篁「令義解序」に令義解の執議に参加記事

K4015 **衛**(まもる・中西なかにし、石樵[1733-1807]男、融とおるの兄)?-? 江後期尾張藩士;父を継嗣;  
大坂藩邸の奉行、1807「石樵遺稿」校訂

衛(まもる・新岡) → 旭宇(きょう・新岡にいおか、書家) O 1 6 7 9

衛(まもる・斎藤) → 秋圃(穠圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7

衛(まもる・北見) → 星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者) H 2 4 9 7

衛(まもる・筑紫) → 義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走) C 4 7 9 7

守(まもる・正木) → 驢童(ろどう・正木まさき、俳人) C 5 2 2 5

厩輔(まやすけ・馬屋/厩屋うまやの、山口長兵衛) → 馬屋厩輔(うまやのまやすけ、藩士/狂歌) B 1 2 9 4

まゆずみ(・桂) → 桂まゆずみ(かつらまゆずみ、木村屋、狂歌) H 1 5 8 7

眉住(2世まゆずみ・桂、風月庵) → 風月庵眉住(ふうげつあんまゆずみ、狂歌) 3 8 5 0

繭亭(まゆてい・けんてい) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0

K4016 **眉長**(まゆなが) ?-? 狂歌作者;唐衣橋州門、1782「狂歌若葉集」入

4033 **眞弓**(まゆみ・内山うちやま、名;国章、彦左衛門男)1786-185267 信州安曇郡十日市場村の旧家の生、  
儒;杉山巢雲門/歌人;京の香川景樹門、1823帰郷;筑摩郡荒井村に家塾を開、  
萩原貞起と信州に桂園派を拡大、1843「歌学提要」編/「新未」、「東塢鶴声」「月見の記」著、  
「東塢小録」「家相辨惑」「聚芳園随筆」「梅月堂景樹宗匠門人詠草奥書」「みさびえ」著、



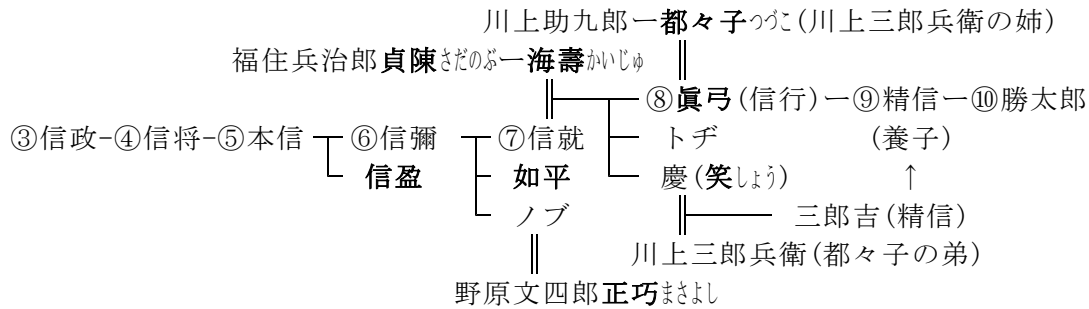
[眞弓(；号)の通称/別号]通称;理兵衛、

別号;真由躬まゆみ/行方亭智庵/月観/眉生/聚芳園/鸞卿/寧固/解脱翁/穆如ほくによ

- P4035 **眞弓**(まゆみ・森本もりもと、信就男)1788-1854<sup>67</sup> 信濃飯田の酒造業・豪農の森本家8代目;1800嗣、  
国学・歌人;内山眞竜門、さらに高林方朗・服部菅雄・森広主門、飯田藩堀家御用達、  
妻;遠江浜松の豪商川上助九郎女の都々子つっこ、  
都々子(1789-1857)も眞弓と同門の国学/歌人、笑しゅう(慶)の弟、如平ゆきひら(1790-1862)の甥、  
「救荒抄」「眞弓和歌集」「その原日記」「遠江日記」著、  
[眞弓(；名)の別名/字/通称/別号]別名;竜雄/篤、字;信行/孟憲/信全、通称;甚三郎、  
歌号;松園/篤園/俳号;一味庵/茶号;啜々斎せつせつさい

妻 → 都々子(つっこ・森本もりもと/川上、国学歌) F 2 9 6 3

☆**森本家略系図**(太字はこの事典に記載)



- P4041 **眞弓**(まゆみ・熊谷くまがい、旧姓;船形)1817-1890<sup>74</sup> 陸奥桃生郡中津山村新田の延寿院の修験者、  
歌人;飛鳥井家(京の歌道・蹴鞠家)・千鳥家(大和春日社神職・歌道家)入門、  
村の北端の茶臼山を桃生城址と想定;以後ここが桃生柵址と称される、

[眞弓(；名)の通称] 発郎

- 眞弓(まゆみ・足立) → 久任(ひさとう・足立あだち、藩士/弓術/歌) L 3 7 8 3  
眞弓(まゆみ・石尾) → 忠寛(ただひろ・石尾いしお/荒木、藩士/歌) V 2 6 5 9  
眞弓(まゆみ・宇治) → 延武(のぶたけ・宇治うじ、藩士/教育) H 3 5 4 6  
眞弓(まゆみ・矢野) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4  
眞弓園(まゆみのその) → 鷹友(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) M 2 6 4 8  
眞弓廼舎(まゆみのや) → 良文(よしふみ・宮下みやした、国学/歌) P 4 7 4 4  
眞震(馬百合まゆり・和田) → 厳足(いづたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3

- K4017 **麻与佐**(まよさ・大伴部おともべ) ?- ? 755防人/下総国埴生郡はにふのこおり、万葉廿4392

[天地あめつしのいづれの神を祈らばか愛いづくし母ははにまた言問こととはむ](万葉集;4392)

- K4018 **眞頼**(まより・黒川くろかわ/金子かね寛長、機業金子治則男)1829-1906<sup>78</sup> 上州山田郡桐生の国学者、  
国学・歌;黒川春村門、1862師春村の養嗣;家督、維新後は文部省等公務/1893東大文科教授、  
「万葉集本義」「新勅撰愚考」「和名類聚鈔一覧」、紀州藩水野忠央「丹鶴叢書」編参、  
「古事類苑」編纂参、(のち「黒川眞頼全集」に統括)、

[眞頼の幼名/号]幼名;嘉吉、号;荻斎/万里/墨水、法号;文良院

- K4019 **万里女**(まりじょ) ?- ? 近江膳所の蕉門女流俳人、  
「枯尾花」入;[慰めし琴も名残や冬の月]、

膳所の女流俳人には扇女(おうぎじょ)・素顰女(そひんじょ)がいる

- K4020 **万里助**(まりのすけ・内藤ないとう、名;恣、八谷やたがい通義男)1810-75<sup>66</sup> 1826内藤久包の養子;33家督継嗣、  
長門萩藩士;1843大坂検使役/大島・美祢・奥阿武各郡代官/65用談役/郡奉行、藩政に尽力、  
1868病で致仕、1855-「内藤万里助公私日乗」著、

[万里助(；通称)の幼名/別通称/号]幼名;才蔵/六蔵、別通称;造酒みき、

号;瘦竹、法号;善翁瘦竹

- 丸鏡(まるかがみ・喜多村) → 丸鏡(がんきょう・喜多村きたむら、俳人) S 1 5 6 4  
丸木(まるき・筏) → 筏丸木(いかだのまるき、狂歌作者) I 1 1 7 9  
丸三(まるさん→まるみつ・横山) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/淘宮術) K 4 0 2 2  
丸太夫(まるだゆう・村松) → 茂清(しげきよ・村松むらまつ、藩士/和算家) Q 2 1 9 5

- L4022 **〇八〇**(まるはちや?) **? - ?** 相模大津の俳人;1703不角「広原海杭つみ」入、  
[馬鹿にして馬鹿を使ひに遣るが馬鹿](前句;待てば久しや待てば久しや)  
丸窓(まるまど→がんそう) → 丸窓(がんそう、俳人;雑俳点者) G 1 5 5 0
- K4021 **丸磨**(まるまる・四角亭しかてい、姓;大橋/名;氏直)**?-? 1834存** 尾張名古屋杉之町の戯作者、  
「滑稽壁栗毛」「狂言尽」「遊行上人定穴案外」著
- K4022 **丸三**(まるみつ・横山よこやま、名;興孝、三五郎男)**1780-185475** 幕臣/神道:開運修行、  
1834(天保5)淘宮術とうきゅうじゅつを創始、小日向竹島町で教授/1843剃髪、  
淘宮術は開運修行の1/心の宮(本心)を洗練することにより幸福を得るとする、  
「十二宮伝」「阿気之顛支」著、  
[丸三(;通称)の別通称/号] 別通称;三之助、  
号;淘山人/百田楼/春亀斎/木黄山人/小晌菴こしょうあん、法号;春亀斎静詠居士  
丸屋斧吉(まるやおのきち) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作/狂歌) C 1 6 0 3  
丸屋かく子(丸屋賀久子まるやかくこ) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1  
丸屋平蔵(まるやへいざう) → 朝平(ちょうへい・金丸、俳人) J 2 8 7 9
- K4023 **希賢**(まれかた・由美ゆみ/本姓;稲富・稲留、彫刻師方円大休軒男)**1689-177284(74説?)** 筑前稲富の生、  
1699(11歳)父と上京;伊藤仁斎より[希賢]名を受、帰郷/儒:貝原益軒門、筑前福岡藩出仕、  
益軒の「大疑録」を世に顕彰;士籍剥奪、のち荻生徂徠門/1745加賀金沢藩出仕;文学・侍講、  
1770(82歳)藩主前田重教の不信を買い禄を追われる、「由美希賢詩集」「邪僻人説」著、  
「詩語格」「相生字考」「消息活套目録」「篇集雜記」、1770「由美弥二郎書翰写」著、  
[希賢(;名)の別名/字/通称/号]別名;濬しゅん、字;子善、通称;弥二郎、  
号;原泉/水哉堂/混々斎/滾々斎こんこんさい、弘毅(東野)の父  
希賢(まれかた・田辺) → 整斎(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2  
希賢(まれかた・三輪) → 教斎(しっさい・三輪、儒者) E 2 1 8 8
- N4026 **希言**(まれこと・安斎あんざい、)**1767-183367** 武蔵川越領の町年寄/歌人、保美やすしの父、  
[希言(;名)の別名/通称/号]初名;有整、通称;伊兵衛、号;芳川亭
- P4046 **希言**(まれこと・倉科くらしな、)**1799-187476** 信濃松本の歌人;香川景樹門、大岩昌蔵まさりの師、  
[希言(;名)の通称/号]通称;清三/半左衛門、号;翫山楼/言度/中谷  
希亮(まれすけ・田鎖) → 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、藩士/絵師) K 1 5 5 9
- K4024 **希次**(まれつぐ・乃木のぎ、医者希健4男)**1805-7773** 母;野村利久女、長門長府藩士;代々江戸詰;藩医、  
武術・武家故実に長ず;小笠原流の松岡辰方(清輔)門、1816深川三十三間堂通矢を射る、  
藩主毛利元義が称讃;80石;馬廻役/藩主室銀姫の守役、剛毅嚴格で古武士の風格という、  
1858銀姫(安子)と毛利広定との婚礼一切を仕切る/同年政務に関する建白書を提出;  
藩主の忌諱に触れ帰藩;50石に減俸・閉門100日、のち赦免再登用100石;  
諸礼式師範/藩校敬業館講師/世子兄弟の傳役;礼法・武芸を教授、  
世子元敏元功兄弟が長州藩校明倫館に移り同行、  
1865(慶応元)長府藩報国隊桂弥一が脱藩し奇兵隊に投じた際に説得して帰藩させる、  
1874家族と東京移住、  
妻;秀(乃木周久女;離婚)/後妻;寿子(常陸土浦藩士長谷川金大夫女)、  
乃木希典(母;寿子)・玉木正誼(母;寿子)の父、「匾額へんがく集」著  
[希次(;名)の通称/法号]通称;喜十郎/十郎、法号;長遠院
- K4025 **希烈**(まれつら/まれやす・梅辻うめつじ/生源寺しょうげんじ/本姓祝部)**1785-186379** 代々近江坂本日吉神社神官、  
漢学;兄春樵しゅんしょうと共に村瀬栲亭門/1807兄に代り小比叡社禰宜、正五下紀伊守・越前守、  
日吉社一臈社司/正三位、歌人、1857-61歌集「鄙風ひなぶり集」1824-54「幽独晤言」著、  
[希烈(;名)の字/号]字;廷耀、号;星舫せいはい、希璵まれとも父
- Q4020 **希璵**(まれとも・生源寺しょうげんじ/本姓;祝部、希烈まれつら男)**1806-7166** 近江滋賀郡坂本日吉神社社司、  
神道・漢学/歌;父門、養子;希徳まれのり、  
[希璵(;名)の通称] 陸奥守/宿禰
- K4092 **稀年成**(まれなとしなり) **? - ?** 上州の狂歌作者/1787「狂歌才蔵集」入;522、  
[立ちよりて見ぬこそまさめかゞみ山年ふる顔の愛相あいそづかしに](才蔵集;十二522)、

(本歌;鏡山いざ立ち寄りて見てゆかん年経ぬる身は老いやしぬると;古今;読人しらず)  
希文(まれがみ・田辺) → 晋斎(しんさい・田辺/上毛野、儒者/記録) E 2 2 1 6

K4026 希道(まれみち・田辺たなべ、通称;良輔、簡斎男) 1782-1831 50 仙台藩士;小姓/目付使番/近習、  
祭祀奉行、家督継嗣;仙台藩儒となる、藩主伊達斉宗の侍読、  
1809「伊達族譜」編、「伊達族譜本宗」著

希烈(まれやす・梅辻/生源寺) → 希烈(まれつら・梅辻/生源寺/祝部、神職) K 4 0 2 5

K4027 希世(まれよ・平たいら、雅望王男) ?-930 落雷死 平安前期廷臣;915斎院長官/919-928蔵人、  
その間に醍醐天皇と藤原仲平の仲介の使者を勤める/右少将/従四上/内蔵頭/右中弁、  
930(延長8)6月26日清涼殿で落雷により震死、  
歌人:898亭子院女郎花合参加/921醍醐御時菊合参加、勅撰2首;後撰844/玉葉778、  
[枝もなく人に折らるゝ女郎花をみなへし根をだに残せ植ゑし我がため](後撰集;恋844)、  
(かつての恋人が他の男との浮気の噂の立つのを聞き女に贈る)

B4059 麻呂(まろ・蘇我倉山田石川そのくらのやまだいしかわ、倉麻呂男/馬子孫) ?-649 自殺 蝦夷は叔父/入鹿は従兄、  
複姓;蘇我・倉・山田・石川は父母の氏や地名、父の代より蝦夷・入鹿の一族と反目、  
女は遠智をち姫・姪め姫(ともに中大兄皇子の妻)・乳ち姫(軽皇子[孝徳]の妻)、  
鎌足に加担;入鹿を誅す/右大臣に昇格、異母弟日向の讒言で大和山田寺で自殺

4039 満(まろ/みつ・野中川原史なかのかわらのふひと) ?-? 日本書紀孝徳紀に短歌2首、  
大化五649三月中大兄の妃蘇我造媛みやつひめ(遠智姫)の死に挽歌2首を弹琴唱歌し賞される、  
河内丹比郡野中郷の人か?/魏の詩人陳思王曹植の後裔を称する、  
[山川やまがはに鴛鴦をし二つ居て偶たぐひよく偶へる妹を誰か率ゐにけむ](孝徳紀大化五三月)

K4028 萬里(まろ・秦大蔵造はたのおおくらのみやつこ) ?-? 斉明紀/658十月斉明天皇の紀温泉きのゆ行幸に随行、  
故建王たけるのみこへの斉明天皇の挽歌3首を後世に伝えるよう詔を受く、歌詠が得意か?、  
あるいは斉明天皇の代作者?、  
[山越えて海渡るともおもしろき今城いまきの中うちは忘らゆましじ](書紀斉明紀;歌謡119)、  
(今城[今木]は建王の殯の場所)

4034 麻呂(磨まろ・石上朝臣いそのかみのあそみ/もと物部連) 640-717 78 廷臣;壬申乱では近江方に参加、  
乱後は天武天皇に出仕/676遣新羅大使/677帰国、701正三位大納言;大宰帥兼務、  
704右大臣/708左大臣/正二位、没後贈従一位、  
万葉二期歌人:万葉44(692持統天皇の伊勢行幸に従駕)、乙麻呂の父、  
[我妹子をいざみの山を高みかも大和の見えぬ国遠みかも](万葉集;一44/石上大臣)

L4020 麻呂(まろ・当麻真人たぎまのまひと) ?-? 廷臣;当麻氏は用明天皇の皇子麻呂古王まろこのおきみの子孫、  
692年持統天皇の伊勢行幸に従駕;万葉集43・511に妻が思慕する歌が入集、  
妻 → 当麻麻呂妻(たぎまのまろのめ、万葉二期歌人) E 2 6 1 4

4040 麻呂(磨まろ・角つの) ?-? 万葉三期歌人:4首292-5;摂津の海の詠、  
[ひさかたの天あまの探女さぐめが石船いはねの泊はてし高津はあせにけるかも](万葉;三292)  
(難波高津は天稚彦あめのわかひに天下る時随った天の探女が天磐舟で至った所、  
あせは浅くなる意で奈良時代すでに高津は海岸線が遠くなっていたとおもわれる)

4035 麻呂(磨まろ・藤原朝臣ふじわらのあそみ、不比等男) 695-737 53 不比等の息四兄弟の末弟、  
母;鎌足女五百重夫人、721従四上左右京大夫;京家の祖、731参議兵部卿/37陸奥持節大使、  
従三位、737(天平9)流行病で兄3人と共に没、  
大伴坂上郎女を娶ったことがある、詩;懷風藻5首、  
歌;万葉三期歌3首;522-524(坂上郎女と相聞)、  
1195・1218-1222の7首(藤原卿作)は房前説が有力であるが麻呂説もある、  
浜成(「歌経標式」作者)の父(母は因幡八上采女いなばのやかみのうねめか?)  
[娘子をとめらが玉櫛笥たまぐしげなる玉櫛の神かみさびけむも妹に逢はずあれば](万葉;四522)

K4029 麻呂(磨まろ・丹氏たんじ/丹比たじびor丹波たんば、舟氏?) ?-? 奈良期廷臣;730大宰大判事だいはんじ、  
万葉三期歌人:730旅人邸の梅花宴列席歌828、  
[人ごとに折りかざしつつ遊べどもいやめづらしき梅の花かも](万葉集;五828)

K4030 麻呂(萬里まろ・大蔵忌寸おおくらのみき) ?-? 奈良期廷臣;736遣新羅使少判官/737帰国、  
造東大寺司判官/751-6聖武太上天皇大葬の造方相司、丹波守/玄蕃頭/772正五下、



万葉四期歌：十五3703(新羅への旅中736対馬竹敷浦での歌)、  
[竹敷の宇敷可多うへかた山はくれなるの八入やほの色になりけるかも](万葉;3703)

K4031 麻呂(まろ・商長首あきのおさのおびと)?-? 755防人/駿河国出身/万葉廿4344、  
[忘らむて野行ゆき山行き我来れど我が父母は忘れせぬかも](万葉廿4344)

K4032 麻呂(まろ・春日部かすかべ)?-? 755防人/駿河国出身/万葉廿4345、  
[我妹子わぎめこと二人我が見しうち寄えする駿河の嶺ねらは恋くふしくめあるか](万葉;4345)  
麻呂(まろ・笠朝臣) → 満誓沙彌(まんぜいさみ、廷臣/僧/万葉歌人) 4 0 3 8

K4033 客人(まろうど・津守つもり宿禰)?-? 奈良期729-44頃：住吉大社神主/従六上、731遣唐使、  
731「住吉神代記」著

麻六坊(まろくぼう) → 烏明(うめい・松露庵3世、俳人) 1 2 9 0  
丸子部佐壮(まろこべのすけお) → 佐壮(すけお・丸子部、万葉防人) B 2 3 9 2  
麿丸(まろまる・歌川) → 国麿(初世くにもろ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 5

K4099 まん(・足助あすけ、まん女)?-? 江前期安藝広島の女流俳人;貞門系、  
1661道廿「糸瓜草」入

K4034 満(まん、満女まんじょ/まんによ)?-? 歌道の冷泉家出身?、歌/俳人;  
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、  
[書初めや身をいはふなる女文字をんなもじ](女哥仙;5/平仮名で歳旦の発句を作り自ら祝う)

K4035 万(まん・宮部みやべ、万女まんじょ、浅井政方2女)?-1788 上州高崎藩士宮部義正の妻、歌人;冷泉為村門、  
夫義正と息子義直も為村門/のち3名とも除門、以後烏丸光胤・裏松固禪・日野資枝に点を受、  
1774夫婦家集「相生乃言葉」、「万女詠草」(:三藻類聚[宮部夫妻と義直の詠歌集])に所収)、  
「本草物語」「詠千首和歌」「隅田川遊記」「三藻五百首」「三藻続千首」「三藻日記」著、  
広通「霞関集」入(夫義正と入集)、  
[いかに寝て見ゆる夢ぞとたどるまで闇のうつつにかはす手枕](霞関;恋798/逢恋)、  
[本草だにおもはむことのはづかしなわが心なき筆のすさびは](「本草物語」)

万(まん・生田) → 万(よろづ・生田いた、藩士/国学/救民) 4 7 4 2  
万(まん・西垣) → 桐斎(とうさい・西垣にしがき、儒者/詩文) E 3 1 2 1  
万(まん/よろづ?・赤沢) → 一堂(いちどう・赤沢あかざわ、儒者/詩人) E 1 1 1 5  
万(まん・石井) → 盛時(もりとき・石井いし、幕臣、記録) F 4 4 9 1  
万(まん・中西) → 石樵(せきしょう・中西なかし、藩士/刻印) K 2 4 1 7  
万(まん・奥山) → 四娟(しけん・奥山おくやま、漢学者) T 2 1 2 1  
万(まん・岩崎) → 灌園(かんえん・岩崎いわさき、本草学者) P 1 5 9 7  
万(まん・立原) → 翠軒(すいけん・立原たちばら、儒者/藩士) 2 3 0 1  
万(まん・小川) → 其瀾(きらん・小川おがわ、儒者) Q 1 6 4 6  
万(まん・亀井) → 大年(たいねん・亀井かめい、儒/医者) K 2 6 9 0  
万(まん・一柳) → 千古(ちふる・一柳ひとつやなぎ/越智、歌人) F 2 8 3 2  
万(まん・河合) → 万(よろづ・河合かわい、儒者) 4 7 4 3  
満(まん・顕井) → 広出(こうしゅつ・顕井あきらい、歌人) J 1 9 5 7  
万庵(まんあん・赤沢) → 一堂(いちどう・赤沢、儒/詩人) E 1 1 1 5  
万庵(まんあん・原資) → 万庵(ばんあん・原資、臨済僧) H 3 6 2 0  
万安(まんあん・英種) → 万安(ばんあん・英種、曹洞僧) H 3 6 1 8  
万安(まんあん;道号) → 万安(ばんあん;道号・英種;法諱、曹洞僧) H 3 6 1 8  
卍庵(まんあん;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨済僧/詩) D 3 1 3 8  
蔓庵(まんあん) → 千幹(ちもと・正木、国学者) F 2 8 4 8

K4036 満意(まんい;法諱・如意寺;号、俗名;二条[藤原]道基みちもと、良基男)1386-146580 聖護院門跡;  
大僧正・准三后、天台宗園城寺僧;1408・24・33三度園城寺長吏/29兄道意を継承;聖護院門跡、  
宮中・將軍家で修法;称光天皇病氣平癒修法に効験;准三后の宣旨、「聖出家記」著、  
歌人;新続古今集616/1044、永享百首参加/1434飛鳥井宋雅七回忌品経和歌参加、  
1438細川満元13回忌詠法華経和歌参加/48・52・62内裏月次歌会参加、  
連歌;1432將軍家大原野花見連歌・35北野社万句参加/41「何人百韻」、新菟玖波集1句入、  
[聞きわぶる寝覚めの床の小夜時雨ふるほどよりも濡るる袖かな](新続古;六冬616)

- 万一郎(まんいちろう・望月)→ 毅軒(きけん・望月もちづき、昌平覺儒官) I 1 6 4 8  
 万一郎(まんいちろう・平野)→ 喜房(よしふさ・平野ひらの、藩士/和算家) G 4 7 7 7  
 満胤(まんいん・田辺) → 満胤(みつたね・田辺たなべ、庄屋/国学) J 4 1 4 5
- K4037 万羽(まんう、通称; 晋万羽)?-? 吉備の俳人:1807備後三次に結庵:「椎の樹」、  
 1807厳島社・住吉社奉納額撰、1818「小蠣殻集」編、安藝西条の医者野坂完山と交遊
- K4038 万羽(まんう・五本亭) ?-? 俳人:「八雲拾遺」編
- K4039 万英(まんえい/ばんえい・2世二松庵、姓:百々)?-1780 京狂歌:初世二松庵門、「狂歌月の影」編
- L4011 万英(2世まんえい/ばんえい・波多野、三寸庵)?-? 江中期江戸俳人;初世万英門/乾什座尹督側点者、  
 1754竹翁「俳諧童の的」点句入
- 満永(まんえい・齋藤) → 満永(みつなが・齋藤、俳人/狂歌) G 4 1 9 8  
 万瑛(まんえい:号) → 断崖(だんがい:号・玄初:法諱、臨濟僧) T 2 6 2 3  
 万栄子(まんえいし) → 千寛(ちひろ・茅舎かや、狂歌) F 2 8 2 5  
 万右衛門(まんえもん・莊田)→ 琳庵(りんあん・莊田しょうだ、藩儒) J 4 9 9 6  
 万右衛門(まんえもん・高山)→ 重邦(しげくに・高山たかやま、和算家) C 2 1 1 7  
 万右衛門(まんえもん・多賀谷)→ 亀翁(きおう・多賀谷たがや、俳人) F 1 6 0 4  
 万右衛門(まんえもん・浅井)→ 琳庵(りんあん・浅井あさい、藩儒者) J 4 9 9 7  
 万右衛門(まんえもん・渡辺)→ 寄潮(きちよう・渡辺わたなべ、藩士/俳人) L 1 6 3 3  
 万右衛門(まんえもん・橋村)→ 正河(まさかわ・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2  
 万右衛門(まんえもん・浅加)→ 久敬(ひさたか・浅加あさか、国史・国学・歌) B 3 7 2 1  
 万右衛門(まんえもん・高橋)→ 保万(やすたか・高橋たかはし、藩陪臣/和学) G 4 5 2 0  
 万右衛門(まんえもん・中沢)→ 茂七(もしち・中沢なかざわ、商家/紀行) B 4 4 2 1  
 万右衛門(まんえもん・碓田)→ 豊綱(とよつな・碓田うすだ、名主/歌人) U 3 1 3 4
- K4040 万翁(まんおう・木田きだ) 1712 - 1785 74 大坂瓦町の富商鉄屋主人/俳人:一炊庵紹廉門、  
 1754北野天満宮奉納「一日独吟万句」成就;万翁と号す、1755東奥行脚、  
 1761「祭歌行」編/73「秋の声」(紹廉13回忌追善集)編/73「俳諧提要」/76「四季の玉」編、  
 1781「東南繫時篇」、「うたたね」編、  
 [万翁(;号)の通称/別号]通称;鉄屋庄[荘]左衛門/金太楼、別号;几掌/南陽舎/一炊庵2世
- 万桜(まんおう) → 万桜(ばんおう、俳人) H 3 6 3 0  
 卍翁(まんおう・大槻) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒者/詩人/洋学) 3 6 4 0  
 満家(まんか・九条) → 満家(みついえ・九条/藤原、関白/歌人) D 4 1 0 8  
 満架(万架まんか・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0  
 満雅(まんが・北畠) → 満雅(みつまさ・北畠、国司/武将/連歌) E 4 1 8 5  
 満雅(まんが・奥) → 満雅(みつまさ・奥おく、藩士/砲術家) I 4 1 6 0
- K4041 卍海(まんかい;道号・宗珊そうさん;法諱、号;恒堂、俗姓;増田) 1706-67 62 京曹洞僧;源光庵三洲白竜門、  
 1718(13歳)出家/諸師参禅/33白竜の嗣法/46源光庵5世、白竜に随い「卍山広録」刊行、  
 1741白竜口述「宗統復古志」編、63「禅戒訣註解」、64「百竜和尚語録」編/「鷹峰聯芳系譜」
- 万回(まんかい;道号) → 万回(ばんかい・一線;法諱、曹洞僧) H 3 6 3 2  
 万芥(まんかい) → 万芥(ばんかい、俳人) J 3 6 0 6  
 万海(まんかい→ばんかい・武村)→ 益友(えきゆう・武村/竹村、俳人) 1 3 5 7  
 万花庵(まんかあん、万花坊)→ 雪斗(せつと、俳人) E 2 4 6 2  
 万花園主人(まんかえんしゅじん)→ 留次郎(留治郎とめじろう・成田屋/成田、朝顔屋) P 3 1 0 1  
 万花堂(まんかどう) → 風丈(ふうじょう・万花堂、俳人) 3 8 8 1  
 万花堂主人(まんかどうしゅじん)→ 博高(ひろあきら・明石あかし、医者/殖産家) L 3 7 9 4
- K4042 万巖(卍巖まんがん;道号・普白ふはく;法諱)?-? 江中期曹洞僧;亮廓普宗門/法嗣、  
 岩代竜泉寺11世/常林寺14世/越後雲洞庵34世、「万巖普和尚語録」
- 満願院(まんがんいん) → 堯孝(ぎょうこう;法諱、僧/歌人) C 1 6 4 4  
 万巻楼(まんかんろう) → 洪卿(こうけい・小島/児島、商家/漢学) I 1 9 4 2  
 万巻楼(まんかんろう) → 誉章(たかあき・桂かつら、大庄屋/国学/俳諧) W 2 6 5 1  
 万亀(まんき) → 万亀(ばんき;法諱、号;文川、僧/詩人) H 3 6 3 5  
 万亀(まんき・知久) → 則直(のりなお・知久ちく、旗本/領主/歌) J 3 5 0 7

万喜(まんき・富永) → 守国(もりくに・富永とみなが、神職/国学) K 4 4 7 2  
 万禰(万禰まんき・奥) → 文鳴(ぶんめい・奥おく、絵師) G 3 8 5 1  
 満季(まんき・洞院) → 満季(みつすえ・洞院とういん/藤原、廷臣/歌) D 4 1 6 0  
 満基(まんき・二条) → 満基(みつもと・二条/藤原、関白/歌人) E 4 1 9 6  
 満基(まんき・細川) → 満元(満基みつもと・細川/源、武将/歌) E 4 1 9 5  
 満儀(まんぎ・堀口) → 松庵(しょうあん・堀口ほりぐち、地役人/書家) V 2 2 1 3  
 万菊翁(まんぎくおう) → 沾圃(せんぼ、宝生/服部、能楽師/俳人) G 2 4 6 0  
 万菊丸(まんぎくまる) → 杜国(とこく・坪井、俳人) L 3 1 7 1

K4043 万吉(まんきち・清沢きよさわ) ? - ? 江後期浄瑠璃(清元節)の作曲者;

1815「今様須磨の写絵」作曲(作詞;2世桜田治助)、

1820「玉兎月影勝」「月雪花名残文台」作曲(;作詞はすべて2世桜田治助)

万吉(まんきち・杉岡) → 宗閑(そうかん・杉岡すぎおか、歌人) G 2 5 6 7  
 万吉(まんきち・佐花屋) → 英山(えいざん・菊川きくかわ、造花業/絵師) 1 3 2 7  
 万吉(まんきち・安藤) → 千里(ちさと・安藤あんどう、家老/国学) M 2 8 0 0  
 万吉(まんきち・竹屋) → 貸本古喜(かしほんのふるき、狂歌) H 1 5 8 5  
 万吉(まんきち・北田) → 堪忍舎二字守(かんにんしゃにじもり、狂歌) R 1 5 5 9  
 万吉(まんきち・羽間) → 昌光(まさみつ・羽間はさま/井岡/村上、商家/国学) R 4 0 5 6  
 万吉(まんきち・今井) → 紐蘭(ちゅうらん・今井、藩奉行/俳人) G 2 8 9 2  
 万吉(まんきち・入江) → 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、尊攘活動) F 2 3 9 1  
 万吉(まんきち・甲胡/歌川) → 芳艶(初世よしつや・歌川/甲胡、絵師) E 4 7 7 5  
 万吉(まんきち・富永) → 守国(もりくに・富永とみなが、神職/国学) K 4 4 7 2  
 満吉(まんきち・上月) → 満吉(みつよし・上月こうつき、武将/戦記) F 4 1 1 0  
 万亀亭(まんきてい) → 花江戸住(はなのえどずみ、狂歌) F 3 6 4 7  
 漫戯堂(まんぎどう) → 鐘成(かねなり・晁あかつき、狂歌/戯作) C 1 5 9 3  
 満久(まんきゅう) → 満久(みつひさ、神職/連歌) H 4 1 2 3  
 満久(まんきゅう・森) → 盈久(みつひさ・森もり/伊関/賀茂、神職) E 4 1 5 6  
 万休(まんきゅう;号) → 道廓(どうかく;法諱・晦巖、臨済僧) C 3 1 2 3  
 万旧(まんきゅう・横山) → 万旧(ばんきゅう・横山、俳人) H 3 6 3 9  
 万休庵(まんきゅうあん;号) → 童竜(どうりゅう;法諱・臥雲;道号、曹洞僧) I 3 1 2 6  
 万笈斎(まんきゅうさい) → 桑魚(そうぎょ・万笈斎、書肆/狂歌師) B 2 5 0 7  
 万休叟(まんきゅうそう;号) → 契閑(かいもん;法諱・不聞;道号、曹洞僧) D 1 5 8 7  
 万笈堂(まんきゅうどう) → 平吉(へいきち・英はなぶさ、書肆) 2 7 1 9  
 万笈堂(まんきゅうどう) → 大助(大輔だいすけ・英、平吉男/書肆) K 2 6 4 4  
 満郷(まんきょう・大井) → 満郷(みつさと・大井おおい、幕臣/国学) I 4 1 3 2  
 満堯(まんぎょう・小笠原) → 満堯(みつたか・小笠原おがさわら、藩士/歌) D 4 1 7 7

K4044 万玉齋(まんぎよくさい) ? - ? 俳人、1767撰集「誹諧十寸鏡ますかがみ」白楡館と共編

万玉亭(まんぎよくてい) → 親和(しんな・三井みつゐ、書家/篆刻) P 2 2 5 0  
 万九郎(ごせきまんくろう・市山) → ト平(とへい・市山、歌舞伎役/作者) O 3 1 7 4  
 万鈞(まんきん・津川) → 鼎(てい・津川、儒者) 3 0 1 9

K4045 満空(まんくう;法諱・在心;字、蔭山昌隆男) 1719-9678 播磨印南浄土僧:印南の地藏院即門門;出家、

1734江戸芝増上寺霊妙寮に修学/38宗戒両脈を相承/42上人号を受/檀林武州浄国寺住、

下総飯沼弘経寺住/1778鎌倉光明寺72世/83増上寺51世;大僧正/83増上寺焼失;復興尽力、

1790隠居、「現騰録」著、

[満空の法名] 中蓮社現誉身阿

万九郎(まんくろう・市山) → ト平(とへい・市山、歌舞伎役/作者) O 3 1 7 4  
 万九郎(まんくろう・斎藤) → 利安(としやす・斎藤さいとう、幕臣/歌人) T 3 1 6 3  
 満慶(まんけい;法名) → 満仲(みつなか・源みなもと、武将/廷臣/歌) E 4 1 1 1  
 満慶(まんけい・田中) → 満慶(みつよし・田中たなか、商家/歌人) J 4 1 4 4  
 満啓(まんけい・栗原) → 満啓(みつひろ・栗原くりはら、文筆家) E 4 1 7 3  
 満啓(まんけい→みつひろ・柚木) → 玉嶼(ぎよくしよ・柚木ゆのき、藩士/書家) U 1 6 1 9



満卿(まんけい・賀川) → 有斎(ゆうさい・賀川かがわ、産科医) B 4 6 7 3  
 満瓊(まんけい・宮川) → 経猶(つねなお・宮川みやがわ/山部、神職/国学) G 2 9 5 5  
 曼卿(万卿まんけい・加藤) → 俊丈(俊常しゅんじょう・加藤、医者) L 2 1 0 6  
 万頃(まんけい・鈴木) → 一鳴(いちめい・鈴木すずき、藩士/儒者) G 1 1 4 4  
 万頃(まんけい・益田) → 勤斎(きんさい・益田ますだ、篆刻家) H 1 6 8 7  
 満卿(まんけい・東方) → 祖山(そざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 5 7 7  
 万頃園(まんけいえん) → 麦太(ばくた・万頃園、俳人) D 3 6 5 6  
 満月(まんげつ;字) → 実融(じつゆう;法諱・満月;字、真言僧) V 2 1 1 0  
 満月園(まんげつえん) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2  
 満月堂(まんげつどう) → 豊綱(とよな・真野まの、尾張神官/俳) R 3 1 3 0  
 万花堂(まんげどう) → 風丈(ふうじょう・万花堂、俳人) 3 8 8 1  
 満賢(まんけん・芦屋あしや) → 道建(どうけん・芦屋、陰陽道/歌) D 3 1 5 5

K4084 卍元(まんげん;道号・師蛮しばん;法諱、号;独師、俗姓;熊沢) 1626-1710<sup>85</sup> 相模の臨濟僧;1643出家、京妙心寺の黙水竜器門/嗣法、1679美濃加納盛徳寺住持;同寺を再興/常陸清音寺住持、妙心寺塔頭盛徳院住/盛徳寺で没、1678「延宝伝灯録」、1704「本朝高僧伝」「桂悟伝」著、「京北大徳寺沙門宗純伝」「東国高僧伝弾誤」著、「孤雲禪師行状」編、外著多数

K4046 卍源(万源まんげん;道号・灯瑞とうずい;法諱) ?-? 江中期曹洞僧;養愚了性門/法嗣、摂津鳳林寺4世、摂津東成郡印山寺を開山、1710「鳳林詩偈小稿」著

卍源(まんげん;法諱) → 曹州(そうしゅう;道号・卍源、曹洞僧) H 2 5 8 4  
 万彦(まんげん・石野/佐々木) → 万彦(まひこ/かずこ・佐々木、幕臣/歌) L 4 0 0 0  
 満元(まんげん・細川) → 満元(満基みつもと・細川/源、武将/歌) E 4 1 9 5  
 満彦(まんげん・松木) → 満彦(みつひこ・松木/度会、神職/日記) E 4 1 5 4

K4047 万乎(まんこ、屋号;大坂屋/通称;次郎太夫、剃髪号;証厭房) ?-1724 伊賀上野の富商、俳人;1691芭蕉を自宅に迎え入門、有磯海・笈日記入1691猿蓑1句・94炭俵1句・続猿蓑7句入、[あたらしき翌簾みまだ寒し梅の花](続猿蓑;巻下/新年に新調した青みの残る簾)

K4048 満悟(まんご;法諱・号;他阿[他阿弥陀仏]、33世遊行上人) 1543-1612<sup>70</sup> 時宗僧;体光門/剃髪出家、1589越後北条専称寺で普光より遊行相続、1603普光と共に家康に謁見/周防山口善福寺没、歌;「古今和歌伝」著、連歌;1593-1602頃紹巴・昌叱らと百韻多数;1693昌叱と白何百韻外

万吾(まんご・細川) → 長世(ながよ・細川ほそかわ、藩士/歌人) O 3 2 6 5

K4049 満綱(まんこう) ? - ? 連歌;1449時述催「広柏ひろがしわ千句」参加

K4050 満候(まんこう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」1句入、[花に先まづ唾つをひく梅の梢かな](犬子集;一154/花で唾を垂れ梅干に飲込む)

K4051 万光(まんこう;法諱、道号;柏源はくげん、号;吐月) 1769-1830<sup>62</sup> 陸中東磐井東山の曹洞僧、仙台新寺小路林松院16世、仙台荒町昌伝庵30世、詩/書、「蝸牛録」著、詩・「玄圃積玉」入、

万光(まんこう・工藤) → 球卿(きゅうけい・工藤/長井、藩儒/医者) M 1 6 4 5  
 万香(まんこう・前田) → 利保(としやす・前田、藩主/本草/歌) O 3 1 0 1  
 曼公(まんこう・戴たい) → 独立(どくりゅう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6  
 満光(まんこう・栗山) → 満光(みつてる・栗山くりやま、歌人) D 4 1 9 3  
 満広(まんこう・真下) → 満広(みつひろ・真下ましも、慶阿、連歌) E 4 1 6 6  
 満高(まんこう・六角) → 満高(みつたか・六角/佐々木/源、武将/守護) D 4 1 7 1  
 満香(まんこう・尾山屋) → 満香(みつか・尾山屋おやまや、経師業/歌) I 4 1 2 9  
 万香亭(万公亭まんこうてい) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1

K4052 万国(まんこく;道号・宗春そうしゅん;法諱) ?-1754 因幡曹洞僧;万林覚英門/法嗣、因幡景福寺21世、1745「万林覚英禪師行状」著

K4053 万極(まんごく;道号・良寿りょうじゅ;法諱) ?-? 江初期下総の曹洞宗総寧寺の巨海かい良達(?-1599)門、嗣法、下総結城安穏寺・下野成高寺・大応寺歴住/下総総寧寺14世;相模最乗寺に輪住、「万極代」「万極代鈔」著、鉄山林説の師

万五郎(まんどろう・都筑/川口) → 信友(のぶとも・川口/都筑、幕臣) C 3 5 4 0  
 万五郎(まんどろう・杉浦/小笠原) → 持広(もちひろ・小笠原/杉浦、幕臣/故実) B 4 4 6 0  
 万五郎(まんどろう・山崎) → 清長(きよなが・山崎やまさき/源、国学者) V 1 6 5 2

万五郎(まんごろう・黒沢) → 元重(もとしげ・黒沢/上曾、藩士/歌) C 4 4 6 0  
 万五郎(まんごろう・菊川) → 英山(えいざん・菊川きくかわ、絵師) 1 3 2 7  
 万五郎(まんごろう・伴) → 直方(なおかた・伴はん、幕臣/国学) 3 2 9 4  
 万五郎(まんごろう・石黒) → 千尋(ちひろ・石黒いづろ、藩士/国学者) F 2 8 2 3  
 万五郎(まんごろう・朽木) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき/源、藩主/歌人) B 2 9 0 6  
 万五郎(まんごろう・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1  
 万五郎(まんごろう・滝川) → 俊章(としあき・滝川、藩士/砲術/詩歌) L 3 1 9 4  
 蔓根(れんまんこん/つるね?・大隈;変名) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3

- 4036 **満済**(まんさい/まんせい、今小路[二条]師冬男)1378-1435<sup>58</sup> 母;聖護院房官法印源意女、  
 足利義満の猶子、真言僧;醍醐寺三宝院賢俊門/得度/1395灌頂を受く、  
 三宝院門跡・醍醐寺座主、1399法印、1409大僧正/16東寺一長者/28准三后/34法身院に退隠、  
 足利義持・義教の護持僧/幕政にも参画、「満済准后日記」「修験道十八箇条警策」著、  
 歌:藤原為将より古今伝授を受、1407内裏九十番歌合・33北野社法楽百首参加、永享百首入、  
 新続古今集4首(70/271/521/773)、  
 [おのづから風のたよりにとふ人もありとやここに匂ふ梅が香](新続古;一70/依風知梅)、  
 [満済(;法諱)の通称]將軍門跡/黒衣の宰相、三宝院准后さんぼういんのじゅごう/法身院ほっしんいんの准后
- K4054 **万歳逢義**(まんざいおうぎ、姓;大垣/名;久智)?-? 江戸浅草の狂歌作者;壺側判者、  
 浅草市人あさくさのいちんだの弟、1820「あさくさぐさ」編(:兄追善)、  
 壺星楼繁門(浅草市人の養嗣子)の父
- L4037 **万歳組**(まんざいぐみ;組連)?-? 江中期閑宿(下総東葛飾郡/野田の北)の雑俳の組連、  
 取次;1758「菊丈評万句合」入、  
 取次例;[出代りも十日をまたぬ花の江戸](1758万句合/前句;さらりさらりと々々)、  
 (年季奉公の奉公先を替えるのに無感情で割り切るのが花のお江戸流)
- 万歳之助(まんざいのすけ・高田) → 吉近(よしちか・高田たかだ、藩士/地誌) E 4 7 5 6  
 万歳堂(まんざいどう) → 宝馬(ほうば・吉成/小菅、蒼狐門俳人) C 3 9 4 7  
 万歳門(まんざいもん・若松) → 万歳門(まんざいもん・若松わかまつ、黄表紙作者) K 4 0 6 9
- K4055 **万歳楼袖彦**(まんざいろうそでひこ、別号;茶吞斎)?-? 筑前博多の人、四国八十八ヶ所札所の霊験を編む、  
 1822「四国霊験尋聞記」、「奇応記」
- K4056 **万作**(まんさく・辰岡たつおか、辰岡久菊[天満屋久七]男)1742-1809<sup>68</sup> 大阪歌舞伎役者、  
 子役;辰岡万太郎名、1757若衆方;辰岡万作に改名、大阪の浜芝居に出勤、  
 明和1764-1772頃歌舞伎作者に転ず;京で修業、1788立作者;京大坂で活動、  
 大坂島の内畳屋町住、1794五瓶の江戸下向後は上方作者第一人者、  
 近松徳三・2世並木正三・初世奈河篤助と合作/時代物を得意、1786「けいせい菜種嬢」、  
 1793「けいせい楊柳桜」95「姉妹達大礎だてのおおきど」99「雪国嫁威谷」1807「けいせい高砂松」外多、  
 [辰岡万作(;号)の幼名/別号]子役名;辰岡万太郎、俳号;紫楽/紫紅、法号;学海院
- K4057 **万作**(まんさく・岡本おかもと)?-? 大阪の噺家、江戸の寄席興行の創始者  
 [守相(;名)の通称] 万作、 荒木田守則の甥
- 万作(まんさく・菌田) → 守相(もりすけ・菌田/荒木田、神職/歌) F 4 4 5 0  
 万作(まんさく) → 出来秋万作(できあきまんさく、狂歌)  
 万作(まんさく・千村) → 景村(かげむら・千村ちむら、歌人) L 1 5 3 7  
 万作(まんさく・吉田) → 為幸(ためゆき・吉田よしだ、藩士/和算家) S 2 6 8 6  
 万作(まんさく・木下) → 久隆(ひさたか・木下きのした、大庄屋/製鉄) J 3 7 1 6  
 万三郎(まんざぶろう・井部) → 香山(こうざん・井部いべ、儒者/詩人) G 1 9 3 7  
 万三郎(まんざぶろう・四屋) → 穂峰(すいほう・四屋よつや、藩儒) E 2 3 9 9  
 万三郎(まんざぶろう・斎藤) → 笠山(りゅうざん・斎藤さいとう、藩校儒者) E 4 9 2 6  
 万三郎(まんざぶろう・岡田) → 栗園(りつえん・岡田おかだ、藩儒) B 4 9 5 7  
 万三郎(まんざぶろう・柘植) → 仁厚(にんこう・柘植つげ、藩士・国学) J 3 5 1 5  
 万三郎(まんざぶろう・竹内) → 以德(もちのり・竹内たけうち、藩士/国学) K 4 4 4 4
- L4043 **萬山**(まんざん) ?-? 摂津有馬の俳人、

1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
[すむ雲雀我が菅笠に落つるか] (伊丹発句合;春)

K4058 **卍山**(まんざん;道号・道白どうはく;法諱、藤井玄秋男)1636-1715<sup>80</sup> 備後川北郷の曹洞僧;  
1642備後竜興寺の照山善鏡門/照山後住の一線道播門;出家/1678加賀大乘寺月舟宗胡門、  
月舟の嗣法、1680加賀大乘寺住持、諸寺歴住/1694(元禄7)京の鷹ヶ峰源光庵を再興開山、  
梅峰竺信と曹洞宗の宗統復古運動を展開;幕府に請願し実現、古規復古運動にも尽力、  
曹洞宗中興の祖/源光庵に没、「遼白集」「品川海安寺記」「対客閑話」「禅定古刹縁起」著、  
「東海一滴集」「洞門衣衲とうもんいじゃ集」「宝林聯珠」「卍山和尚広録」「卍山和尚東林語録」外著多、  
[卍山道白の号]随時子/復古道人/復古老人

K4059 **万山**(まんざん・ばんざん) ? - ? 江中期江戸雑俳点者、1702「赤ゑぼし」入  
万山(まんざん・樋口) → 邦古(くにひさ・樋口ひぐち、国学/文筆家) D 1 7 1 2  
万山(まんざん・島津) → 忠広(ただひろ・島津しまう、家老/国学者) X 2 6 5 4

K4060 **万子**(まんし・生駒にま、名;重信、八郎右衛門男)1654-1719<sup>66</sup> 加賀金沢藩士;1668家督;73一千石、  
奥小姓/馬廻組/1703普請奉行/05先筒頭、俳人;1689芭蕉門、素堂・木因と芭蕉三友、  
支考の支持者、「金蘭集」、1701「そのの花」編、1680友琴「白根草」85清風「稻筵」入集、  
1691北枝「卯辰集」11句入、  
[駕籠よりは牛の上から梅の花](卯辰集;一34)、  
[万子(;号)の通称/別号]通称;伝吉/万兵衛/藤九郎、  
別号;友可/此君庵/水国亭/水国庵/亀巢/白驢はくりゅう居士、法号;水国亭一道万子居士

K4061 **満士**(まんし) ? - ? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入  
満之(まんし・細川) → 満之(みつゆき・細川/源、武将/歌) F 4 1 0 4  
万司(まんし・小保内) → 砂守(すなもり・小保内おぼない、神職/教育) I 2 3 1 9  
卍(まんじ) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2  
卍(まんじ) → 北泉(ほくせん・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 5 8  
万治(まんじ・立野) → 春節(はるとき・立野たつの、儒者/和学) G 3 6 5 5  
万治(まんじ・中田) → 錦江(きんこう・中田、藩士/漢学) Q 1 6 9 3  
万二(まんじ・瓜中;変名) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7  
満時(まんじ・荒木田) → 満時(みつとき・荒木田あきだ、神職/歌人) L 4 1 1 7  
卍字吉祥(まんじきししょう) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0  
曼七(まんしち・倉橋/前野) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者) 1 4 2 3  
万七(まんしち・谷たに) → 景井(かげい・谷たに、医者/国学) K 1 5 7 5  
万七(まんしち・磯村) → 道彦(みちひこ・磯村いそむら、国学/歌) C 4 1 3 0  
万七(まんしち・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1  
万七郎(まんしちろう・野田) → 広足(ひろたり・野田のだ/菅原/大塚、里正/国学) J 3 7 0 2

K4062 **卍室**(まんしつ;道号・祖价そかい;法諱、号;黙隠、藩士山田庄右衛門男)?-1681 福岡の曹洞僧;  
幼時に周防山口の全昌寺勝外門;出家/山城宇治興聖寺の懶禅舜融門、  
尾張万松寺の久峰昌淳門;嗣法、1663尾張万松寺12世;同寺没、1663「禅儀外文伝疑鈔」、  
1668「江湖集啓蒙鈔」77「曹洞五位抄」80「曹洞五位抄或問」、「曹洞五位憤俳ふんひ記」著  
満実(まんじつ・守矢) → 満実(みつざね・守矢もりや、神職) D 4 1 4 9

K4063 **万守**(まんしゅ・白毛舎はくもうしゃ、本名;大島照房)?-? 江後期江戸石町の狂歌作者;葛飾連の判者、  
1824両国での水魚連の狂歌会の会主、1820「角觚立」編、19「狂歌水滸画像集」編、  
1819「狂歌三才月百首」、白毛舎万守(;号)の別号;鐘声館  
満守(まんしゅ) → 満守(みつもり、神職/連歌) H 4 1 2 2  
満守(まんしゅ・芦屋) → 道海(どうかい・芦屋あしや、陰陽家) C 3 1 0 4  
万寿(まんじゅ・板原) → 寿(じゅ・板原いたはら、医者) W 2 1 4 1  
万樹(まんじゅ・藤田) → 万樹(ばんじゅ・藤田ふじた、文筆家) H 3 6 9 1  
曼殊院宮(まんしゅいんのみや) → 覚恕(かくじょ、曼殊院宮、天台僧/歌人) B 1 5 5 6  
曼殊院良恕法親王(まんしゅいんりょうじょほつしんのう) → 良恕法親王(りょうじょほつしんのう、歌人) 4 9 1 9  
満秀(まんしゅう・平) → 満秀(みつひで・平たいら、武家/歌人) L 4 1 1 9



K4064 **万宗**(まんじゅう;道号・中淵[中因]ちゅうえん;法諱)1735-141076 山城の臨濟僧;春屋妙葩門/嗣法、  
甲斐恵林寺・山城宝幢寺住持/1398京の相国寺8世、足利義持の帰依、1402相国寺再住、  
同寺内の春屋の塔所大智院の塔主、「百丈清規抄」著、  
[万宗中淵の号] 旅泊老衲りよはくろうのう

万重(まんじゅう・前沢) → 万重(よろづえ・前沢まえざわ、国学者) P 4 7 0 5  
万秋門院(まんしゅうもんいん→ばんしゅういん・一条実経女)→ 瑣子(きょくし、歌人) H 1 6 2 0  
鰻頭屋宗二(まんじゅうやそうじ)→ 宗二(そうじ・林りん、和漢学者) 2 5 0 9  
万寿亭正二(まんじゅうていしょうじ)→ 金治(初世きんじ・篠田しのだ、歌舞伎作者/戯作) E 1 6 0 8  
万寿堂亀嶺(まんじゅうどうきりい)→ 雅教(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6  
満春(まんしゅん/みつはる・唐牛からうし)→ 東洲(とうしゅう・唐牛、儒者/詩) E 3 1 9 5  
万春(まんしゅん→ばんしゅん・田中)→ 万春(ばんしゅん・田中、暦算家) H 3 6 9 7  
万春(まんしゅん→ばんしゅん・江馬)→ 藤渠(とうきよ・江馬えま、藩医/本草学) C 3 1 7 4  
万春(まんしゅん→ばんしゅん・江邨)→ 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) 4 8 8 7  
まん女(まんじょ・足助) → まん(・足助、俳人) K 4 0 9 9  
満女(まんじょ) → 満(まん、俳人) K 4 0 3 4  
万女(まんじょ・宮部) → 万(まん・宮部/浅井、歌人) K 4 0 3 5  
満助(まんじょ・鎌田) → 満助(みつすけ・鎌田かまた、連歌作者) D 4 1 6 4  
卍象(まんしょう;号) → 虎班(こはん;法諱、曹洞僧/詩) N 1 9 5 2  
万祥(まんしょう・矢畑) → 直方(なおかた・矢畑やはた、神職/国学) P 3 2 1 3  
満昌(まんしょう;唐名) → 匡房(まさふさ・大江/江、漢学者/詩歌) 4 0 1 9

K4065 **卍定**(まんしょう;法諱) ? - ? 江後期曹洞僧:江戸麻布の湖雲寺住僧/詩人、  
1856「本朝諸宗綱要」「本朝諸宗略年譜」/-57「引導雑集」著

万蕉園(まんしょうえん) → 蕉園(しょうえん・小島こじま、医者) F 2 2 5 2  
万松軒(まんしょうけん) → 氏康(うじやす・北条、武将/城主/歌人) 1 2 5 5  
万松軒(まんしょうけん) → 文山(ぶんざん;道号・等勝、臨濟僧/和漢聯句) H 3 8 5 3  
万松斎(まんしょうさい) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家) D 3 5 1 2  
万象亭(初世まんしょうてい・森島中良)→ 七珍万宝(2世しちちんまんぼう) 2 1 2 8  
万松廬(まんしょうろ) → 順(したごう・高本/原田、医/儒/国学) E 2 1 5 0  
万松楼(まんしょうろう) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5  
万四郎(まんしろう・片岡) → 渭南(いなん・片岡、俳人) B 1 1 0 5  
万四郎(まんしろう・頼) → 杏平(きょうへい・頼、儒/藩士/詩) 1 6 3 8  
万四郎(まんしろう・正野) → 玄三(げんぞう・正野まさの、医者/売薬業) K 1 8 7 7

K4066 **万次郎**(まんじろう・中浜なかはま、ジョン=マン、悦助2男)1828-9871 土佐中浜の漁師、  
1841出漁中に暴風のため漂流し鳥島に漂着;アメリカ船に救助され米国で教育を受く、  
1851帰国/52土佐藩に引渡され藩校教授館下遣;英学教師;中浜姓、53幕府に招聘、  
1857軍艦操練所英学教授、60(万延元)咸臨丸の通弁主任、薩摩藩校開成所で英学講義、  
土佐藩校開成館で英学講義/1869開成学校中博士/70欧州出張中病気で帰国;  
以後自適の生活、「土佐国人亜墨利加国江漂流記」「漂客語録」著、  
1859「英米対語捷徑」訳、「亜美理加合衆国航海習学書」「合衆国航海覚書」訳

万次郎(まんじろう・平岡) → 資模(すけのり・平岡ひらおか、幕臣) G 2 3 9 3  
万次郎(まんじろう・権田) → 千寛(ちひろ・茅舎かや、狂歌) F 2 8 2 5  
万次郎(まんじろう・土屋) → 温斎(おんさい・土屋つちや、和算家) D 1 4 4 4  
万次郎(まんじろう・鳥羽) → 台麓(たいろく・鳥羽とば、絵師) L 2 6 3 8  
万次郎(まんじろう・小川) → 志純(ゆきと・小川、藩士/郷土史家) E 4 6 9 8  
万次郎(まんじろう・諏訪) → 忠林(ただとき・諏訪すわ、藩主/詩文) P 2 6 9 9  
万次郎(万二郎まんじろう・佐々木)→ 玄竜(げんりゅう・佐々木、書家/幕府儒官) M 1 8 8 7  
万次郎(まんじろう・箕浦) → 立斎(りつさい・箕浦みのうら、藩士/儒者) B 4 9 8 6  
万次郎(まんじろう・葉山) → 高行(たかゆき・葉山はやま、藩士/儒者) N 2 6 6 4  
万次郎(まんじろう・蛭子屋)→ 千楯(ちたて・城戸/大江、書肆/国学) 2 8 1 3  
万次郎(まんじろう・間島) → 冬道(ふゆみち・間島まじま、藩士/歌人) E 3 8 4 1

万次郎(まんじろう・浅田) → 好古(よしひさ・浅田あさだ、歌人) L 4 7 1 5  
 万次郎(まんじろう・大館) → 氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人) E 1 2 5 8  
 万次郎(まんじろう・膳) → 好孝(よしたか・膳かしわで、商家/国学) M 4 7 1 9  
 満次郎(まんじろう・上月) → 慈雲(じうん; 字・飲光おんこう、真言僧) 2 1 0 2  
 満次郎(まんじろう・岩松) → 孝純(たかずみ・岩松/源、幕臣/文筆) M 2 6 1 2  
 卍楼(まんじろう・葛飾) → 北鷺(ほくが・葛飾かつしか/三田、絵師) C 3 9 9 5  
 満親(まんしん・中山) → 満親(みつちか・中山/藤原、廷臣/歌人) D 4 1 8 5  
 万新(まんしん・黒沢) → 雉岡(ちこう・黒沢、儒者) E 2 8 1 4  
 万水(まんすい) → 万水(ばんすい、俳人)  
 満穂(まんすい/みつのり・大野) → 玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌) I 1 8 2 7  
 満穂(まんすい・太田) → 満穂(みつほ・太田おた、藩士/神職/国学) I 4 1 5 0  
 満穂庵(まんすいあん・歌川) → 豊国(2世とよくに・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 1 4  
 万水軒(まんすいけん) → 正広(せいこう・万水軒、俳人) B 2 4 4 1  
 万水堂(まんすいどう) → 朱角(しゅかく・松枝、俳人) 2 1 6 7

K4068 万助(まんすけ・中田なかつ/初姓; 中西、別通称; 万祐) ?-? 江中期1721-42頃上方の歌舞伎作者;  
 中田嘉右衛門の門弟か?、1732頃京で立作者/38大坂で諸座出勤、時代物・世話物を得意、  
 すべて合作; 1730「詠楽四季金」34「けいせい大江山」36「富市金新万」38「楠館千歳狐」、  
 1739「恋重荷昔白浪」40「敵討亀山通」41「万国太平記」42「雷神不動北山桜」外著多数

万介(まんすけ・狩野) → 信政(のぶまさ・狩野、絵師) D 3 5 2 8  
 万介(まんすけ・遠藤) → 広路(ひろみち・遠藤えんどう、歌人) L 3 7 9 1  
 万助(まんすけ・伊達) → 光宗(みつむね・伊達だて、世子/歌) E 4 1 9 3  
 万助(まんすけ・金森) → 頼時(頼岑よりとき・金森かなもり/源、藩主) J 4 7 1 6  
 万助(まんすけ・伊勢) → 貞春(さだはる・伊勢/平、幕臣/故実家) F 2 0 4 7  
 万助(まんすけ・芳川) → 波山(はざん・芳川よしかわ、儒/詩人) E 3 6 3 2  
 万助(まんすけ・唐崎) → 広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人) G 1 9 4 4  
 万助(まんすけ・中西) → 深斎(しんさい・中西、医者/傷寒論研究) O 2 2 4 2  
 万助(まんすけ・山鹿) → 高元(たかもと・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 4 1  
 万輔(まんすけ・志鎌/新井) → 精斎(せいさい・新井/志鎌、医者/俳人) I 2 4 2 3  
 満助(まんすけ・筑紫) → 従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道) I 4 7 5 3  
 曼助(まんすけ・倉橋/前野) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者) 1 4 2 3  
 満政(まんせい・赤松) → 満政(みつまさ・赤松/源、幕臣/武将/歌) E 4 1 8 6  
 満政(まんせい・福島) → 満政(みつまさ・福島ふくしま、藩士/書簡) E 4 1 8 8  
 満成(満生まんせい/みつなり?・舟生) → 釣浜(ちようひん・舟生ふなう/ふにゅう、儒者) J 2 8 7 2  
 満晴(まんせい・平山) → 満晴(みつはる・平山ひらやま、醸造業/国学) K 4 1 2 7  
 満勢(まんせい・吉田) → 満勢(ませ・吉田よしだ/笠島屋、商家/歌) T 4 0 6 9  
 万世(まんせい・安代) → 敬(けい・安代あじろ、医者) D 1 8 3 3  
 万世(まんせい・萩原) → 大麓(だいろく・萩原はぎわら、漢学者) C 2 6 4 1  
 万世(まんせい・福地) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6  
 万成(まんせい・小代) → 布水(ふすい・小代こじろ、藩士/儒詩) C 3 8 8 2

4038 満誓沙彌(まんぜいさみ/まんせいさみ、俗名; 笠朝臣かさのあそみ麻呂まろ) ?-? 730存 廷臣; 704叙爵/706美濃守、  
 709巡察使藤原房前の報告でその政績を賞される/714木曾路開通の功績で加給、  
 717従四上/719尾張三河信濃三国の按察使/720右大弁/721元明天皇平癒祈願で出家、  
 723造筑紫観音寺別当(大宰府)として赴任; 旅人・憶良らと筑紫歌壇を形成、  
 万葉三期歌人; 7首入: 旅人の梅花宴参加、拾遺集1327、  
 [世の中を何に喩へむ朝開き漕ぎ去いにし船の跡なきごとし](万葉集; 三351)、  
 (古今和歌六帖; 世の中を何に喩へむ朝ぼらけ漕ぎゆく船の跡の白波)、  
 [満誓沙彌(; 法諱)の通称] 笠沙彌/笠大夫/沙彌満誓さみまんぜい

K4069 万歳門(まんぜいもん・若松わかまつ) ?-? 江中期黄表紙作者: 万象亭門か(稗史億説年代記)、  
 1784「嗟鳴御開帳」著、  
 山東京伝説あり(日本小説年表) → 京伝(きやうでん・山東) 1 6 3 7

- L4030 **曼碩**(まんせき;法諱) ? - ? 江後期日向の真宗本願寺派僧;直純寺住職、  
初め泰巖門/のち僧鎔・慧雲門、三業惑乱のとき「審問決」を著し功存の願生帰命辨を批判、  
1780「仏名経体章」著  
万石亭積丸(まんせきていつまる)→ 仙果(2世せんか・笠亭りゅうてい、篠田し久次郎、戯作者) F 2 4 0 0  
万拙(まんせつ・知善) → 万拙(ばんせつ:道号・知善、臨済僧) I 3 6 2 9
- L4045 **萬蟬**(まんせん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[村雨や藍のうら葉のぬれぬほど](丁卯集;三草/藍)  
[道の辺や麻の深さを知る礫つづ](丁卯集;三草/麻)  
満詮(まんせん・足利/源) → 満詮(みつあきら・足利あしが/源、武将/歌) D 4 1 0 3  
万扇堂(まんせんどう) → 玉粒(ぎょくりゅう・晋米斎、合巻/狂歌) D 1 6 1 2  
卍叟(まんそう・金子) → 時中(ときなか・金子かねこ、国学者) U 3 1 7 8  
満蔵(まんぞう・安藤) → 陽洲(ようしゅう・安藤/高畑、藩儒) B 4 7 1 0  
万蔵(まんぞう・桑折) → 宗頼(むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌) D 4 2 8 0  
万蔵(まんぞう・桂川/森島)→ 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
万蔵(まんぞう・殿村) → 常久(つねひさ・殿村/大神、国学/本草) D 2 9 3 9  
万蔵(まんぞう・北川) → 祭魚(さいぎょ・北川きたがわ、俳人) G 2 0 6 4  
万蔵(まんぞう・高橋) → 光嶺(みつね・高橋たかはし、神職/国学) J 4 1 6 1  
万蔵(まんぞう・奈良井) → 義和(よしまさ・奈良井ならい、歌人) O 4 7 1 0  
万蔵(まんぞう・筑和) → 重姓(しげうじ・筑和ちくわ、藩士/国学) Z 2 1 4 5  
万蔵(まんぞう・正田) → 嘉珪(よしかど・正田まさだ、国学/歌) P 4 7 0 8  
満蔵院(まんぞういん;号) → 亮信(りょうしん;法諱、叡山横川復興) I 4 9 2 4  
万艸亭(まんそうてい・遠藤)→ 文石(ぶんせき・遠藤えんどう、商家/俳人) F 3 8 9 6  
万象亭(まんぞうてい、狂歌)→ 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
満足(まんぞく・岡田) → 鑑玄(かんげん・岡田おかだ、俳人) S 1 5 7 8  
満足庵(まんぞくあん) → 乾什(けんじゅう・岩本、俳人) C 1 8 0 7  
満足庵(まんぞくあん) → 乾什(2世けんじゅう、俳人) J 1 8 5 3
- K4070 **万岱**(まんだい、前号;夜来舎万輪?) ?-? 江中期尾張名古屋の俳人;暁台門、  
1768暁台「秋の日」5句入/74美角「ゑぼし桶」1句入/76几董「続明烏」1句入、  
[一むしろ芋はす寺の冬構ふゆがまへ](続明烏;冬627)  
満泰(まんだい・荒木田) → 満泰(みつやす・荒木田あらかだ、神職/歌人) L 4 1 1 5  
万代堂(まんだいどう) → 彫栄(ちやうえい・高橋屋栄助、俳人) H 2 8 3 7  
万太甫(万太甫まんだいほ)→ 築浪(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩) B 4 8 2 9
- K4071 **茨田王**(まんだのおおきみ/まむたのおおきみ) ?-? 廷臣;739従五下/740従五上、  
744聖武天皇難波行幸中に少納言として久邇京に駢鈴と内外印を取りに派遣される、  
宮内大輔/越前守、中務大輔、万葉四期歌;4283(中務大輔);天平勝宝五753石上宅嗣邸宴、  
757頃越中守、  
[梅の花咲けるが中に含ふめるは恋ひや隠こもれる雪を待つとか](万葉;十九4283/含は蕾)
- 4041 **萬多親王**(まんだしんのう、初名;茨田まんだ、桓武天皇皇子) 788-830 母;藤原鷲取女の小屎、804万多名、  
大同806-10頃中務卿/823式部卿/828太宰帥/830二品/贈一品、正躬王・正行王の父、  
815(弘仁6)「新撰姓氏録しんせんしやうじろく」編纂奏進(藤原緒嗣らと/氏族系譜集成書)
- K4072 **万太夫**(初世まんだゆう・都みやこ) ?- ? 江前期大阪の浄瑠璃大夫、  
のち1669京の歌舞伎名代(興行権所有)・座本、1710引退  
曼荼羅居士(まんだらこじ) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
曼荼羅和上(まんだらわじょう)→ 卓中(たくちゅう:法諱・立禅、浄土僧) O 2 6 1 2  
万太郎(まんだらう・尾崎) → 久愷(ひさやす・尾崎、藩士/儒者) C 3 7 1 0  
万太郎(まんだらう・板倉/坂本)→ 種員(たねかず・柳下亭、長編合巻作者) 2 6 4 2  
万太郎(まんだらう・水野) → 正信(まさのぶ・水野みずの、藩士/国学者) F 4 0 8 2  
万太郎(まんだらう・辰岡) → 万作(まんさく・辰岡たつおか、歌舞伎作者) K 4 0 5 6  
万太郎(まんだらう・武井) → 庸(よう・武井たけい、神職) N 4 7 8 2  
万太郎(まんだらう・野村) → 稻守(いなもり・野村のむら、藩士/国学) K 1 1 5 4



- 満太郎(まんたろう・松崎) → 柳浪(りゅうろう・松崎まつぎ、儒者/外交) F 4 9 8 9  
満湛(まんたん・荒木田) → 満湛(みつじ・荒木田あきだ、神職/歌人) L 4 1 1 6  
万智(まんち・要門) → 万智(ばんち;道号・要門;法諱、曹洞僧) I 3 6 4 0  
万竹葉(まんちくよう) → 元通(もとみち・藤とう、歌人) K 4 4 6 9  
万竹楼(まんちくろう) → 榮堂(さんどう・中田/膝、与力/儒者) M 2 0 6 6  
満仲(満中まんちゅう・源) → 満仲(みつなか・源みなもと、武将/廷臣/歌) E 4 1 1 1  
満忠(まんちゅう/みつただ・北脇/広瀬) → 保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5  
K4073 万蝶(まんちよう) ? - ? 京の俳人;「ふくと集」編、1702轍士「花見車」目録入  
万丁(まんちよう) → 万丁(ばんてい、俳人) J 3 6 0 8  
満潮(まんちよう) → 弁玉(べんぎよく;法諱、浄土僧/歌人) B 2 7 2 0  
満長(まんちよう・大中臣) → 常長(つねなが・大中臣おおなかとみ/河辺、神職) C 2 9 8 3  
満長(まんちよう・小笠原) → 満長(みつなが・小笠原おがさわら、武将/故実) E 4 1 1 6  
蔓蔦屋(まんちようや) → 庄次郎(しょうじろう・蔓蔦屋/蘭洲/妓楼経営) T 2 2 5 5  
満直(まんちよく・境) → 満直(みつなお・境さかい、俳人) E 4 1 1 0  
満直(まんちよく・白米) → 満直(みつなお・白米はくまい、神職) K 4 1 0 6  
万千代丸(まんちよまる・松平) → 光道(てるみち・松平まつだいら、藩主) F 3 0 0 1  
万珍舎(まんちんしゃ) → 七珍万宝(しちちんまんぼう、商家/戯作・狂歌) 2 1 2 8  
K4074 万貞(まんてい;法諱・槐国かいこく;道号、俗姓江原) 1652-1727 76 肥前の曹洞僧;  
慶閭寺万年門/叵山道白門、1700駿河大林寺住持、入清を果たさず1716大義院へ退隠、  
「槐国和尚大林語録」著  
曼亭(まんてい) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作) 1 4 2 3  
万亭(まんてい・牧野) → 忠精(ただきよ・牧野まさの、藩主) F 2 6 0 2  
万丁(まんてい) → 万丁(ばんてい、俳人) J 3 6 0 8  
満定(まんてい・賀川) → 蘭斎(らんさい・賀川かがわ/源、医者) C 4 8 2 0  
万亭応賀(まんていおうが・服部) → 応賀(おうが・万亭、合巻) B 1 4 6 2  
万定則(まんていそく) → 玉英(たまえ・新井あらい、刀匠) S 2 6 2 5  
K4075 万徳(万得まんとく・藤浪ふじなみみ、清光男) 1798-1867 70 江後期尾張海東郡津島新田の医者;  
1803(15歳)藩医小林亮適門/儒;京の頼山陽門/医;三村玄澄門/1839上田町で開業、  
1842藩主に目見え;63尾張藩医員/64奥医師、「活物窮理経験」著、  
[万徳(;通称)の名/字/号]名;謙貞、字;仙篤、号;方岳、法号;菟善院  
万徳丸(まんとくまる・氷見) → 綱国(つなくに・松平まつだいら/氷見、世嗣) G 2 9 3 9  
政所法印(まんどころのほういん) → 宗詮(そうせん;法諱、天台僧) I 2 5 2 4  
万菟春(まんとしゅん) → 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6  
K4076 まんに(まんに・滄浪亭、未雷の妻) ?-? 筑前博多の俳人:夫と共に野坡門、  
夫没後追善集の礎稿を纏める:1739「ぬれ若葉」編(素蝶の加筆)  
夫 → 未薔(みらい・滄浪亭、俳人[?-1739]) 4 1 4 5  
K4077 万二(まんに/ばんじ・梅沢うめざわ) ?-? 江後期歌舞伎作者/番付:1861治助3世「櫻莊子後日文談」、  
1862治助4世「富治三升扇曾我ふじとみすすえひろそが」番付、2世新七「勸善懲惡視機関のぞきからくり」番付  
M4016 蔓尼(まんに・植村うえむら) ? - ? 江後期歌人、植村家後室、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[をす巻けば驚きて立つ鶯の羽風に散らす軒の梅が香](大江戸倭歌;春136/簾外梅)  
満女(まんによ) → 満(まん、俳人) K 4 0 3 4  
万寧(まんねい・玄曩;法諱) → 万寧(ばんねい;道号・玄曩げんい、臨済僧) I 3 6 4 5  
K4078 万年(まんねん・伊藤いとう/本姓、藤原、名;由貞) 1641-1701 61 京儒者:松永尺五門、松永寸雲の養子か、  
講説業/のち加賀金沢で講説業;京と加賀を往来、「周圀易筮法経験」著、  
[万年(;号)の字/別号]字;子亨、別号;春秋館  
K4079 万年(まんねん・長ちよう、名;帛秀ばいしゅう/字;伯盈はくえい) ?-? 江中期紀伊の儒者;片山兼山門、  
「読荀子抹」著  
K4080 万年(まんねん、俗名;滝川団蔵、滝川政房男) 1741-1816 76 三河設楽郡東郷村の臨済僧;14歳で得度、  
東観音寺13世、学匠、1798「三河国小松原山縁起」著

K4081 万年(まんねん・竹林たけばやし)? - ? 61歳没 江後期越前福井の茶商/書家;王羲之を学習、  
 箏曲に秀づ、1832「花月琴譜」著、

[万年(;名)の通称/号]通称;治郎三郎、号;亀齡/尚晋斎

万年(まんねん;号) → 嘯嶽(しょうがく;道号・鼎虎;法諱、臨濟僧) H 2 2 7 6  
 万年(まんねん・久米) → 牡年(暮年ぼねん・久米くめ/高木、俳人) E 3 9 7 6  
 万年(まんねん・三宅) → 石庵(せきあん・三宅みやけ、儒者/詩/俳人) D 2 4 3 1  
 万年(まんねん・伊藤) → 祐祥(すけよし・伊藤いとう、藩士/教育) D 2 3 7 3  
 万年(まんねん・伊藤) → 長秋(ながあき・伊藤、書家) D 3 2 0 9  
 万年(まんねん・諏訪) → 闍幽(せんゆう・諏訪すゐ忠虎、藩主/俳人) G 2 4 6 8  
 万年(まんねん・高木) → 永年(ながとし・高木たかぎ、伊勢神道家) E 3 2 8 2  
 万年(まんねん・木村) → 八甲(はっこう・木村きむら、藩士/医/儒) F 3 6 2 1  
 万年(まんねん・小林) → 蒲溪(ほけい・小林/源/井上、医者) E 3 9 1 1  
 万年(まんねん・毛利) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3  
 万年(まんねん・馬嶋) → 魯斎(ろさい・馬嶋まじま、眼科医/詩歌) B 5 2 5 5  
 万年(まんねん・奥山) → 四娟(しけん、奥山おくやま、漢学者) T 2 1 2 1  
 万年(まんねん・大野/巨野) → 文泉(ぶんせん・大野/巨野おおの、絵師) F 3 8 9 9  
 万年(まんねん・玉置) → 万齡(ばんれい・玉置たまき、商家/文筆) I 3 6 7 1  
 万年(まんねん・榊原) → 霞洲(かしゅう・榊原さかきばら、藩士/儒者) L 1 5 8 0  
 万年(まんねん・樺島) → 石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩) 2 4 1 7  
 万年(まんねん・川村) → 華陽(かよう・川村かわむら、詩人) H 1 5 5 2  
 万年(まんねん・坂尾) → 幽栖(ゆうせい・坂尾さかお、藩士/儒者) C 4 6 9 8  
 万年(まんねん・小栗) → 十洲(じっしゅう・小栗おぐり/平、儒者/詩) E 2 1 9 6  
 万年(まんねん・伊原) → 富寿(とみひさ・伊原いはら、国学者) U 3 1 1 3  
 万年(まんねん・亀藤) → 逸翁(いつおう・亀藤きとう、藩士/歌人) K 1 1 1 8  
 万年(まんねん・近藤) → 万年(かずとし・近藤こんどう、藩士/歌人) U 1 5 6 8  
 万年(まんねん・松本) → 久斎(きゅうさい・松本、医者/教育者) I 1 6 7 6  
 万年(まんねん・舟山) → 万年(ばんねん・舟山/船山、郷土史家) D 3 6 3 3  
 万年(まんねん・三輪) → 経年(つねとし・三輪みわ、製造業/歌人) G 2 9 5 0  
 万年舎亀麿(まんねんしゃかめまろ) → 周蔵(しゅうぞう・亀屋かめや、本草家) X 2 1 8 7  
 万年樹下(まんねんじゅか) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0  
 万年村僧(まんねんそんそう) → 景三(けいさん;法諱・横川、臨濟僧/五山文学) 1 8 0 4  
 万年堂生成(まんねんどういきなり) → 生成(いきなり・万年堂、狂歌師) F 1 1 1 9  
 万年入道(まんねんにゅうどう) → 頼方(よりかた・万年まんねん、軍記作者) I 4 7 4 9  
 万之允(万之丞まんのすけ・住江) → 滄浪(そうろう・住江/墨江/中瀬、藩士/儒者) D 2 5 2 3  
 万之助(まんのすけ・大久保) → 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6  
 万之助(まんのすけ・金森) → 頼時(頼時よりとき・金森かなもり/源、藩主) J 4 7 1 6  
 万之助(まんのすけ・石井) → 盛時(もりとき・石井いしい、幕臣、記録) F 4 4 9 1  
 万之助(まんのすけ・前田) → 知頼(ともより・前田まえだ、城代/記録) R 3 1 0 2  
 万之助(まんのすけ・早川) → 文明(ふみあき・早川はやかわ、国学/歌人) D 3 8 7 9  
 万之助(まんのすけ・本多) → 忠興(ただおき・本多ほんだ、幕臣/領主/歌) U 2 6 2 6  
 万之助(まんのすけ・井村) → 守泰((もりたか・井村いむら、国学者/歌) I 4 4 8 0  
 万之助(まんのすけ・佐々木) → 高行(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学) X 2 6 1 7  
 万之介(まんのすけ・藤田) → 貞幹(さだもと・藤田ふじた、藩士/歌人) P 2 0 8 6  
 万之介(まんのすけ・水野) → 義風(よしかぜ・水野みずの、藩士/歌人) C 4 7 5 9  
 万梅(まんばい・並木) → 信粹(のぶきよ・並木なみき、商家/国学/歌) J 3 5 4 3  
 満範(まんはん・千秋) → 満範(みつり・千秋ちあき、神職/連歌) E 4 1 4 3  
 万非(まんび・佐久間) → 果園(かえん・佐久間、藩士/歌人) B 1 5 1 3  
 満姫(まんひめ・伊達) → 詮子(あきこ・井伊いい/伊達、守眞院/歌人) G 1 0 9 2

K4082 万孚(まんぷ;法諱・益之えきし;道号、号;長徳庵、俗姓伊藤) 1711-8979 越前敦賀曹洞僧;雪心白癡門、  
 1743越後総光寺住持、80医徳寺開、書、「雪心白癡禅師行状」編、「益之万孚和尚語録」著

- 満腹亭(まんぷくてい) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
- K4083 万平(まんぺい・立身たつみ、立身屋万兵衛)?-? 肥前長崎の書肆/歌人;中島広足門、  
1840広足「瓊浦いほ集」歌入/刊行(立身屋万兵衛と河内屋茂兵衛の共刊)
- 万平(まんぺい・菊屋) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5
- 万平(まんぺい・磯村) → 道彦(みちひこ・磯村いそむら、国学/歌) C 4 1 3 0
- 万平(まんぺい・渡辺) → 予斎(よさい・渡辺わたなべ、藩儒) B 4 7 8 3
- 万平(まんぺい・岡野) → 惟孝(これたか・岡野おかの、檜物職/歌/俳) Q 1 9 5 9
- 万平(まんぺい・萩原) → 良次(よしつぐ・萩原はぎわら/中臣、神職) O 4 7 5 0
- 満平(まんぺい→みつひら:初号・小西)→ 来山(らいざん・小西、俳人) 4 8 0 1
- 万兵衛(まんべえ・生駒) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0
- 万兵衛(まんべえ・清水) → 佩香園蘭丸(はいこうえんらんまる、狂歌作者) B 3 6 2 1
- 万兵衛(まんべえ・立身屋)→ 万平(まんぺい・立身たつみ、歌人) K 4 0 8 3
- 万兵衛(まんべえ・浅井) → 記保(のりやす・浅井あさい、庄屋/歌人) H 3 5 1 2
- 万兵衛(まんべえ・田代) → 正足(まさたり・田代たしろ/藤原、国学/歌) Q 4 0 0 1
- 万甫(まんぼ・小川) → 其瀾(きらん・小川おがわ、儒者) Q 1 6 4 6
- 漫甫(まんぼ・村上) → 冬嶺(とうれい・村上、医/詩人) I 3 1 4 4
- 万邦(まんぼう・青木) → 万邦(まくに・青木、儒/医者) 4 0 6 7
- 万宝(まんぼう・森羅亭/七珍)→ 七珍万宝(しつちんまんぼう、黄表紙/狂歌) 2 1 2 8
- 万宝(まんぼう・保永堂/竹内)→ 眉山(びざん・竹内たけのうち、地本問屋/絵師) C 3 7 2 8
- 満包(まんぼう・有賀) → 満包(みつかね・有賀ありが、藩士/記録) D 4 1 2 4
- 真丸(まんまる・望月) → 望月真丸(もちづきまんまる、狂歌作者) B 4 4 4 6
- 満丸(まんまる・2世柳条亭)→ 柳条亭(2世りゅうじょうてい・満丸、狂歌) E 4 9 7 2
- 満丸(まんまる・角) → 角満丸(かどのまんまる、狂歌) S 1 5 0 0
- 万丸(まんまる・小寺) → 玉晁(ぎよくちょう・小寺こでら、随筆家/俳) H 1 6 3 1
- 万麿(まんまろ;俳名) → 仁左衛門(7世にざえもん・片岡、歌伎役者) 3 3 1 6
- 万麿(まんまろ・本居) → 建正(たけまさ・本居もとおり、国学者) E 2 6 5 2
- 満麿(まんまろ・頭) → 頭満麿(つむりのまんまろ、狂歌) E 2 9 8 0
- 漫々(まんまん・早川) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
- 万々園(まんまんえん) → 通礼(みちひろ・久米くめ、庄屋/国学/歌) I 4 1 9 2
- 万々柔々廼屋(まんまんじゅうじゅうのや)→ 一知(かずとも・浦江うらえ/木村、神職/歌) T 1 5 8 0
- 満々堂(まんまんどう)→ 普栗釣方(ふぐりのつりかた、書肆/狂歌) B 3 8 7 0
- L4028 万融(まんゆう) ? - ? 江中期川柳作者、誹風柳多留初期からの作者、  
二一篇序文に名と句入、作品は1773・10月の万句合が最終、  
[かるたの絵我敷嶋の道ならで](柳多留;二)
- 万祐(まんゆう・中西) → 万助(まんすけ・中田/中西、歌舞伎作者) K 4 0 6 8
- 万雄(まんゆう・難波) → 万雄(よろづお・難波なにわ、廷臣/歌人) K 4 7 0 7
- 満祐(まんゆう・赤松) → 満祐(みつすけ・赤松あかまつ/源、武将/歌) D 4 1 6 3
- K4085 万容(まんよう) ? - ? 京の俳人;1773几董門;春夜楼最古参門人、  
1773几董「明鳥」6句/76「続明鳥」7句入、  
[うぐひすや障子に透ける春の色](続明鳥;甲13)
- 卍葉(まんよう・酒井) → 仲(ちゅう・酒井さかい、和漢学/狂歌) F 2 8 6 8
- 万葉庵(まんようあん) → 東春(とうしゅん・万葉庵、俳人) F 3 1 0 8
- 万葉庵(まんようあん) → 平砂(3世へいさ・皐月さつき、篠崎、俳人) 2 7 3 2
- 万葉亭(まんようてい) → 仲(ちゅう・酒井、狂歌/書画) F 2 8 6 8
- 万葉亭(まんようてい) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1
- 万葉堂(まんようどう) → 定静(さだきよ・松平、藩主/歌/紀行) I 2 0 1 2
- 万里(まんり・秦大蔵造) → 萬里(まろ・秦大蔵造はたのおおくらのみやつこ、歌謡詠者) K 4 0 2 8
- 万里(まんり) → 万里(ばんり、俳人) J 3 6 2 5
- 万里(ばんり・太田) → 万里(ばんり・太田、俳人) I 3 6 6 3
- 万李(まんり) → 万李(ばんり・塩田/桑野、俳人) I 3 6 6 2



万里(まんり・帆足)	→	万里(ばんり・帆足、漢詩人)	I 3 6 6 4
万里斎(まんりさい)	→	素丸(2世そまる・溝口、幕臣/俳人)	E 2 5 3 6
万立(まんりつ)	→	万立(ばんりつ/まんりつ・東条とうじょう、俳人)	J 3 6 1 0
K4087 万柳(まんりゅう)	?	俳人、1776樗良「俳諧 月の夜」入；	
[残る蚊に喰はれて悔し暁(あけ)の月](月の夜:176)			
万龍(まんりゅう)	→	万龍(ばんりゅう、俳人；雑俳点者)	I 3 6 6 9
満良(まんりゅう/みつよし・荒木田)	→	蓮阿(れんあ・神職/出家/歌人)	5 1 8 4
万林(まんりん)	→	万林(ばんりん・まんりん；道号・覚英、曹洞僧)	C 3 6 5 2
満礼(まんれい・三居)	→	満礼(みつのり・三居みい、藩士/歌人)	K 4 1 6 7
万齡(まんれい・吉松)	→	萬齡(かずなが・吉松よしまつ、藩士/国学)	W 1 5 1 6
卅齡坊(まんれいぼう)	→	成美(せいび・夏目、俳人)	2 4 1 2
万蓮社(まんれい・億譽)	→	十思覚(じゅうしかく、浄土僧/歌人)	a 2 1 6 5
卅楼(まんろう・葛飾)	→	北鷺(ほくが・葛飾かつしか/三田、絵師)	C 3 9 9 5
万六(まんろく・谷)	→	好井(よしい・谷たに/大神、藩士/国学)	C 4 7 1 6
K4088 万和(まんわ)	?	阿波徳島の俳人：漁千門/大阪住、1799「松内集」編、	
1804「一つ葉集」編/09・10・18・26「蓬萊讃」編/14「柿表紙」22「今様発句集」26「露とくとく」著、			
[万和(；初号)の別号]臥鵬/八日庵/三露園/蔦舎つたのや/拾葉庵/有竹居/其角4世/晋万和			
万和(まんわ・角田/海保)	→	青陵(せいりょう・海保かいば、儒/経世家)	D 2 4 1 5